

上越新幹線關係  
埋藏文化財発掘調査報告

第 9 集

# 田端遺跡

(第 3 分冊)

1988

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋藏文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社



上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

第9集

# 田端遺跡

(第3分冊)

1988

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社



# 目 次

## 第V章 遺構と遺物

### 第5節 奈良平安時代の住居跡2

1 概 要 .....	619
2 田端地区B区 .....	620
3 田端地区C区 .....	678
4 田端地区E区 .....	684
5 寺東地区 .....	689

### 第6節 奈良平安時代の溝・土坑・その他

1 概 要 .....	725
2 各区の溝・土坑・その他 .....	726
3 水 田 跡 .....	825

遺物観察表 .....	837
-------------	-----

写真図版

# 分 冊 目 次

- 第1分冊 第I章 調査に至る経過  
第II章 調査の方法と経過  
第III章 遺跡の立地  
第IV章 土 層  
第V章 遺構と遺物  
    第1節 遺構の概要  
    第2節 現代～近代  
    第3節 近世～中世
- 第2分冊 第V章 第4節 奈良平安時代の住居跡1
- 第4分冊 第V章 第7節 古墳時代の住居跡  
    第8節 古墳時代の溝・土坑・その他  
    第9節 縄文時代の遺構と遺物
- 第5分冊 第VI章 考 察  
    第1節 田端遺跡の変遷  
    第2節 田端廃寺の推定—瓦類—  
    第3節 田端遺跡出土の人骨  
    第4節 田端遺跡出土の獣歯・獣骨  
    第5節 田端遺跡出土の鉄滓分析  
    第6節 田端遺跡出土の陶・磁器  
    第7節 心洞寺と木部城  
    第8節 遺構と家並み
- 結 語

# 図 版 目 次

	本 文 対 照 頁
図版204 田端地区B区南側道全景（東から）	659
図版205 田端地区B区北側道全景（南から）	659
図版206 田端地区C区南側道全景（西から）	678
図版207 田端地区B区121号住居跡（西から）・122号住居跡（北から）	620・621
図版208 田端地区B区122号住居跡カマド・123号住居跡（西から）	621・624
図版209 田端地区B区123号住居跡カマド・124号住居跡（西から）	624・626
図版210 田端地区B区125号住居跡（南西から）・125号住居跡カマド	627
図版211 田端地区B区126号住居跡（西から）・127号住居跡（南西から）	629・630
図版212 田端地区B区129号住居跡（北から）・130号住居跡（西から）	634
図版213 田端地区B区132号住居跡（南西から）・同上カマド	639
図版214 田端地区B区133号住居跡（西から）・134号住居跡（西から）	641
図版215 田端地区B区135号住居跡（南から）・137号住居跡（南西から）	645・648
図版216 田端地区B区138号住居跡（西から）・139号住居跡（西から）	650・652
図版217 田端地区B区140号住居跡（西から）・143号住居跡（北から）	654・657
図版218 田端地区B区143号住居跡カマド・144号住居跡（西から）	657・658
図版219 田端地区B区145号住居跡（西から）・148号住居跡（南西から）	660・663
図版220 田端地区B区157（右）・158（左）号住居跡（西から）・159号住居跡（西から）	669・672
図版221 田端地区C区1号住居跡（南から）・2号住居跡（南西から）	678・680
図版222 田端地区C区2号住居跡カマド・3号住居跡（南から）	680・682
図版223 田端地区E区1号住居跡（西から）・2号住居跡（西から）	684・685
図版224 田端地区E区3号住居跡（東から）・25号住居跡（北東から）	685・686
図版225 田端地区E区27号住居跡（西から）・同上カマド	687
図版226 田端地区E区31号住居跡（東から）・同上カマド	688
図版227 寺東地区2号住居跡（西から）・5号住居跡（南から）	689
図版228 寺東地区5号住居跡カマド・6号住居跡（西から）	689・692
図版229 寺東地区7号住居跡（西から）・8 a・b号住居跡1次調査（北から）	693・694
図版230 寺東地区8 a・b号住居跡2次調査（南から）・同上カマド	694
図版231 寺東地区9号住居跡1次調査（南から）	698
寺東地区9号住居跡4次調査（北から）	698
図版232 寺東地区12号住居跡（東から）・25号住居跡（西から）	700・704
図版233 寺東地区27号住居跡（西から）・28号住居跡（西から）	706・708
図版234 寺東地区29号住居跡（西から）・34号住居跡（南西から）	708・709
図版235 寺東地区38号住居跡（北から）・50号住居跡（西から）	715・716
図版236 寺東地区52号住居跡（南西から）・61号住居跡（南から）	718・724
図版237 田端地区B区163号遺構（1）（東から）	728
田端地区B区163号遺構（2）（東から）	728
図版238 田端地区E区5号溝（南から）	808
図版239 田端地区E区1号集石と水田（東から）	801・825
図版240 田端地区E区水田（西から）	825
図版241 田端地区E区水田（南から）	825
図版242 田端地区E区水田（北から）	825
図版243 寺東地区4次調査北側道溝（西から）	814
寺東地区4次調査北側道溝・ビット（東から）	813
図版244 寺東地区4次調査南側道水田（西から）	825
図版245 寺東地区4次調査南側道水田（東から）	825
図版246 寺東地区4次調査北側道（西から）	825
寺東地区4次調査北側道溝・水田（西から）	825
図版247 寺東地区4次調査北側道（東から）	716
寺東地区4次調査北側道水田（東から）	825
図版248 田端地区B区121・122号住居跡出土遺物	620・623
図版249 田端地区B区123号住居跡出土遺物（1）	625
図版250 田端地区B区123号住居跡出土遺物（2）・125号住居跡出土遺物	626・629
田端地区B区126号住居跡出土遺物・127号住居跡出土遺物	631・633
図版251 田端地区B区130号住居跡出土遺物（1）	637
図版252 田端地区B区130号住居跡出土遺物（2）・132号住居跡出土遺物（1）	638・641

図版253	田端地区 B 区132号住居跡出土遺物 (2)・134号住居跡出土遺物	642・644
	田端地区 B 区135号住居跡出土遺物 (1)	647
図版254	田端地区 B 区135号住居跡出土遺物 (2)	647
	田端地区 B 区137号住居跡出土遺物・138号住居跡出土遺物	650・652
図版255	田端地区 B 区139・140号住居跡出土遺物	654・656
図版256	田端地区 B 区143・144号住居跡出土遺物・145号住居跡出土遺物 (1)	658・660・663
図版257	田端地区 B 区145号住居跡出土遺物 (2)・148号住居跡出土遺物	663・666
図版258	田端地区 B 区157号住居跡出土遺物	671
図版259	田端地区 B 区159号住居跡出土遺物・160号住居跡出土遺物	674・675
	田端地区 B 区161号住居跡出土遺物・162号住居跡出土遺物	676・677
図版260	田端地区 C 区1号住居跡出土遺物	679
図版261	田端地区 C 区2号住居跡出土遺物	681
図版262	田端地区 C 区3号住居跡出土遺物	683
図版263	寺東地区5号住居跡出土遺物・6号住居跡出土遺物・7号住居跡出土遺物	691・692・694
図版264	寺東地区8 a 号住居跡出土遺物・8 b 号住居跡出土遺物	697
	寺東地区9号住居跡出土遺物 (1)	699
図版265	寺東地区9号住居跡出土遺物 (2)・23号住居跡出土遺物	699・701
	寺東地区24号住居跡出土遺物	703
図版266	寺東地区25号住居跡出土遺物・26号住居跡出土遺物	705・706
	寺東地区27号住居跡出土遺物	707
図版267	寺東地区28号住居跡出土遺物・29号住居跡出土遺物	709・710
図版268	寺東地区34号住居跡出土遺物 (1)	713
図版269	寺東地区34号住居跡出土遺物 (2)	714
図版270	寺東地区50号住居跡出土遺物・52号住居跡出土遺物	718・721
図版271	田端地区 A 区1号溝出土遺物	726
	田端地区 B 区163号遺構出土遺物 (1)	729
図版272	田端地区 B 区163号遺構出土遺物 (2)	730
図版273	田端地区 B 区163号遺構出土遺物 (3)・20号溝出土遺物	731・741
図版274	田端地区 B 区21号溝出土遺物・22号溝出土遺物	742・743・745・746
図版275	田端地区 B 区1号土器溜り出土遺物・2号井戸出土遺物・232号土坑出土遺物	733・748・751
図版276	田端地区 B 区3号住居跡下土坑出土遺物 (1)	754~757
図版277	田端地区 B 区3号住居跡下土坑出土遺物 (2)	754~757
	田端地区 B 区29号土坑出土遺物・88号土坑出土遺物	759
図版278	田端地区 B 区54号土坑出土遺物 (1)	766・768
図版279	田端地区 B 区54号土坑出土遺物 (2)	766・768
図版280	田端地区 B 区127号土坑出土遺物・132号土坑出土遺物	761・772・773
図版281	田端地区 B 区167号土坑出土遺物・183号土坑出土遺物・194号土坑出土遺物	776
	田端地区 B 区165号土坑出土遺物・181号土坑出土遺物・195号土坑出土遺物	776
	田端地区 B 区196号土坑出土遺物	776
図版282	田端地区 B 区197号土坑出土遺物・213号土坑出土遺物	781
	田端地区 B 区216号土坑出土遺物・225号土坑出土遺物	781
図版283	田端地区 B 区229号土坑出土遺物・233A 号土坑出土遺物・235 B 号土坑出土遺物	790
	田端地区 B 区244号土坑出土遺物・246号土坑出土遺物・253号土坑出土遺物	794
図版283	田端地区 D 区7号土坑出土遺物	797
図版284	田端地区 E 区1号集石出土遺物	803・804
図版285	田端地区 E 区2号集石出土遺物	806
図版286	田端地区 E 区4号集石出土遺物 (1)	809
図版287	田端地区 E 区4号集石出土遺物 (2)・3・5号溝出土遺物・5号溝出土遺物	809・810
図版288	田端遺跡水田跡出土遺物	832



## 插图目次

第597图	调查风景·写真	617
第598图	田端地区B区121号住居迹	620
第599图	田端地区B区121号住居迹出土遗物	620
第600图	田端地区B区122号住居迹·写真	621
第601图	田端地区B区122号住居迹	622
第602图	田端地区B区122号住居迹出土遗物	623
第603图	田端地区B区123号住居迹	624
第604图	田端地区B区123号住居迹·写真	625
第605图	田端地区B区123号住居迹出土遗物(1)	625
第606图	田端地区B区123号住居迹出土遗物(2)	626
第607图	田端地区B区125号住居迹·写真	627
第608图	田端地区B区124号住居迹	627
第609图	田端地区B区125号住居迹	628
第610图	田端地区B区125号住居迹出土遗物	629
第611图	田端地区B区126号住居迹·写真	630
第612图	田端地区B区126号住居迹	631
第613图	田端地区B区126号住居迹出土遗物	631
第614图	田端地区B区127号住居迹(1)·写真	632
第615图	田端地区B区127号住居迹(2)·写真	632
第616图	田端地区B区127号住居迹	633
第617图	田端地区B区127号住居迹出土遗物	633
第618图	田端地区B区129号住居迹	634
第619图	田端地区B区130号住居迹(1)·写真	635
第620图	田端地区B区130号住居迹(2)·写真	635
第621图	田端地区B区130号住居迹	636
第622图	田端地区B区130号住居迹出土遗物(1)	637
第623图	田端地区B区130号住居迹出土遗物(2)	638
第624图	田端地区B区132号住居迹·写真	639
第625图	田端地区B区131号住居迹	639
第626图	田端地区B区132号住居迹	640
第627图	田端地区B区132号住居迹出土遗物(1)	641
第628图	田端地区B区132号住居迹出土遗物(2)	642
第629图	田端地区B区133号住居迹	642
第630图	田端地区B区134号住居迹	643
第631图	田端地区B区134号住居迹·写真	644
第632图	田端地区B区134号住居迹出土遗物	644
第633图	田端地区B区135号住居迹·写真	645
第634图	田端地区B区135号住居迹	646
第635图	田端地区B区135号住居迹出土遗物	647
第636图	田端地区B区137号住居迹(1)·写真	648
第637图	田端地区B区137号住居迹(2)·写真	649
第638图	田端地区B区137号住居迹	649
第639图	田端地区B区137号住居迹出土遗物	650
第640图	田端地区B区138号住居迹·写真	651
第641图	田端地区B区138号住居迹	651
第642图	田端地区B区139号住居迹·写真	652
第643图	田端地区B区138号住居迹出土遗物	652
第644图	田端地区B区139号住居迹	653
第645图	田端地区B区139号住居迹出土遗物	654
第646图	田端地区B区140号住居迹·写真	655
第647图	田端地区B区140号住居迹	655
第648图	田端地区B区140号住居迹出土遗物	656
第649图	田端地区B区143号住居迹	657
第650图	田端地区B区143号住居迹出土遗物	658
第651图	田端地区B区144号住居迹·写真	659
第652图	田端地区B区144号住居迹	659

第653図	田端地区B区144号住居跡出土遺物	660
第654図	田端地区B区145号住居跡・写真	661
第655図	田端地区B区145号住居跡	662
第656図	田端地区B区145号住居跡出土遺物	663
第657図	田端地区B区148号住居跡(1)・写真	664
第658図	田端地区B区147号住居跡	664
第659図	田端地区B区148号住居跡(2)・写真	665
第660図	田端地区B区148号住居跡	665
第661図	田端地区B区148号住居跡出土遺物	666
第662図	田端地区B区149号住居跡	667
第663図	田端地区B区150・152号住居跡	668
第664図	田端地区B区153・154号住居跡	669
第665図	田端地区B区157号住居跡・写真	670
第666図	田端地区B区157号住居跡	670
第667図	田端地区B区157号住居跡出土遺物	671
第668図	田端地区B区158号住居跡	672
第669図	田端地区B区159号住居跡・写真	673
第670図	田端地区B区159号住居跡	673
第671図	田端地区B区159号住居跡出土遺物	674
第672図	田端地区B区160号住居跡	675
第673図	田端地区B区160号住居跡出土遺物	675
第674図	田端地区B区161号住居跡	676
第675図	田端地区B区161号住居跡出土遺物	676
第676図	田端地区B区162号住居跡	677
第677図	田端地区B区162号住居跡出土遺物	677
第678図	田端地区C区1号住居跡	678
第679図	田端地区C区南側道全景(西から)・写真	678
第680図	田端地区C区1号住居跡出土遺物	679
第681図	田端地区C区2号住居跡	680
第682図	田端地区C区2号住居跡・写真	681
第683図	田端地区C区2号住居跡出土遺物	681
第684図	田端地区C区3号住居跡	682
第685図	田端地区C区3号住居跡出土遺物	683
第686図	田端地区E区1号住居跡	684
第687図	田端地区E区2号住居跡	684
第688図	田端地区E区3号住居跡	685
第689図	田端地区E区3号住居跡出土遺物	686
第690図	田端地区E区25号住居跡	686
第691図	田端地区E区27号住居跡	687
第692図	田端地区E区31号住居跡	688
第693図	田端地区E区31号住居跡出土遺物	688
第694図	寺東地区2号住居跡・写真	689
第695図	寺東地区3号住居跡・写真	690
第696図	寺東地区2・3号住居跡	690
第697図	寺東地区2・3号住居跡出土遺物	690
第698図	寺東地区5号住居跡	691
第699図	寺東地区5号住居跡出土遺物	691
第700図	寺東地区6号住居跡	692
第701図	寺東地区6号住居跡出土遺物	692
第702図	寺東地区7号住居跡・写真	693
第703図	寺東地区7号住居跡	694
第704図	寺東地区7号住居跡出土遺物	694
第705図	寺東地区8a・b号住居跡(1)・写真	695
第706図	寺東地区8a・b号住居跡(2)・写真	695
第707図	寺東地区8a・b号住居跡	696
第708図	寺東地区8a号住居跡出土遺物	697
第709図	寺東地区8b号住居跡出土遺物	697
第710図	寺東地区9号住居跡(1)・写真	697
第711図	寺東地区9号住居跡(2)・写真	698

第712図	寺東地区9号住居跡	698
第713図	寺東地区9号住居跡出土遺物	699
第714図	寺東地区12号住居跡・写真	700
第715図	寺東地区12号住居跡	700
第716図	寺東地区23号住居跡	701
第717図	寺東地区23号住居跡出土遺物	701
第718図	寺東地区24号住居跡・写真	702
第719図	寺東地区24号住居跡	703
第720図	寺東地区24号住居跡出土遺物	703
第721図	寺東地区25号住居跡(1)・写真	704
第722図	寺東地区25号住居跡(2)・写真	704
第723図	寺東地区25号住居跡	705
第724図	寺東地区25号住居跡出土遺物	705
第725図	寺東地区26号住居跡	706
第726図	寺東地区26号住居跡出土遺物	706
第727図	寺東地区27号住居跡	707
第728図	寺東地区27号住居跡出土遺物	707
第729図	寺東地区28号住居跡	708
第730図	寺東地区28号住居跡出土遺物	709
第731図	寺東地区29号住居跡・写真	710
第732図	寺東地区29号住居跡	710
第733図	寺東地区29号住居跡出土遺物	710
第734図	寺東地区34号住居跡(1)・写真	711
第735図	寺東地区34号住居跡(2)・写真	711
第736図	寺東地区34号住居跡	712
第737図	寺東地区34号住居跡出土遺物(1)	713
第738図	寺東地区34号住居跡出土遺物(2)	714
第739図	寺東地区36号住居跡	715
第740図	寺東地区38号住居跡	715
第741図	寺東地区50号住居跡(1)・写真	716
第742図	寺東地区50号住居跡(2)・写真	717
第743図	寺東地区50号住居跡	717
第744図	寺東地区52号住居跡・写真	718
第745図	寺東地区50号住居跡出土遺物	718
第746図	寺東地区52号住居跡(1)・写真	719
第747図	寺東地区52号住居跡(2)・写真	719
第748図	寺東地区52号住居跡	720
第749図	寺東地区52号住居跡出土遺物	721
第750図	寺東地区56号住居跡	721
第751図	寺東地区56・57・62・64号住居跡出土遺物	722
第752図	寺東地区59・60・66号住居跡	723
第753図	寺東地区61号住居跡	724
第754図	田端地区A区1号溝出土遺物	726
第755図	田端地区A区1・2・3号溝	折込み
第756図	田端地区A区1・2・3号溝・写真	727
第757図	田端地区B区163号遺構	728
第758図	田端地区B区163号遺構出土遺物(1)	729
第759図	田端地区B区163号遺構出土遺物(2)	730
第760図	田端地区B区163号遺構出土遺物(3)	731
第761図	田端地区B区1号土器溜まり・写真	732
第762図	田端地区B区1号土器溜まり	732
第763図	田端地区B区1号土器溜まり出土遺物	733
第764図	田端地区B区5号掘立柱建物跡・写真	734
第765図	田端地区B区4号掘立柱建物跡	734
第766図	田端地区B区5号掘立柱建物跡	736
第767図	田端地区B区1・2・3A号溝・写真	737
第768図	田端地区B区2・3A号溝出土遺物	738
第769図	田端地区B区14号溝出土遺物	738
第770図	田端地区B区20号溝	折込み

第771图	田端地区B区20号溝(1)·写真	739
第772图	田端地区B区20号溝(2)·写真	740
第773图	田端地区B区20号溝出土遺物	741
第774图	田端地区B区21号溝出土遺物(1)	742
第775图	田端地区B区21号溝出土遺物(2)	743
第776图	田端地区B区22号溝	744
第777图	田端地区B区22号溝出土遺物(1)	745
第778图	田端地区B区22号溝出土遺物(2)	746
第779图	田端地区B区2号井戸	747
第780图	田端地区B区2号井戸出土遺物	748
第781图	田端地区B区232号土坑(墓墳)(1)·写真	749
第782图	田端地区B区232号土坑(墓墳)(2)·写真	749
第783图	田端地区B区232号土坑(墓墳)(3)·写真	750
第784图	田端地区B区232号土坑(墓墳)	750
第785图	田端地区B区232号土坑(墓墳)出土遺物	751
第786图	田端地区B区232号土坑(墓墳)(4)·写真	752
第787图	田端地区B区3号住居跡下土坑·写真	752
第788图	田端地区B区3号住居跡下土坑	753
第789图	田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(1)	754
第790图	田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(2)	755
第791图	田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(3)	756
第792图	田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(4)	757
第793图	田端地区B区26·28·29·30·31·32·33·47号土坑	758
第794图	田端地区B区13·28·29·33·57·59·68·69·81·88号土坑出土遺物	759
第795图	田端地区B区37·127·136·178·179号土坑	760
第796图	田端地区B区107·109·127·128·136·142·157号土坑出土遺物	761
第797图	田端地区B区127号土坑·写真	762
第798图	田端地区B区54号土坑(1)·写真	762
第799图	田端地区B区54号土坑(2)·写真	763
第800图	田端地区B区54号土坑(3)·写真	763
第801图	田端地区B区54号土坑(4)·写真	764
第802图	田端地区B区54号土坑(5)·写真	764
第803图	田端地区B区54号土坑(6)·写真	765
第804图	田端地区B区54号土坑	765
第805图	田端地区B区54号土坑出土遺物(1)	766
第806图	田端地区B区54号土坑出土遺物(2)	767
第807图	田端地区B区54号土坑出土遺物(3)	768
第808图	田端地区B区55·59·61·62·63·64·65·66·67号土坑	769
第809图	田端地区B区132号土坑(1)·写真	770
第810图	田端地区B区132号土坑(2)·写真	770
第811图	田端地区B区132号土坑(3)·写真	771
第812图	田端地区B区132号土坑	771
第813图	田端地区B区132号土坑出土遺物(1)	772
第814图	田端地区B区132号土坑(4)·写真	773
第815图	田端地区B区132号土坑出土遺物(2)	773
第816图	田端地区B区134·135·138·139·150·151·153号土坑	774
第817图	田端地区B区157·158·162·163·165·166·167号土坑	775
第818图	田端地区B区159·165·167·181·183·190·191·194·195·196号土坑出土遺物	776
第819图	田端地区B区157号土坑·写真	777
第820图	田端地区B区192号土坑·写真	777
第821图	田端地区B区169·171·175·192号土坑	778
第822图	田端地区B区181号土坑·写真	779
第823图	田端地区B区177·181·183·186号土坑	779
第824图	田端地区B区195·196·197号土坑·写真	780
第825图	田端地区B区185·195·197号土坑	780
第826图	田端地区B区197·213·214·216·225号土坑出土遺物	781
第827图	田端地区B区190·191·193·194·198·199·200·203号土坑	782
第828图	田端地区B区194号土坑·写真	783
第829图	田端地区B区254号土坑·写真	783

第830図	田端地区B区204・205・233B・234・239A・257号土坑	784
第831図	田端地区B区210・211・212・213・214・215・216・219・221・222号土坑	785
第832図	田端地区B区217A・217B・218・239B・240A・240C・248号土坑	786
第833図	田端地区B区225号土坑(1)・写真	787
第834図	田端地区B区225号土坑	787
第835図	田端地区B区225号土坑(2)・写真	788
第836図	田端地区B区229号土坑・写真	788
第837図	田端地区B区226・227・228・229・230・231・233A・238号土坑	789
第838図	田端地区B区229・230・233A・234・235B・237号土坑出土遺物	790
第839図	田端地区B区235A・235B・240・241・242・243A・243B・245号土坑	791
第840図	田端地区B区252・253・254号土坑・写真	792
第841図	田端地区B区244・246・247・249・251・255・256・258号土坑	793
第842図	田端地区B区244・246・253・256号土坑出土遺物	794
第843図	田端地区B区250号土坑・写真	795
第844図	田端地区B区250・252・253・254号土坑	795
第845図	田端地区D区7号土坑・写真	796
第846図	田端地区D区7号土坑・写真	797
第847図	田端地区D区7・10・11号土坑出土遺物	797
第848図	田端地区E区1号掘立柱建物跡	798
第849図	田端地区E区1号井戸(1)・写真	799
第850図	田端地区E区1号井戸	799
第851図	田端地区E区1号井戸(2)・写真	800
第852図	田端地区E区1号井戸(3)・写真	800
第853図	田端地区E区1号集石・写真	801
第854図	田端地区E区1号集石	802
第855図	田端地区E区1号集石出土遺物(1)	803
第856図	田端地区E区1号集石出土遺物(2)	804
第857図	田端地区E区2号集石・写真	805
第858図	田端地区E区2号集石	805
第859図	田端地区E区2号集石出土遺物	806
第860図	田端地区E区4号集石(1)・写真	807
第861図	田端地区E区4号集石(2)・写真	807
第862図	田端地区E区4号集石	808
第863図	田端地区E区4号集石出土遺物	809
第864図	田端地区E区5・7号溝	折込み
第865図	田端地区E区3・5号溝出土遺物	810
第866図	田端地区E区5号溝土層断面・写真	811
第867図	田端地区E区4号土坑・写真	812
第868図	田端地区E区4号土坑	812
第869図	寺東地区ビット群1・写真	813
第870図	寺東地区ビット群1	814
第871図	寺東地区2・7号溝(1)・写真	815
第872図	寺東地区2・7号溝(2)・写真	815
第873図	寺東地区2・7号溝(3)・写真	816
第874図	寺東地区2・3号溝・写真	816
第875図	寺東地区2・7号溝	817
第876図	寺東地区19・20・21・22号溝	818
第877図	寺東地区23・24・25・26・27・28・29・30号溝・写真	819
第878図	寺東地区35号溝・写真	819
第879図	寺東地区23・24・25・26・27・28・29・30・31・35号溝, 畝状遺構	820
第880図	寺東地区32・33・34号溝	821
第881図	寺東地区31号土坑・写真	822
第882図	寺東地区36・37号土坑・写真	822
第883図	寺東地区38号土坑・写真	823
第884図	寺東地区39号土坑・写真	823
第885図	寺東地区31・32・33・35B・36・37・38・39・46号土坑	824
第886図	寺東地区47・48・49・50・63号土坑	825
第887図	田端地区E区水田跡・写真	826
第888図	寺東地区水田跡アゼ1(34号溝東側)・写真	827

第889図	寺東地区水田跡アゼ2・写真	827
第890図	寺東地区水田跡アゼ3・写真	828
第891図	田端地区E区水田跡水口1・写真	828
第892図	田端地区E区水田跡水口2・写真	829
第893図	田端地区E区水田跡水口3・写真	829
第894図	田端地区水田跡	折込み
第895図	田端地区E区・水田跡断面(1)	830
第896図	寺東地区北側道・水田跡断面(2)	831
第897図	田端地区E区水田跡水口4・写真	832
第898図	田端遺跡水田跡出土遺物	832

## 表 目 次

第20表	田端地区B区4号掘立柱建物跡計測値表	733
第21表	田端地区B区5号掘立柱建物跡計測値表	735
第22表	田端地区E区1号掘立柱建物跡計測値表	798

## 第V章 第5節

### 奈良平安時代の住居跡 2



第597図 調査風景





## 第5節 奈良平安時代の住居跡2

### 1 概 要

本分冊では奈良～平安時代の住居跡及び住居跡以外の遺構を報告する。ここでは住居跡のみ扱うこととした。

#### 田端地区B区

B区のうち、2～120号までは第2分冊で報告しているのので、ここでは121～162号までを扱う。ここで扱う住居跡の大半はB区の西半に位置し、重複の激しい住居跡群である。前後関係を的確に把握できなかったものや、プランの一部のみ検出し、詳細不明のものも多い。

#### 田端地区C区

C区の住居跡は3軒あり、すべて南北の側道調査で検出したものである。側道部分の狭い調査区であるため、いずれもプランの全体を検出していない。8世紀代に営まれたとみられる。

#### 田端地区E区

E区の住居跡は全体で37軒あるが、ここでは1～3号、25・27・31号を報告する。平安時代の遺構の調査を進めているときに大型台風が来襲し、もともと遺存状態の良くなかった遺構が、さらに破壊されてしまい、遺構・遺物とも記録・観察が不足している。いずれも遺物が少なく、なかには掘形の調査のみで終了したものもある。E区は寺東地区の心洞寺の乗る台地からみて、西側の縁辺に位置し、住居群の密集地点からやや離れている。本来的に平安時代の住居跡は少なかったとみられる。

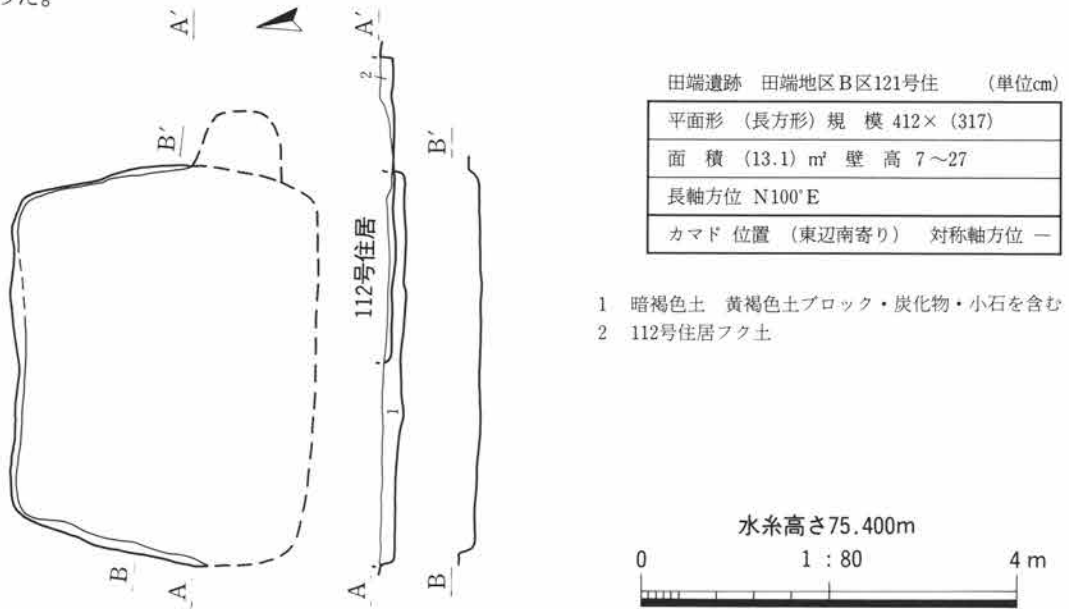
#### 寺東地区

本分冊で報告するのは24軒である。遺存状態の不良のものが多く、1号溝によって半分を失っているものもある。東端で検出したのは5号住居であり、西端には比較的遺存状態の良好な34号が位置する。南側道西半と1号溝との間には、排土置場の関係で未調査区がある。北側道東端で検出した50号住居は、第2次調査の南側道東端で検出した12号住居とほぼ南北に並び、1次調査で検出した5号住居と合わせて、このあたりに当時の居住地域の限界が推定できる。これより東側は河川の氾濫の激しい区域となり、北側道では水田跡と礎石建物と推定されるピット群を検出したのみである。このピット群については、本分冊の後半で報告する。

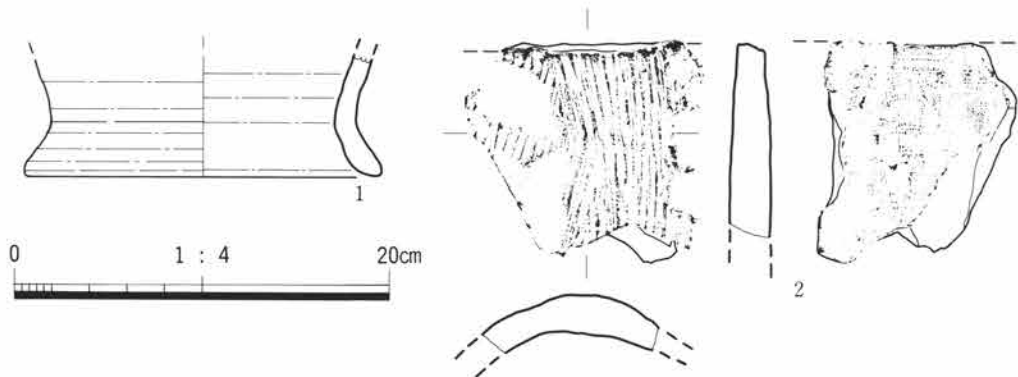
2 田端地区B区

田端B区第121号住居跡 (第598・599図、図版207・248)

Oライン・71km303m付近で検出した。確認面は第4層である。112・113・138・139号住居と重複している。138・139号との前後関係は不明だが、その他の住居とは113→121→112号の順に新しい。プランは上層を112号住居によって破壊されているために北半を確認したのみで、南半は推定である。南西隅は本住居のすぐ南側に位置する234号土坑によって破壊されている。南東隅は総計5軒が重複しており、調査の順序を間違えたこともあって、壁の立ち上がりを検出できなかった。覆土は一層のみで、重複していない部分では自然に堆積している。壁は北半の遺存部分で、20cm前後があり、斜めに立ち上がる。床面は小石が露出しており、中央部がやや低く、東西の壁際に向かって高くなる。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。東辺南寄りに焼土粒子と炭化物・灰の分布があり、ここがカマドのあったところと推定するが、112号住居が重複しており、痕跡程度の確認しかできなかった。



第598図 田端地区B区121号住居跡



第599図 田端地区B区121号住居跡出土遺物

遺物は少なく、図示できるのは第599図のものである。1は北東隅床面から、2はカマド前床面からそれぞれ出土した。

時期は重複関係からみて、10世紀後半から11世紀と考えられる。

#### 田端B区第122号住居跡（第600～602図、図版207・208・248）

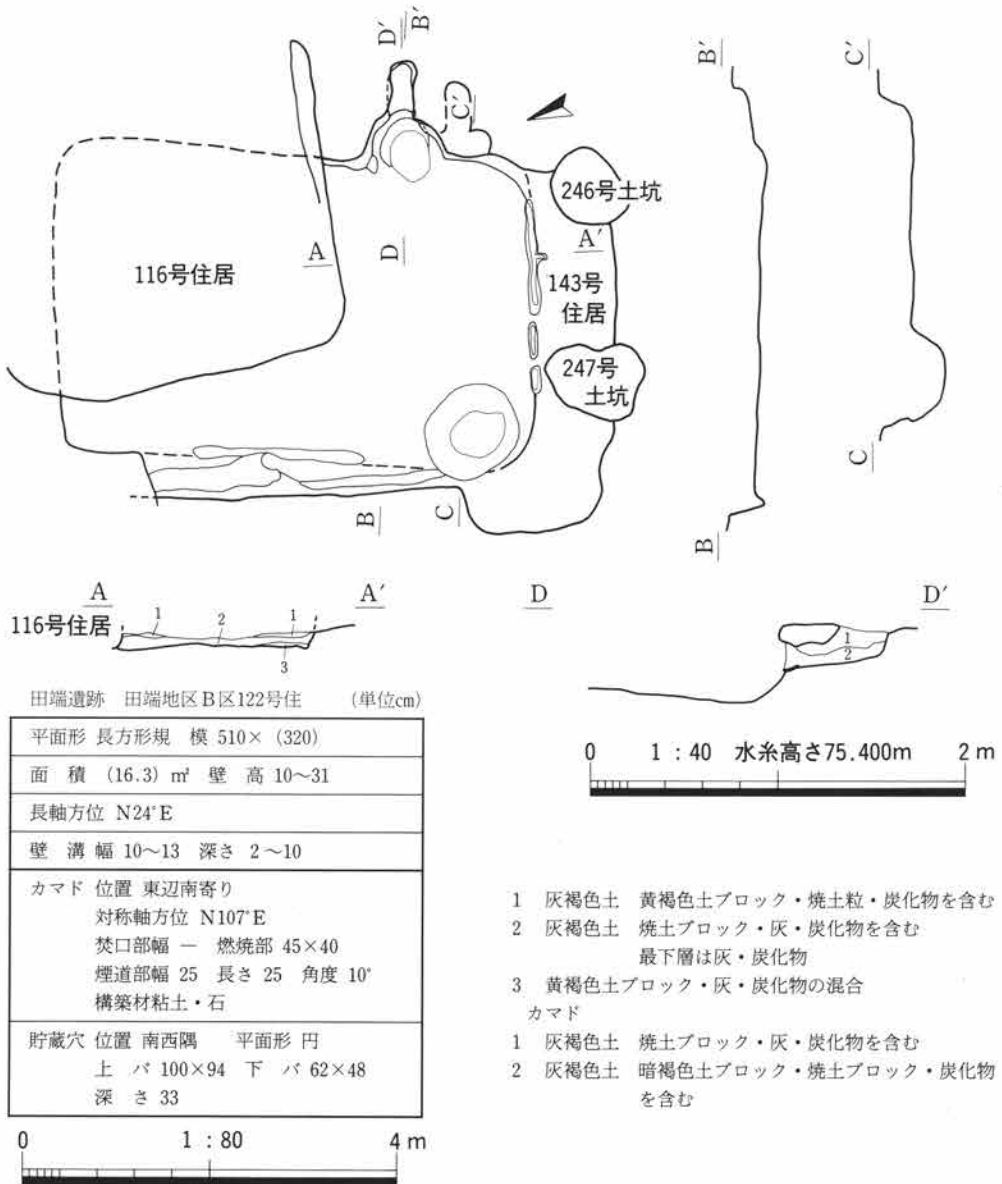
Pライン・71km298m付近で検出した。116・129・143号住居と重複している。これらは143→122→116号の順に新しく、129号との前後関係は不明である。116号住居によって北半を破壊されているため、北東隅は検出できなかった。南半は143号と重複し、143号よりも床面が約5cmほど高く、南辺相当の位置で壁溝を検出したことから、概ねプランを復原することができる。上記の3軒と、調査当時141・142号と呼んだ壁溝を合わせて考えると、本住居の南西隅はカマドの対面に位置する掘り込み(貯蔵穴)付近となり、西辺はこの掘り込みの北側から、当時142号と呼んだ壁溝に乗ってくる。北西隅は、北から二つめの「L」字状に曲がる部分と考えられる。以上の推定を図示すると、第601図になる。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、立ち上がりは不明である。床面はカマド前がやや低く、南側に向かって高くなる。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝は南辺の一部、西辺の一部を検出した。カマドは東辺南寄りに設置してあり、燃烧部が壁外に突出するタイプである。左袖部に相当する位置で石が出土している。煙道は天井部が25cmほど遺存していた。煙り出し部はほぼ垂直に立ち上がる。カマドに対面する西側の掘り込みを貯蔵穴と考えた。中から土器片と石が出土した。



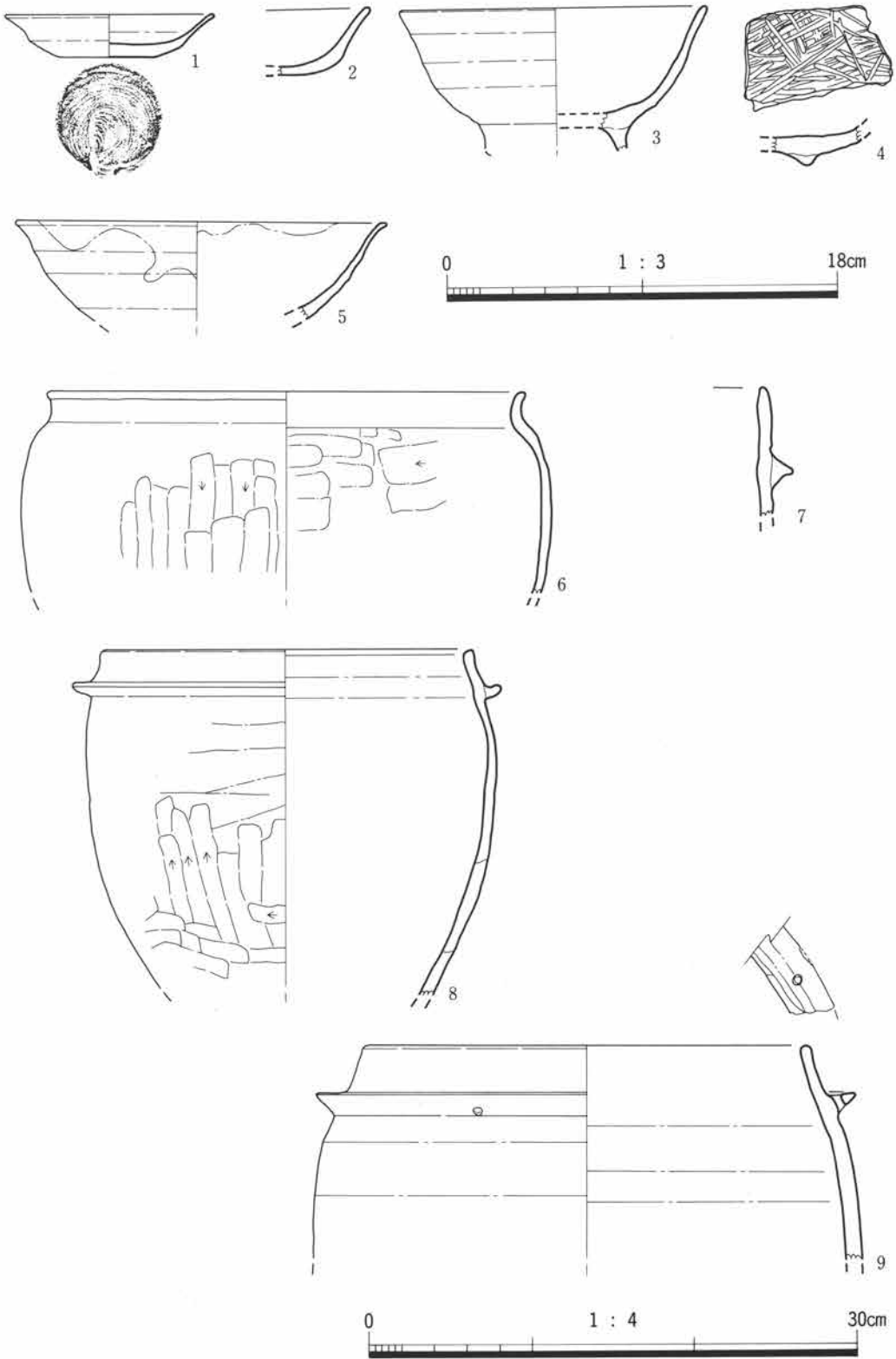
第600図 田端地区B区122号住居跡

遺物はカマド内、カマド周辺からの土器の出土が多く、覆土・床面近くから多くの石が出土している。第602図1・7はカマド前床直上から、2・3・6・8はカマド内から、4は南辺中央壁際床面から、5は貯蔵穴内から、9はカマドの右脇からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第601図 田端地区B区122号住居跡



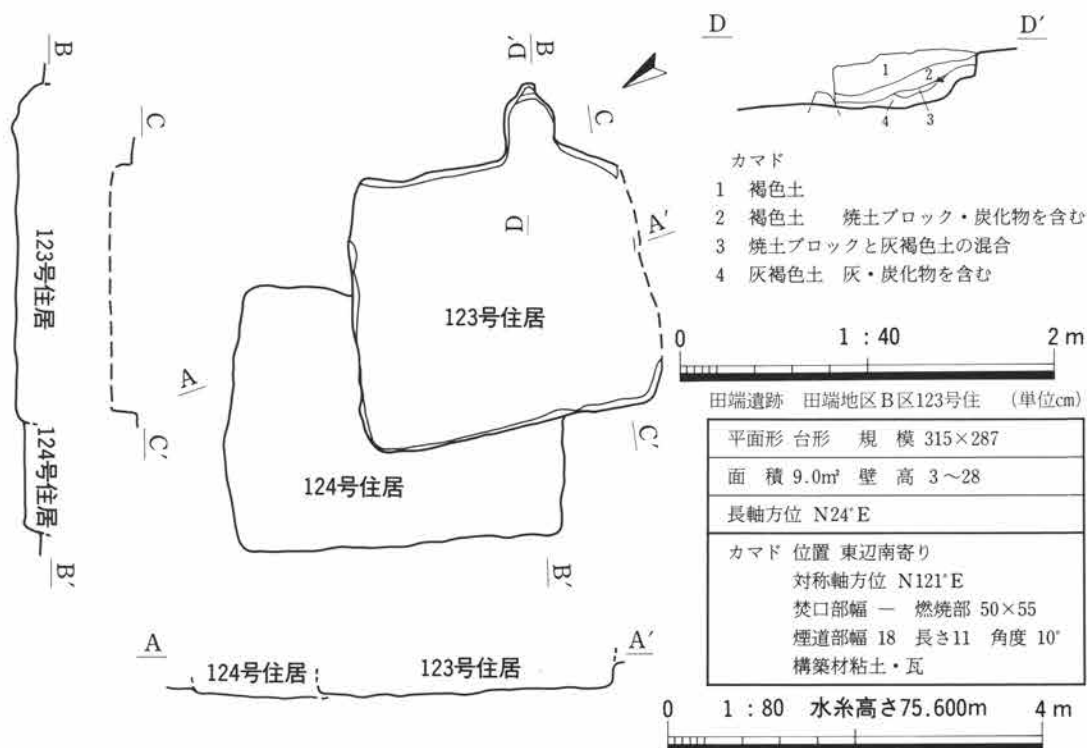
第602図 田端地区B区122号住居跡出土遺物

田端B区第123号住居跡（第603～606図、図版208・209・249・250）

L-Mライン・71km310m付近で検出した。確認面は第4層である。107・124・152号住居と重複している。これらは152・124→107→123号の順に新しい。本住居のプランは北辺がやや長い台形を呈し、長軸を南北方向にとる。南辺は本住居よりも新しい土坑によって殆ど破壊されていたが、東寄りの部分でわずか20cmの長さを検出し、南北の規模を確認することができた。覆土は一層のみの検出で、灰褐色土をブロック状に含む暗褐色土である。壁は南辺を除き、10cm未満である。床面は細かい凹凸があるがほぼ平坦で、北側がやや低い。主柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプで、煙道部の遺存は短く、奥壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドの左袖部には大型の須恵器甕の体部片をたてて構築材の一部としており、外面を燃烧部側にした状態で出土した。右袖部の直下には、これも須恵器甕の体部片が外面を上にして出土した。内面側に煤が付着していることから、右袖部の構築材としていたものが剝がれて、燃烧部に倒れ込んだものと考えられる。

遺物はカマド周辺に集中して出土した。第605・606図はすべてカマド周辺の出土遺物である。第606図は出土状態を優先して図示してある。

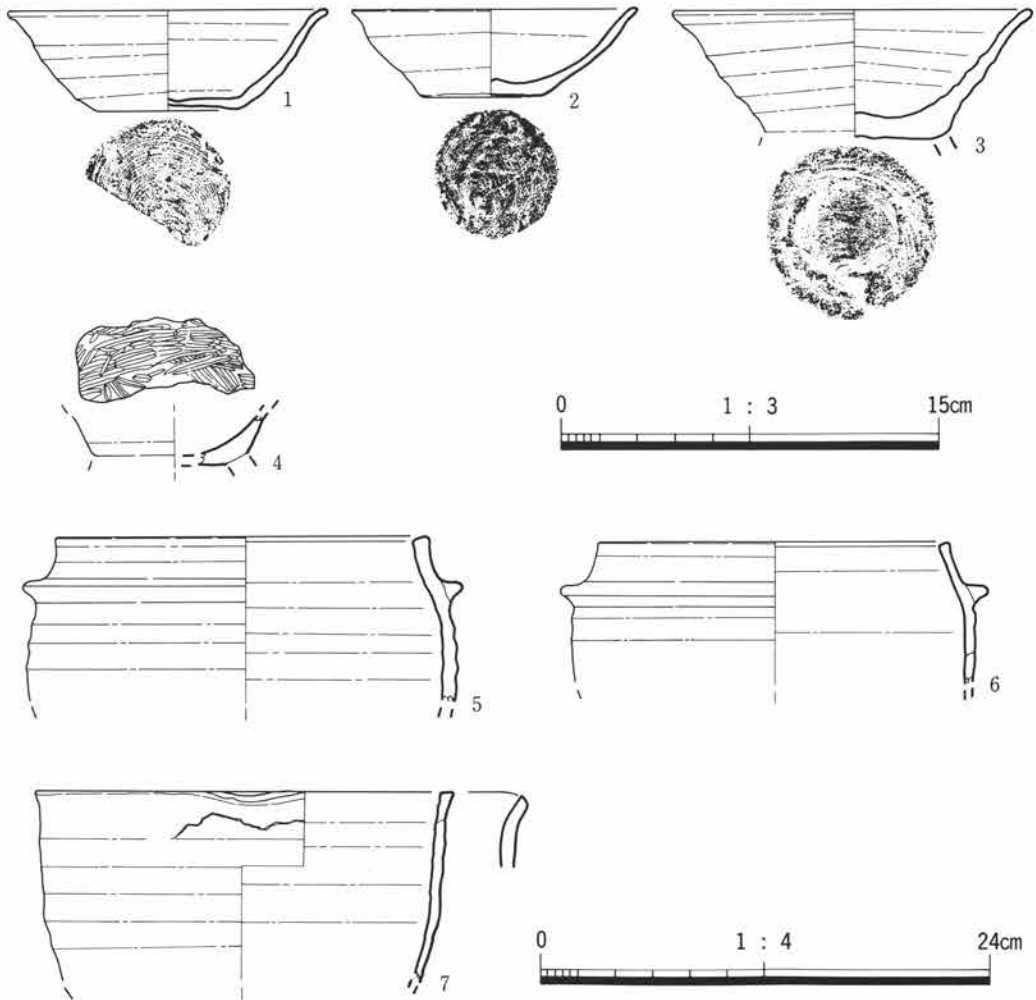
時期は9世紀後半～10世紀はじめころと考えられる。



第603図 田端地区B区123号住居跡



第604図 田端地区B区123号住居跡

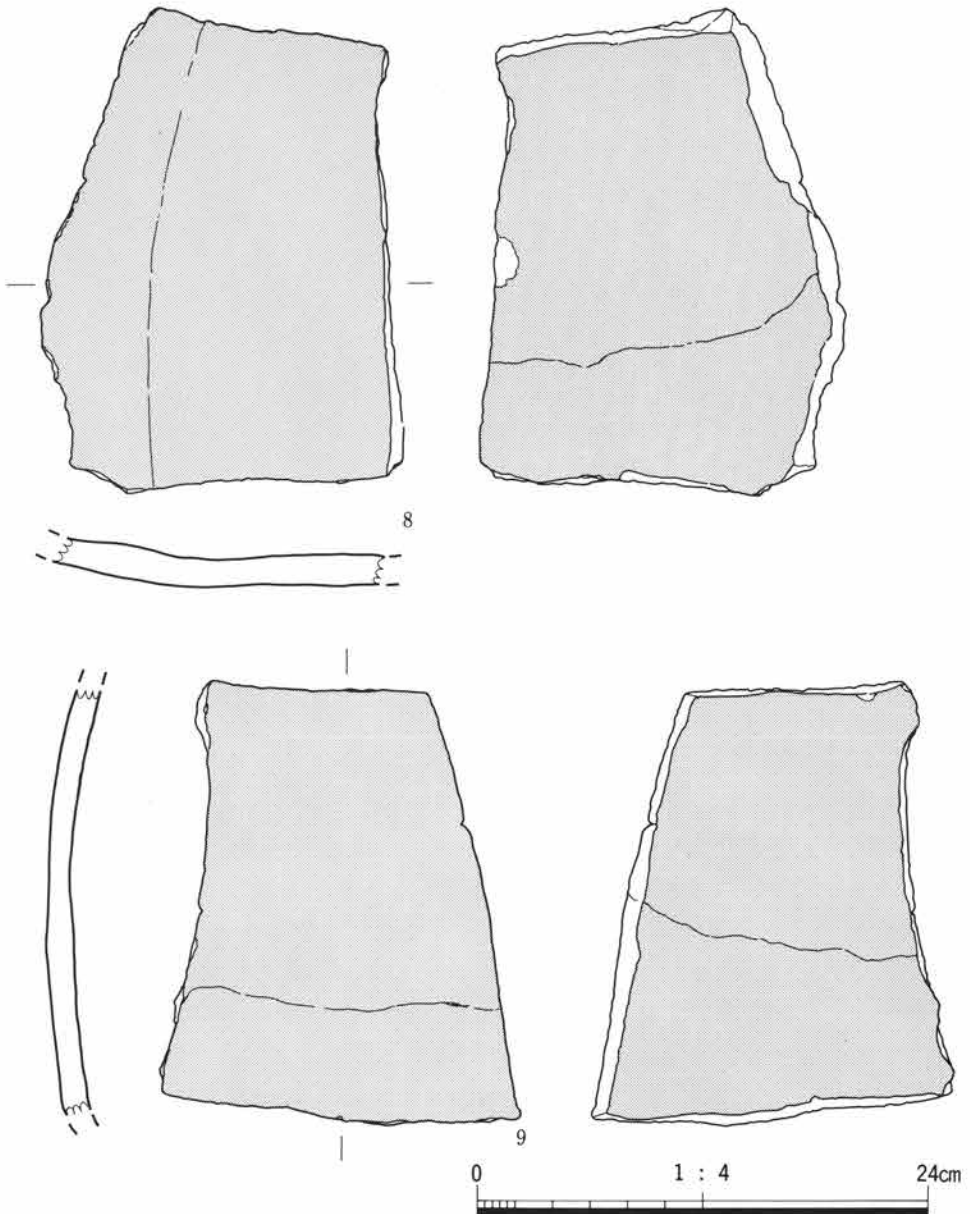


第605図 田端地区B区123号住居跡出土遺物 (1)

田端B区第124号住居跡（第608図、図版209）

Mライン・71km313m付近で検出した。確認面は第4層である。107・123号住居と重複している。124→107→123号住居の順に新しい。北西隅と南西隅を確認し、北東隅は107号住居の床下で検出した。南東隅は123号住居によって破壊されている。従って、全体にL字状の確認である。覆土は一層のみで、自然に堆積している。壁は4～18cmで斜めに立ち上がる。床面は南側がやや高い。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。カマドは123号によって破壊された東辺に設置されていたと考えられる。

遺物の出土はない。時期は107号以前であるが、107号の時期幅が長いので限定できない。



第606図 田端地区B区123号住居跡出土遺物（2）

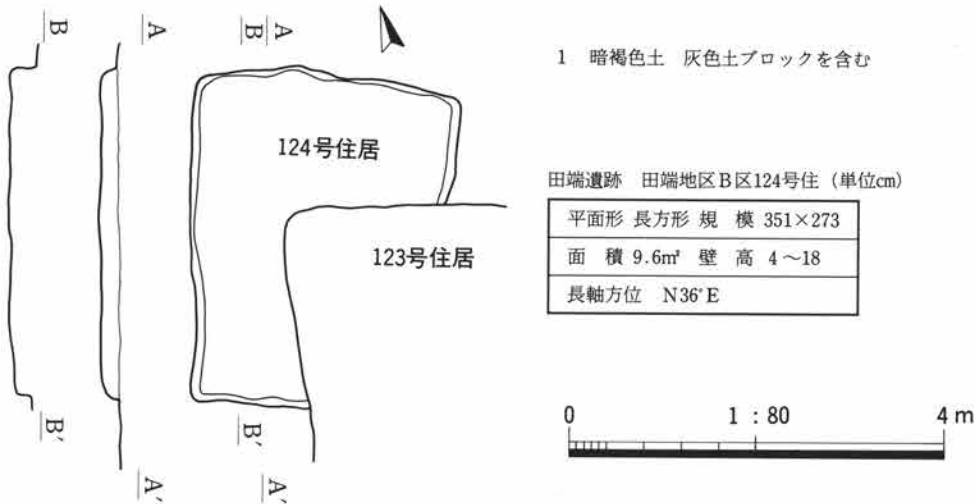


田端B区第125号住居跡（第607・609・610図、図版210・250）

Q-Pライン・71km312m付近で検出した。確認面は第4層である。130・140号住居と重複している。これらは140→130→125号の順に新しい。本住居はB区の北西隅に位置しており、南東隅を除く各隅は調査区外である。従って、全体のプランを確認することができなかった。覆土は自然に堆積している。壁は20～40cmと比較的遺存状態が良く、斜めに立ち上がる。床面はカマド前がややくぼみ、その他の部分は踏み固められている。支柱穴と考えられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺に検



第607図 田端地区B区125号住居跡

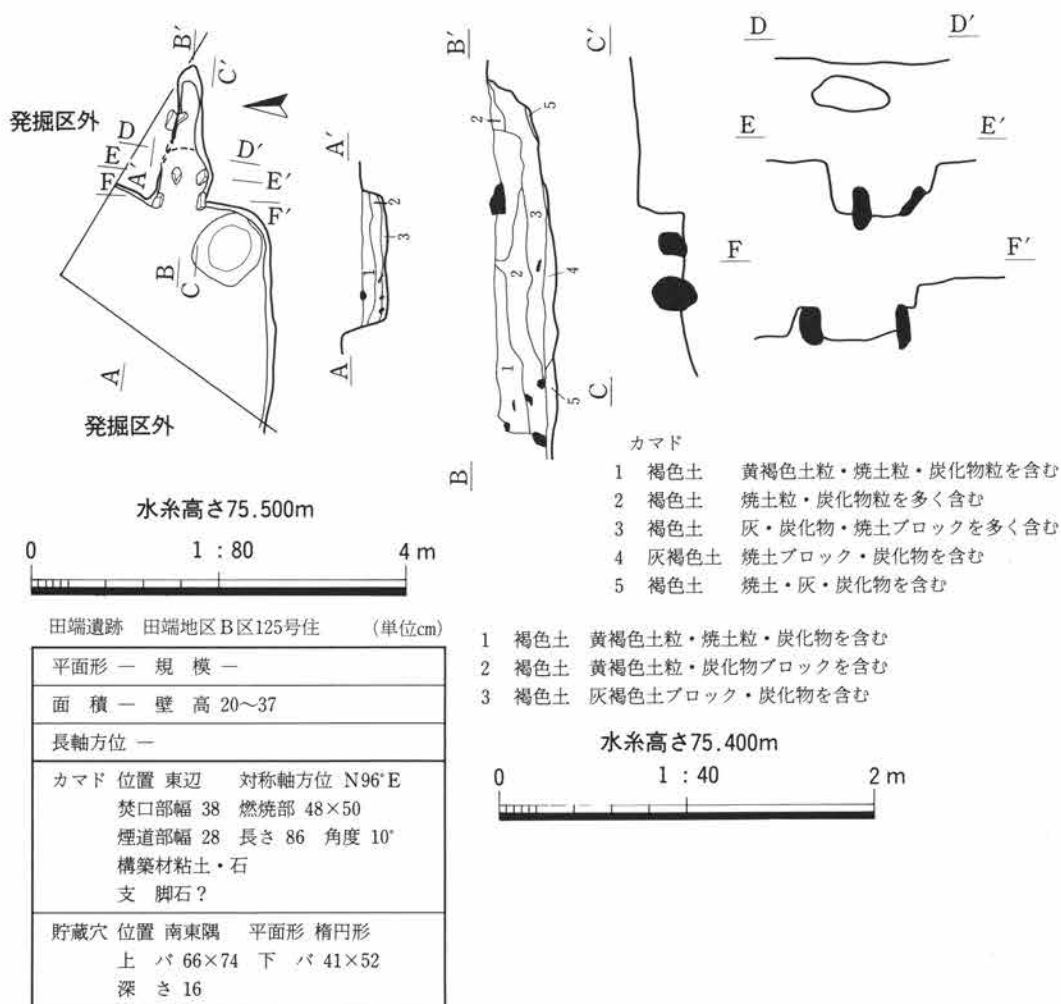


第608図 田端地区B区124号住居跡

出した。調査部分からみると、南寄りに設置されていたと推定できる。燃烧部が壁外に突出するタイプで、燃烧部から煙道にかけて滑らかに立ち上がる。煙道の天井部は約50cmほど遺存していた。カマドの両袖部には長さ30cm前後の石が立てて据えられており、構築材の一部と考えられる。また、燃烧部中央にも同様の石が据えられており、向かって右側の斜めに倒れている石と合わせてみると、燃烧部中央の二つの石は支脚として使われていたと推定できる。両者の基部での間隔は14cmである。煙道部天井の位置からは火を受けた凝灰岩が、割れた状態で出土した。貯蔵穴はカマド右脇の南東隅に検出した。この付近からは完形に近い土器が出土している。

遺物はカマド内および南東隅から出土した。第610図 1・7・9・11・12はカマド内から、2・3・5は南東隅の床面から、4・6は貯蔵穴内から、8はカマド前と南東隅出土の破片が接合し、10はカマド前の床面から、それぞれ出土した。

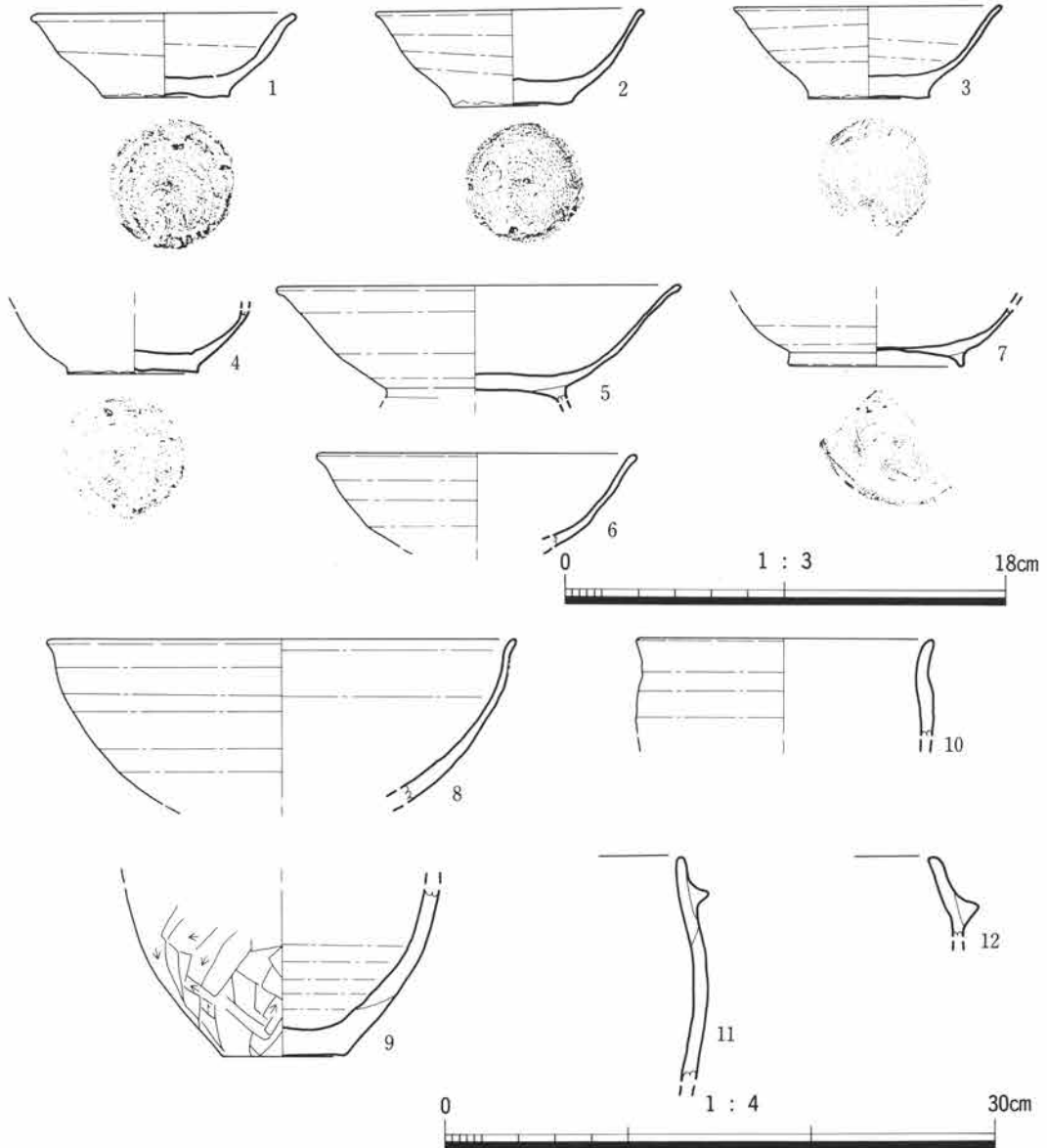
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第609図 田端地区B区125号住居跡

田端B区第126号住居跡（第611～613図、図版211・250）

M-Nライン・71km297m付近で検出した。確認面は第4層である。127・134・135・137・147・149号住居と重複している。135・149→147→134→126→127号、149→137→134号住居の順に新しい。本住居のプランはとくに南辺が短く、全体として台形を呈している。他の住居に比べて規模が小さい。覆土は自然に堆積している。壁は北辺の西半を欠き斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸をもつが、ほぼ平坦である。カマド前約50cmの床面に40×30cm程のススの付着した石が出土している。また、カマド右脇の床面に、これもススの付着した凝灰岩が出土している。両者ともカマドの構築材の一部と考えられる。主柱穴とみられるピット、壁溝、貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺北寄りに検出した。



第610図 田端地区B区125号住居跡出土遺物

燃焼部はやや住居内寄りで、奥壁は丸みをもつ。燃焼部底面から土器片が出土している。

遺物はカマド内とその周辺、カマドの向かい側の西辺近くから出土した。第613図1は住居中央の南東寄りから、2は北辺西寄りの床面から、3はカマド内出土の破片と覆土出土の破片が接合し、4はカマド右脇の床面からそれぞれ出土した。

時期は10世紀前半と考えられる。

#### 田端B区第127号住居跡（第614～617図、図版211・250）

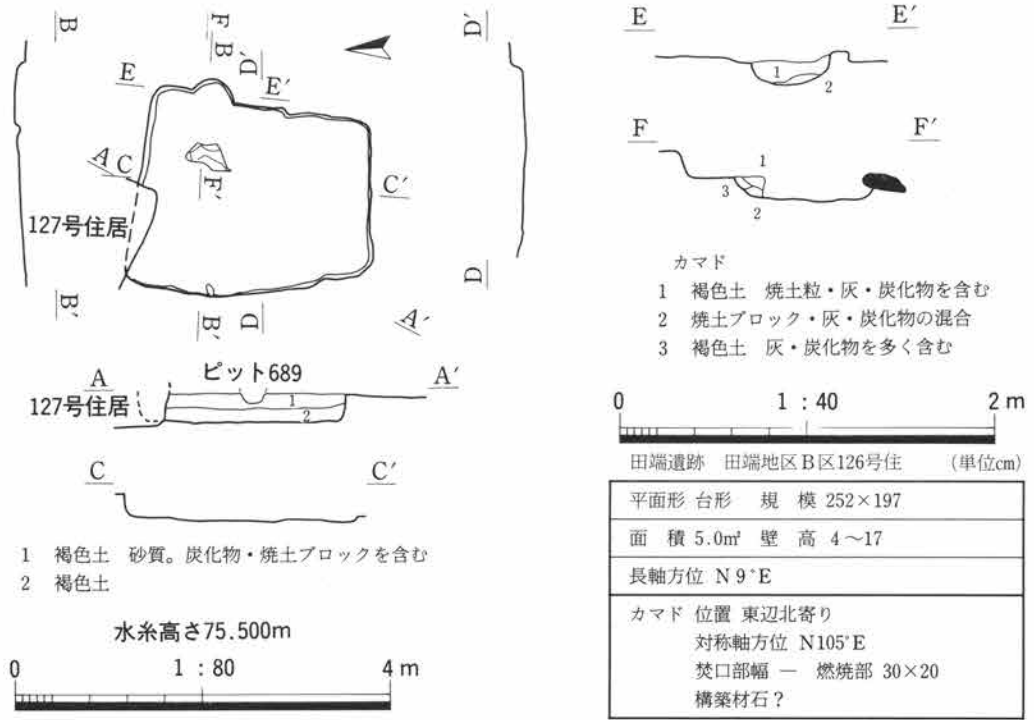
M-Nライン・71km300m付近で検出した。確認面は第4層である。126・134・135・147号住居と重複している。本住居はこれらのうちで最も新しい。覆土は自然に堆積している。壁は北半で20～30cm程あり、斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸があるがほぼ平坦で、南東隅に向かって低くなる。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝はカマド左側～北西隅にかけて検出し、西辺はピット列状に断続的に続く。南辺では検出できなかった。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が壁よりも突出し、煙道に向かって狭くなる。煙道の天井部が長さ約40cm程遺存していた。煙り出しは径15～20cmのピット状を呈する。カマド右側の壁外に当たる位置で20×30cm・厚さ5cmほどの石が立ったまま出土した。燃焼部中央は径20～30cm・深さ5cmほどに掘り込まれていた。左袖部では径15cm前後の小さなピットを検出しており、構築材の石を据えたものと考えられる。カマド前の床面は周囲に比べて2～3cm低くなっていた。この浅いくぼみは、カマド前の深さ25cm前後の土坑につながっている。土坑には灰・炭化物が多量に入っていた。貯蔵穴は検出していない。



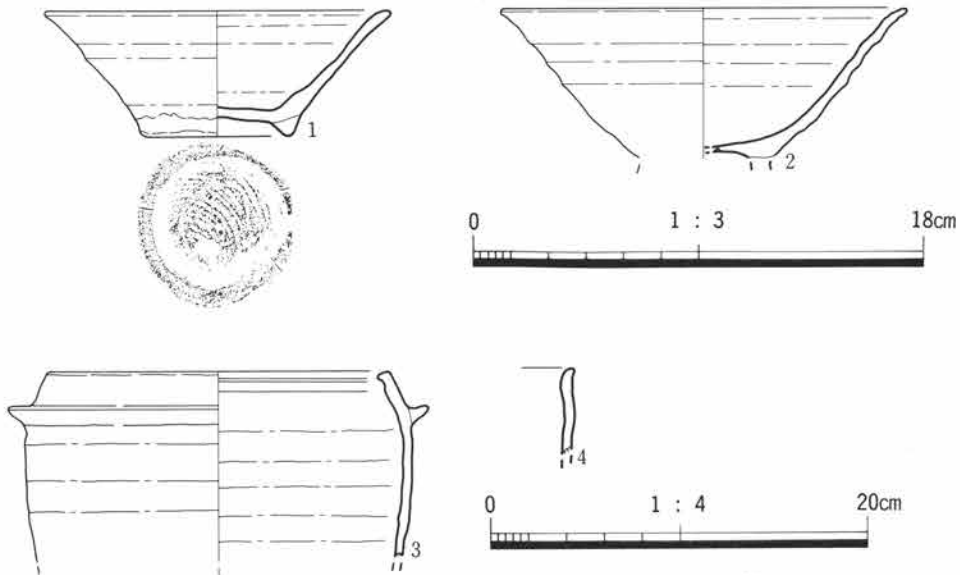
第611図 田端地区B区126号住居跡

遺物はカマド内と北西隅から出土している。第617図1～4はカマド内から、5は北西隅の床面から出土し、このほか図示していないが羽釜または甕が2個体分カマド内から出土している。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第612図 田端地区B区126号住居跡



第613図 田端地区B区126号住居跡出土遺物



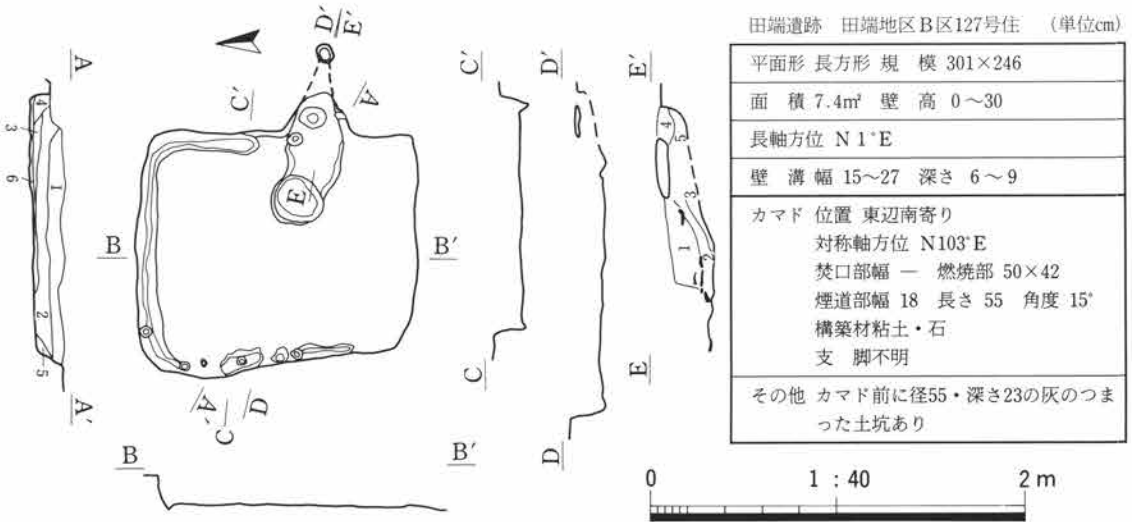
第614図 田端地区B区127号住居跡（1）



第615図 田端地区B区127号住居跡（2）

田端B区第128号住居跡

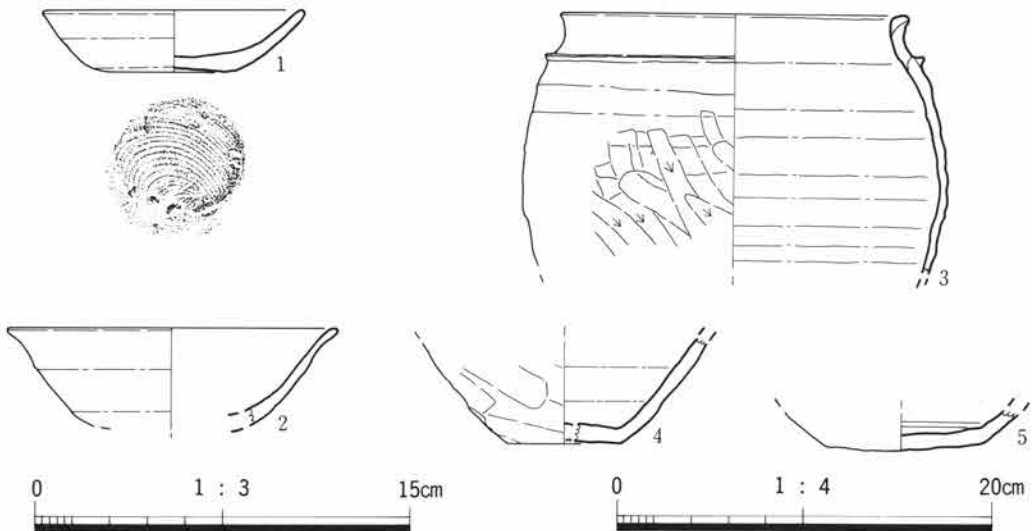
Mライン・71km295m付近で64・137・149号住居にまたがる台形のプランを検出した。東辺の南寄りがやや突出し、カマドの痕跡かと考えて調査時に128号住居の番号を与えた。しかし、焼土の検出もできず、プランもはっきりしないことから、欠番とする。



- |        |                 |        |        |                     |
|--------|-----------------|--------|--------|---------------------|
| 1 褐色土  | 黄褐色土ブロック・小石を含む  | カマド    | 1 褐色土  | 黄褐色土ブロック・小石・焼土粒を含む  |
| 2 灰褐色土 | 黄褐色土ブロック・炭化物を含む | 2 焼土   | 2 焼土   | ブロック・炭化物・褐色土ブロックの混合 |
| 3 褐色土  | 黄褐色土ブロック・炭化物を含む | 3 褐色土  | 3 褐色土  | 黄褐色土ブロック・炭化物を含む     |
| 4 褐色土  |                 | 4 褐色土  | 4 褐色土  | 黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む  |
| 5 褐色土  | 砂質。黄褐色土ブロックを含む  | 5 灰褐色土 | 5 灰褐色土 | 灰・炭化物・焼土粒を多く含む      |
| 6 褐色土  | 砂質。下部は灰・炭化物の層   |        |        |                     |

0 1 : 80 4m 水糸高さ75.500m

第616図 田端地区B区127号住居跡



第617図 田端地区B区127号住居跡出土遺物

田端B区第129号住居跡（第618図、図版212）

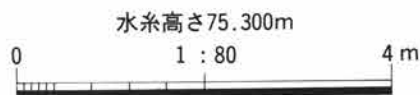
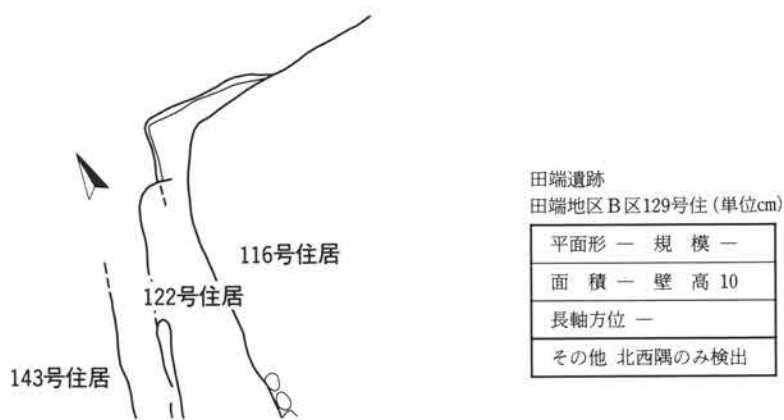
P-Qライン・71km301m付近で検出した。116・122・143号住居と重複している。122・143号との前後関係は不明だが、116号との関係は129→116号の順に新しい。本住居はその大半を重複住居によって破壊されており、北西隅を検出したにとどまる。覆土は一層のみで、灰褐色土に黄褐色土ブロックを含んでいる。壁は10cmほどの高さが遺存していた。その他の住居内部の施設は検出していない。

遺物は土師器・須恵器の小片のみで、図示できるものはない。

時期は不明である。

田端B区第130号住居跡（第619～623図、図版212・251・252）

Oライン・71km310m付近で検出した。125・140号住居と重複している。これらは140→130→125号の順に新しい。130号と140号との前後関係は、両住居の重複部に125号のカマドが位置し、新しい時期の土坑も重なっていたためプラン確認時につかむことができなかった。最新の125号住居の調査が終了した時点で、西端の調査区壁を精査したところ、本住居の北辺の立ち上がりを確認することができた。130号と140号の床面はほぼ同じ高さであるが、両者の重複するところでは本住居の方がわずかに高く（第621図土層断面参照）、140号の南辺壁溝直上に本住居の床面が位置している。本住居はB区発掘区の北西端に位置しているため、西辺を検出できなかった。北西隅は前記の事情により、推定である。覆土は自然に堆積している。壁は他の住居に比較して深く、30cm以上あり、斜めに立ち上がる。床面



第618図 田端地区B区129号住居跡

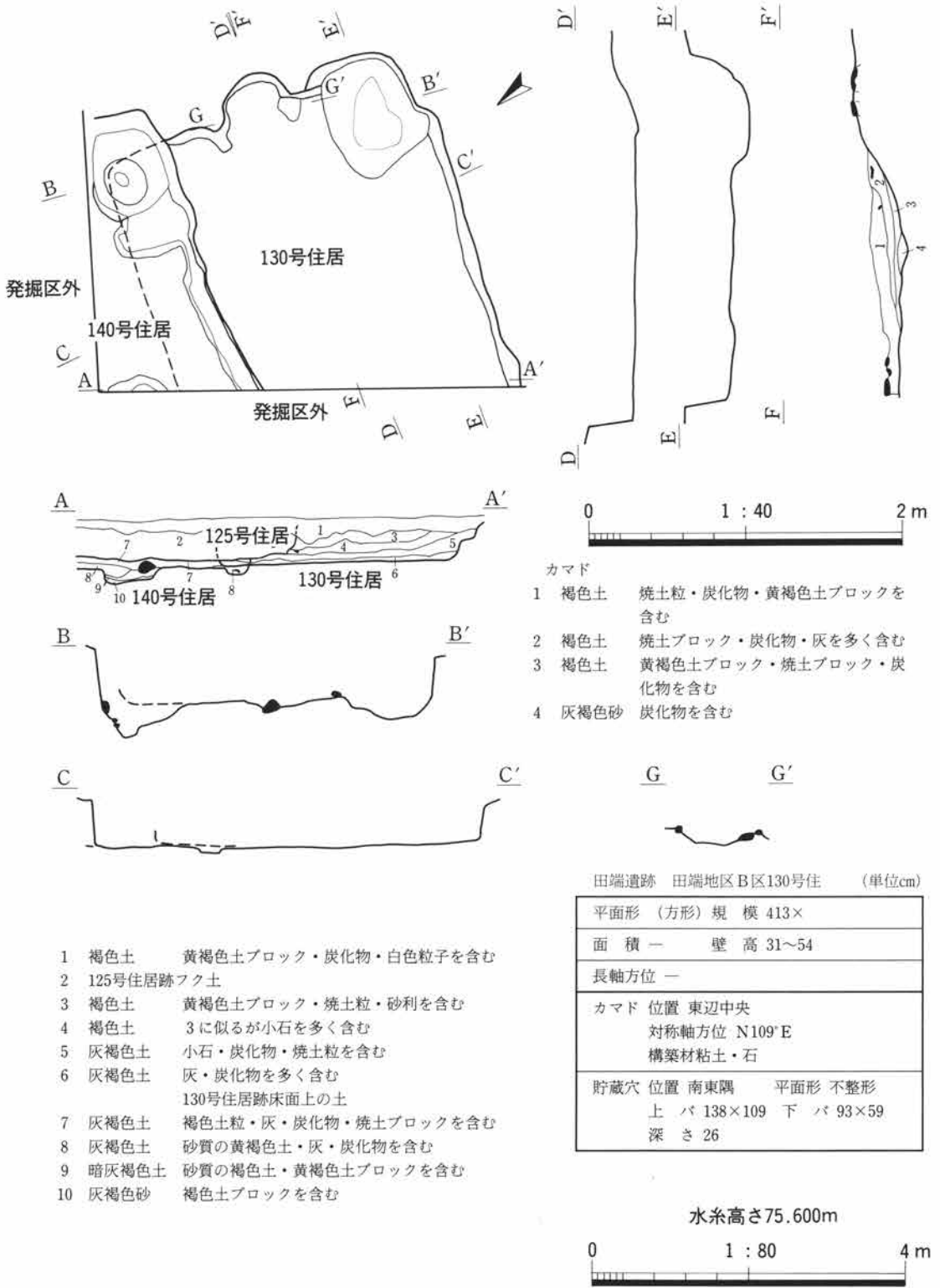




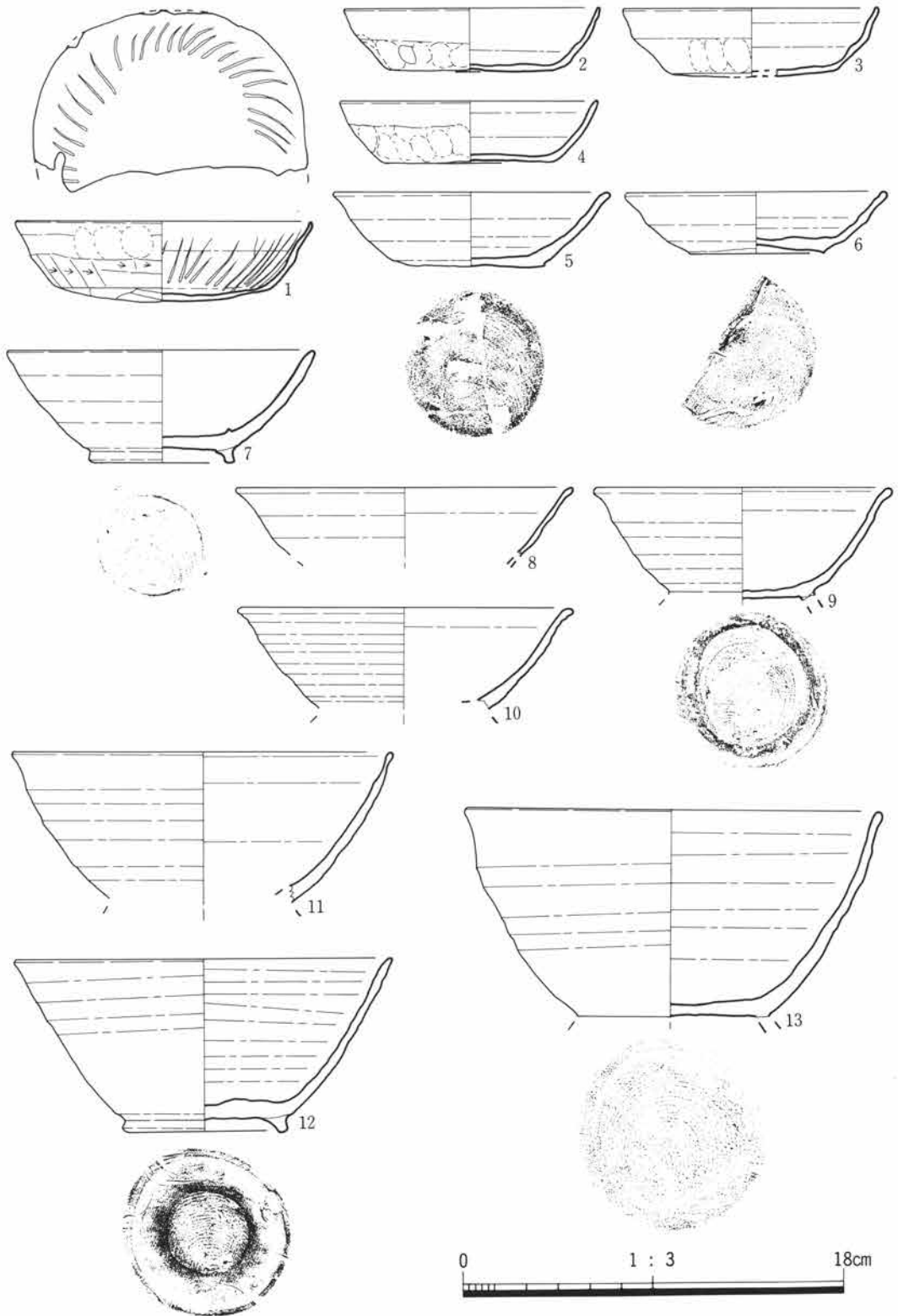
第619図 田端地区B区130号住居跡（1）



第620図 田端地区B区130号住居跡（2）



第621図 田端地区B区130号住居跡



第622図 田端地区B区130号住居跡出土遺物(1)

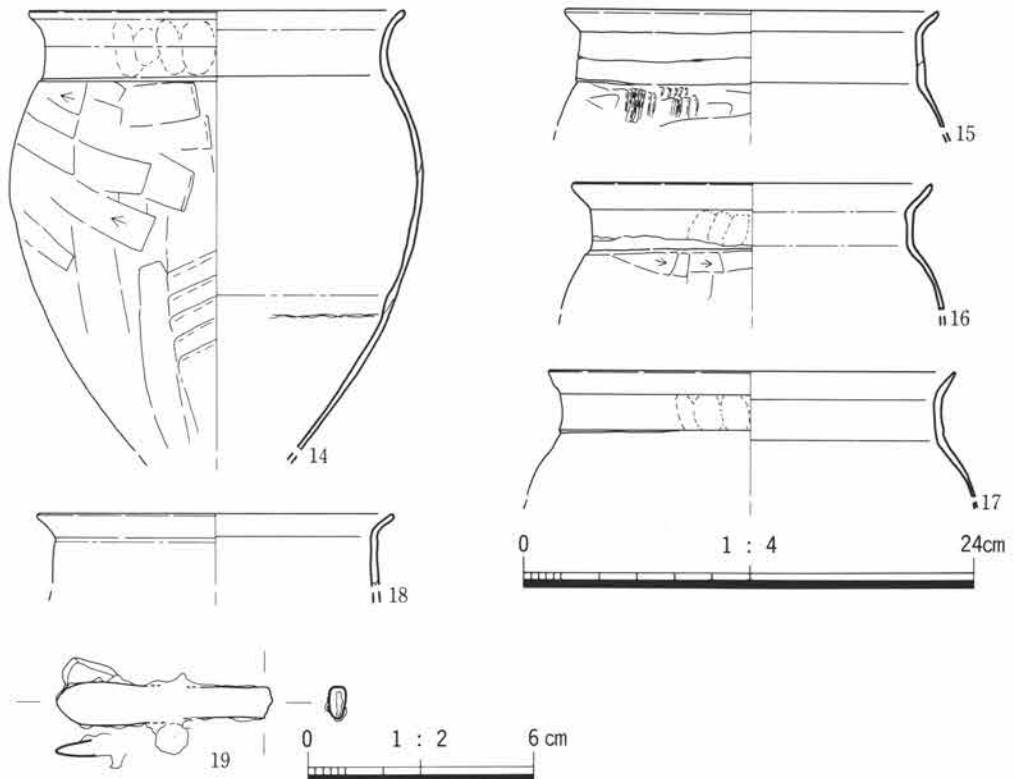
は下層に小石混じりの層があるため認定に手間どったが、床面を形成する土が粘質であることから、ようやく確認した。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺中央に検出した。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプで、煙道は確認できなかった。左袖の位置で、四角形に加工された凝灰岩が出土し、右袖の位置からも15~20cm大の石が出土した。貯蔵穴は南東隅で検出した。100cm前後の比較的大きめの掘り込みで、中から土器が出土している。

遺物はカマド内、貯蔵穴内から出土し、貯蔵穴内出土の土器は多い。また、カマド前の床面近くや覆土から15~30cm大の石が10個以上出土している。第622・623図1~3・5~10・12~14は貯蔵穴内から、4・11は南辺の西端から、15は貯蔵穴西側から、16はカマド内と貯蔵穴近くの破片が接合し、17は貯蔵穴の北西肩部の床直上から、18はカマド内から、19の鉄鏝?は中央南寄りの床面からそれぞれ出土した。

時期は9世紀中葉と考えられる。

田端B区第131号住居跡（第625図）

O-Pライン・71km308m付近で検出した。確認面は第4層である。113号住居、240号土坑と重複している。本住居は両者に切られている。南西隅を確認したのみで、東側は111・113号住居によって破壊され、何の痕跡も検出できなかった。北部は調査区外である。覆土は自然に堆積している。壁は40cm



第623図 田端地区B区130号住居跡出土遺物（2）

前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は遺存部分では平坦である。支柱穴・カマド・貯蔵穴は検出していない。壁溝は遺存壁すべての直下に掘られている。

遺物は土器片が3点覆土から出土したのみで、図示できるものはない。

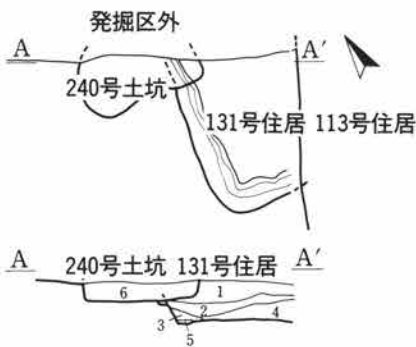
時期は不明である。

田端B区第132号住居跡 (第624・626～628図、図版213・252・253)

Mライン・71km303m付近で検出した。確認面は第4層である。144・148・150・153・154号住居と重複している。本住居はこれらのうち最も新しい。西辺中央部を土坑によって切られているが、長方形



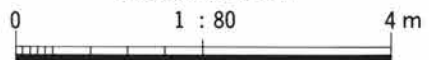
第624図 田端地区B区132号住居跡



- |   |        |                 |      |             |
|---|--------|-----------------|------|-------------|
| 1 | 褐色土    | 小石・白色粒子を含む      | 田端遺跡 | 田端地区B区131号住 |
| 2 | 暗褐色土   | 黄褐色土ブロックを含む     |      | (単位:cm)     |
| 3 | 暗褐色土   |                 |      |             |
| 4 | 黒褐色土   | 黄褐色土ブロック・炭化物を含む |      |             |
| 5 | 暗褐色土   | 黄褐色土ブロック・炭化物を含む |      |             |
| 6 | 240号土坑 | フク土             |      |             |

平面形	—規	—模	—
面積	—壁	—高	35~42
長軸方位	—		
壁溝幅	10~13	深さ	1~3

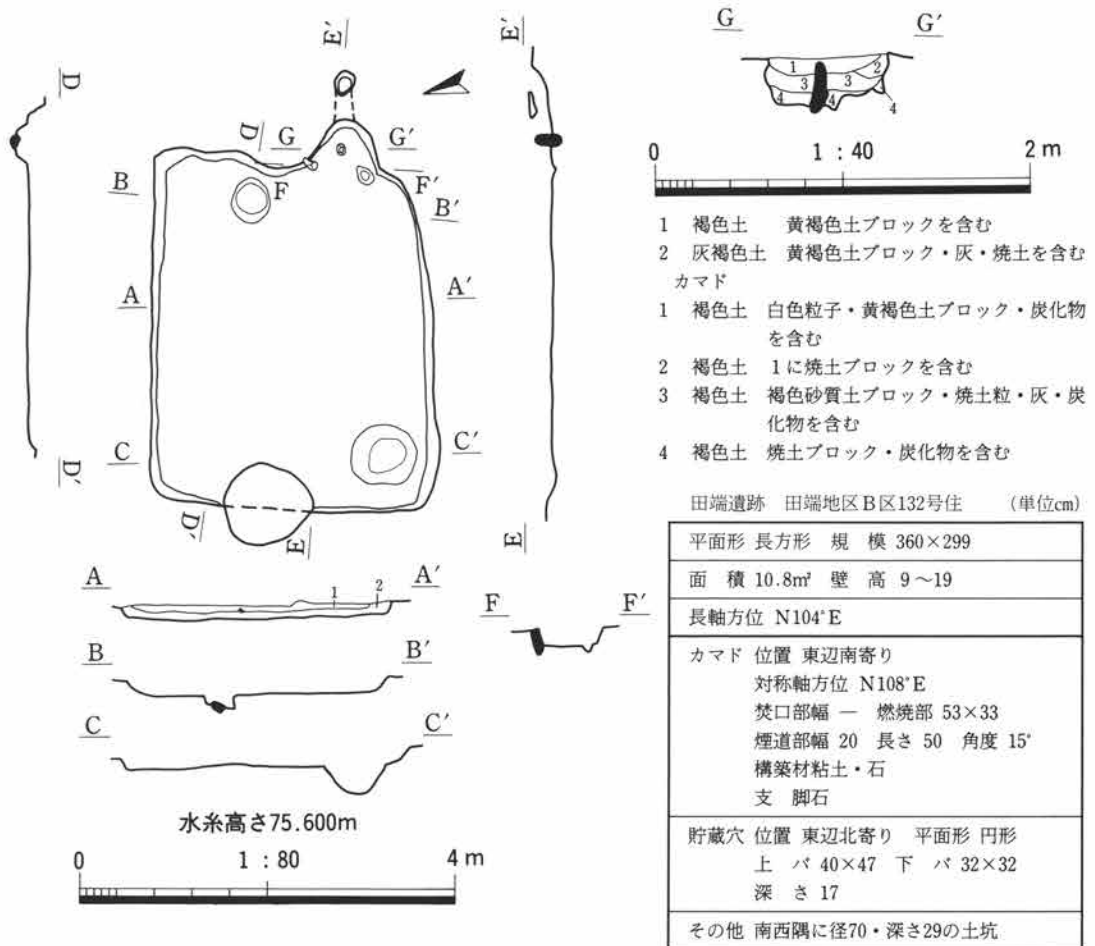
水糸高さ75.600m



第625図 田端地区B区131号住居跡

のプランをほぼ検出した。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、いずれの辺も20cm未満である。床面は西側がやや低く、カマド前も5cmほどくぼんでいる。主柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、奥壁は焼けて堅く締っていた。煙道は天井部が遺存しており、約50cmを検出した。燃焼部中央には長さ26cm・径8cm程の石が立てた状態で据えられていた。カマド支脚としたものであろう。左袖の位置では長さ30cm・径10cmの石がやはり立てたまま出土した。袖部の構築材と考えられる。右袖の位置からは床面に径15~20cm・深さ5cmの小さなピットを検出した。ここにも石が据えられていたと考えられる。貯蔵穴はカマド左脇の東辺壁際で検出した。円形を呈し、底部中央から石が出土した。南東隅には径60~70cm・深さ30cmの比較的大きめのピットがある。遺物は出土していないが、こちらも貯蔵穴であった可能性がある。

遺物は主としてカマド周辺から出土している。第627図1は住居中央の床面から、2はカマド底面から、3はカマド左脇の床面から、4は中央床直上から、5はカマド前の床面から、6はカマド内の底面から、7は中央東寄りの床直上からそれぞれ出土した。1・2は同一個体の可能性が高い。なお、



第626図 田端地区B区132号住居跡

覆土から刀子状の鉄製品が出土している。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

**田端B区第133号住居跡**

(第629図、図版214)

M-Nライン・71km303m付近で検出した。確認面は第4層である。109・115・120号住居、243号土坑と重複している。133→109号住居の順に新しく、115・120号住居、243号土坑との前後関係は不明である。109号住居によって北側の大半を失っており、南東隅・南西隅および南辺を確認したのみである。覆土は一層を確認し、暗褐色土に黄褐色土ブロックを含んだ土が堆積していた。壁は浅く、10cm未満である。カマドその他の内部施設は検出していない。南東隅で径40～50cm・深さ15cmのピット1を検出した。一部は二段に掘り込まれている。

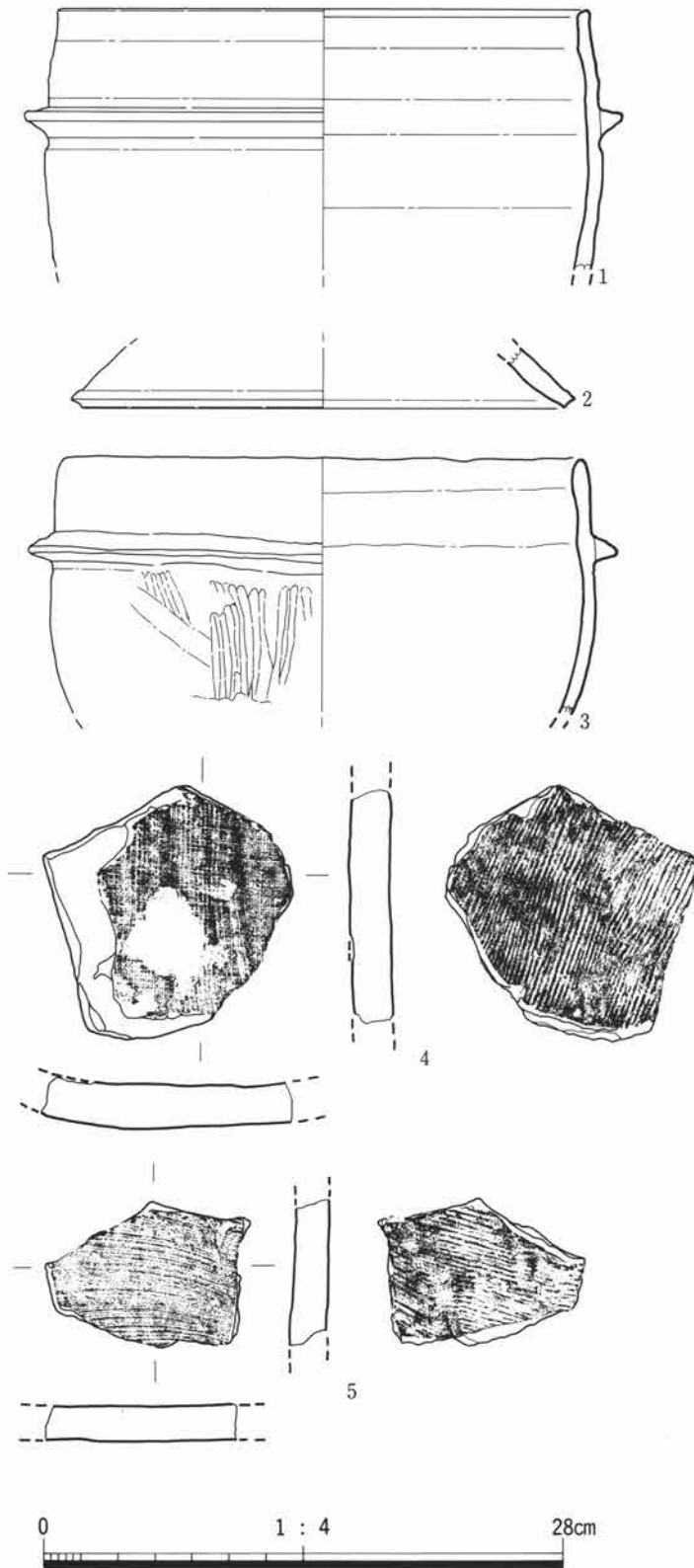
遺物の出土はなく、時期は不明である。

**田端B区第134号住居跡**

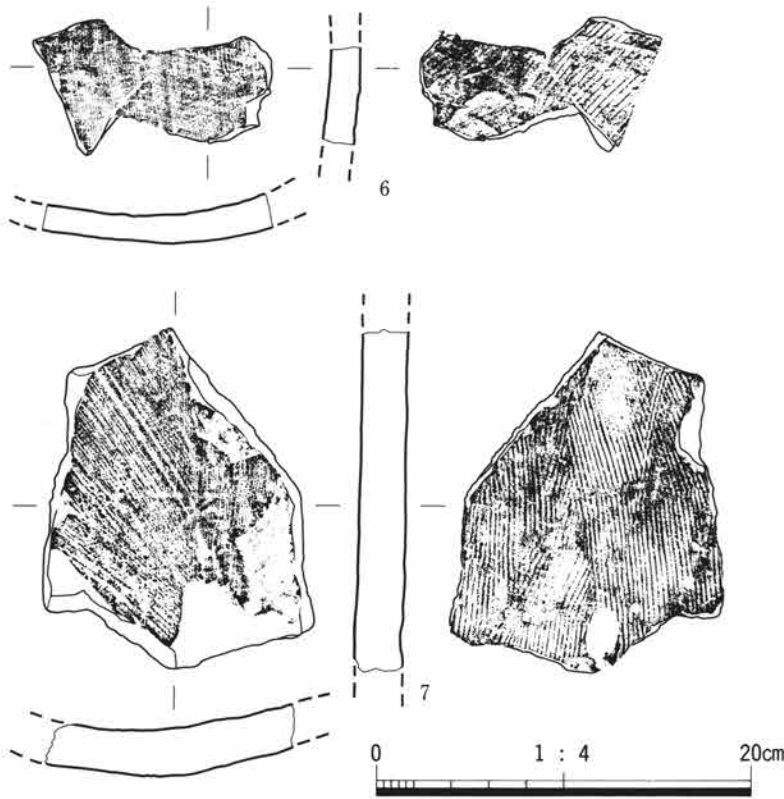
(第630～632図、

図版214・253)

M-Nライン・71km297m付近で検出した。本住居は126号住居の床下で検出した。カマドの焼土は126号住居の東側で確認していたが、126号の煙道は東側に

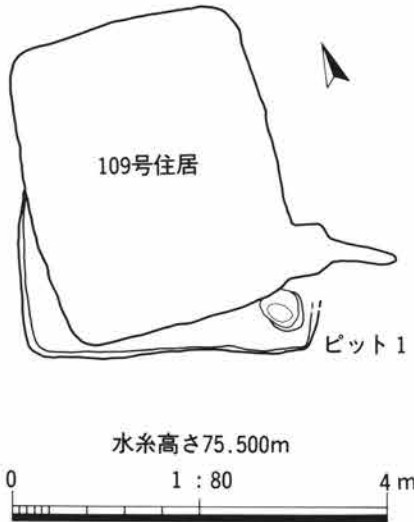


第627図 田端地区B区132号住居跡出土遺物(1)



第628図 田端地区B区132号住居跡出土遺物(2)

延びないため、本住居がさらに下層にあることを予想できた。本住居は126・147・127・135・137・149号住居と重複している。135号は最も古く、127号は最も新しい。その他の住居は149→137→147→134→126号の順に新しい。上層に126号住居があったため、126号住居の床面を形成する土を取り除くと、本住居の床面上約10cmとなる。壁は浅く、斜めに立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド前は浅くくぼんでいる。主柱穴と考えられるピット、



田端遺跡 田端地区B区133号住 (単位cm)

平面形	— 規模 312×
面積	— 壁高 5~10
長軸方位	—
その他	ピット1: 径47×40・深さ15

第629図 田端地区B区133号住居跡

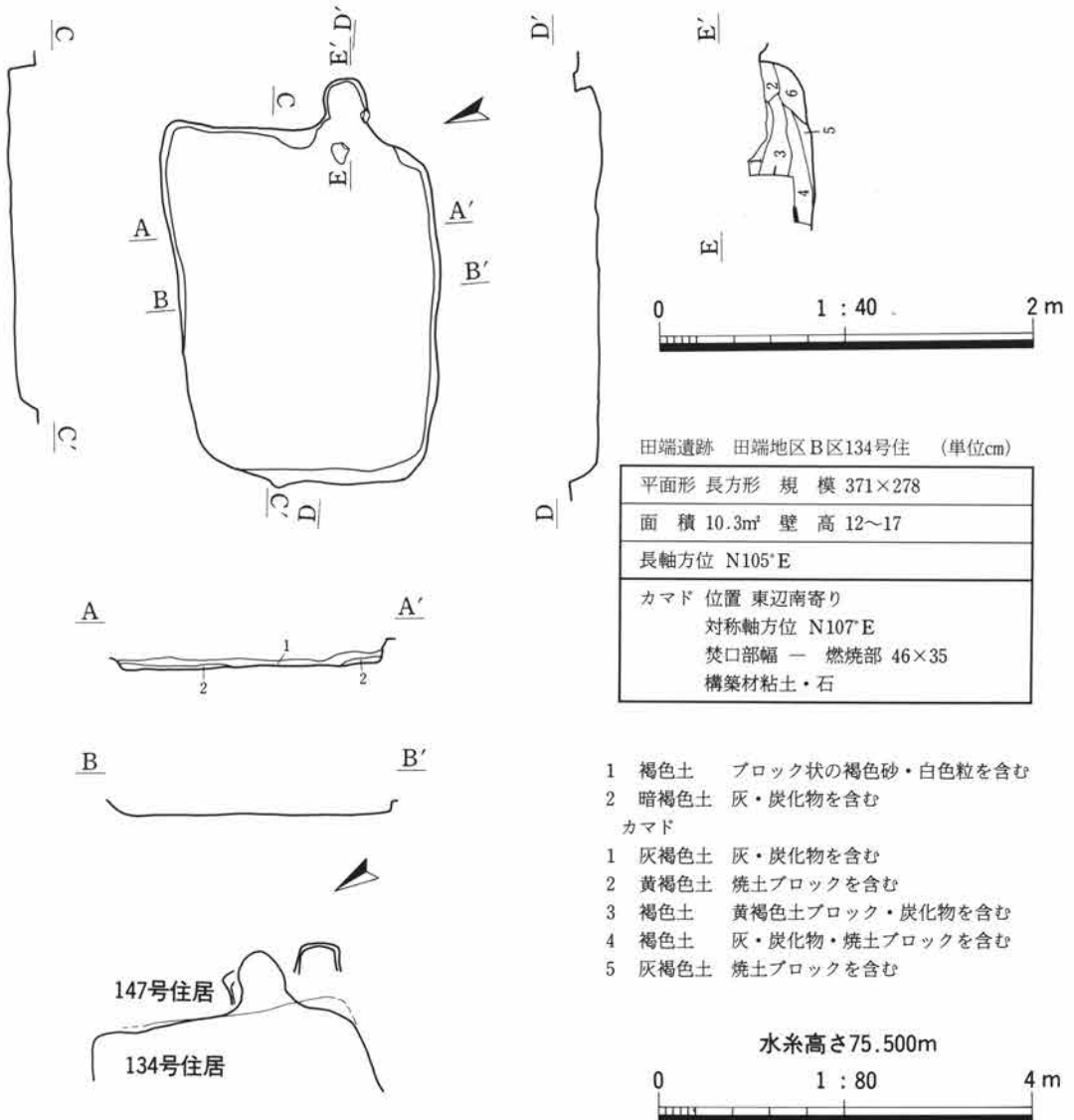


壁溝、貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部は東辺から突出し、平面は略円形を呈する。煙道は検出できなかった。

以上の外、本住居カマドの南側と北側に焼土の分布している所を確認した。南側は本住居の東辺によって切られており、本住居の建て替えまたは下層の、確認できなかった住居のカマドの一部と考えられる。北側の焼土は掘り下げてみると煙道となり、本住居の下層で確認した147号住居のものと考えられる。

遺物はカマド内とカマド前から集中して出土した。第632図1・4はカマド底面から、2はカマド左脇壁際の床面から、3はカマド右脇から、6はカマド前の床面直上からそれぞれ出土した。5は南東隅壁際の床面から出土しているが、上層の126号住居に属する可能性がある。

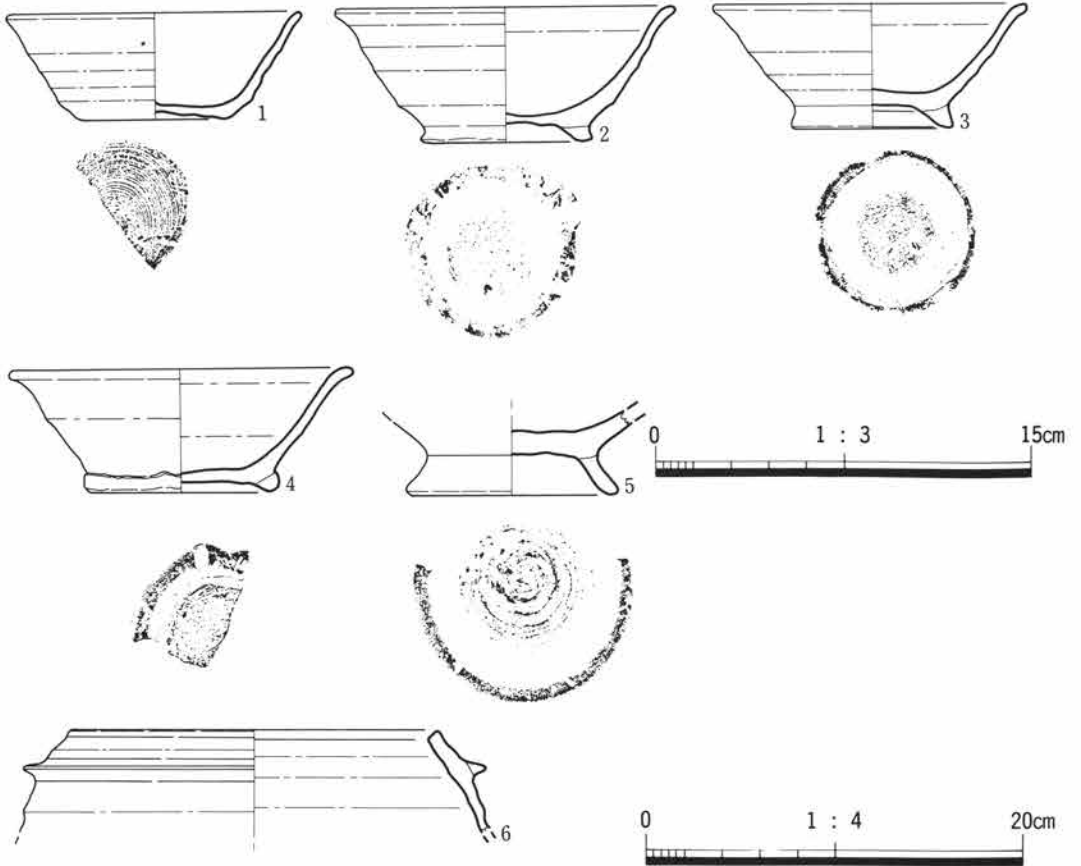
時期は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。



第630図 田端地区B区134号住居跡



第631図 田端地区B区134号住居跡



第632図 田端地区B区134号住居跡出土遺物

## 田端B区第135号住居跡（第633～635図、図版215・253・254）

Nライン・71km296m付近で検出した。確認面は第4層である。71・127・147号住居と重複している。137号住居は接しているが前後関係は確認できなかった。135→71・127・147号の順に新しい。235・241号土坑はいずれも本住居よりも新しい。覆土は自然に堆積している。比較的遺存状態が良く壁は40cm前後あり、斜めに立ち上がる。床面は平坦で、周辺に向かってやや低くなる。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝は南西隅からカマド前を除き約半周する。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部が東辺よりも突出し、奥壁に丸みを持っているタイプである。煙道は約100cm程延びて、煙り出しは浅いピット状を呈する。貯蔵穴は南東隅に検出した。すり鉢状の浅いものである。このほか、カマドの向かい側に深さ12cm・長軸115cmの掘り込みと、西辺中央寄りに径21～31cm・深さ13cm程のピットを検出している。

遺物は南側に集中し、カマド前～南西隅の土坑の間で多く出土した。第635図1はカマド前の床直上から、3・5はカマド前の床面から、4は南東隅の床直上から、8・9は中央南寄りの床面から、それぞれ出土した。2・6・7・10～12は覆土出土の参考品である。

時期は8世紀後半と考えられる。

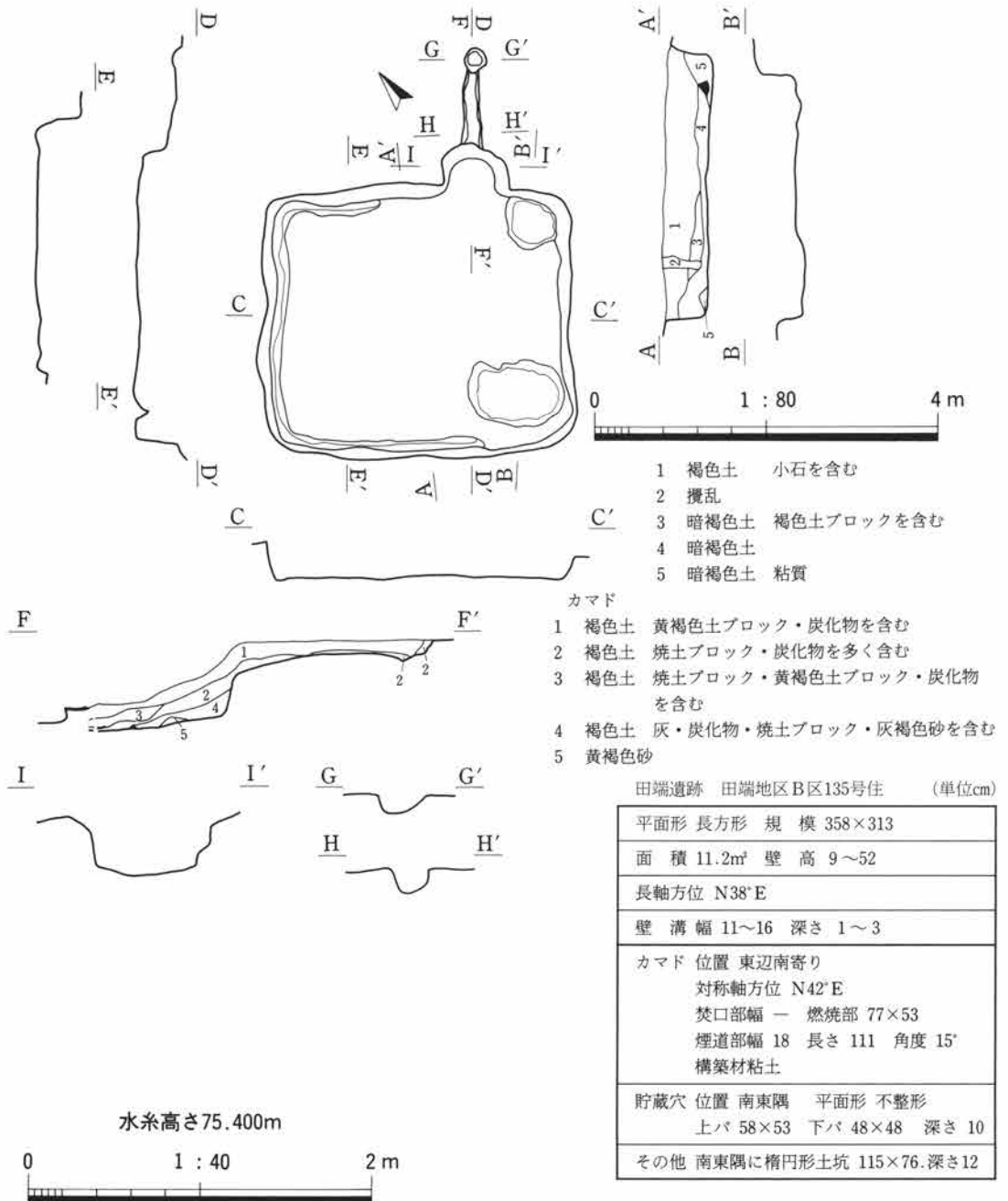


第633図 田端地区B区135号住居跡

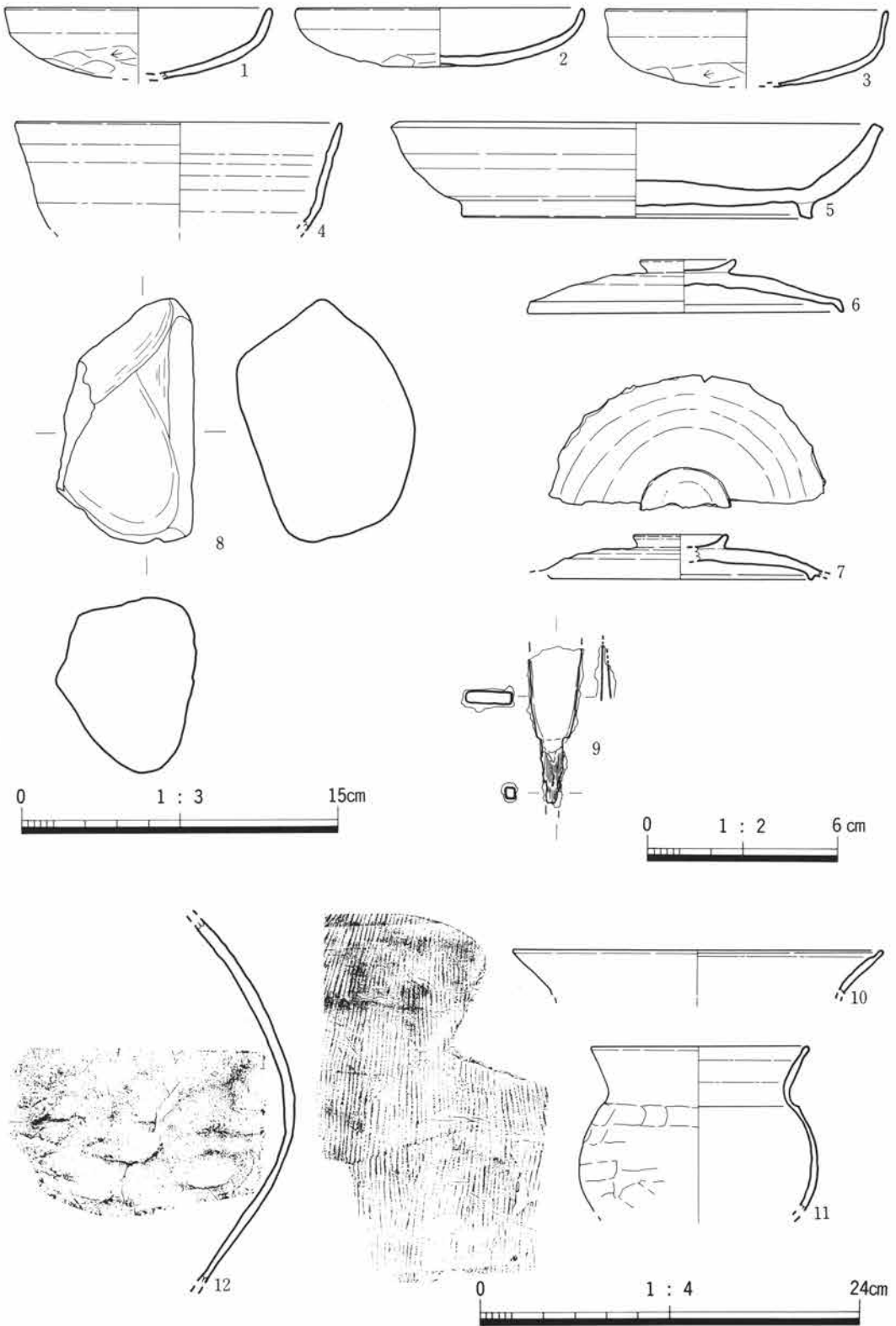
田端B区第136号住居跡

Mライン・71km300m付近で134号と118号との間に、南北にS字状のラインを検出した。これを調査時点で136号の番号を付けたが、これに対応するラインや焼土の分布が認められず、プランも認定できないことから、欠番とする。

なお、周辺の住居の上層に10世紀後半～11世紀ごろの住居が重複していた可能性がある。それは126号の覆土出土分、110・118・146号の覆土出土分の中に11世紀代とみられる土師器皿（径5～7cm前後）が出土していることによる。



第634図 田端地区B区135号住居跡



第635図 田端地区B区135号住居跡出土遺物

田端B区第137号住居跡（第636～639図、図版215・254）

M-Nライン・71km295m付近で検出した。確認面は第4層である。134・147・149号住居と重複している。これらは149→137→147→134号住居の順に新しい。135号住居とは接しているが、遺物からみると本住居の方が新しい。覆土は自然に堆積している。壁は北辺でやや高く、斜めに立ち上がる。床面は細かい凹凸があり、全体としては平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺やや南寄りに検出した。燃焼部が壁の外に突出するタイプである。燃焼部～煙道部にかけて石の剥片・須恵器甕の体部片が出土した。燃焼部奥は次第に上方に向かうが、煙道は検出できなかった。燃焼部右側の壁には須恵器甕の体部片が立てた状態で・外面を燃焼部側にして出土した。カマド右袖の南側からは、径15cm大・長さ30cm程の石が出土している。火を受けていることから、カマド構築材の一部と考えられる。

遺物はカマド内、カマド周辺～南西隅にかけて出土している。石はカマドの構築材であろう。第639図1はカマド底面から、2は右袖の構築材としてすえられていた破片、3は住居南西部床直上からまとまって出土した。

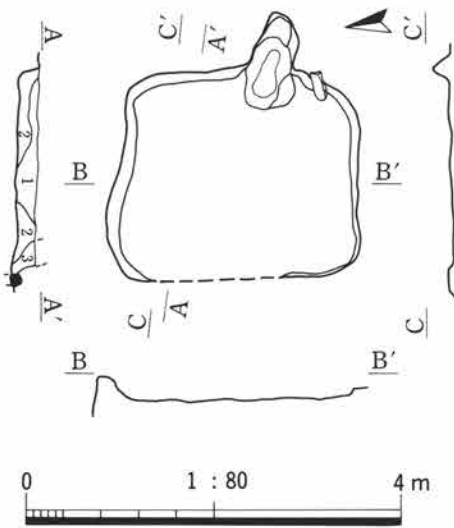
時期は9世紀後半と考えられる。



第636図 田端地区B区137号住居跡（1）

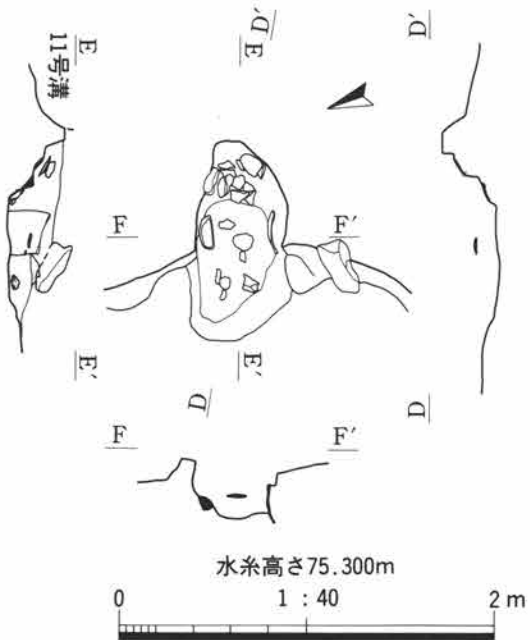


第637図 田端地区B区137号住居跡(2)



田端遺跡 田端地区B区137号住 (単位cm)

平面形 長方形 規模 227×258
面積 5.9㎡ 壁高 5～26
長軸方位 N10°E
カマド 位置 東辺南寄り 対称軸方位 N110°E 焚口部幅 — 燃焼部 38×30 構築材粘土・石・須恵器甕

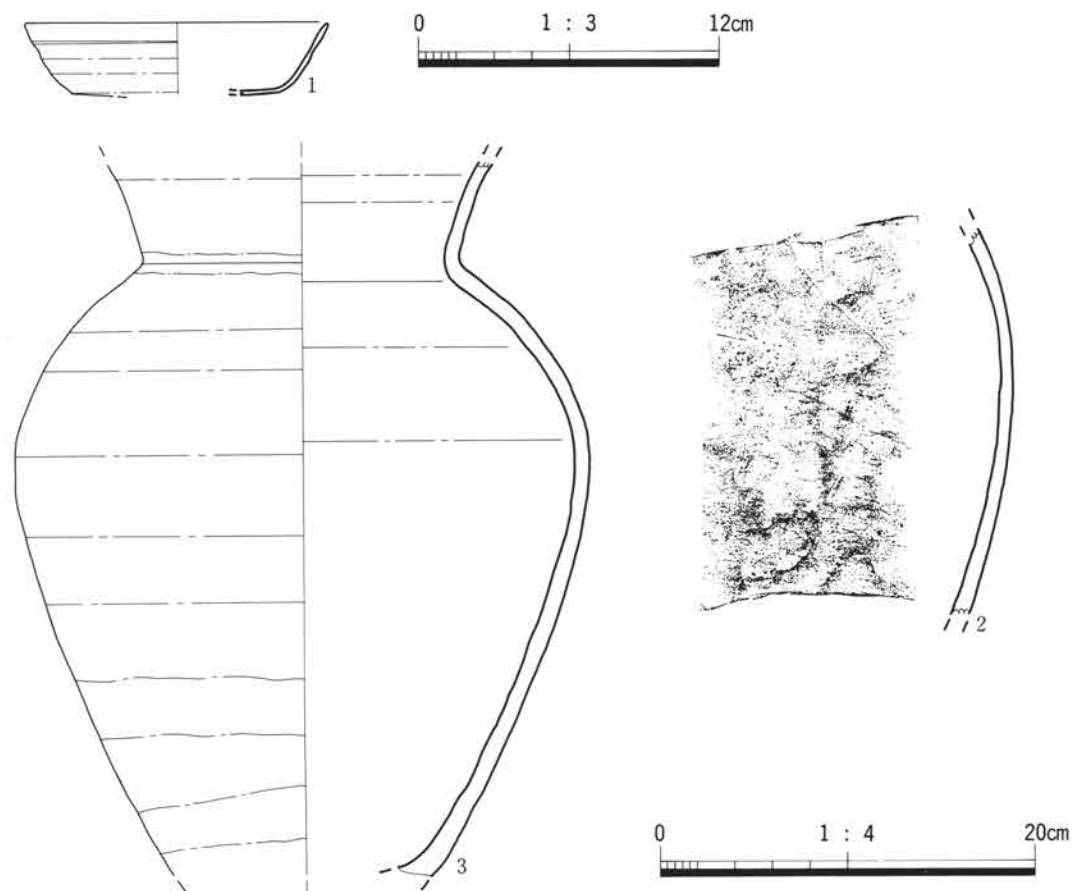


- 1 暗褐色土 褐色砂ブロック・白色小粒を含む
- 2 褐色砂 暗褐色土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 炭化物・焼土粒・灰を含む  
134号住居カマドのフク土

第638図 田端地区B区137号住居跡

田端B区第138号住居跡（第640・641・643図、図版216・254）

N-Oライン・71km301m付近で検出した。確認面は第4層である。112・115・121・139号住居と重複している。121号との前後関係は不明だが、その他の住居は139→138→115→112号の順に新しい。北半は112号住居によって殆ど破壊され、また121号との重複によってプランを確認できなかった。南辺もやや不整形であるが、南東隅と南西隅とを検出したので、東西の規模は約3mである。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は遺存部分が少なく、カマド前はやや低くなって踏み固められていた。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。北半を121号住居によって破壊されているが、燃焼部はほぼ遺存していた。燃焼部が壁外に突出するタイプである。また煙道天井部が約50cm遺存し、その先端は10cmほどのピットになっており、垂直に近く立ち上がっていた。右袖部には長さ20cmで偏平な石が立てた状態で出土し、左袖部からは長さ20cm・厚さ8cmの偏平な石が横に倒れた状態で出土した。貯蔵穴は南辺西寄りの壁際で検出した。カマド寄りの上端から長さ30cm程の石が出土している。このほかカマドの右脇の壁際には浅いピット2、カマド前の貯蔵穴とのあいだに径約60cmのやや深いピット1を検出した。

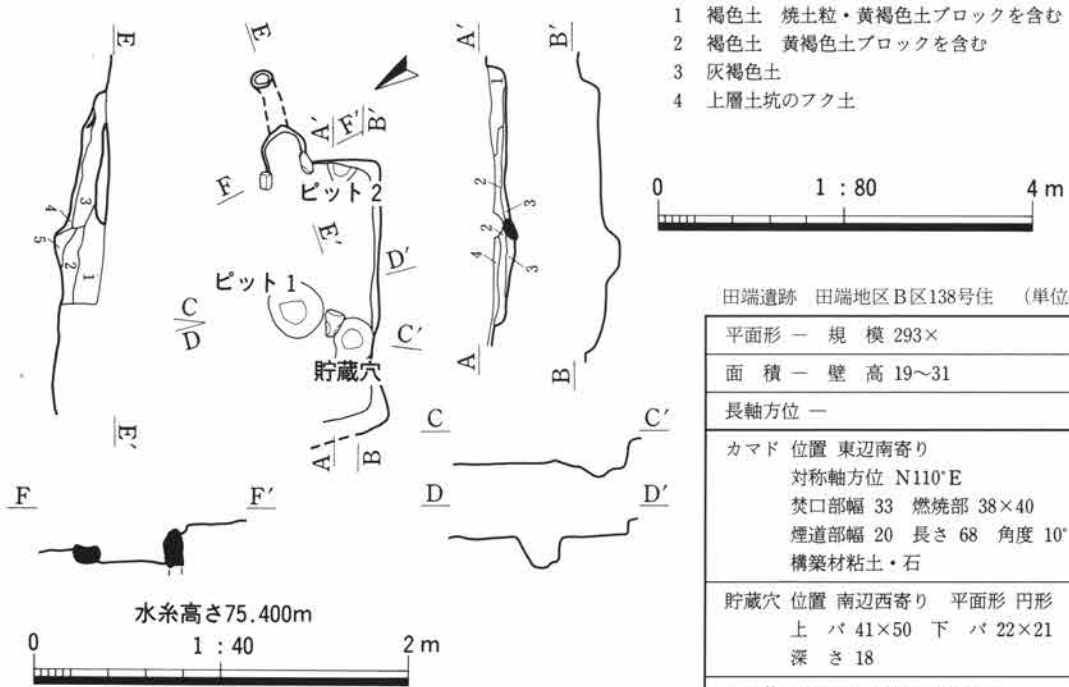


第639図 田端地区B区137号住居跡出土遺物





第640図 田端地区B区138号住居跡



田端遺跡 田端地区B区138号住 (単位cm)

平面形	— 規模 293×
面積	— 壁高 19~31
長軸方位	—
カマド	位置 東辺南寄り 対称軸方位 N110°E 焚口部幅 33 燃焼部 38×40 煙道部幅 20 長さ 68 角度 10° 構築材粘土・石
貯蔵穴	位置 南辺西寄り 平面形 円形 上バ 41×50 下バ 22×21 深さ 18
その他	ピット1 : 径58・深さ34 ピット2 : 径28・深さ6

カマド

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物を含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物を含む
- 3 灰褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒を含む
- 4 灰・炭化物
- 5 黄褐色土ブロック

第641図 田端地区B区138号住居跡

遺物は少なく、主としてカマド前から出土している。第643図2・3はカマド前の床面から、4はカマド内からそれぞれ出土した。1は覆土出土の参考品である。

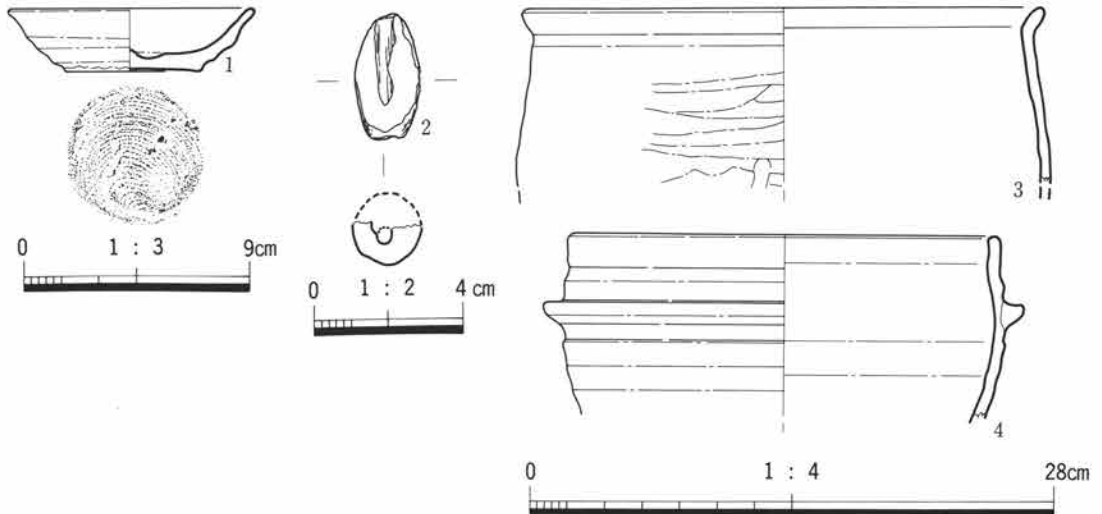
時期は10世紀後半から11世紀と考えられる。

田端B区第139号住居跡 (第642・644・645図、図版216・255)

N-Oライン・71 km298m付近で検出した。確認面は第4層である。112・115・121・138・145号住居、249号土坑と重複している。これらは145→139→138→115→112号の順に新しい。121号住居との関係は確認できなかった。249号土坑は本住居の下層から検出したもので、本住居よりも古い。西辺は112号



第642図 田端地区B区139号住居跡

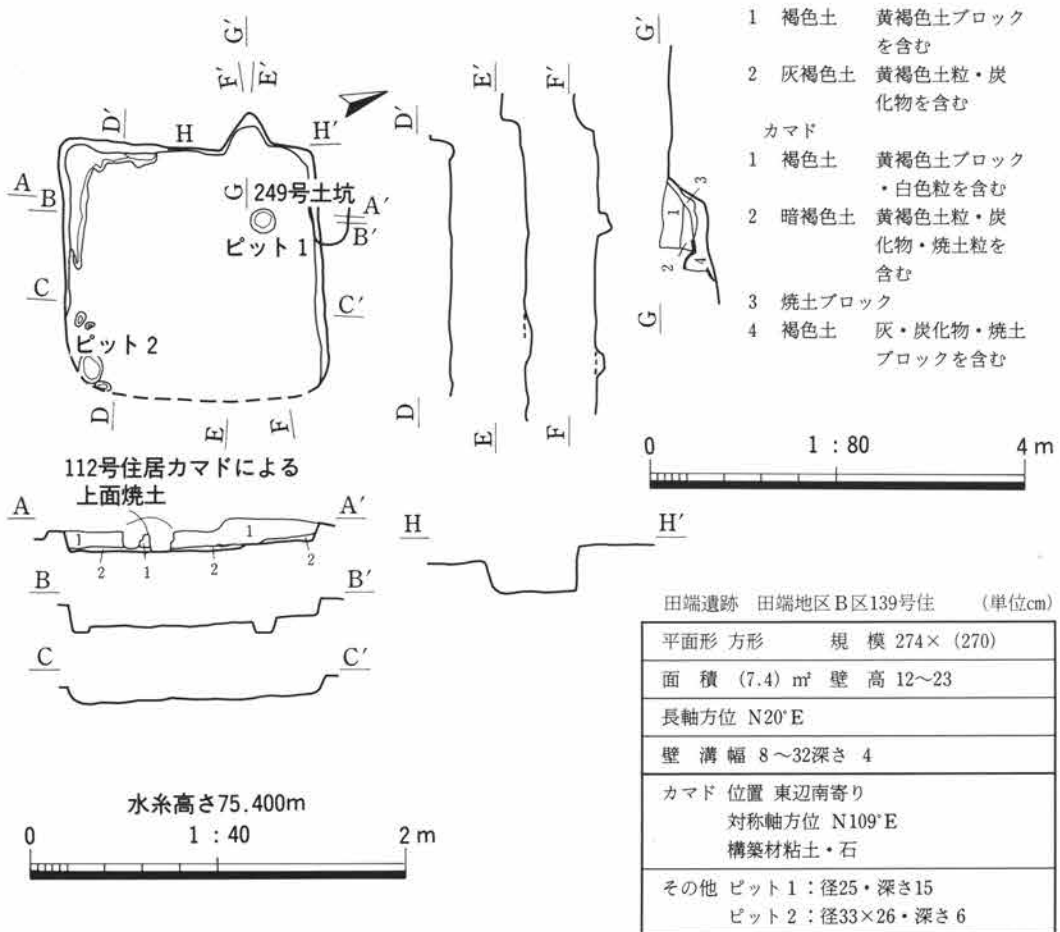


第643図 田端地区B区138号住居跡出土遺物

住居によって破壊されており、南西隅の一部を検出したこととピット2の位置から推定した。プランは南北方向にわずかに長い、方形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は70~80°で立ち上がり、深さ15cm前後が遺存していた。床面は東側が高く、カマド前がやや低い。支柱穴とみられるピット・貯蔵穴は検出していない。壁溝は北東隅の両側で検出した。北東隅は両辺に比べて幅が広がっている。カマドは東辺南寄りで検出した。燃焼部の半ばが壁外に突出するタイプで、煙道は検出してない。燃焼部から煙道にいたる部分が三角形を呈する。

遺物はカマド周辺からの出土が多い。第645図1・4・5はカマド前の床面から、2は南辺東寄り壁際の床直上から、3はカマド内から、6はカマド底面から、7はカマド前の床直上からそれぞれ出土した。

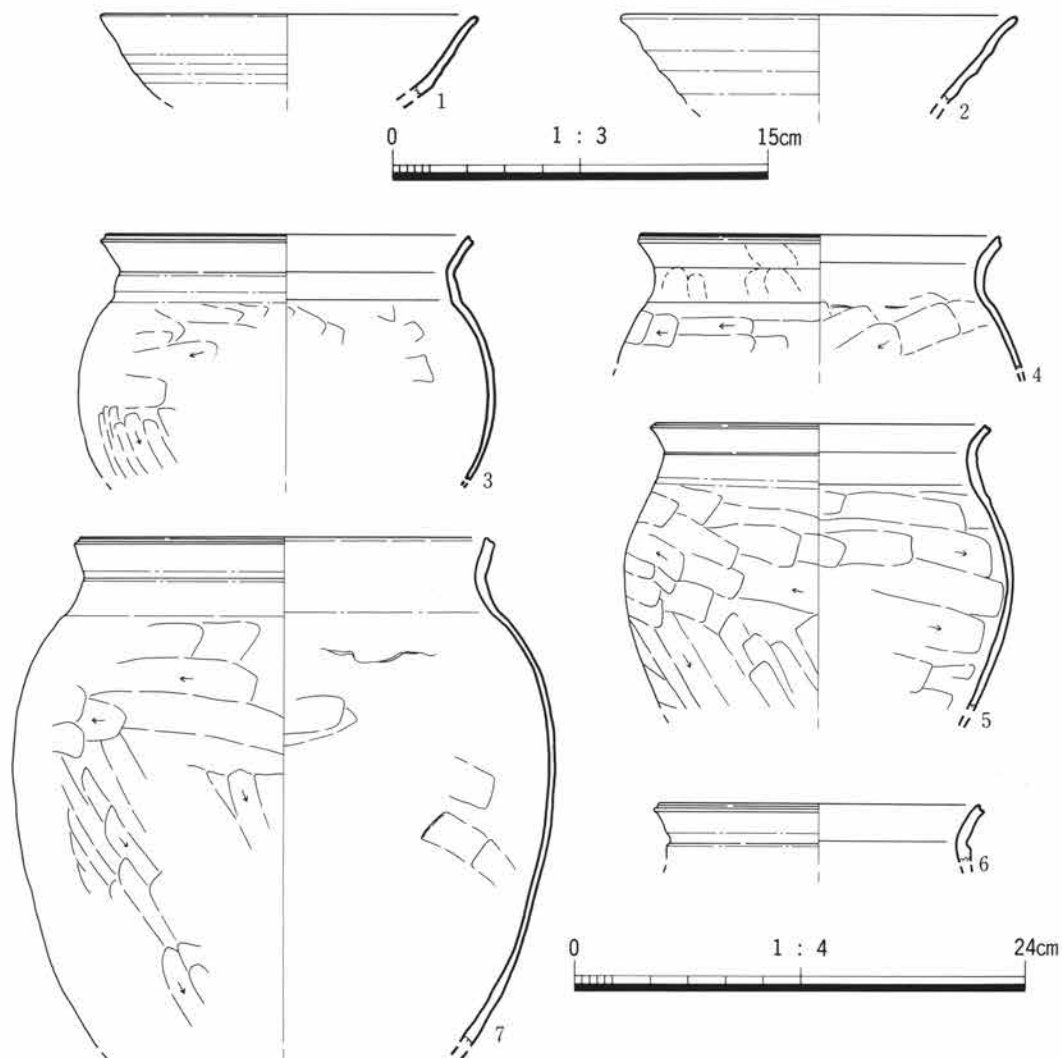
時期は9世紀後半と考えられる。



第644図 田端地区B区139号住居跡

田端B区第140号住居跡（第646～648図、図版217・255）

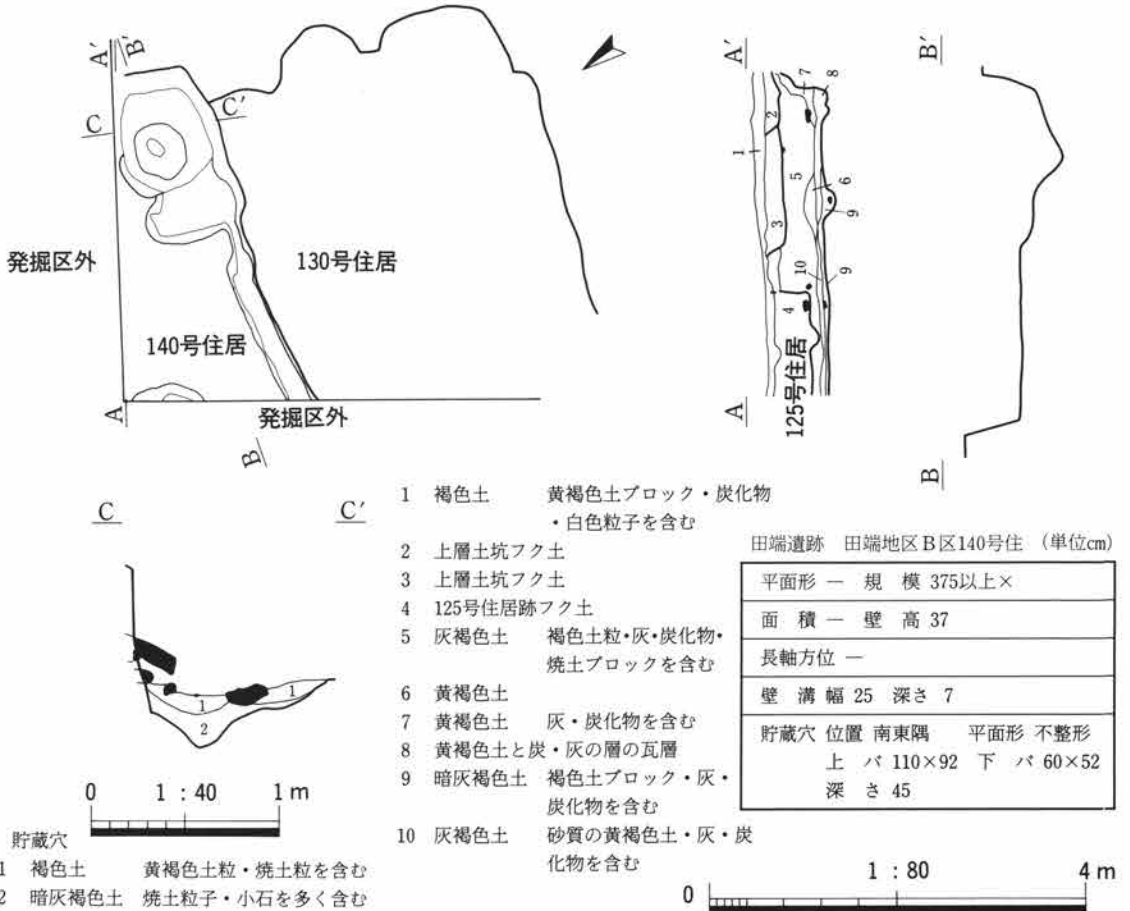
O-Pライン・71km310m付近で検出した。125・130号住居と重複している。これらは140→130→125号の順に新しい。3軒の中で最も古く、130号住居の床下から南辺壁溝を検出した。他の2軒と同じく、B区北西端に位置しているため、全体のプランを知ることはできない。130号に重複して南東隅を検出したのみである。覆土は自然に堆積している。壁は40cm近くあり、北端の発掘区壁の土層ではほぼ垂直に立ち上がる。床面は130号と同じく、小石を含んだ層の直上に粘質土を貼って形成している。支柱穴とみられるピット・カマドは検出していない。壁溝は南辺の西半分で幅25cm前後のやや広めの溝を検出した。この溝は南東隅で検出した貯蔵穴につながってしまう。貯蔵穴は深く、すり鉢状に掘り込まれていた。この西側には深さ10cm・東西60cm・南北100cmの楕円形を呈する浅い掘り込みが接し、そのまま壁溝につながる。発掘区西端の壁直下にピットの一部を検出したが、全体の形状は不明である。



第645図 田端地区B区139号住居跡出土遺物



第646図 田端地区B区140号住居跡



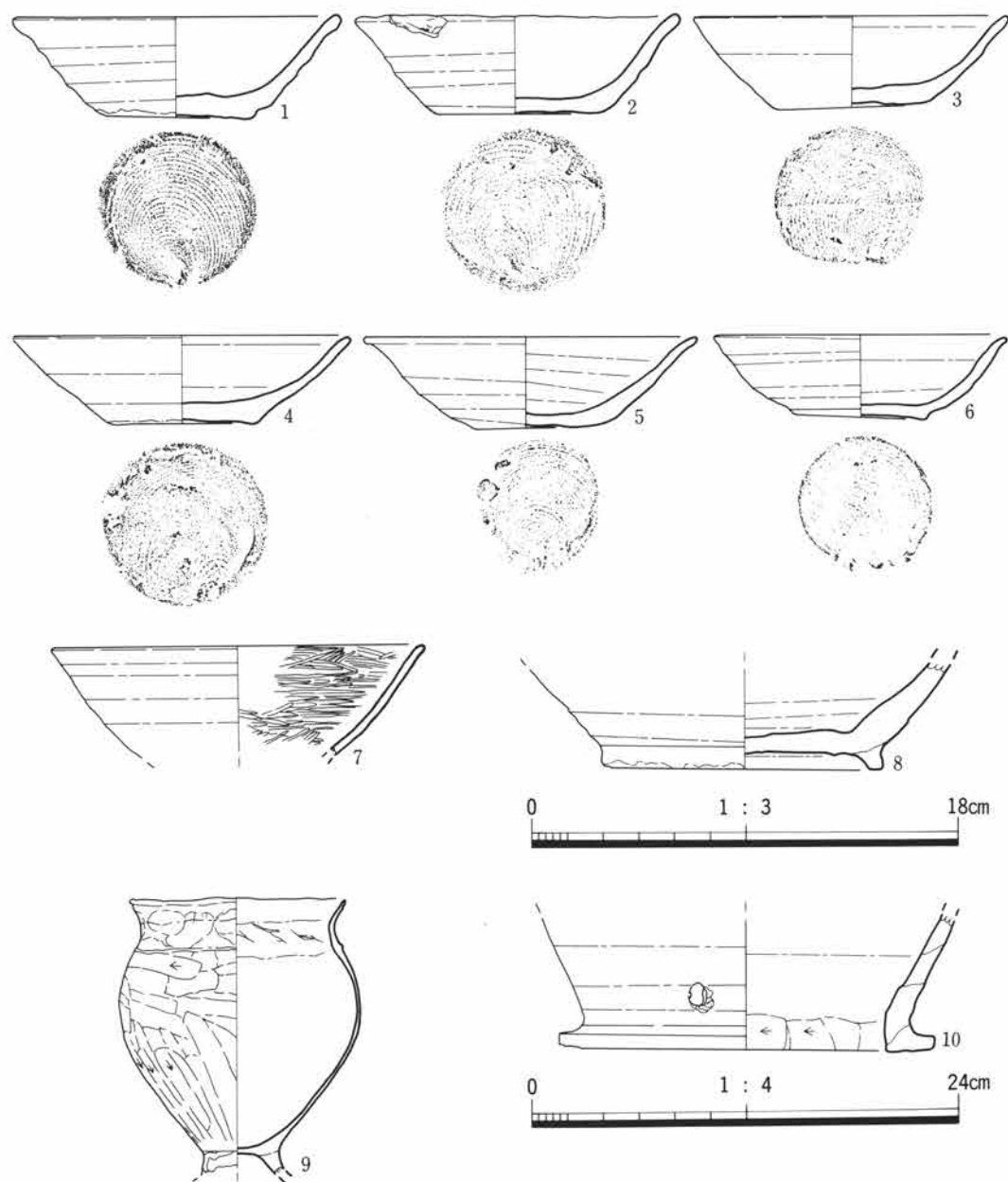
第647図 田端地区B区140号住居跡

遺物は貯蔵穴内から完形に近い土器や、直方体に加工され・火熱を受けた痕跡のある凝灰岩が出土している。第648図1～7・9は貯蔵穴内から、8は貯蔵穴壁際からそれぞれ出土した。10の甌は覆土出土の参考品である。

時期は9世紀後半と考えられる。

### 田端B区第141号住居跡

本住居は壁溝のみである。この壁溝は143号住居の一部と考えられるので、141号は欠番とする。



第648図 田端地区B区140号住居跡出土遺物

田端B区第142号住居跡

本住居は壁溝のみである。この壁溝は122号住居の一部と考えられるので、142号は欠番とする。

田端B区第143号住居跡 (第649・650図、図版217・218・256)

Pライン・71,300m付近で検出した。114・116・122・129号住居と重複している。114・129号との前後関係は不明だが、その他の住居とは143→122→116号の順に新しい。プランの大半を122号によって破壊され、南東隅は246号土坑の重複によって破壊されている。西辺は調査当時141号住居と呼んだ壁溝に相当すると考えられる。北西隅は129号と重複している。本住居のプランを推定すると第649図のようになる。南西隅は150×70cmの略長方形に突出している。覆土は一層の検出で、自然に堆積している。壁は19~34cm遺存しており、斜めにたちあがる。床面は遺存部分では、平坦である。支柱穴とみられるピットは検出していない。壁溝は西辺で延べ約300cm検出したが、他の辺では確認していない。カマドは東辺南寄りに設置してあり、その北半は122号のカマドによって破壊されていた。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道天井部が約20cm遺存していた。右袖部に相当する位置で、石が立てた状



第649図 田端地区B区143号住居跡

態で出土している。貯蔵穴は調査当時不明であったが、整理の過程で116号住居床下の、122号住居カマドの北西に位置する土坑が形状・位置ともに相当することが分かった。遺物の出土状態や確認レベルからも矛盾しない。

遺物は推定貯蔵穴内から土器が出土しており、他の部分からの出土遺物はない。第650図2は手づくね土器で全体の形が遺存していないため、器形は不明である。

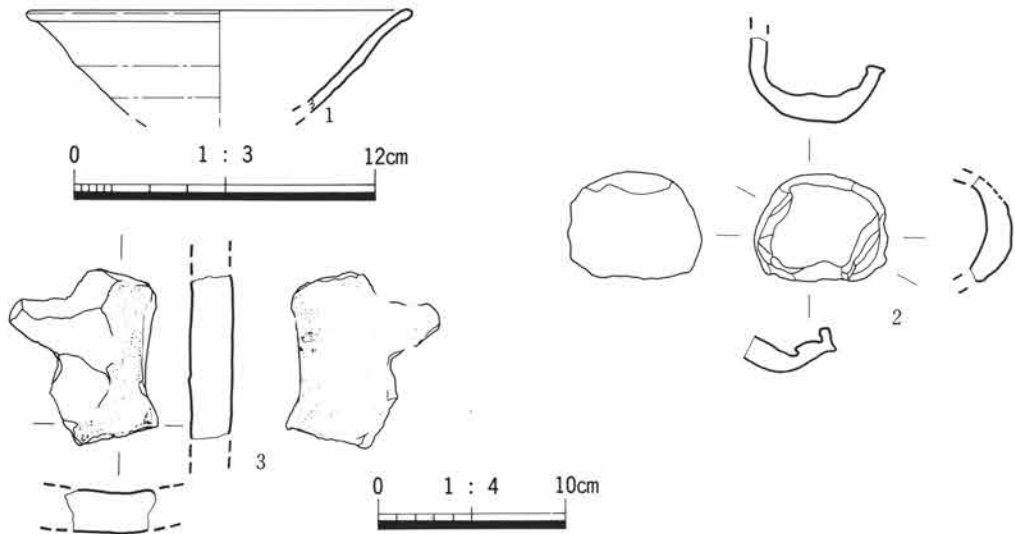
時期は10世紀後半と考えられる。

田端B区第144号住居跡（第651～653図、図版218・256）

Mライン・71,305m付近で検出した。確認面は第 層である。132・150・153・154号住居と重複している。150号を除くと、153・154→144→132号住居の順に新しい。南半を132号に切られて失っているため、本住居はL字状に遺存していた。プランは南東隅を除いてほぼ検出し、方形になると考えられる。覆土は浅く、一層を検出したのみである。壁は3～7cmとあさいため、立ち上がりは不明である。床面は西側がやや高い。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

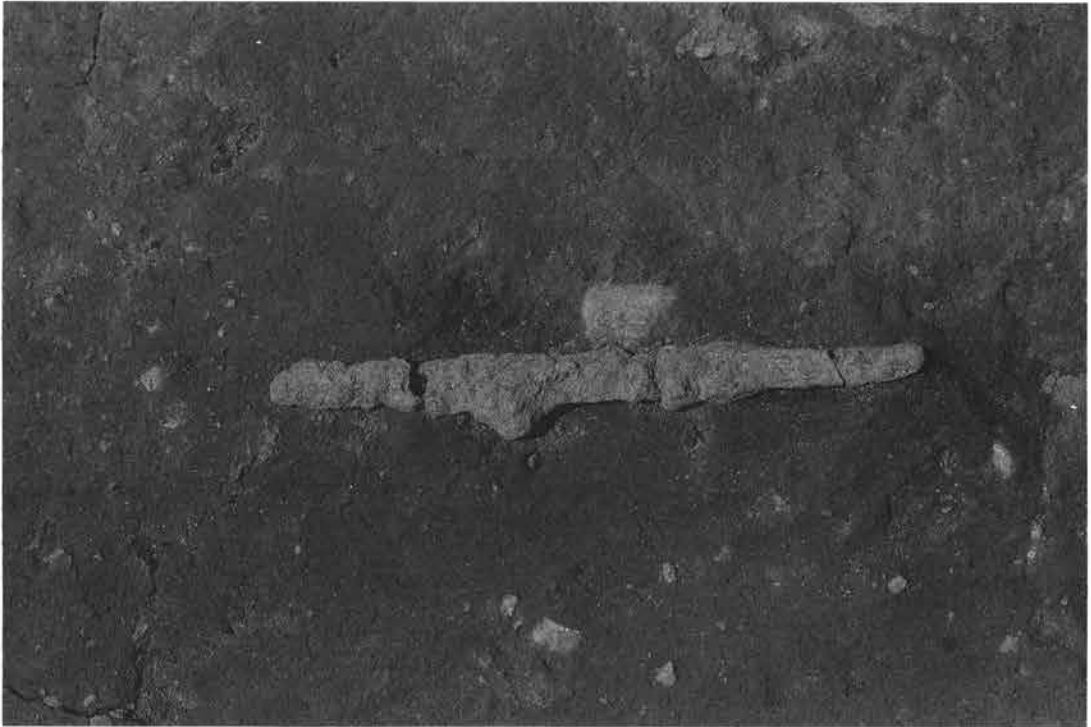
遺物は少なく、北東部の床面から第653図1の転用硯が、2は北西隅の壁際の床面から、3の刀子は北西隅の壁より50cm内側の床面から出土した。1の転用硯は墨の痕跡は観察できないが、図の下側は割れたままで、その他の割れ口は擦っており、内面側の器表はツルツルで光沢がある。須恵器甕の体部片を利用したものである。3の刀子はほぼ全形の判明する少ない例で、他の例に比べて茎の長さが短い。

時期は9世紀中頃と考えられる。

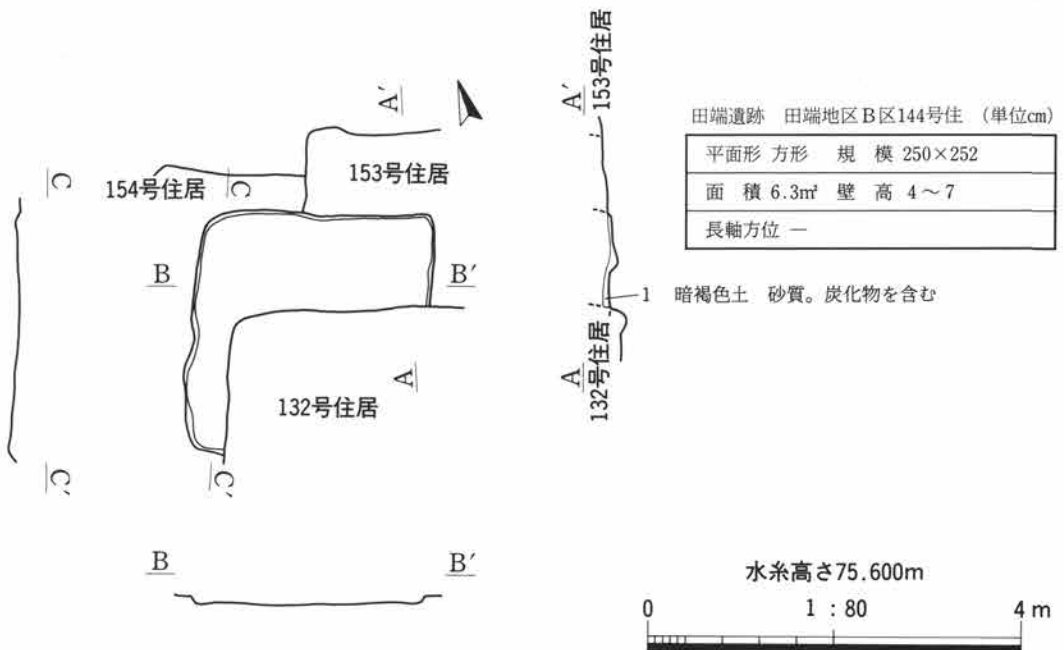


第650図 田端地区B区143号住居跡出土遺物





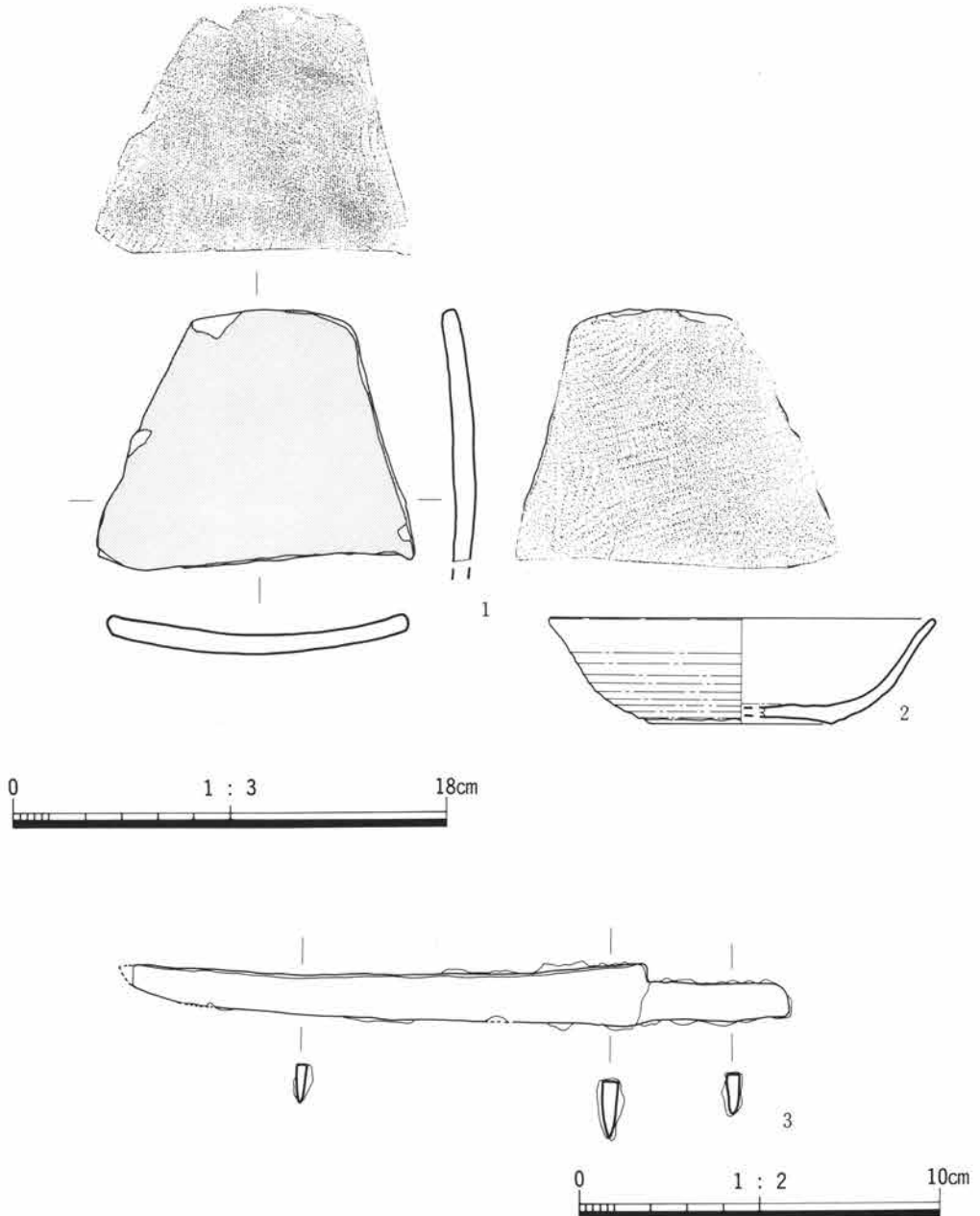
第651図 田端地区B区144号住居跡



第652図 田端地区B区144号住居跡

田端B区第145号住居跡 (第654～656図、図版219・256・257)

Oライン・71,297m付近で検出した。本住居は89・112・139号住居と重複し、これら3軒の下層からプランを検出した。前後関係は145→89号、145→139→112号の順に新しい。プラン確認の時点で南辺を掘り過ぎてしまい、南辺東半上層部は南へ広がっているが、床面まで掘り進めたところ、斜めに立ち上がっていることを確認した。東辺は50cmほど西寄りに検出したつもりであったが、カマドと貯蔵穴の調査を進めた時点で第655図のように確認した。プランは長方形で東西方向にやや長い。覆土は自然に堆積している。壁は遺存状態が良好で、40～50cm程の高さを検出した。床面は中央部と壁際がや



第653図 田端地区B区144号住居跡出土遺物

や低い。主柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺の南寄りに検出した。燃烧部が壁の内側にすべて入り、煙道へ変わる部分が三角形を呈して遺存するタイプである。煙道はこの位置から、おそらく上方へ延びると考えられる。貯蔵穴は南東隅で検出した。楕円形を呈し、隅の壁際には25cm大の石が据えてあった。そのほか、住居の床面で径40~50cm・深さ10cm前後のピットを3カ所検出しているが、いずれも主柱穴とは考えられない。

遺物はカマド周辺と南辺付近からの出土が多い。第656図1は貯蔵穴西側の床面から、4・12は南辺中央の壁際床直上から、5はカマド左の壁際から、6は南辺中央壁際床面から、8はカマド内から、9はカマド前床面から、10は貯蔵穴内からそれぞれ出土した。2・3は貯蔵穴西の覆土、7は住居覆土、11は北東隅覆土の参考品である。

時期は8世紀後半と考えられる。

#### 田端B区第147号住居跡（第658図）

M-Nライン・71km 297m付近で検出した。本住居は134号住居の床下から検出した。126・134号住居、127・135・137・149号住居と重複している。127号住居はこれらのうち最も新しく、135号住居は最も古い。149号と135号との関係は不明である。137号をキーとして、149→137・147→134→126→127号住居の順に新しい。134号住居の床面を形成する土を取り除くと、すでに本住居の床面直上の土層となる。壁は東辺が最も遺存状態が良好で、他の3辺は3~7cmと低い。北東隅、南辺の東半を欠く。床面は

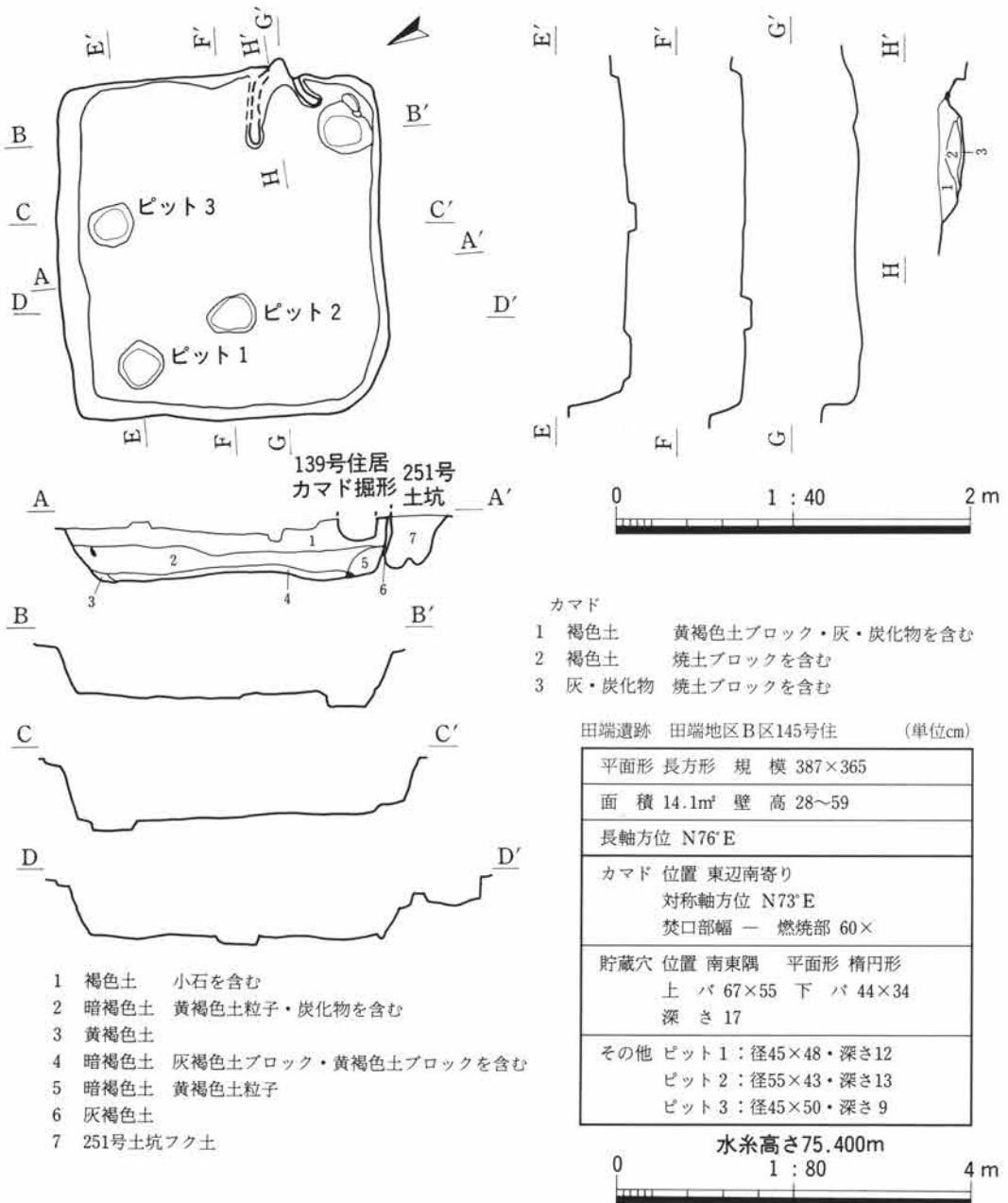


第654図 田端地区B区145号住居跡

細かい凹凸をもっている。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。焼土の分布も検出できなかった。住居内に比較的大きめの土坑がある。北半には一辺1m・深さ13cm前後の方形の土坑があり、南半では100~60cm前後で深さ10~20cmの土坑が3基並んでいた。南西隅の土坑はその中に径15~20cmの小さな穴がある。

遺物は小片のみで、図示できるものがない。

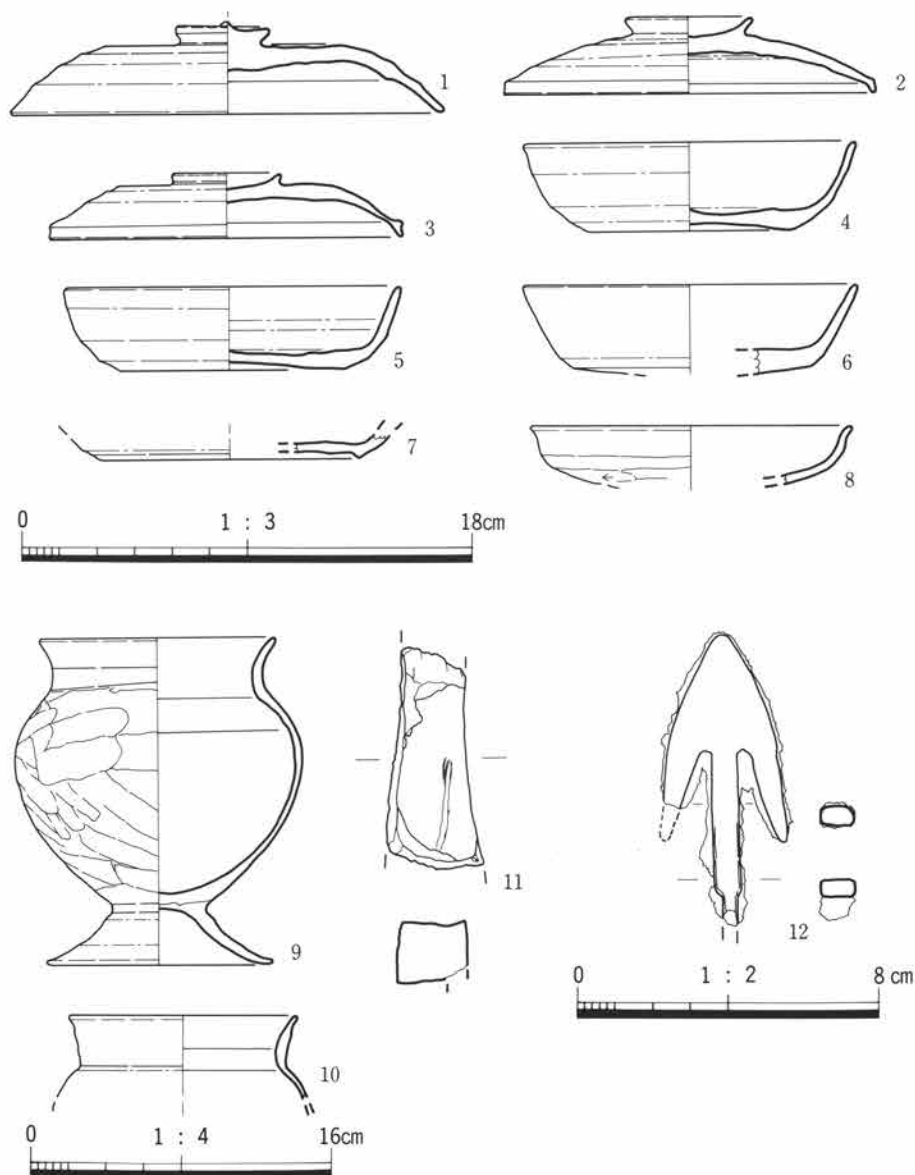
時期は重複による前後関係から考えると、149号住居と134号住居の中間の時期であり、9世紀後半~10世紀前半の間に収まると考えられる。



第655図 田端地区B区145号住居跡

## 田端B区第148号住居跡（第657・659～661図、図版219・257）

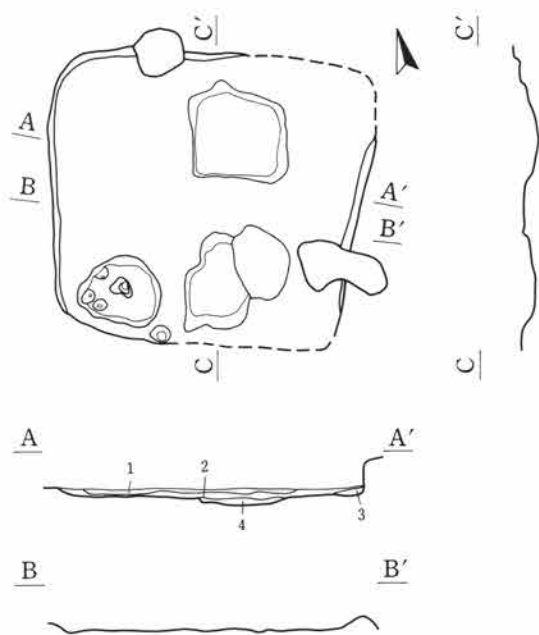
L-Mライン・71km302m付近で検出した。確認面は第4層である。118・132号住居と重複している。これらは118→148→132号住居の順に新しい。北辺を132号住居に切られており、南北の規模は不明である。北に向かってやや広がりをもち、台形を呈すると考えられる。覆土は自然に堆積している。壁は12～18cmの高さが遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦で全体に堅く締っている。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺に2基検出した。いずれも燃焼部が壁外に突出するタイプで、燃焼部の天井部分が若干遺存していた。北カマドは煙道部が殆どなく、燃焼部中央に10～15cm大の石があり（支脚か）、右袖部には20cm大の石が据えられていた。燃焼部奥壁は四角形を呈する。カマド内から遺物が出土している。



第656図 田端地区B区145号住居跡出土遺物



第657図 田端地区B区148号住居跡(1)

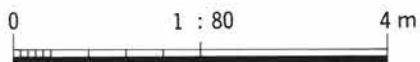


田端遺跡 田端地区B区147号住 (単位cm)

平面形 (台形) 規模 330×(307)
面積 10.1㎡ 壁高 3~39
長軸方位 N107°E
その他 住居内に土坑4

- 1 灰褐色土 灰・焼土粒を含む  
134号住居床下の土
- 2 褐色土 炭化物・灰褐色土ブロックを含む
- 3 黄褐色砂 炭化物を含む
- 4 灰褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒を含む

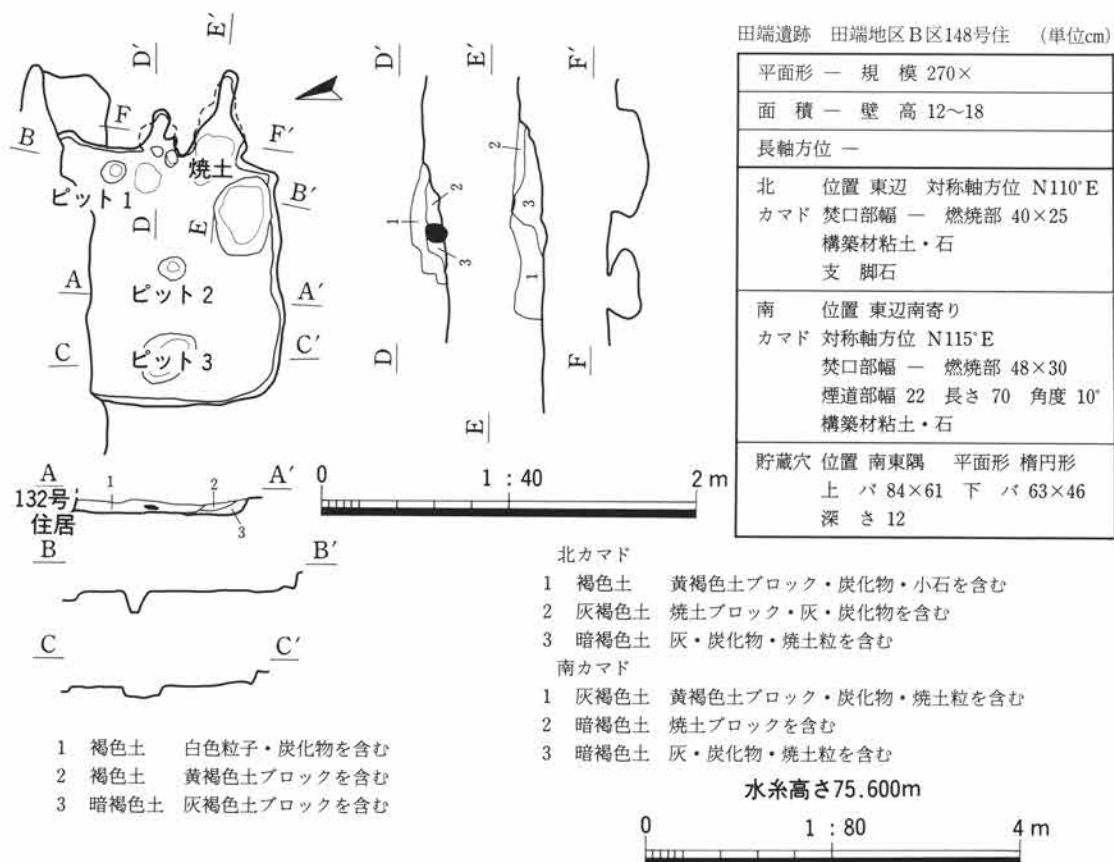
水糸高さ75.400m



第658図 田端地区B区147号住居跡



第659図 田端地区B区148号住居跡 (2)

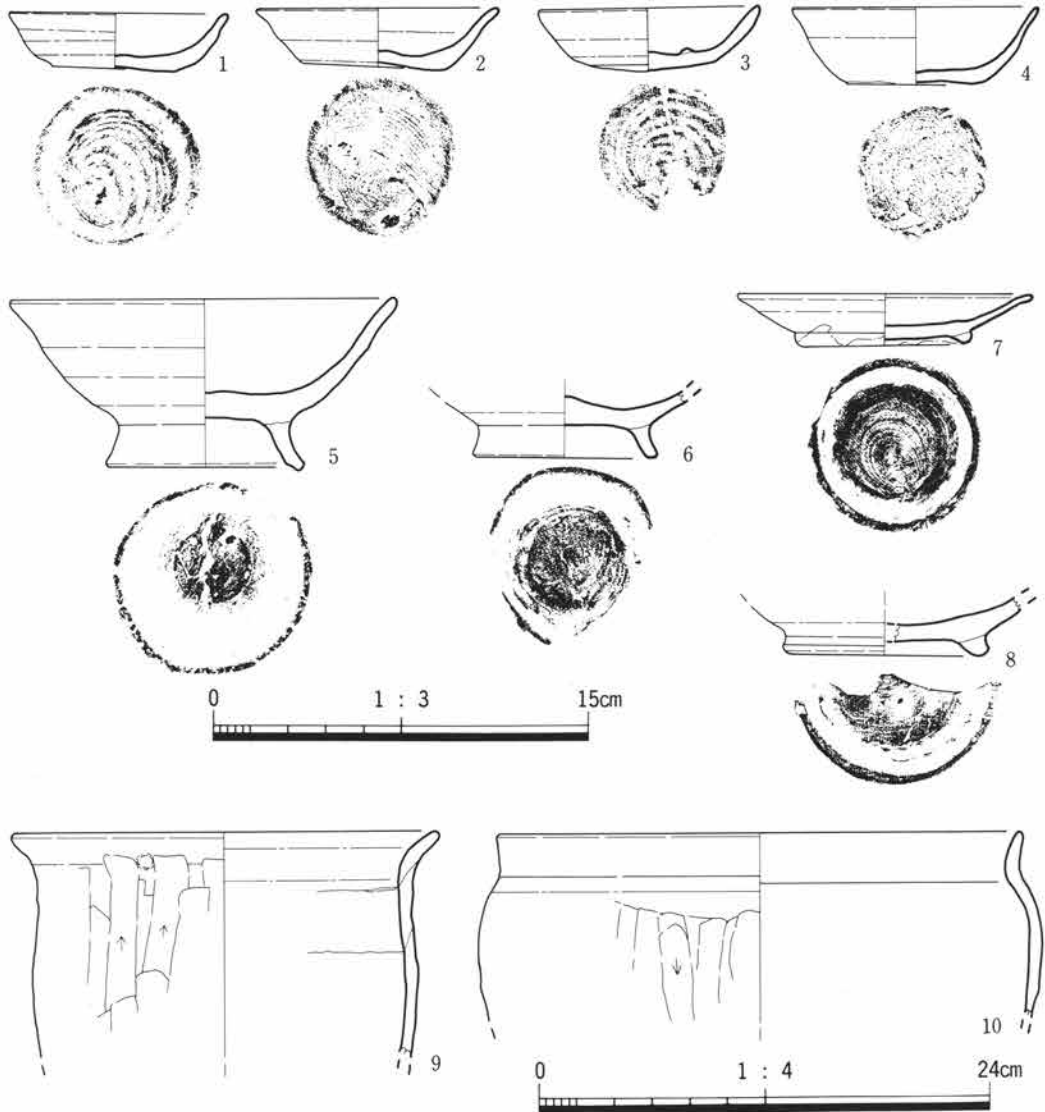


第660図 田端地区B区148号住居跡

南カマドは煙道部が約70cm延び、燃烧部底面の焼土もしっかりしている。内部から高台付碗その他の遺物が出土した。貯蔵穴は南東隅で確認した。楕円形を呈する浅いものである。このほか北カマドの左袖の北でピット1（径24cm・深さ25cm）、中央部でピット2（径27cm・深さ10cm）、西辺際でピット3（径65×45cm・深さ14cm）を検出している。

遺物はカマドおよびカマド周辺からの出土が多く、人頭大の石がカマド周辺からまとめて出土している。第661図1は北西部の床面から、2は中央西寄りの床面から、3・4・6・8は北カマド周辺から、5・9は南カマドの底面から7は南西隅の床面から、10は南辺中央壁際の床直上からそれぞれ出土した。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第661図 田端地区B区148号住居跡出土遺物



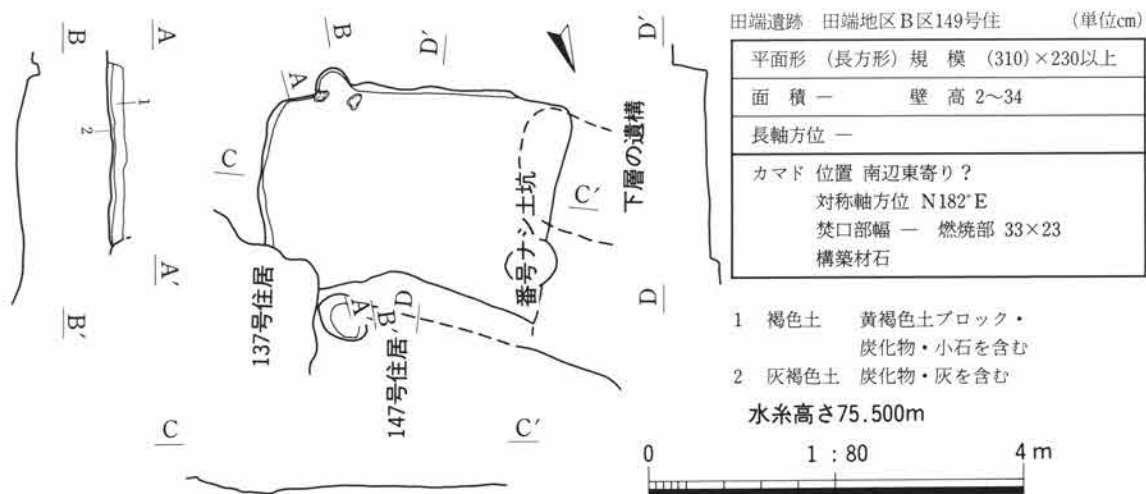
## 田端B区第149号住居跡（第662図）

Mライン・71km296m付近で検出した。確認面は第4層である。64・118・126・134・147号住居と重複している。これらは118→149→137→147→134→126号住居、149→64号の順に新しい。118号のカマドは本住居によってその北半を破壊されている。本住居は北半を重複住居によって破壊されているため、全体のプランを確認することができなかった。覆土は自然に堆積している。壁は南側で最も深く、東西の辺は10cm未満である。床面はカマド前が10cm程低くなっている。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。南辺東寄りに焼土の分布があり、外に本住居のものと考えられる焼土の分布がないため、調査中はここをカマドの痕跡と考えたが、本遺跡の中で南側にカマドを設置した住居はこの149号一例である。南カマドの存在をまったく否定することはできないが、ここでは保留しておき、参考資料としておきたい。

遺物は床面からの出土がなく、すべて床下からのもので、図示しなかった。時期は135号と137号との間で、9世紀代と考えられる。

## 田端B区第150・152号住居跡（第663図）

L-Mライン・71km307m付近で検出した。確認面は第4層である。150号と152号は重複し、152→150号の順に新しい。150号は132・144・154号住居と、152号は107・123・124号住居とそれぞれ重複している。150号は144号よりも古く、154号との前後関係はつかめなかった。従って、152→150→144→132号の順に新しい。また152号は107・123号よりも古く、124号との関係はつかめなかった。この3軒は152→107→123号の順に新しい。以上により、152号は両ブロックのなかで最も古い方に属する住居であることがわかった。



第662図 田端地区B区149号住居跡

150号は台形を呈し、東側の隅が132号によって破壊されている。西側の隅は丸みがあり、ぜんたいに不整形である。152号は北東隅を検出したが、南西隅は150号によって破壊され、西半分は123・107号と重複して不明である。

150・152号とも覆土は浅く、床面までは一層のみの遺存であるため、壁の立ち上がりは不明である。床面は152号の方はほぼ平坦で軟弱である。150号の方は中央部がややくぼんでいる。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・貯蔵穴は、両者とも検出していない。

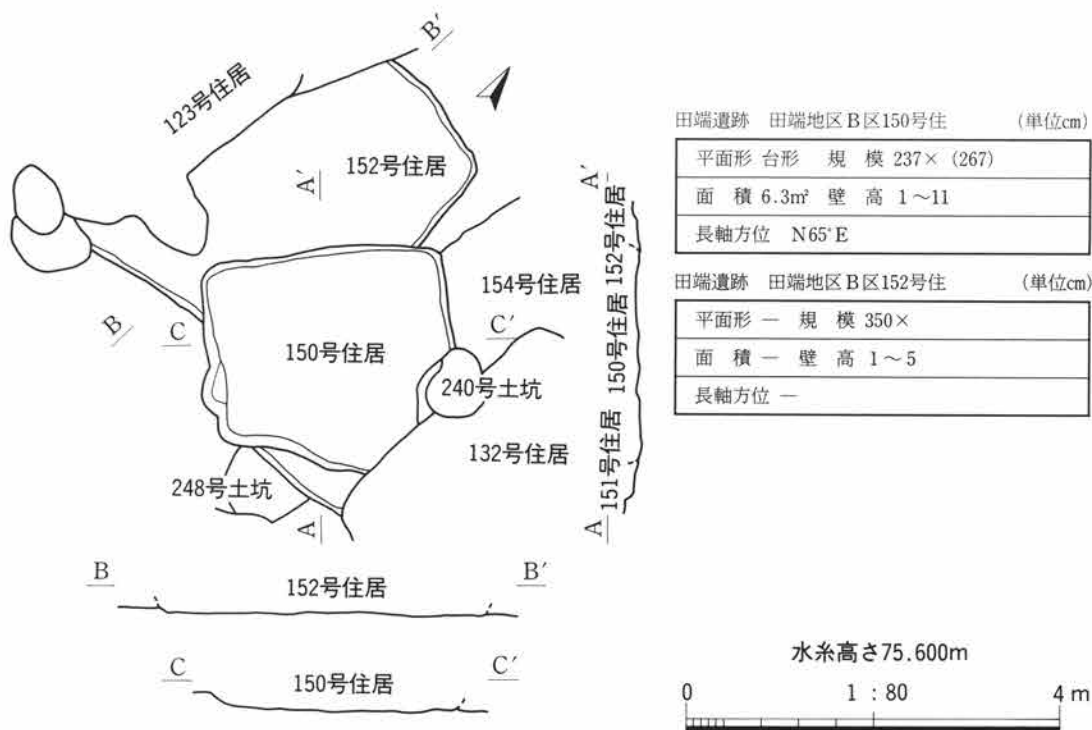
遺物は152号出土の遺物がなく、150号からの出土遺物は覆土出土の土器片のみで、図示しなかった。150号の時期は破片でみるかぎり、9世紀代以降と考えられる。

### 田端B区第151号住居跡

150号住居の南側に一本のラインを検出し、これを151号と名前を付けた。しかし、他のラインやこのラインに対応するカマド・焼土の分布を検出することが出来なかったため、欠番とする。

### 田端B区第153・154号住居跡 (第664図)

M-Nライン・71km305m付近で検出した。確認面は第4層である。132・144・150号住居と重複している。153・154号とも、重複する132・144号によって破壊されており、いずれもカマド等の内部施設を確認することができなかった。153号はさらに上層から250号土坑が、貯蔵穴またはカマドの位置に掘り込まれており、北東隅・北西隅を確認したのみである。



第663図 田端地区B区150・152号住居跡

154号は144号の北西側に地山と異なる部分を検出して番号を付けたもので、確実なプランとはいえない。従って154号は欠番の可能性がある。

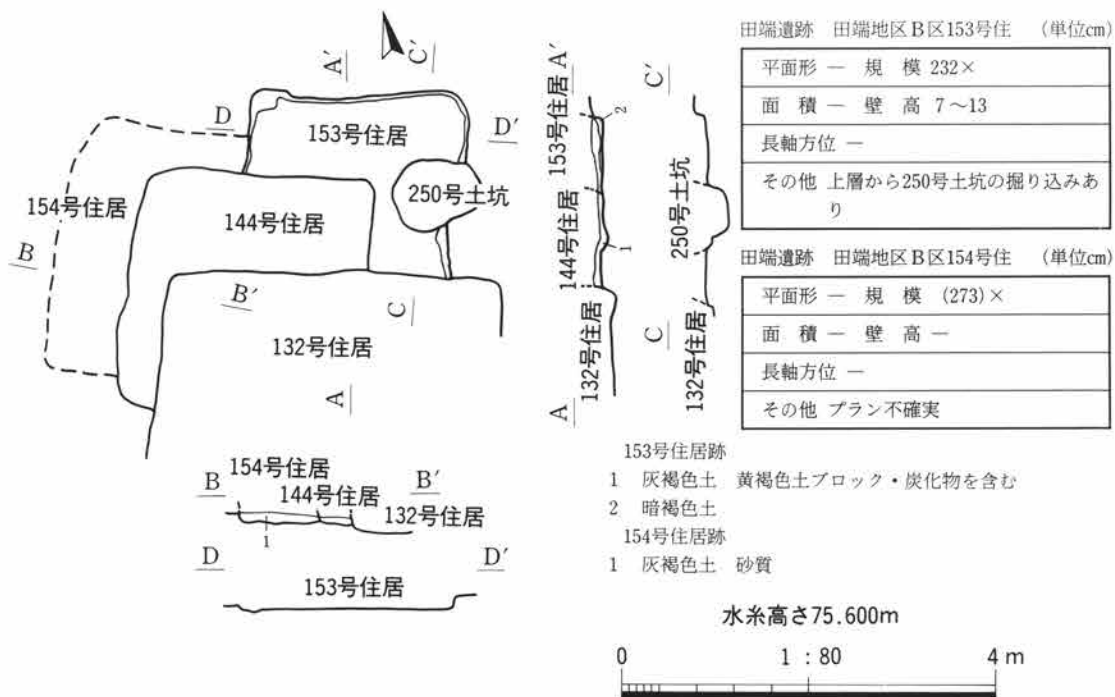
両者とも図示できる遺物の出土がなく、小片のみである。破片をみる限り、9世紀代の住居と考えられる。

### 田端B区第155号住居跡

139号住居の南側に、249号土坑と重複して155号住居を認定したが、これに対応する焼土・ラインが検出できなかったため、欠番とする。なお、249号土坑は本住居が存在した場合は、貯蔵穴であった可能性がある。

### 田端B区第157号住居跡 (第665~667図、図版220・258)

Q-Rライン・71km246m付近で検出した。B区北東部に位置する。確認面は第4層である。158号住居・20号溝、263・265号土坑と重複している。これらは、20→157→158→263・265号の順に新しい。本住居は北側を158号住居によって切られ、北西隅は263号土坑によって破壊されている。従って北側の両隅は検出していない。確認した限りでは、南北方向に長い長方形のプランをもつ。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、13~21cmが遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦だが、破壊されている面が多く、カマド前がやや低くなっている。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道は検出していない。袖部に軒平瓦を使用している。



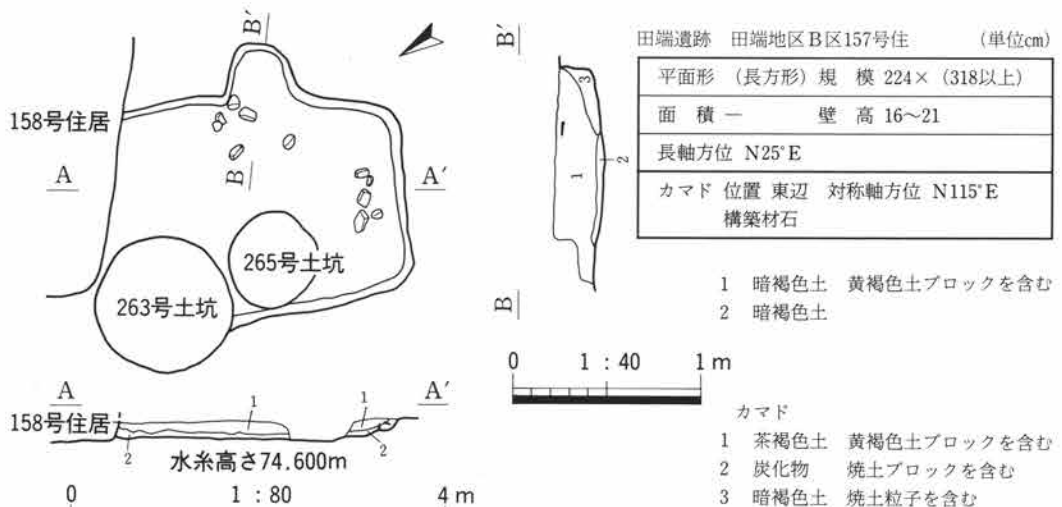
第664図 田端地区B区153・154号住居跡

遺物はカマド前、南辺付近で出土した。第667図1はカマド覆土出土の参考品である。2・5～7はカマド内から、3は南辺中央壁際床直上から、4はカマド底面から、8はカマド左脇の床面からそれぞれ出土した。

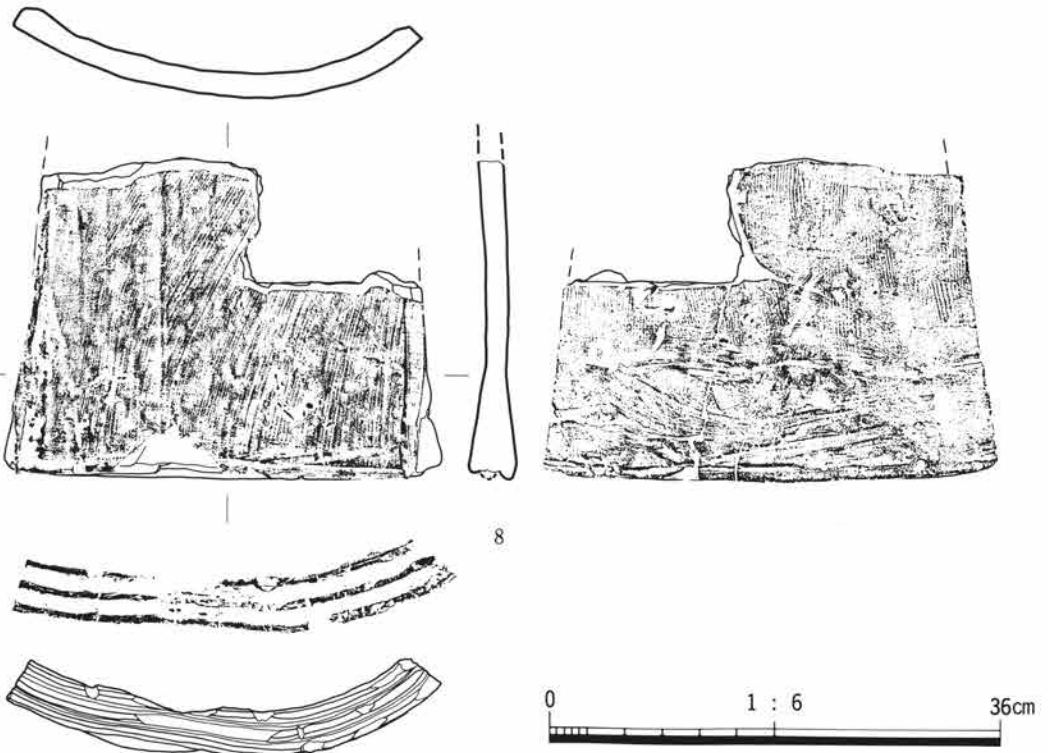
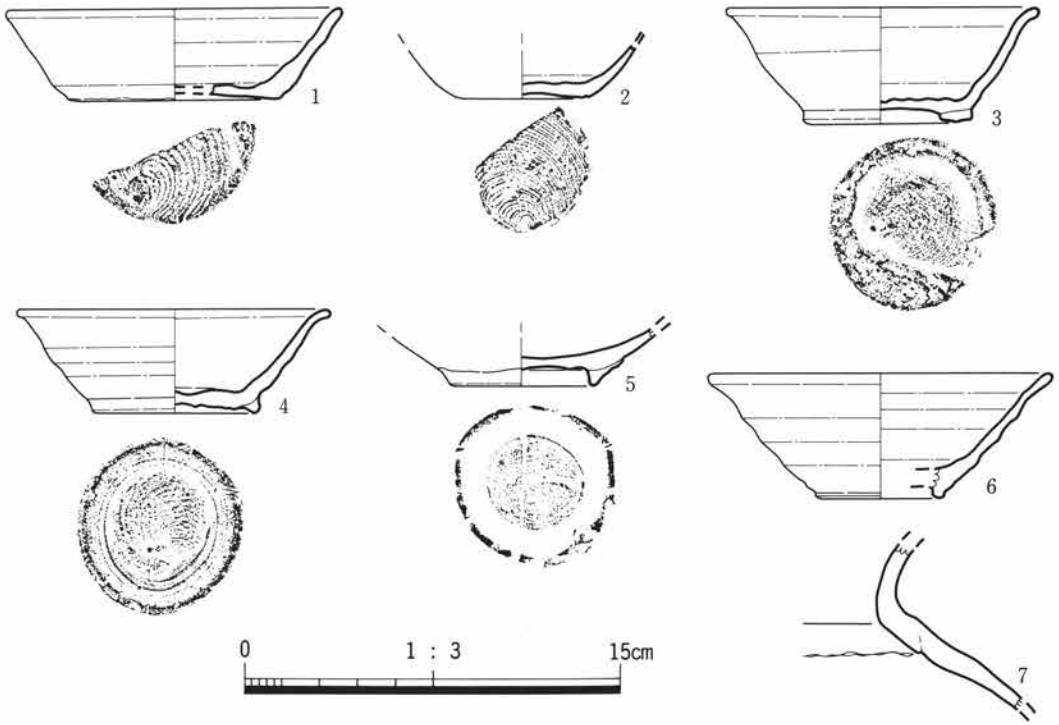
時期は9世紀後半とみられる。



第665図 田端地区B区157号住居跡



第666図 田端地区B区157号住居跡



第667図 田端地区B区157号住居跡出土遺物

田端B区第158号住居跡 (第668図、図版220)

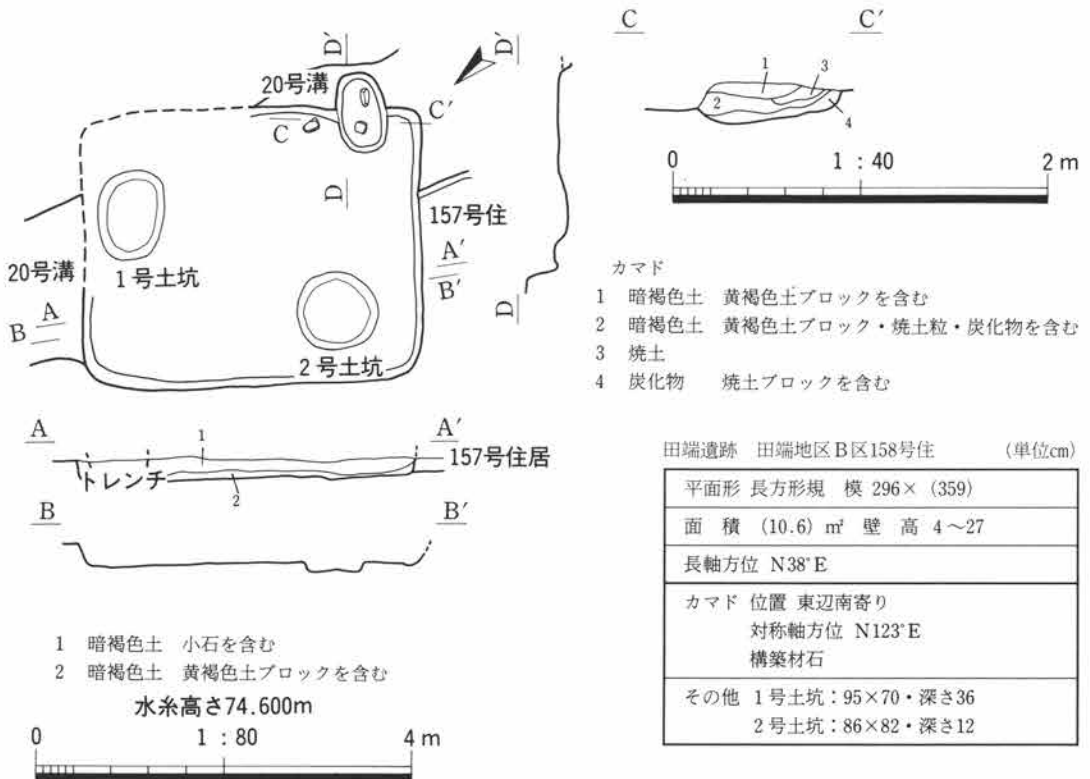
R-Sライン・71km245m付近で検出した。本住居はB区北側の側道部分で検出したものである。確認面は第4層である。157号住居と重複しており、本住居の方が新しい。北東隅は検出できなかったが、残る3隅は確認した。覆土は自然に堆積している。壁は西辺の遺存が最も良好で、南辺は浅い。床面は南側にやや乱れがあり、その他は平坦である。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りの隅近くで検出した。燃焼部が壁外に突出するタイプで、煙道は確認していない。燃焼部からは人頭大の石が2個出土している。北辺中央やや東寄りには1号土坑、南西隅近くには2号土坑を検出した。1号はやや深く、2号は最深部で12cmの深さである。

遺物は床面からの出土がなく、すべて覆土出土の小片であり、図示しなかった。

時期は不明である。

田端B区第159号住居跡 (第669～671図、図版220・259)

R-Sライン・71km241m付近で検出した。確認面は第4層である。162号住居、16・20号溝と重複している。これらは、20→162→159→16号の順に新しい。本住居の北東隅は調査区外であるため、確認できなかった。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、15cm前後が遺存している。床面は平坦で中央部が堅く締っており、カマド前がややくぼむ。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃焼部の約半分が壁外に突出するタイプで、壁はあまり焼けていない。煙道は



第668図 田端地区B区158号住居跡



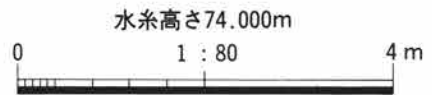
第669図 田端地区B区159号住居跡



田端遺跡 田端地区B区159号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模 285×
面積 — 壁高 7~21
長軸方位 N27°E
カマド 位置 東辺南寄り 対称軸方位 N132°E

- 1 暗褐色土
- 2 茶褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物を含む
- 3 茶褐色土 黄褐色土ブロックを多く含む

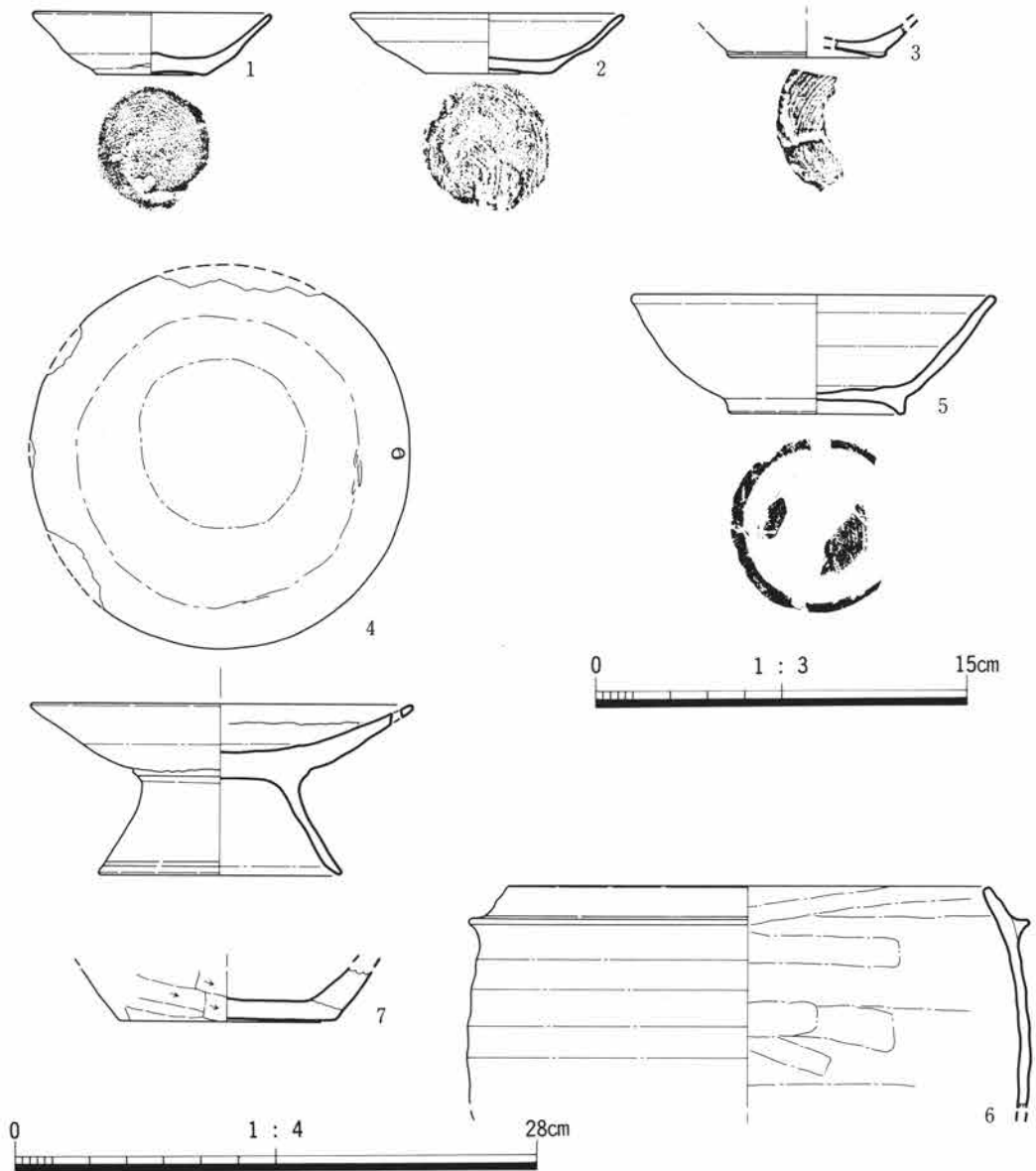


第670図 田端地区B区159号住居跡

不明である。東半部は16号溝によって破壊されているため、カマドの袖部等は検出できなかった。

遺物は調査区北壁の直下からいくつか出土している。第671図1はカマド前床面から、2は床下から、4は中央部西壁下床直上から、6はカマド内・カマド前床直上が接合、7はカマド内からそれぞれ出土した。3・5は覆土出土の参考品である。

時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。



第671図 田端地区B区159号住居跡出土遺物

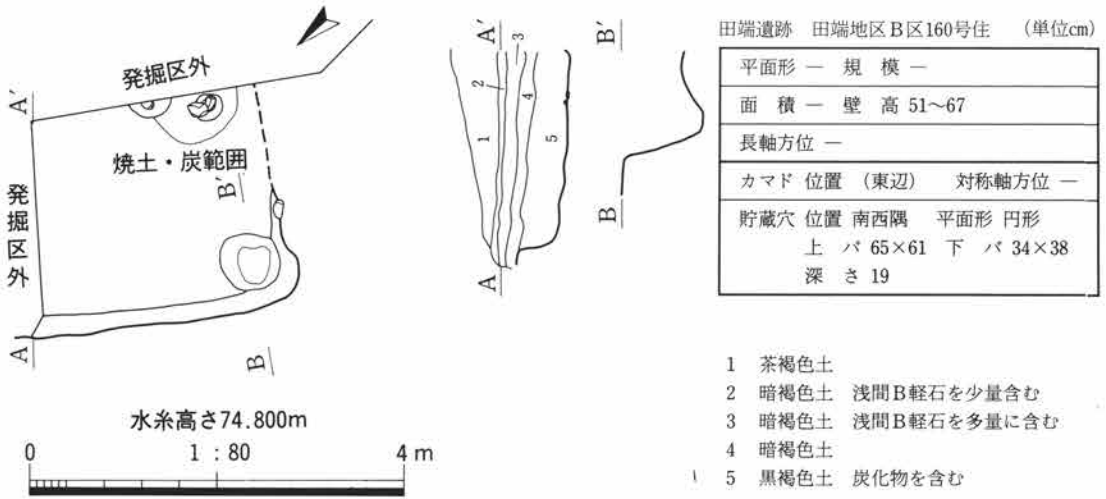


田端B区第160号住居跡 (第672・673図、図版259)

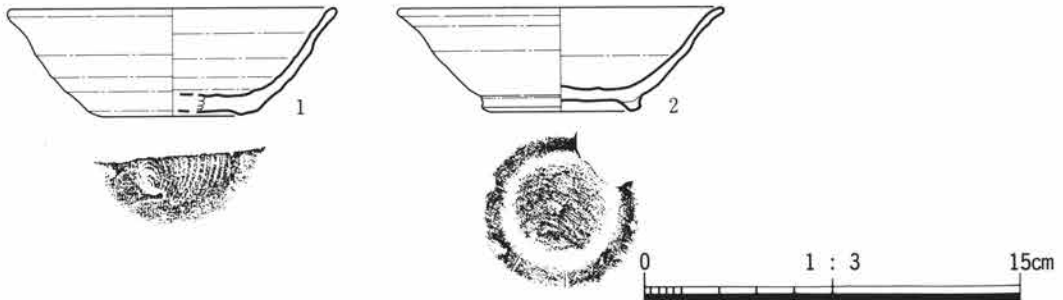
Sライン・71km204m付近で検出した。本住居はB区の北東隅に位置し、北側の側道部分で検出したものである。住居の大半は発掘区外にあり、本住居は南東隅を検出したにとどまる。確認面は第4層である。20号溝と重複し、20→160号の順に新しい。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良好で、50cm前後あり、斜めに立ち上がる。床面は遺存部分では平坦である。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドの本体は検出していないが、東側の発掘区壁の直下床面に20cm大の石が出土し、その周辺の床面には焼土・炭化物が散布していた。この近くの東辺にカマドが設置されていたと考えられる。貯蔵穴は南東隅で検出した。遺物の出土はない。

遺物は床面からの出土がなく、第673図1・2は覆土出土の参考品である。

時期は9世紀後半頃か。



第672図 田端地区B区160号住居跡



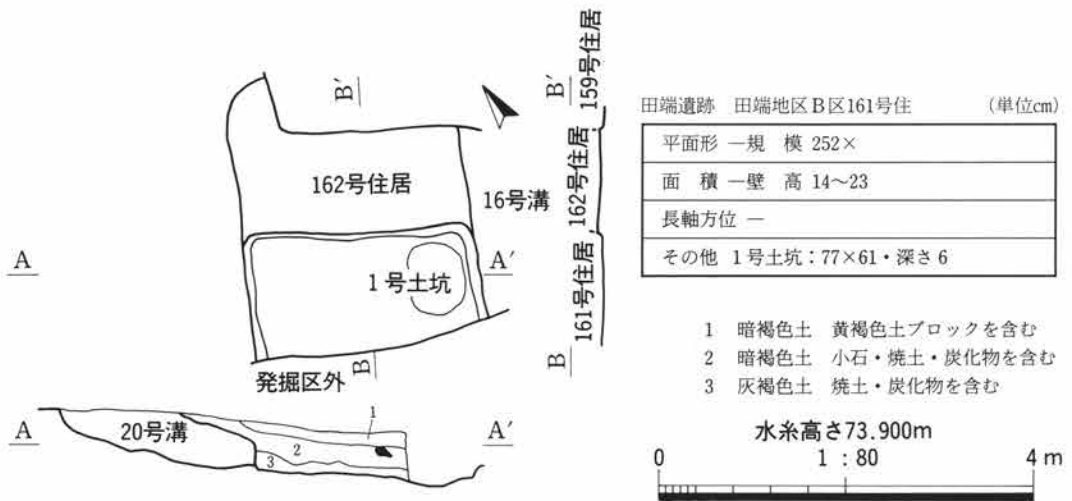
第673図 田端地区B区160号住居跡出土遺物

田端B区第161号住居跡 (第674・675図、図版259)

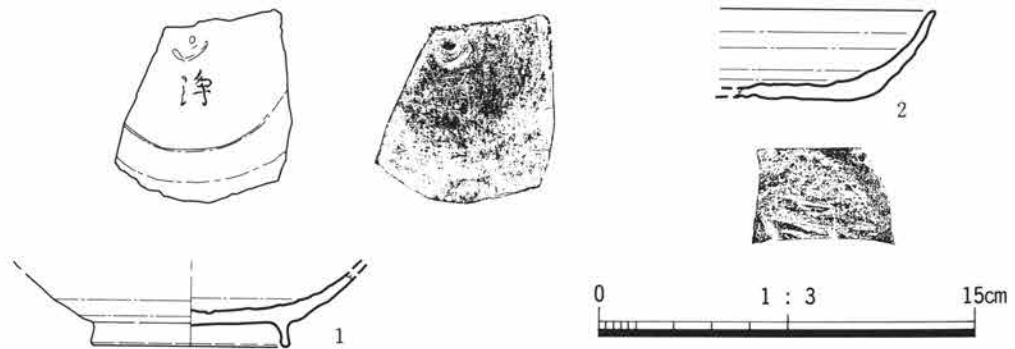
Q-Rライン・71km242m付近で検出した。確認面は第4層である。162号住居、16・20号溝と重複しており、これらは20→162→161→16号の順に新しい。本住居は南半分が調査区外にあり、北西隅・北東隅を検出したにとどまる。東西の最大幅は252cmである。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、20cm前後が遺存しており、20号溝との間にはほぼ直に立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・壁溝・貯蔵穴・カマドは検出していない。北東隅からは径65cm前後の浅い1号土坑を検出した。

遺物は床面出土のものがなく、拳大～人頭大の石と、50×70cmほどの大きな石が出土している。第675図1は灰釉陶器で、内底に「浄」と読める刻字がある。2は径復原ができない須恵器杯で、外底にはワラ状の圧痕がある。

時期は不明である。



第674図 田端地区B区161号住居跡



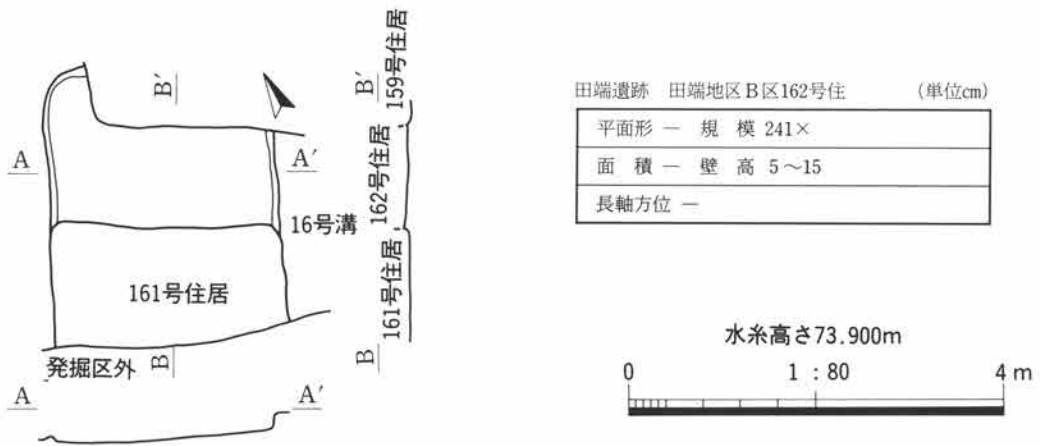
第675図 田端地区B区161号住居跡出土遺物

田端B区第162号住居跡（第676・677図、図版259）

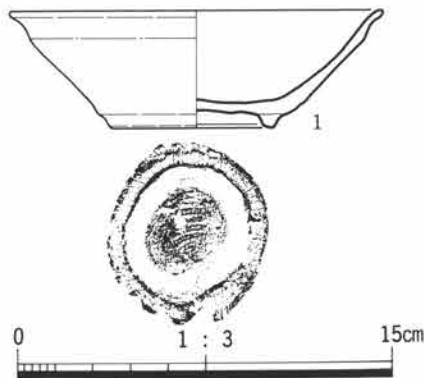
R-Sライン・71km242m付近で検出した。本住居は159・161号住居、16・20号溝と重複している。これらは、162→161号、20→162→159→16号の順に新しい。本住居は北西隅とこれにつづく西辺の一部、東辺の一部を確認したが、その他の部分は北側の159号住居、南側の161号住居との重複によって失っている。壁は斜めに立ち上がり、遺存している部分では高さ10cm前後ある。床面は北側がやや高い。主柱穴・壁溝・カマド・貯蔵穴は検出していない。

遺物は床面出土のものがなく、覆土出土の参考品である。第677図1は覆土出土の須恵器高台付椀で、イブシ焼成である。

時期は不明である。



第676図 田端地区B区162号住居跡



第677図 田端地区B区162号住居跡出土遺物

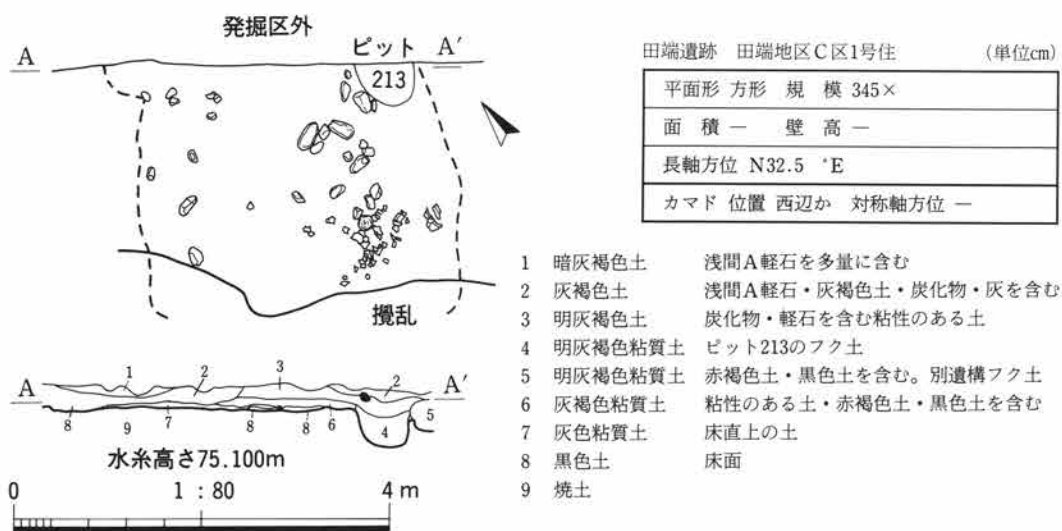
### 3 田端地区C区

#### 田端C区第1号住居跡 (第678～680図、図版221・260)

Oライン・71km410m付近で検出した。確認面は第5層である。34号土坑と重複しており、本住居が旧である。覆土は上面の遺構および耕作によって影響をうけており、堆積状態を観察できなかった。壁の立ち上がりは確認できなかったが、床面は焼土のひろがりや遺物の出土レベルから推定した。支柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは西辺中央に焼土の広がりがみられることからこの辺りに想定している。

遺物は南東部に須恵器杯・蓋・甕、土師器甕・杯が集中して出土している。

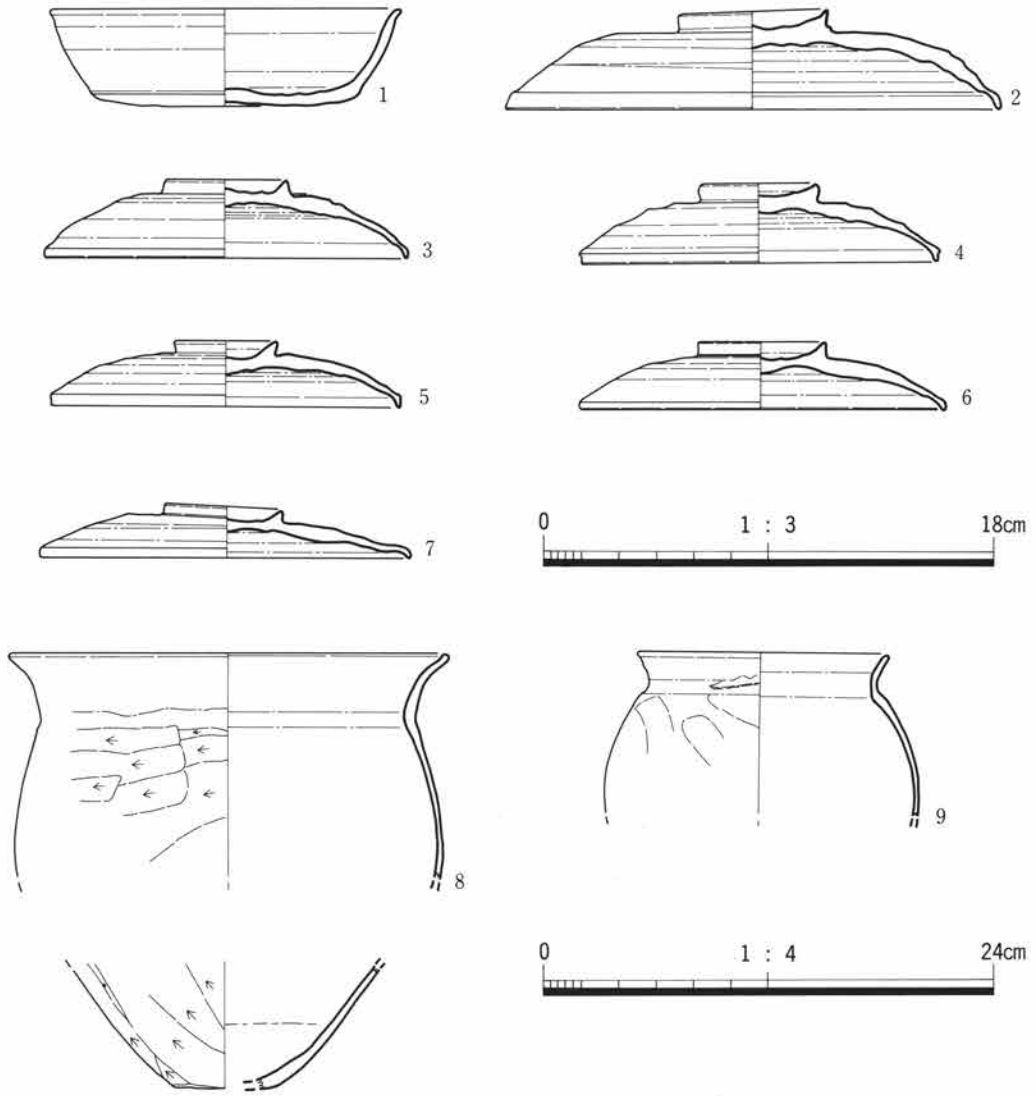
時期は遺物よりみて8世紀後半と考えている。



第678図 田端地区C区1号住居跡



第679図 田端地区C区南側道全景 (西から)

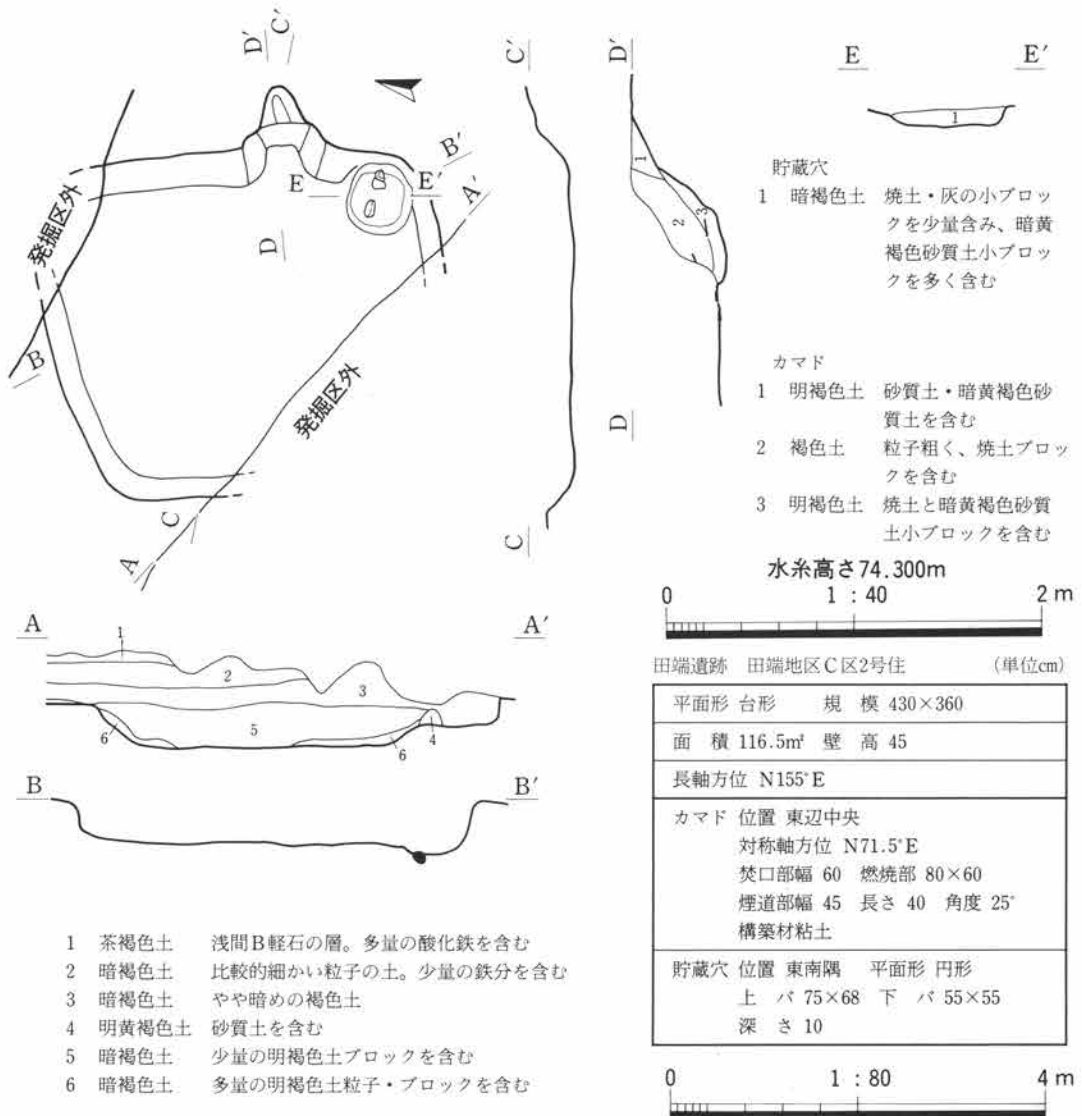


第680図 田端地区C区1号住居跡出土遺物

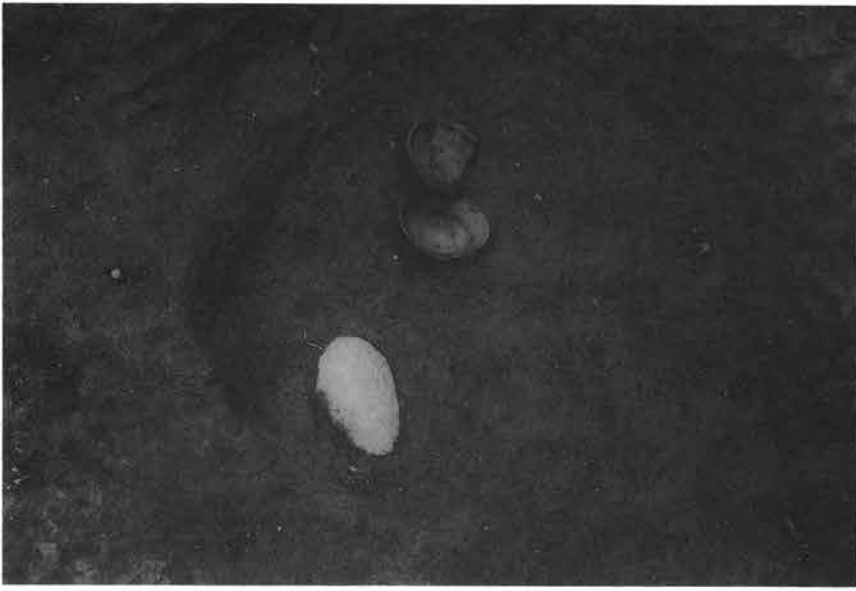
田端C区第2号住居跡（第681～683図、図版221・222・261）

Oライン・71km395m付近で検出した。確認面は第5層である。33号土坑と重複している。本住居が旧である。覆土は自然に堆積している。壁は斜めに立ち上がる。床面は中央部がわずかに高まりをもつが、全体に軟弱であった。支柱穴・壁溝は確認できなかった。カマドは東辺南寄りにあり、袖部を室内につくりだしていたとおもわれる。燃烧部の中心が東辺とそろろう。煙道は燃烧部床面より40cmほどあがったところから引き出している。カマド掘形は奥壁が角ばるタイプである。貯蔵穴は南東隅に位置し、浅い鍋底状である。

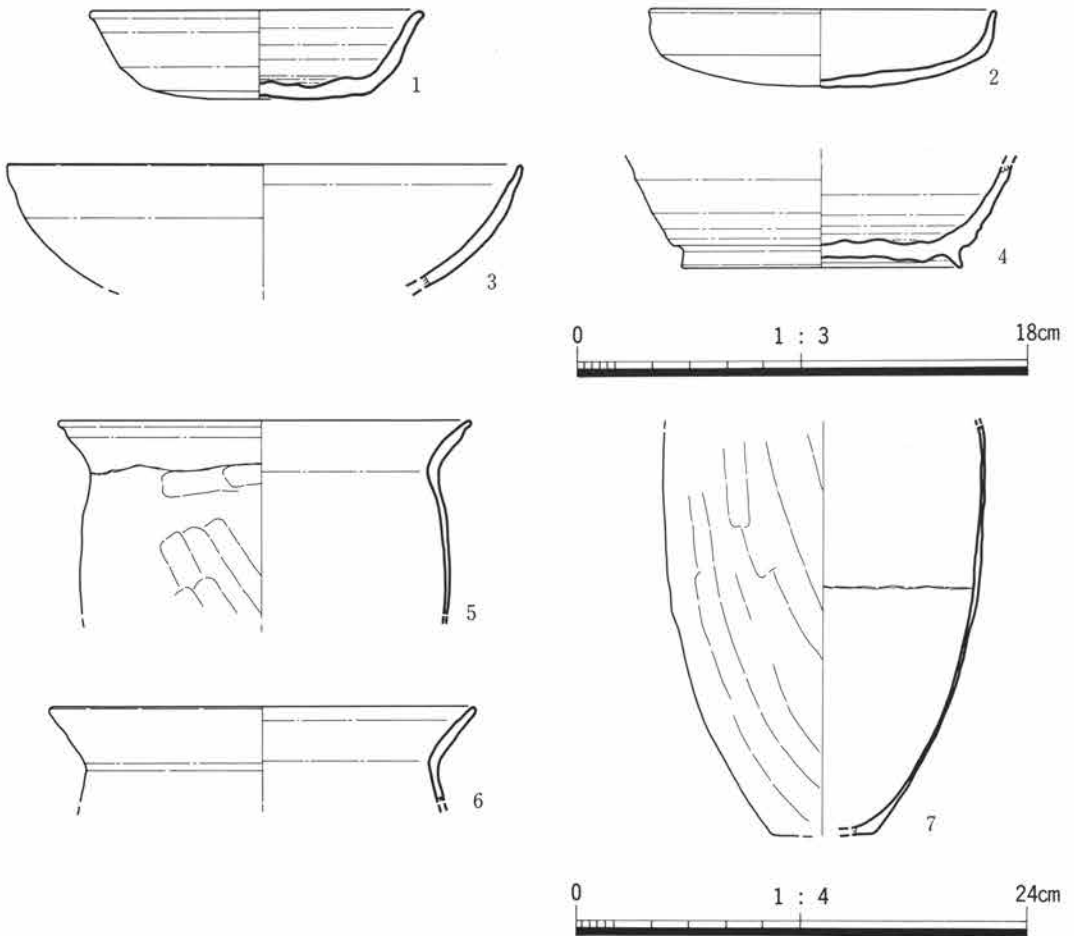
遺物はカマド前と貯蔵穴から須恵器杯・蓋・高台付杯、土師器甕・杯が出土している。時期は遺物より8世紀中頃と考える。



第681図 田端地区C区2号住居跡



第682図 田端地区C区2号住居跡



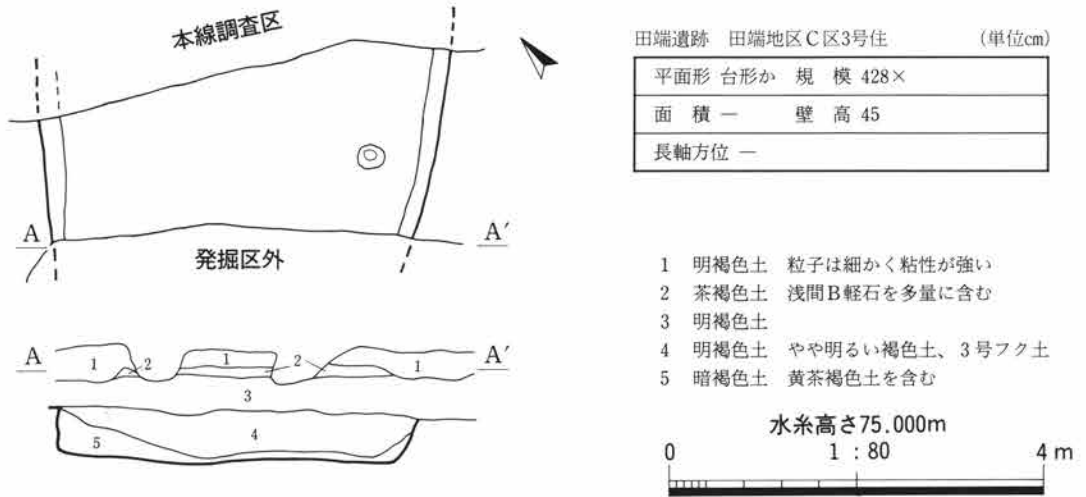
第683図 田端地区C区2号住居跡出土遺物

田端C区第3号住居跡 (第684・685図、図版222・262)

Kライン・71km402m付近で検出した。確認面は第5層である。第5次調査の側道部分で東辺と西辺を確認した。覆土は自然に堆積している。壁は西辺でほぼ垂直に立ち上がり、東辺では斜めであった。床面は小石をふくむが、ほぼ平坦である。支柱穴は確認できなかったが、東辺中央壁際にピットを検出している。壁溝・カマド・貯蔵穴は検出できなかった。

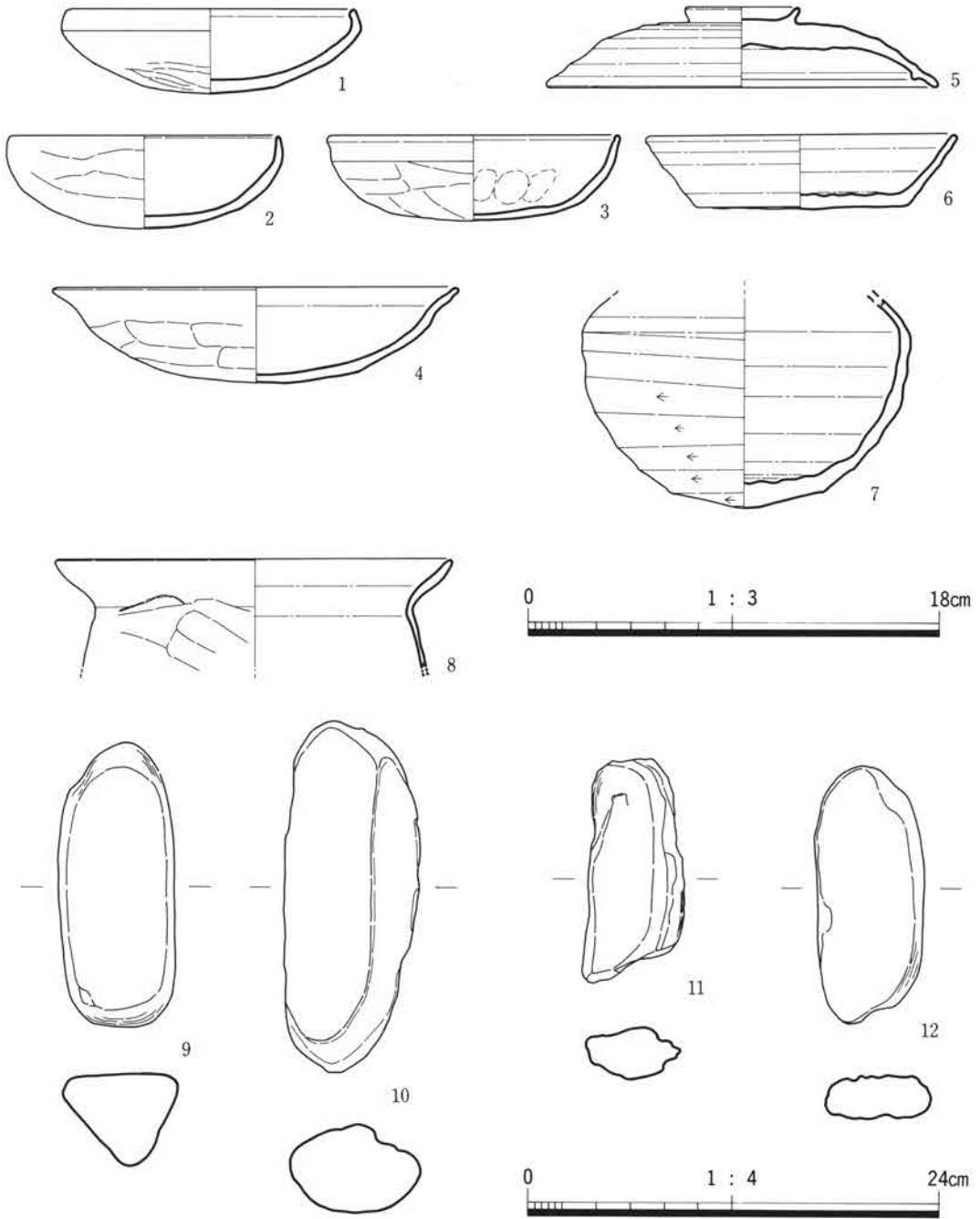
出土遺物は須恵器杯・蓋・壺、土師器甕・杯のほか、細長い石がある。第685図1・2・3・6の杯が東辺壁際から重なった状態で出土し、石は中央部にならんで出土している。

時期は遺物よりみて8世紀後半と考える。



第684図 田端地区C区3号住居跡



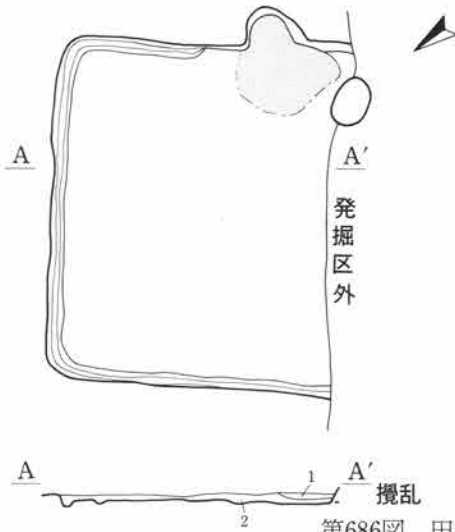


第685図 田端地区C区3号住居跡出土遺物

4 田端地区E区

田端E区第1号住居跡 (第686図、図版223)

Oライン・71km048m付近で検出した。確認面は第5層で水田面を覆う砂利層を掘り込んでいる。9号住居と重複しており、本住居の方が新しい。本住居南側は、本線敷直下の側溝の下に南半部分が位置しているため、全体のプランを検出できなかった。また、遺構確認面ですでに床下の面に至っており、



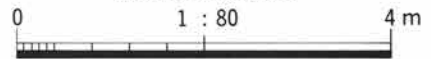
田端遺跡 田端地区E区1号住 (単位cm)

平面形	— 規模 362×
面積	— 壁高 3~5
長軸方位	—
壁溝幅	15~20 深さ 3
カマド位置	東辺 対称軸方位 —
その他	掘形調査

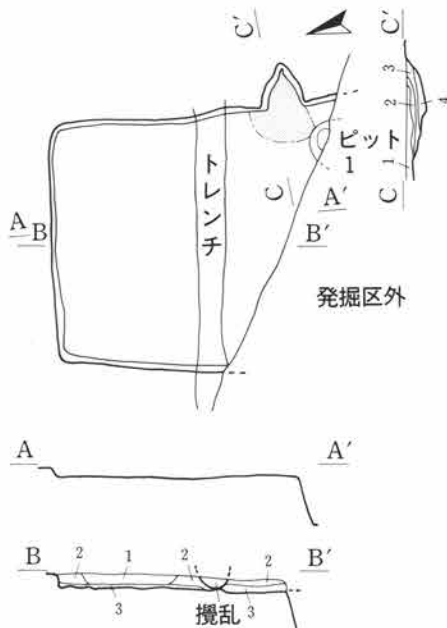
掘形

- 1 明褐色土 炭化物を含む
- 2 灰褐色砂質土 明褐色粘質土ブロックを含む

水糸高さ73.500m



第686図 田端地区E区1号住居跡

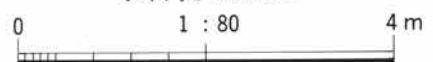


田端遺跡 田端地区E区2号住 (単位cm)

平面形	長方形 規模 269×255以上
面積	— 壁高 4~16
長軸方位	N13°E
カマド位置	東辺 対称軸方位 N100°E

- 1 茶褐色土 灰色砂を含む  
鉄分沈着
  - 2 明褐色土・灰褐色砂の混合  
炭化物を含む
  - 3 褐色土 明褐色土ブロックを含む
- カマド
- 1 灰褐色土 炭化物・砂を含む
  - 2 褐色砂 焼土・炭化物・灰色土を含む
  - 3 褐色砂 灰褐色土ブロック・炭化物・焼土を含む
  - 4 褐色砂 明褐色土ブロック・焼土ブロックを含む

水糸高さ73.500m



第687図 田端地区E区2号住居跡

床下の調査を行ったのみである。主柱穴とみられるピット・貯蔵穴は検出していない。壁溝は東辺・北辺・西辺で、わずか数cmの深さで遺存を確認した。カマドは東辺に設置されていたと考えられるが、燃焼部の突出部の痕跡及びカマド前の浅い掘り込みに炭化物・焼土粒子を検出したのみである。

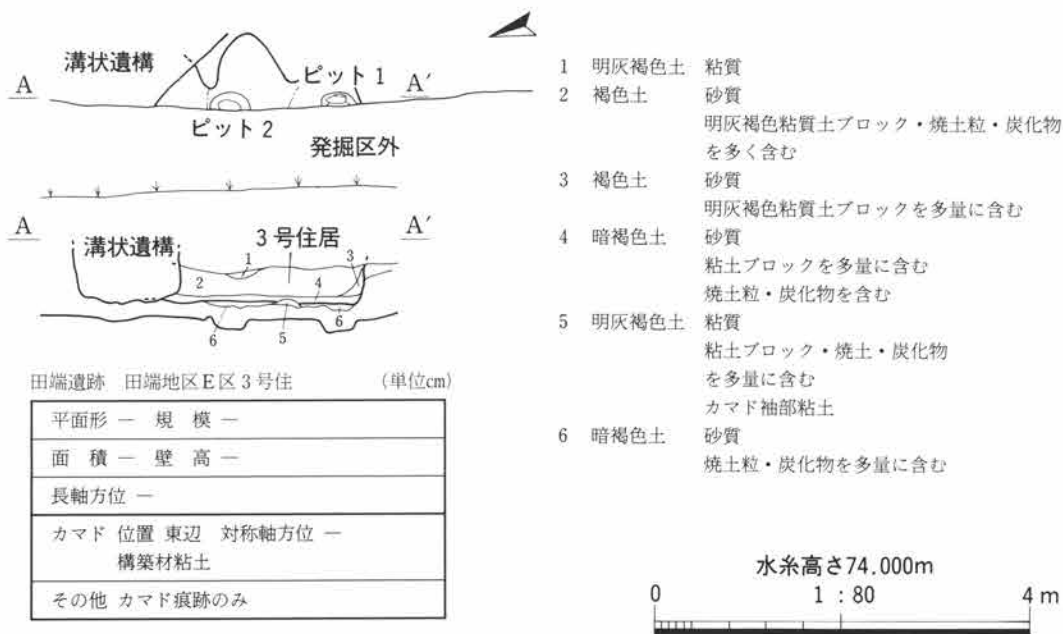
遺物は羽釜小片が出土している。時期は平安時代と考えられる。

田端E区第2号住居跡 (第687図、図版223)

N-Oライン・71km038m付近で検出した。確認面は第5層である。6・8号住居と重複し、本住居のほうが新しい。南側は本線敷きの中に入り、全体のプランを検出できなかった。東辺305cm、北辺243cm、西辺173cmを検出し、南北に長いプランである。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、10cm前後が遺存していた。床面は平坦である。主柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺で確認したが、殆ど削平されており、袖部等は検出できなかった。燃焼部の半分が壁外に突出するタイプである。カマド左脇にピット1を検出したが、全体の形状を確認できなかった。土器が1片出土しているのみである。掘形では、東辺北寄りに径60×70・深さ28cm、カマド前の中央部で径65×60cm以上・深さ12cmの掘り込みを検出した。遺物は図示できるものがない。時期は10世紀代か。

田端E区第3号住居跡 (第688・689図、図版224)

Qライン・71km038m付近で検出した。確認面は第5層である。32号住居、新しい溝状遺構(番号なし)と重複している。これらは32→3→溝状遺構の順に新しい。覆土は自然に堆積しており、殆ど褐色の砂質土で埋まっている。床面近くは焼土・炭化物・灰を多く含み、粘性が強くなる。壁は確認時に、



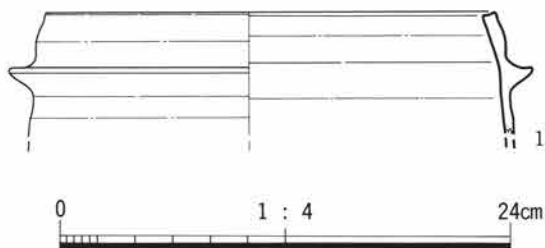
第688図 田端地区E区3号住居跡

すでに削平しており、調査区壁面で立ち上がりを検出した。25cm前後が遺存している。平面的には、カマドの痕跡を検出したのみで、本住居の大半は調査区外にあり、詳細は不明である。カマドは東辺にあり、浅くくぼんだ突出部で焼土を検出した。壁際の掘り込みは床下の調査で検出したものである。貯蔵穴は確認していない。南側のピット1からは、長さ23cmの石のほかに、土器片が出土しており、貯蔵穴の可能性が高い。

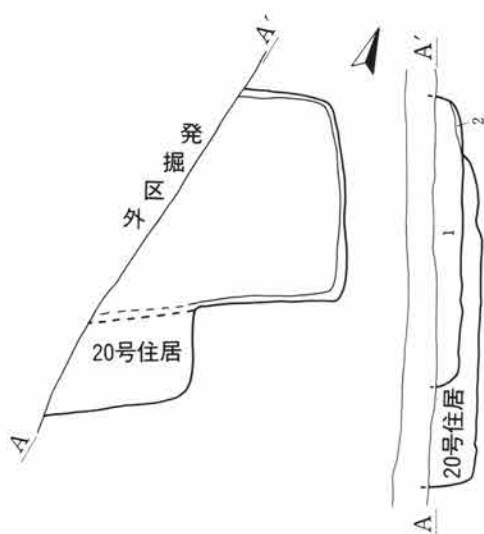
遺物は数点が出土したが、覆土出土のものが殆どである。第689図1は覆土出土の参考品である。時期は10世紀代か。

田端E区第25号住居跡（第690図、図版224）

U-Vライン・71km047m付近で検出した。確認面は第10層である。20号住居と重複しており、20→25号の順に新しい。本住居は20号住居と同時に調査を行ったため、南辺の一部が欠けており、西半分は調査区外にある。床下から20号のカマド煙道部を検出した。覆土は自然に堆積している。壁は15cmほど遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・カマド・



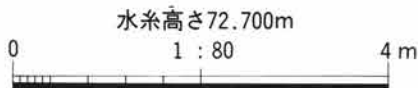
第689図 田端地区E区3号住居跡出土遺物



田端遺跡 田端地区E区25号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模	227×270以上
面積	壁高 9~15
長軸方位	N72°E
その他	南辺長さ270

- 1 暗褐色土 砂質  
炭化物粒・小石を少量含む
- 2 暗褐色土 砂質  
明褐色砂質土ブロックを多く含む



第690図 田端E区25号住居跡

貯蔵穴は検出していない。

遺物は石が1個出土したのみで、図示しなかった。

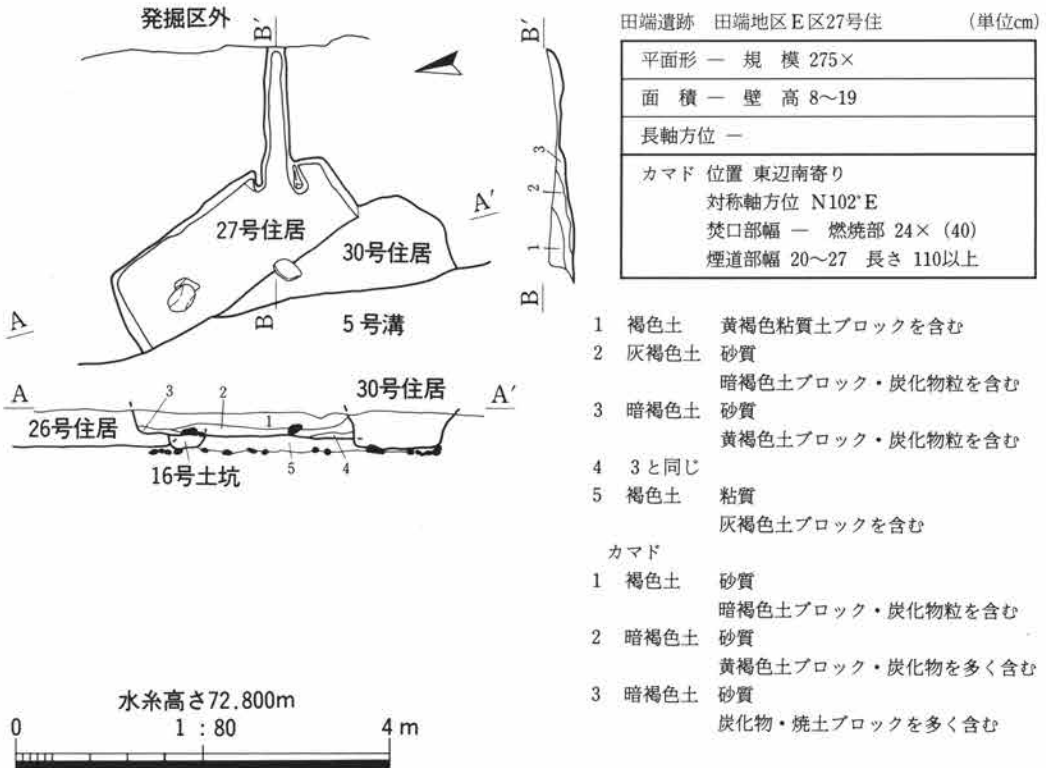
時期は検出層位から平安時代とみられる。

田端E区第27号住居跡（第691図、図版225）

R-Sライン・71km034m付近で検出した。確認面は第10層である。26・30号住居、5号溝、16号土坑と重複している。これらは26→16→27→30→5号の順に新しい。本住居の西半部は30号住居と全く重なり、さらにその上から5号溝が切り込んでいるため、西半部の状況は不明であり、南東隅・北東隅を検出したのみである。覆土は自然に堆積している。壁は15cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は砂質で炭化物が散布し、平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。カマドは東辺南寄りに検出した。燃烧部が壁の内側にあるタイプである。煙道は110cmほどを検出したが、調査区壁のなかに延びている。煙道は住居壁に対して直角に近い方向ではなく、斜めに延びている。

遺物は石が3個出土したのみで、土器片等は図示できるものがない。

時期は検出層位から、平安時代とみられる。



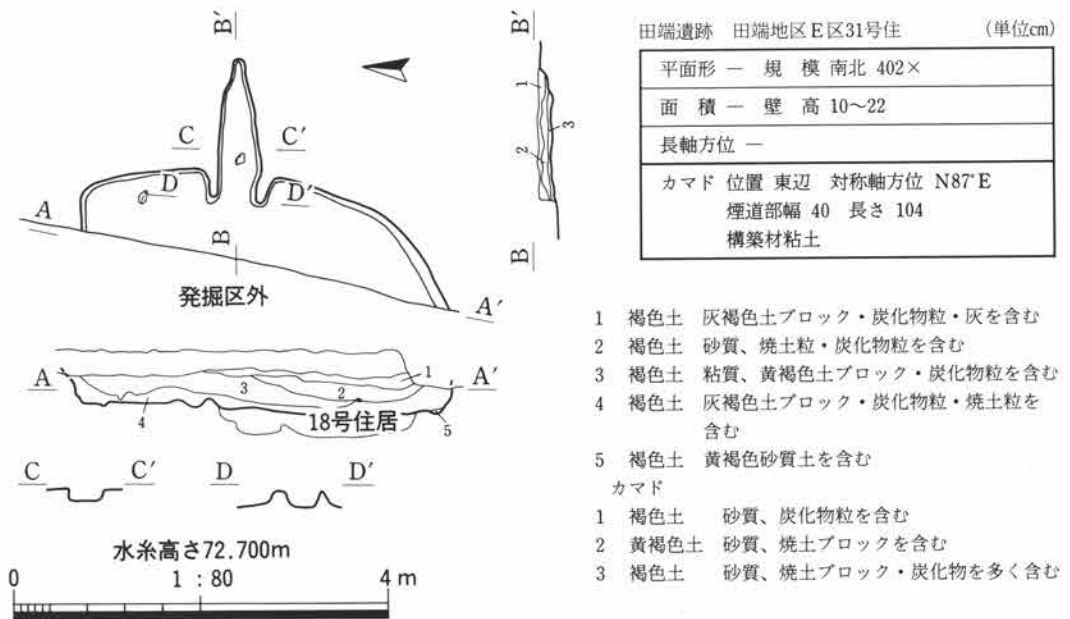
第691図 田端地区E区27号住居跡

田端E区第31号住居跡（第692・693図、図版226）

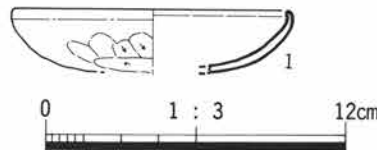
Sライン・71km042m付近で検出した。確認面は第10層である。18・24号住居と重複しており、18→24→31号の順に新しい。本住居は東半部を検出したのみで、西半分は調査区外にある。南東部は南辺の方向が歪んでいるためか、隅を形成していない。緩やかに曲がってしまい、調査時の確認不足とも考えられる。覆土は自然に堆積しており、全体に北側から流れ込んだ様相を呈している。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。燃焼部が壁の内側にあるタイプで、煙道は先端に行くに従って細くなる。左右の袖部はわずかながら遺存していた。

遺物は土器片が数点出土したのみである。第693図1はカマド前床直上から出土した。他の土器は小片で、図示できない。

時期は7世紀後半～8世紀とみられる。



第692図 田端地区E区31号住居跡



第693図 田端地区E区31号住居跡出土遺物

## 5 寺東地区

## 寺東地区第2・3号住居跡（第696・694～697図、図版227）

M-Oライン・70km879～900m付近で検出した。確認面は第4層である。両住居ともカマド痕跡を検出したのみで、住居のプラン等は不明である。

2号住居はカマド袖部とみられる部分を検出し、その西側に約1m四方の堅い床面を発見した。袖部とみられる部分の内側は堅く焼けていた。また、北へ向かって延びる壁の一部を検出したが、本住居の調査時点では調査区を拡張することができず、未確認である。床面の広がりからみて、本住居は東側にカマドをもつ住居と考えられる。

3号住居は石と土器片がいくつか出土した地点に焼土を検出し、その西側に50cmほどの広がりをもつ堅い床面を検出した。ここも2号住居と同様に、東側にカマドをもつ住居と考えられる。

遺物は両者のカマド痕跡を中心に、土器片がいくつか出土しているが小片のみであり、またどちらに属するか不明であるため、第697図1・2の遺物は参考資料である。

時期は確認層位から推定すると、平安時代のものと考えられる。

## 寺東地区第5号住居跡（第698・699図、図版227・228・263）

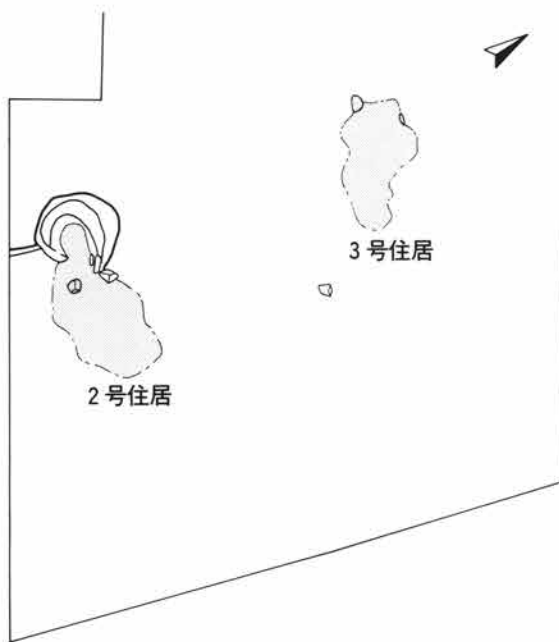
L-Mライン・70km894m付近で検出した。確認面は第4層である。北半分はトレンチ調査時に削平してしまい、検出できなかった。西辺は途中から東側に曲がっているように図示したが、本来直線的に延びていたものと考えられる。覆土は自然に堆積している。壁は5cm前後と浅く、斜めに立ち上がる。床面はやや凹凸がある。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに検出した。略方形を呈する燃烧部をもち、壁外に突出するタイプである。袖部には左右とも石が据えられていた。燃烧部からは拳大の石がいくつか出土し、その中央部で15cmほどの石を発見した。支脚として使われたものか。



第694図 寺東地区2号住居跡



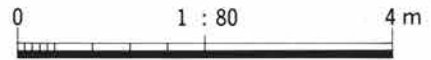
第695図 寺東地区3号住居跡



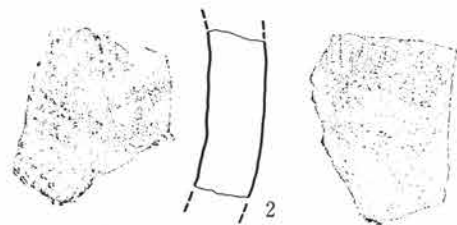
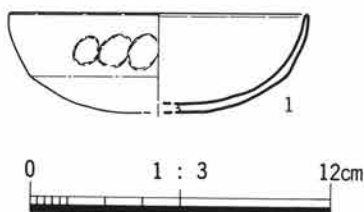
田端遺跡 寺東地区2・3号住居 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	—
長軸方位	—		
その他	両住居ともカマド痕跡のみ		

水糸高さ75.500m

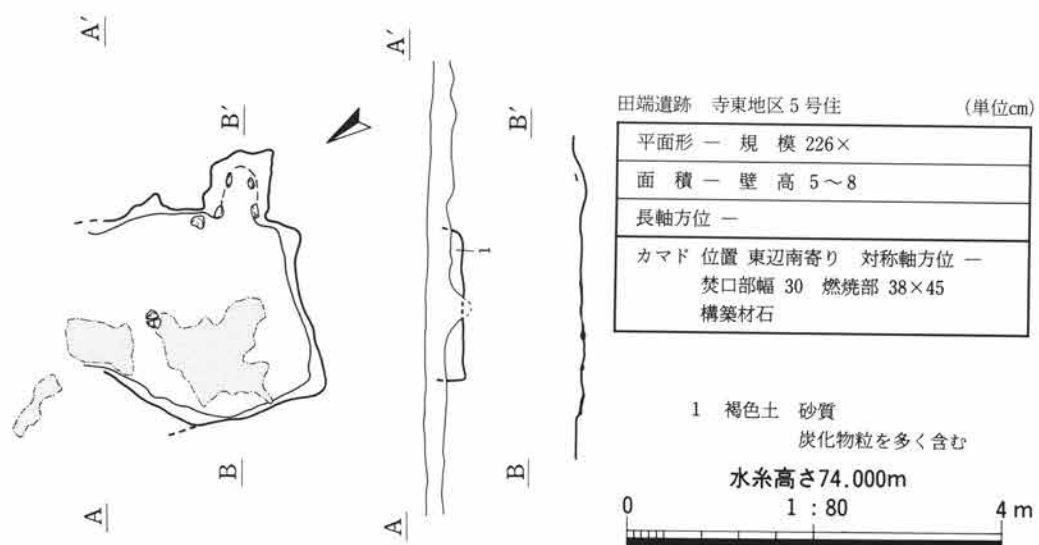


第696図 寺東地区2・3号住居跡

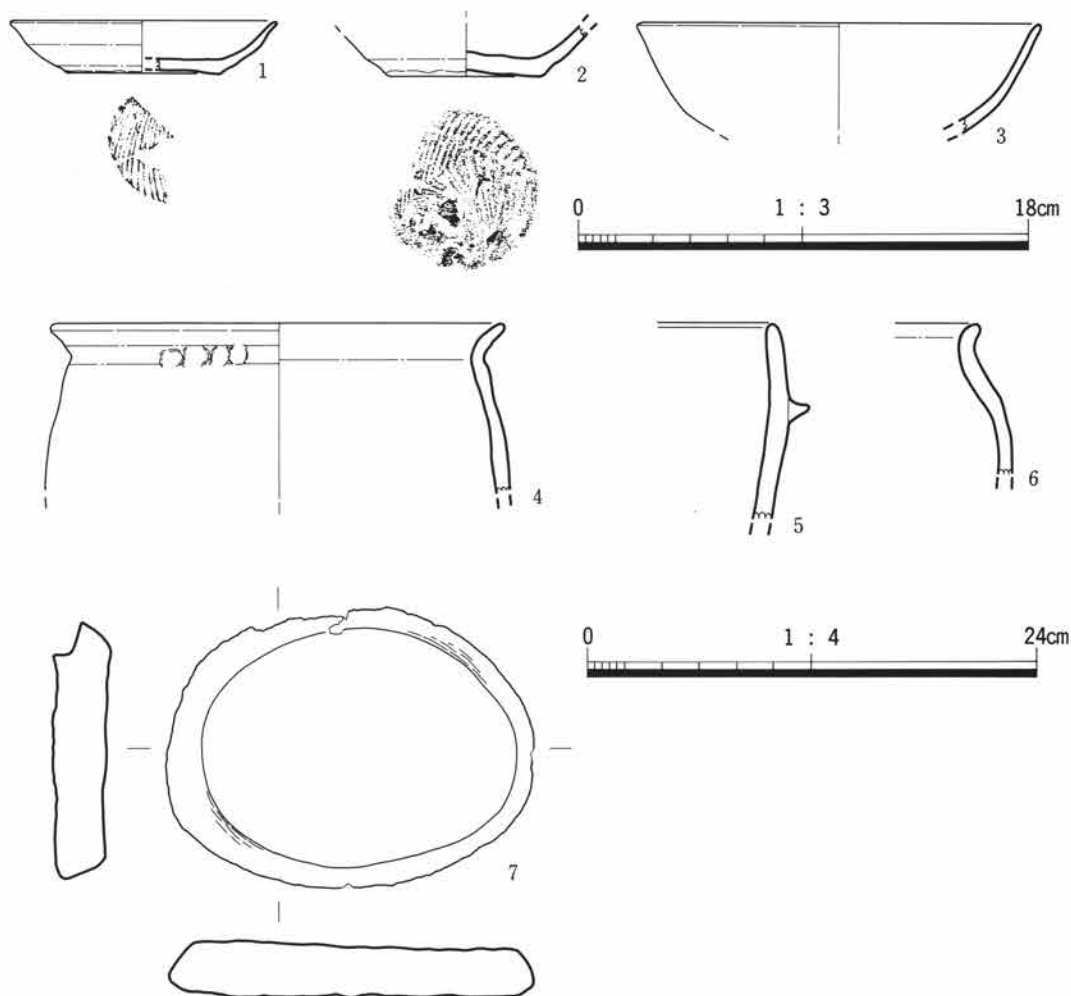


第697図 寺東地区2・3号住居跡出土遺物





第698図 寺東地区 5号住居跡



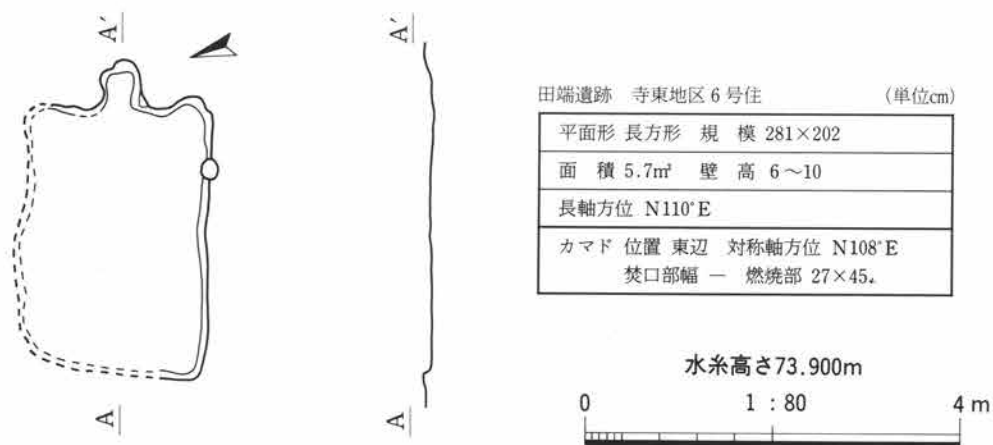
第699図 寺東地区 5号住居跡出土遺物

遺物はカマド内、住居南西隅・中央部から出土している。中央部では、床面近くで多量の炭化物が分布していた。なかには棒状を示すものや藁状に見えたものもあり、本住居の構築材の一部とも考えられる。第699図1～3・5はカマド内から、4は南西隅床面から出土した。6はカマド内・南西隅床面の破片が接合した。7は覆土出土の参考品で、扁平な石の平らな面にススが附着している。

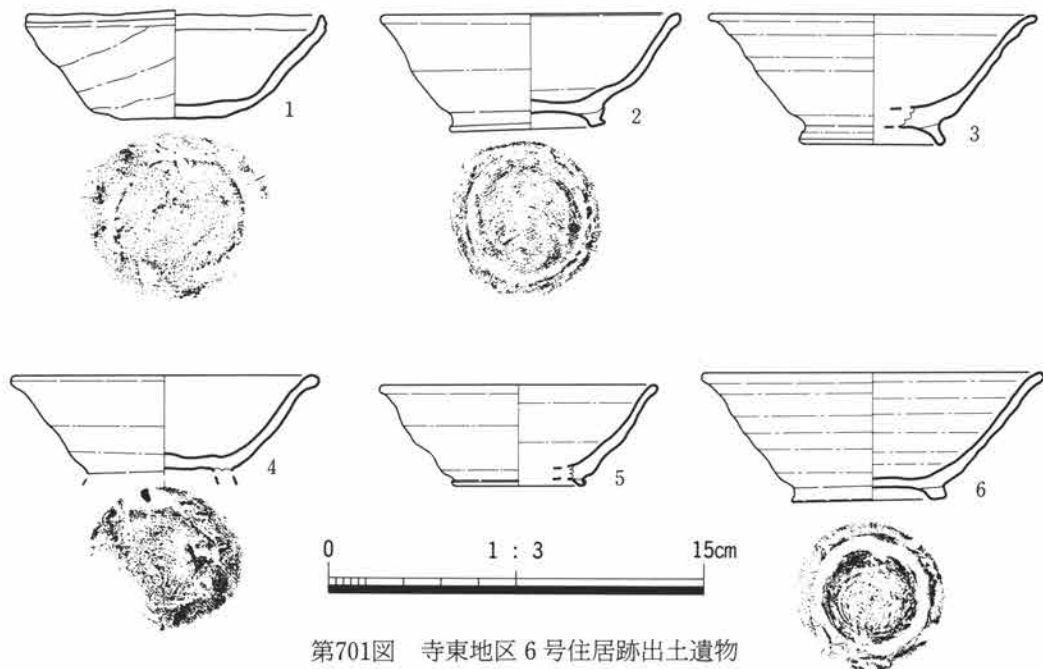
時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

寺東地区第6号住居跡 (第700・701図、図版228・263)

Lライン・70 km 932m付近で検出した。確認面は第4層である。10号住居と重複しており、10→6号の順に新しい。南辺東寄りのピットは本住居の上から掘り込んだものである。西辺から北辺にかけての



第700図 寺東地区6号住居跡



第701図 寺東地区6号住居跡出土遺物

壁のラインは掘形で検出したもので、南辺に比べてやや凹凸がある。全体に東西に長い長方形のプランを呈し、南東隅がやや突出している。壁は浅く、10cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺中央に検出した。燃烧部が壁外に突出するタイプである。煙道・袖部は検出していない。

遺物はカマド内、住居中央部で出土したが、中央部のものは覆土出土である。第701図1は南西隅床直上から、2～5はカマド内から、6はカマド左脇覆土出土の参考品である。

時期は9世紀後半とみられる。

#### 寺東地区第7号住居跡（第702～704図、図版229・263）

C-Dライン・70km924m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は南北に長く、北辺に比べて南辺の方が短い台形を呈する。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、8cm前後で、斜めに立ち上がる。床面は中央部がしっかりしており、周辺部は明確ではない。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りで検出した。燃烧部の半分が壁外に突出するタイプで、袖部は検出していない。カマド前の床面近くに30～40cm大の石が3個出土している。カマドの構築材の一部と考えられる。カマド奥壁は直立に近く立ち上り、よく焼けていた。貯蔵穴は南東隅に設置されていた。中から石・土器片が出土している。



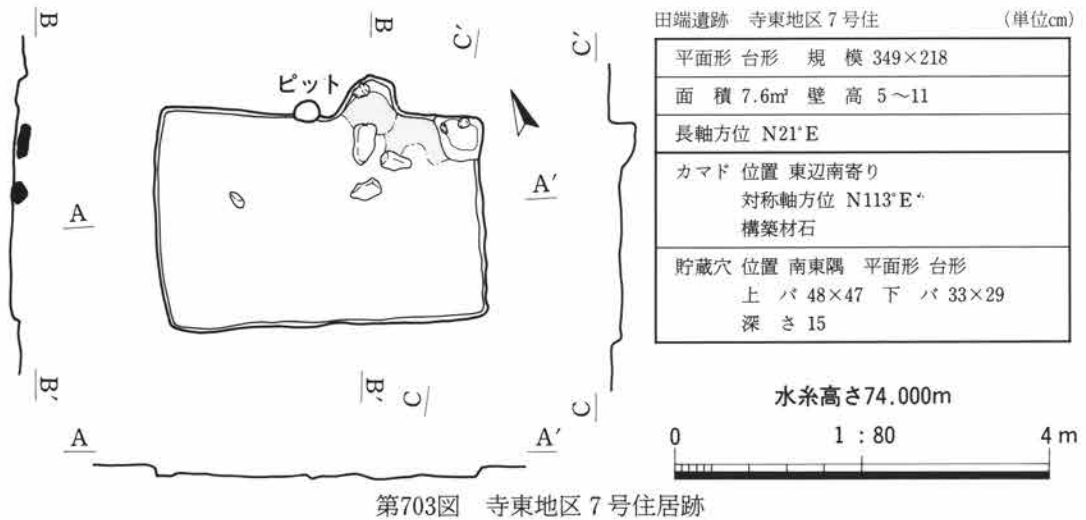
第702図 寺東地区7号住居跡

遺物はカマド周辺と貯蔵穴近くから出土している。第704図1は北辺中央床面から、2は南辺東寄り床面から出土した。3はカマド前・南辺東寄り床直上出土の破片が接合、4はカマド内・南西隅ピット出土の破片が接合した。

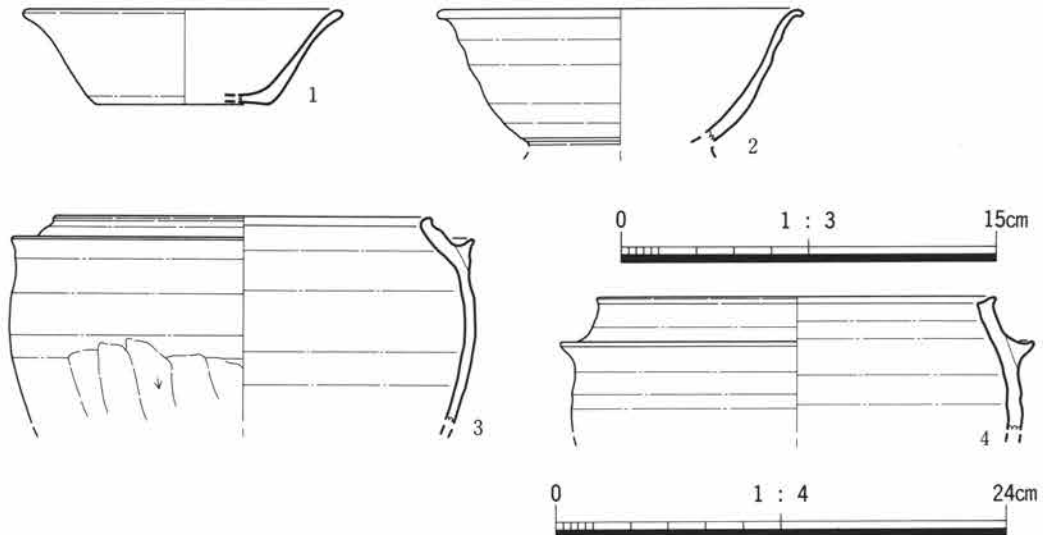
時期は10世紀後半頃とみられる。

寺東地区第8 a・b号住居跡（第705～709図、図版229～230・264）

Kライン・70 km 920m付近で検出した。確認面は第4層である。14号住居と重複しており、14→8 a・b号の順に新しい。両住居は第1次調査と第2次調査とに別けて調査されたものである。2次調査時に1次調査の時とは異なる所見を得ており、遺構図は整合しない。1次調査では8 a→8 b順に新しいという認定であったが、2次調査では両者とも床面の高さが同じで、東辺に検出したカマド前の床



第703図 寺東地区7号住居跡



第704図 寺東地区7号住居跡出土遺物



第705図 寺東地区8 a・b号住居跡(1)



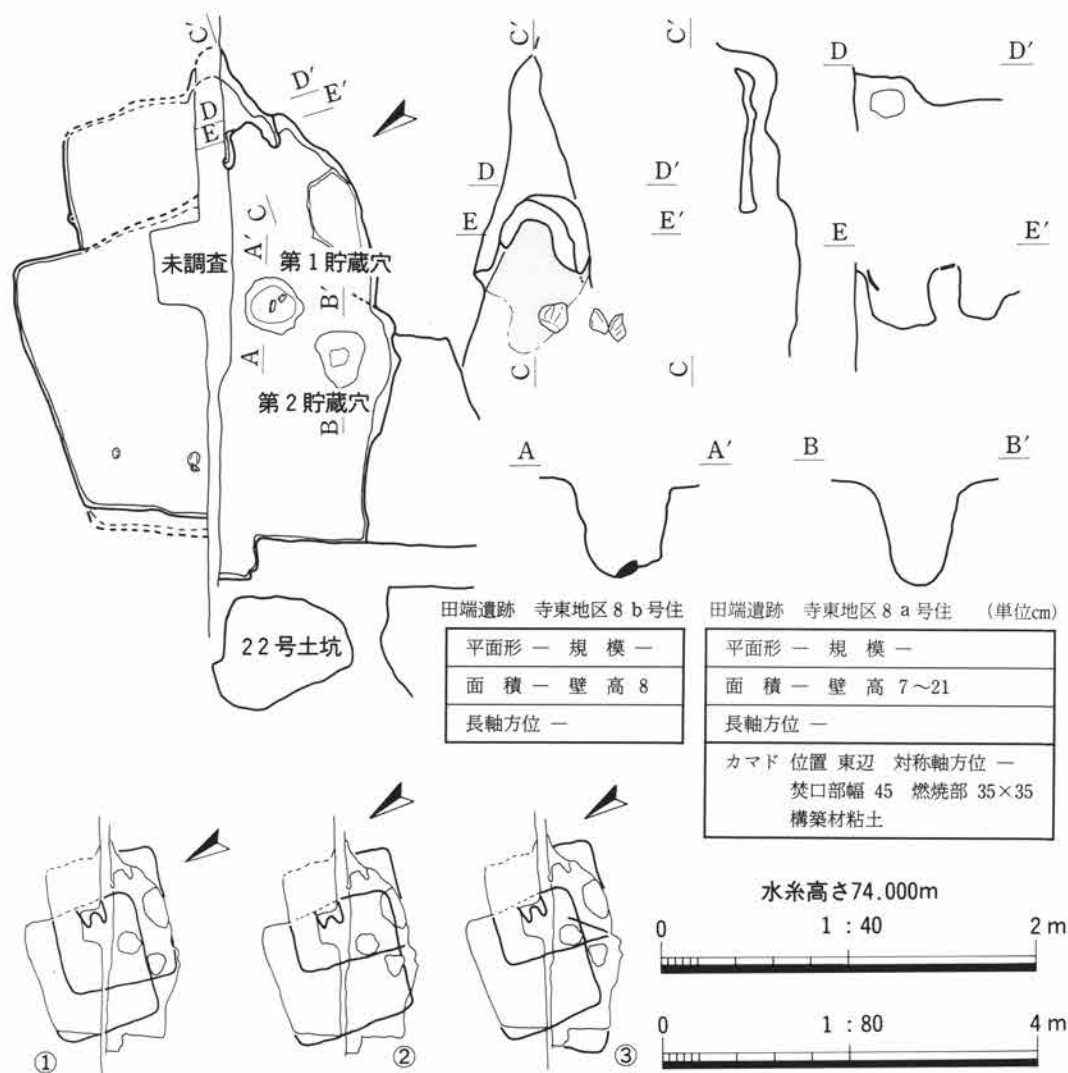
第706図 寺東地区8 a・b号住居跡(2)

面は西側に続いていた。貯蔵穴もNo.1・2の2基を検出したが、8a・8bのどちらに属するか不明である。また、南辺のラインは1次調査におけるラインと整合しない。

以上の調査経過から、8a・8b住居のプランを推定したのが第707図下に示した①～③の推定復原図である。①は第1貯蔵穴が8b住居に属し、第2貯蔵穴が8a住居に属する場合。②は第1貯蔵穴が8a住居に属し、第2貯蔵穴が8b住居に属する場合。③は南西部のラインを8cとして別の住居の存在を推定し、第2貯蔵穴は8cに属するものとする。第1貯蔵穴は8a・8bのどちらか不明である。いずれの場合も、8b住居のカマドは未調査区内にあるか、または8a住居によって破壊された可能性がある。

第1次調査の所見では、8a住居の床面は8b住居カマド推定位置の東側に検出している。8b住居の床面は、中央部に堅く締まった部分を検出している。したがって8b→8aの順に新しいと考えられる。支柱穴・壁溝等は検出していない。

遺物は8a住居カマド内、8b住居北西隅近く、第1・2貯蔵穴から出土している。

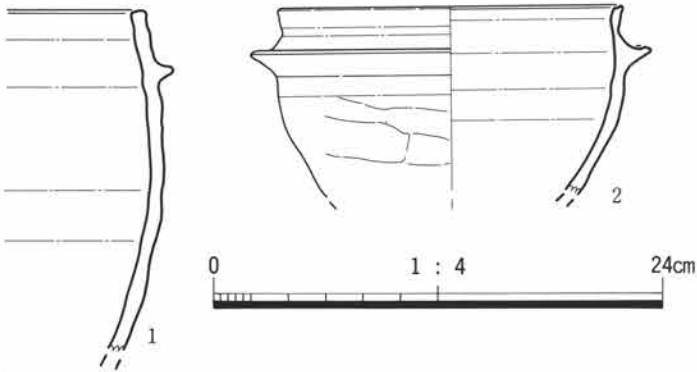


第707図 寺東地区8a・b住居跡

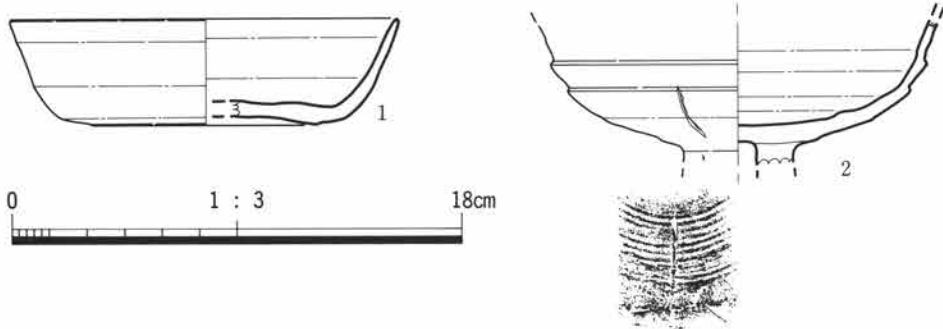
第708図は8 a 住居内出土の遺物で、1はカマド内から、2はカマド右袖中からそれぞれ出土した。  
 第709図は8 b 住居内出土の遺物で、1は南辺近くの床面から、2は南東部の床面からそれぞれ出土

した。ほかに刀子とみられる鉄器が出土しているが、小片のため図示しなかった。

時期は8 a 住居が10世紀後半～11世紀、8 b 住居が8世紀代と考えられ、住居の前後関係と矛盾しない。



第708図 寺東地区8 a号住居跡出土遺物



第709図 寺東地区8 b号住居跡出土遺物



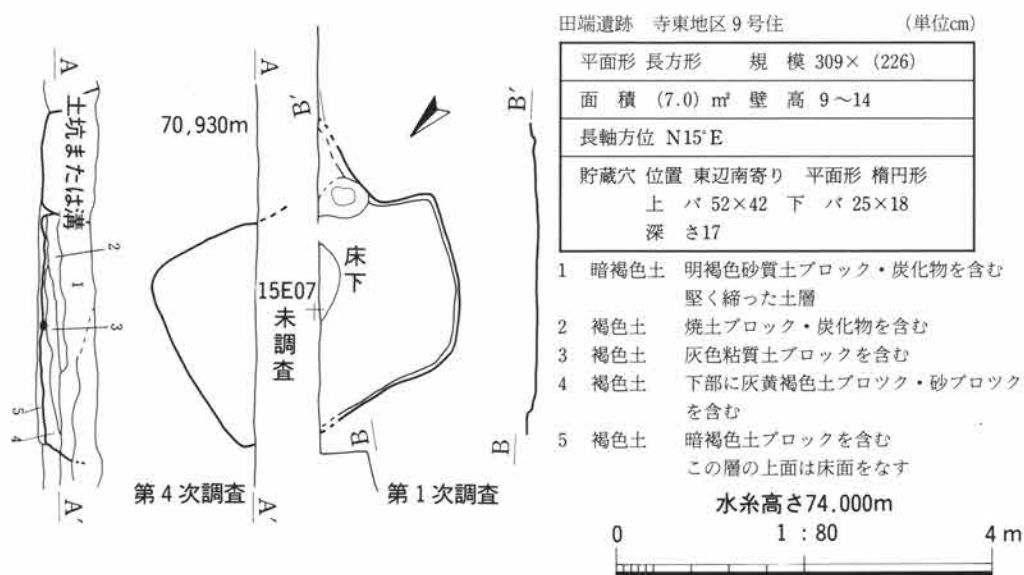
第710図 寺東地区9号住居跡(1)

寺東地区第9号住居跡 (第710~713図、図版231・264・265)

Oライン・70km933m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は第1次調査と第4次調査とにまたがって調査したもので、住居中央部は第4次調査に着手した時点ですでに側溝が敷設されており、十分な調査をすることができなかった。南半分は第1次で、北半分は第4次で調査したが、北半分はブ



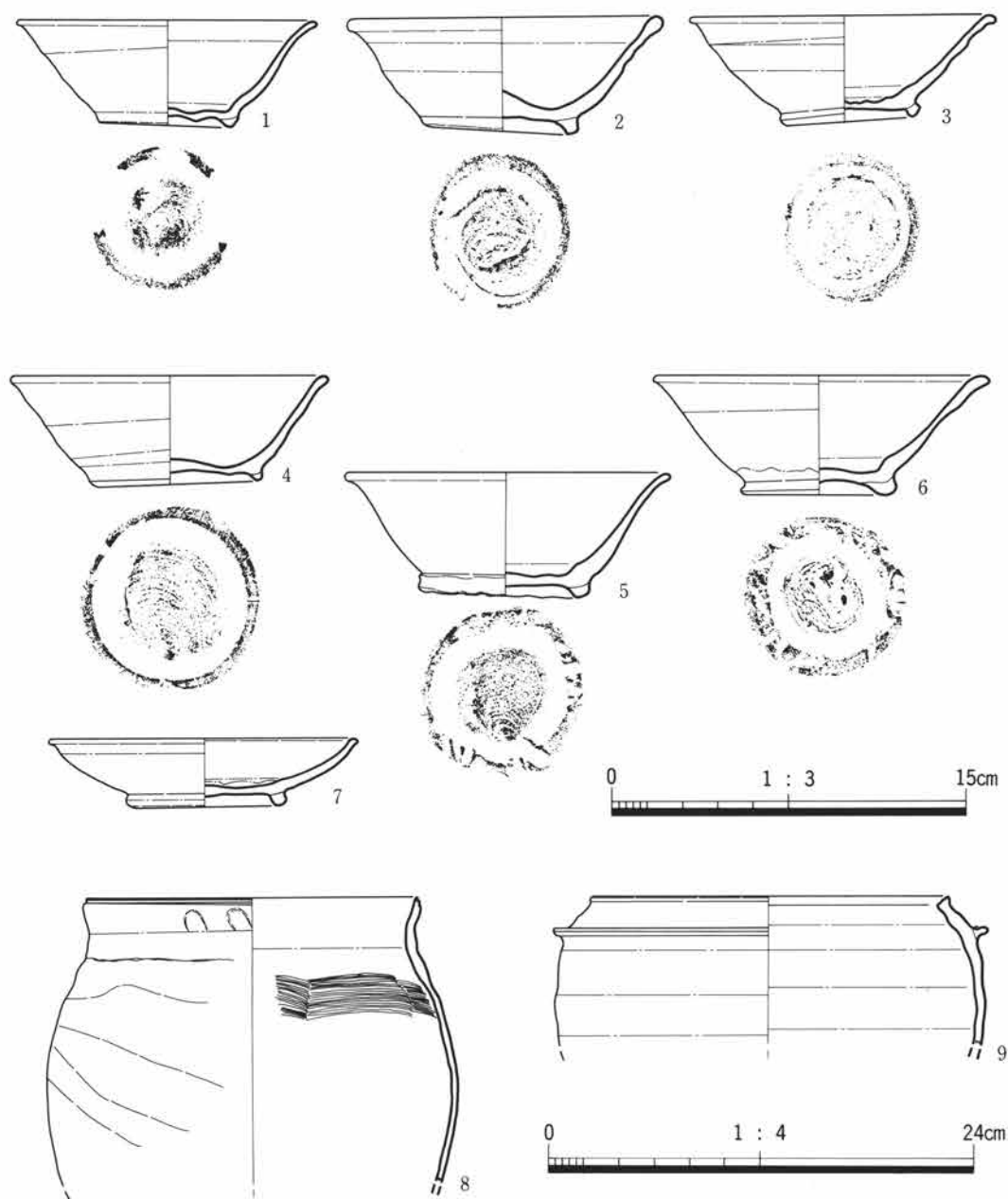
第711図 寺東地区9号住居跡(2)



第712図 寺東地区9号住居跡



ランを確認したのみである。全体に不整形な長方形を呈し、南辺は北辺に比べてやや短い。東側で土坑または溝と重複しており、本住居の方が古い。覆土は自然に堆積している。壁は調査区壁の土層断面で15~20cmほど確認し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは確認できなかったが、1次調査時の調査区壁の東寄りの床面近くで焼土・灰等を検出しており、東辺に設置されていたと考えられる。貯蔵穴は東辺の南寄りで検出した。中から土器が出土している。1次調査時に調査区壁直下の床下でスリ鉢状の掘り込みを検出しているが、4次調査時ではその北端を確認していない。



第713図 寺東地区9号住居跡出土遺物

遺物は主として第1次調査時の南半部で出土しており、住居中央部・貯蔵穴からの出土が多い。第713図1・9は中央南寄り床面から、2～4・6は貯蔵穴から、5・8はカマド前床面から、7は南辺中央床直上からそれぞれ出土した。

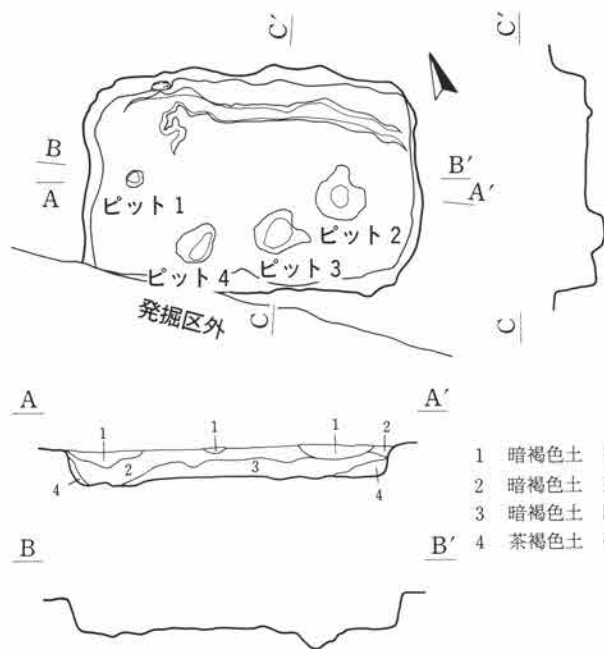
時期は9世紀後半～10世紀はじめ頃と考えられる。

寺東地区第12号住居跡 (第714・715図、図版232)

I-Jライン・70km899m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は調査区の南東に位置している。南西隅は調査区外にあるが、ほぼ全形を検出した。東西に長い長方形のプランをもつ。覆土は自然に堆積している。壁は比較的遺存状態が良好で、高さ40cm前後あり、斜めに立ち上がる。床面は



第714図 寺東地区12号住居跡

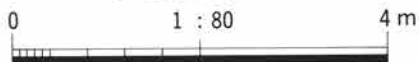


田端遺跡 寺東地区12号住 (単位cm)

平面形	長方形	規模	358×230		
面積	(8.2) m <sup>2</sup>	壁高	33~46		
長軸方位 N112°E					
主柱穴	1	2	3	4	
上バ径	18	52			
下バ径	11	20			
深さ	7	18			
主柱穴間の距離(心心)					
1-2		220			
その他					
ピット3		43×52・深さ16			
ピット4		45×33・深さ38			

- 1 暗褐色土 茶褐色土ブロック・小石を含む
- 2 暗褐色土 茶褐色土粒・炭化物粒を含む
- 3 暗褐色土 灰・炭化物を含む
- 4 茶褐色土 砂質

水糸高さ74.000m



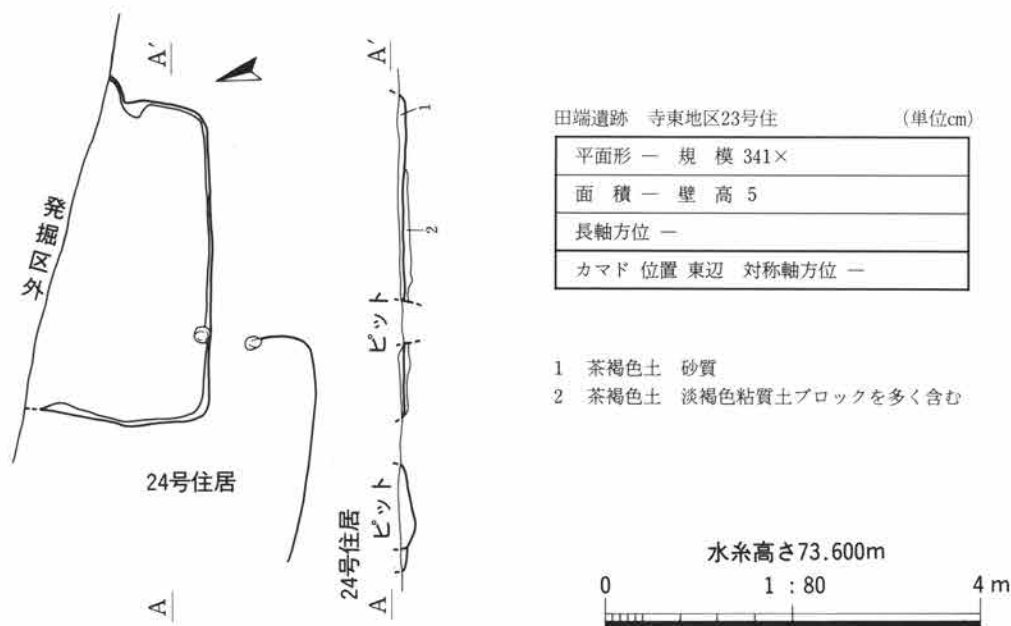
第715図 寺東地区12号住居跡

中央部がやや高く、周辺部に向かって低くなる。支柱穴はピット1・ピット2が考えられる。北辺に平行にのびる幅20cm前後の浅い溝は、壁溝の可能性はあるが、北辺直下に位置していないことから、ここでは保留しておきたい。カマド・貯蔵穴は検出していない。

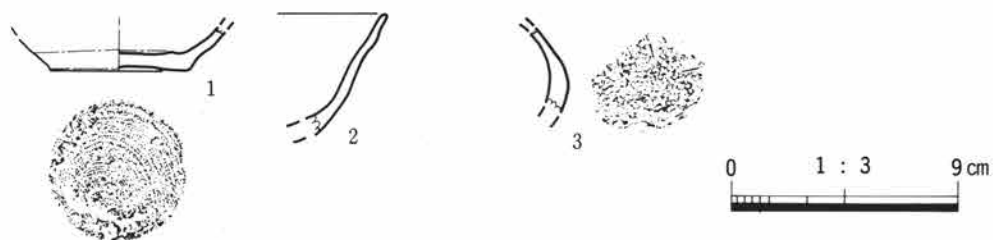
遺物は住居壁近くからいくつか出土しているが、図示できるものがない。  
時期は不明である。

寺東地区第23号住居跡（第716・717図、図版265）

P-Qライン・71km003m付近で検出した。確認面は第4層である。24・36号住居と重複しており、23→24号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北半は調査区外にあるため全体のプランは不明である。遺存状態は悪く、ほとんど掘形面の調査となってしまった。壁は浅く、5cm前後が遺存していた。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺で一部を検出したが、右袖部の右脇部分までが調査区内にある。従って、詳細は不明である。掘形では中央部に



第716図 寺東地区23号住居跡



第717図 寺東地区23号住居跡出土遺物

径90cm前後・深さ10cmのほぼ円形を呈するピットと、南西部の24号住居カマド痕跡の北側に径35cm・深さ7cmほどのピットを検出した。

遺物は少ない。第717図2・3はカマド内から出土した。1は南辺中央掘形出土の参考品である。1の外面は3～5mm大の小さな刺突痕が外面全体にみられる。

時期は9世紀代とみられる。

#### 寺東地区第24号住居跡（第718～720図、図版265）

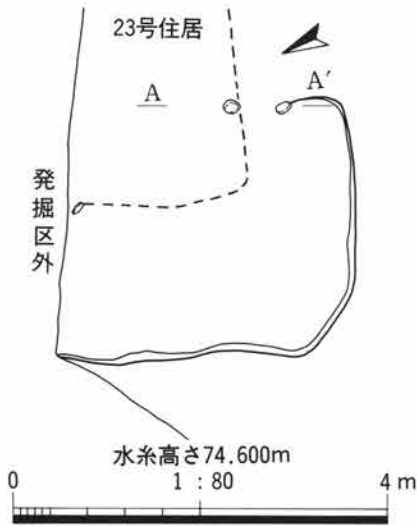
P-Qライン・71 km005m付近で検出した。寺東地区の北西隅に位置する。確認面は第4層である。23・36号住居、52号土坑と重複しており、23→24→36号の順に新しい。52号との前後関係は不明である。本住居は重複する23号住居と同時に調査に着手したため、東辺の北半部のプランが検出できなかった。南東隅と南西隅を検出した結果、南北に長い長方形のプランをもつことが判明した。北辺は調査区外にある。壁は浅く、5cm前後が遺存していた。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出していない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。左右の袖石を直立した状態で検出したが、煙道部・燃焼部は不明である。左袖石は23号住居の南辺にかかっており、このことから本住居の方が新しいと考えた。

遺物は北西隅から甕の破片が1個体分出土しているが、これは52号土坑のものである可能性がある。第720図1は北東寄り床直上から、4は南東隅床直上から出土した。2・3は覆土出土の参考品である。

時期は10世紀後半～11世紀とみられる。



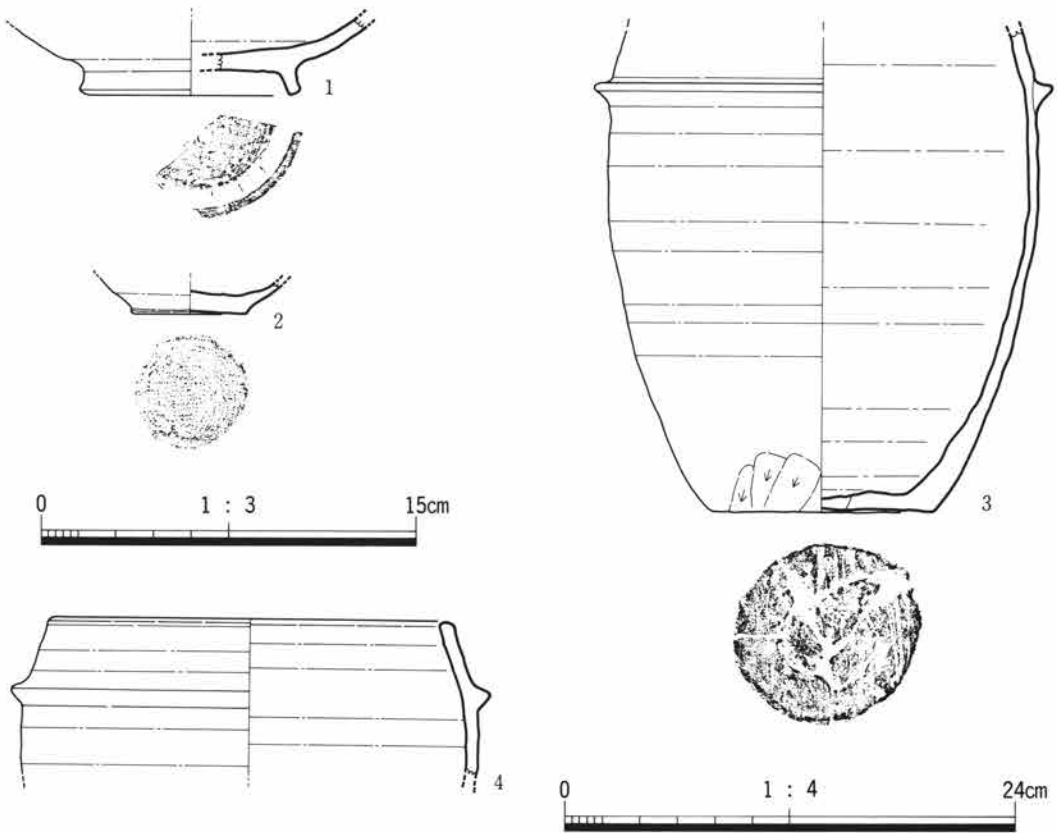
第718図 寺東地区24号住居跡



田端遺跡 寺東地区24号住 (単位cm)

平面形 (長方形) 規模	265×310以上
面積	壁高 10~16
長軸方位	(N21°E)
カマド 位置	東辺南寄り
焚口部幅	38
燃烧部	—
構築材	粘土・石

第719図 寺東地区24号住居跡



第720図 寺東地区24号住居跡出土遺物

寺東地区第25号住居跡（第721～724図、図版232・266）

K-Lライン・71km003m付近で検出した。確認面は第4層である。37号住居、1号溝と重複しており、37→25→1号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北西部は1号溝によって失っている。プランは南西隅を検出したのみである。南西部に向かって低くなっているため、床面の確認範



第721図 寺東地区25号住居跡（1）



第722図 寺東地区25号住居跡（2）

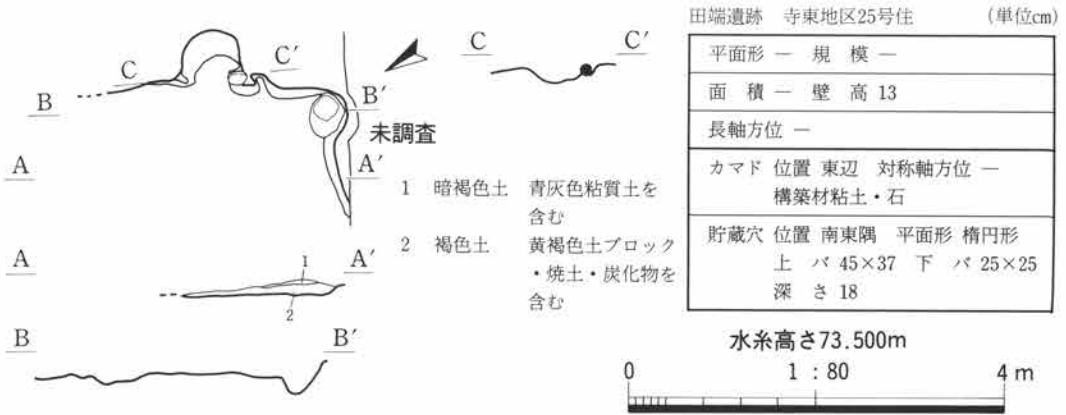
囲はさらに狭くなる。遺存状態が悪く、覆土は15cm程度である。従って壁は浅く、高いところで13cmしかない。支柱穴・壁溝は検出していない。カマドは東辺で検出したが、右袖部の石を検出したのみで、この石も元の位置から移動しているようである。貯蔵穴は南東隅で検出した。この部分の壁は突出している。

遺物は貯蔵穴からの出土がある。第724図1・3は貯蔵穴内から、4はカマド内からそれぞれ出土した。2はカマド前覆土出土の参考品である。

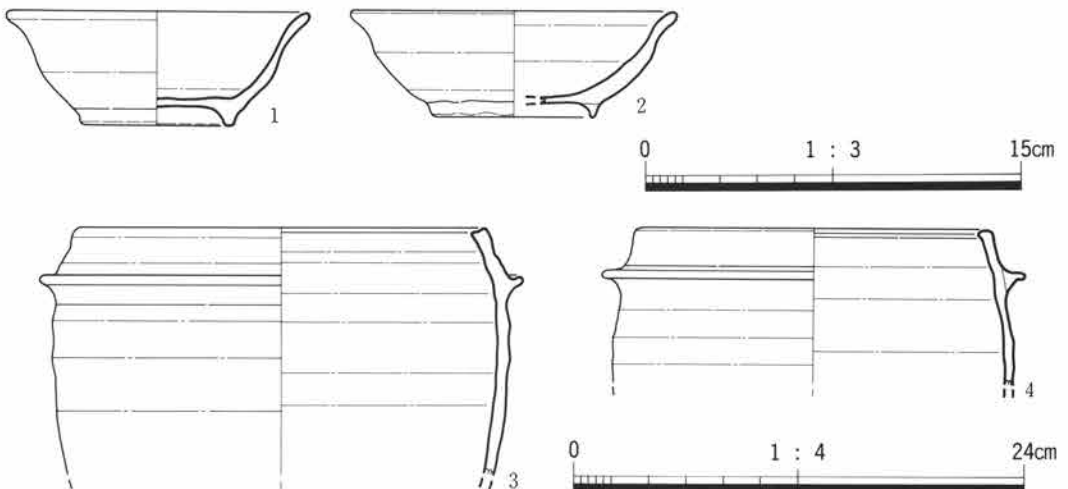
時期は10世紀前半頃と考えられる。

寺東地区第26号住居跡 (第725・726図、図版266)

M-Nライン・70km988m付近で検出した。確認面は第4層である。39・40号住居と重複しており、26・39→40号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、東辺の一部と南東隅を確認したが、

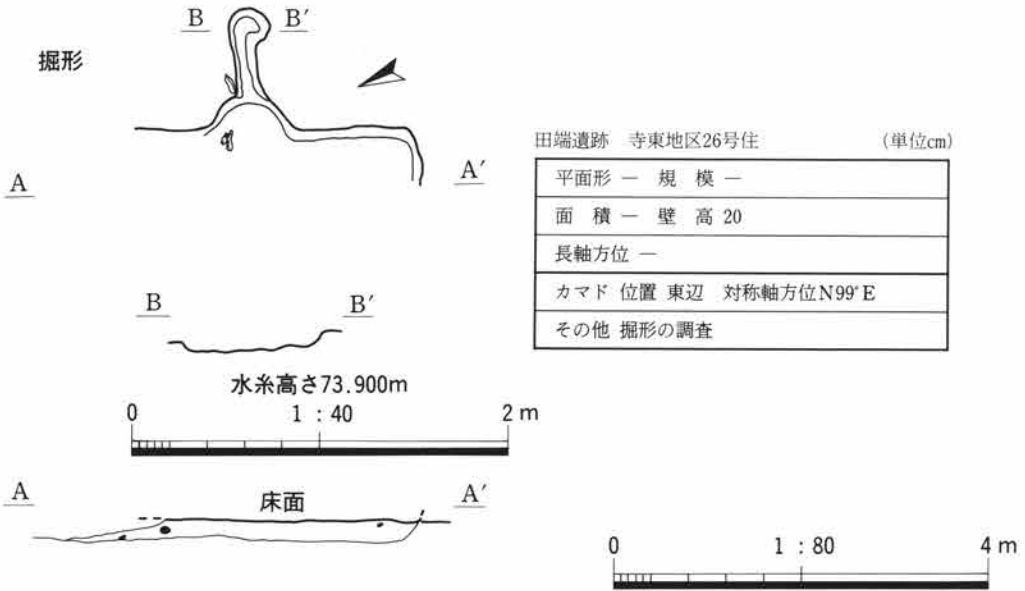


第723図 寺東地区25号住居跡

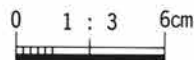
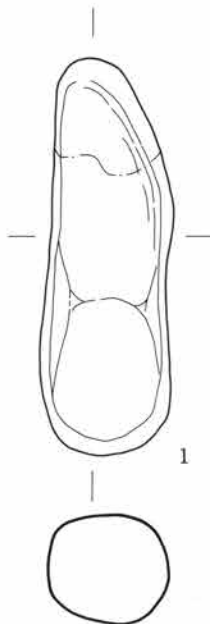


第724図 寺東地区25号住居跡出土遺物

すでに床面が露出しており、掘形の調査になってしまった。掘形の掘り込みは比較的深く20cm前後あるが、北へ向かって地形が低くなるため、住居の大半は失っている。カマドは東辺に設置されていた。煙道部を約100cm検出したが、掘形の調査であるため計測値表には示さなかった。床面はカマド周辺のみ遺存していた。その他の内部施設は検出していない。



第725図 寺東地区26号住居跡



第726図 寺東地区26号住居跡出土遺物

遺物は燃烧部とみられる部分で小片が出土している。第726図1はカマド前覆土出土の参考品である。一端にススが付着している。長さ15.7cm、径4.9cmで、重さは630gである。

時期は不明。

#### 寺東地区第27号住居跡

(第727・728図、図版233・266)

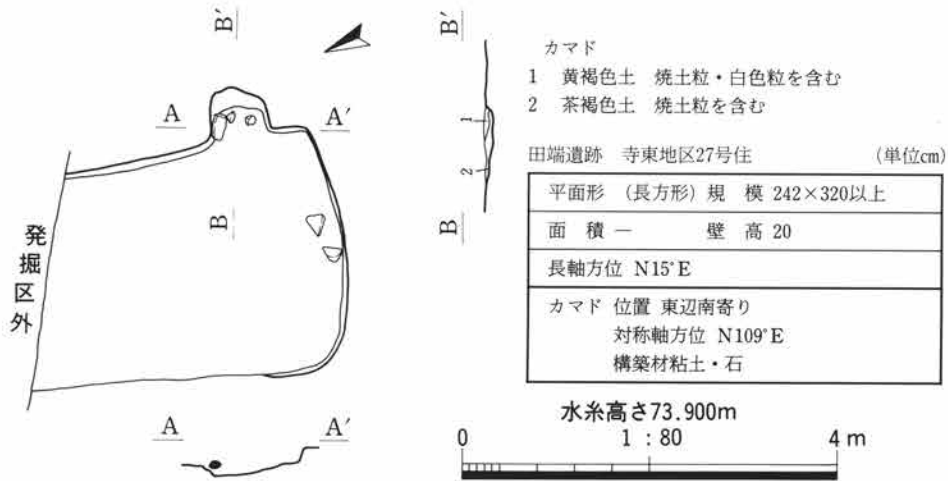
P-Qライン・70km970m付近で検出した。確認面は第4層である。42・49号住居と重複しており、49→42→27号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北辺は調査区外にある。南東隅・南西隅を確認している。壁は北側の調査区壁寄りが浅い。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。燃烧部が壁外に



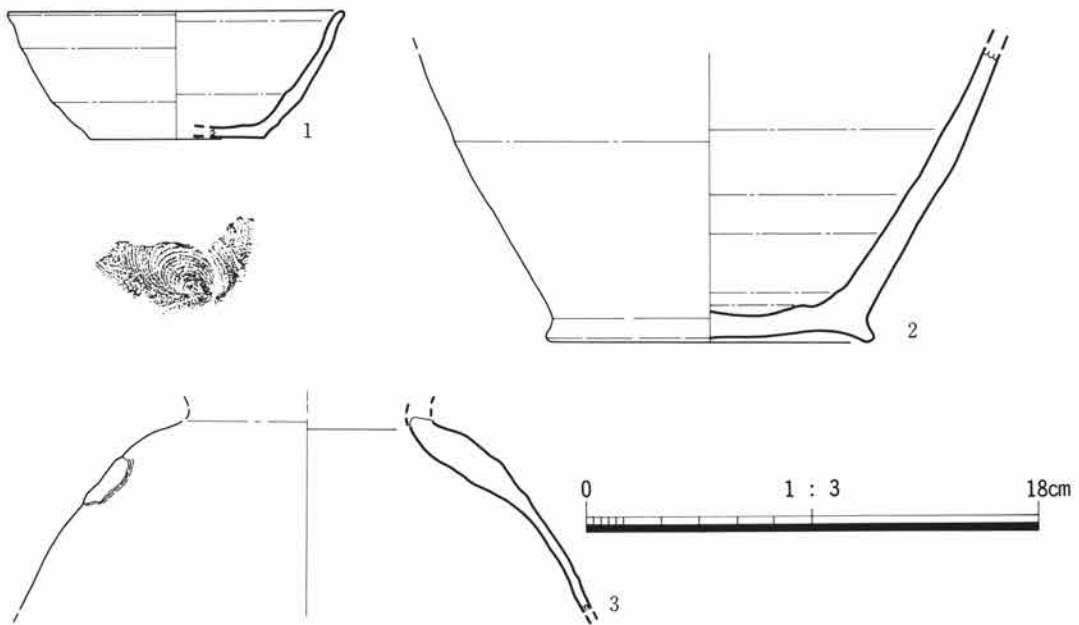
突出するタイプである。燃焼部北側の底面から浮いた状態で長さ30cm・径13cmほどの石が出土している。

遺物は南半部からいくつか出土している。第728図1・2は南辺の壁際から出土した。3は覆土出土の参考品である。肩部に把手状のものが剥がれた痕跡がある。

時期は9世紀後半と考えられる。



第727図 寺東地区27号住居跡



第728図 寺東地区27号住居跡出土遺物

寺東地区第28号住居跡 (第729・730図、図版233・267)

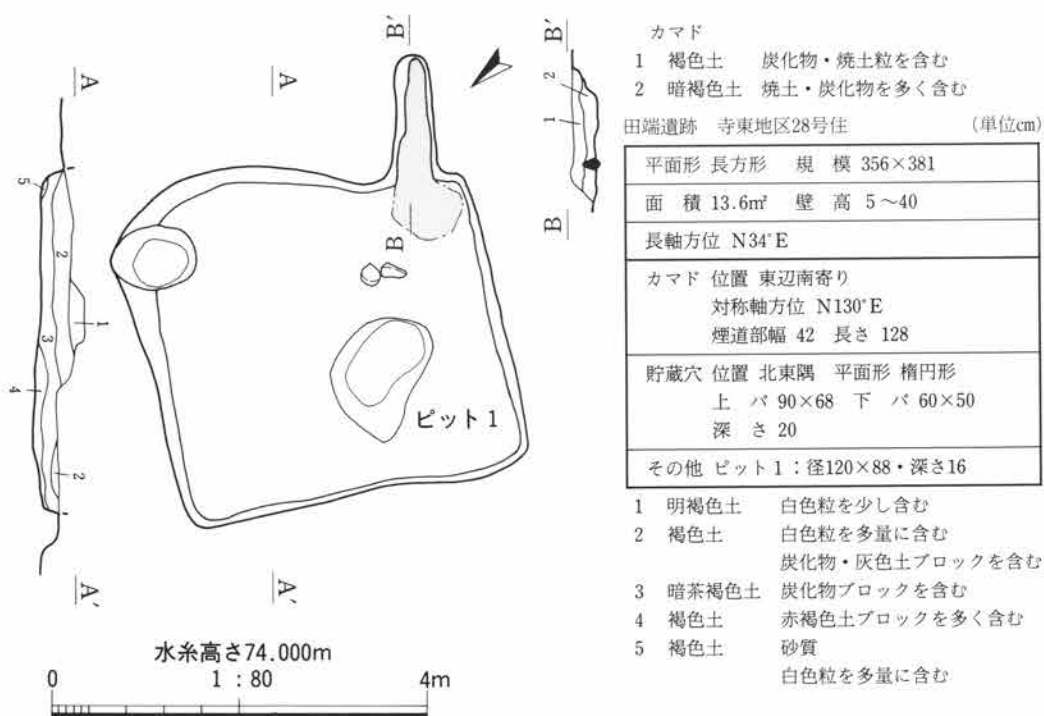
M-Nライン・70km963m付近で検出した。確認面は第4層である。48号住居と重複しており、48→28号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、ほぼ全形を確認することができた。北東隅にやや丸みがあり、東辺は外方に向かって丸く張り出す。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。袖部は遺存せず、燃焼部とみられる壁内部に炭化物が散布していた。燃焼部が壁内部にあるタイプであろう。煙道は120cm以上検出した。貯蔵穴は北東隅で検出した。楕円形を呈するスリ鉢状の掘り込みである。中から土器片が出土している。ピット1は住居中央南寄りにあり、略楕円形を呈する。浅いスリ鉢状を呈する。ここでも中から土器片が出土している。

遺物はカマド内、貯蔵穴内、ピット1の中から出土している。第730図1～3はカマド内から出土した。3は甗の可能性ある。4の砥石は覆土出土の参考品である。

時期は10世紀後半～11世紀とみられる。

寺東地区第29号住居跡 (第731～733図、図版234・267)

M-Nライン・70km956m付近で検出した。確認面は第4層である。45号住居と重複しており、45→29号の順に新しい。本住居は西辺を検出したのみで、他の辺は推定である。また、住居床面は確認できず、掘形を検出した。従って、カマド煙道とみられる部分もわずかに焼土・炭化物の分布から推定したものである。住居内諸施設は全く確認していない。



第729図 寺東地区28号住居跡

遺物は北部でいくつか出土している。第733図1は北辺壁際床直上から、2・3は北辺壁際の床面からそれぞれ出土した。

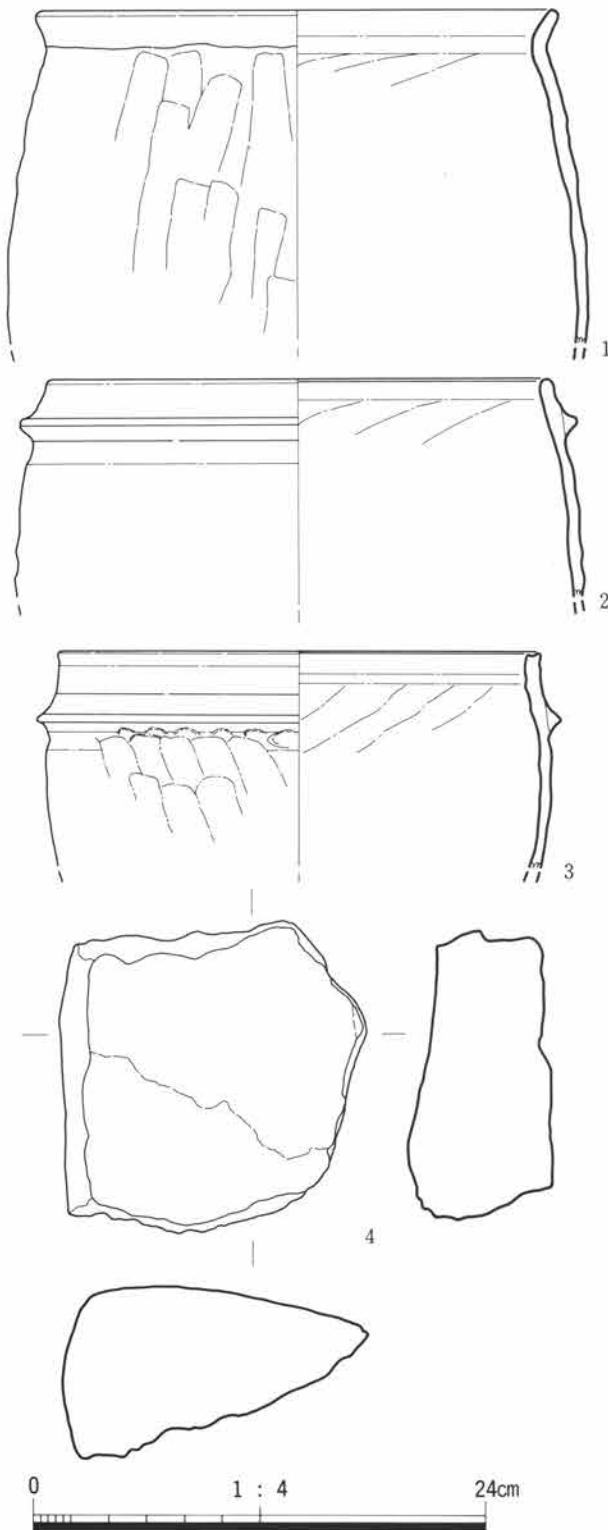
時期は10世紀後半～11世紀とみられる。

### 寺東地区第34号住居跡

(第734～738図、図版234・268・269)

Nライン・71km007m付近で検出した。確認面は第10層である。35号住居、1号溝と重複しており、35→34→1号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、南部は1号溝によって失っている。西半部は調査区外にある。プランは北西隅を検出したのみである。覆土からは人頭大の石が多く出土した。壁は30cm前後が遺存し、斜めに立ち上がる。床面は下層の礫面が露出し、細かい凹凸がある。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺に設置されていた。袖部の遺存は不良で、燃烧部が壁の内側にあるタイプである。煙道は重複する35号住居のカマドを破壊して作っていた。燃烧部と煙道部との境にはゆるい段をもつ。燃烧部中央には10cm大の石があり、支脚として使用されたものと考えられる。貯蔵穴はカマド右脇の南東部で検出した。貯蔵穴の壁は石で形成している。

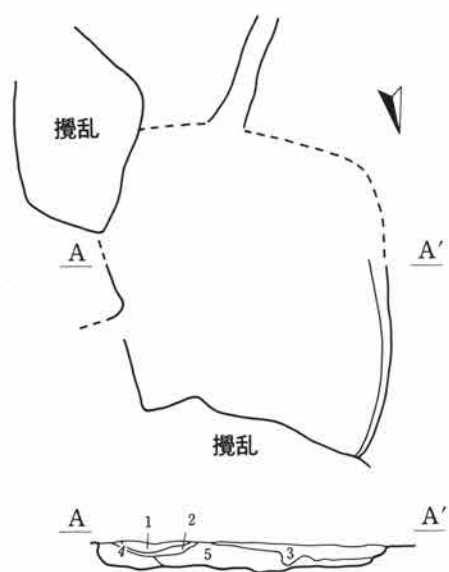
遺物は北東隅、カマド周辺から出土している。第737・738図1・12・14・17は南東部床面から、3・13・18は貯蔵穴内から、4・20はカマド煙道部先端から、5は貯蔵穴底面から、6は南東隅床直上から、7・9・15は北辺東寄り壁際の床面から、8はカマド煙道部から、10は東辺南寄り壁際床面から、11は南東隅床面から、16・23はカマド内から、19はカマド右脇壁際床面から、24はカマド右袖前の床面からそれぞれ出土



第730図 寺東地区28号住居跡出土遺物



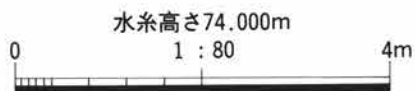
第731図 寺東地区29号住居跡



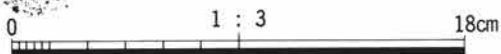
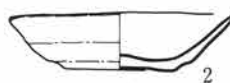
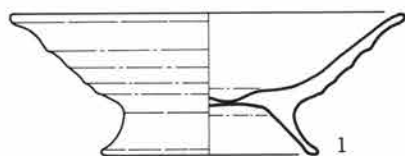
- 1 黒褐色土 炭化物を含む
- 2 黄褐色粘質土
- 3 茶褐色土 砂質  
赤色土ブロックを含む
- 4 茶褐色土 黒色土・砂ブロックを含む
- 5 黄褐色土 炭化物を含む

田端遺跡 寺東地区29号住 (単位cm)

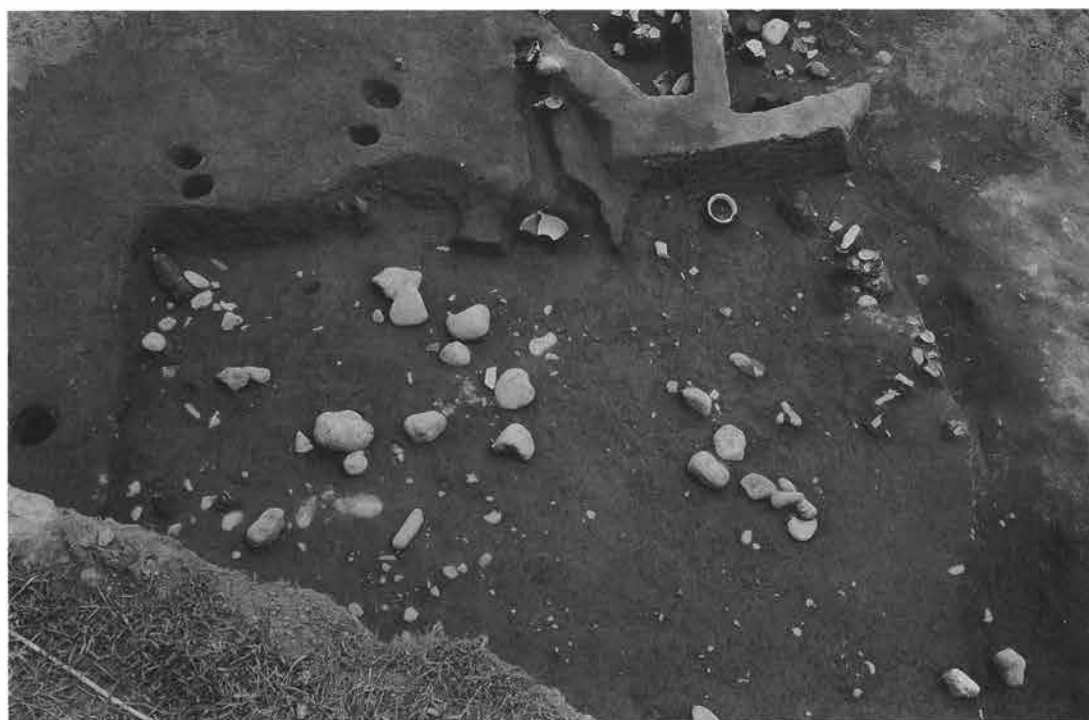
平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	16
長軸方位	—		
カマド位置	南辺	対称軸方位	—
その他	掘形のみ検出		



第732図 寺東地区29号住居跡



第733図 寺東地区29号住居跡出土遺物



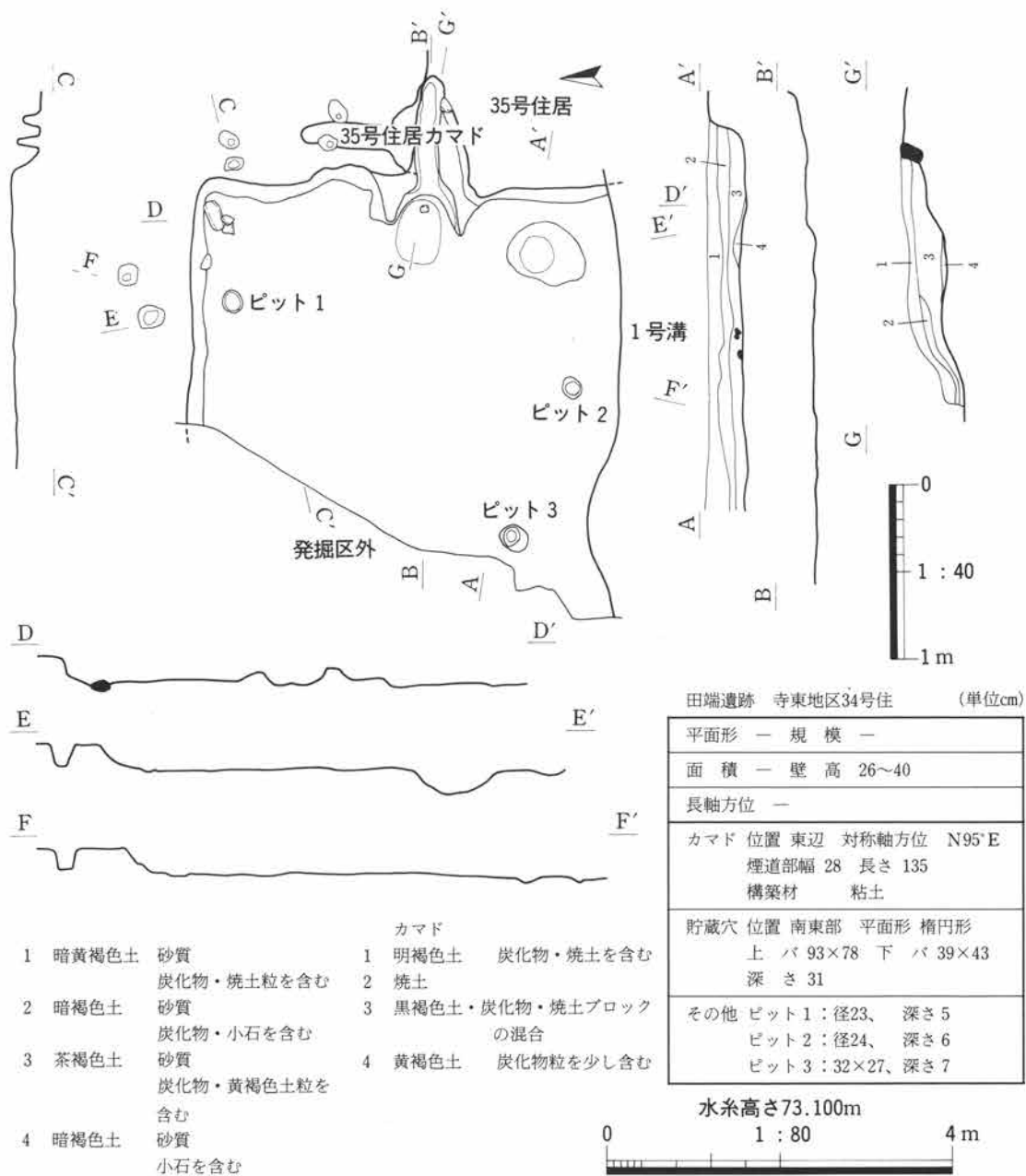
第734図 寺東地区34号住居跡（1）



第735図 寺東地区34号住居跡（2）

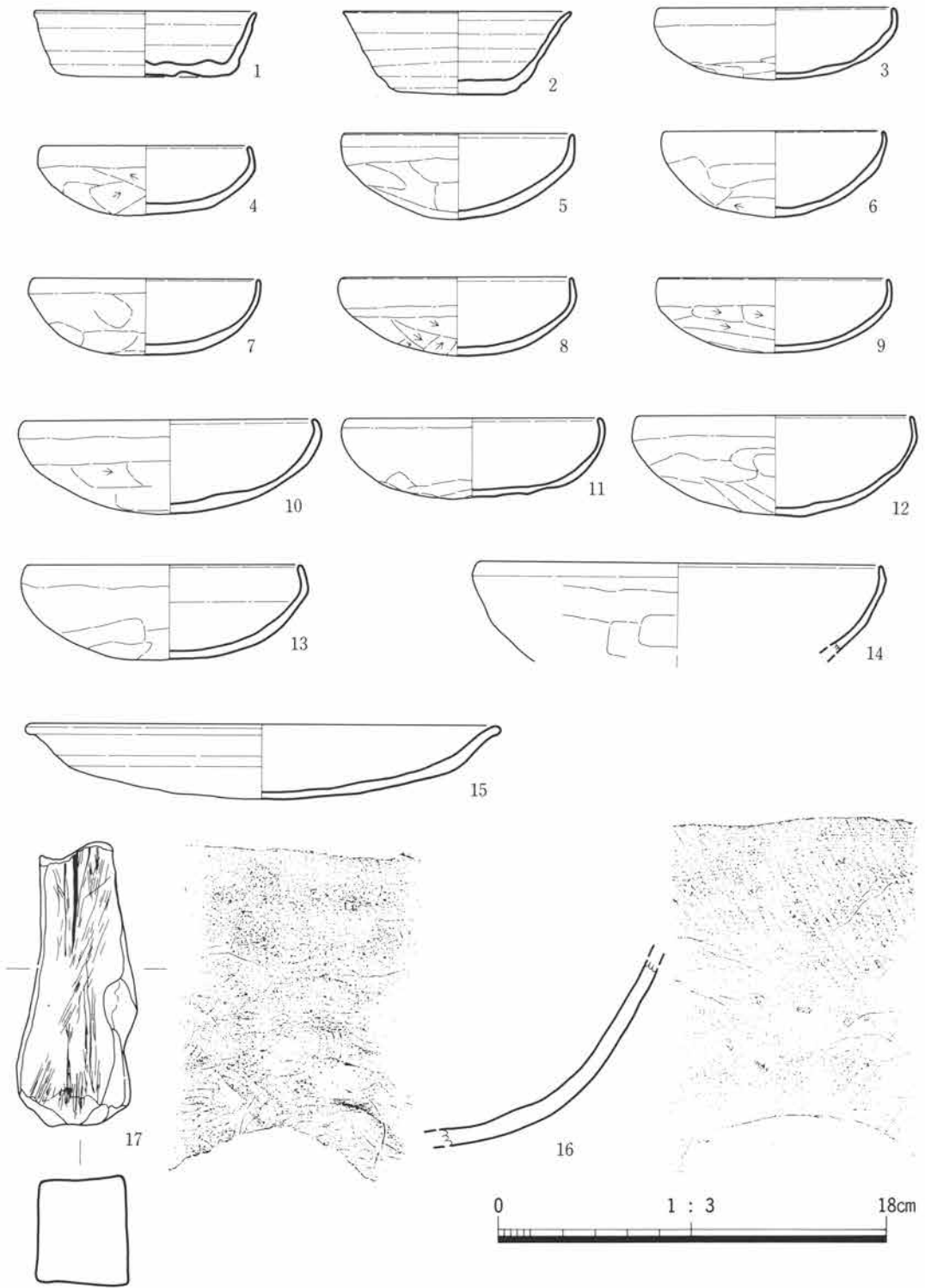
した。2は覆土出土の参考品である。

時期は8世紀前半が考えられる。



第736図 寺東地区34号住居跡

- |         |                    |     |                   |           |
|---------|--------------------|-----|-------------------|-----------|
| 1 暗黄褐色土 | 砂質<br>炭化物・焼土粒を含む   | カマド | 1 明褐色土            | 炭化物・焼土を含む |
| 2 暗褐色土  | 砂質<br>炭化物・小石を含む    |     | 2 焼土              |           |
| 3 茶褐色土  | 砂質<br>炭化物・黄褐色土粒を含む |     | 3 黒褐色土・炭化物・焼土ブロック | の混合       |
| 4 暗褐色土  | 砂質<br>小石を含む        |     | 4 黄褐色土            | 炭化物粒を少し含む |



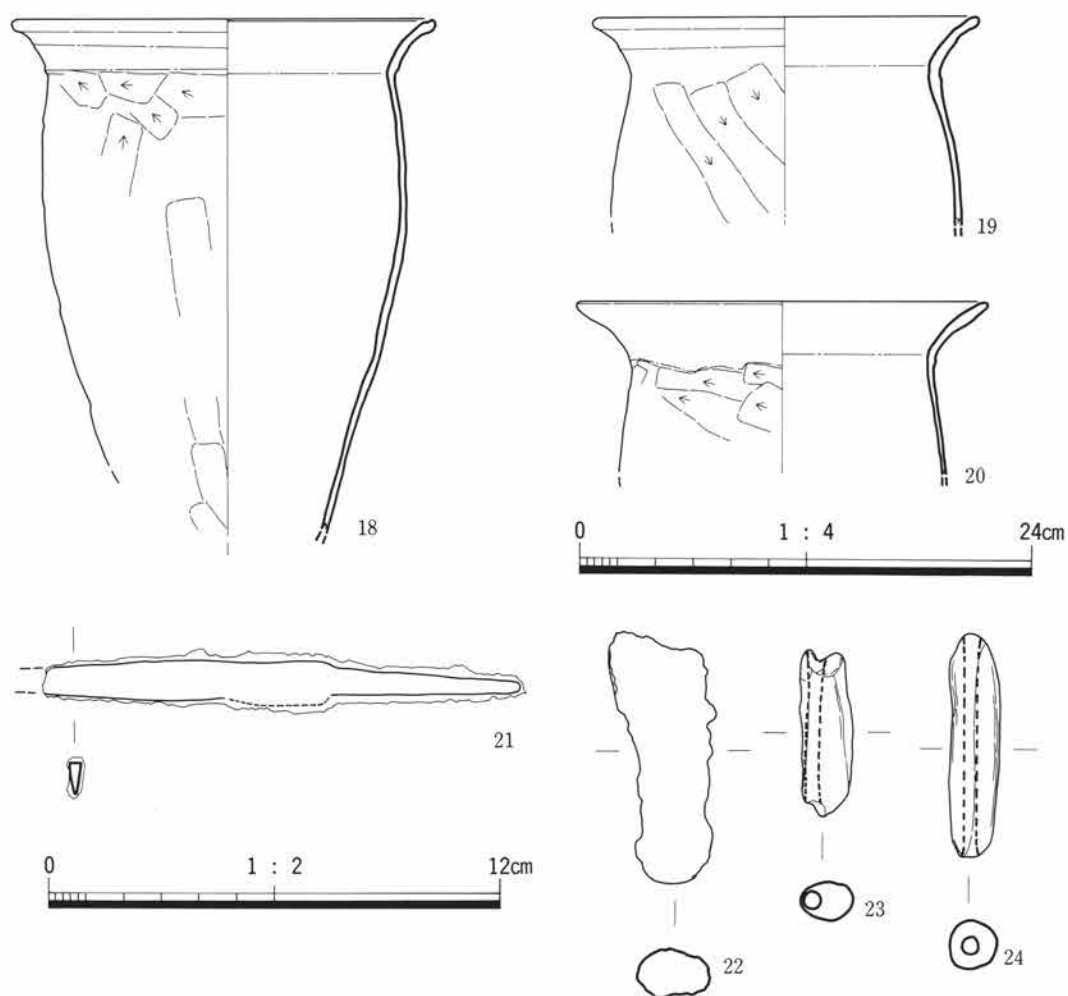
第737図 寺東地区34号住居跡出土遺物（1）

寺東地区第36号住居跡 (第739図)

P-Qライン・71km007m付近で検出した。本住居は第3次調査で検出したもので、寺東地区の北西隅に位置する。確認面は第10層である。24号住居、52号土坑と重複しており、24→36→52号の順に新しい。本住居は調査区壁の土層断面でその掘り込みの深さを確認し、住居跡と認定したが、土坑の可能性もある。住居であるとすれば南東隅付近と推定できるが、全体の様子が不明である。調査区壁の土層断面を観察した結果、本住居の上層には未調査の住居跡があることを確認している。この未調査住居は上層では検出できなかったものである。

東側に接して52号土坑を検出しており、この土坑内から1個体分の土器が出土している。この土器は24号住居のものかもしれないが、ここでは調査当時の認定を生かして土坑所属の土器としておく。本住居の出土遺物はすべて覆土出土の参考品であるため、図示しなかった。

時期も不明である。

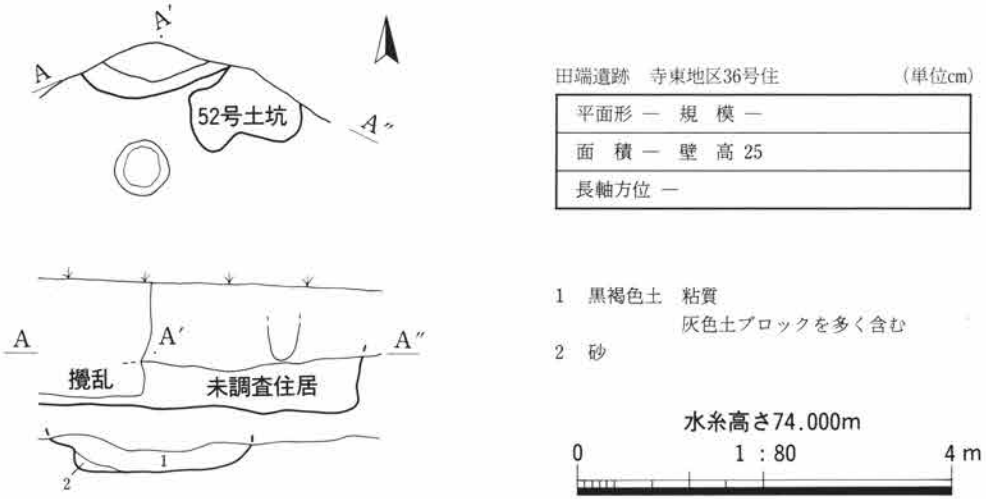


第738図 寺東地区34号住居跡出土遺物 (2)

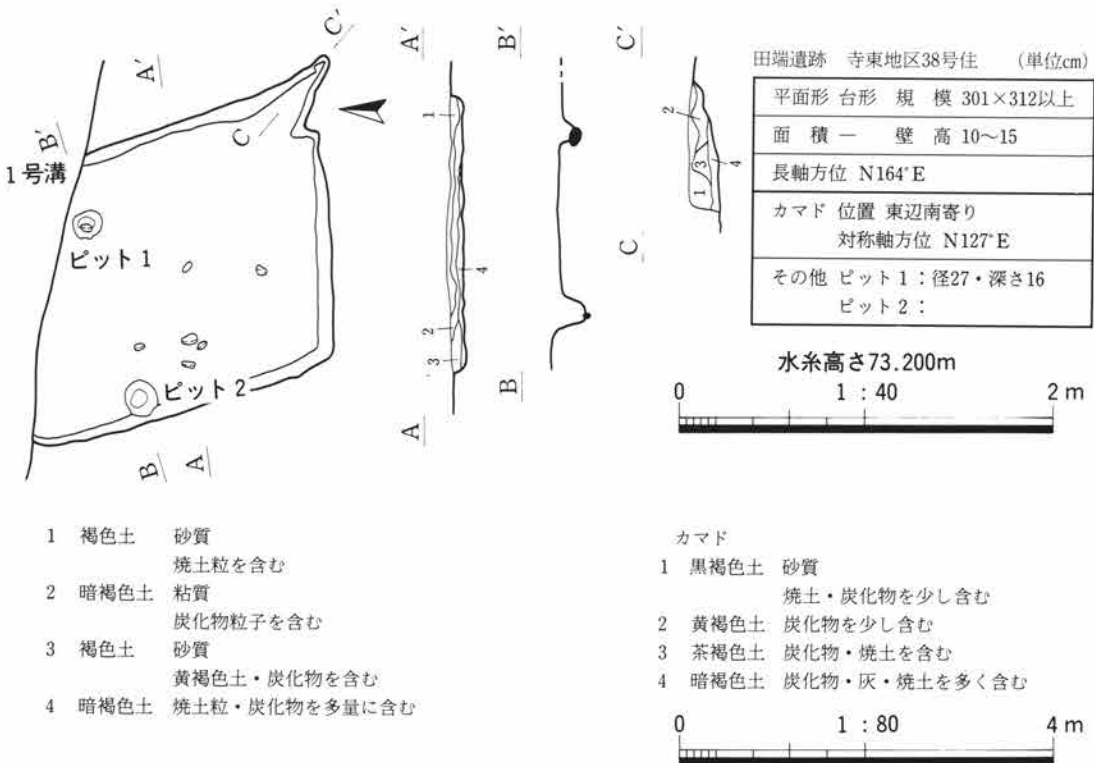


寺東地区第38号住居跡 (第740図、図版235)

L-Mライン・70km 996m付近で検出した。確認面は第4層である。1号溝と重複しており、38→1号の順に新しい。本住居は第3次調査で検出したもので、北半部は1号溝によって失っている。プランは菱形を呈し、検出した南西隅は直角をなさない。覆土は自然に堆積している。壁は浅く、10cm前後が遺存していた。床面は平坦である。支柱穴とみられるピット・壁溝・貯蔵穴は検出してない。カ



第739図 寺東地区36号住居跡



第740図 寺東地区38号住居跡

カマドは南東隅に設置されていた。煙道は住居プランの対角線の方向を示す。東辺と煙道との間は滑らかにつながり、明瞭な変換点をもたない。右袖部とみられる部分をわずかに検出したのみである。燃烧部はちょうど南東隅に相当する。

遺物は少なく、小片のみで図示できるものがない。

時期は不明である。

#### 寺東地区第50号住居跡（第741～743・745図、図版235・270）

Qライン・70km901m付近で検出した。確認面は第4層である。20・21号溝と重複しており、20・21→50号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので、北側道の調査に当たる。プランは南東隅・南西隅を検出したのみで、北辺は調査区外にある。覆土は1層のみで、大部分は床下の調査となってしまった。従って壁は浅く、5cm前後が遺存していたのみである。床面はカマド前で1m四方が遺存しており、他の部分は掘形面である。支柱穴とみられるピット・壁溝は検出していない。カマドは東辺南寄りに設置されていた。燃烧部が壁の外にあるタイプで、右袖石が立てた状態で出土した。左袖部では石を据えたとみられる浅い掘り込みを検出している。貯蔵穴は南東隅で検出した。円形を呈し、中から土器片が出土した。

遺物はカマド前、貯蔵穴から出土している。第745図1はカマド前床面から、2は南東隅床面からそれぞれ出土した。3はカマド覆土出土の参考品である。

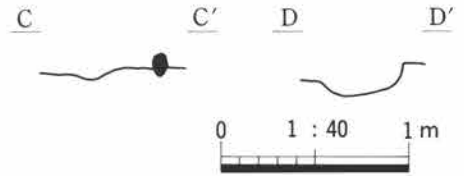
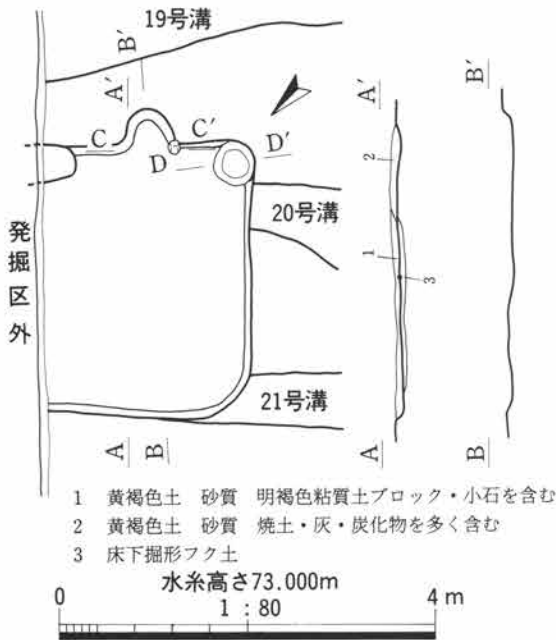
時期は9世紀後半～10世紀初め頃と考えられる。



第741図 寺東地区50号住居跡（1）



第742図 寺東地区50号住居跡（2）



田端遺跡 寺東地区50号住 (単位cm)

平面形	— 規模 292×220以上
面積	— 壁高 6~11
長軸方位	—
カマド 位置	東辺南寄り 対称軸方位 (N123°E) 構築材粘土・石
貯蔵穴 位置	南東隅 平面形 円形 上バ 45×44 下バ 30×28 深さ 9

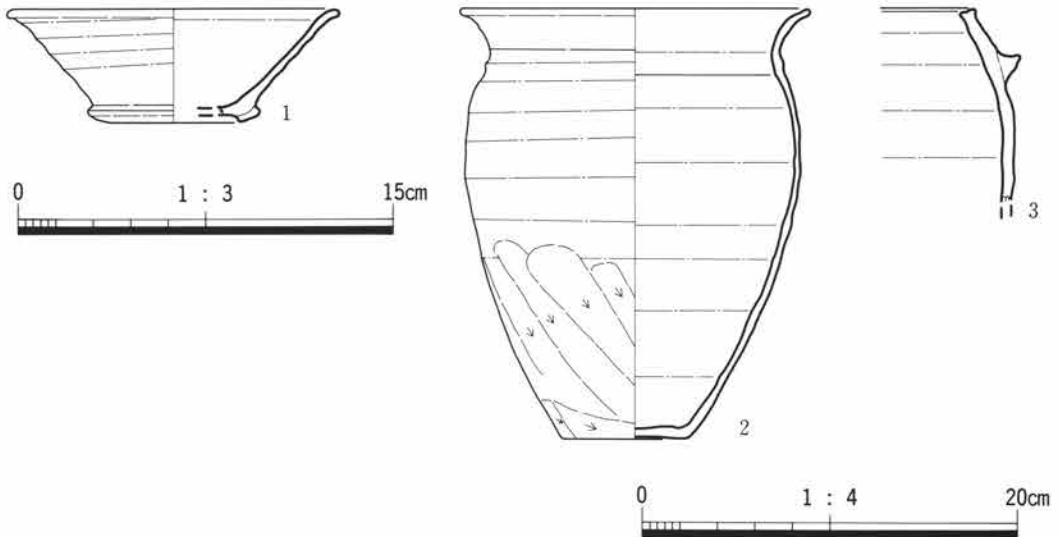
第743図 寺東地区50号住居跡

寺東地区第52号住居跡 (第744・746～749図、図版236・270)

Qライン・70km914m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は第4次調査で検出したもので、北側道部に位置する。プランは南東隅と南西隅を検出したのみで、北半部は調査区外にある。調査区壁の土層を精査するためトレンチを入れたことで西辺の一部を欠いている。覆土は自然に堆積している。壁は20cm前後が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面は二枚確認した。主柱穴とみられるピツ



第744図 寺東地区52号住居跡



第745図 寺東地区50号住居跡出土遺物



第746図 寺東地区52号住居跡（1）



第747図 寺東地区52号住居跡（2）

トは検出してない。壁溝は西辺・南辺で検出し、東辺では確認していない。カマドは東辺に設置されていた。ちょうどカマドを横切るように調査区があり、カマドの南半分を調査した。燃烧部が壁外にあるタイプである。燃烧部奥壁には須恵器甕の体部片が据えてあり、同一個体の破片を、斜め上方へ立ち上がるように並べて据えていた。最上部では20cm大の石が出土している。左右の袖部からは石が出土していないが、カマド前から焼けた石が、貯蔵穴内からは細長い割れた石が出土している。貯蔵穴は南東隅で検出した。底面は上端に比べて狭い。

遺物はカマド内から出土している。第749図1・2・4・5はカマド内から、3は貯蔵穴内から、6はカマド燃烧部奥壁からそれぞれ出土した。

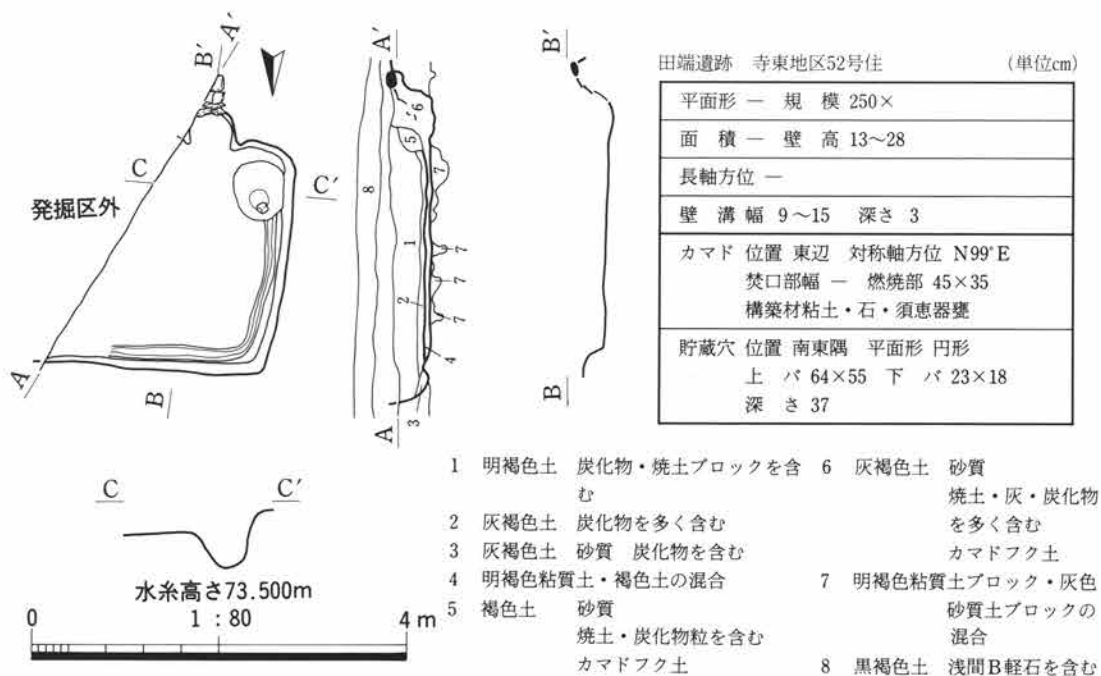
時期は9世紀後半ころと考えられる。

### 寺東地区第56号住居跡 (第750・751図)

I-Jライン・70km989m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は第4次調査で検出したもので、本線敷きの南側道に位置する。住居本体のプランは検出できず、カマド燃烧部の痕跡を検出したのみである。カマドは概ね北を向き、住居本体はその南東部にあったと推定するが、削平されてしまい、詳細は不明である。燃烧部からは小石が2個出土している。

第751図1はカマド内から出土した甕である。

時期は10世紀代か。

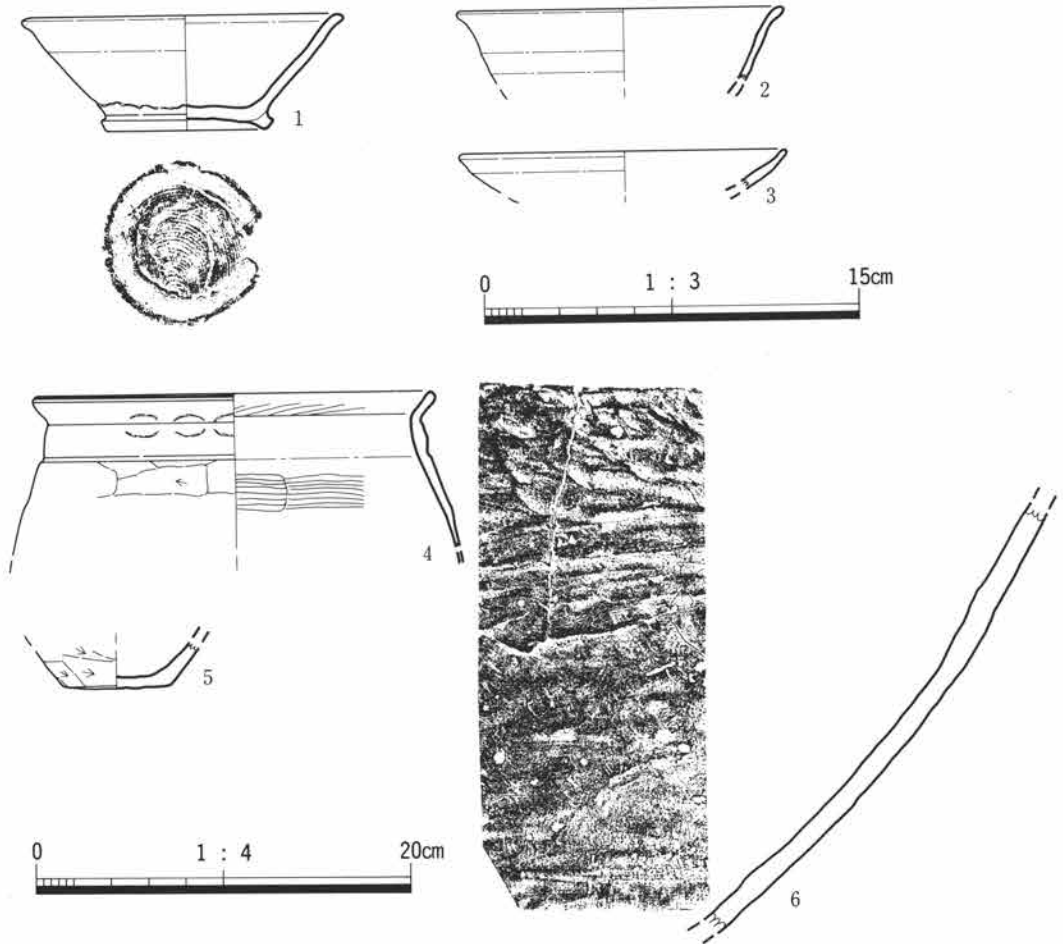


第748図 寺東地区52号住居跡

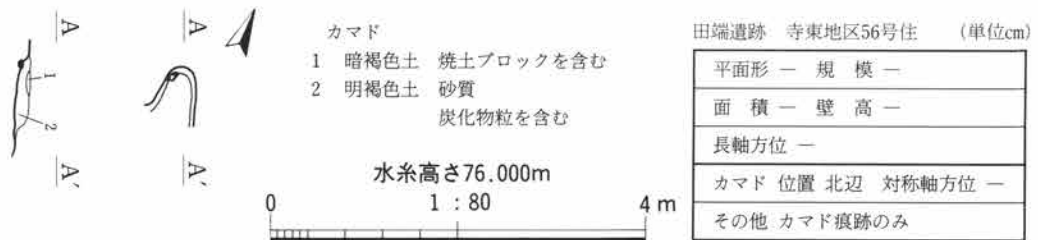
寺東地区第60号住居跡（第752図）

J-Kライン・70 km 971m付近で検出した。確認面は第4層である。59・66号住居と重複しており、60→59→66号の順に新しい。本住居は第4次調査で検出したもので、南側道の北壁で重複関係を確認した。壁面では59号住居が平面略三角形に重複しているため、本住居は59号住居の立ち上がりの両側で床面を検出した。平面的に検出したのは西辺100cmほどである。また壁面での確認であるため、内部施設等詳細は不明である。

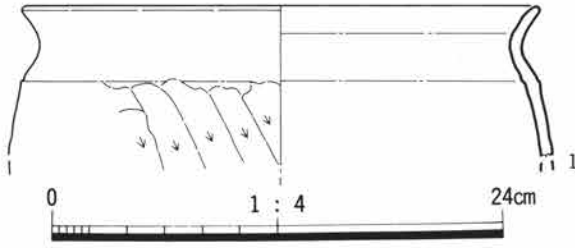
遺物の出土はないが、検出層位から平安時代とみられる。



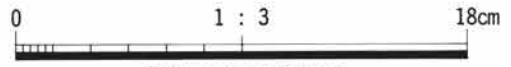
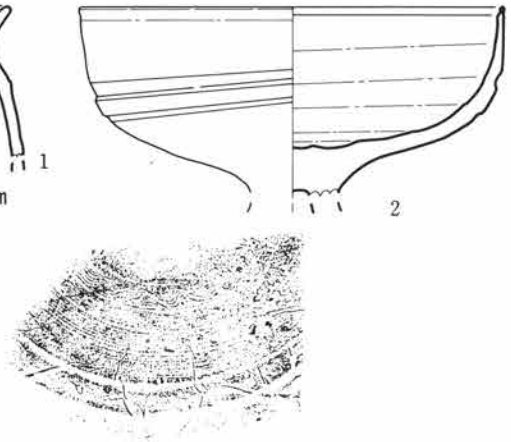
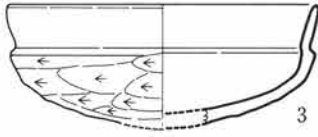
第749図 寺東地区52号住居跡出土遺物



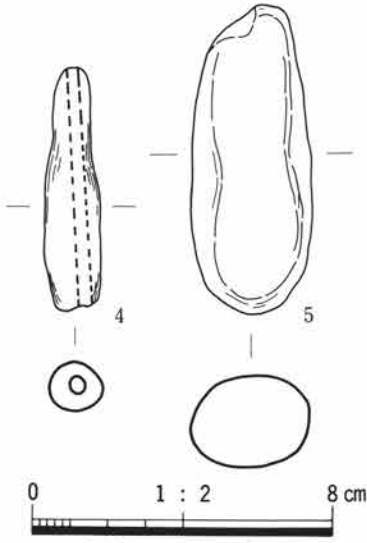
第750図 寺東地区56号住居跡



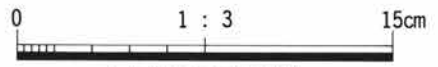
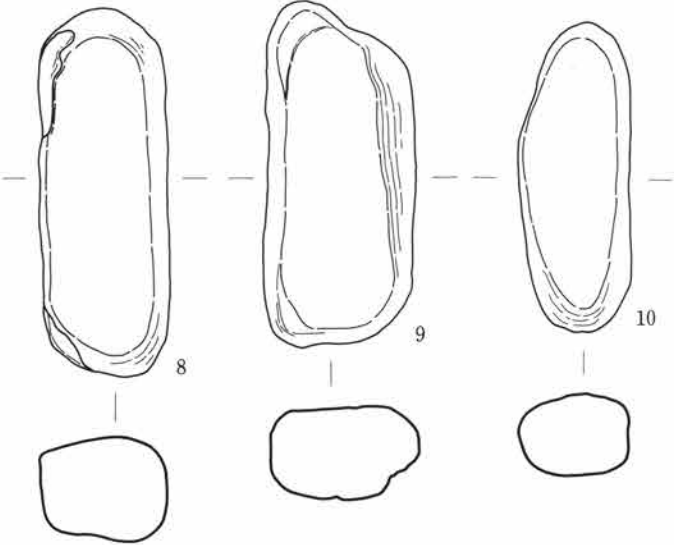
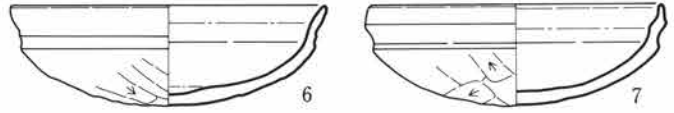
寺東地区56号住居跡



寺東地区57号住居跡



寺東地区62号住居跡



寺東地区64号住居跡

第751図 寺東地区56・57・62・64号住居跡出土遺物



田端遺跡 寺東地区60号住 (単位cm)

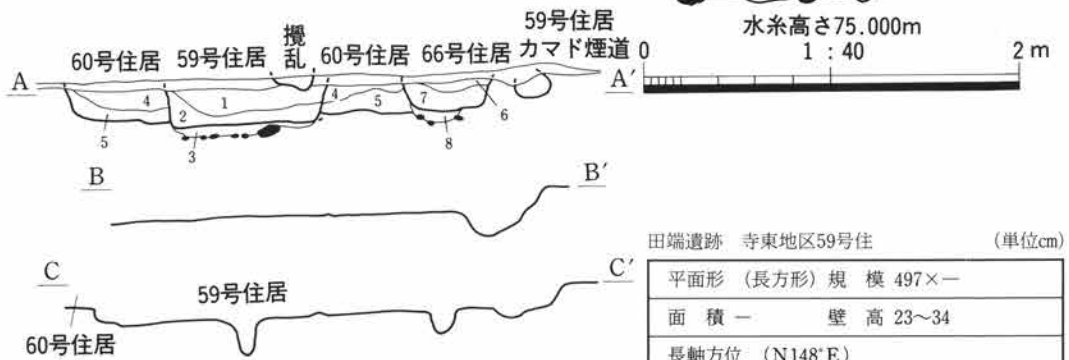
平面形	— 規模 —
面積	— 壁高 14
長軸方位	—

田端遺跡 寺東地区66号住 (単位cm)

平面形	— 規模 —
面積	— 壁高 14
長軸方位	—



- カマド
- 1 暗褐色土 炭化物・焼土を含む
  - 2 明褐色土 炭化物・焼土を多く含む
  - 3 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む



- 59号住居
- 1 暗褐色土 炭化物・明褐色砂質土ブロックを少量含む
  - 2 褐色土 炭化物・焼土を少量含む
  - 3 褐色土 砂質 床下の土
- 60号住居
- 4 褐色土 明褐色砂質土を少し含む
  - 5 明褐色土 暗褐色粘質土ブロック・焼土・炭化物を含む
- 66号住居
- 6 明褐色土 炭化物を多く含む
  - 7 暗褐色土 明褐色砂質土ブロック・焼土・炭化物を多く含む
  - 8 暗褐色土 床下の土

田端遺跡 寺東地区59号住 (単位cm)

平面形	(長方形) 規模 497×—			
面積	— 壁高 23~34			
長軸方位	(N148°E)			
主柱穴	1	2	3	4
上バ径	37	25	(37)	34
下バ径	13	10×13	(16)	15
深さ	37	14	13	23
主柱穴間の距離 (心心)	1-2 173		2-3 170	
	3-4 164		4-1 219	
カマド 位置	東辺 対称軸方位 N60°E			
焚口部幅	48 燃焼部 47×57			
煙道部幅	35 長さ 25以上			
構築材	粘土・石			
貯蔵穴 位置	南東隅 平面形 楕円形			
上バ	93×74 下バ 63×43			
深さ	26			
その他	ピット5 : 径40・深さ5 ピット6 : 径50・深さ24			

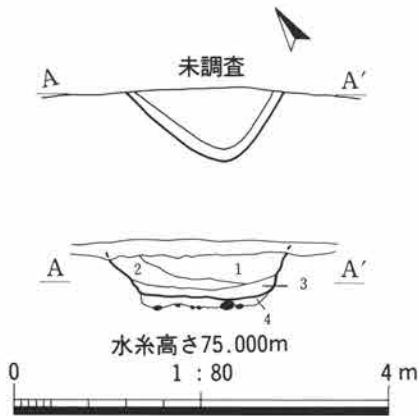
第752図 寺東地区59・60・66号住居跡

寺東地区第61号住居跡（第753図、図版236）

J-Kライン・70 km 964m付近で検出した。確認面は第4層である。本住居は第4次調査で検出したもので、本地区南側道に位置する。プランは南西隅の一部を確認したのみで、大半は北側の未調査区内にある。覆土は自然に堆積している。壁は高さ20cm以上が遺存しており、斜めに立ち上がる。床面はしっかりしていたが、調査範囲が狭いので、他の諸施設は検出していない。従って、詳細は不明である。

遺物は小片が出土したのみで、図示しなかった。

時期は検出層位から平安時代とみられる。



田端遺跡 寺東地区61号住 (単位cm)

平面形	—	規模	—
面積	—	壁高	21~24
長軸方位	—		

- 1 明褐色土 砂質  
炭化物を含む
- 2 暗褐色土 砂質  
炭化物を多量に含む
- 3 暗褐色土 粘質  
炭化物・焼土を少量含む
- 4 褐色土 床下の土

第753図 寺東地区61号住居跡

## 第6節 奈良平安時代の溝・土坑・その他

### 1 概 要

ここでは奈良～平安時代の住居を除く遺構について、地区別に概要を記す。

#### 田端地区A区

A区ではこの時期に属する遺構は既述の住居跡と、ここに報告する1～3号溝のみである。

#### 田端地区B区

本地区では土坑・溝のほか、製鉄に関連する遺構とみられる163号遺構がある。この遺構は多量の鉄滓とフイゴ羽口が出土し、周囲から砂鉄も出土している。4・7号住居と合わせて、本遺跡の製鉄関連遺構の中心的存在である。20号溝は北側道で検出し、本遺跡で発見された古代瓦と時期的に近接する溝で、B区台地の東端を画する溝である。232号土坑(墓墳)は特殊な墓で、卷頭でも示したように羽釜を棺とする。3号住居下土坑・54号土坑・132号土坑はいずれも井戸状の形態をもち、多量の土器を出土している。8世紀代に属するとみられる。54号土坑は獣骨を出土した。127号土坑からは本遺跡中唯一の緑釉陶器壺を出土している。

#### 田端地区C区

本分冊で報告する遺構は検出していない。

#### 田端地区D区

D区ではこの時期に属する遺構は7・10・11号土坑のみである。

#### 田端地区E区

1号掘立柱建物跡・1号井戸、1・2・4号集石、5・7号溝等がある。水田跡は本分冊末尾で報告する。

#### 寺東地区

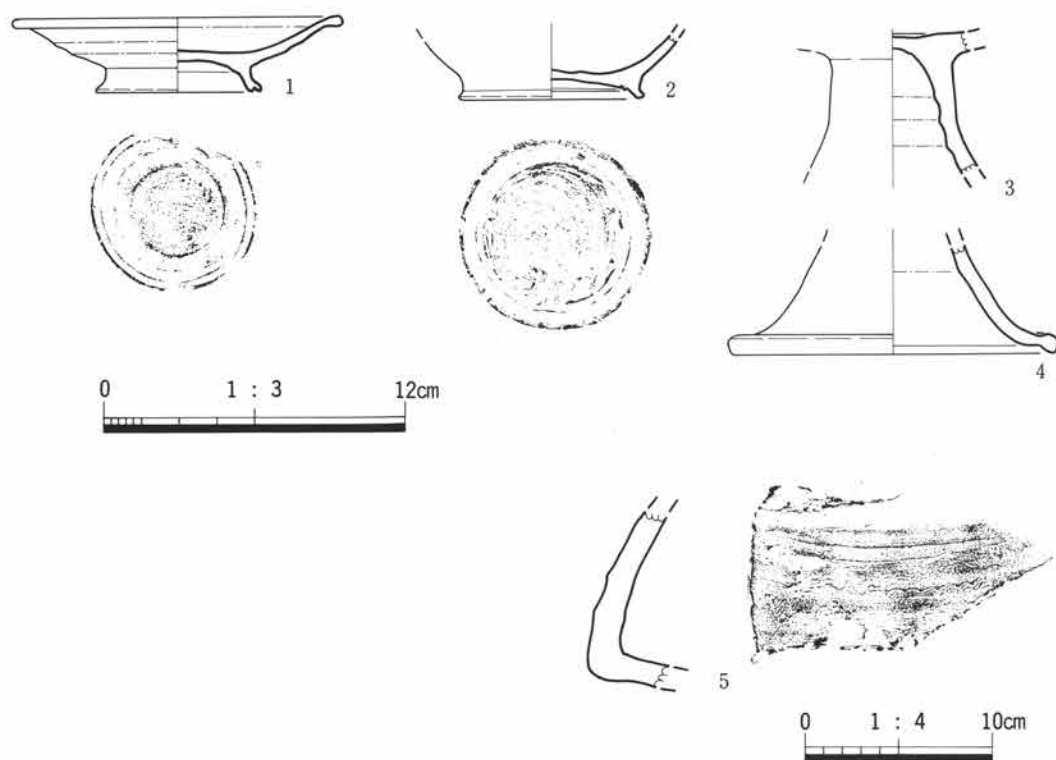
礎石建物跡とみられるピット群1、水田アゼと平行する34号溝、畝状遺構等がある。

## 2 各区の溝・土坑・その他

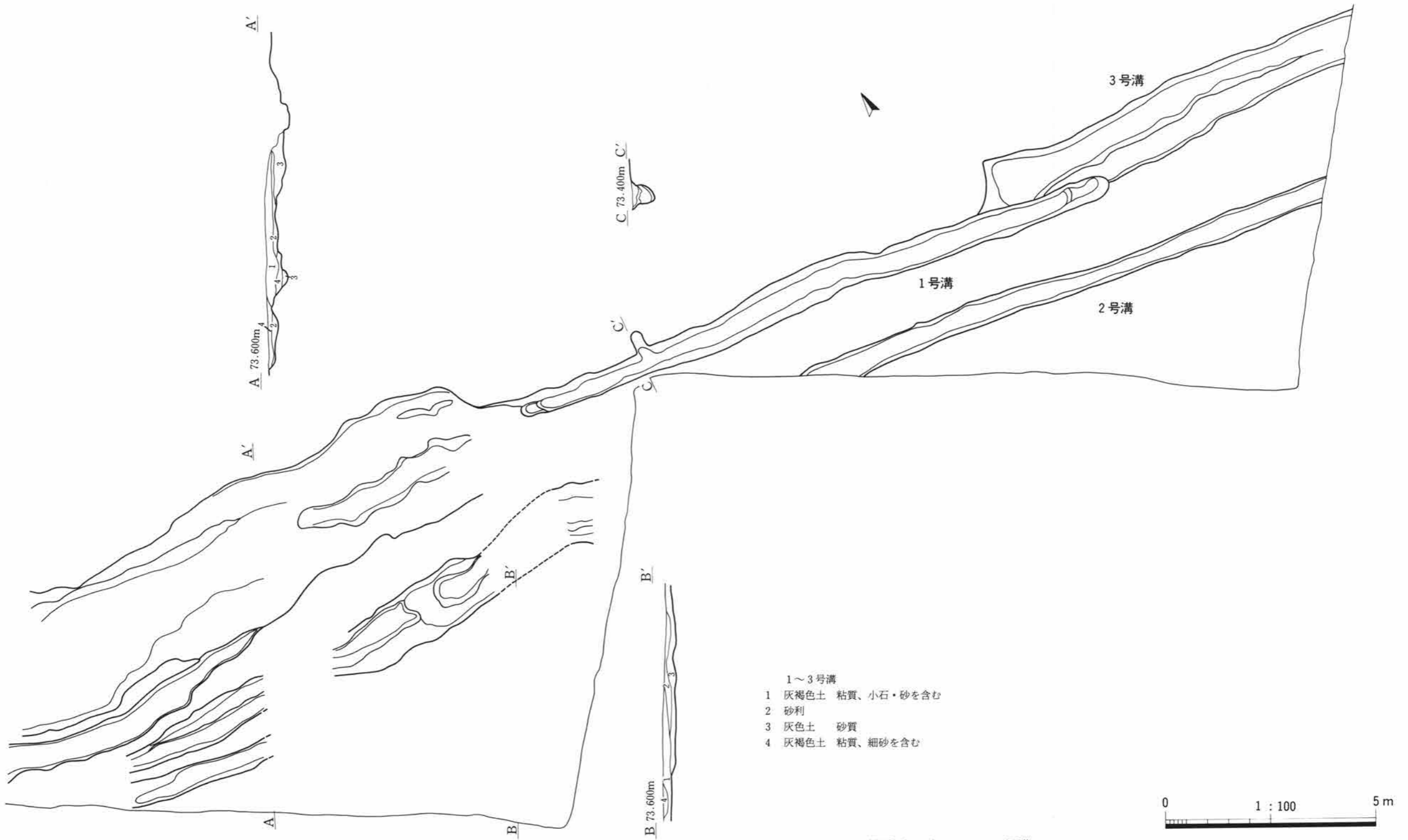
### 田端地区A区第1・2・3号溝（第754～756図、図版271）

I-Mライン・71km195m～227mで検出した。確認面は第6層である。71km205m付近で1a・1b号溝と重複しており、本溝群の方が古い。調査区内では全体で長さ約36mを検出した。深さは5～43cmである。東半部では1・2・3号はそれぞれ明瞭に分離できるが、西半部では溝の形状が拡散してしまい、明確に分離することができなくなる。覆土は自然に堆積しており、灰褐色粘質土・細砂で埋没している。壁は斜めに立ち上がる。他の地区の調査所見から、本溝群はさらに下層へ掘り下げられる可能性がある。

遺物は1号溝から須恵器高台付皿・椀・高杯、大型甕の口縁部片が出土し、図示しなかったが、甕の体部片も出土している。時期は10世紀ころと考えられる。



第754図 田端地区A区1号溝出土遺物



第755図 田端地区A区1・2・3号溝





第756図 田端地区A区1・2・3号溝

田端地区B区第163号遺構 (第757～760図、図版237・271～273)

H-Iライン・71km250m付近に位置する。第5次調査の南付け替え道路の調査で検出した遺構で、確認面は第6層である。

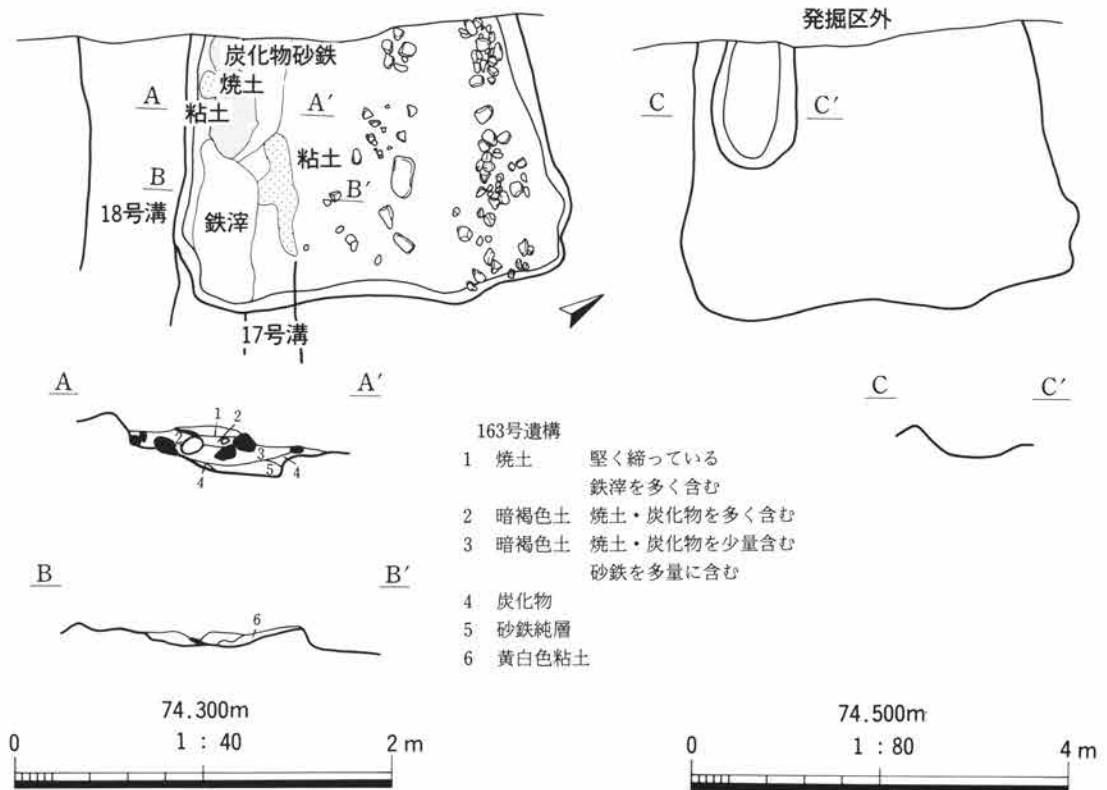
当初住居跡と推定して調査を進めていたが、遺構の状態や出土する遺物から、通常の住居跡ではないことが判明した。遺構の名称・番号を変更すると、遺物の注記との対応がとれなくなることから、ここでは当初の番号をそのまま使用する。

本遺構は16・17・18・19号溝と重複し、それらはすべて本遺構よりも新しい。上層の溝群を調査したのち、さらに掘り下げてゆくと、多量の鉄滓を出土する本遺構を発見した。調査区内での形状は南北4.2m、東西3m以上の方形堅穴状を呈し、調査区南西部にその中心がある。

本遺構の南西部は幅50cm、長さ130cmの範囲で堅く焼けて締まっており（以下、焼土部と呼ぶ）、底部は浅くくぼんで皿状を呈している。最深部で13cmほどである。

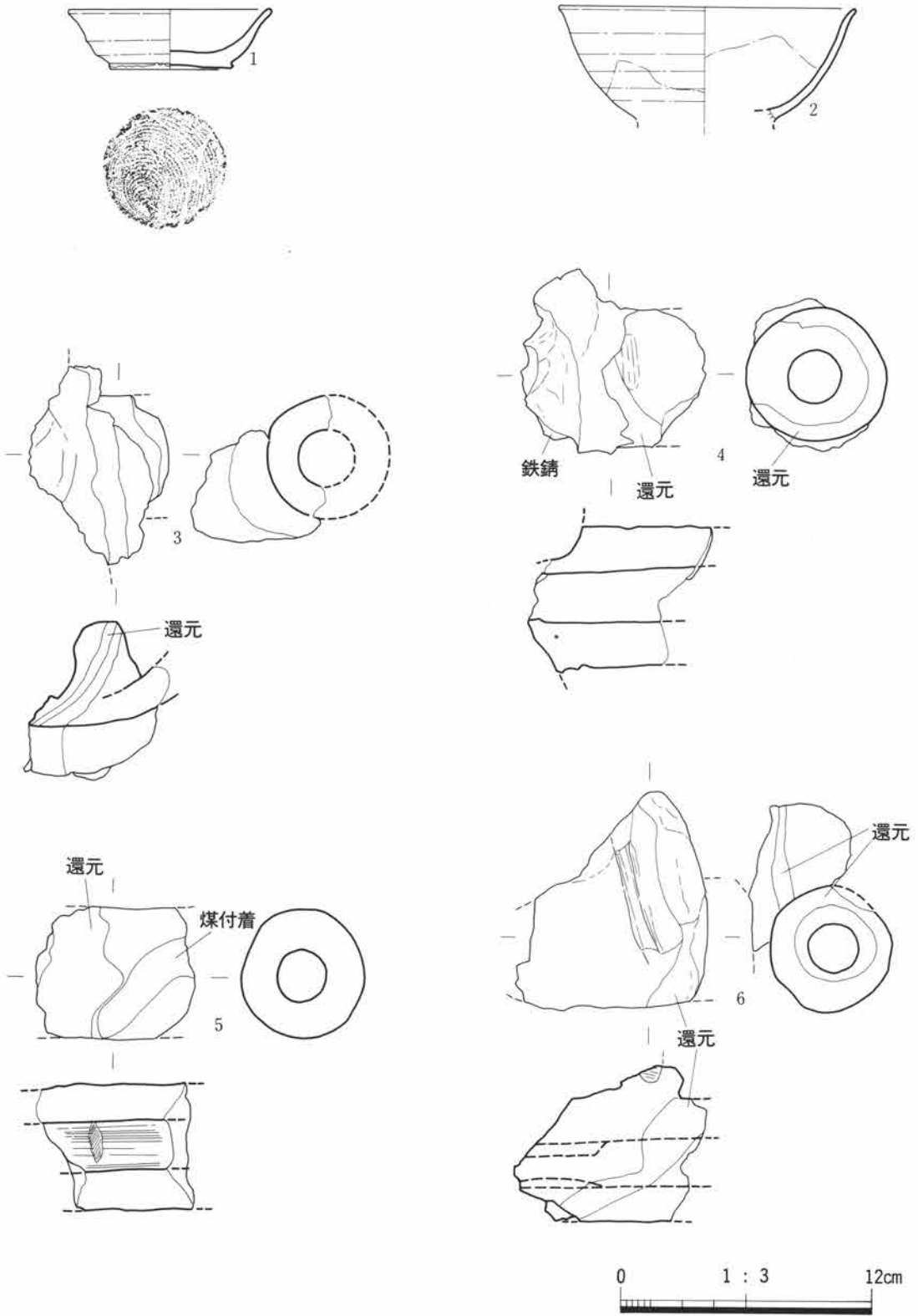
焼土部の南側と北東側に黄白色の粘土が出土した。南側の黄白色粘土は30×20cmの範囲に分布し、北東側の粘土は幅15～40cm、長さ132cmの範囲に分布する。焼土部の東側に接して68×176cmの範囲で多量の鉄滓が散布していた。焼土部の周囲には炭化物・砂鉄が分布し、とくに北部からは集中して出土した。遺物は多量のフィゴ羽口、鉄滓等が出土し、土器片もいくつか出土した。

以上、遺構の検出状況・遺物の様相から、本遺構は製鉄に関連する遺構と推定した。本遺構の時期は10世紀後半～11世紀と考えられる。

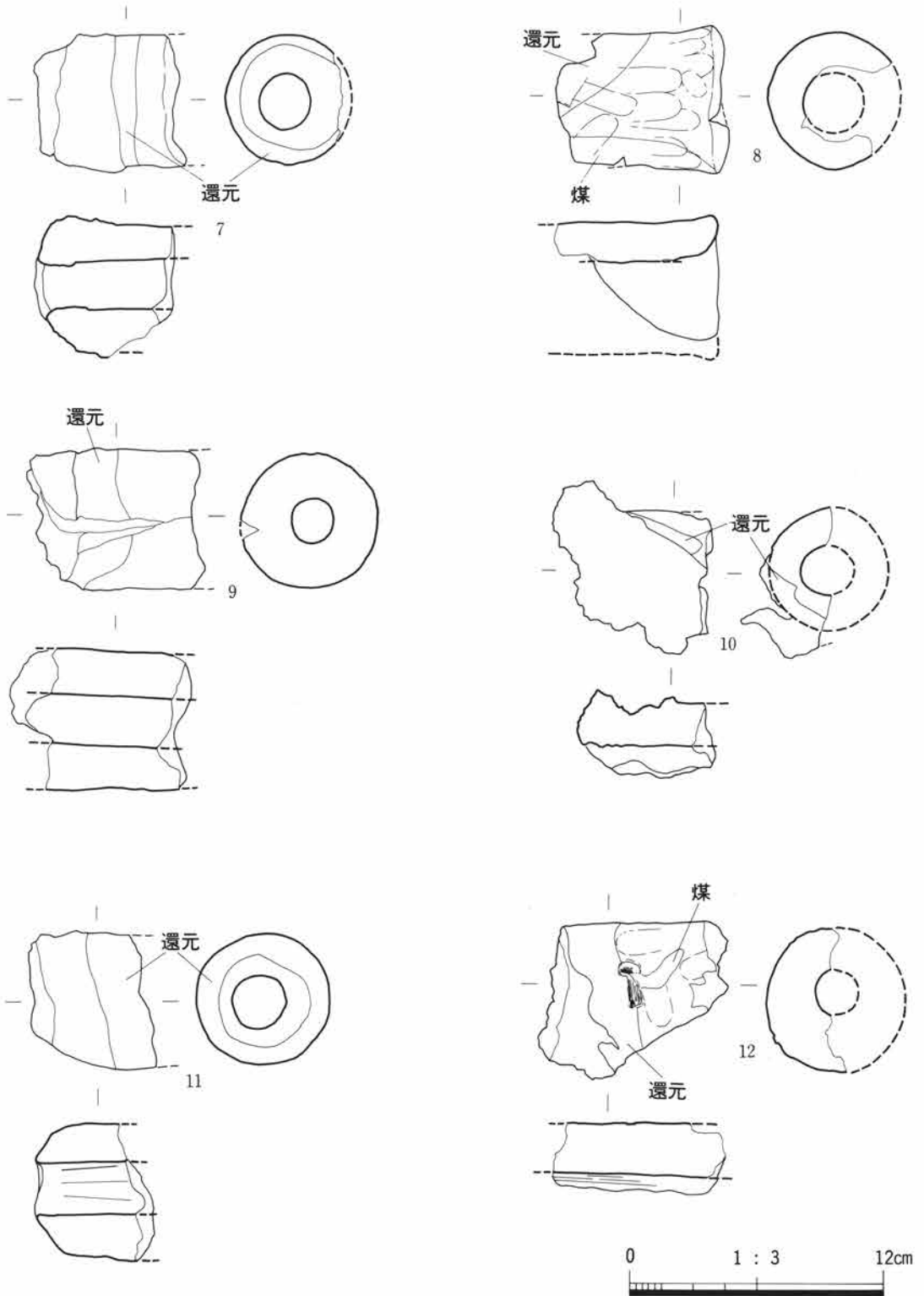


第757図 田端地区B区163号遺構

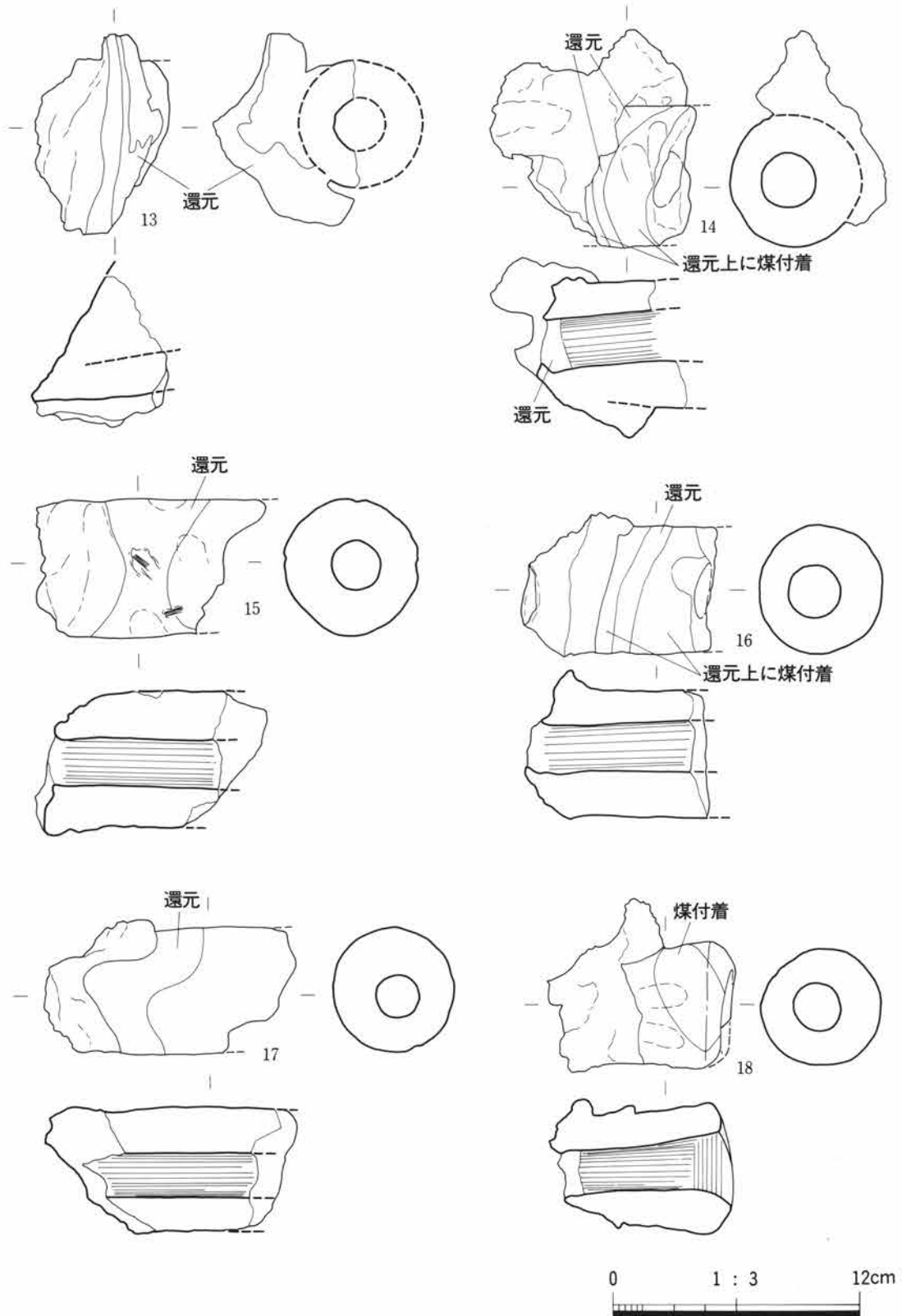




第758図 田端地区B区163号遺構出土遺物(1)



第759図 田端地区B区163号遺構出土遺物(2)



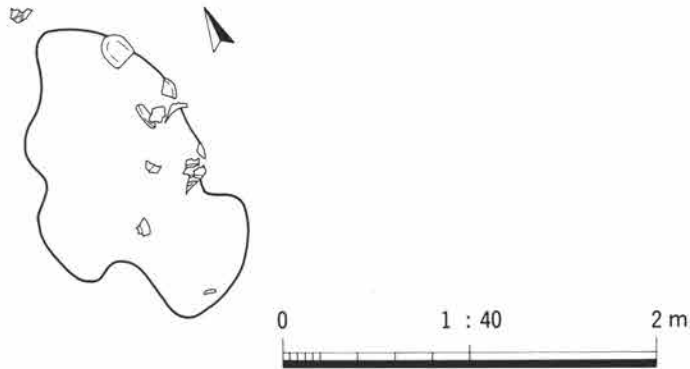
第760図 田端地区B区163号遺構出土遺物(3)

田端B区第1号土器溜まり (第761~763図、図版275)

P-Qライン・71 km 287m付近で検出した。確認面は第4層である。西側に接して第3号掘立柱建物跡・第73号住居跡カマドを検出している。この位置を含む住居跡のプランは検出していないことから、土器溜まりと呼んだものである。攪乱等によってカマド痕跡も残さない程度まで破壊されたことも考えられるが、ここでは調査当時の名称を残しておきたい。この遺構は土器類が集中して検出されたが、わずかにほみを呈するのみで、その他の施設は全く検出できなかった。従って、詳細は不明である。



第761図 田端地区B区1号土器溜まり



第762図 田端地区B区1号土器溜まり

遺物は比較的多いが、小片が大半を占め、杯・甕3点を図示した。  
 時期は8世紀代とみられる。

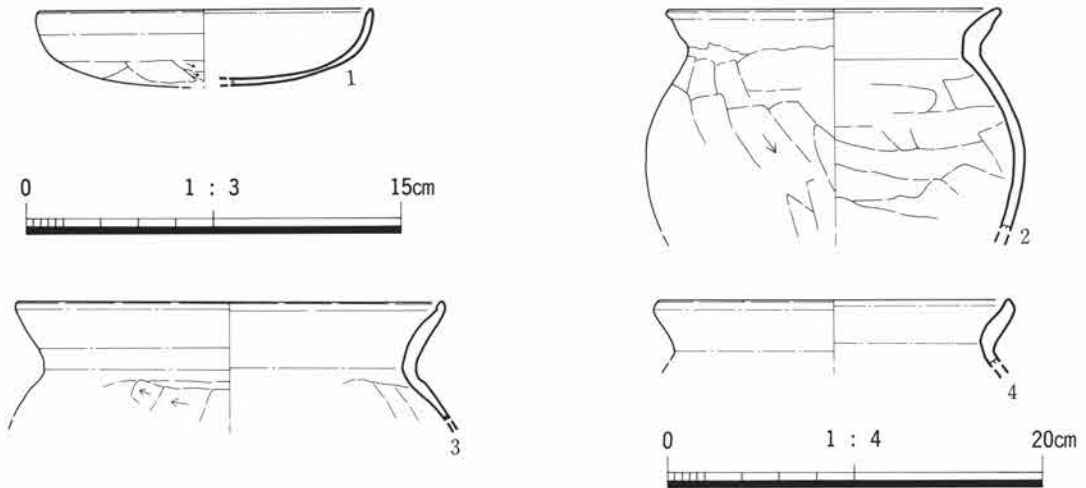
田端地区B区第4号掘立柱建物跡（第765図）

Pライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。長軸を東西方向にとる。ピット群の外側北東部に1号土器溜まり、内部の南西隅に183号土坑が位置する。本掘立柱建物跡を構成するピットの計測値、ピット間の距離は表の通りである。第3号掘立柱建物跡と推定したピット群の長軸方向と

第20表 田端地区B区第4号掘立柱建物跡計測値表

長軸方向	桁行cm	梁行cm	桁行柱間cm	番号	規 模		
					上バcm 長径×短径	下バcm 長径×短径	深さcm
N99°E	2-3 : 300	1-2 : 157	1-5 : 127				
	1-4 : 307	3-4 : 174	5-4 : 180				
		5-6 : 159	2-6 : 158	1	25×19	17×13	18
			6-3 : 142	2	36×34	25×21	18
				3	35×29	24×24	13
				4	23×19	15×14	4
				5	42×36	38×33	13
				6	23×22	15×14	16
				7	20×19	13×9	11

※計測値は1/20原図から起こした数値である。  
 柱穴間の距離は心線で計測した。



第763図 田端地区B区1号土器溜まり出土遺物

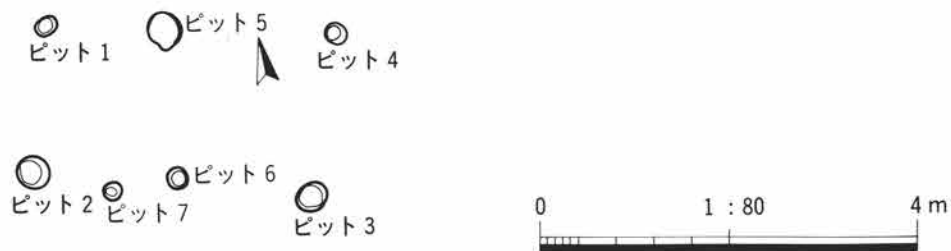
ほぼ同様の長軸方向を示す。183号土坑と1号土器溜まりから出土した土器は奈良時代の様相を示しており、本遺構を検出した層位も合わせて考えると、奈良～平安時代に属する建物跡とみられる。ピット群から遺物は出土していない。

田端地区B区第5号掘立柱建物跡（第764・766図）

N-Oライン・71km290m付近で検出した。確認面は第4層である。本地区のなかではピットの掘り込みが最もしっかりしており、南東隅を除いた各隅は明確に認定することができる。北西隅は180号土坑として調査したため、一つの遺構に別種の遺構名称を付けることになってしまった。各ピットの計測値、ピット間の距離は表の通りである。



第764図 田端地区B区5号掘立柱建物跡



第765図 田端地区B区4号掘立柱建物跡

北側中央部のピットが切り込んでいる181号土坑からは鉄鏃が出土している。南東隅のピットは56号または60号住居によって破壊されたとみられる。両住居の時期からみて、本掘立柱建物跡は奈良～平安時代のものであろう。

第21表 田端地区B区第5号掘立柱建物跡計測値表

長軸方向	桁行cm	梁行cm	桁行柱間cm	梁行柱間
N157°E	500-56住内坑：483	500-180坑：374	500-499 : 162	500-181坑：187
	180坑-510 : 495	499-509 : 401	499-512 : 147	181坑-180坑：187
		512-508 : 393	512-56住内坑：174	
		56住内坑-510 : 375	180坑-509 : 174	
			509-508 : 160	
			508-510 : 163	

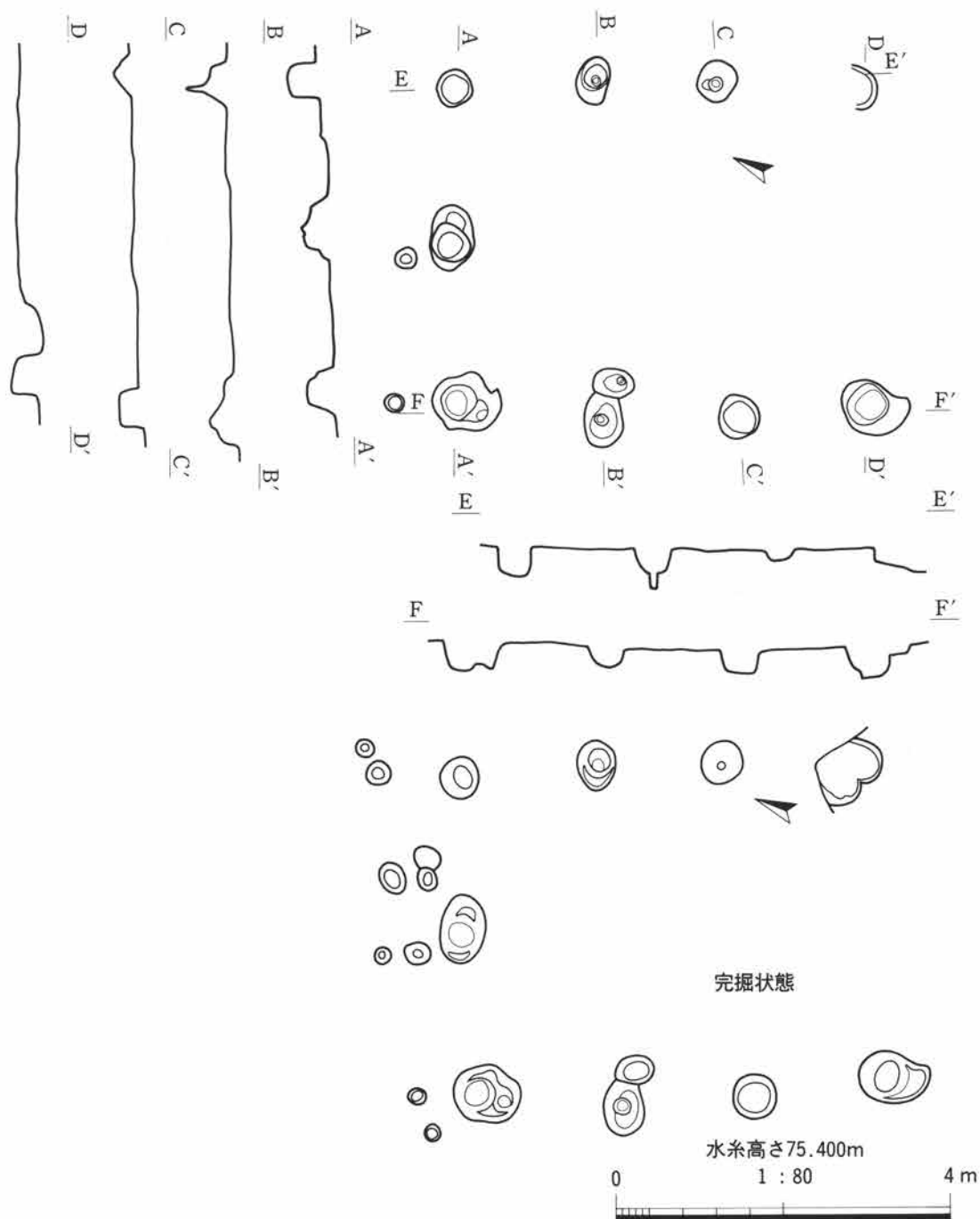
番 号	規 模		
	上バcm 長径×短径	下バcm 長径×短径	深さcm
500	49×46	28×19	31
181坑	83×54	31×29	30
180坑	81×70	31×28	33
509	68×48	径12	32
508	54×52	39×37	26
510	87×61	38×27	41
56住内坑	53×	37×	16
512	54×48	径10	20
499	59×46	径14	28

※計測値は1/20原図から起こした数値である。柱穴間の距離は心線で計測した。

田端地区B区第1・2・3号溝（第767・768図）

Jライン・71 km 245m付近で検出した。確認面は第4層である。3本の溝は重複しており、1→2→3 A号の順に新しい。2号溝の南西部は南側道の22号溝の方へ向かっている。第776図の調査区北東寄りに進入している溝は2号溝の一部と考えられる。22号溝はほぼ東西方向に走るもので、南側道の溝のなかでは最も古いものである。

2・3号溝は10世紀後半～11世紀ころと考えられる。



第766図 田端地区B区5号掘立柱建物跡



#### 田端地区B区第12号溝

Nライン・71 km 285m付近で検出した。確認面は第4層である。45号住居と重複しており、本溝のほうが古い。長さ4.6mを検出し、深さは10cm前後である。遺物は出土していない。

時期は検出層位から平安時代と考えられる。

#### 田端地区B区第13号溝

K-Lライン・71 km 282m付近で検出した。確認面は第4層である。全体に不整形の溝で、44号住居の内部施設の可能性がある。本溝は62号住居に接する部分で途切れてしまう。性格不明の溝である。

#### 田端地区B区第14号溝（第769図）

Pライン・71,295m付近で検出した。確認面は第4層である。11号溝と重複し、14→11号の順に新しい。本溝は長さ4.5mほどを検出し、東半部はやや西側へ曲がる。平安時代の土器を出土しているが、周辺の住居から流れ込んだ可能性もある。層位的には平安時代の遺構と考えられる。

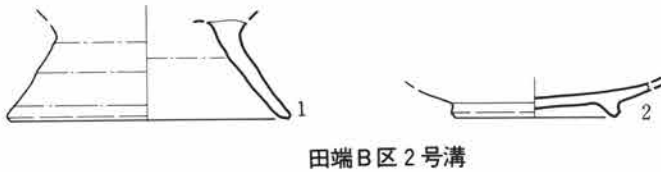


第767図 田端地区B区1・2・3A号溝

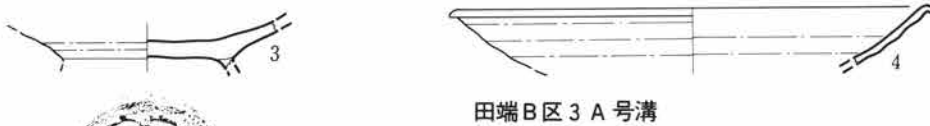
田端地区B区第20号溝（第770～773図、図版273）

Q-Tライン・71km245m付近の北側道で検出した。確認面は第4層である。157～162号住居と重複しており、本溝の方が古い。本溝の底面は160・161号住居の下に潜り込んでいる。側道敷の限られた調査区内での検出であるため、全体の形状を確認することはできなかった。本溝の西側はやや高く、東側はA区に向かって150cm以上の比高がある。本溝はちょうど台地の縁辺を限る位置にあり、西岸から100cm前後離れてピットが並んでいた。柵列が設置してあったと考えられる。壁は斜めに直線的に立ち上がる。

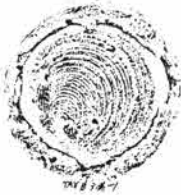
遺物は第773図のほかにも多数出土しているが、小片のため図示しなかった。時期は8世紀ころと考えられる。



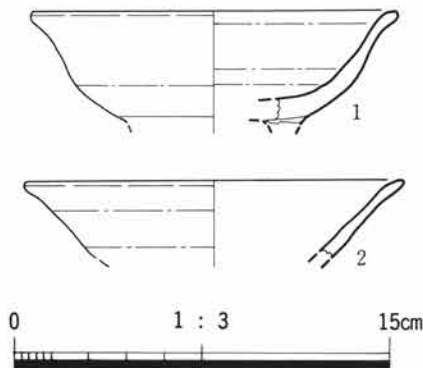
田端B区2号溝



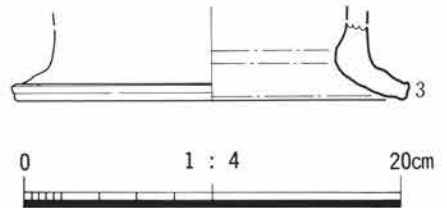
田端B区3A号溝

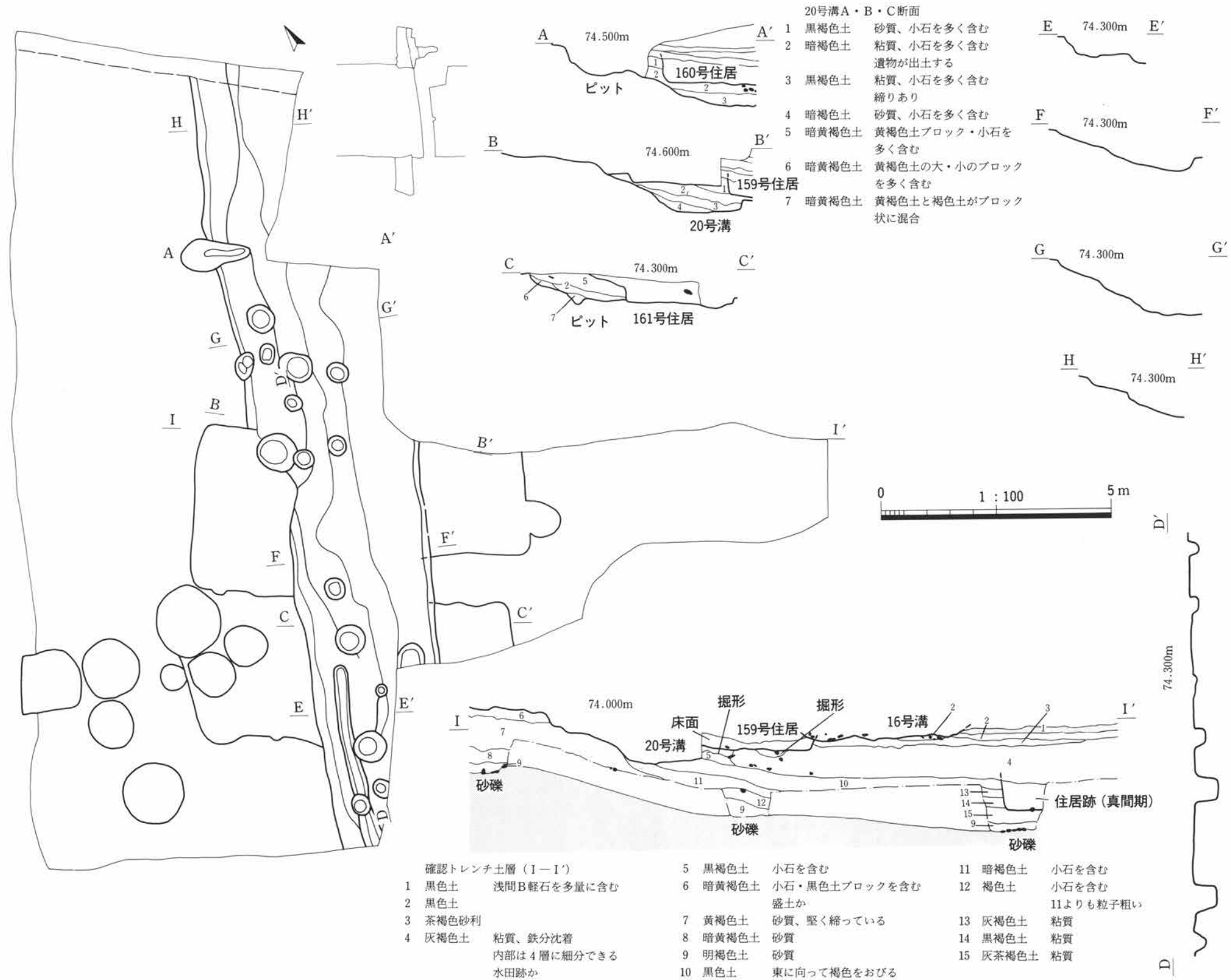


第768図 田端地区B区2・3A号溝出土遺物



第769図 田端地区B区14号溝出土遺物





第770図 田端地区B区20号溝



田端地区B区第21・22号溝（第774～778図、図版274）

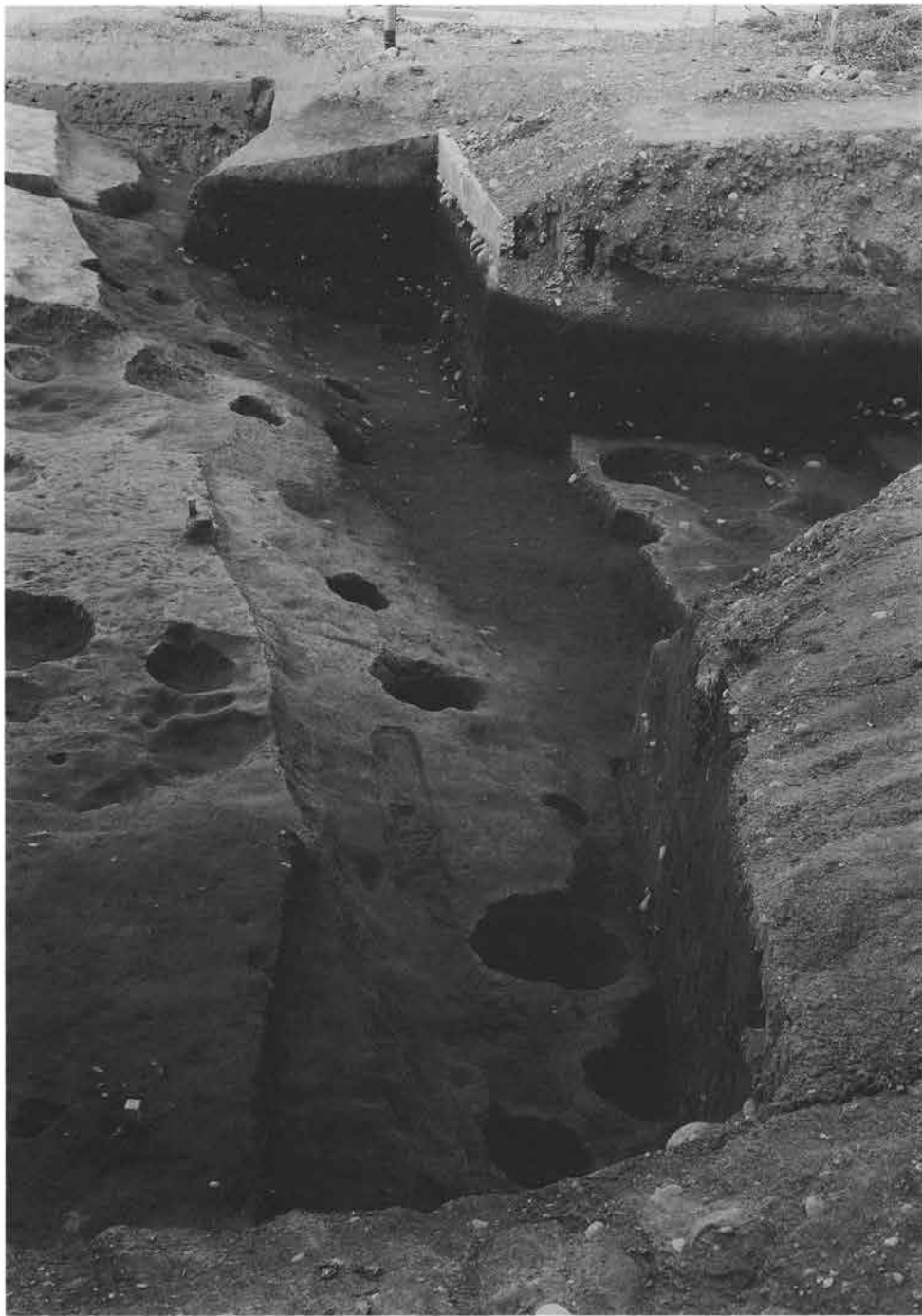
H-Iライン・71km 245m付近の南側道で検出した。21号溝は16号溝と重複し、22号は21号の下層で検出した。従って、これらは22→21→16号の順に新しい。両者とも底面は平坦で、上層の17～19溝に比べて幅が広い。壁は斜めに立ち上がる。

遺物は21号から用途・形状とも不明の銅製品、羽釜、布目のついた瓦が出土し、22号からは杯・羽釜、黒色土器、フイゴ羽口が出土している。

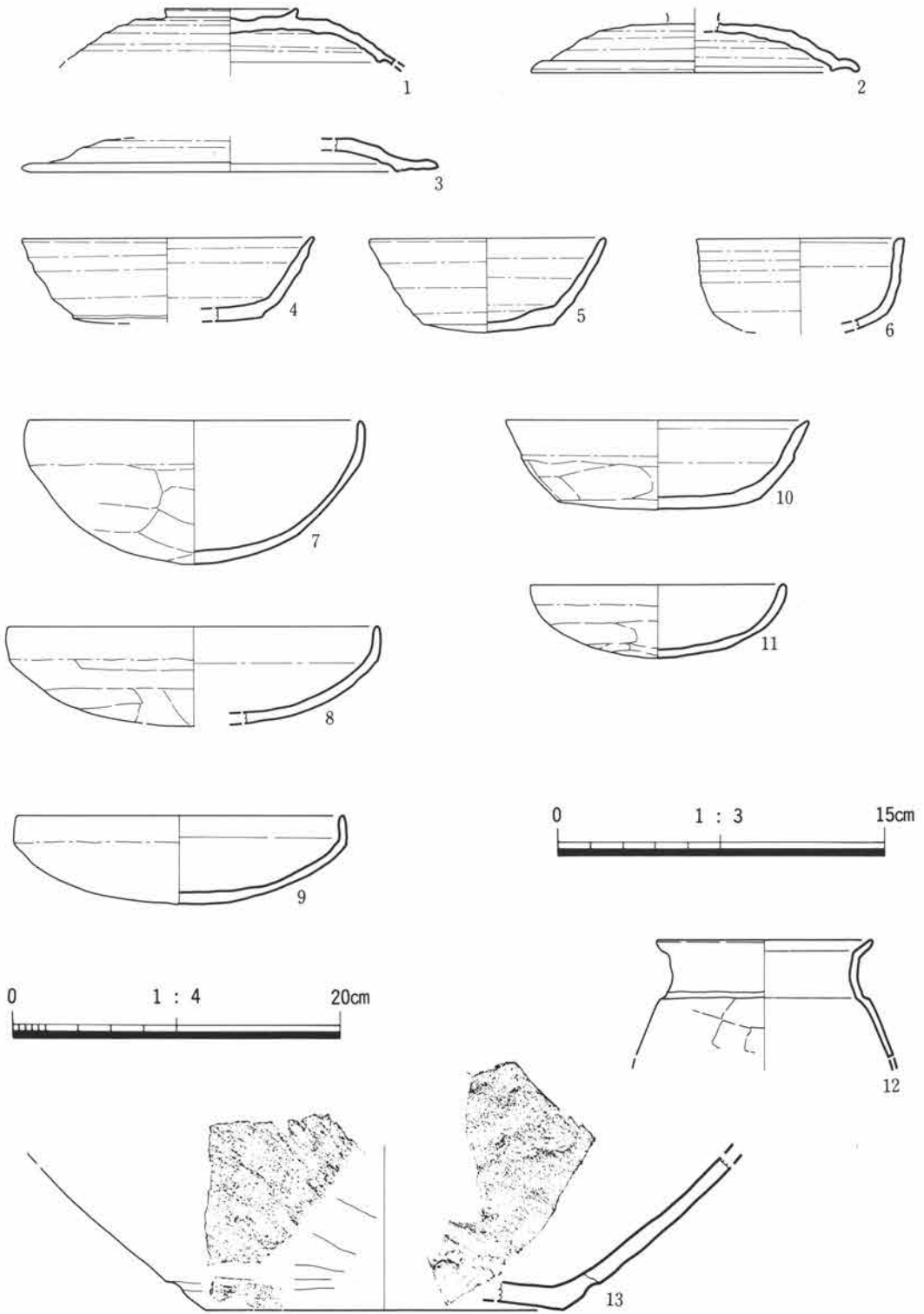
時期は10世紀後半～11世紀とみられる。



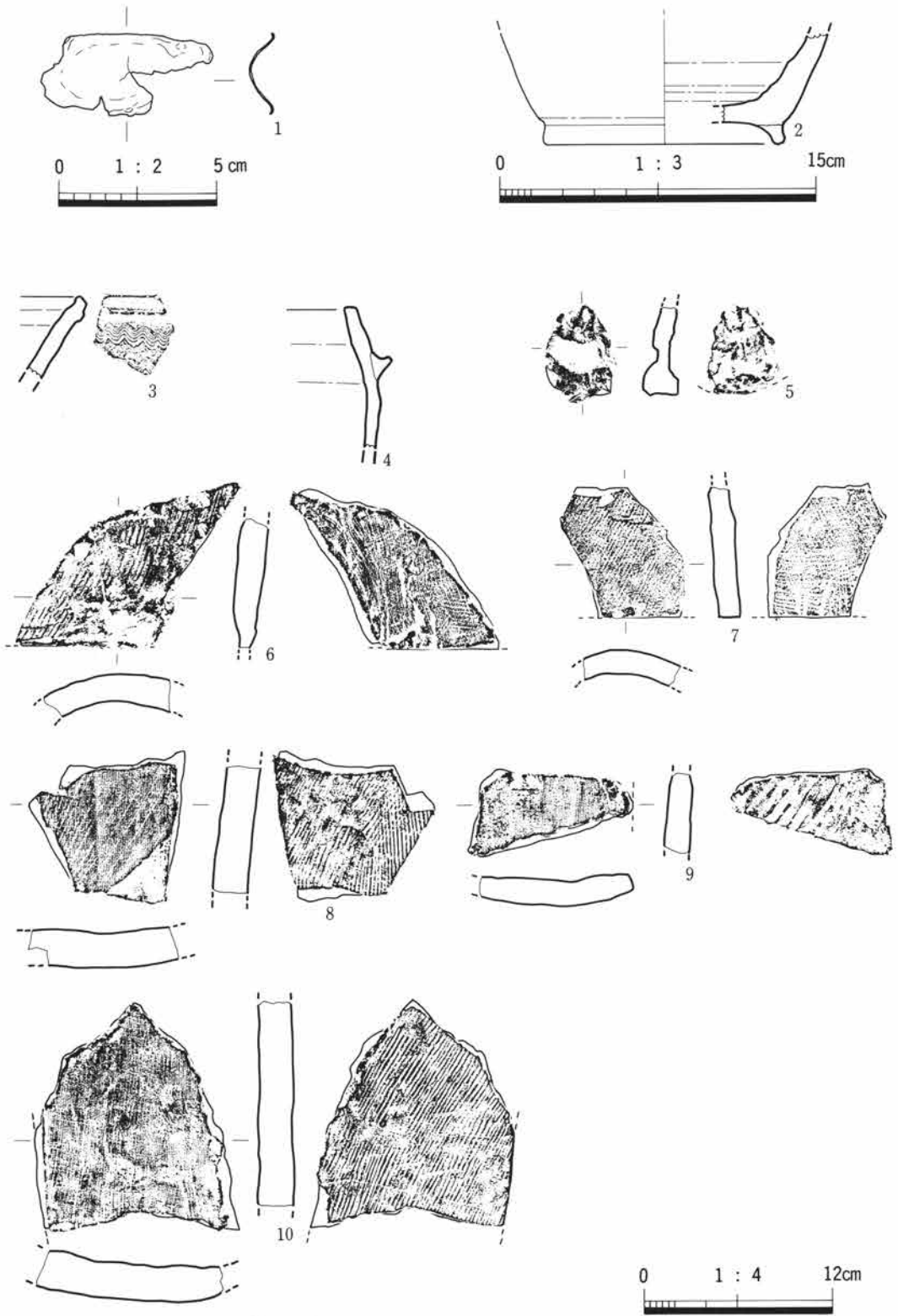
第771図 田端地区B区20号溝（1）



第772図 田端地区B区20号溝（2）

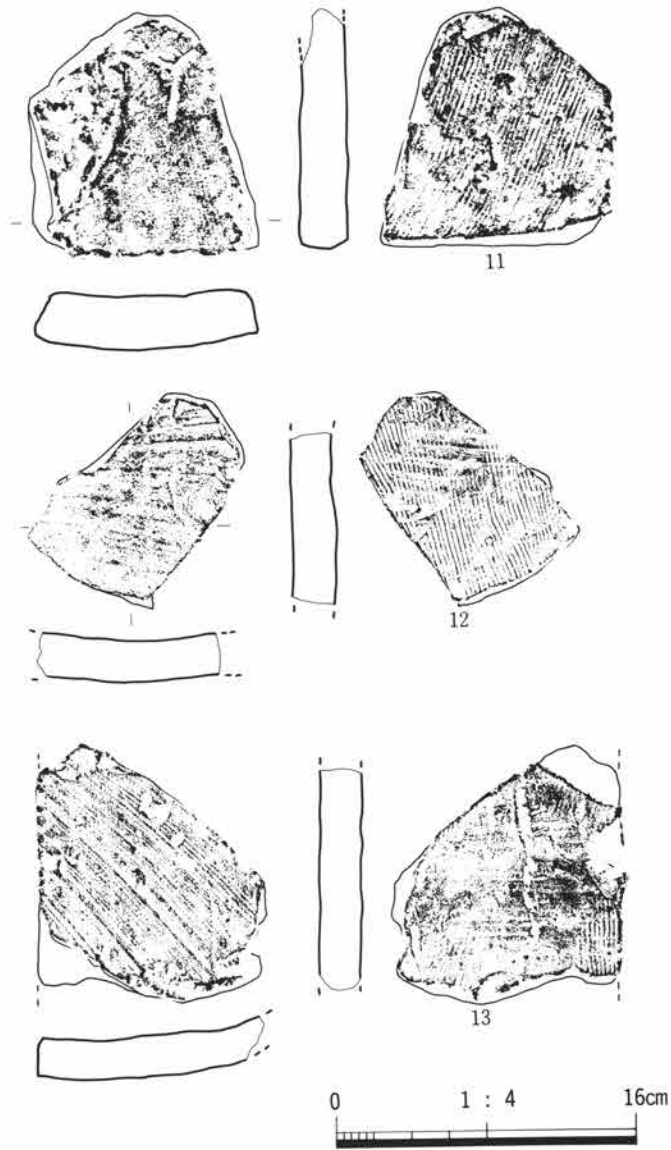


第773図 田端地区B区20号溝出土遺物

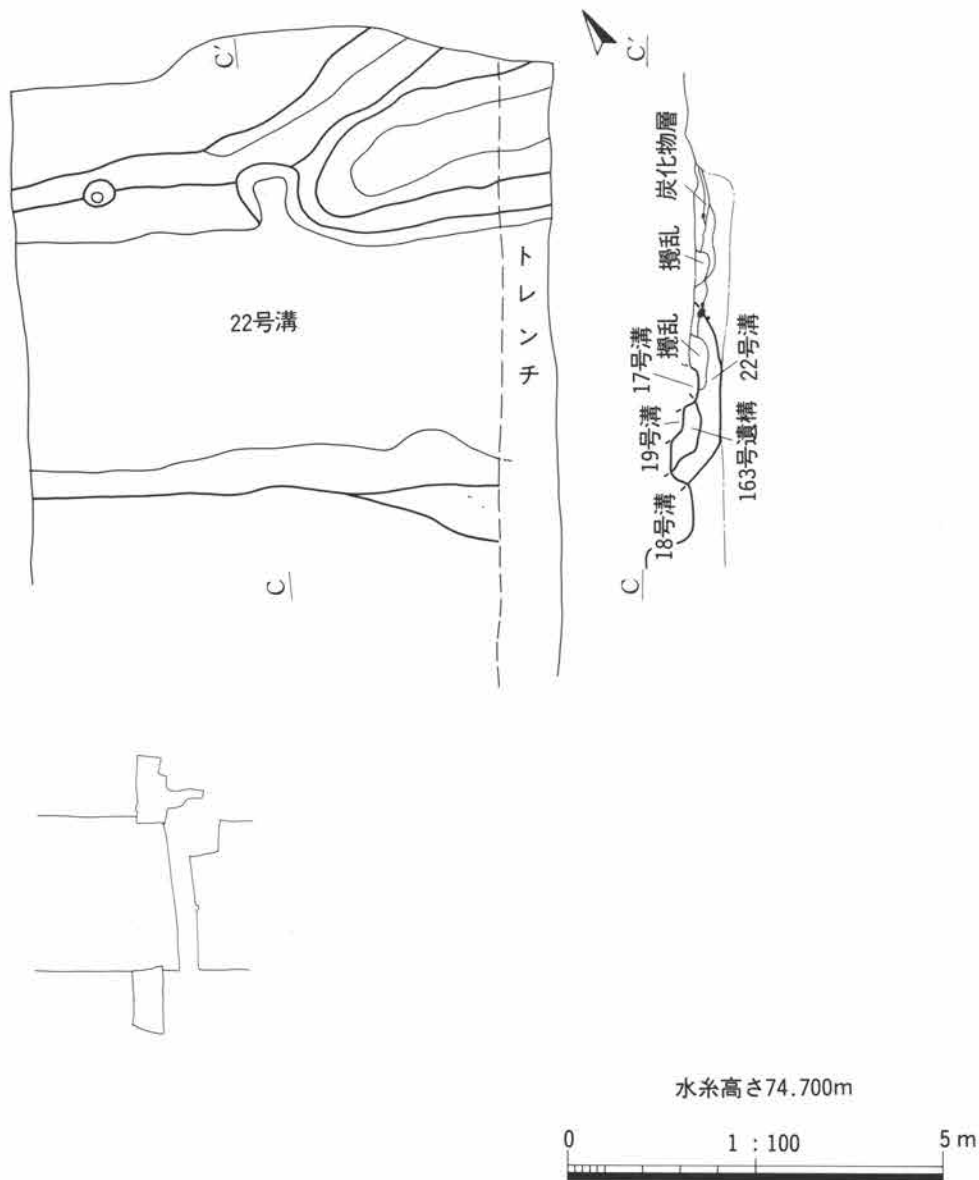


第774図 田端地区B区21号溝出土遺物(1)

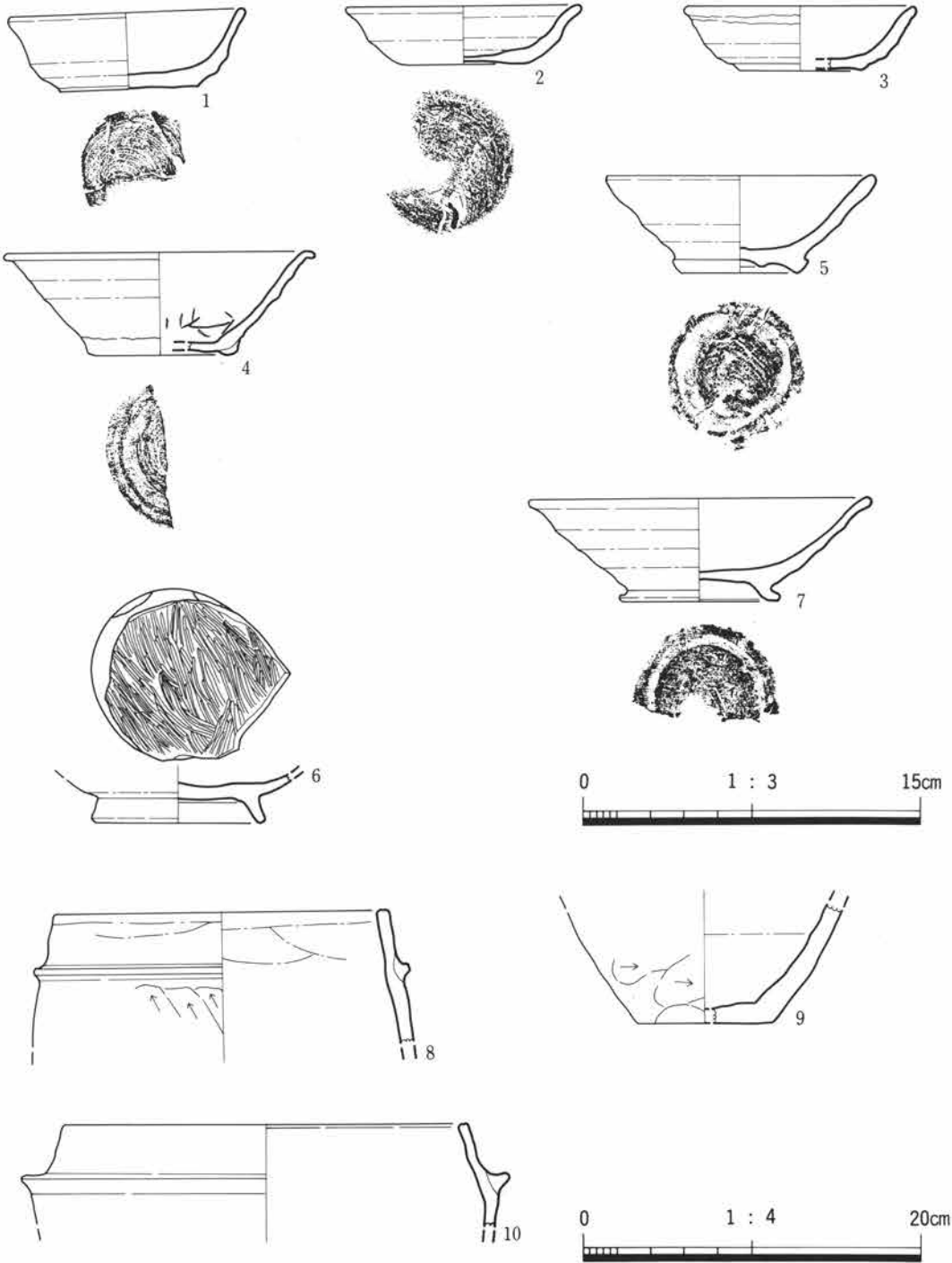




第775図 田端地区B区21号溝出土遺物(2)



第776図 田端地区B区22号溝



第777図 田端地区B区22号溝出土遺物(1)

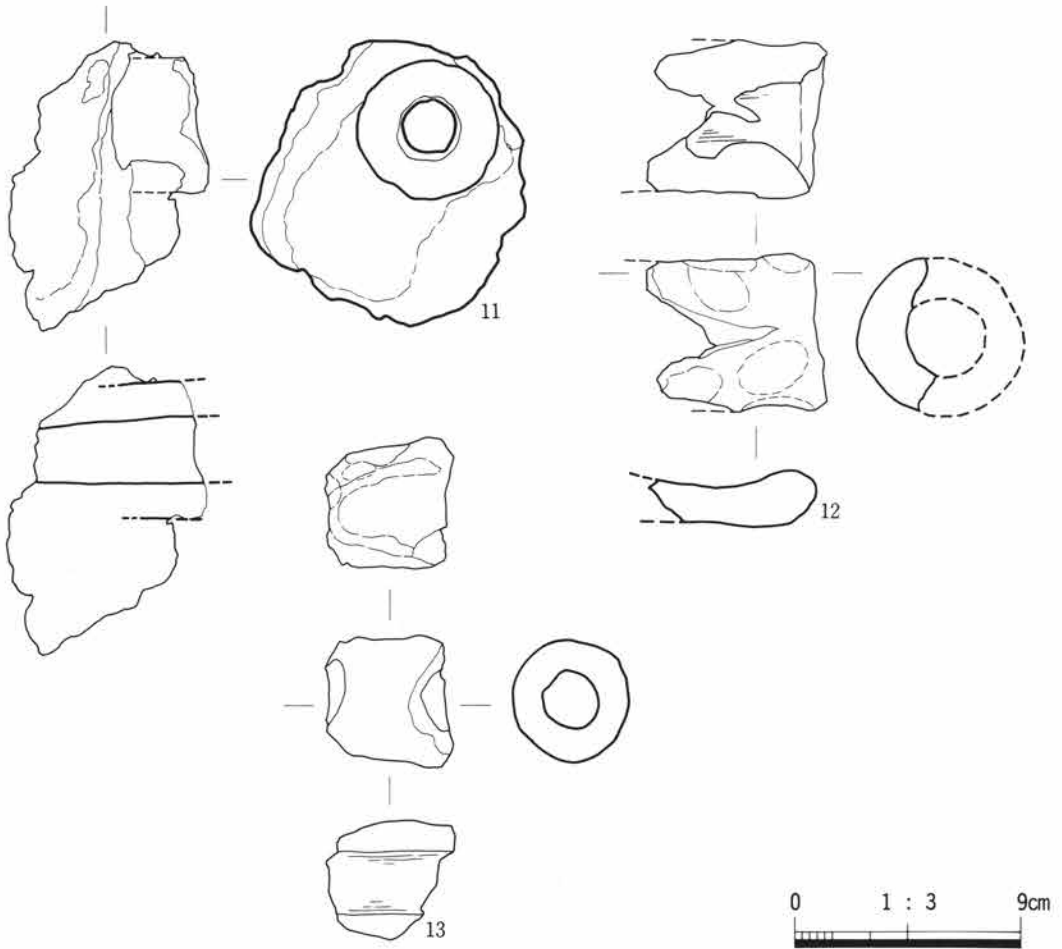
田端地区B区第2号井戸（第779・780図、図版275）

Jライン・71km285m付近で検出した。確認面は第4層である。西半部の上位は土坑によって切られている。確認面から約4mほど掘り下げたが、内壁の崩落が予想されたため、以下の調査を中止した。ボーリング調査により、さらに150cmほど下位に、礫層に達する底面があることを確認している。

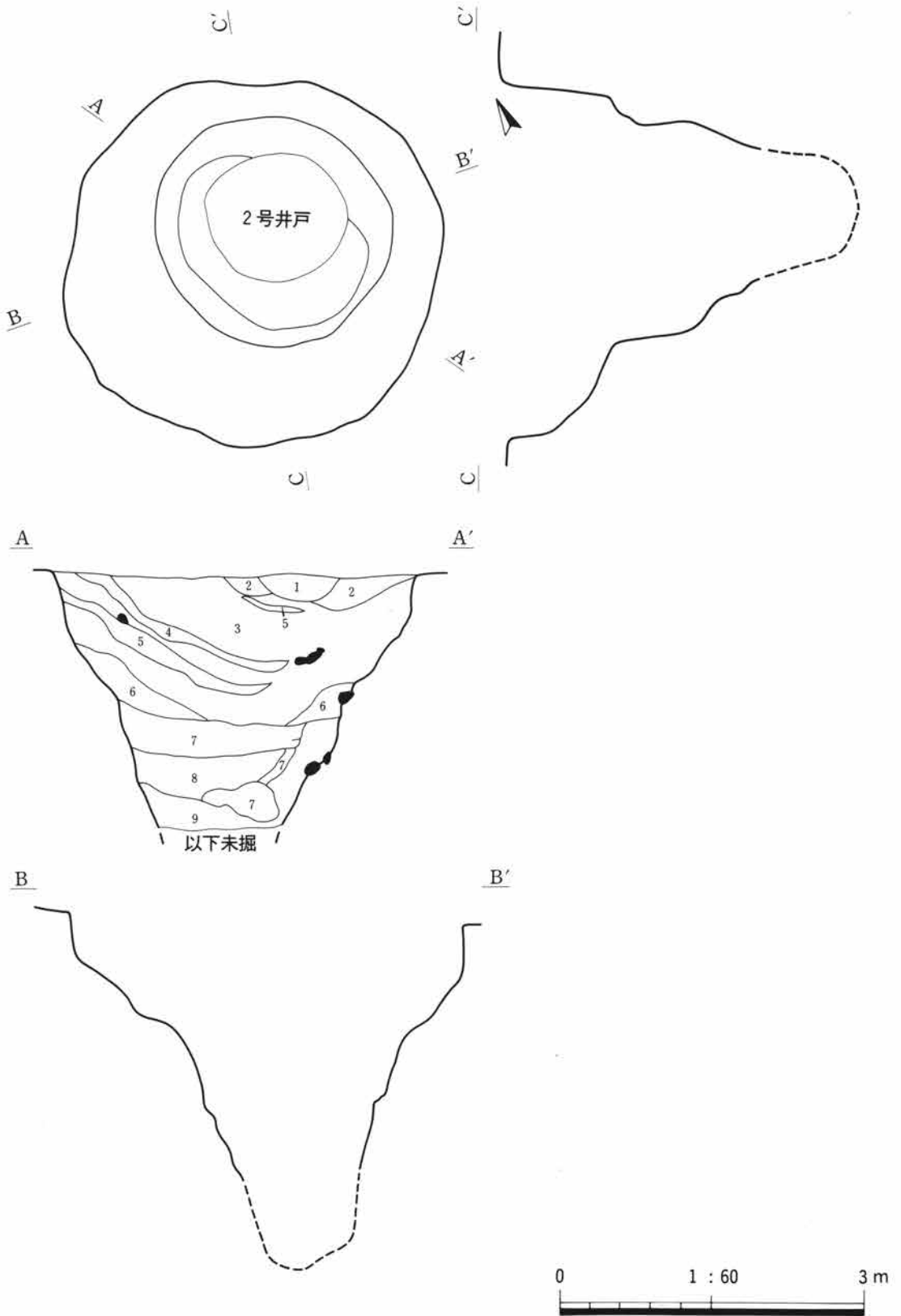
確認面から200cmほどは壁が内湾して段をもち、さらに350cmの深さにも段をもつ。それ以下では直線的に掘り下げている。覆土は自然の堆積を示す。

遺物は杯、黒色土器碗、布目のついた瓦が出土している。

時期は10世紀後半頃とみられる。



第778図 田端地区B区22号溝出土遺物（2）



第779図 田端地区B区2号井戸

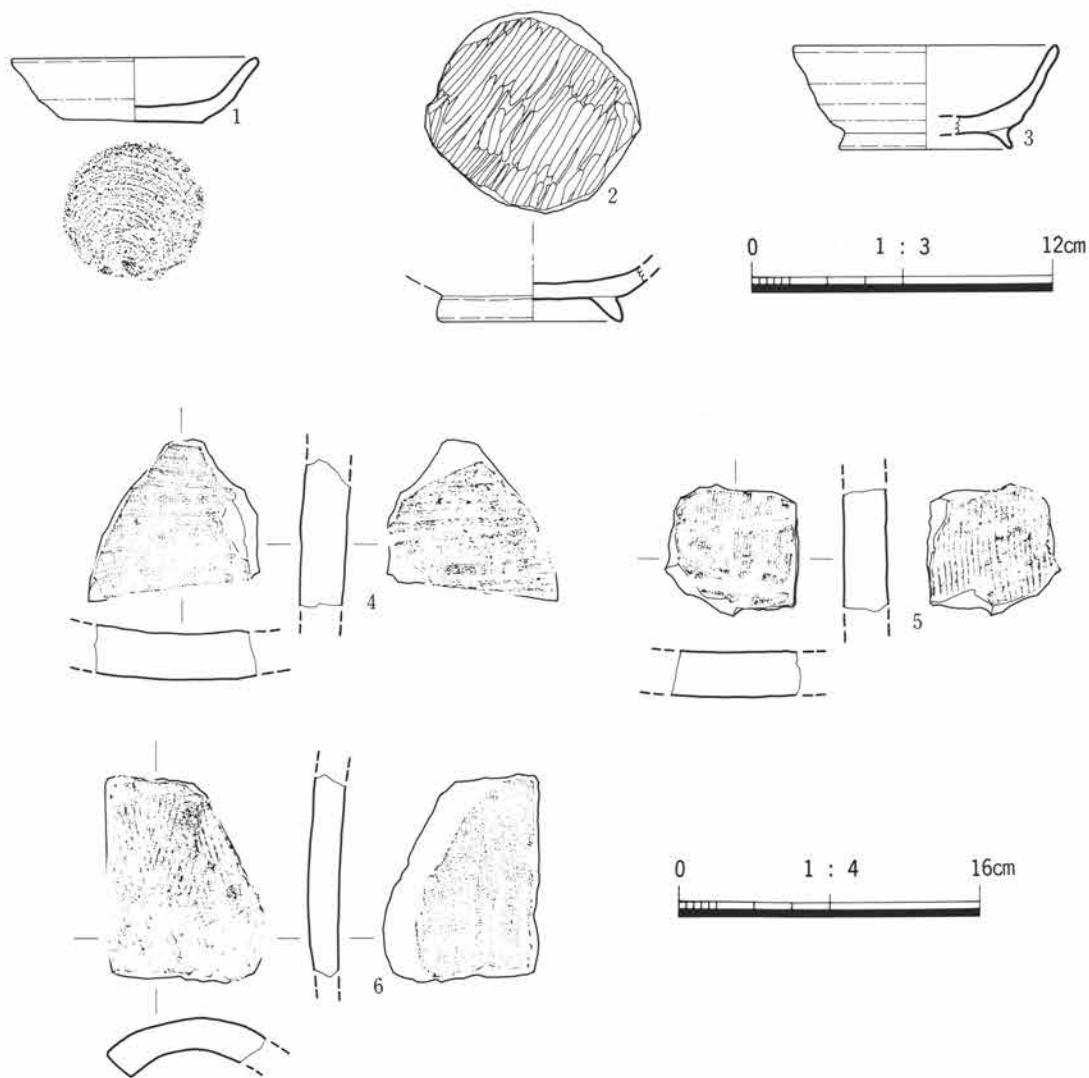
田端地区B区第232号土坑（墓墳）（第781～786図、巻頭図版8・図版275）

Pライン・71km295m付近で検出した。確認面は第4層である。東側を近世の11号溝によって切られている。南北に長い楕円形の掘形をもち、長軸を北北東にとる。

2個体の羽釜を、口縁部を接する状態で発見し、中から骨片を出土した。南側の墓墳内からはほぼ完形に近い須恵器高台付椀を出土している。出土した骨片は人間の歯であることが、整理過程で判明している。

以上のことから、本土坑は墓であり、2個体の羽釜は棺として使用し、南側から出土した椀は副葬品と考えられる。同様の例を知らないが、ここでは仮に『羽釜棺』とよんでおく。

時期は10世紀後半とみられる。



第780図 田端地区B区2号井戸出土遺物



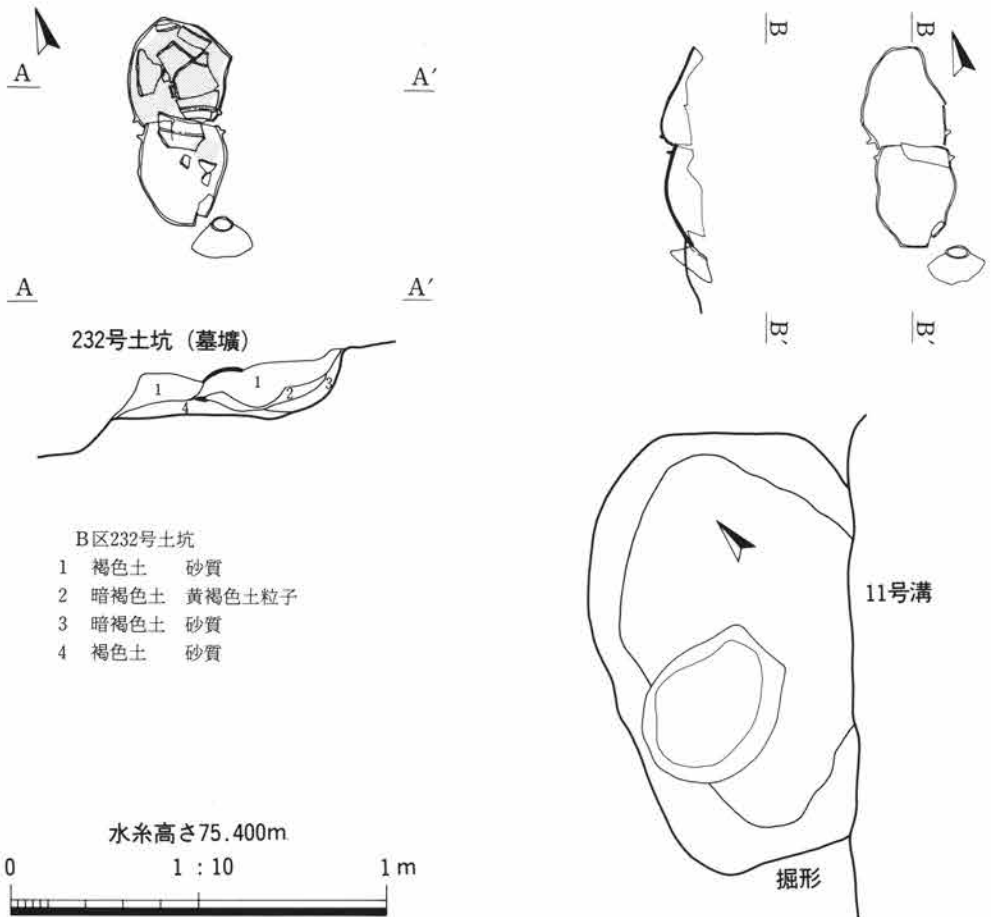
第781図 田端地区B区232号土坑（墓墳）（1）



第782図 田端地区B区232号土坑（墓墳）（2）

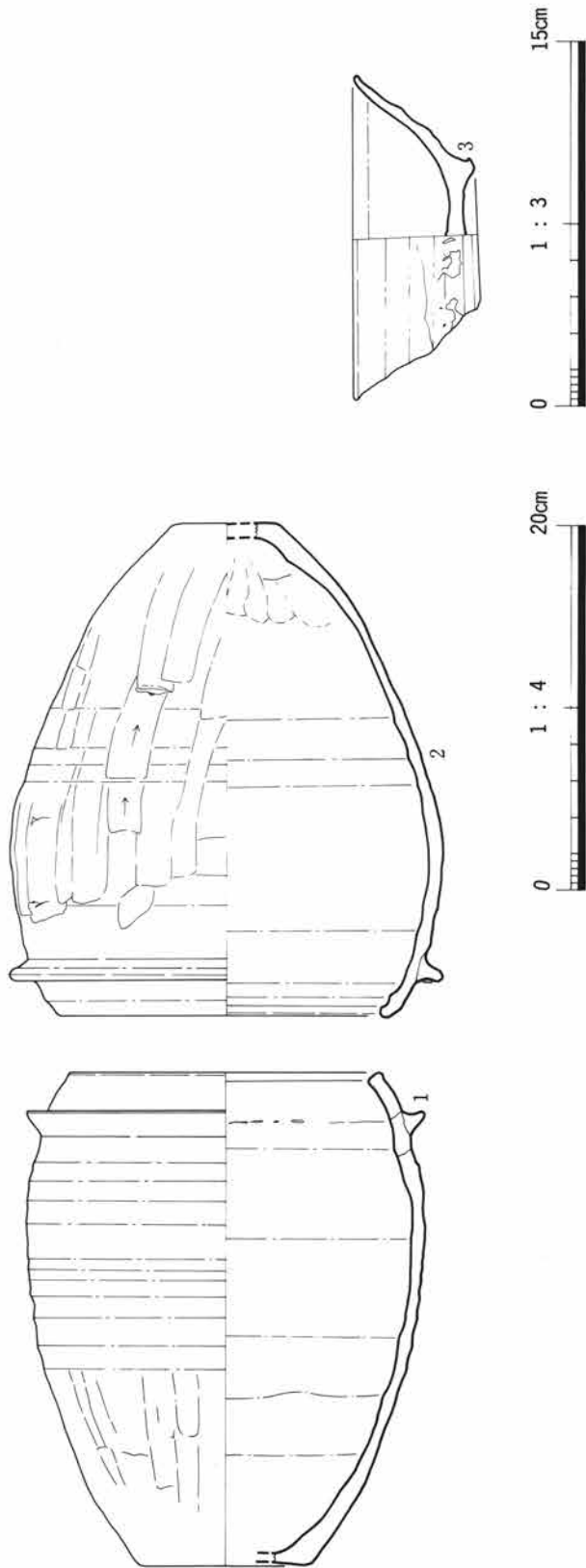


第783図 田端地区B区232号土坑（墓墳）（3）

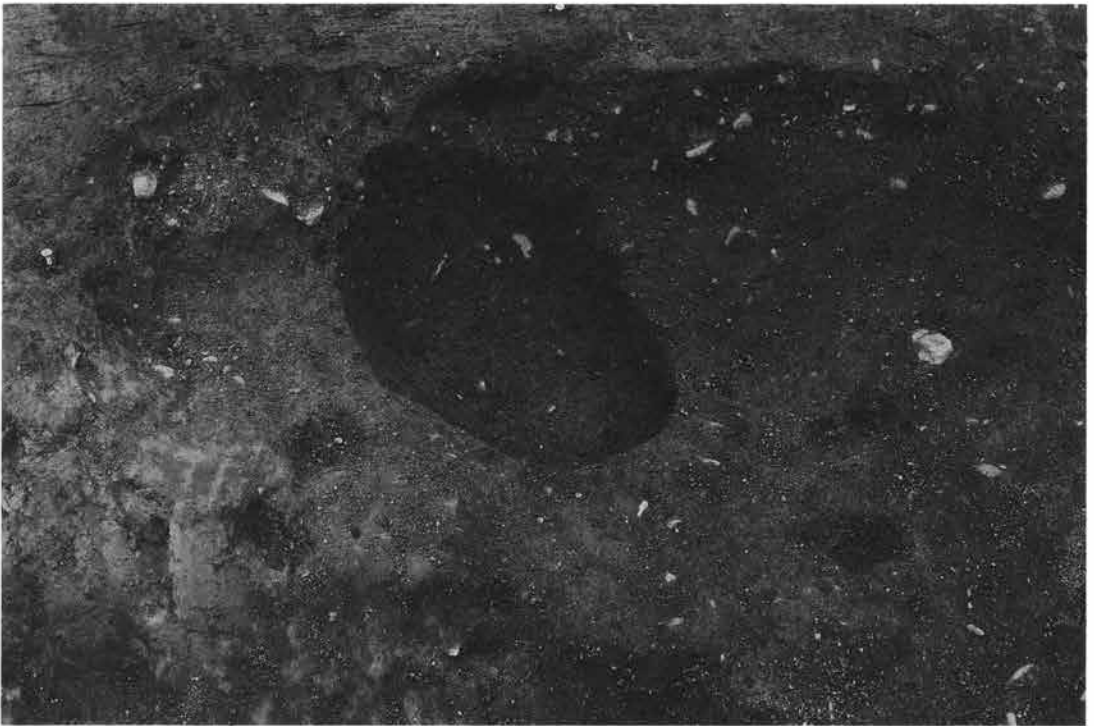


第784図 田端地区B区232号土坑（墓墳）





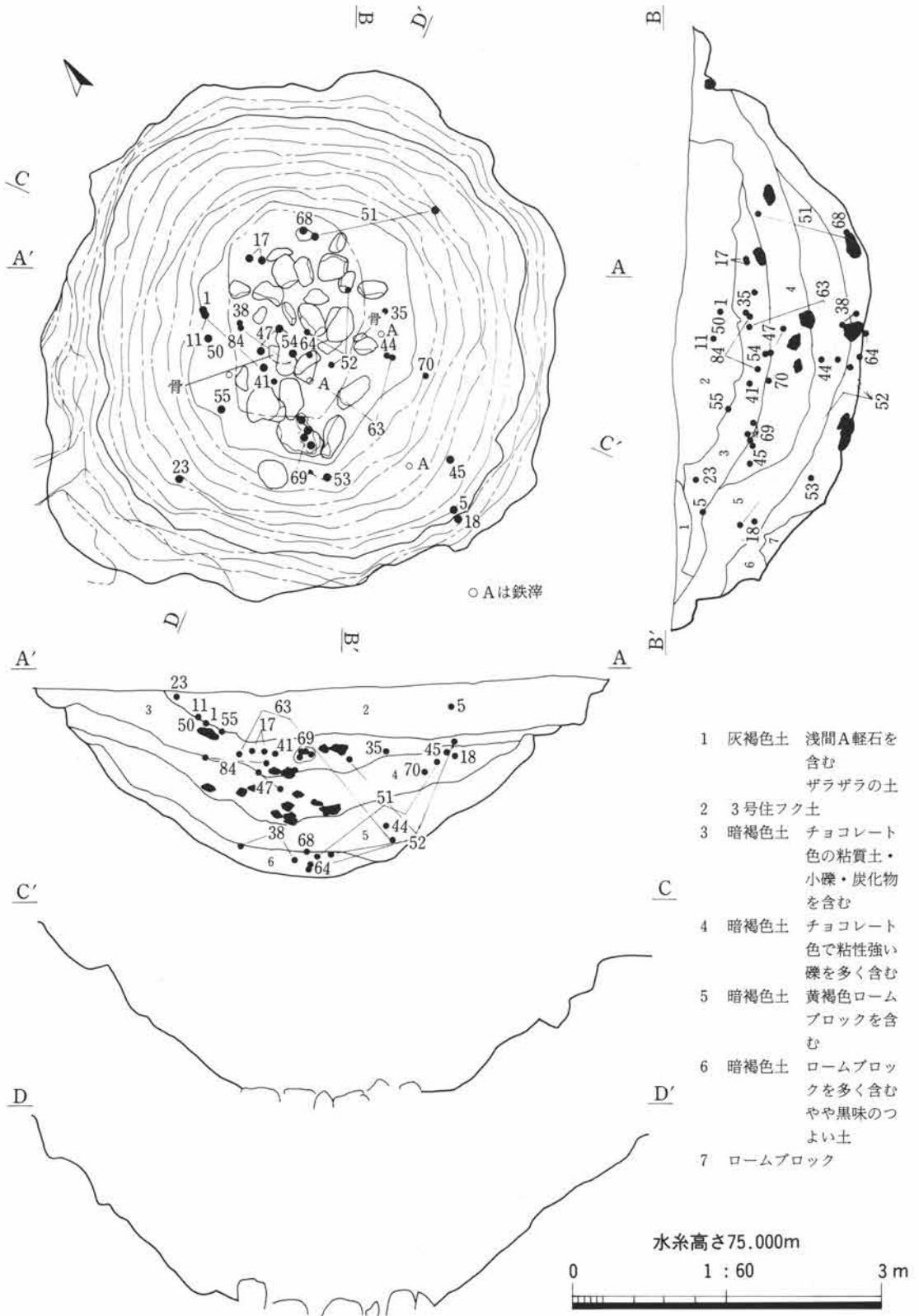
第785図 田端地区B区232号土坑（墓壙）出土遺物



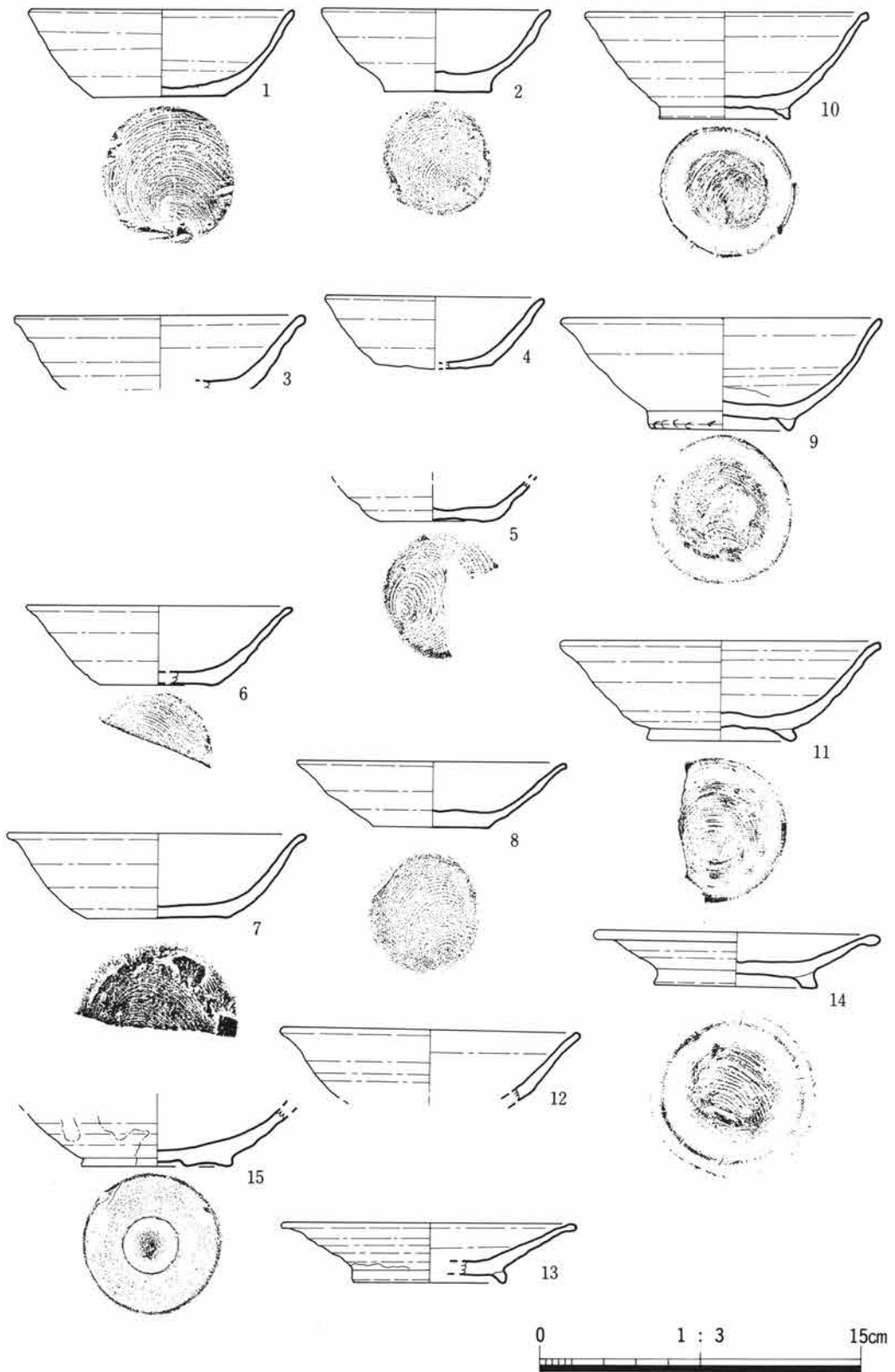
第786図 田端地区B区232号土坑（墓墳）（4）



第787図 田端地区B区3号住居跡下土坑



第788図 田端地区B区3号住居跡下土坑



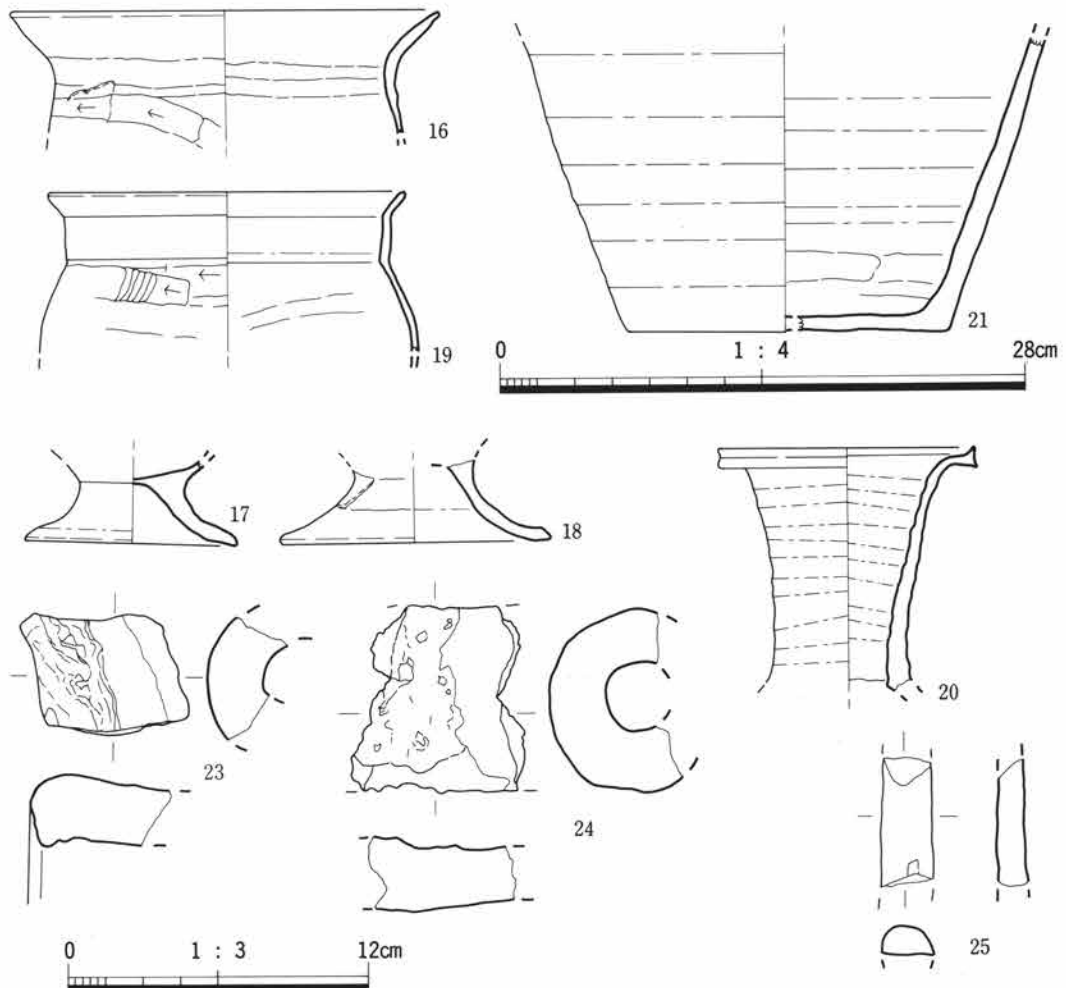
第789図 田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(1)

## 田端B区第3号住居跡下土坑（第787～792図、図版276・277）

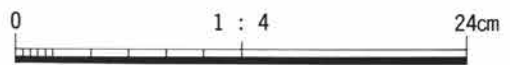
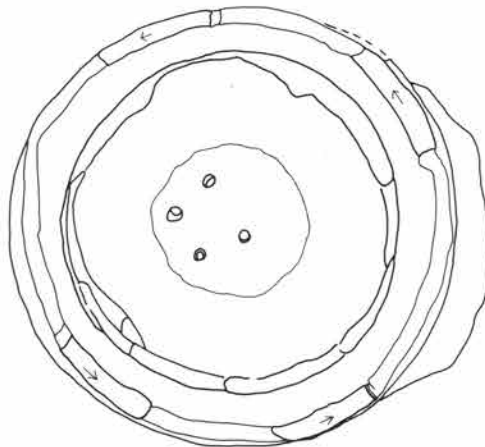
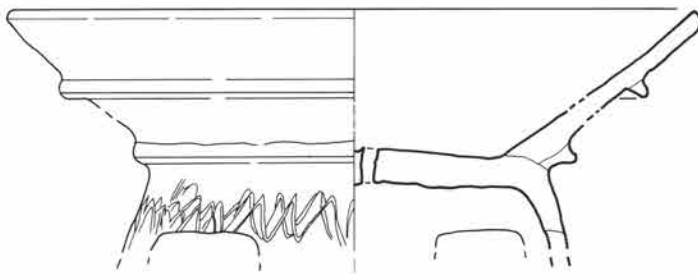
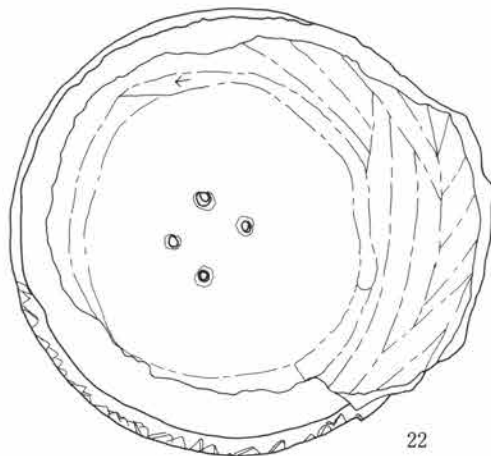
Pライン・71 km 255m付近で検出した土坑で、54号土坑とともに同時期にかかわる大形井戸と考えられる。上部にすっぽりと3号住居跡が重なり、また北側には長方形土坑が重複している。3号住居跡及び方形土坑が新である。調査当初、3号住居跡として一気に掘りあげたため、遺物は出土地点と出土レベルによって、それぞれに帰属させた。

平面形は確認面で方形を呈し、中位で円形、底面は円形・平坦である。覆土は全体的に自然の堆積状態を示しているが、上層には大形の河原石を含み、遺物も多い層がみられた。この層については、河原石の状況から人工的に埋められた、あるいは投げ込まれたと言えようか。最下層～底面にも河原石が散在する。底面の河原石は掘り込みなどの作業状態は認められなかったが、流れ込んだ状態でもない。あるいは単に設置したのみであろうか。河原石の上面に馬歯、馬骨の一部が検出された。遺存状態が悪く、一体か数体かの判定は不能であった。また、骨の計測も不能であった。54号土坑の偶蹄類骨・歯の出土とともに注目される。

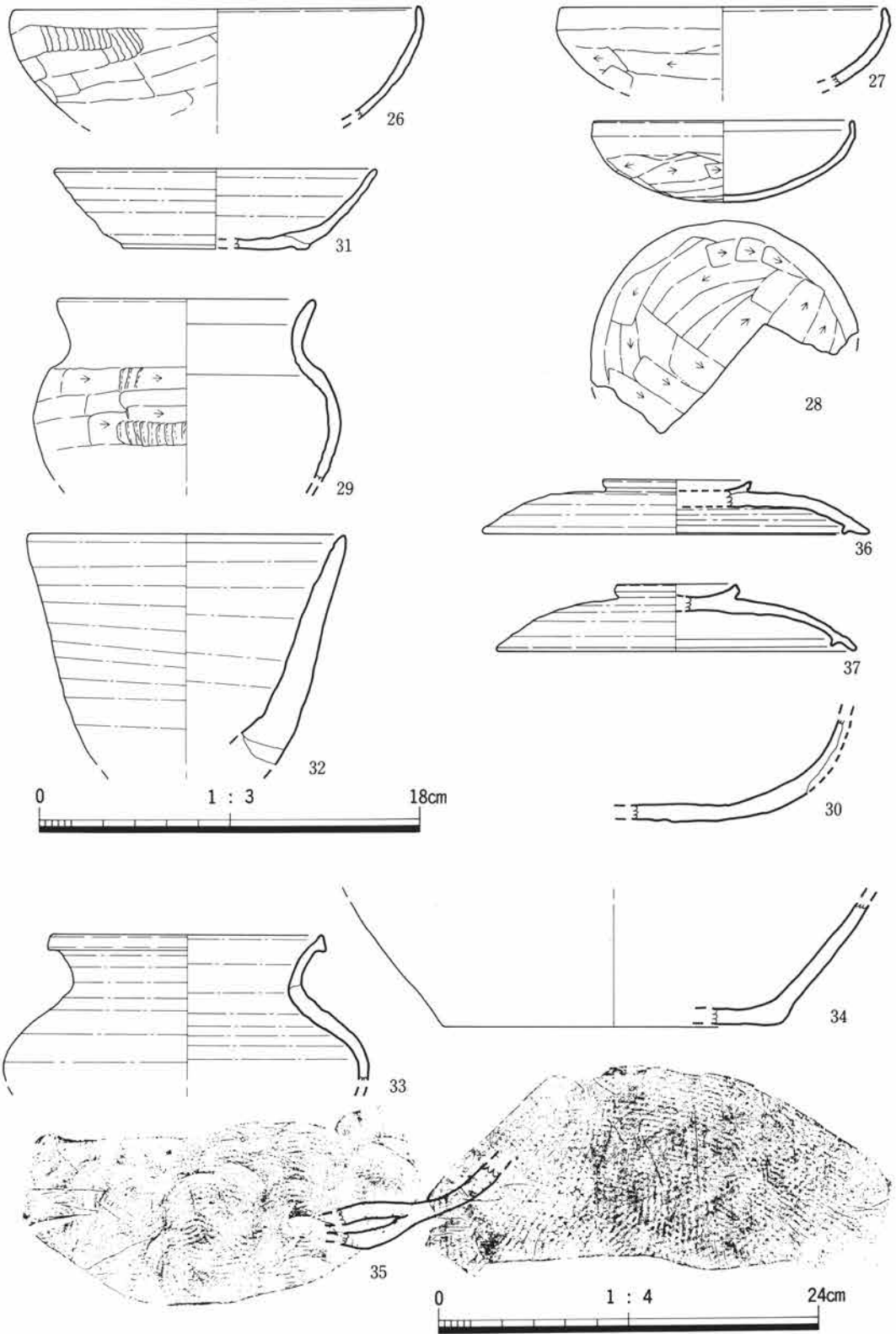
遺物は数時期のものが混在しているが、下層及び底面上の遺物については同時期性が認められる。



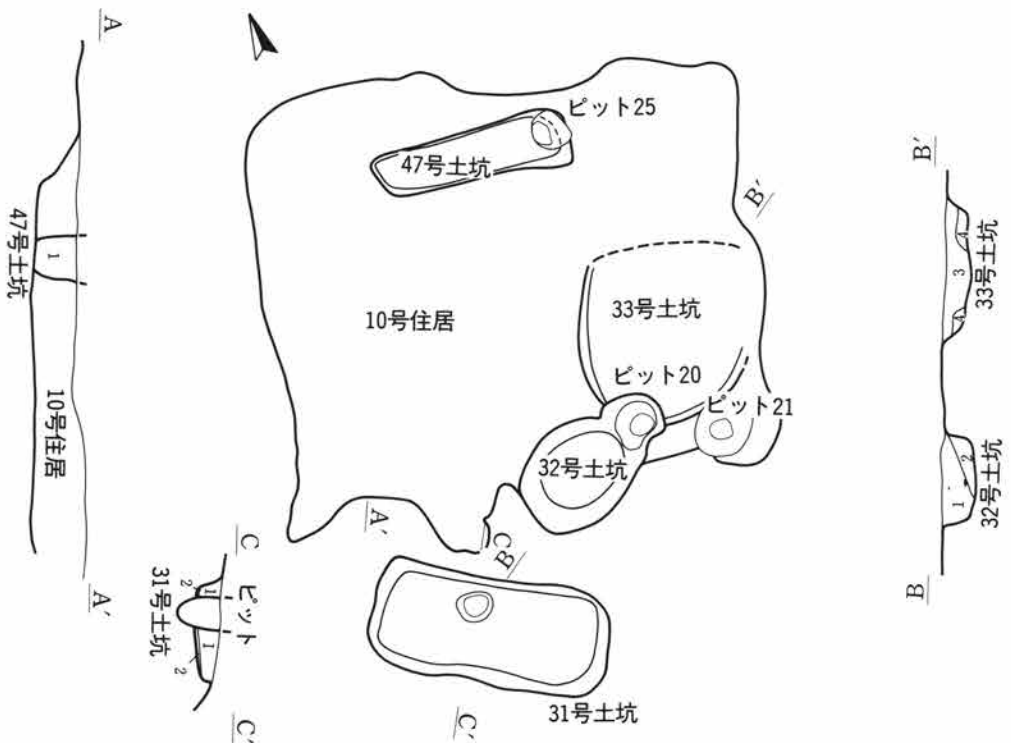
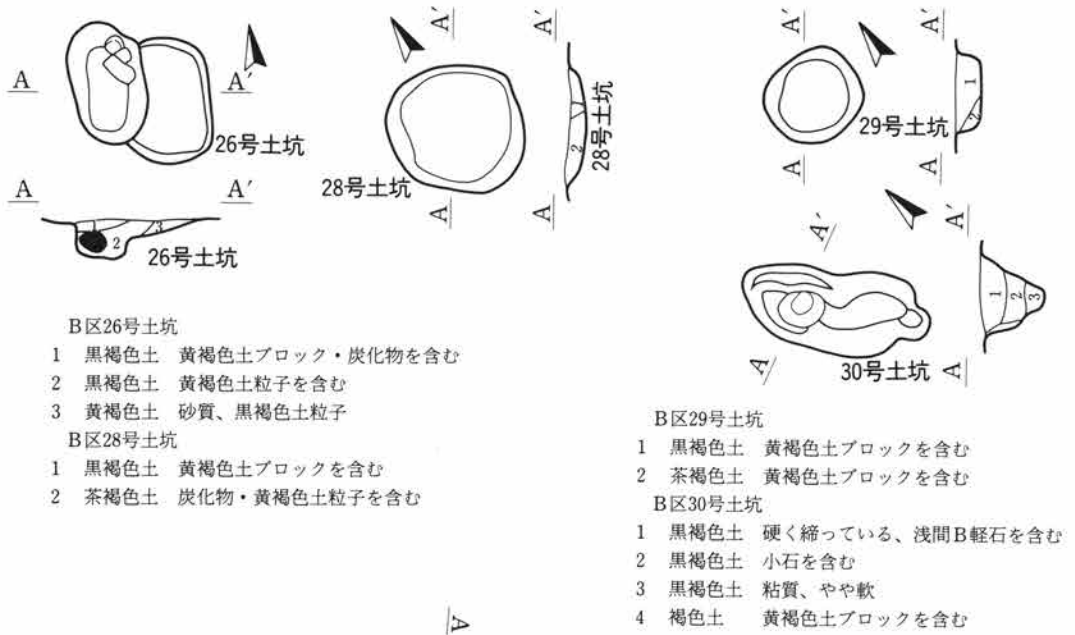
第790図 田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物（2）



第791図 田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(3)



第792図 田端地区B区3号住居跡下土坑下層フク土出土遺物(4)



**B区47号土坑**

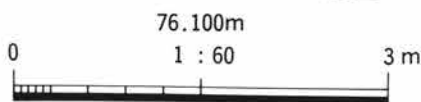
- 1 黒褐色土 砂質、軟

**B区31号土坑**

- 1 褐色土 黄褐色土ブロックを含む
- 2 褐色土

**B区32・33号土坑**

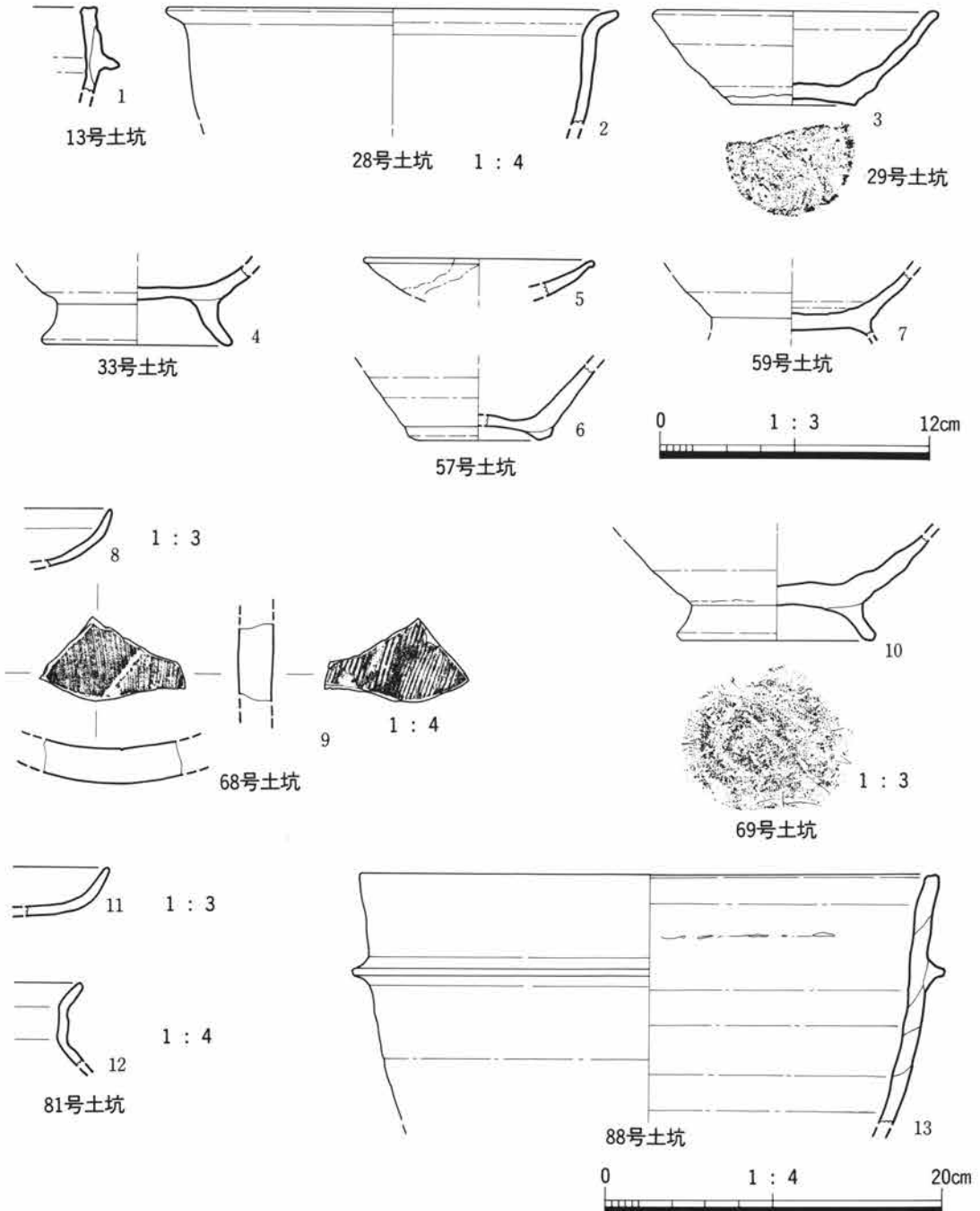
- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック・小石を含む
- 2 黄褐色土 黒褐色土ブロックを含む
- 3 灰褐色土 砂質
- 4 灰褐色土 黄褐色土ブロックを含む



第793図 田端地区B区26・28・29・30・31・32・33・47号土坑



上層の河原石を含む層からは須恵器皿・高台付碗、土師器甕、灰釉陶器杯・碗類、鉄滓、フイゴ羽口等が出土し、西側に近接する4A号住居跡（鍛冶遺構）との関連が考えられる。また、器形・用途不明の特異な土器も出土しており注目したい。上層のものは、大きく分けて二時期に分けられる。新しくは3号住居跡に接続する9世紀後半代であり、古くは8世紀末に比定出来る。下層中からは、上記馬骨の他、須恵器甕・杯・蓋、土師器甕・杯・鉢が出土している。時期は8世紀中葉といえよう。従って、本土坑の時期も下層の土器群に接する時期、8世紀中葉と考えている。



第794図 田端地区B区13・28・29・33・57・59・68・69・81・88号土坑出土遺物

田端地区B区第127号土坑（第795～797図、図版280）

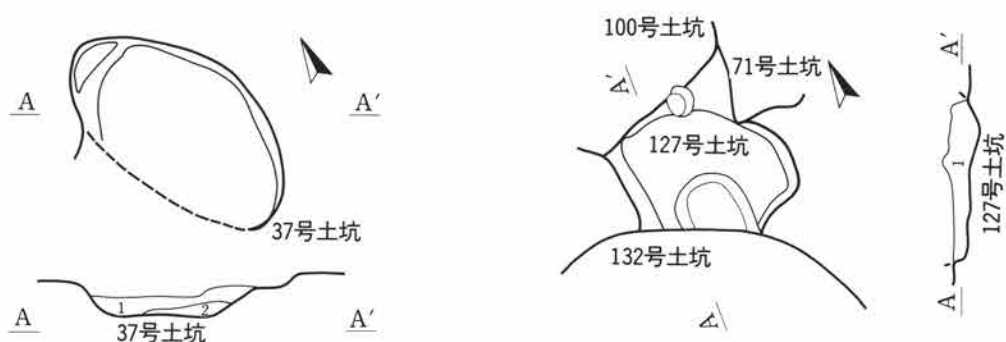
N-Oライン・71km266m付近で検出した。周辺住居よりも下位で発見し、132号土坑→127号土坑の順に新しい。

本土坑は不整形の平面形をもち、最深部の深さは15cmほどである。全体に浅く、鍋底状を呈する。中から緑釉陶器の小形壺が出土した。

時期は8世紀～9世紀ころとみられる。

田端地区B区第54号土坑（第798～807図、図版278・279）

Kライン・71km261m付近で検出した。確認面は第4層である。周辺の土坑群よりも古い。略円形を呈する井戸状の掘り込みで、深さは最深部で150cmである。覆土は自然に堆積している。壁は上位が緩く、

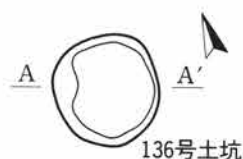


B区37号土坑

- 1 褐色土ブロックと黒褐色土ブロックの混合
- 2 1に灰黄色土ブロックが混入する

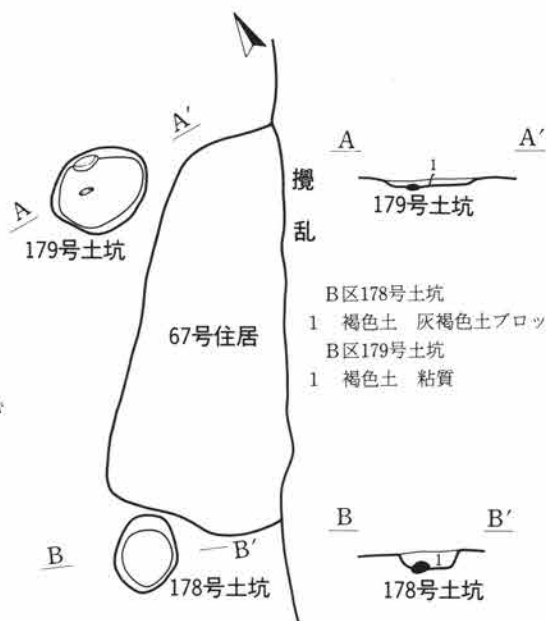
B区127号土坑

- 1 黒褐色土 小石を含む



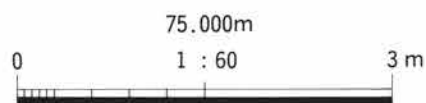
B区136号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒子・黄褐色土を含む

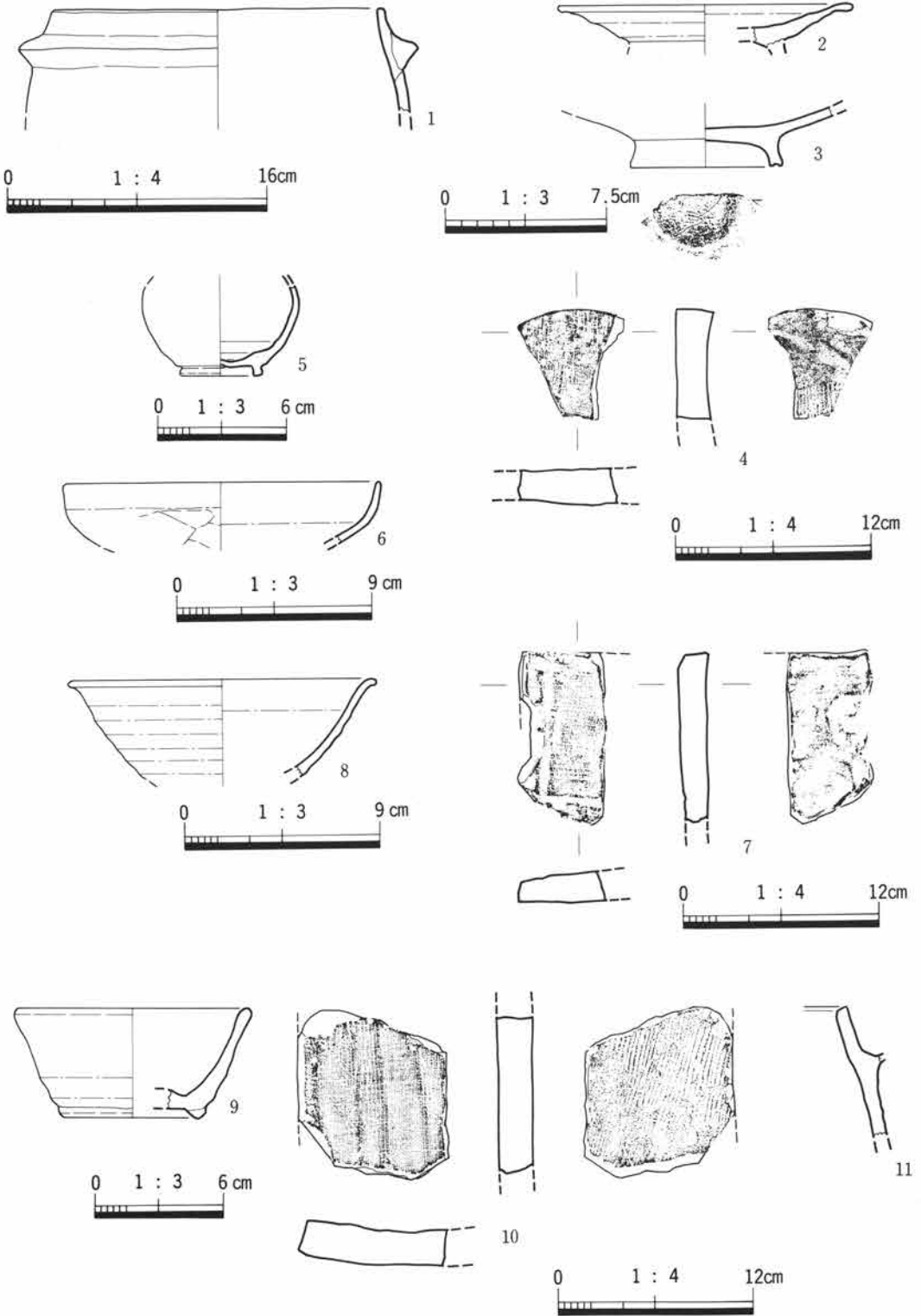


B区178号土坑

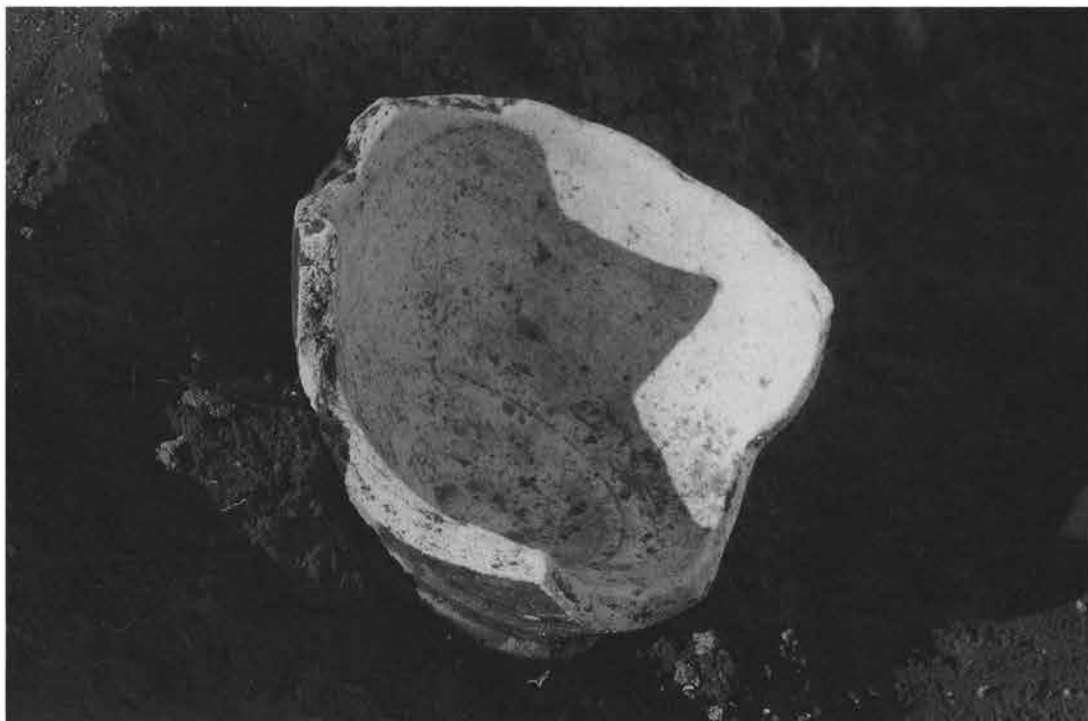
- 1 褐色土 灰褐色土ブロックを含む
- B区179号土坑
- 1 褐色土 粘質



第795図 田端地区B区37・127・136・178・179号土坑



第796図 田端地区B区107・109・127・128・136・142・157号土坑出土遺物



第797図 田端地区B区127号土坑



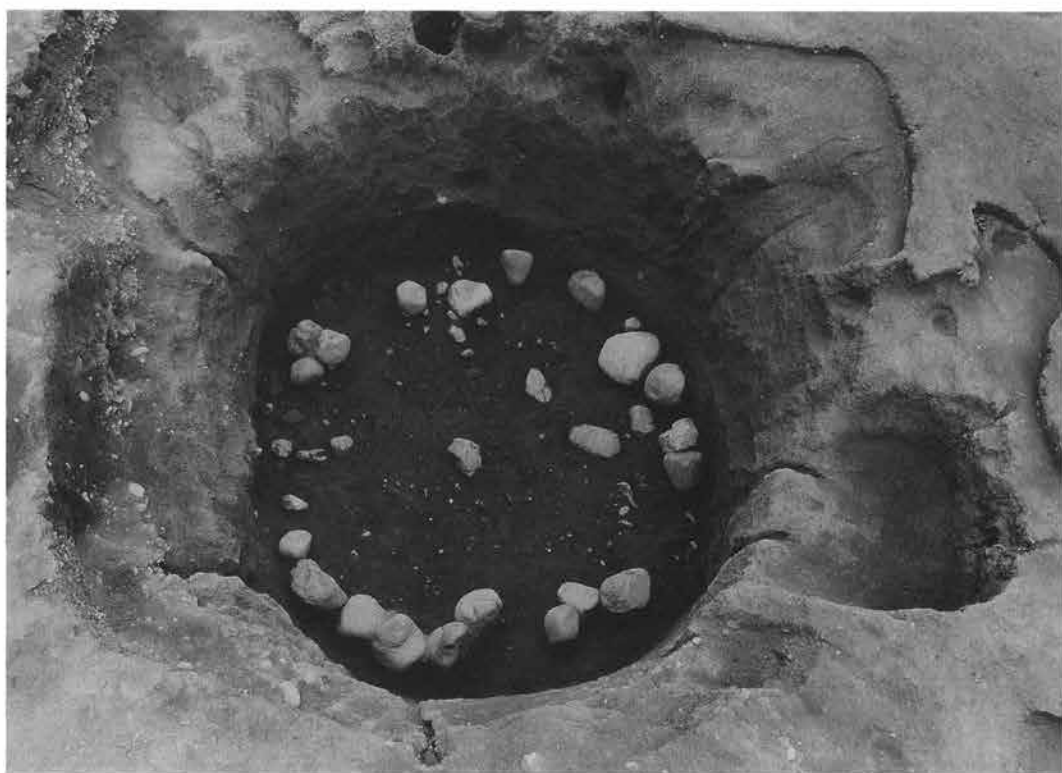
第798図 田端地区B区54号土坑（1）



第799図 田端地区B区54号土坑(2)



第800図 田端地区B区54号土坑(3)



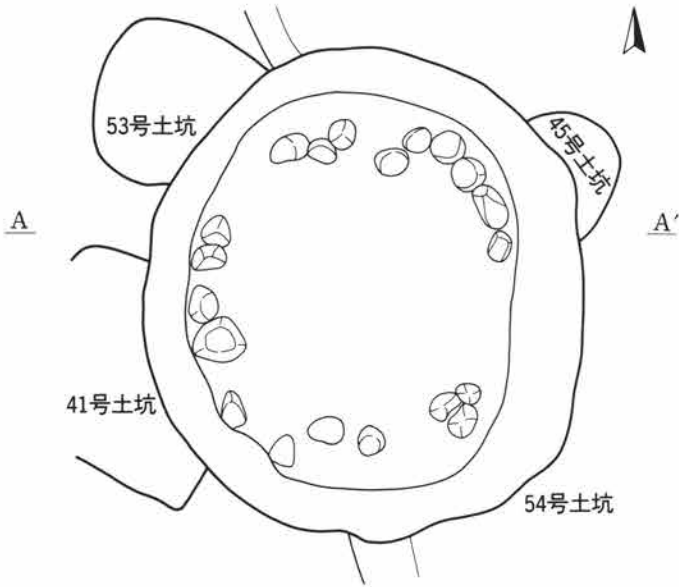
第801図 田端地区B区54号土坑(4)



第802図 田端地区B区54号土坑(5)

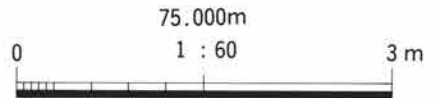
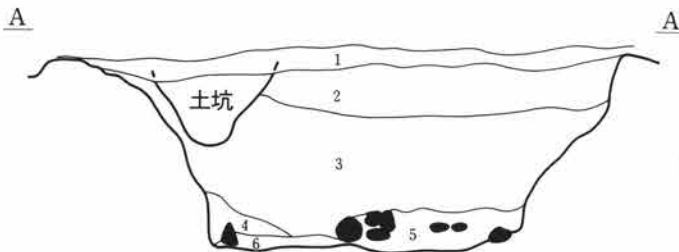


第803図 田端地区B区54号土坑（6）



B区54号土坑

- 1 褐色土 砂質、小石・浅間A軽石を多く含む
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子・小石を多く含む
- 3 褐色土 砂質、黄褐色土粒子・小石を多く含む
- 4 黄褐色土・黒褐色土の混合、砂質
- 5 黒褐色土 砂・小石を多く含む
- 6 黒褐色土 砂質

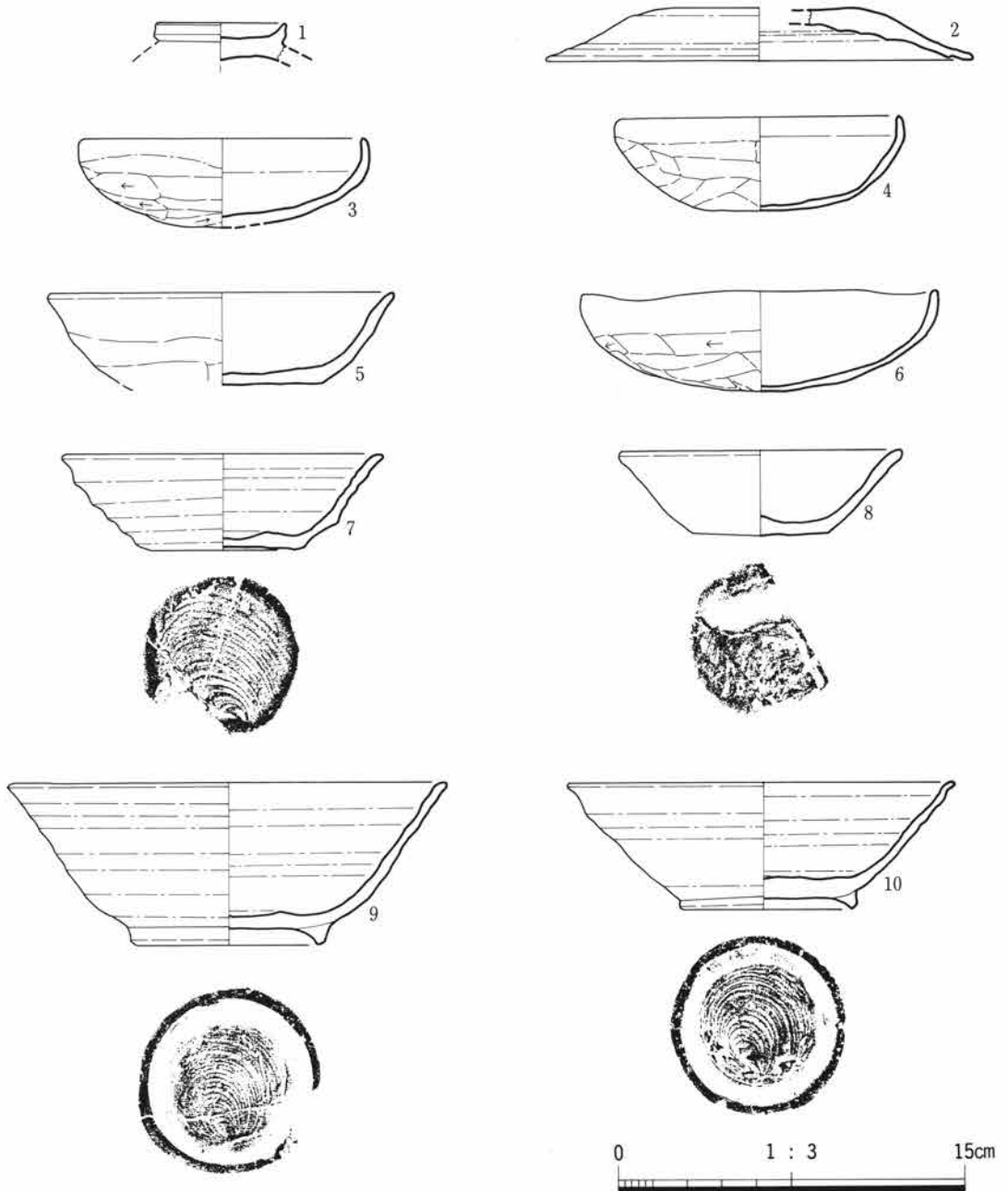


第804図 田端地区B区54号土坑

下位では急角度で立ち上がる。底面は平坦で、礫層に達している。底面の壁近くからは20~50cmほどの石が円形に並んで出土し、中央部の底面から約50cmほど浮いた状態で獣骨が出土した。遺物は獣骨のほか、多量の土器が出土し、布目のついた瓦も出土している。

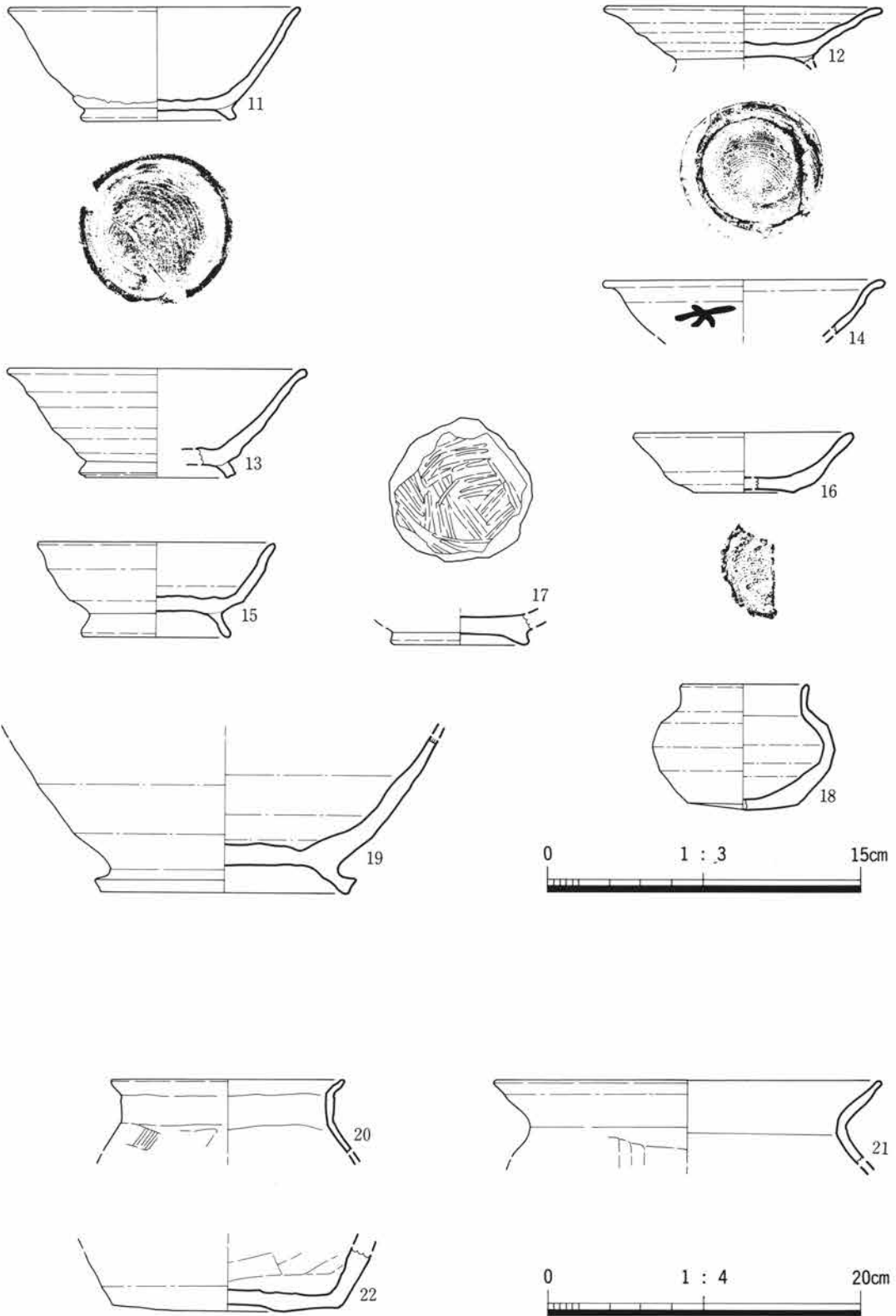
瓦を除くと8世紀から10世紀ころまでの土器があり、古い土器は底面近くから出土している。時期は8世紀ころとみられる。

なお、獣骨に関する所見は第5分冊で扱う。



第805図 田端地区B区54号土坑出土遺物(1)



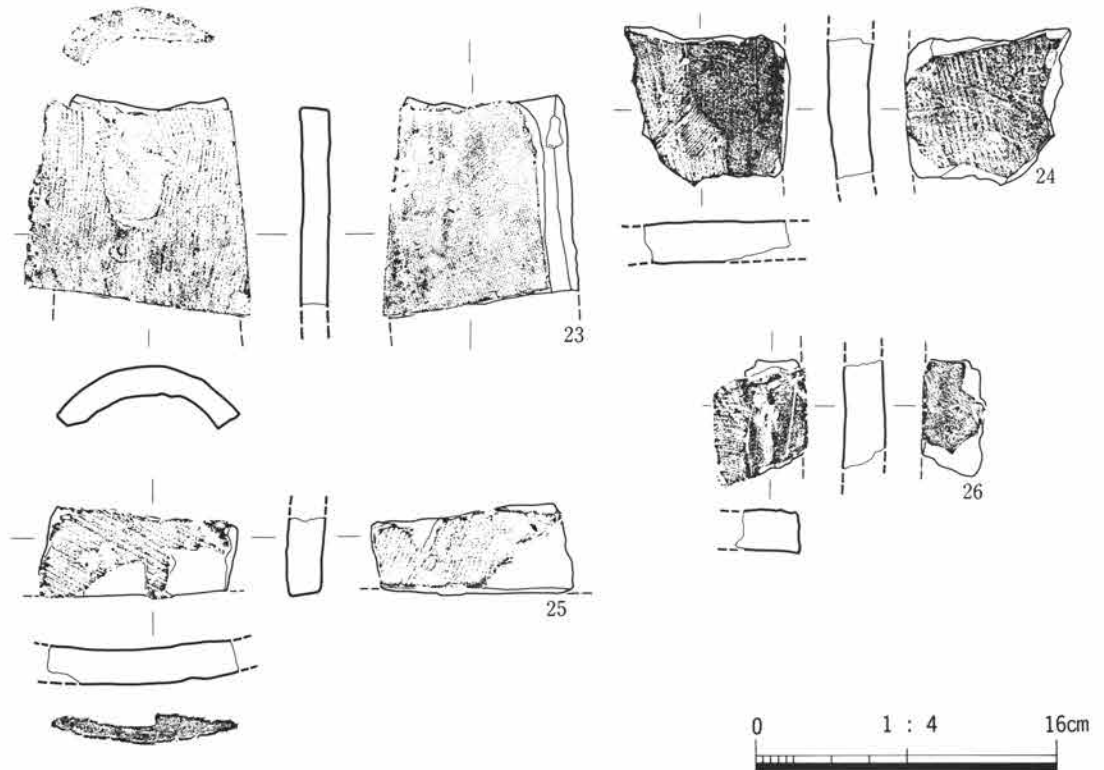


第806図 田端地区B区54号土坑出土遺物(2)

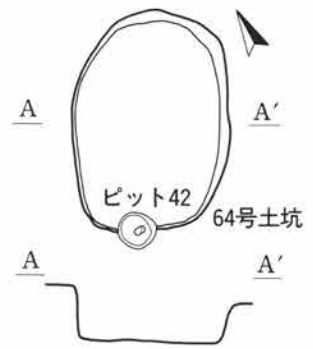
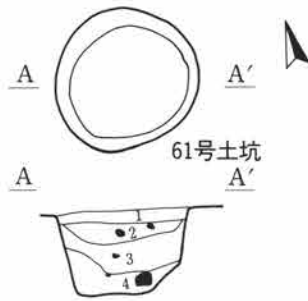
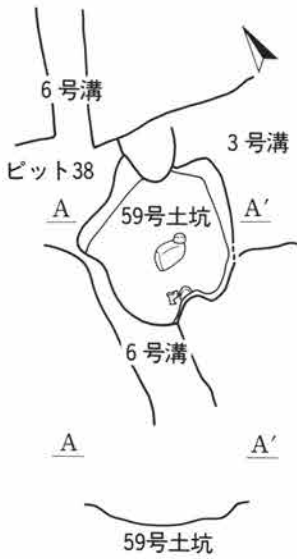
田端B区第132号土坑（第809～815図、図版280）

N-Oライン・71km265m付近で検出した。重複する住居の下位にあり、132号土坑→127号土坑の順に新しい。平面は不整形の略円形を呈し、井戸状の掘り込みをもつ。深さは最深部で150cmほどである。底面には北東から南西にかけて長方形を呈する掘り込みがあり、さらにその内部には楕円形の土坑と円形の土坑がある。長方形の掘り込みの直上には拳大～人頭大の石があった。覆土は自然に堆積している。覆土から骨片が出土したが、獣骨か人骨か不明である。このほか土器が多量に出土した。須恵器杯・蓋・小形壺・大形甕の体部片、土師器杯・甕などがある。

時期は8世紀頃とみられる。



第807図 田端地区B区54号土坑出土遺物（3）



B区61号土坑

- 1 褐色土 砂質、浅間A軽石を含む
- 2 褐色土 小石を含む
- 3 黄褐色土 砂質、小石を多く含む
- 4 暗褐色土 砂質、小石を多く含む

B区55号土坑

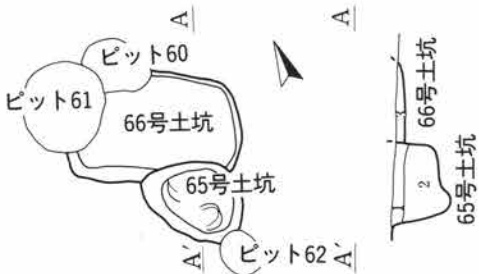
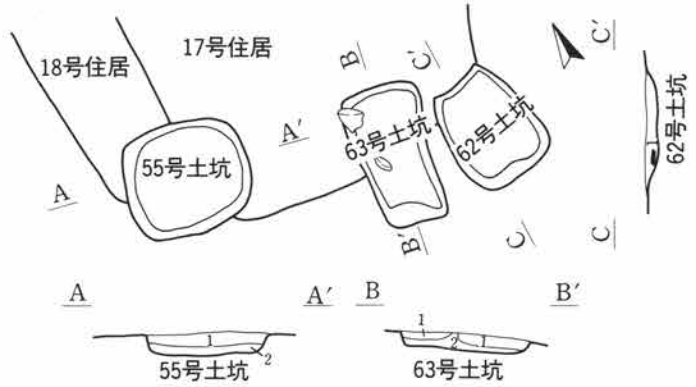
- 1 黒褐色土 浅間B軽石を含む
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロックを含む

B区62号土坑

- 1 褐色土 砂質、浅間A軽石を含む

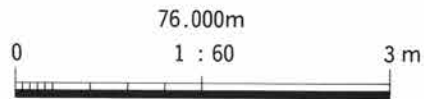
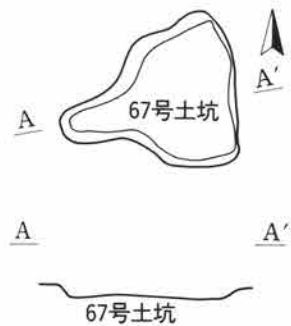
B区63号土坑

- 1 褐色土 砂質、浅間A軽石を含む
- 2 黄褐色土 浅間A軽石を含む



B区65・66号土坑

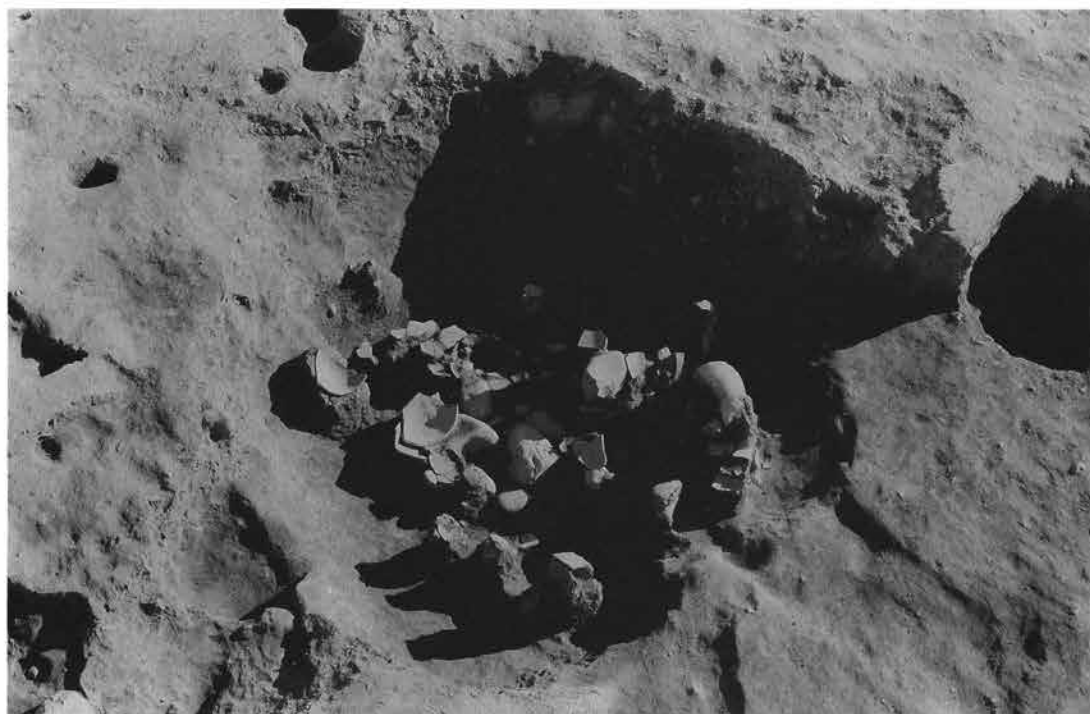
- 1 暗褐色土 砂質、浅間B軽石を含む
- 2 暗褐色土 粘質、浅間B軽石を含む
- 3 褐色土 浅間B軽石を含む



第808図 田端地区B区55・59・61・62・63・64・65・66・67号土坑



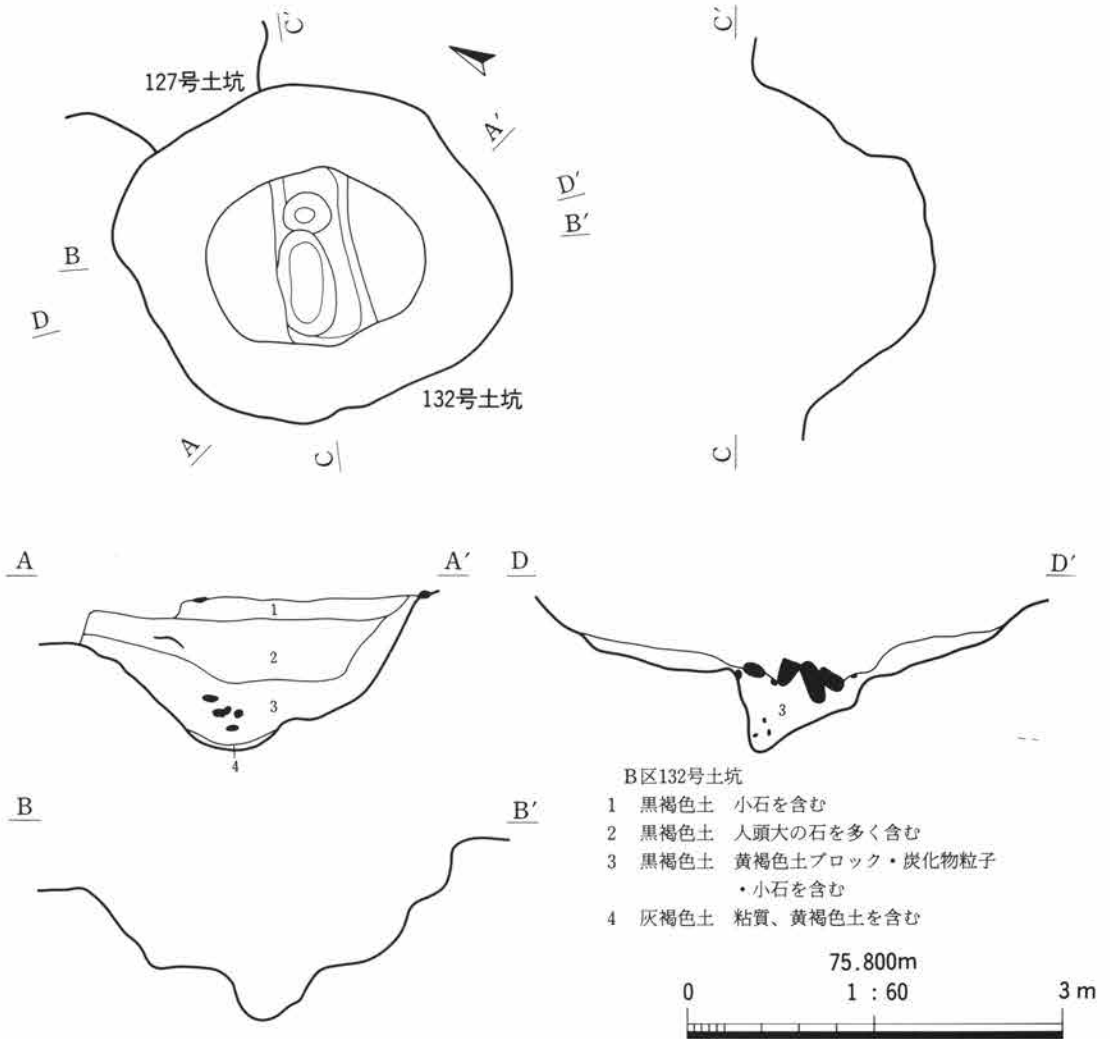
第809図 田端地区B区132号土坑（1）



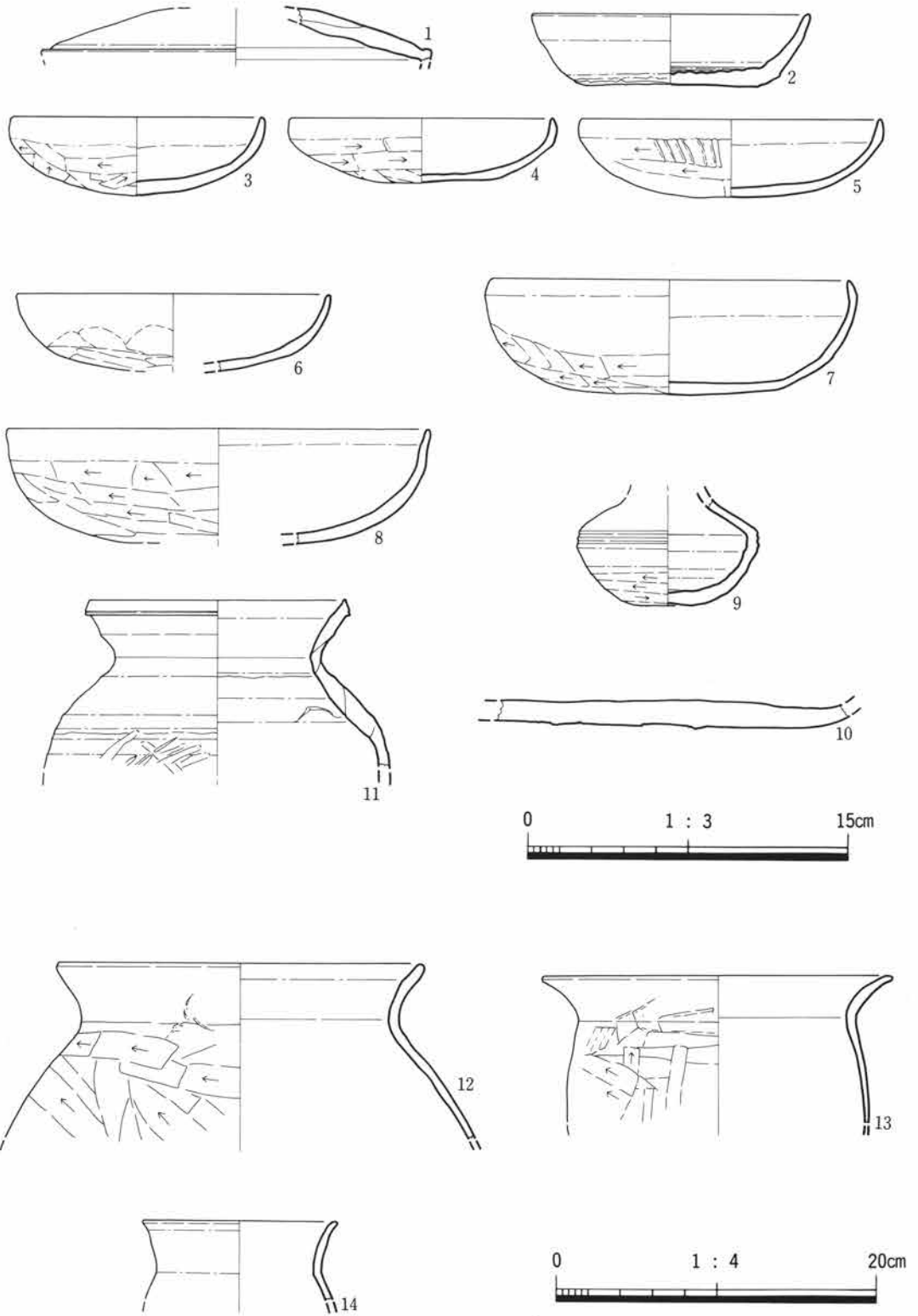
第810図 田端地区B区132号土坑（2）



第811図 田端地区B区132号土坑 (3)



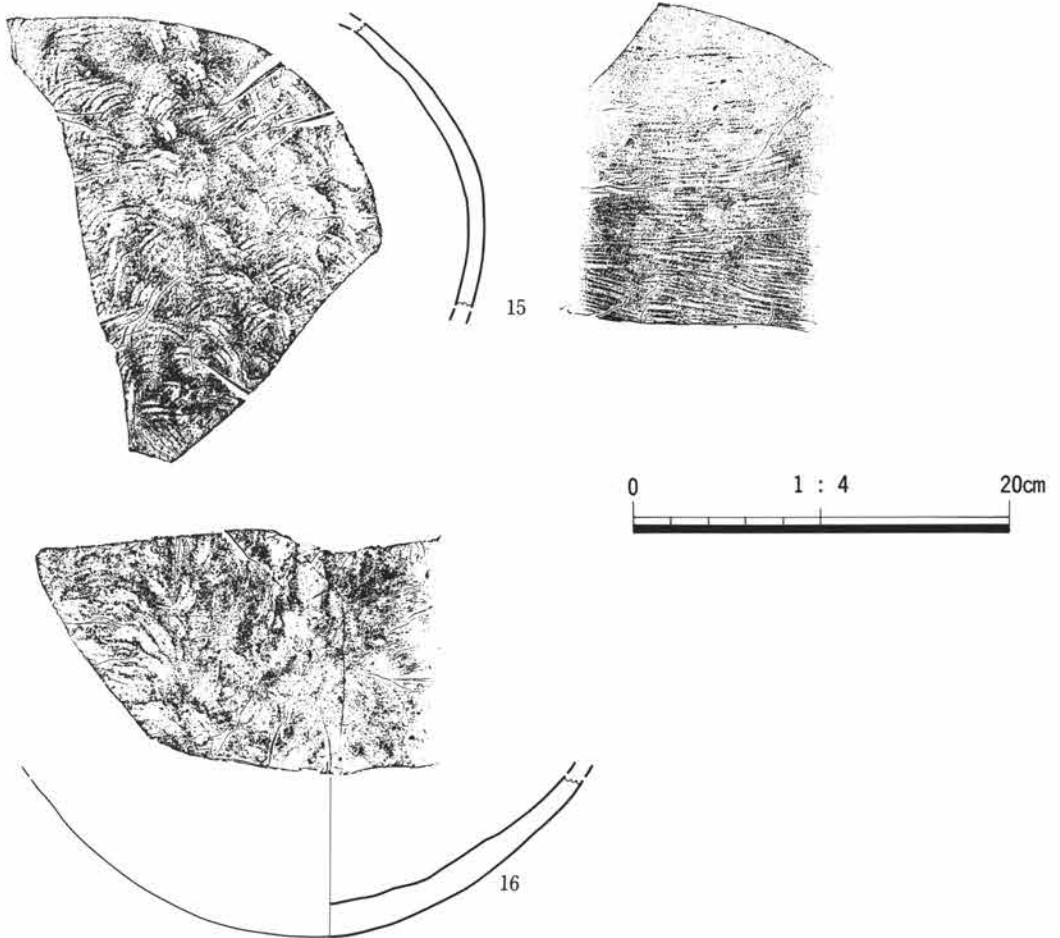
第812図 田端地区B区132号土坑



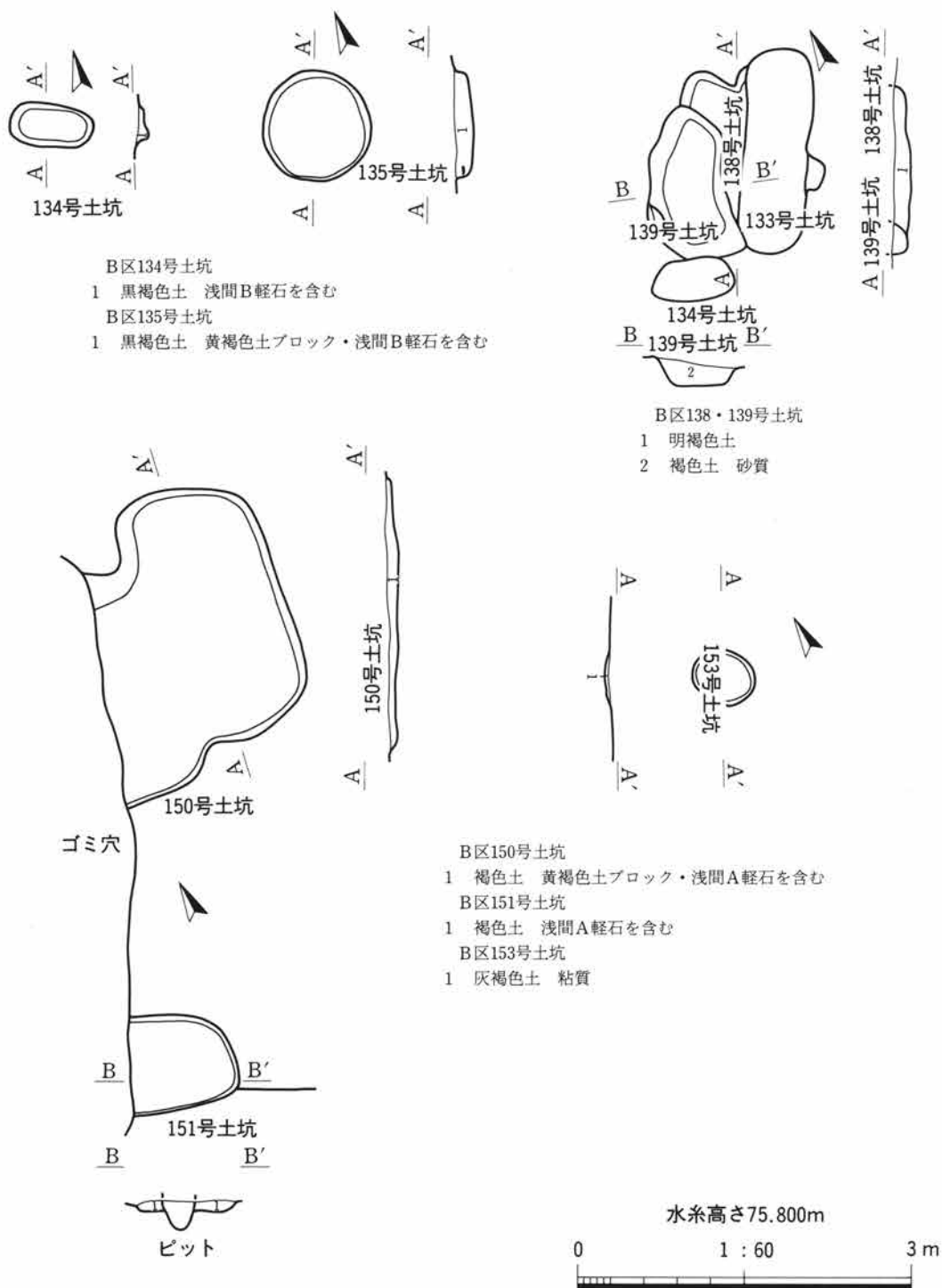
第813図 田端地区B区132号土坑出土遺物(1)



第814図 田端地区B区132号土坑(4)



第815図 田端地区B区132号土坑出土遺物(2)



B区134号土坑

- 1 黒褐色土 浅間B軽石を含む

B区135号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック・浅間B軽石を含む

B区138・139号土坑

- 1 明褐色土
- 2 褐色土 砂質

B区150号土坑

- 1 褐色土 黄褐色土ブロック・浅間A軽石を含む

B区151号土坑

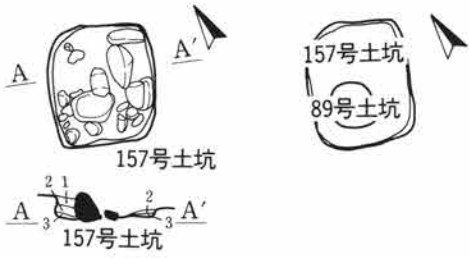
- 1 褐色土 浅間A軽石を含む

B区153号土坑

- 1 灰褐色土 粘質

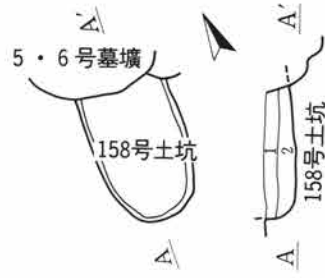
第816図 田端地区B区134・135・138・139・150・151・153号土坑





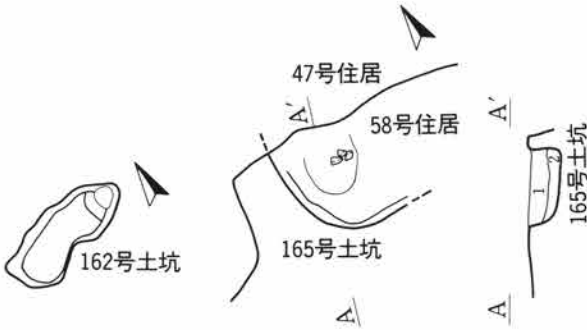
B区157号土坑

- 1 暗褐色土 浅間B軽石を含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子
- 3 灰褐色土



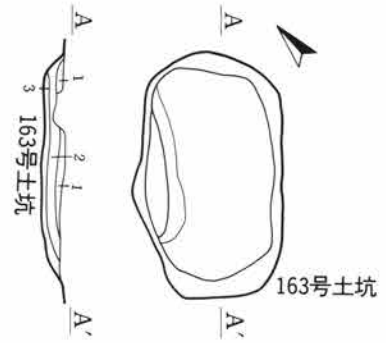
B区158号土坑

- 1 褐色土 砂質、小石を含む
- 2 褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物粒子を含む



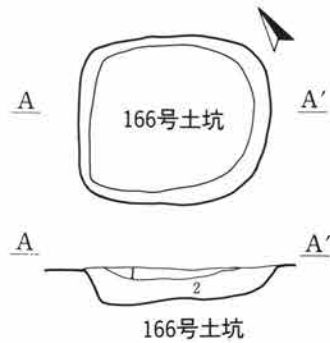
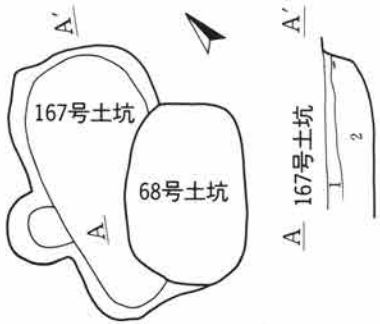
B区165号土坑

- 1 褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子を含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む

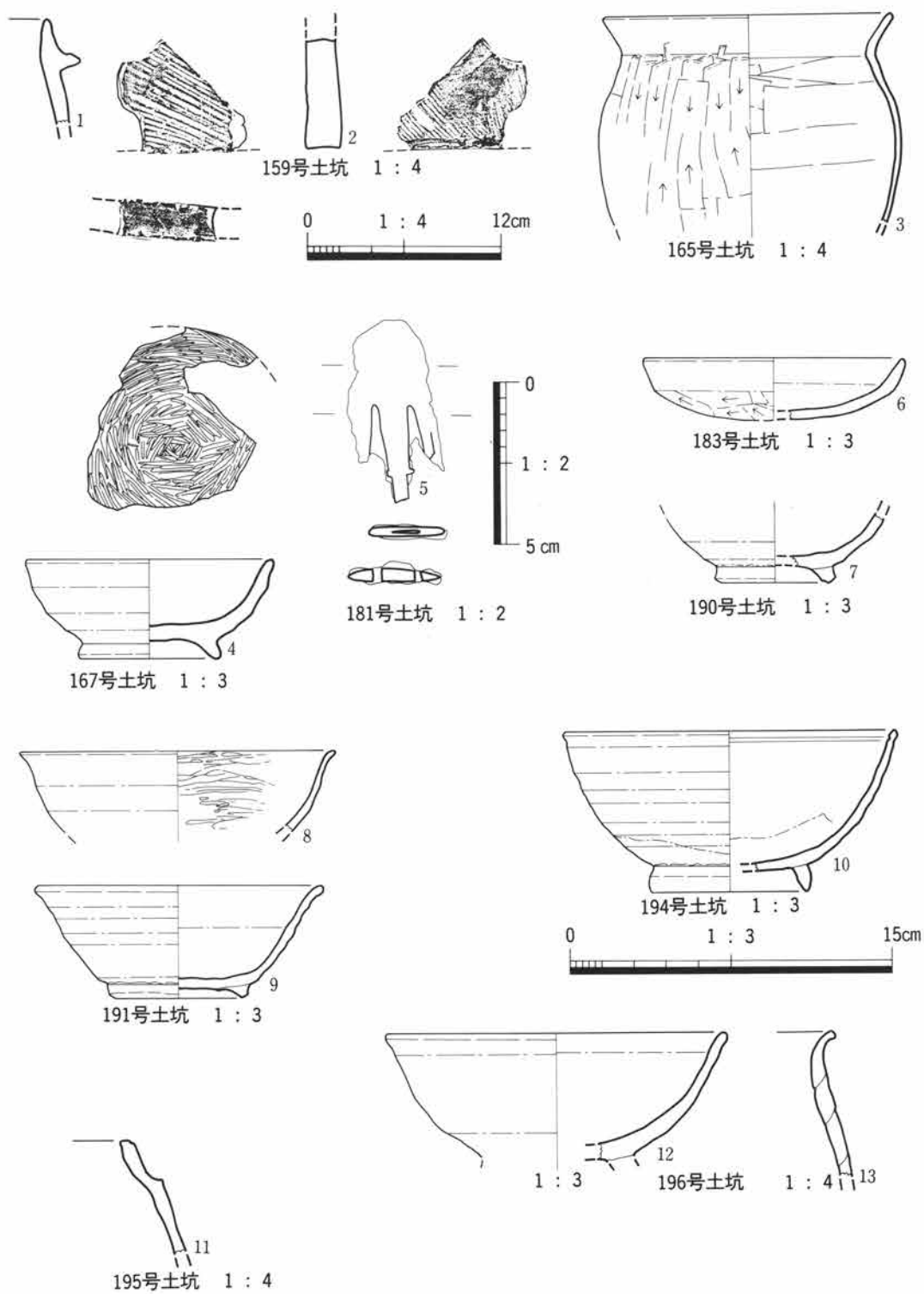


B区163号土坑

- 1 褐色土 砂質、小石を含む
- 2 暗褐色土 砂質
- 3 黄褐色土 砂質



第817図 田端地区B区157・158・162・163・165・166・167号土坑



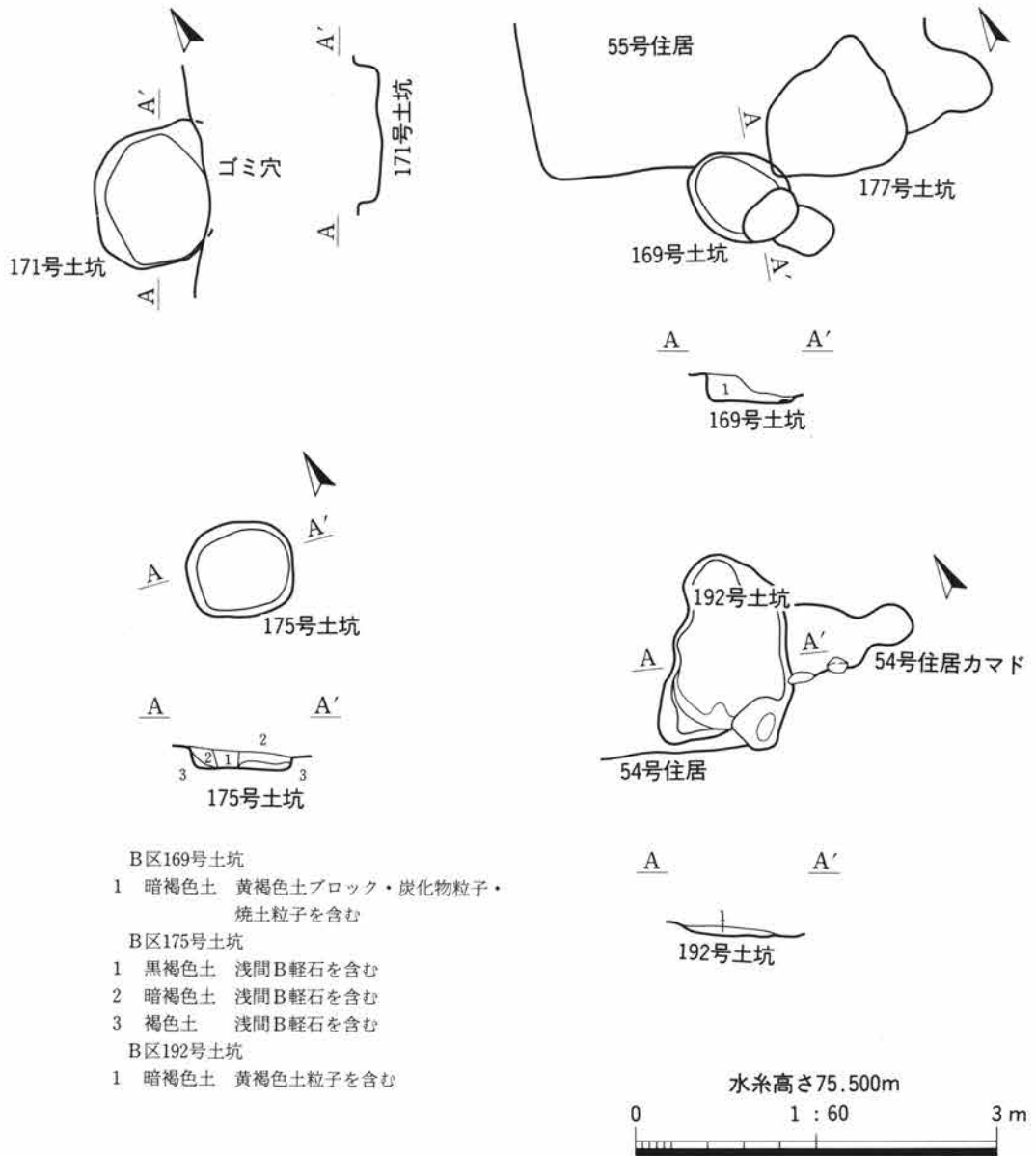
第818図 田端地区B区159・165・167・181・183・190・191・194・195・196号土坑出土遺物



第819図 田端地区B区157号土坑



第820図 田端地区B区192号土坑

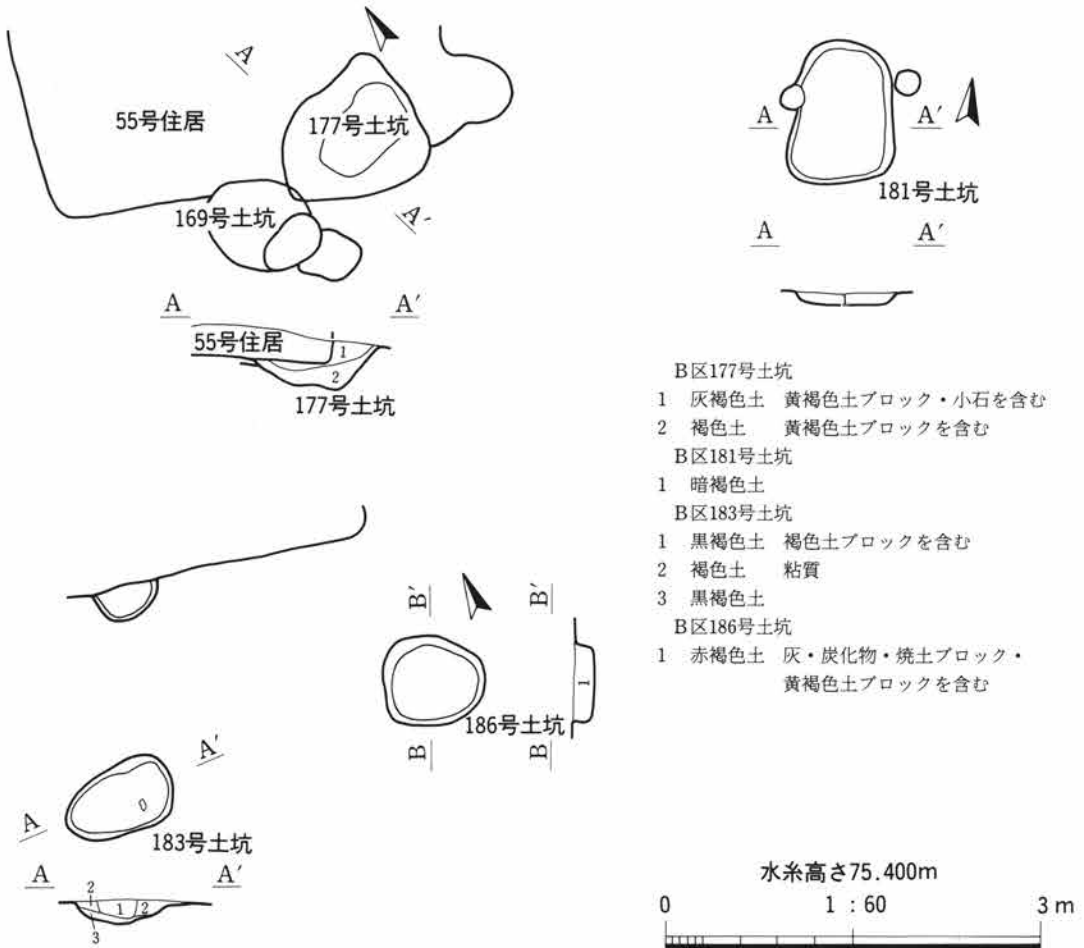


- B区169号土坑
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む
- B区175号土坑
- 1 黒褐色土 浅間B軽石を含む
  - 2 暗褐色土 浅間B軽石を含む
  - 3 褐色土 浅間B軽石を含む
- B区192号土坑
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子を含む

第821図 田端地区B区169・171・175・192号土坑



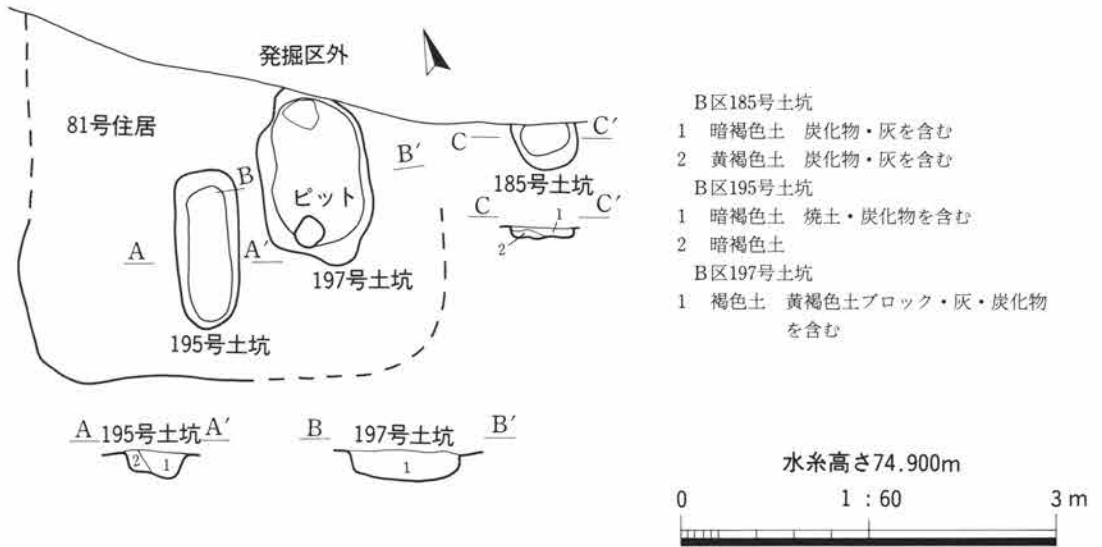
第822図 田端地区B区181号土坑



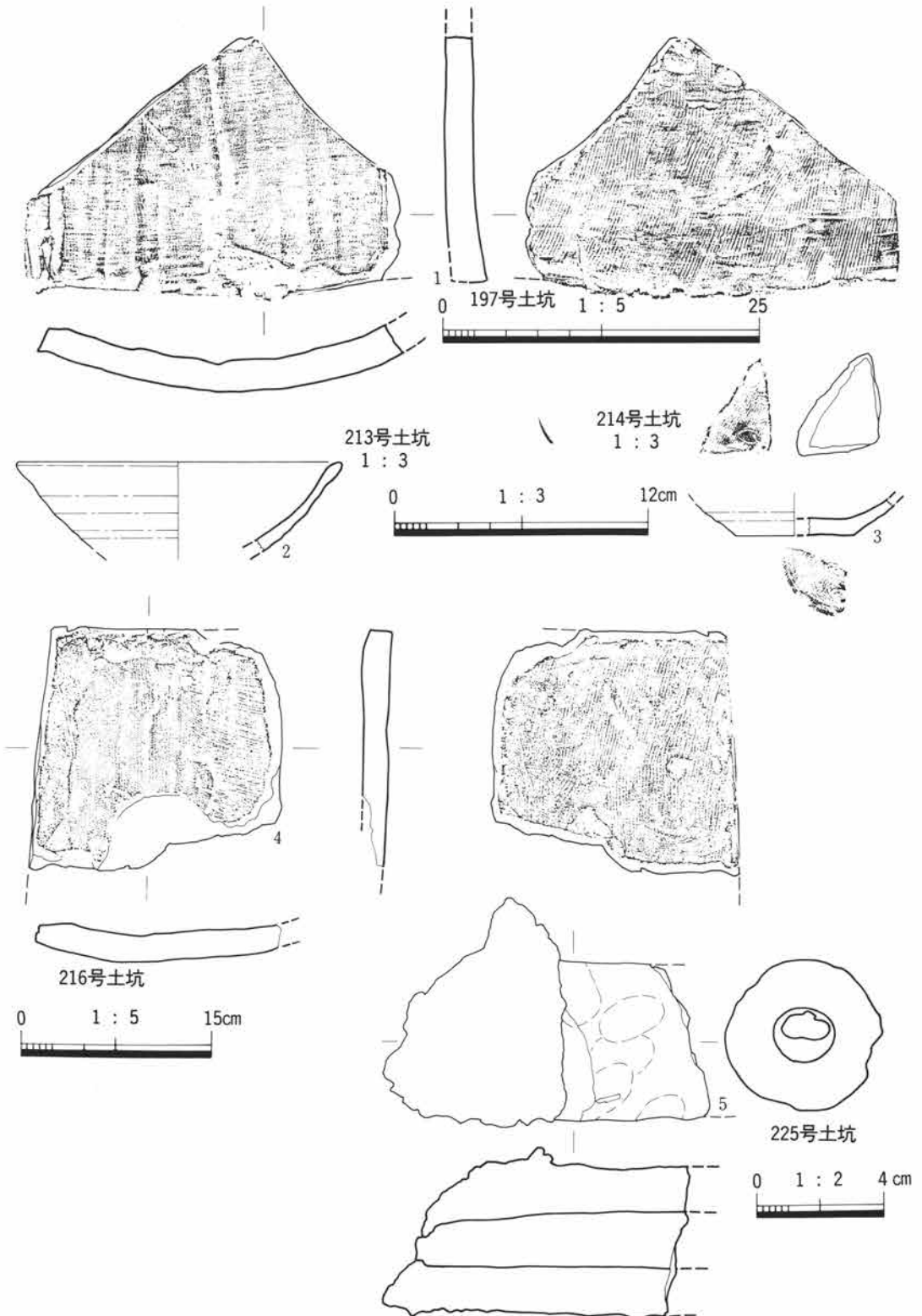
第823図 田端地区B区177・181・183・186号土坑



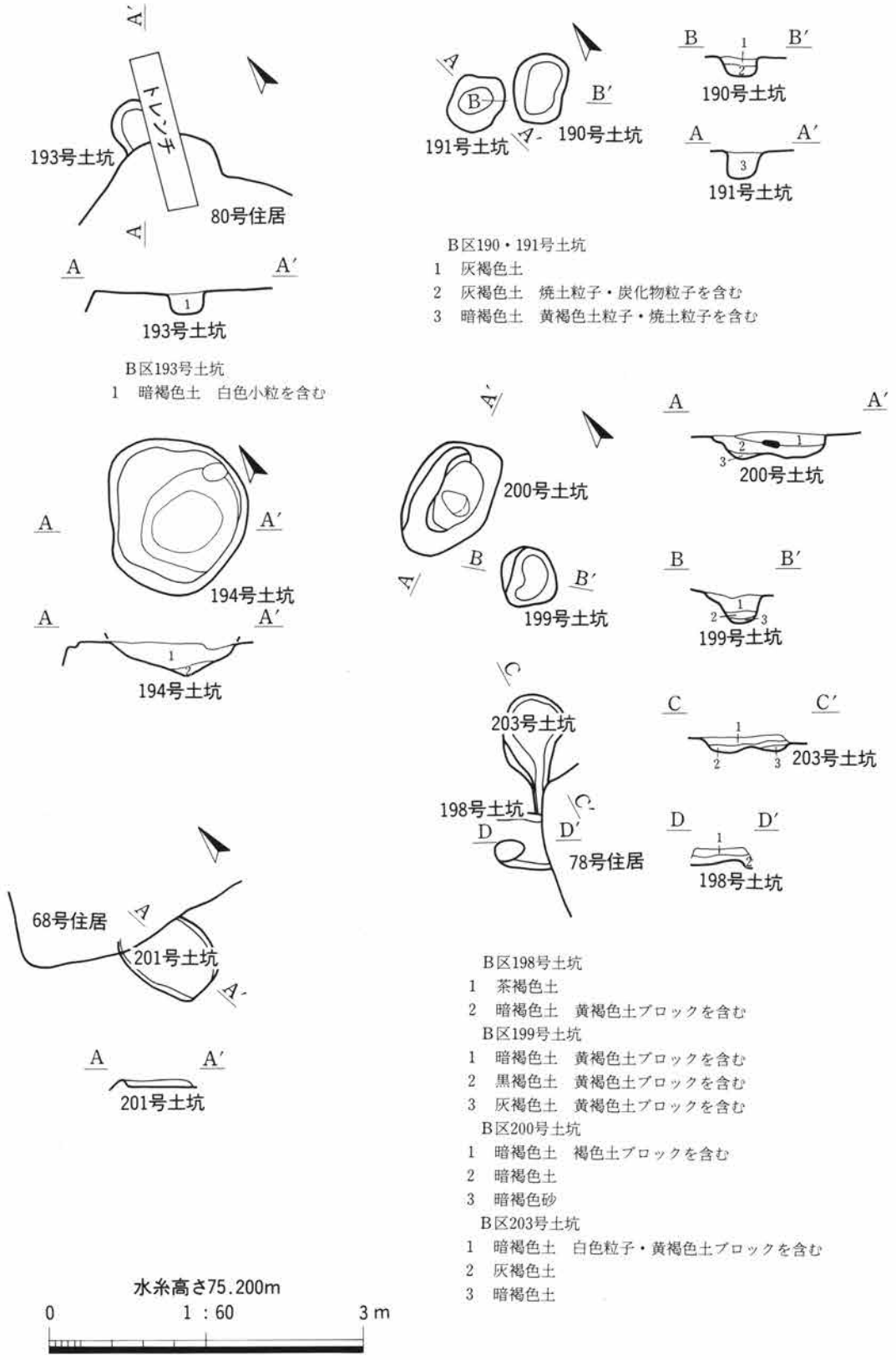
第824図 田端地区B区195・196・197号土坑



第825図 田端地区B区185・195・197号土坑



第826図 田端地区B区197・213・214・216・225号土坑出土遺物



第827図 田端地区B区190・191・193・194・198・199・200・203号土坑

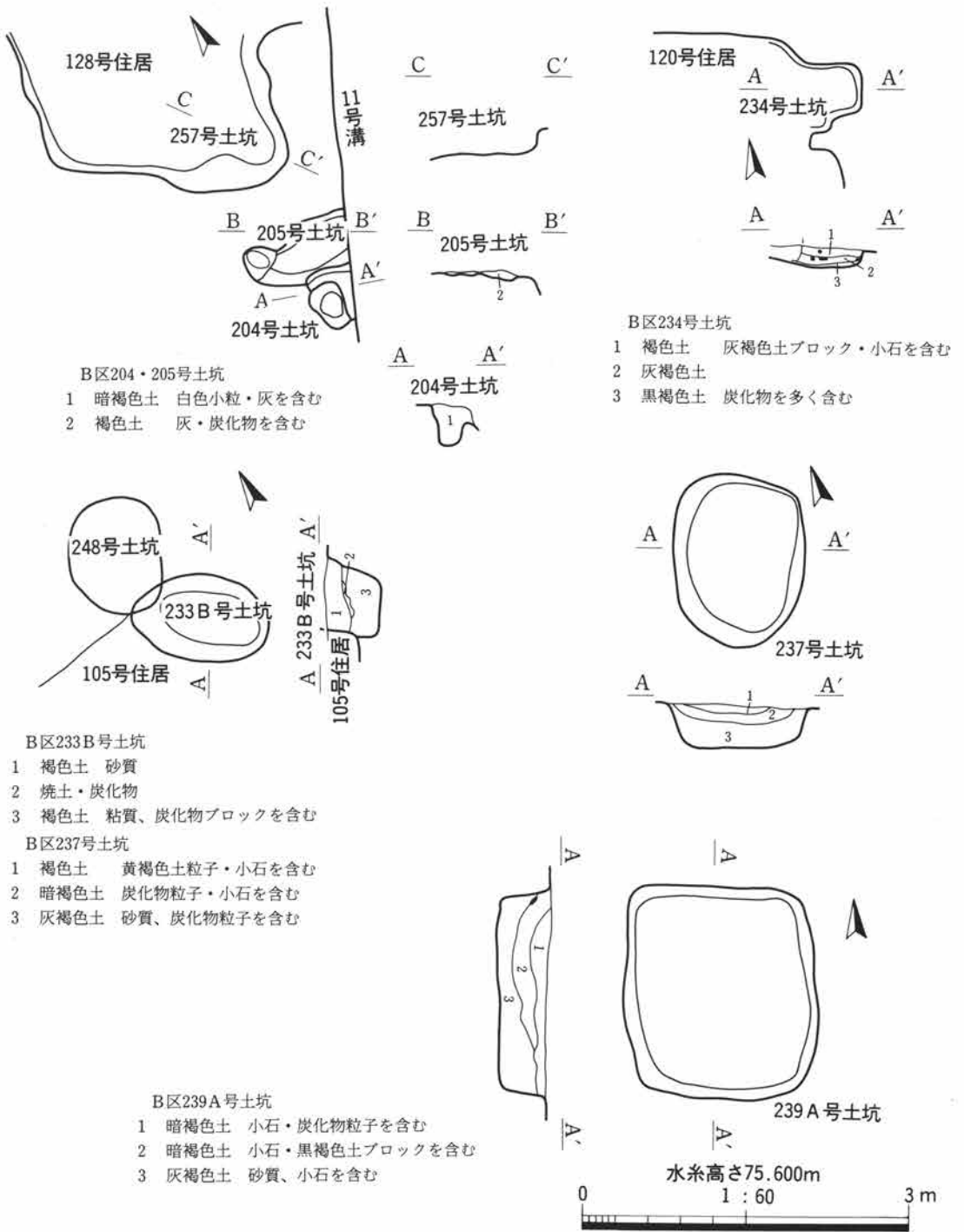




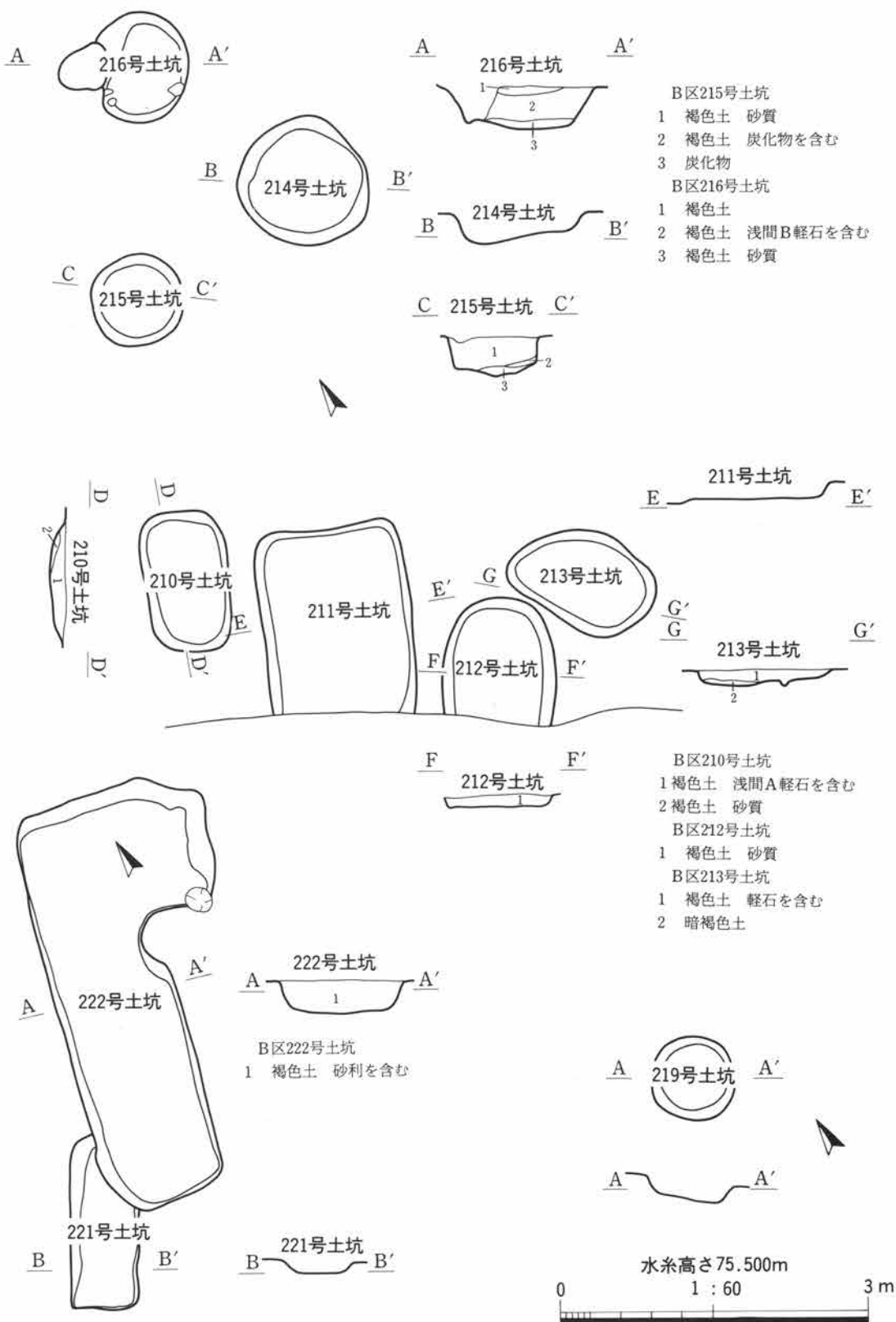
第828図 田端地区B区194号土坑



第829図 田端地区B区254号土坑



第830図 田端地区B区204・205・233B・234・239A・257号土坑

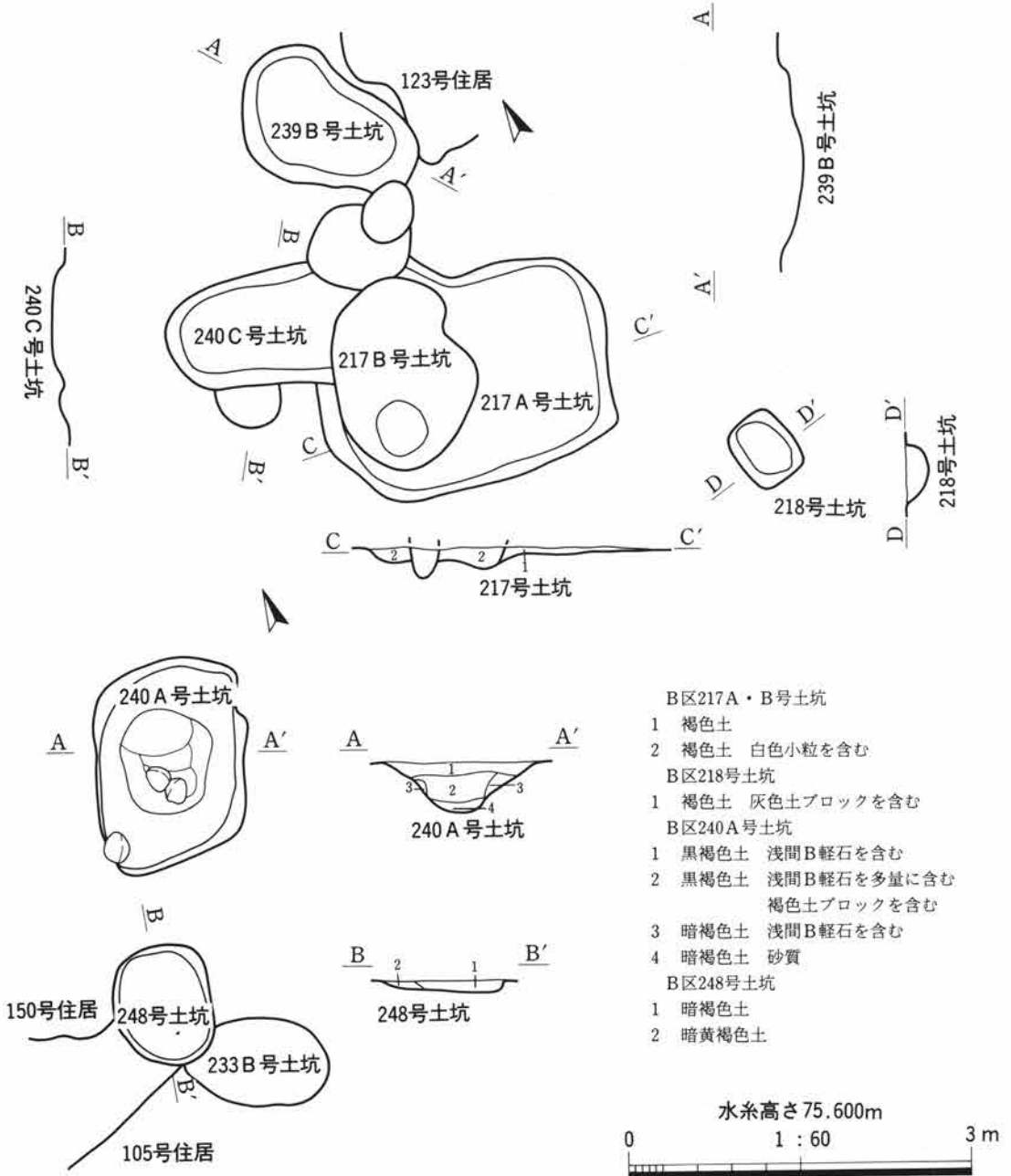


第831図 田端地区B区210・211・212・213・214・215・216・219・221・222号土坑

田端B区第225号土坑（第833～835図、図版282）

Kライン・71 km 293m付近で検出した。確認面は第4層である。99号住居、11号溝と重複しており、これらは99→225→11号の順に新しい。

本土坑は浅く、深さは14cmほどで、半楕円形を呈する。遺構上面には鉄滓が分布し、鉄滓は住居覆土の上に乗って広がっていた。南西部の攪乱（ゴミ穴）底部から棒状に加工された石が出土しているが、住居に伴うものと考えられる。本土坑からは鉄滓のほか、フィゴ羽口、平安時代の土器片が出土している。

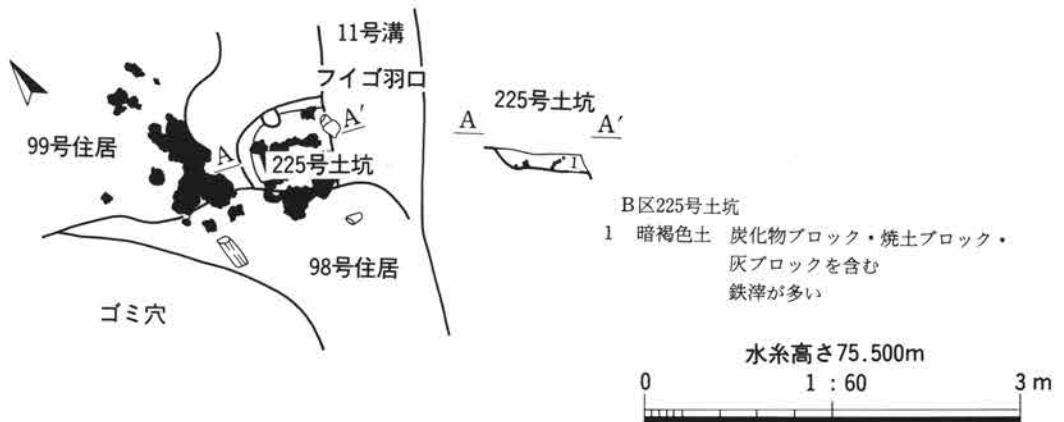


第832図 田端地区B区217A・217B・218・239B・240A・240C・248号土坑

時期は10世紀後半～11世紀ころとみられる。



第833図 田端地区B区225号土坑（1）



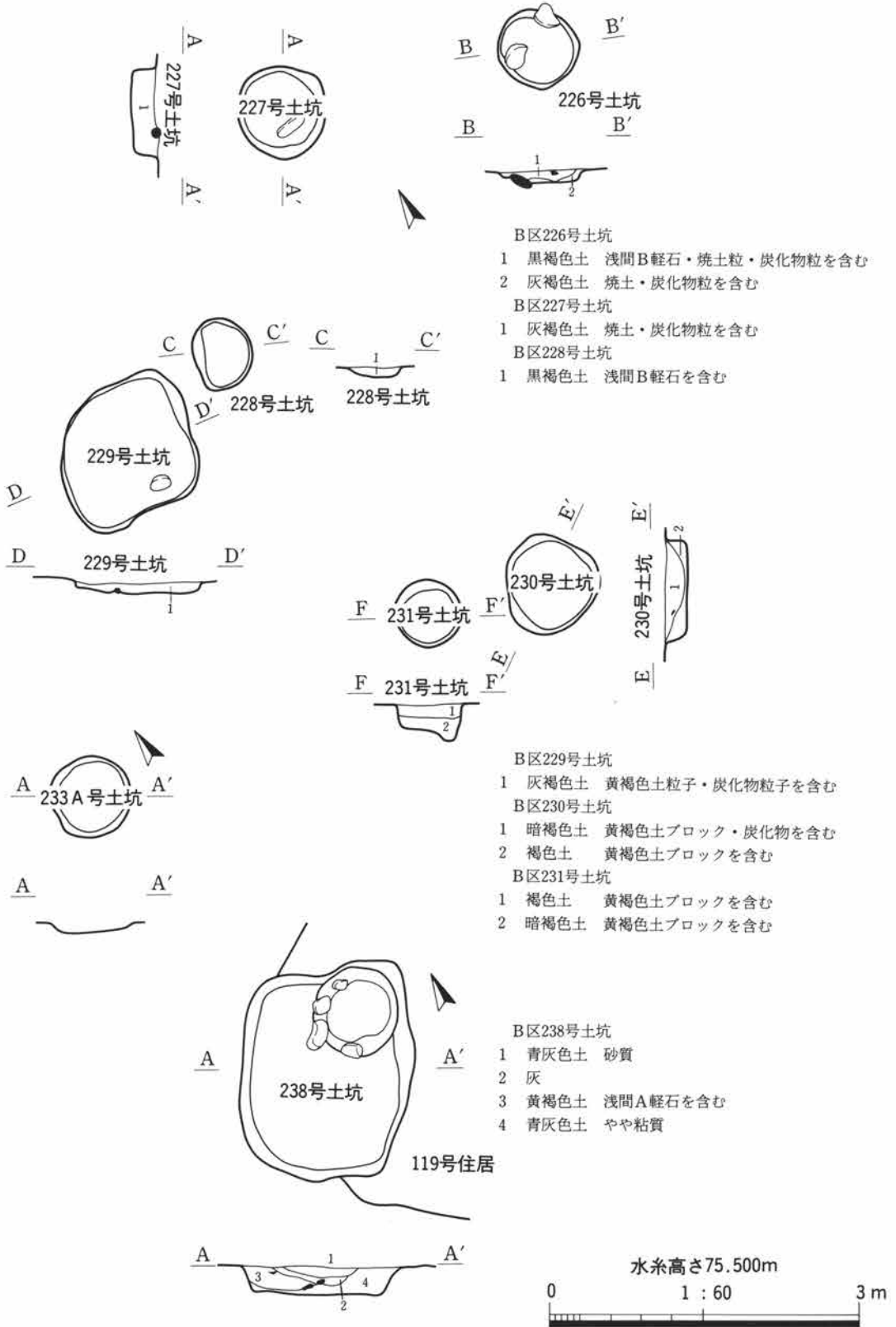
第834図 田端地区B区225号土坑



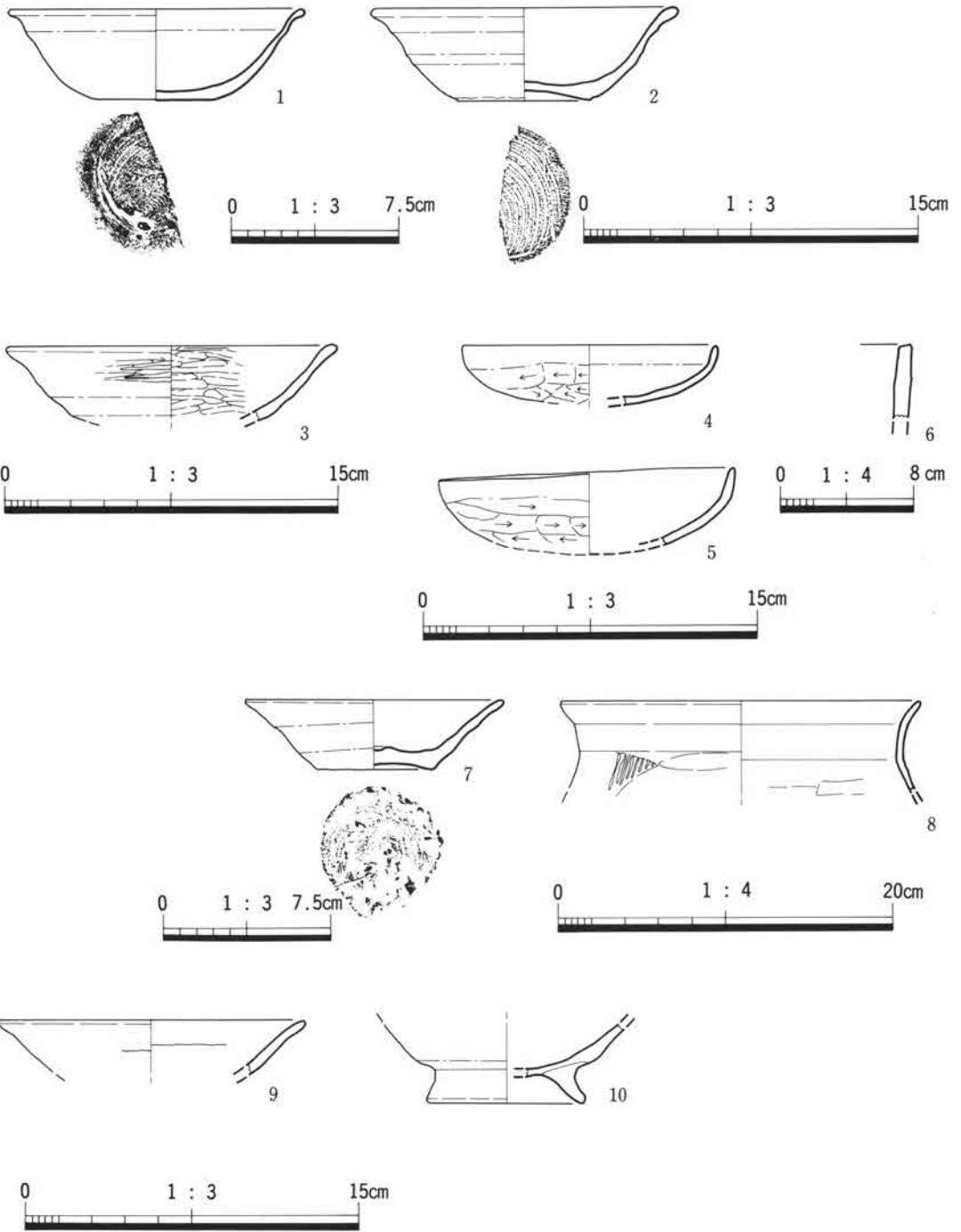
第835図 田端地区B区225号土坑（2）



第836図 田端地区B区229号土坑

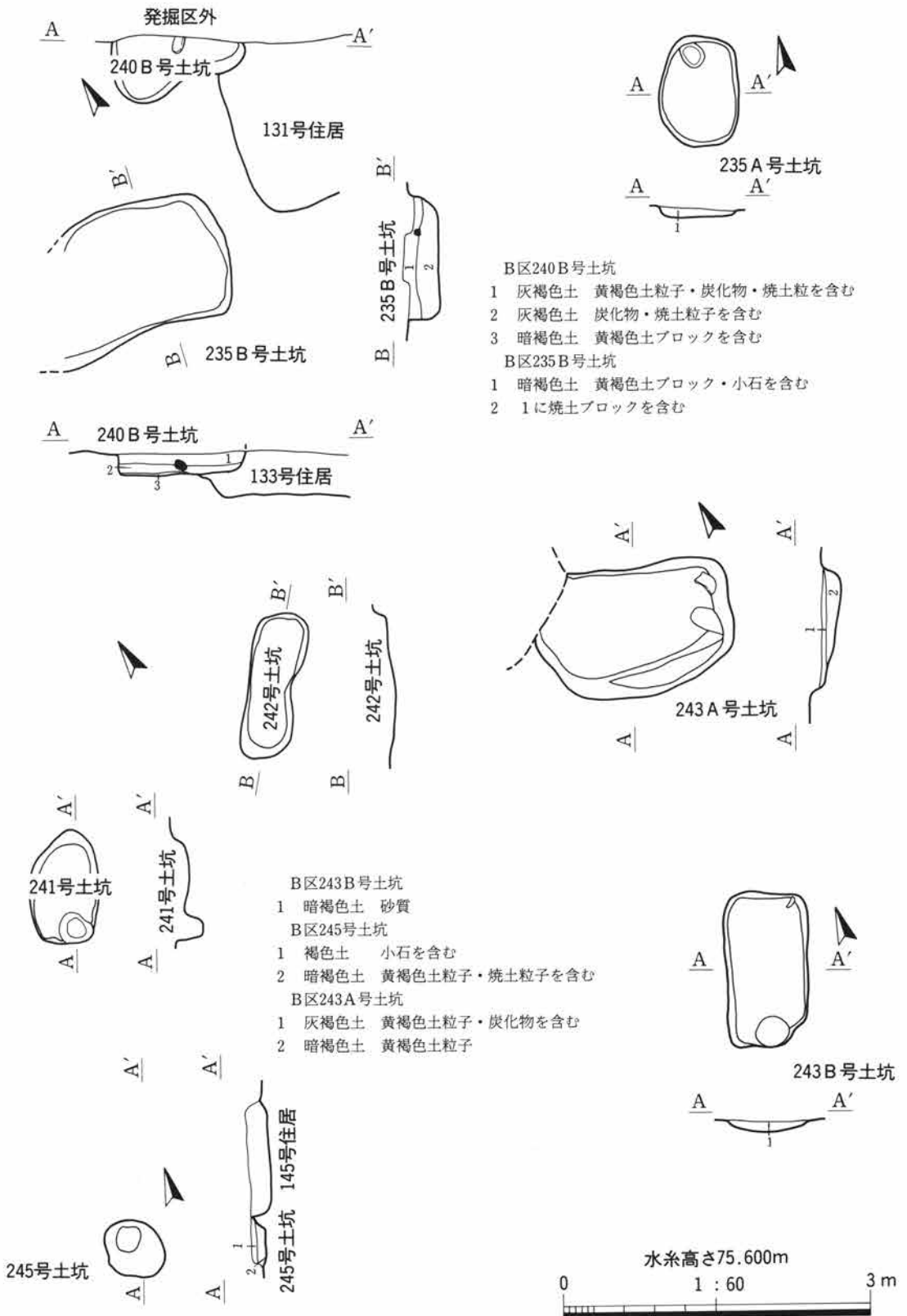


第837図 田端地区B区226・227・228・229・230・231・233A・238号土坑



第838図 田端地区B区229・230・233A・234・235B・237号土坑出土遺物

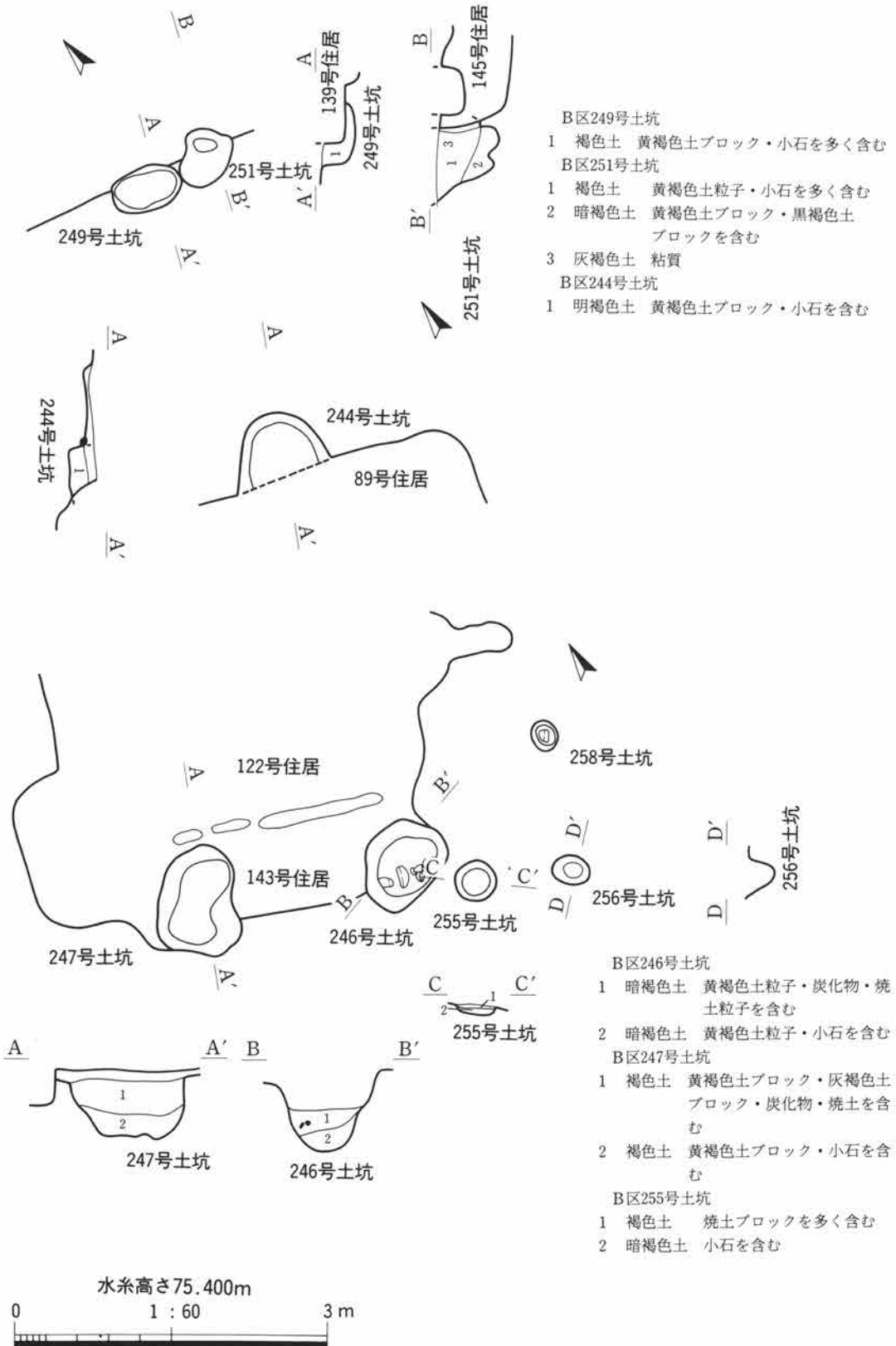




第839図 田端地区B区235 A・235 B・240・241・242・243 A・243 B・245号土坑



第840図 田端地区B区252・253・254号土坑



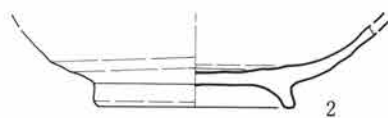
- B区249号土坑
- 褐色土 黄褐色土ブロック・小石を多く含む
- B区251号土坑
- 褐色土 黄褐色土粒子・小石を多く含む
  - 暗褐色土 黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む
  - 灰褐色土 粘質
- B区244号土坑
- 明褐色土 黄褐色土ブロック・小石を含む

- B区246号土坑
- 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物・焼土粒子を含む
  - 暗褐色土 黄褐色土粒子・小石を含む
- B区247号土坑
- 褐色土 黄褐色土ブロック・灰褐色土ブロック・炭化物・焼土を含む
  - 褐色土 黄褐色土ブロック・小石を含む
- B区255号土坑
- 褐色土 焼土ブロックを多く含む
  - 暗褐色土 小石を含む

第841図 田端地区B区244・246・247・249・251・255・256・258号土坑



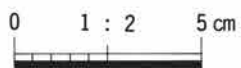
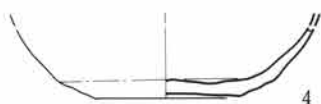
244号土坑 1 : 3



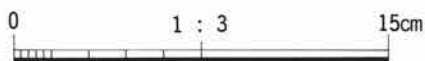
246号土坑 1 : 3



253号土坑



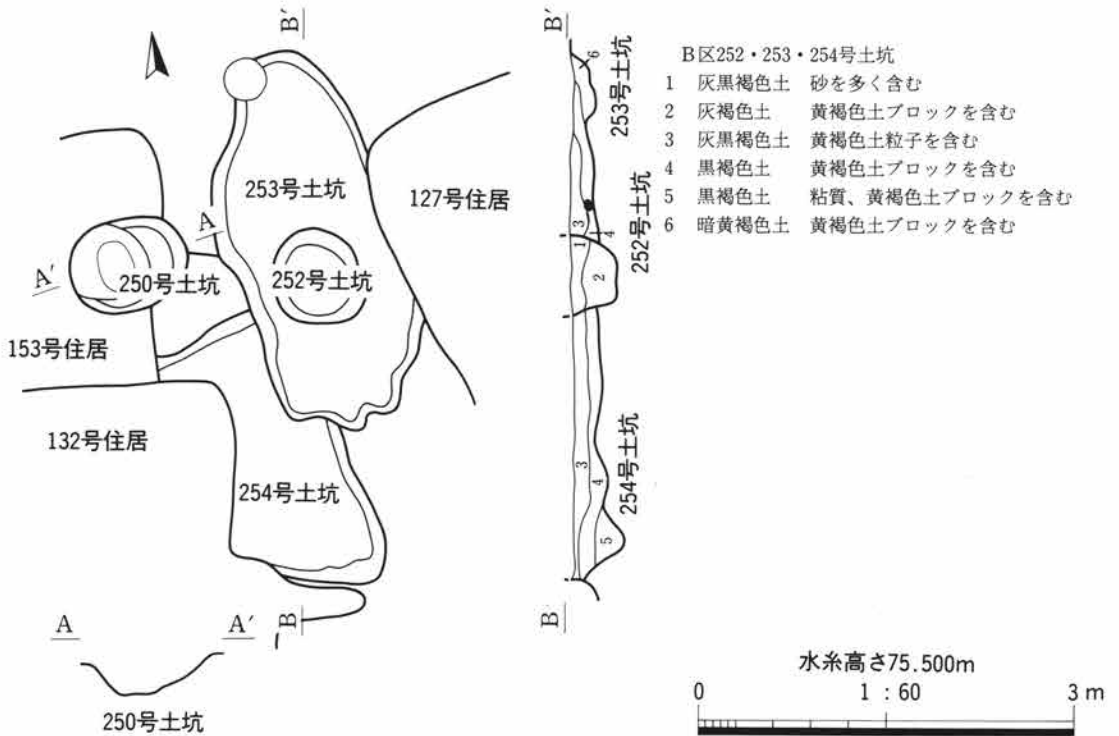
256号土坑



第842図 田端地区B区244・246・253・256号土坑出土遺物



第843図 田端地区B区250号土坑



第844図 田端地区B区250・252・253・254号土坑

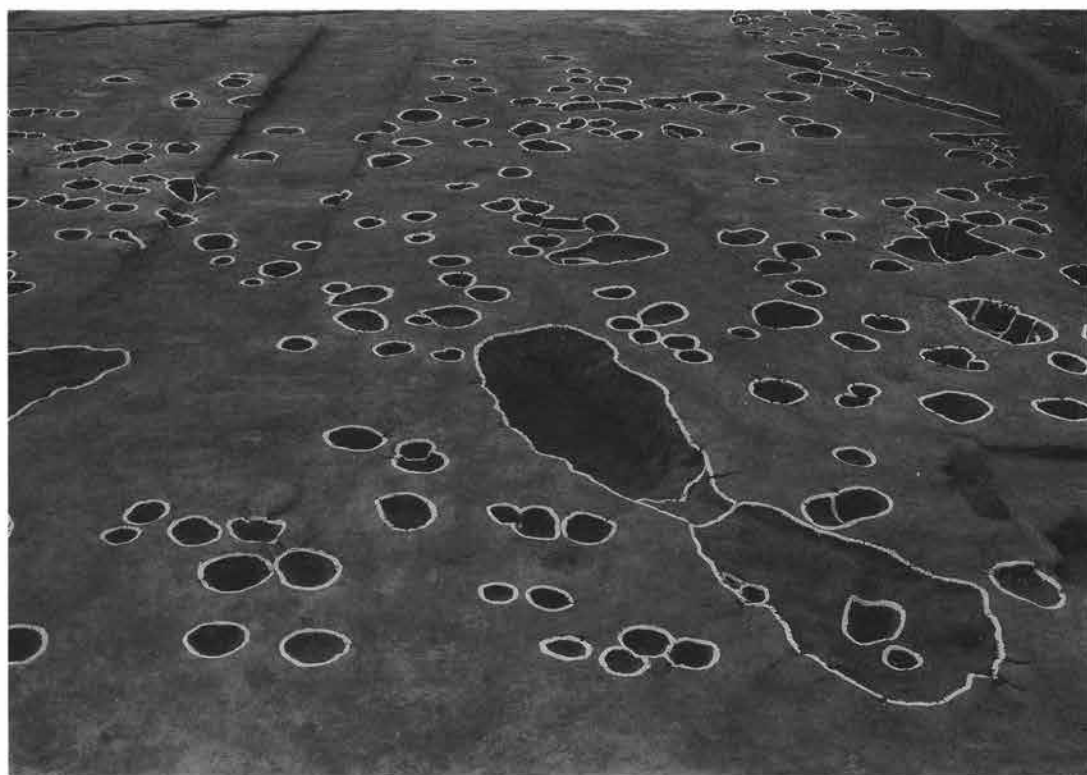
田端地区D区第7・10・11号土坑（第845～847図）

ここではD区検出の平安時代以前とみられる土坑を扱う。遺構図は第1分冊（189頁）に掲載しているので、遺物図のみ報告する。

7号土坑はD区中央部東寄りで検出し、東西方向に長い楕円形を呈する。中から須恵器蓋・杯、羽釜が出土した。

10・11号土坑は中央部北寄りの調査区壁近くで検出し、11号→10号土坑の順に新しい。10号からは土師器杯、11号からは土師器甑の口縁部片が出土した。11号の覆土には浅間B軽石を含む層があり、中世以降に属する可能性がある。前後関係から、10号も同様である。

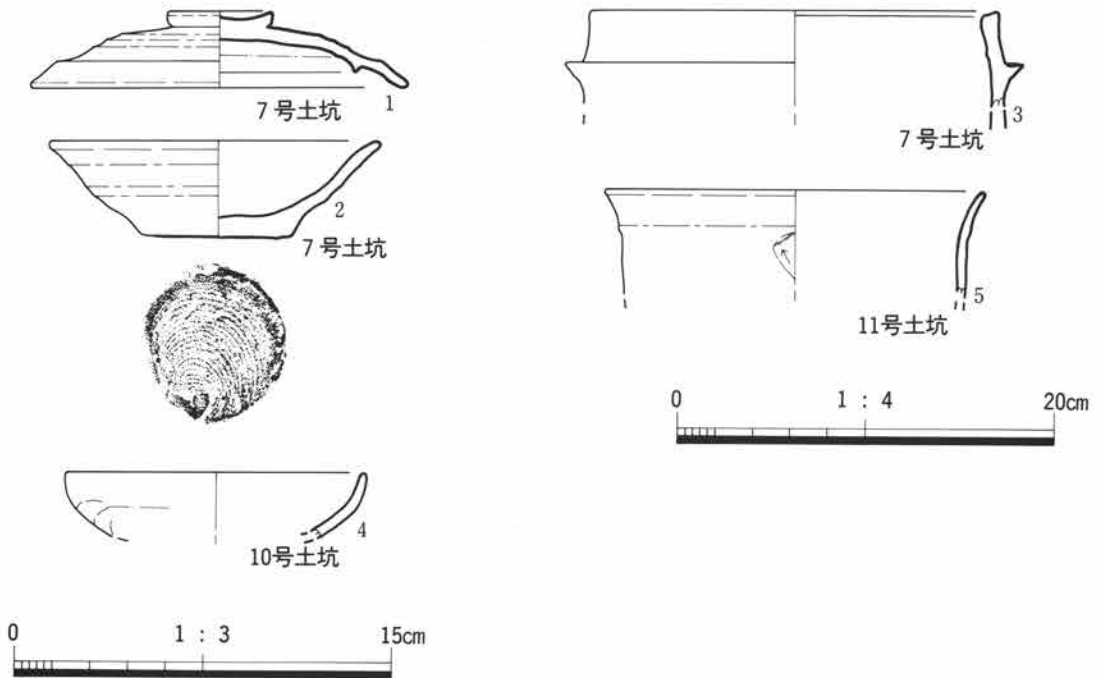
7号は掘り込みも比較的しっかりしており、時期は10世紀前半ころとみられる。



第845図 田端地区D区7号土坑



第846図 田端地区D区7号土坑



第847図 田端地区D区7・10・11号土坑出土遺物

田端E区第1号掘立柱建物跡（第848図）

W-Xライン・71km 047m付近で検出した。確認面は第11層である。第11号住居、5号溝と重複しており、11号との関係は不明だが、1号掘立柱建物跡→5号溝の順に新しい。

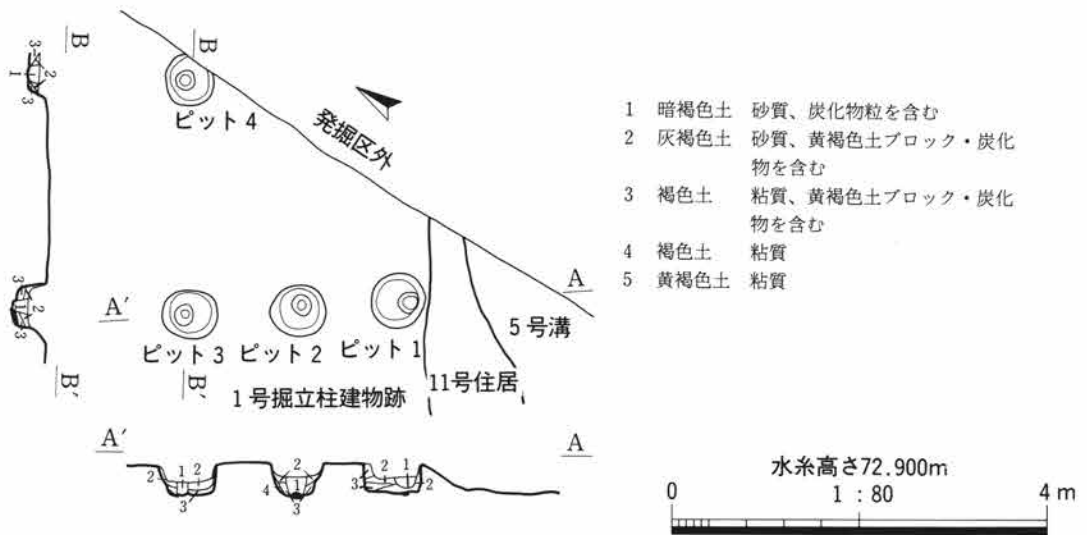
本掘立柱建物跡は南西部で2間分、北側で1間分を検出したが、これ以外は東側の未調査区にある。柱穴の並び方から、東西方向に棟をもつと推定した。1～4のピットは確認面で二重のピットを検出し、柱穴跡と掘形を検出することができた。各ピットの計測値及び各ピット間の計測値は表の通りである。

遺物の出土はない。時期は検出層位から、6世紀後半～8世紀ころとみられる。

第22表 田端地区E区第1号掘立柱建物跡計測値表

ピット3-ピット4方向	桁行柱間cm	梁行柱間cm	番号	規 模		
				上バcm 長径×短径	下バcm 長径×短径	深さcm
N66°E	3-4:247	1-2:115				
		2-3:124				
		参 考	1	径59	16×14	26
		1-3:242	2	60×55	24×21	31
			3	59×52	23×20	31
			4	57×52	径21	20

※計測値は1/20原図から起こした数値である。柱穴間の距離は心で計測した。



第848図 田端地区E区1号掘立柱建物跡



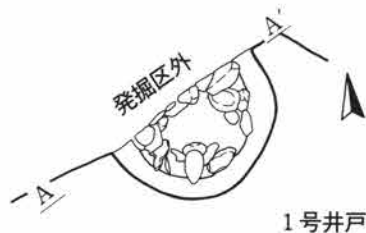
田端E区第1号井戸（第849～852図）

O-Pライン・71km058m付近で検出した。確認面は第4層である。E区側道部の西端に位置する。井戸の平面形は円形で、井戸本体の $\frac{1}{2}$ は西側の調査区外にある。中央部は人頭大・拳大の石が落ち込んでいたが、これを取り除くと円形の石垣状に組んだ井戸底部を検出できた。さらにサブトレンチをいれて掘り下げると、底部に青灰色粘質土が20～30cmの厚さに堆積していた。確認した深さは95cmである。内壁には青灰色粘質土を貼り、その背後は褐色土で強く固めていた。覆土は石が落ち込んだ後、短い時間のうちに埋没したとみられるが、自然に堆積している。

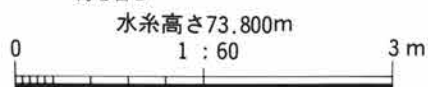
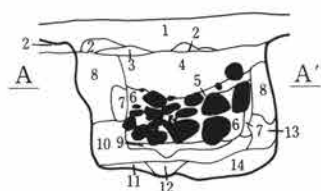
遺物の出土はない。時期は検出層位から、平安時代以降とみられる。



第849図 田端地区E区1号井戸（1）



- 1 明褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 明褐色土 砂質
- 3 明褐色土 灰色粘質土ブロックを含む
- 4 褐色土 軟らかい
- 5 灰褐色土 粘質
- 6 褐色土 炭化物粒子を含む、軟らかい
- 7 青灰色土 粘質  
井戸内壁を形成する
- 8 褐色土 硬い淡黄色粘質土ブロックを含み、縮っている
- 9 青灰色土 粘質、褐色土ブロックと混じる
- 10 青灰色土 9に似る、硬く縮っている
- 11 青灰色土 淡黄色粘質土ブロックを含む
- 12 暗褐色土 砂質、青灰色土ブロックを含む
- 13 褐色土 砂質、淡黄色粘質土ブロックを含む
- 14 暗褐色土 砂質、淡黄色粘質土ブロック・炭化物を含む



第850図 田端地区E区1号井戸



第851図 田端地区E区1号井戸（2）



第852図 田端地区E区1号井戸（3）

## 田端E区第1号集石 (第853～856図、図版239・284)

Oライン・71km020m付近で検出した。確認面は第5層である。本遺構は3・4号溝、6号溝、水田アゼと重複し、5号溝を含めて1集石→水田アゼ→5溝→3・4溝→6溝の順に新しい。調査に着手したときは水田に伴う集石と考えられたが、土層の断面観察から水田のアゼは集石を包むように周囲を盛り上げていることが判明した。ただ、溝との時期差に比較すれば短い期間の差であったと考えられる。

4号溝の両岸からも石が出土しているが、4号溝が西岸の水田アゼを切って掘られたことは確認しているので、これらの石は4号溝掘削の時に排出されたものが、埋没時に再び流れ込んだものと推定できる。つまり、1集石→水田アゼ→4号溝の順に新しい。西岸のアゼが本集石を囲むアゼとどのようにつながるかは不明である。

規模は南北280cm、東西380cm以上で、平面は略三角形を呈し、この範囲に人頭大～拳大の石が集中して散布していた。これらの石の間は粘質の灰色土・暗褐色土がつまっていた。

遺物は白玉が一点出土し、その他須恵器・土師器の出土がある。

時期は8世紀代とみられる。



第853図 田端地区E区1号集石

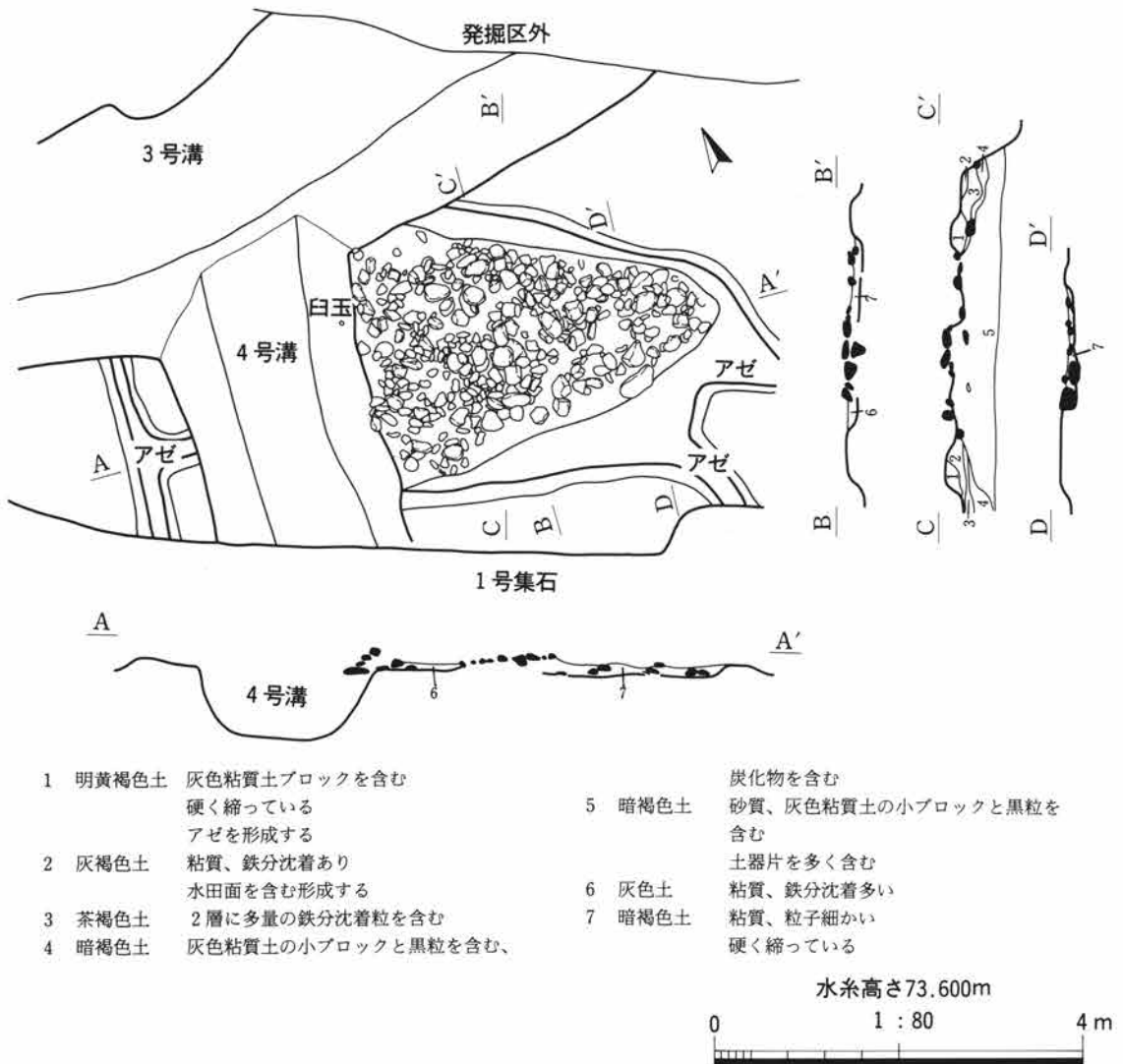
田端E区第2号集石 (第857~859図、図版285)

R-Sライン・71km033m付近で検出した。確認面は第4層である。平面的には殆ど検出できず、調査区壁の中で確認した。本遺構の西側では水田のアゼを検出し、石や遺物はややひろいアゼの上方に分布していた。

本遺構は水田を形成する灰色粘質土・茶褐色粘質土を切り込んで作られており、さらに水田面に堆積した砂質土をも切っている。この掘り込み面の上方は10cm前後の褐色粘質土がおおい、その上方は浅間B軽石を含む層が40cmほど堆積している。従って、本遺構の時期は水田埋没後・浅間B軽石降下前に推定できる。

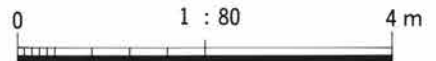
遺物は土師器・須恵器が出土しているが、検出層位からみた推定時期よりも古い遺物が多く、周辺の遺物が混入している可能性が高い。

本遺構の時期は平安時代とみられる。

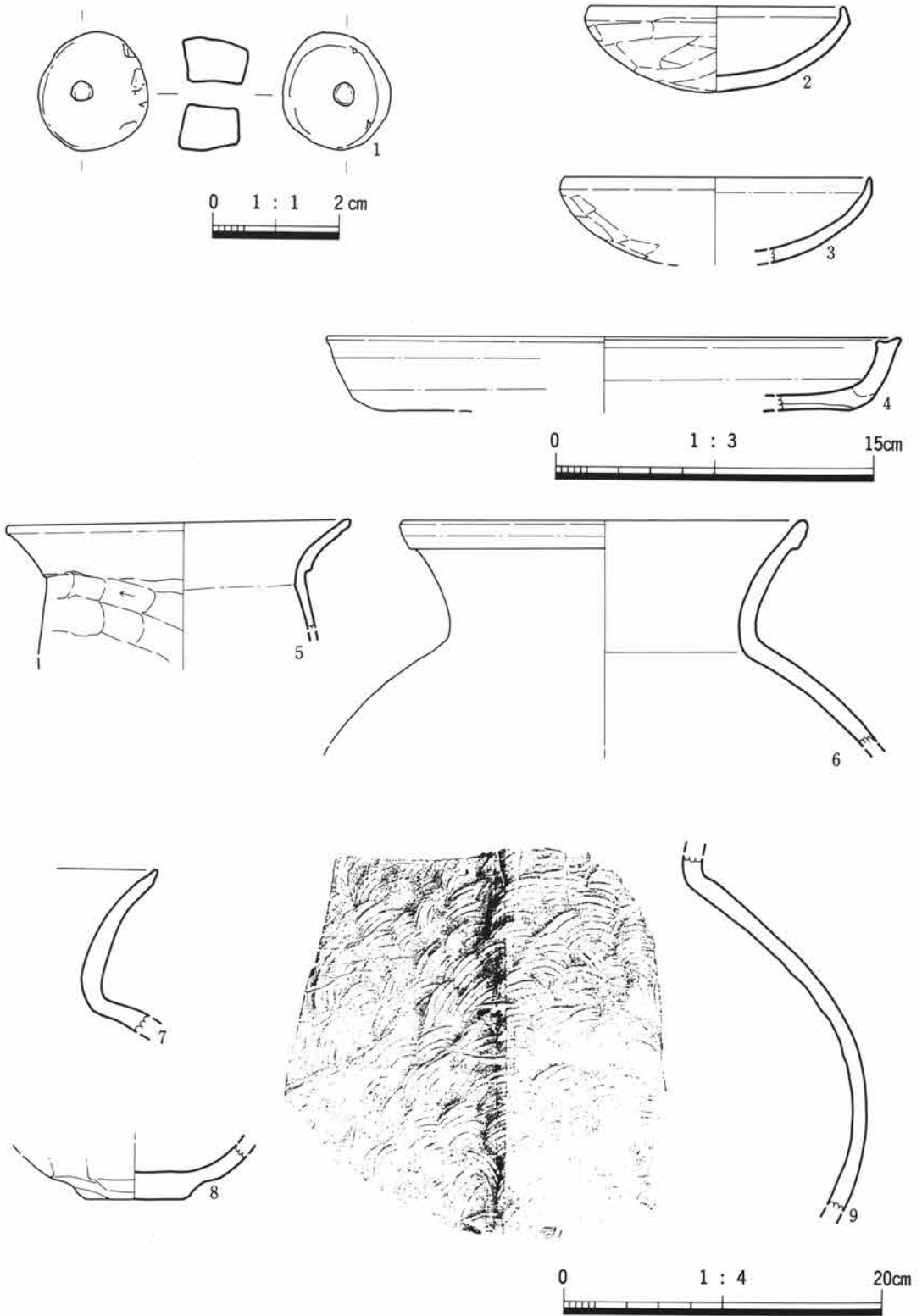


- |  |  |
|--|--|
| <p>1 明黄褐色土 灰色粘質土ブロックを含む<br/>硬く締っている<br/>アゼを形成する</p> <p>2 灰褐色土 粘質、鉄分沈着あり<br/>水田面を含む形成する</p> <p>3 茶褐色土 2層に多量の鉄分沈着粒を含む</p> <p>4 暗褐色土 灰色粘質土の小ブロックと黒粒を含む、</p> | <p>5 暗褐色土 炭化物を含む<br/>砂質、灰色粘質土の小ブロックと黒粒を含む</p> <p>6 灰色土 土器片を多く含む<br/>粘質、鉄分沈着多い</p> <p>7 暗褐色土 粘質、粒子細かい<br/>硬く締っている</p> |
|--|--|

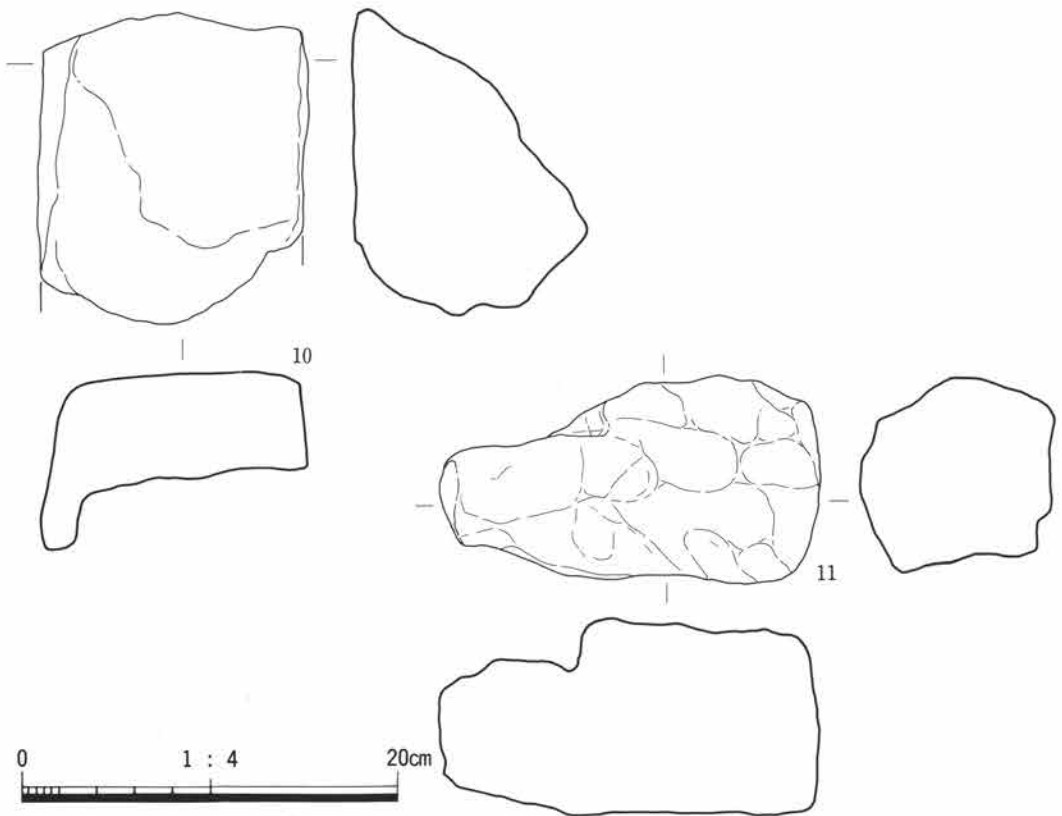
水糸高さ73.600m



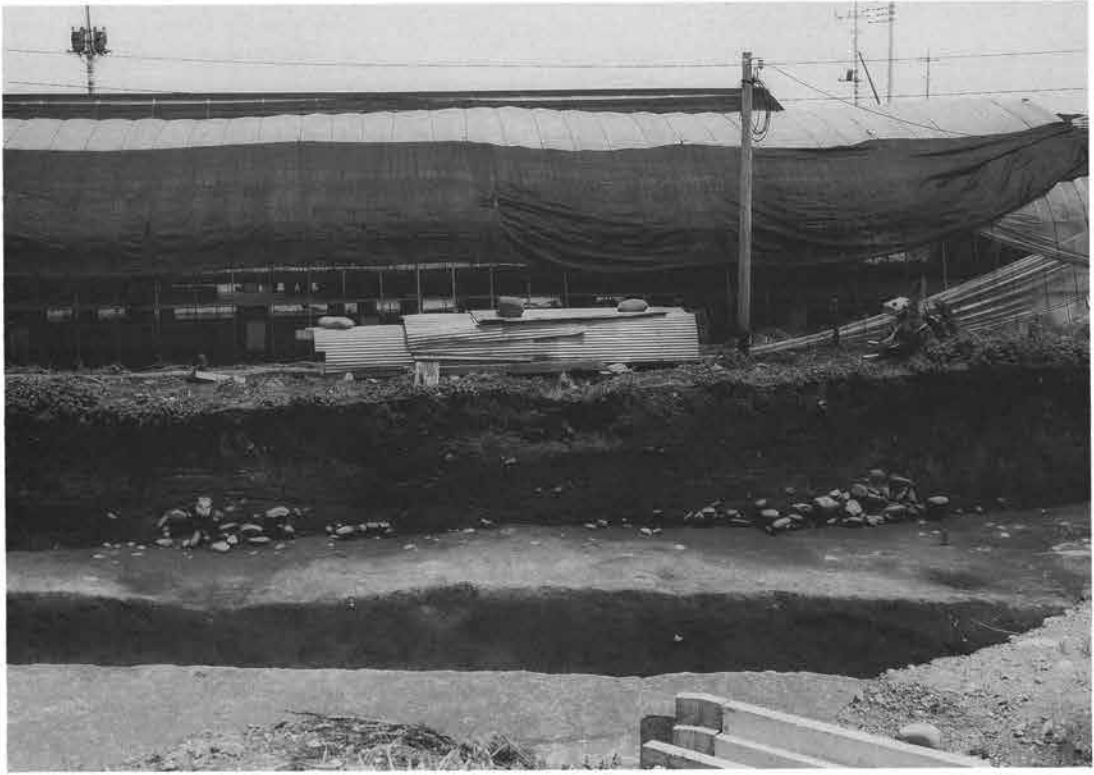
第854図 田端地区E区1号集石



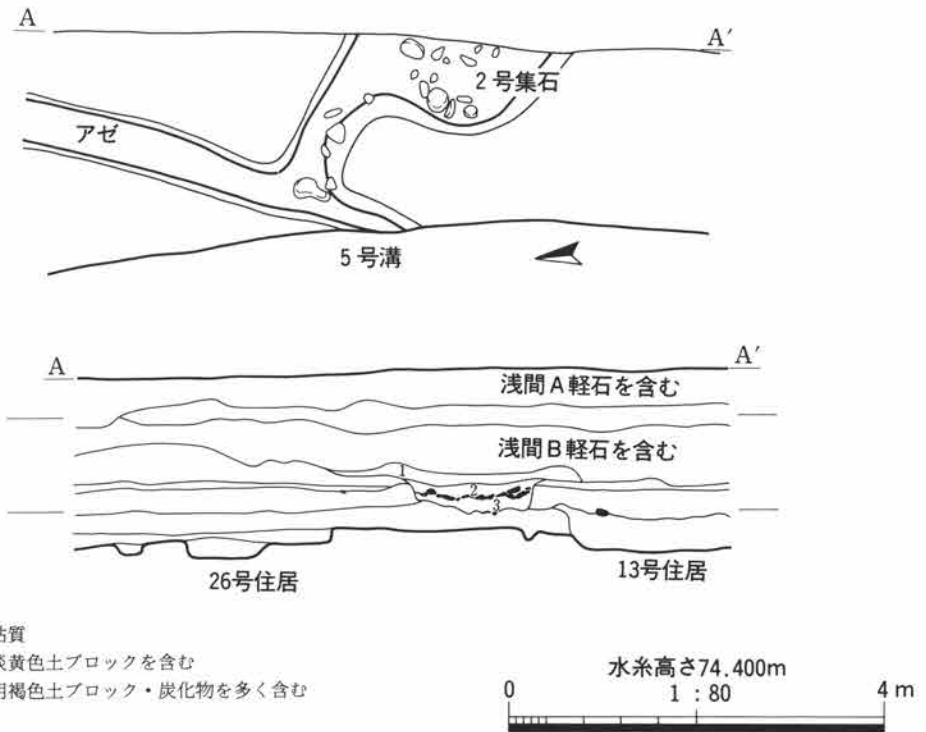
第855図 田端地区E区1号集石出土遺物(1)



第856図 田端地区E区1号集石出土遺物(2)



第857図 田端地区E区2号集石



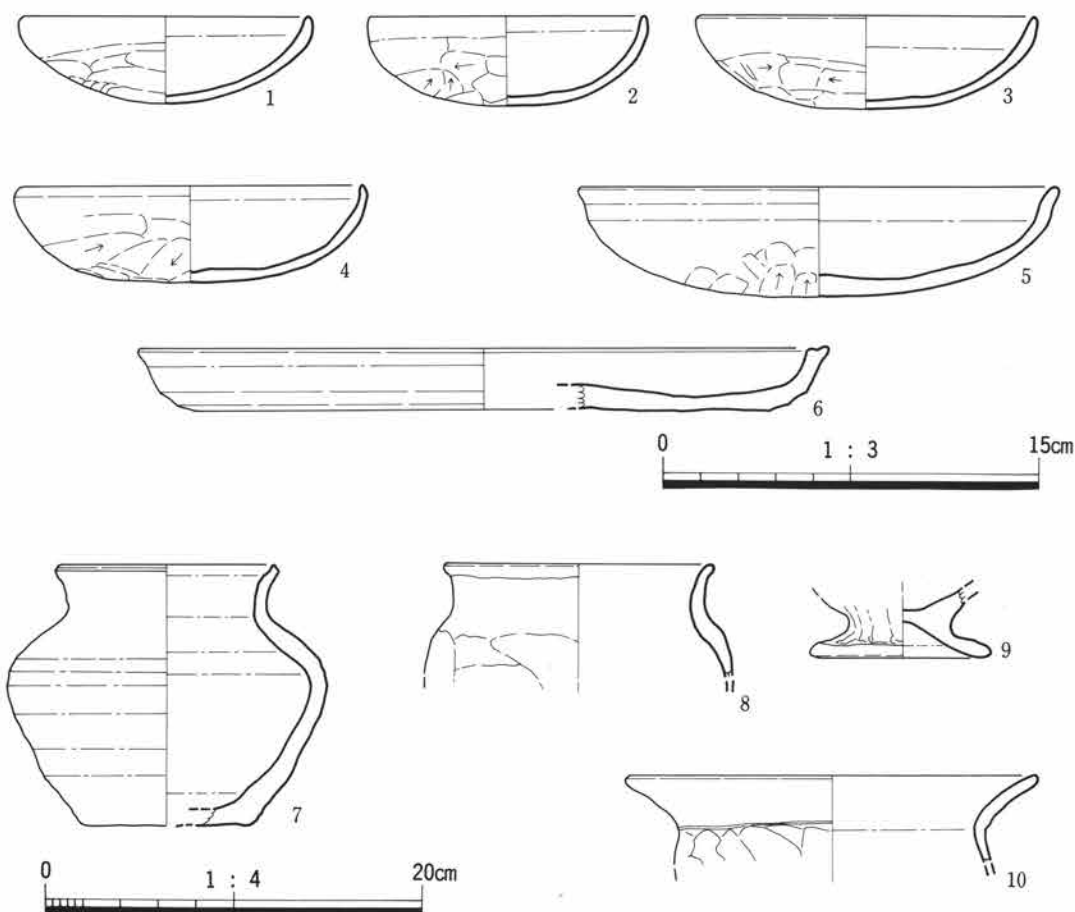
第858図 田端地区E区2号集石

田端E区第4号集石 (第860~863図、図版286・287)

U-Vライン・71km042m付近で検出した。3号集石と同様に、本遺構も水田を形成する青灰色粘質土が石組みをわずかにとおおい、水田よりも古いものと考えられる。大半は東側の調査区外にあるため、全体の様相を検出することはできなかった。本遺構の上層は一枚の褐色土を挟んで浅間B軽石を含む層が堆積し、石組みの直下は砂質の褐色土が堆積してその下層に11号住居を検出している。従って、11号住居→4号集石→水田の順に新しい。3号集石との前後関係は確認できなかった。石組みは水田を営んだ時期にも突出しており、1号集石と同様に石組みが露出していたと考えられる。

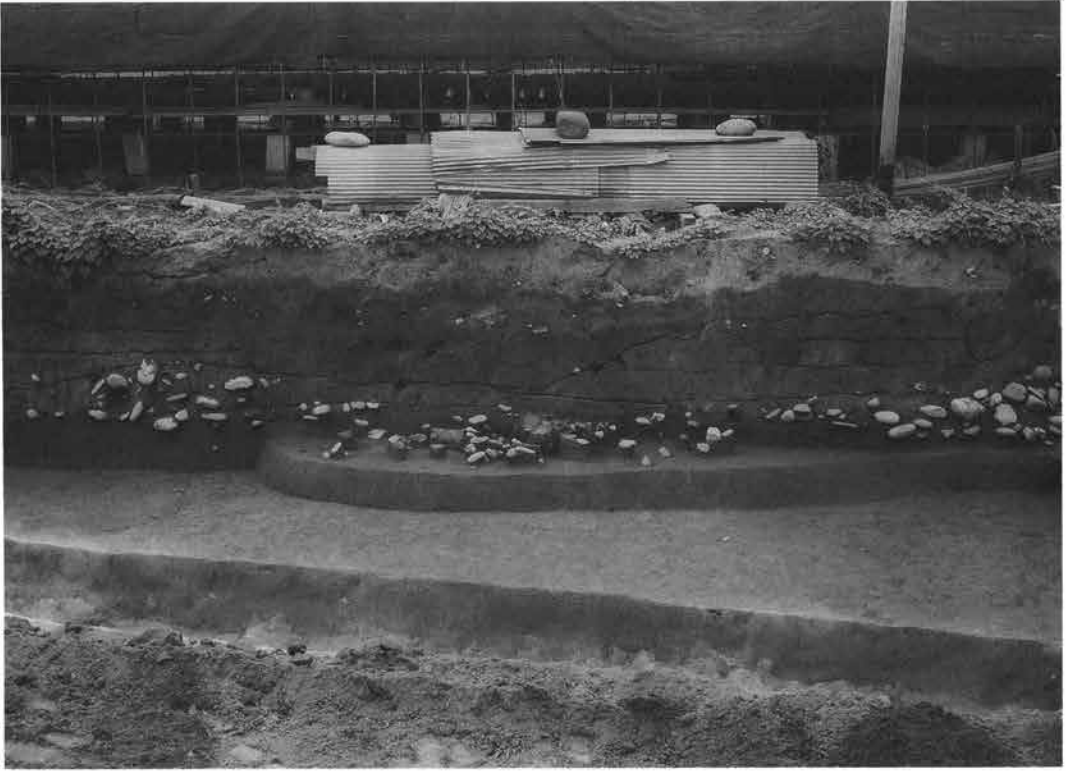
遺物は調査区壁で検出した石の集中部分よりも南西部に多く出土している。第863図1は滑石製の玉、2~4は木の葉の圧痕を底部にもつ手づくね土器である。

時期は7~8世紀とみられる。



第859図 田端地区E区2号集石出土遺物





第860図 田端地区E区4号集石(1)



第861図 田端地区E区4号集石(2)

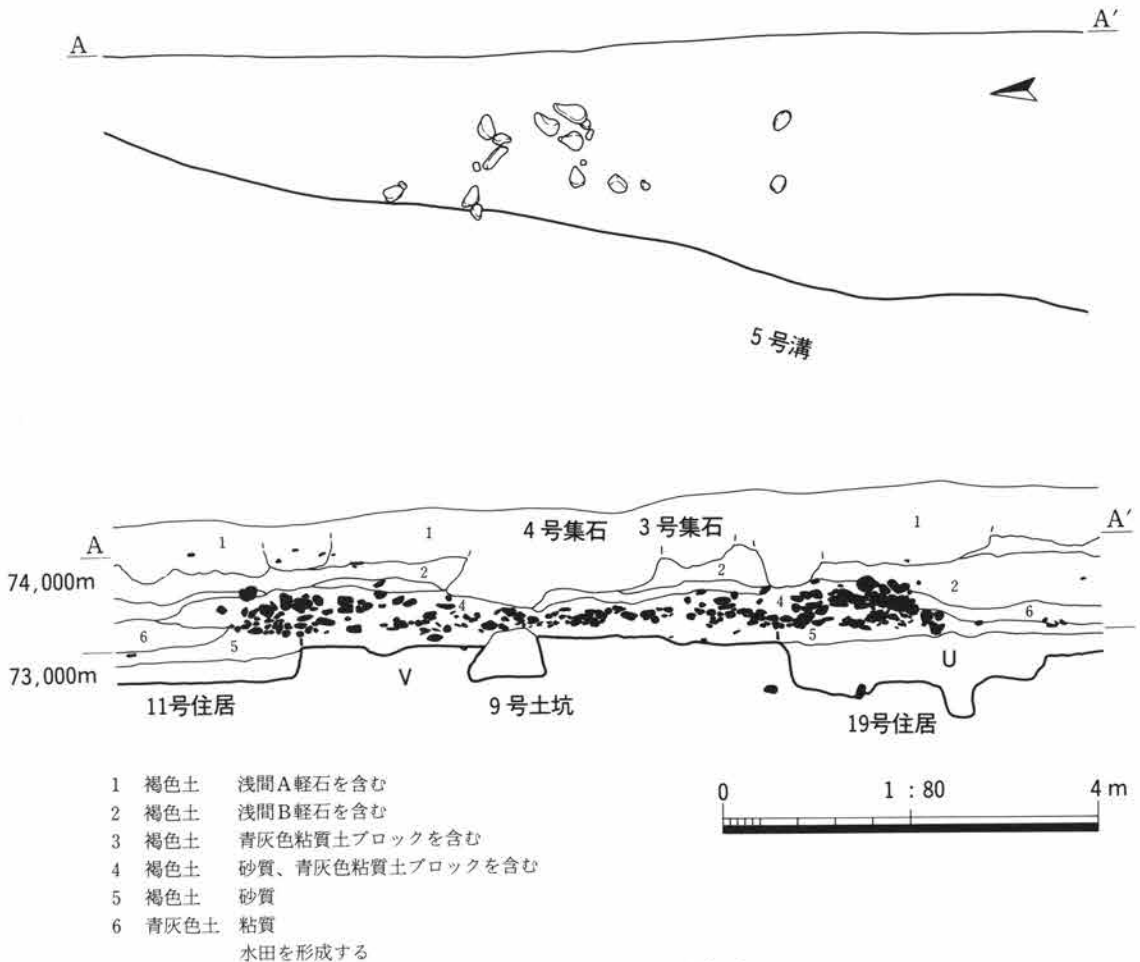
田端地区E区第5号溝 (第864・866図、図版238・287)

調査区全域で検出した。確認面は第4層である。2号溝、3・4号溝と重複し、本溝の方が古い。走行は南北方向をとるが、「S」の字状に蛇行する。切り込み面は調査区東壁で確認し(G-G'断面)、浅間B軽石を含む面の下位から掘り込んでいる。底面は礫層に達しており、下層の古墳時代以降の住居跡を破壊している。覆土上位は小石を含む砂質土がレンズ状に堆積しており、底面から30~50cmほど埋没した時点で豊富な流水があったとみられる。掘り直しをした可能性もある。

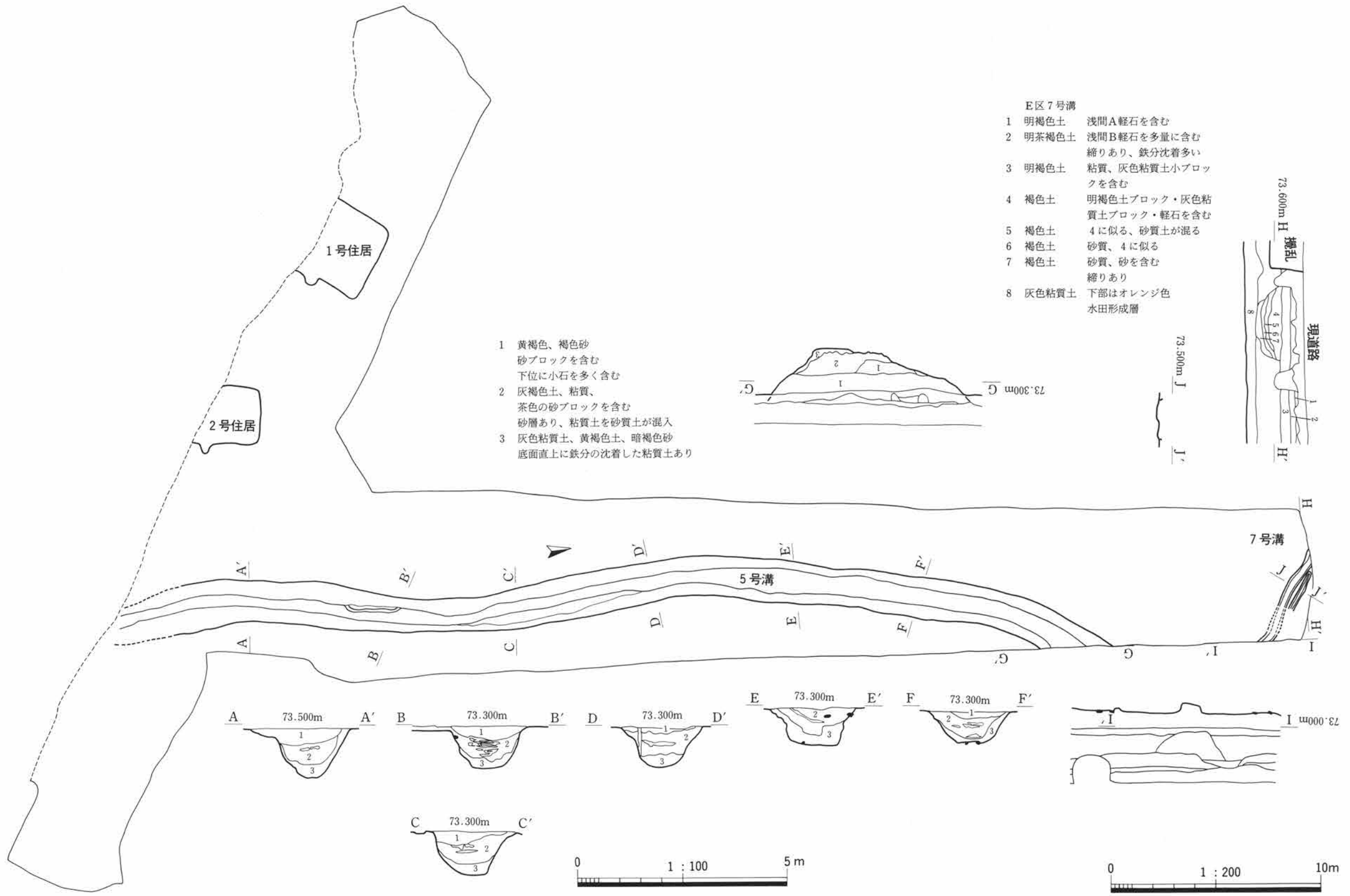
遺物は3号溝との重複地点から出土しており、奈良~平安時代のものを含んでいる。掘り込み面の状態から、本来の時期は10世紀頃とみられ、古い遺物は流れ込んだものと推定する。

田端地区E区第7号溝 (第864図)

X-Yライン・71km050m付近の、調査区北端で検出した。水田アゼを検出した面で確認したが、後日調査区壁を精査したところ、壁面に本溝の掘り込みを確認することができた。2本の溝状を呈するが、本来1本の溝の底部の深い部分が両側にあることによる。5号溝よりも1層下位から掘り込み、さらに下位の水田面に達している。遺物の出土はない。時期は平安時代と考えられる。



第862図 田端地区E区4号集石

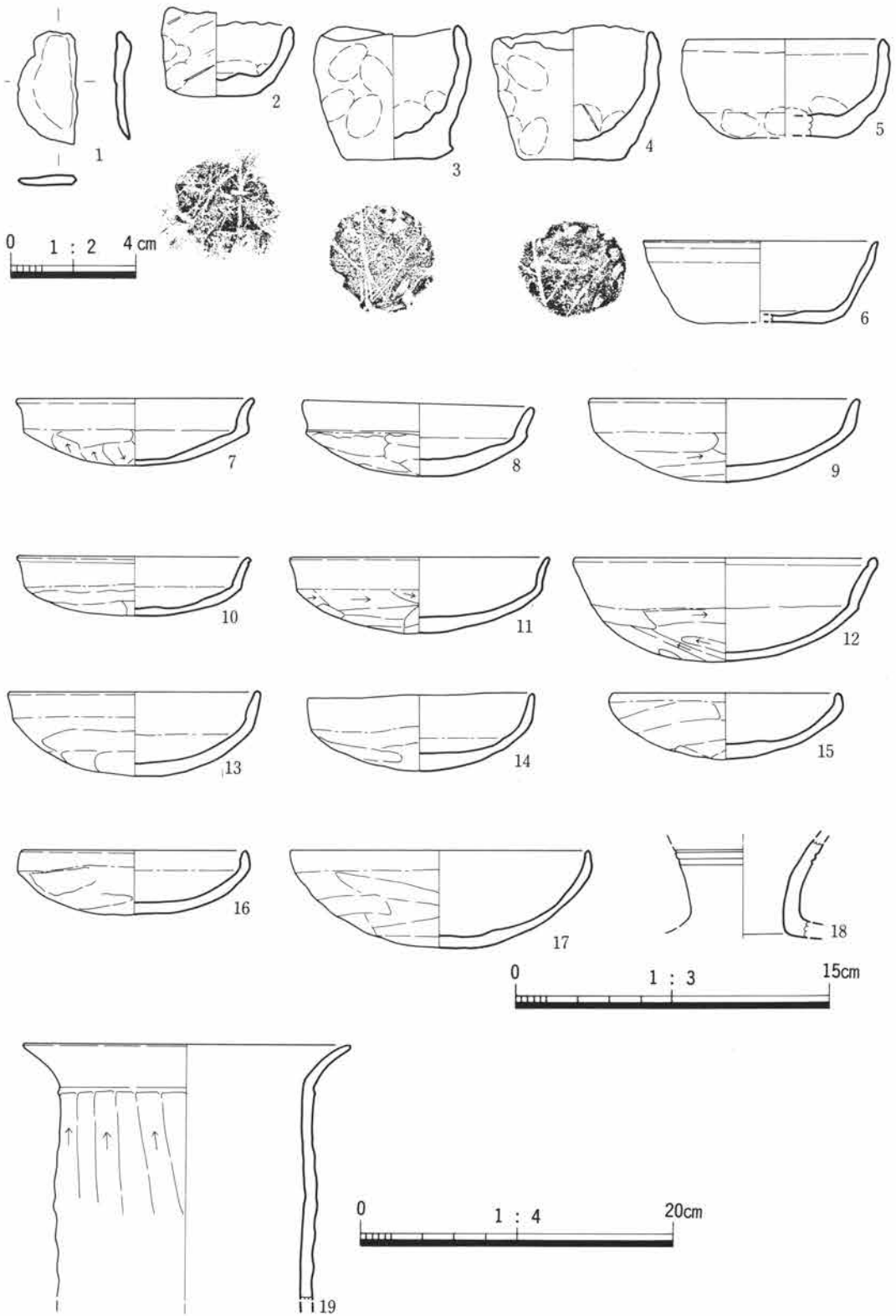


- 1 黄褐色、褐色砂  
砂ブロックを含む  
下位に小石を多く含む
- 2 灰褐色土、粘質、  
茶色の砂ブロックを含む  
砂層あり、粘質土を砂質土が混入
- 3 灰色粘質土、黄褐色土、暗褐色砂  
底面直上に鉄分の沈着した粘質土あり

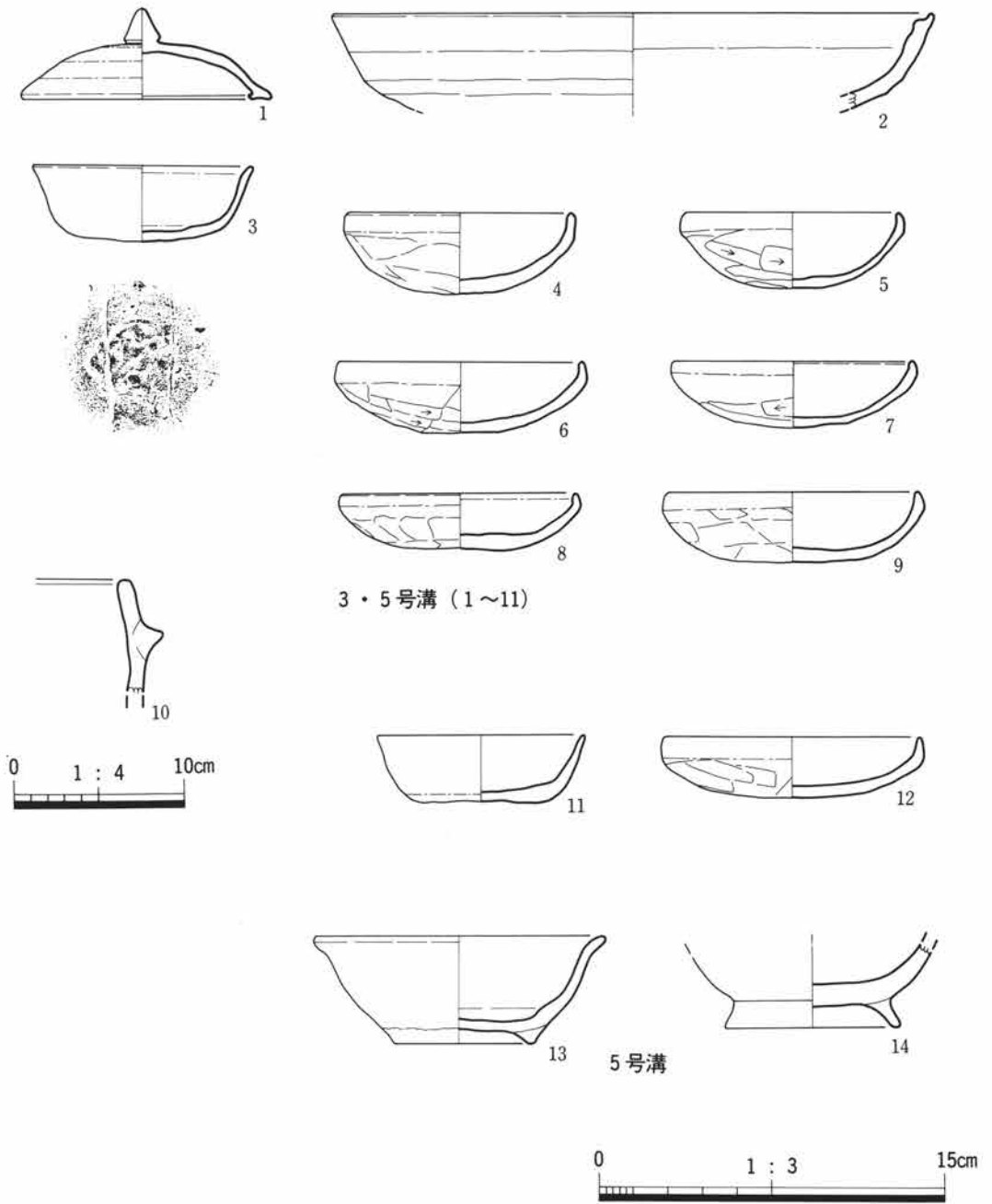
- E区7号溝
- 1 明褐色土 浅間A軽石を含む
  - 2 明茶褐色土 浅間B軽石を多量に含む  
締りあり、鉄分沈着多い
  - 3 明褐色土 粘質、灰色粘質土小ブロックを含む
  - 4 褐色土 明褐色土ブロック・灰色粘質土ブロック・軽石を含む
  - 5 褐色土 4に似る、砂質土が混る
  - 6 褐色土 砂質、4に似る
  - 7 褐色土 砂質、砂を含む  
締りあり
  - 8 灰色粘質土 下部はオレンジ色  
水田形成層

第864図 田端地区E区5・7号溝

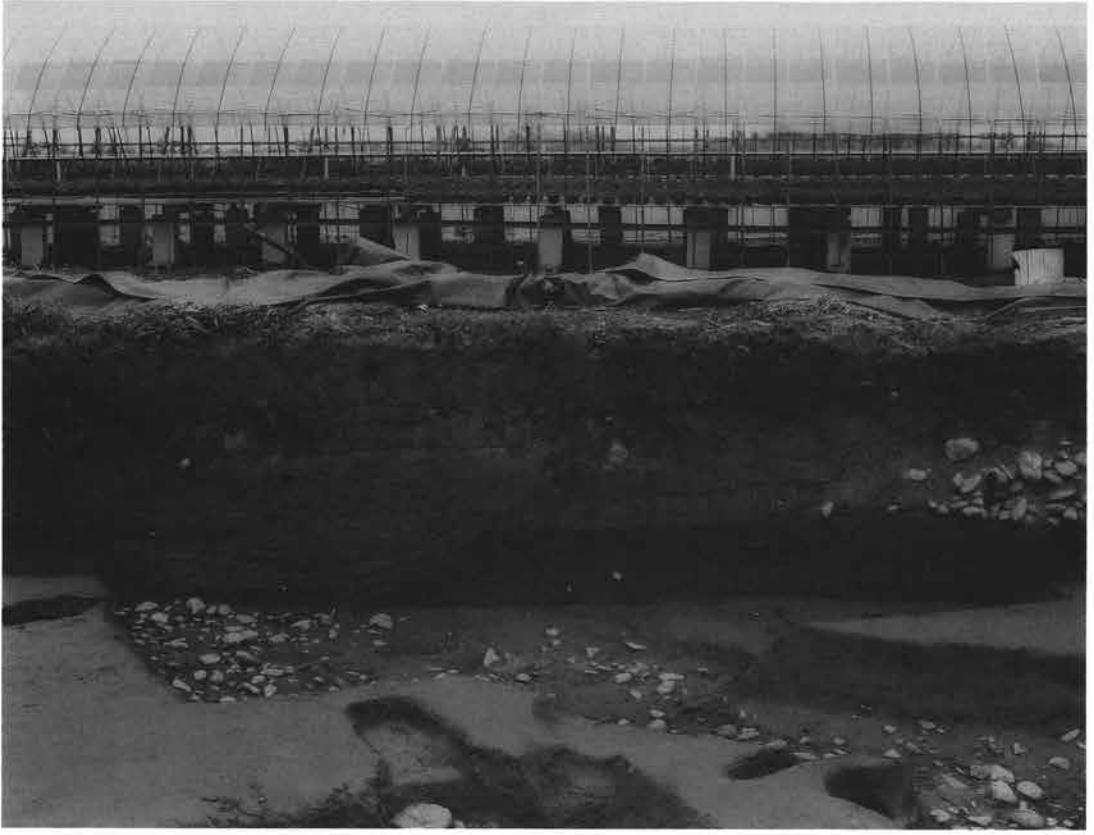




第863図 田端地区E区4号集石出土遺物



第865図 田端地区E区3・5号溝出土遺物

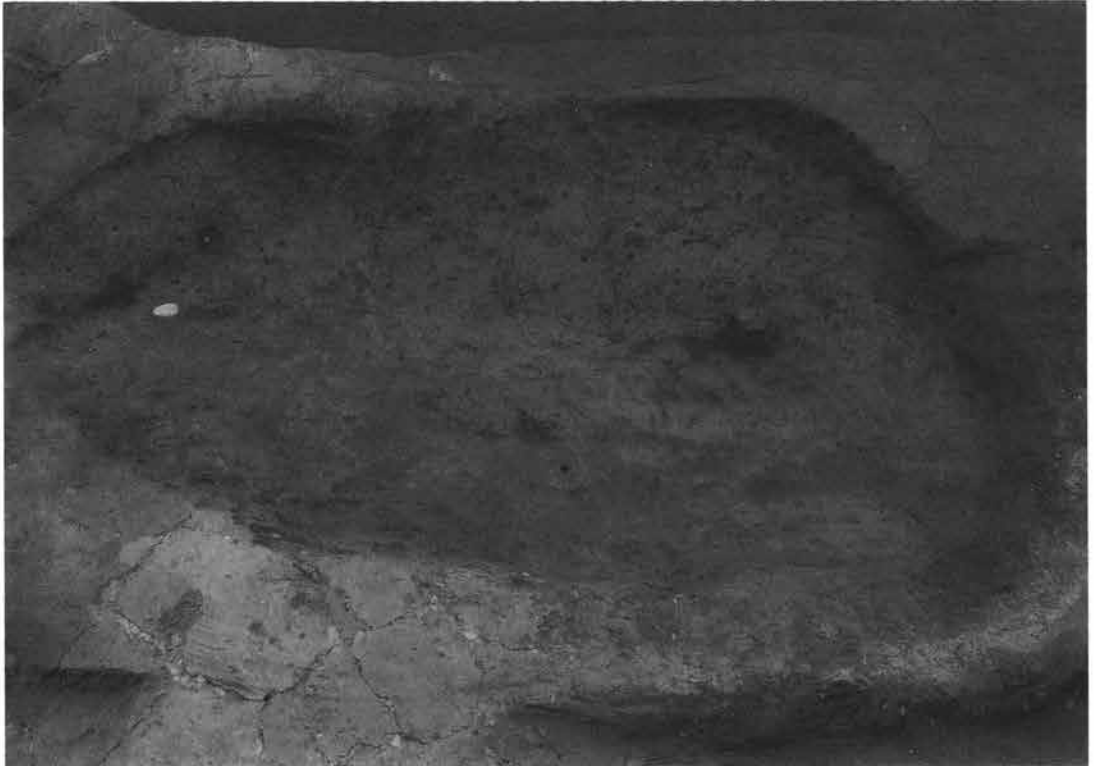


第866図 田端地区E区5号溝土層断面

田端地区E区第4号土坑（第867・868図）

Q-Rライン・71km 038m付近で検出した土坑で、平安時代以降とみられることからここで扱うが、より上位の中世の遺構の可能性もある。

本土坑は水田検出面で確認しており、土坑が水田アゼを切り込んでいる。全体に卵形を呈し、深さは5cmほどで浅い。遺物の出土はない。



第867図 田端地区E区4号土坑



第868図 田端地区E区4号土坑



## 寺東地区ピット群1 (第869・870図、図版243)

第4次調査の北側道で検出した。19号溝のある70km898mより西側に位置している。確認面は第4層である。これらのピット群は水田検出面よりも上位で確認している。

西端のピット14は19号溝と重複しており、19号→ピット14の順に新しい。従って、同様の形状をもつ本ピット群も、19号溝よりも新しいと考えられる。

幅6mほどの調査区であったため、全体の様相は不明だが、中央のピット列と南側のピット列は東西の一直線上に並んでいる。ピット群の規模は径40～80cmあり、明褐色土を掘り込んだ掘形をもつ。石は底面から浮いた状態で敷き詰めており、底面との間には褐色の砂質土が認められた。石の大きさは5～10cm大である。これらのピット群は中央部と南側を除き、直線的に結べないが、なんらかの建物の跡と考えられる。各ピットの内部から石を検出していることは、これらの石がより大きい石の根石・グリ石の機能を果たすことができると考えられるので、この建物跡は礎石建物になる可能性が高い。

遺物は中央列のピット4から須恵器小片・羽釜破片、ピット7から羽釜破片、ピット14から須恵器椀の口縁部破片・灰釉陶器壺の破片が出土している。本ピット群の時期は平安時代とみられる。



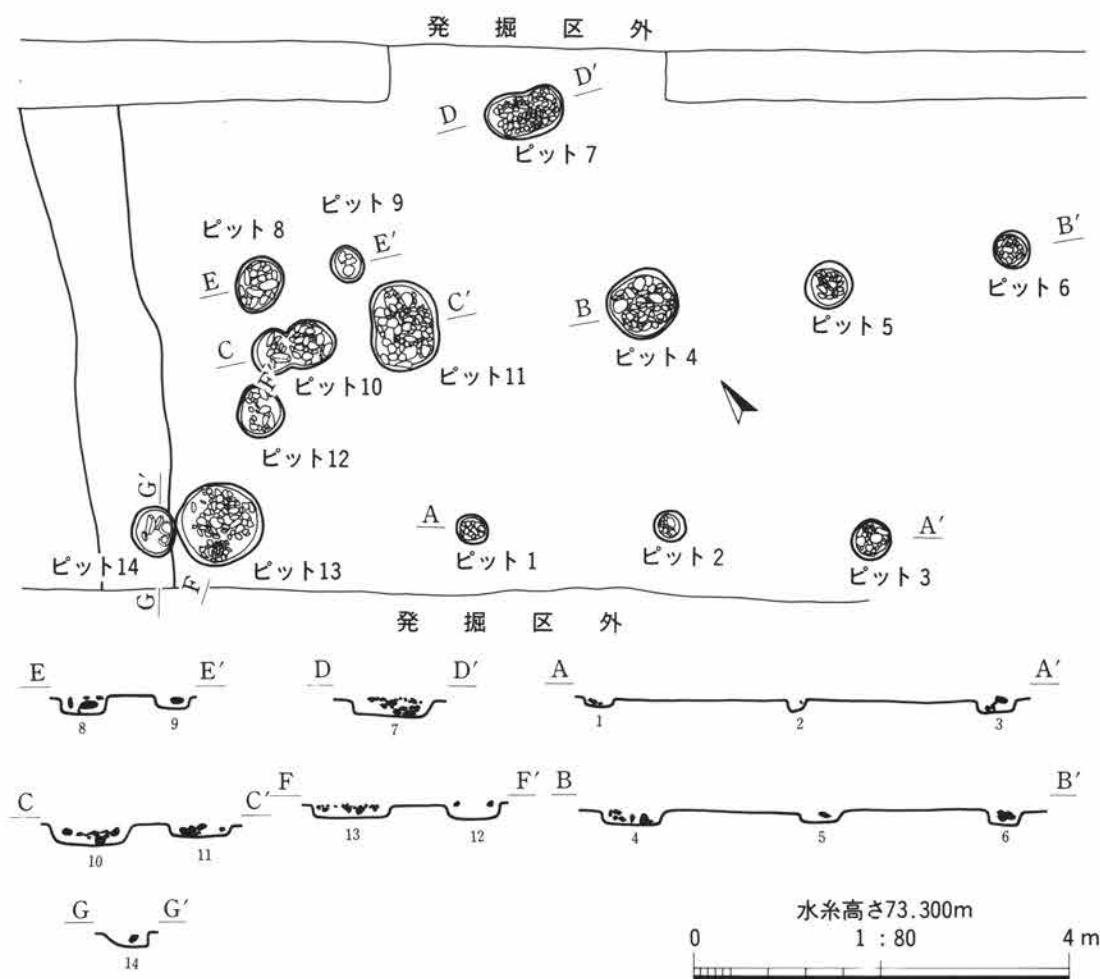
第869図 寺東地区ピット群1

寺東地区第2号溝 (第871~875図)

K-Oライン・70km926~939m付近で検出した。第1次・2次調査で確認した溝で、第3次調査の南側道部分では検出してない。第4次調査では30号溝がほぼ相当する位置にあるが、30号溝はこれと平行する23~27号溝と同様の覆土であり、本遺構の覆土とは異なる。第1次調査では7号溝と重複しており、本溝の方が新しい。第2次調査では3号溝によって切られていることを確認している。従って、これらは7→2→3号溝の順に新しい。

本溝はゆるい「く」字状に曲がり、その曲がり部分で7号溝と重複する。長さ約19m分が調査区内にあるが、そのうち3.5m分は道路下であり、未調査である。幅は確認面で約80cm、底面の幅は30~35cm、深さは平均50cm前後である。覆土は自然に堆積しているが、比較的短時間の内に埋没したものと推定できる。覆土中に小石が含まれており、水が頻繁に流れていた形跡はない。壁は底部近くが急に立ち上がり、中位以上は傾斜が緩くなって開く。

遺物は出土していない。時期は3号溝との関係から、18世紀後半以前に掘削されたものと考えられる。



第870図 寺東地区ピット群1



第871図 寺東地区2・7号溝(1)



第872図 寺東地区2・7号溝(2)



第873図 寺東地区 2・7号溝 (3)



第874図 寺東地区 2・3号溝

寺東地区第7号溝 (第871~873・875図)

L-Oライン・70km935m付近で検出した。第1次調査の本線敷でのみ検出し、他の調査では検出してない。Nライン・70km935m付近で2号溝と重複し、本溝の方が古い。確認面は第4層である。

長さ約7mを検出し、走行はN45°Eをとる。深さは20cm前後である。覆土は自然に堆積している。底面は平らである。遺物は古墳時代~平安時代の土器が19片出土しているが、小片のため図示しなかった。

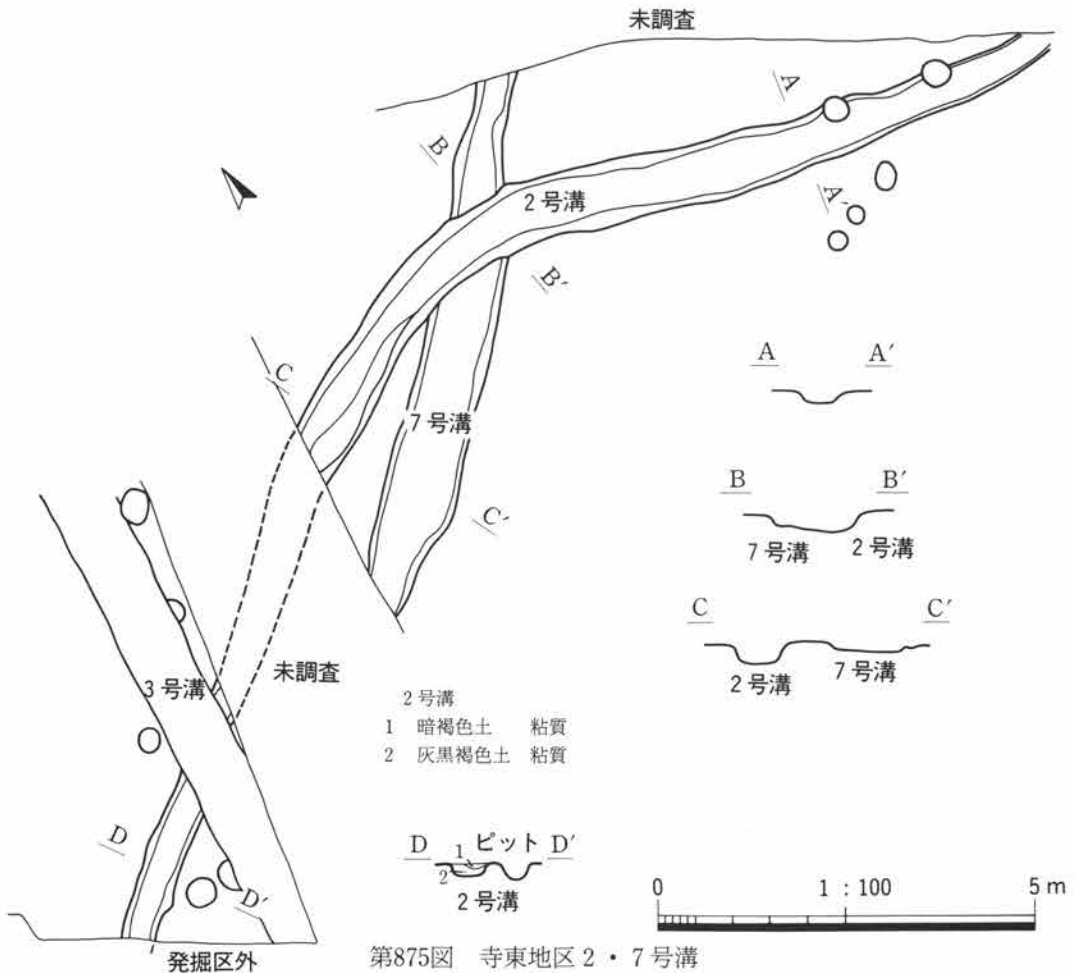
時期は不明だが、古墳時代までさかのぼる可能性がある。

寺東地区第19・20・21・22号溝 (第876図)

O-Qライン・70km898~905m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認したもので、4本ともほぼ平行して走り、幅・深さとも同様である。確認面は第4層である。

19号溝は、内部に小石の詰まったピット群1内のピット14と重複しており、本溝の方が古い。また、20・21号溝は50号住居跡と重複し、20・21溝→50号住居跡の順に新しい。

4本の溝は最長5.2mを検出した。深さは10~20cmである。覆土は自然に堆積している。底面は丸みを持ち、壁は斜めに立ち上がる。



第875図 寺東地区2・7号溝

本溝群は下層の水田跡を覆う砂礫層中に検出しており、水田が洪水等により一挙に埋没する際にできた波状の自然堆積の可能性がある。

遺物の出土はなく、時期は不明である。

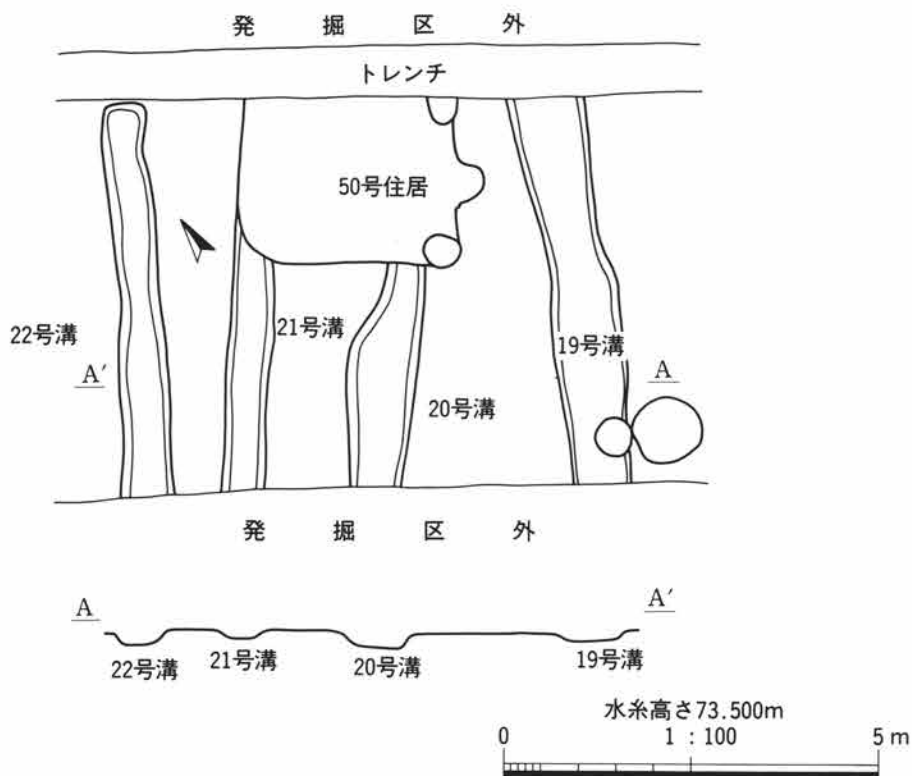
寺東地区第23・24・25・26・27・28・29・30・31・35号溝（第877～879図）

O-Qライン・70km923～941m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認した溝群で、確認面は第4層である。東から30・23～28・31号溝はほぼ東西方向の走行を示し、35・29号溝はこれとほぼ直交する南北方向をとる。いずれも幅50cm前後、深さ10cm程度の浅い溝で、断面は皿状である。

なお、35号溝は60号墓墳と重複し、35→60号の順に新しい。また、35号溝は東側に近接する畝状遺構との類似が強く、畝状遺構に含めて考えた方が良いかもしれない。本溝群は浅間B軽石を含む層の直下で検出しており、平安時代の畝跡の可能性はある。

遺物は26号から古墳時代～平安時代の土器片21点、27号溝から土器片8点、31号溝から土器片1点、35号溝から古墳時代～平安時代の土器片46点が出土している。35号から出土した土器片のなかには内面黒色の土師器杯1点がある。いずれも小片のため、図示しなかった。

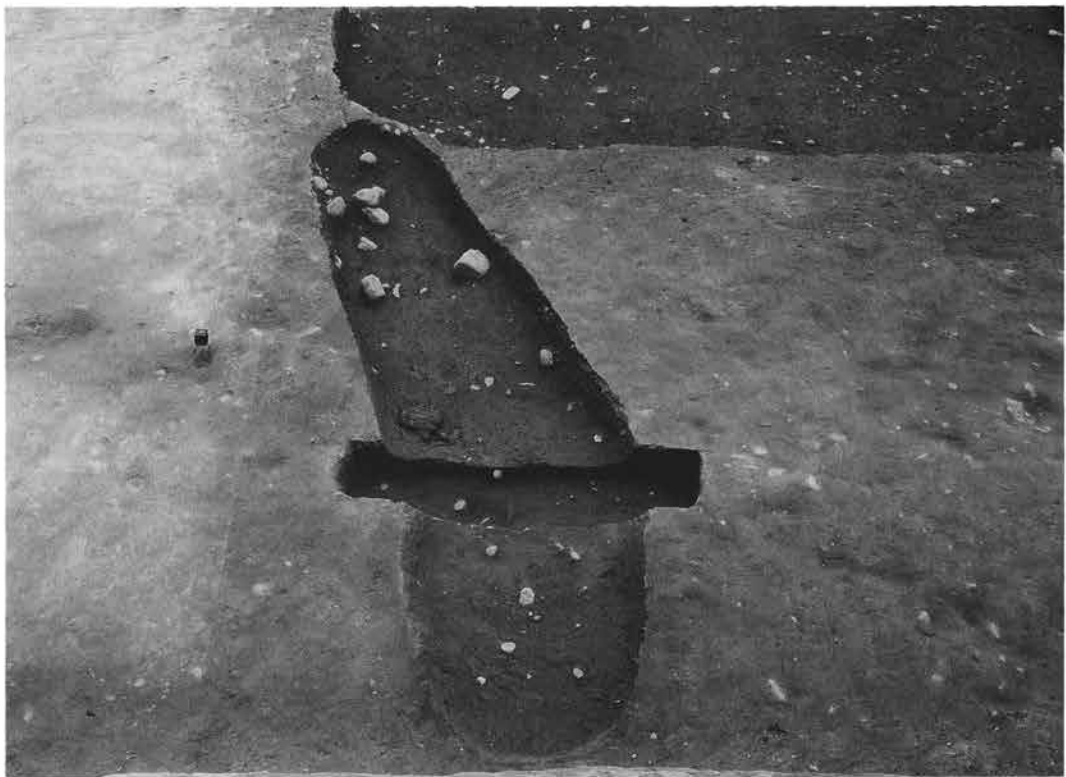
本溝群の時期は平安時代とみられる。



第876図 寺東地区19・20・21・22号溝



第877図 寺東地区23・24・25・26・27・28・29・30号溝



第878図 寺東地区35号溝

寺東地区畝状遺構（第879図）

O-Qライン・70km916～922m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認したもので、確認面は第4層である。全体に溝状を呈し、それらが東西方向に並んで検出された。幅40～70cmで、深さは10cm前後である。覆土は自然に堆積している。

本遺構は35号溝と呼んだ遺構と類似し、ここから2号掘立柱建物跡までの間に検出している。35号溝よりも西側の、23～30号溝に比べてやや幅が広く、長さも短い。同じ層位から検出しており、これらは当時の畝であった可能性がある。

遺物は古墳時代～平安時代の土器片が出土しているが、いずれも器表が摩滅しており、小片のため図示しなかった。これらの土器片は河川の氾濫で流されてきたものと考えられる。

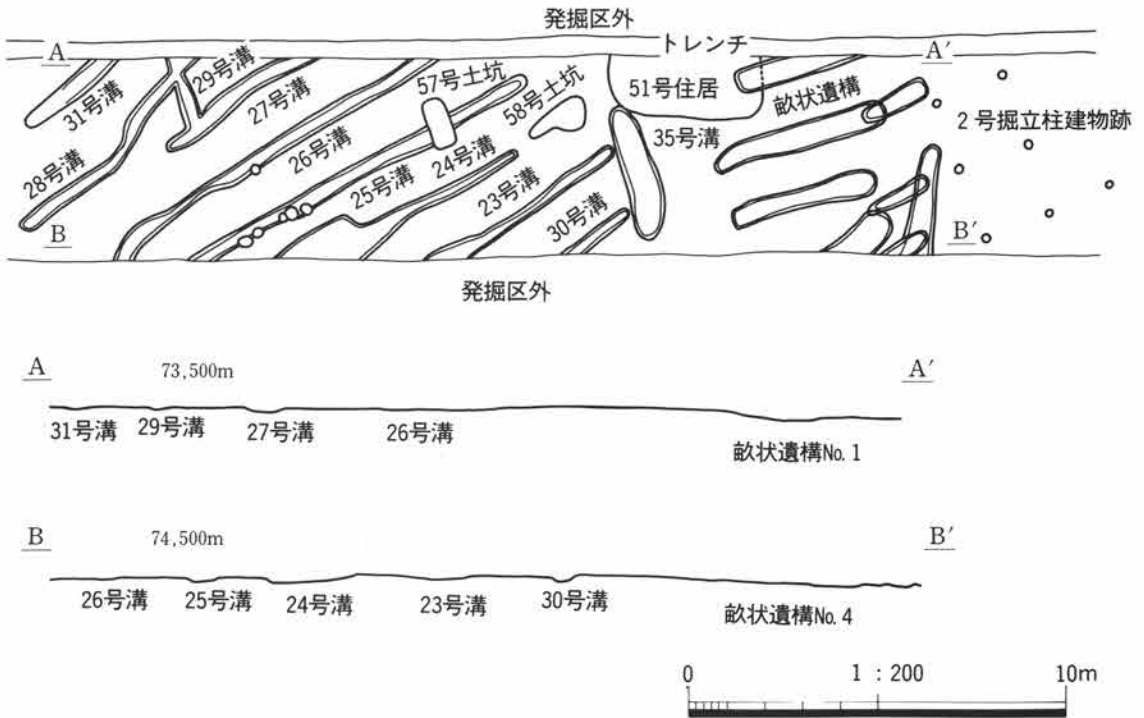
検出層位から、本遺構群の時期は平安時代にさかのぼる可能性がある。

寺東地区第32号溝（第880図）

O-Qライン・70km905m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認したものである。

調査区内で長さ5.2mを検出し、深さは約40cmである。覆土は灰褐色の川砂で、全体がこの砂で埋没している。底面は幅50cmで、断面は略方形を呈し、壁はほぼ直に立ち上がる。

東側に平行して33・34号溝があり、とくに34号溝と規模・方向が類似していることから、水田耕作に関連する水路の可能性はある。



第879図 寺東地区23・24・25・26・27・28・29・30・31・35号溝 畝状遺構



遺物は6世紀後半～7世紀とみられる土師器杯1点が出土しているが、小片のため図示しなかった。時期は6世紀～8世紀のあいだとみられる。

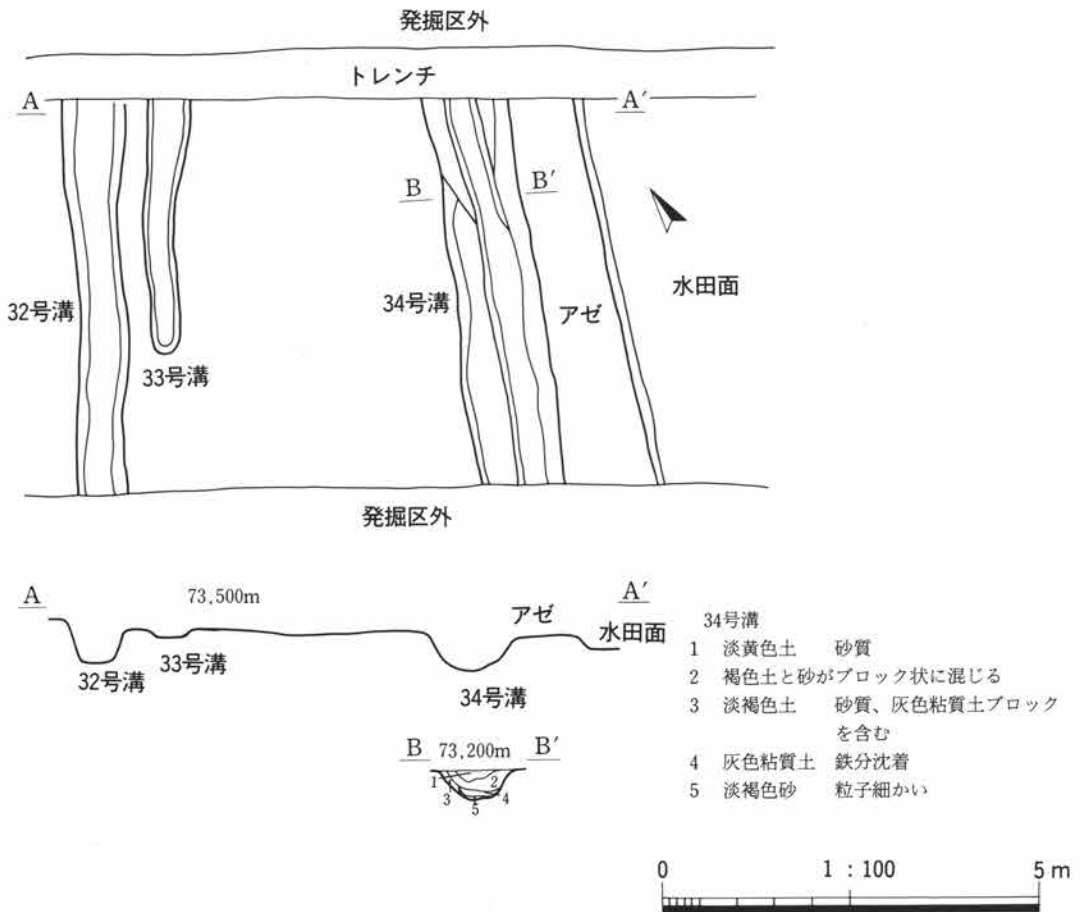
寺東地区第33号溝 (第880図)

O-Qライン・70km904m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認したものである。調査区内で長さ3.4m分を検出した。深さは5～8cmである。

西側の32号溝と30～50cm離れて平行して走り、34号溝・水田アゼともほぼ平行している。遺物の出土はなく、時期は不明である。

寺東地区第34号溝 (第880図)

O-Qライン・70km899m付近で検出した。第4次調査の北側道で確認したものである。調査区内で長さ5.2m分を検出した。



第880図 寺東地区32・33・34号溝

深さは40cm前後である。覆土は自然に堆積し、上層は砂質の土で埋没している。底面の一部は二段に掘り込まれ、壁は斜めに立ち上がる。

東側に接して幅約90cmの水田のアゼを検出しており、さらに東側5mの位置でも水田のアゼを確認している。これらはほぼ平行して北東-南西方向の走行をとる。本溝の検出面は水田のアゼと同一であり、かつ覆土・方向も同様であることから、水田耕作にかかわる水路と考えられる。

遺物は須恵器壺の破片、その他2点が出土しているが、小片のため図示しなかった。本溝は7世紀～8世紀の間に掘削されたものと考えられる。



第881図  
寺東地区  
31号土坑



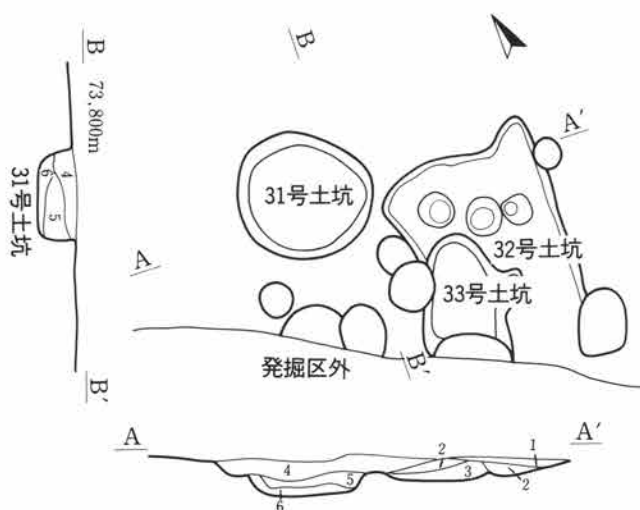
第882図  
寺東地区  
36・37号土坑



第883図 寺東地区38号土坑



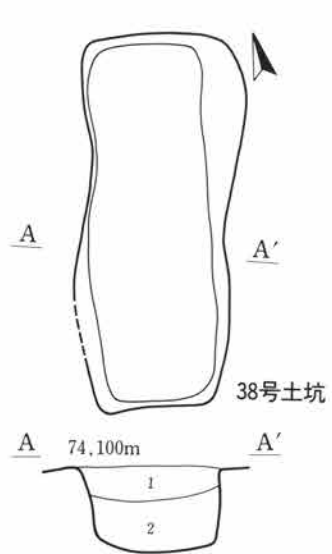
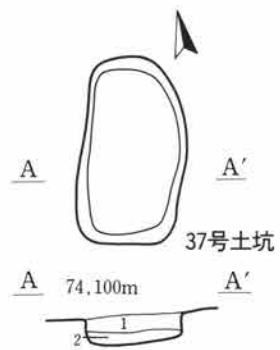
第884図  
寺東地区  
39号土坑



- 31号土坑
- 1 褐色土 堅く締る、小石を含む
  - 2 明褐色土 灰色粘質土ブロックを含む
  - 3 暗褐色土 茶褐色粘質土ブロックを含む
  - 4 暗褐色土 灰色粘質土ブロックを含む
  - 5 灰褐色土 粘質土
  - 6 暗褐色土 粒子粗い、5のブロックを含む

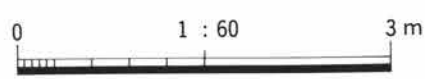
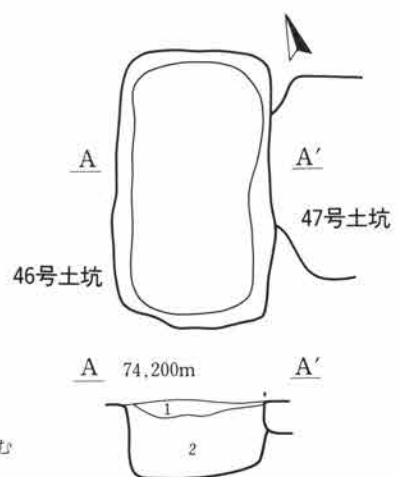


- 35B号土坑
- 1 褐色土 浅間B軽石を含む
  - 2 黄褐色土
  - 3 暗褐色土
- 37号土坑
- 1 茶褐色土 砂質
  - 2 暗茶褐色土 砂質



- 38号土坑
- 1 暗黄褐色土 浅間A軽石を含む
  - 2 黄褐色土

- 46号土坑
- 1 暗褐色土 砂質
  - 2 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロックを含む



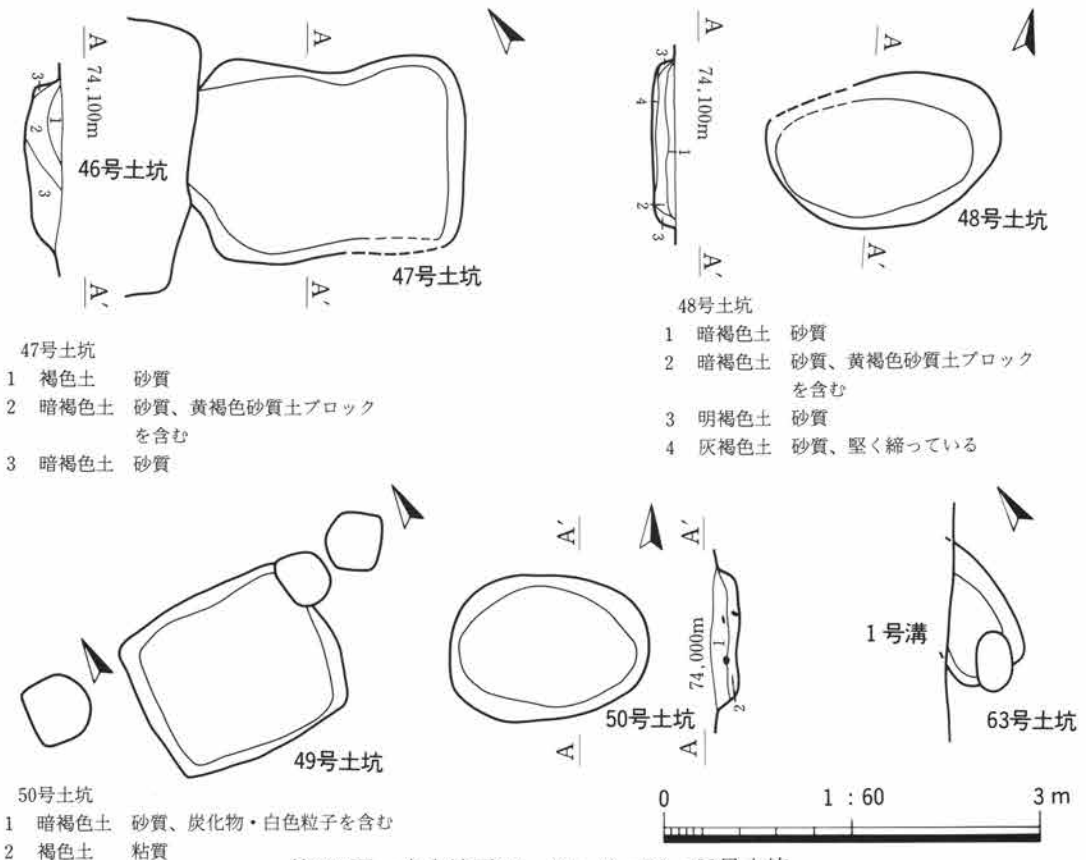
第885図 寺東地区31・32・33・35B・36・37・38・39・46号土坑

3 水田跡 (第887~898図、図版239~242、244~ 247・288)

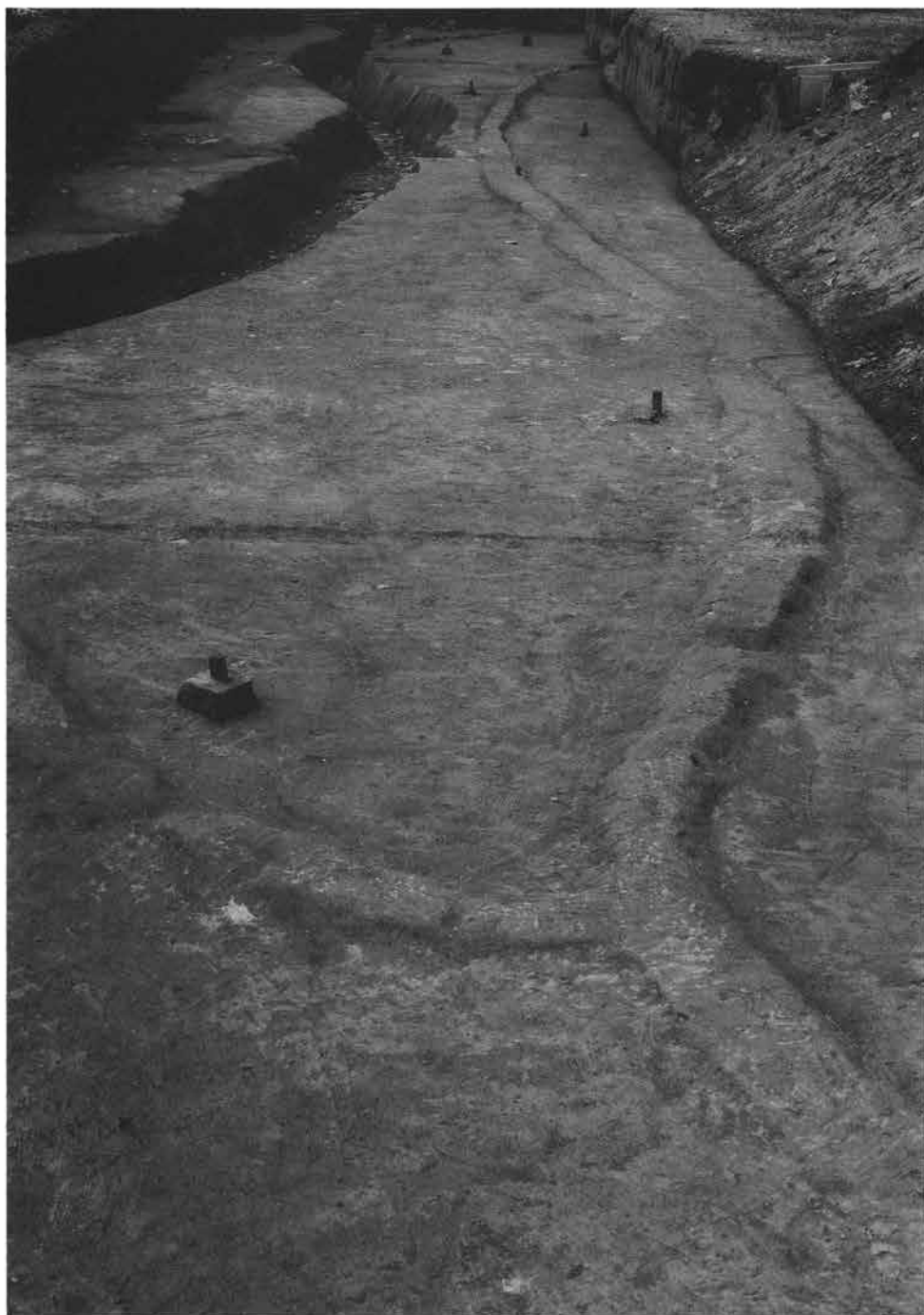
水田跡は田端地区第5次調査のE区、及び寺東地区第4次調査の北側道・南側道で検出している。いずれも本線敷の調査が終了して上越新幹線が大宮を始発駅として開通した後、それまでに着手しなかった側道部分と、着工前に存在していた道路の付け替え道路の工事に伴う調査である。

寺東地区と田端地区E区とは道路1本を隔てて隣りあっており、両地区の調査によって従来分離して命名していた遺跡が、本来同一の遺跡であることが判明した。とくに田端地区E区と寺東地区南側道西端の水田跡は同一の層位で、かつ同様の土によって埋没していることが確認でき、水田跡に関しては両地区を併せて報告することにした。

寺東地区では本線敷第3次調査のとき、灰色粘質土とその直下に鉄分の沈着したオレンジ色の粘質土層を確認していたが、この層が水田遺構の一部であることの認定ができなかった。田端地区E区の調査によって、灰色粘質土が水田跡の一部であることが確認でき、現道路一本を隔てた寺東地区にも水田跡の存在を推定して調査を進めたところ、予想通り水田跡を検出することができた。従って、本遺跡において水田遺構を検出したのは田端地区E区、寺東地区の側道敷の一部である。両地区とも幅3~6m前後の細長い調査区であったため、アゼで囲まれる水田面1枚分を検出することができず、不整形に設定されたアゼ、ミナクチ・水田面・溝を検出したのみである。アゼが分断されているのは上層からの溝・土坑・墓墳の掘り込みによる。



第886図 寺東地区47・48・49・50・63号土坑



第887図 田端地区E区水田跡



第888図 寺東地区水田跡アゼ1 (34号溝東側)



第889図 寺東地区水田跡アゼ2

層位

水田跡は田端地区E区においては第6層下部で確認できる遺構で、6層は褐色の砂質土、水田覆土は粒子のやや粗い川砂である。水田跡を形成する土層は灰色の粘質土で、この層が水田として耕作されていたと考えられる。この直下の層は耕作土と同様の粘質土であるが、鉄分が多量に沈着した明褐

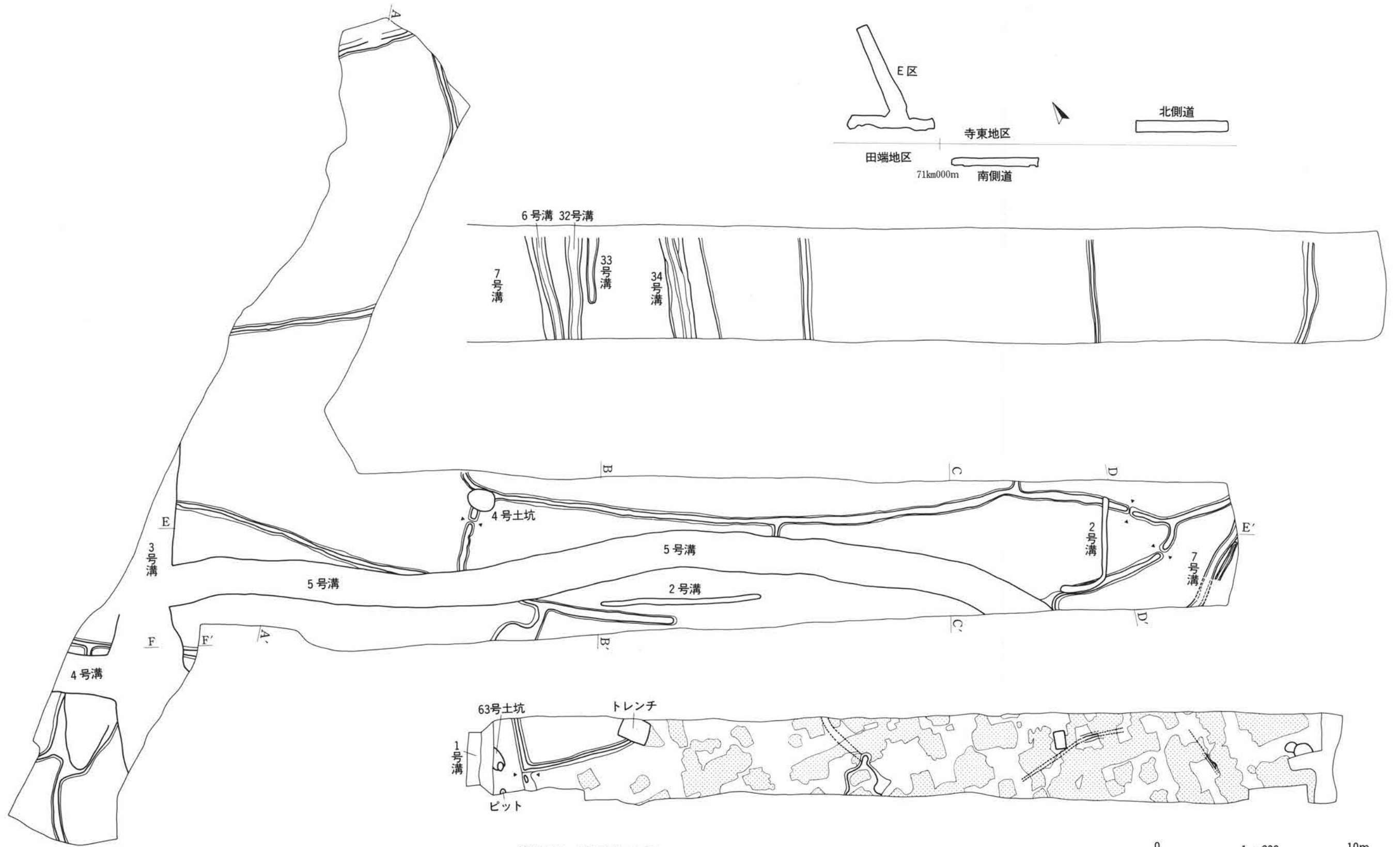


第890図 寺東地区水田跡アゼ3



第891図 田端地区E区水田跡水口1





第894図 田端遺跡水田跡





色を呈し、調査時はオレンジ層と呼んでいた。オレンジ層の下位は明褐色の砂質土で、古墳時代の住居跡はこの砂質土中で確認することができる。

平安時代の住居跡は浅間B軽石を含む層（E区では3層）よりも下位で検出し、水田跡は平安時代の住居跡をさらに掘り下げた6層で検出している。従って、本遺跡で検出した水田跡は、古墳時代の住居跡と平安時代の住居跡との中間の層位で検出したことになる。

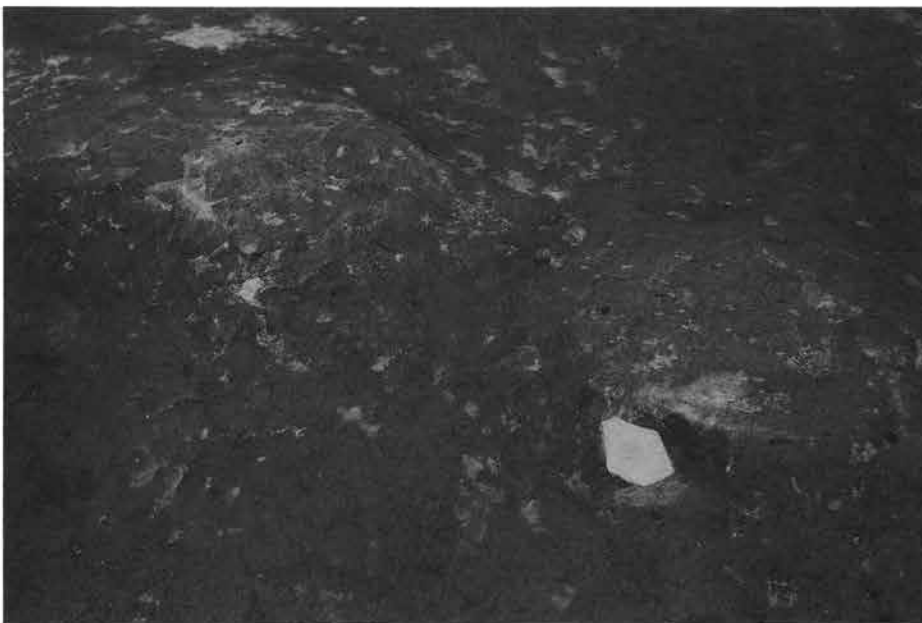
### 田端地区E区

本地区では、寺東地区寄りの側道部分で1号集石、北方向に延びる付け替え道路調査区の東側調査



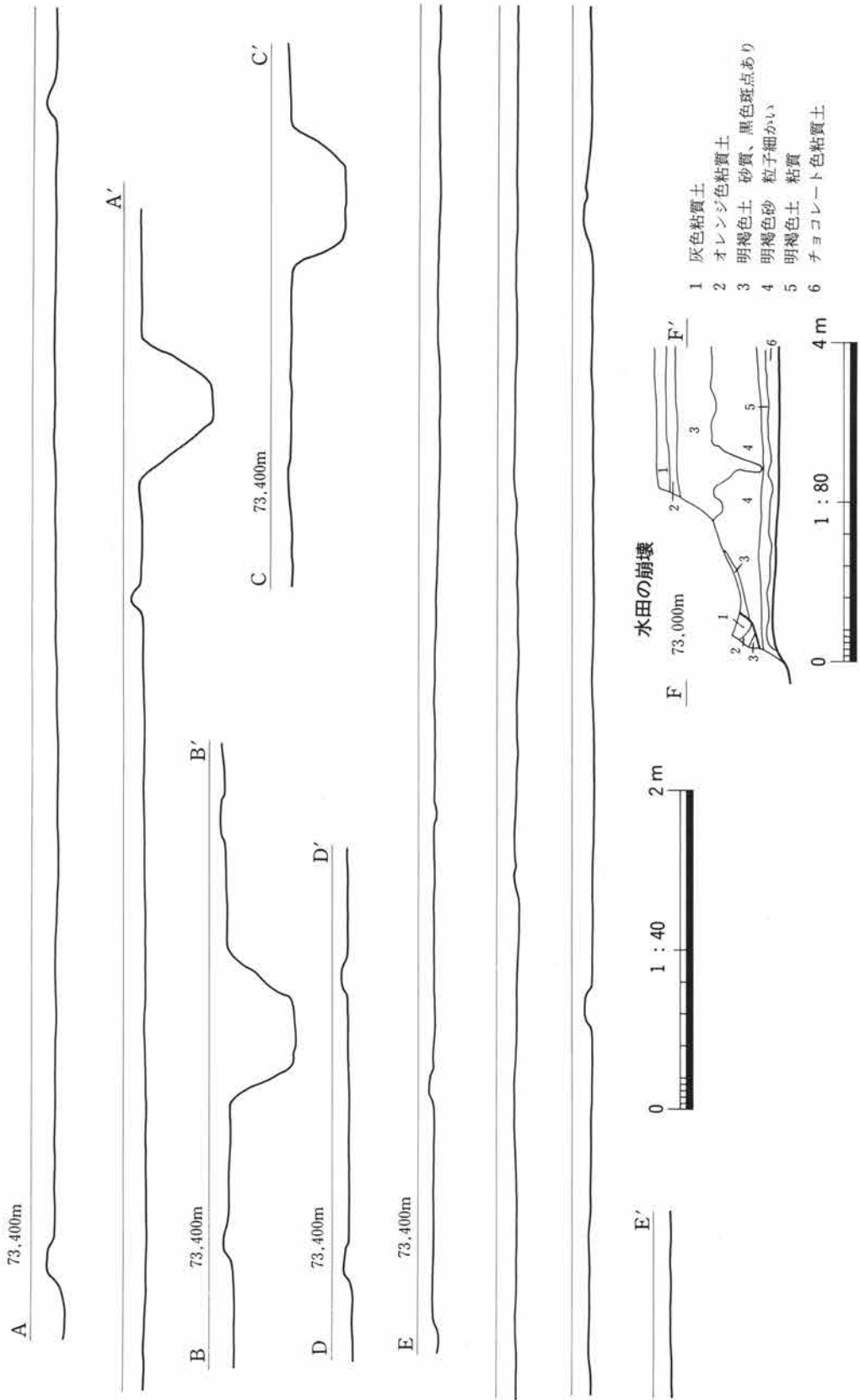
第892図

田端地区E区  
水田跡水口2

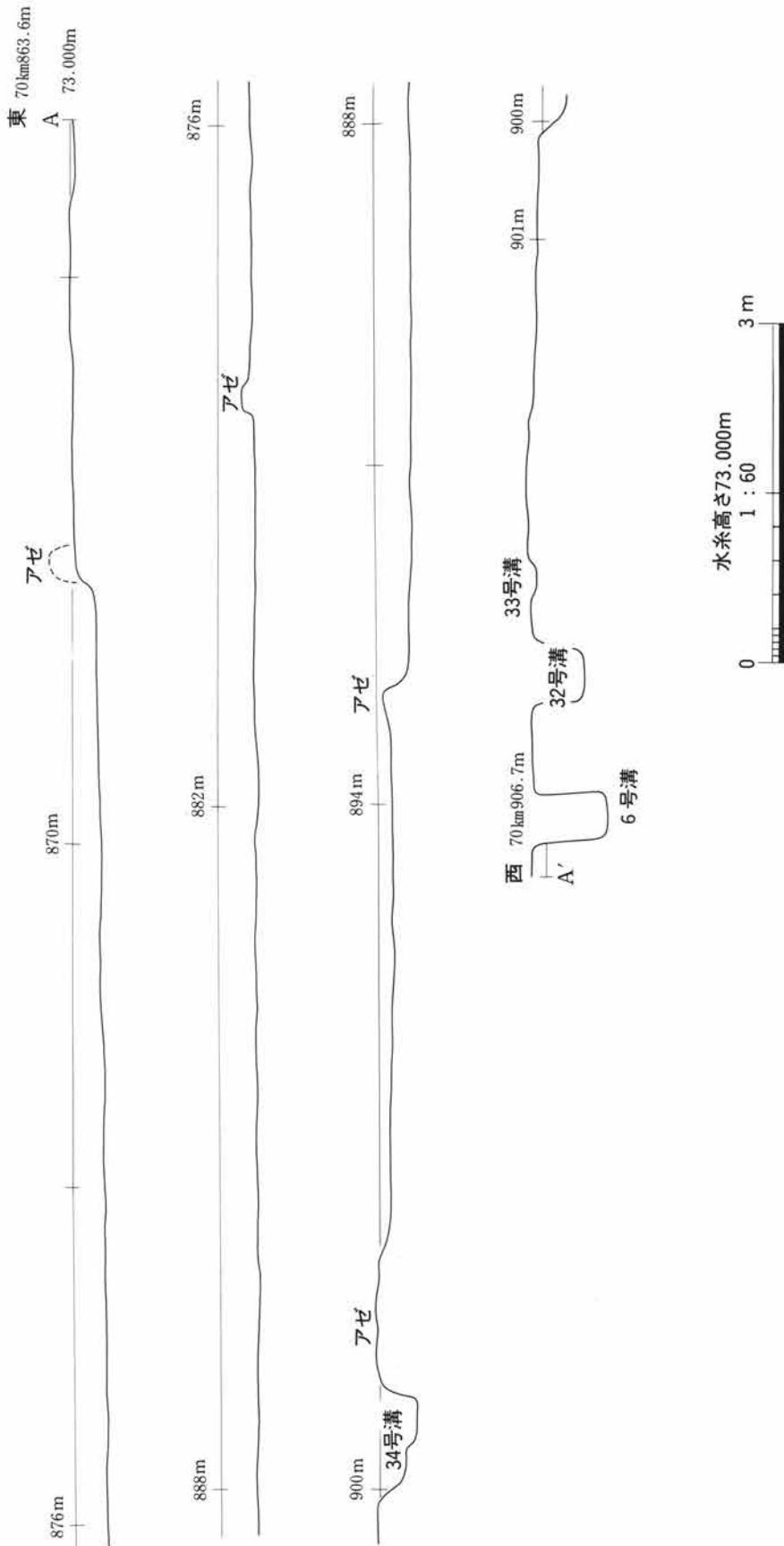


第893図

田端地区E区  
水田跡水口3



第895図 田端地区E区・水田跡断面(1)

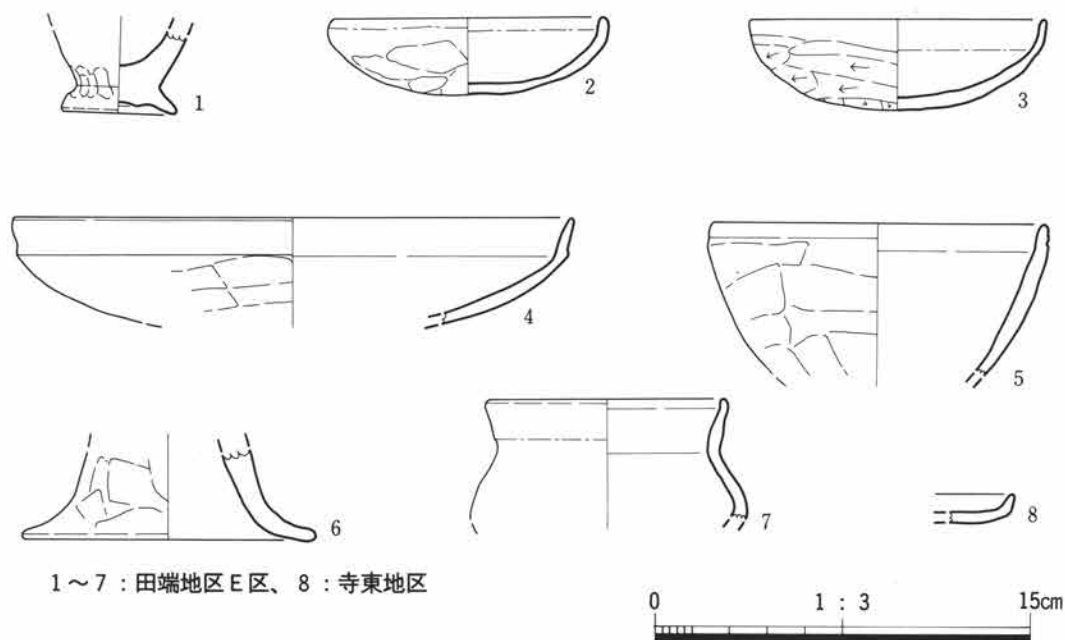


第896図 寺東地区北側道・水田跡断面(2)

区壁直下に3・4号集石をそれぞれ検出した。1号集石は水田を営んだ時期にも石組が露出していたことが、土層断面の観察から判明している。E区ではアゼが切れている部分を4カ所検出した。上層からの掘り込みによる破壊ではなく、滑らかにアゼが低くなっており、ミナクチ（水口）と考えられる。



第897図 田端地区E区水田跡水口4



1～7：田端地区E区、8：寺東地区

第898図 田端遺跡水田跡出土遺物

## 寺東地区

寺東地区で水田跡を検出したのは70km960m～71km005mの南側道部と、70km863m～70km910mの北側道部との2カ所である。

南側道部は心洞寺の遺存土塁の内側に位置し、墓地として使われていた。墓を設営するときに水田面を掘り抜いており、アゼと水田面は痕跡程度を遺存していたのみである。西端の1号溝寄りで確実なアゼを検出し、それよりも東側は墓墳によって破壊されていた。わずかに残っていたアゼの痕跡から推定すると、略長方形に設定されたアゼが復元できる。

北側道部では、アゼは東からキロ程で表すと、70km867.5m付近、878.4m付近、893m付近、898m付近の4カ所で確認した。これらのアゼは北東～南西の方向にほぼ平行して並び、西端のアゼ(898m)は幅100cmほどを測る。このアゼに西接して平行に34号溝が並ぶ。アゼの方向はおおむね等高線に沿って設定されており、東に向かって(鑄川に向かって)次第に水田面は低くなる。34号溝よりも西側の70km910m地点までは、水田跡を検出していない。この地点から西側は、第3次調査のときさらに下位の古墳時代住居面まで掘り下げてしまい、水田跡を検出できなかった。北側道部の東側にも水田が展開していた可能性が高い。

遺物は寺東地区で6世紀後半～8世紀代の土器片が出土している。すべて器表の摩滅した小片である。田端地区E区では、第898図1～7の土器が出土している。これらも完形品はなく、すべて破片である。寺東地区では6世紀後半～7世紀ころの土器片がいくつか出土し、幅のやや広い水田アゼと平行する34号溝からは須恵器壺の破片が出土している。また、34号溝とほぼ平行し、同じ面で検出した32号溝からは古墳時代とみられる土師器杯が1点出土している。寺東地区第4次調査の北側道で発見した土器片には、田端地区E区出土の土器よりも古い時代の遺物がある。寺東地区がE区よりも河川寄りに位置していることを考慮すれば、洪水等で流されてきた可能性は高いとみられるが、寺東地区の水田跡は古墳時代に属する可能性もある。ここでは、両地区の水田跡は8世紀代とし、寺東地区北側道の水田跡の時期については可能性の指摘に留めたい。

なお、E区北端を限る現道路の下水道工事中に掘削面を観察した結果、砂礫層はE区の砂礫層につながる深さにあり、E区の砂礫層よりもわずかに低くなることが判明した。同時に、砂礫層上端よりも約100cm上位で灰色粘質土を確認していることから、田端地区E区のさらに北方にも、水田跡が展開することが推定できる。地表観察では、本地区から北へ向かって地形は次第に低くなるが、玄頂寺の乗る微高地までのあいだは水田と畑である。





# 遺物觀察表

## 遺物観察表

- 1 遺物番号は実測図・写真図版中の番号と一致する。
- 2 法量は上から口径・器高・底径とし、……は計測不能、●は丸底を表す。( )に入った数値は推定復原値を表し、とくに単位を付けたもの以外は、単位はすべてセンチメートルである。脚部等をもつものは、裾端部径をもって底径とし、高台を付けるものは「高台……」とした。また、蓋の場合はツマミ径を加えたものがある。
- 3 住居跡出土遺物の出土位置は平面的位置－垂直的位置の順に記入したが、カマド・貯蔵穴等屋内施設として認識された部分から出土した遺物は、施設の名称を優先した。
- 4 備考欄または特徴欄には後日の検索を期して整理番号を記入した。整理番号は整理作業中に付けられた遺物番号で、この番号によって写真・実測図・遺物の検索・同定が可能である。  
整理番号の意味については、第1分冊凡例中に記した。なお、瓦については個体数把握のため、「観察通番」が別があり、整理番号が付かないものも、観察通番によって遺物の同定が可能である。
- 5 備考欄の②焼成については、酸化焰焼成と還元焰焼成の別を優先し、これに硬質・軟質を加えた。
- 6 遺物の種類は、土器の場合は器種－焼物種（須恵器・土師器・土師質）の順に、陶器・磁器の場合は焼物種－器種の順とした。須恵器の器形・成整形特徴をもち、酸化焰焼成の土器をここでは「土師質」と呼んだが、酸化・還元の違いは平安時代以後、本質的な意味を失うと見ている。
- 7 瓦の観察に関しては、第5分冊の瓦についての考察を参照されたい。

田端地区B区第121号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甌 須恵器	底部片	現存高6.2 底径(18.8)	北東隅床 面	体部以上を欠く。厚さ1cm以上あり、しっかりした作りである。内面は黒色を呈する。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA#B121-1

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板削取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側面 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
2	1529	121住	丸	2.2	密	微	並	暗褐	なし	○			なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TA#B121-5	

田端地区B区第122号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 9.6 器高 2.0 底径 4.5	カマド前 床直上	外底は右回転糸切り後、無調整。口縁部と体部との境に鈍い稜をもつ。内外面ともロクロナデを施す。外面に煤が付着している。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい褐色④TA#B122-1、深 さ1.3
2	杯 土師器	1/4	器高 3.0	カマド掘 形	口縁部の遺存が少なく、径を復元できない。外底は右回転糸切り後、無調整。底部と体部との境は丸味をもつ。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい褐色④TA#B122-11
3	高台付 碗土師質	1/2	口径(14.2) 現存高6.5	カマド底 面	高台端部を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け体部下半に丸味をもち、口縁部は直線的に開く。内外面に丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒・白色粒を含む②酸 化③にぶい褐色 ④TA#B122-4、深さ4.8
4	高台付 碗黒色土器	底部片		南辺中央 壁際床面	高台端部・体部以上を欠く。内面は研磨の後、黒色処理を施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい褐色④TA#B122-14
5	高台付 碗灰釉陶器	口縁部 1/4	口径(17.0) 現存高4.5	貯蔵穴内	体部は丸味をもって開き、口縁部はゆるく外反する。口唇部は尖り気味である。口縁部内外面に灰釉が薄くかかる。	①精良②還元③灰白色 ④TA#B122-2
6	甌 土師器	口縁部 1/6	口径(29.0) 現存高12.3 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。やや肩部が張り、口縁部は短く、外反する。口唇部は丸味をもつ。体部の内面は丁寧なナデ、外面はタテ方向のヘラケズリを施す。頸部内面に稜線をもつ。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい褐色 ④TA#B122-5
7	羽 釜土師質	口縁部 小片	現存高7.2	カマド前 床直上	体部以下を欠く。口縁部は内傾気味で、口唇部に平坦面をもつ。鏝は雑な仕上げである。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい褐色 ④TA#B122-8
8	羽 釜土師質	1/2	口径 22.5 現存高21.0 ……	カマド内	底部を欠く。口唇部に平坦面をもち、約2cm下に鏝を付ける。鏝はやや上向きである。体部外面の上半はロクロナデ、下半分はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③にぶい褐色 ④TA#B122-6
9	羽 釜土師質	口縁部 1/6	口径(27.0) 現存高13.0 ……	カマド右 脇	体部以下を欠く。鏝は断面三角形を呈し、一カ所に上下方向に貫通する径0.5cmの孔がある。焼成前の穿孔である。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TA#B122-7

遺物観察表

田端地区B区第123号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	½	口径(12.8) 器高 5.0 底径 (5.8)	カマド内	外底は右回転糸切り後、無調整。体部にやや丸味をもち、口縁部は外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TA¥B123-3、深さ3.5
2	杯 須恵器	¾	口径 10.4 器高 3.4 底径 3.9	カマド内	外底は右回転糸切り後、無調整。体部上位に丸味をもち、口縁部は屈曲して外反する。内底中央は凸である。底部が小さい。	①砂粒を多く含む②酸化③明黄褐色④TA¥B123-2、深さ2.9
3	高台付椀 須恵器	高台欠	口径(14.2) 現存高5.1 底径 6.8	カマド内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部はやや外反する。体部の内外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③黄褐色④TA¥B123-1、深さ4.2
4	高台付椀 黒色土器	底部片	…… 現存高2.0 底径 6.0	カマド内	高台・体部以上を欠く。内面は研磨・黒色処理されている。高台内側も黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄褐色④TA¥B123-4
5	羽 須恵器	口縁部 ～体部片	口径(20.0) 現存高8.8	カマド内	体部下半以下を欠く。鐏の断面は三角形を呈し、口唇部に平坦面をもつ。口唇部上端は厚みを増す。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③黒褐色④TA¥B123-7
6	羽 土師質	口縁部 小片	口径(18.8) 現存高7.5	カマド内	体部以下を欠く。鐏は薄く外端は丸味をもつ。内外面ともロクロナデを施す。内面に煤付着。	①砂粒を含む②酸化③ぶい褐色④TA¥B123-8
7	片口鉢 土師質	口縁部 小片	口径(22.3) 現存高10.0 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。口縁部の一カ所に内面側から幅2cm程押し出し、片口としている。口唇部に平坦面をもち、内外端は丸く突出する。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥B123-9
8	甕 須恵器	体部片		カマド中央底面	大型甕の体部片。内外面とも平行タタキ目を残し、ナデを施すが、内面は特に丁寧におこない光沢がある。内面に2～10mmの焼成後の穴がある。小石の抜けたあとか？内外面に粘土の接合痕を残す。内面側に煤が付着し、右袖の構築材と考えられる。	①砂粒・小石を含む②還元③灰色④TA¥B123-5、厚さ18～20mm
9	甕 須恵器	体部片		カマド左袖	大型甕の体部片。8と似る。内面には平行タタキ目がなく、無文の当て具痕にナデを加える。内外面の一部に2次火熱を受けた痕がある。	①小石を含む②還元③灰色④TA¥B123-15、厚さ10～16mm

田端地区B区第125号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	完形	口径 10.9 器高 3.4 底径 5.2	カマド底面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部中位の外面に鈍い稜線をもち、口縁部は強いヨコナデにより反転して外反する。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③淡黄色④TA¥B125-1、深さ2.5
2	杯 土師質	略完	口径 10.9 器高 3.4 底径 5.2	南東隅寄床面	外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。体部にやや丸味があり、口縁部はかるく外反する。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③灰黄色④TA¥B125-2、深さ2.8

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	杯 土師質	¼	口径 11.0 器高 3.7 底径 5.0	南東隅床 面	外底は右回転糸切り後、無調整で突出感がある。体部中位にやや丸味があり、口縁部は薄くなってかるく外反する。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②還元③暗黄褐色④TAYB125-3、深さ3.7
4	杯 土師質	底部片	…… 現存高2.5 底径 5.4	貯蔵穴内	口縁部を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。内面に2次火熱を受けている。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③浅黄色④TAYB125-4
5	高台付碗 須恵器	¼	口径(16.5) 現存高4.6 ……	南東隅床 面	高台端部を欠く。外底は回転ヘラケズリの後、ヨコナデを施す。体部は直線的に開き、口唇部は丸くなる。内面は丁寧に仕上げる。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TAYB125-5、深さ3.6
6	杯 須恵器	¼	口径(13.1) 現存高3.8 ……	貯蔵穴内	底部を欠く。体部下位に鈍い稜線をもつ。口縁部はかるく外反する。内面は丁寧なヨコナデを施す。	①砂粒を含む②還元③浅黄色④TAYB125-9
7	高台付碗 須恵器	¼	現存高2.3 高台(7.3)	カマド内	口縁部を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外端は接地しない。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB125-12
8	鉢 土師質	¼	口径(25.7) 現存高8.8 ……	カマド 内・南東 隅床面	底部を欠く。体部は丸味をもって開き、口縁部は外反する。口縁部は短く、端部は丸い。体部下位で厚さを増す。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③淡灰黄色④TAYB126-6
9	甕 土師質	底部	…… 現存高8.9 底径 6.7	カマド内	体部以上を欠く。内面はロクロナデ、外面はヘラケズリを施す。外底はナデを施す。2次火熱を受け一部赤変している。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③淡灰黄色④TAYB125-7
10	甕 土師質	口縁部 ¼	口径(16.4) 現存高5.1 ……	中央床面	体部以下を欠く。肩部に張りがなく、口縁部はかるく外反する。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③浅黄橙色④TAYB125-8
11	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 ¼	…… 現存高12.1 ……	カマド底 面	体部下半以下を欠く。断面三角形の不整形な鏝をもつ。体部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。全体に仕上げが雑である。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB125-13
12	羽釜 須恵器	口縁部 ½	…… 現存高4.5 ……	カマド 内・フク 土	鏝以下を欠く。口縁部は内傾し、断面三角形の鏝をもつ。口唇部内端に稜線をもつ。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黒色④TAYB125-15

田端地区B区第126号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	¾	口径(13.8) 器高 5.0 高台 6.0	中央南東 寄床直上	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は肥厚して外反する。イブシ焼成。	①黒色粒・砂粒を含む②還元③褐色④TAYB126-1、深さ4.3
2	高台付碗 土師質	口縁部 ～底部 片	口径(15.5) 現存高5.9 底径(7.0)	北辺西寄 床面	高台を欠く。体部は直線的に開き、口縁部は薄くなって外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化③橙色④TAYB126-7
3	羽釜 須恵器	口縁部 ～胴部 片	口径(18.2) 現存高9.8 ……	カマド 内・西辺 寄フク土	底部を欠く。鏝径は(22.3)cmで、上面が凹む。口唇部に平坦面をもち、内端は内側に突出する。カマド内出土の体部片は2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB126-11

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	甕? 須恵器	口縁部 小片	現存高4.5 ……	カマド右 脇床面	羽釜の可能性あり。口唇部外端は外方へ突出する。現存の内外面はロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③褐灰色④TAYB126-13

田端地区B区第127号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¼	口径 10.4 器高 2.5 底径 5.1	カマド内	底部から丸味をもって口縁部に至る。体部の厚さはほぼ均一である。外底は右回転糸切り後、ナデ調整を施す。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB127-1、深さ1.8
2	碗? 土師質	口縁部 ～胴部 小片	口径(13.2) 現存高3.8 ……	カマド内	底部を欠く。体部にやや丸味をもち、口縁部は外反する。口唇部は尖り気味。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB127-9
3	羽釜 土師質	口縁部 ～胴部 小片	口径(20.6) 現存高14.8 ……	カマド内	鐶径(22.4)cm。口縁部は内傾したのち立ち上がる。鐶の突出が少なく、上面に平坦面をもつ。体部外面は下へ向かうヘラケズリを施す。	①黒色粒・砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB127-3
4	甕 土師質	底部片	…… 現存高6.2 底径(6.7)	カマド内	体部外面はヘラケズリののちナデ、内面はロクロ、底面はナデを施す。外底は無調整。内面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③灰赤色④TAYB127-2
5	甕? 土師質	底部片	…… 現存高2.2 底径(8.6)	北西隅床 面	円盤状の底部。体部との接合部に内面側から強いヨコナデを施す。内底・外底ともナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色～黒褐色④TAYB127-12

田端地区B区第130号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	½	口径 14.1 器高 3.8 底径 10.1	貯蔵穴南 壁際	外面の体部中位にヘラケズリによる外稜をもち、体部は屈曲する。内面には5～8mm間隔をおいて放射状の暗文を施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB130-3、深さ3.4
2	杯 土師器	略完	口径 12.2 器高 3.0 底径 7.8	貯蔵穴底 面	外面の体部中位ににぶい稜をもつ。体部は指頭オサエの後、ヨコナデを施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB130-1、深さ2.7
3	杯 土師器	½	口径(12.1) 器高 3.2 底径(7.8)	貯蔵穴底 面	外面の体部中位ににぶい稜をもち、体部は屈曲する。体部は指頭オサエの後、ヨコナデを施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB130-4、深さ3.2
4	杯 土師器	½	口径(12.2) 器高 2.8 底径(8.1)	南辺西端	体部の中位ににぶい稜をもつ。体部は指頭オサエの後、ヨコナデを施す。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB130-5、深さ2.5
5	杯 須恵器	¾	口径 13.1 器高 3.5 底径 3.1	貯蔵穴底 面	外底は回転糸切りの後、無調整。外底は突出感がある。体部は直線的に開き、口縁部は殆ど外反しない。イブシ焼成。	①砂粒・小石を含む②還元③灰黄褐色、一部黒色④TAYB130-2、深さ3.1

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
6	杯 須恵器	⅓	口径(12.5) 器高 2.9 底径(6.4)	貯蔵穴内	歪みをもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。口唇部は丸く肥厚し、内端はやや突出する。内底はツルツルで光沢がある。外底に自然釉がかかる。	①砂粒を含む②還元、硬質 ③灰色④TA¥B130-8、深さ2.1
7	高台付椀 須恵器	⅔	口径 14.1 器高 5.2 高台 6.9	貯蔵穴内	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外端は接地しない。体部～口縁部は直線的に開く。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥B130-10、深さ4.0
8	椀? 須恵器	口縁部 ¼	口径(16.2) 現存高3.2	貯蔵穴内	体部下半以下を欠く。体部にやや丸味をもち、口縁部は丸く肥厚する。薄手の仕上げ。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TA¥B130-9
9	高台付椀 土師質	⅔	口径(14.1) 現存高4.9 底径 6.0	貯蔵穴壁際	高台を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部はやや外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TA¥B130-11、深さ4.7
10	高台付椀 須恵器	口縁部 ¼	口径(15.8) 現存高4.7 ……	貯蔵穴南 東隅壁際	底部を欠く。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。底部との接合痕が残っている。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B130-12
11	高台付椀 須恵器	口縁部 ½	口径(18.0) 現存高6.5	南辺壁際 西端	底部を欠く。体部～口縁部は直線的に開く。体部外面にロクロナデ痕を残す。大振りの椀。	①砂粒・白色粒を含む②還元③灰色④TA¥B130-28
12	高台付椀 須恵器	⅔	口径 17.7 器高 8.1 高台 7.8	貯蔵穴底 面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開く。体部内面と外面の上半にロクロナデ痕を残すが、外面下半は丁寧に消している。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B130-13、深さ6.8
13	高台付椀 須恵器	⅔	口径 19.7 現存高9.6 ……	貯蔵穴南 西隅	高台を欠く。底径9.1cm。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部～口縁部は直線的に開く。内外面にロクロナデ痕を残すが、外面下半は丁寧に消している。鉢形に近い大振りの椀。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③浅黄橙色 ④TA¥B130-14、深さ9.1
14	甕 土師器	⅔	口径(20.0) 現存高23.2 ……	貯蔵穴底 面	底部を欠く。最大径は22.0cmで、体部上位にある。「コ」字状口縁を呈し、口唇部外面ににぶい稜をもつ。内面頸部に明瞭な稜線をもち、体部下半に粘土の接合痕が残る。外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B130-16
15	甕 土師器	口縁部 ⅓	口径(20.0) 現存高5.9 ……	貯蔵穴西 直上	体部以下を欠く。明瞭な「コ」字状口縁を呈する。内面頸部の上下に稜線をもつ。頸部外面に粘土の接合痕がある。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B130-19
16	甕 土師器	口縁部 ¼	口径(19.3) 現存高6.8	カマド 内・貯蔵 穴直直上	体部以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。内面頸部の上下に稜線をもつ。体部外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B130-17
17	甕 土師器	口縁部 ¼	口径(21.2) 現存高6.6	貯蔵穴北 西肩	体部以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。上の折レは不明確で稜線をもたない。	①砂粒を多く含む②酸化 ③橙色④TA¥B130-18
18	甕 土師器	口縁部 小片	口径(19.4) 現存高4.0 ……	カマド内	体部以下を欠く。「く」字状の外反する口縁部をもち、体部にふくらみをもたない。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B130-32

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
19	鉄 鏝 ?			中央南寄床面	長さ5.8cm、幅0.8~1.2cm、先端部の厚さ約0.3cmが遺存する。先端部近くに小石が付着し、錆のフクレが著しいため、形状を特定することができない。柳葉形の鏝か。	

田端地区B区第132号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甌 土師質	口縁部 ~体部 片	口径(28.8) 現存高13.9 .....	中央床面	直立する口縁部をもち、口唇部は内傾する平坦面がある。鏝の仕上げは雑で、その上下端は強いヨコナデを施す。内面はロクロナデ、外面はナデを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③褐色④TAYB132-1
2	甌 土師質	底部片	..... 現存高3.3 底径(27.2)	カマド底面	下端が「く」字状に外反する単孔の甌。外端は接地せず、内外端の仕上げはシャープである。	①砂粒・黒色粒含む②酸化③褐色④TAYB132-9
3	羽釜 土師質	口縁部 ~体部 片	口径(27.8) 現存高13.8 .....	カマド左脇床面	底部を欠く。鏝の断面は略三角形を呈し、仕上げは雑である。外面の鏝に幅0.5~0.3cmの工具によるナデ痕を残す。内面の器表剥落。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB132-2

報告番号	観察通番	出土地点	瓦の種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘要			
					素地	挟雑物	焼き上り	色調	粘土板剝取		一枚作り	桶寄木痕	粘土板合せ目	布の合せ目	タタキ目	ロクロ目	ヘラケズリ		布の擦消		側部面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
4	1477	132住	平	2.0	密	微	軟	淡黄	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB132-4	
5	1478	132住	平	1.9	密	微	硬	灰	○	なし		なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB132-5	
6	1479	132住	平	1.5	密	微	軟	淡黄	○	なし		○	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB132-7	
7	1476	132住	平	2.3	密	微	軟	淡黄	○	なし		○	○	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB132-3	

田端地区B区第134号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/2	口径(10.4) 器高 4.4 底径 (6.0)	カマド底面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部下半の外底は突出、口縁部は外反する。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB134-3、深さ4.0
2	高台付椀 須恵器	3/4	口径(13.6) 器高 5.6 高台 6.8	カマド左脇壁際床面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台にはワラ状の圧痕がある。体部下位にやや丸味をもち、口縁部は外反する。	①砂粒・石粒を含む②還元③灰色④TAYB134-4、深さ4.5
3	高台付椀	1/4	口径(12.7) 器高 4.9 高台 (6.5)	カマド右袖	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の内端は接地しない。口縁部はゆるく外反する。	①砂粒を含む②還元③明青灰色④TAYB134-5、深さ4.1
4	高台付椀 須恵器	1/2	口径(13.8) 器高 4.0 高台 (7.0)	カマド底面	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。	①石粒を含む②還元③灰黄色④TAYB134-13、深さ4.0



番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	高台付 椀 土師質	底部片	…… 現存高3.3 高台 8.3	南東隅壁 際床面	126号住居遺物の可能性あり。高台は高さ1.6cmで「ハ」字状にしっかり開く。2次火熱を受けて、一部赤変している。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③浅黄橙色④TAYB134-9
6	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(19.6) 現存高5.4 ……	カマド前 床直上	体部以下を欠く。口縁部は内傾し、口唇部に平坦面をもつ。薄い鏝は水平方向にのびる。内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB134-15

## 田端地区B区第135号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	⅔	口径 12.4 器高 3.3	カマド前 床直上	口縁部は直線的に開く。外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①黒色粒を多く含む②酸化③橙・灰褐色④TAYB135-1
2	杯 土師器	⅔	口径 13.4 器高 2.7 ……	フク土	口縁部は丸味をもって立ち上がる。外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB135-2、深さ2.2
3	杯 土師器	⅓	口径 13.2 現存高3.6 ……	カマド前 床面	口縁部外面は強いヨコナデによってくぼむ。外底は不定方向のヘラケズリを施す。	①砂粒・黒色粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB135-3
4	杯 須恵器	口縁部 小片	口径(15.4) 現存高5.0	南東隅床 直上	体部は直線的に開く。内外面ともヨコナデを施す。	①黒色粒を含む②還元③灰色④TAYB135-10
5	盤 須恵器	⅓	口径 22.5 器高 4.5 高台 16.6	カマド前 床面・フ ク土	断面方形のしっかりした高台を付ける。高台内端は接地しない。体部は丸味をもって開き、口唇部に外傾する平坦面をもつ。外底～体部中位は回転ヘラケズリを施す。	①黒色粒を含む②還元③灰色④TAYB135-5、深さ3.1
6	蓋 須恵器	略完	口径 15.1 器高 2.5 ツマミ4.6	南西隅フ ク土・中 央フク土	口縁部は下外方へ折れる。ツマミは薄く、頂部が凹む。天井部外面は右回転のヘラケズリを施す。	①黒褐色粒を含む②還元③灰褐色④TAYB135-6、深さ1.2
7	蓋 須恵器	⅓	…… 現存高2.1 ツマミ4.4	フク土	口縁部打ち欠きか。カエリ径12.2cm。天井部外面はカエリ部近くまで回転ヘラケズリを施す。外面に自然釉あり。	①黒色粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB135-7
8	不明石製品	一部割 れ		中央南寄 床面	握り拳大の石で長さ11.5cm。図中割れの面をはさむ2面が平滑になっている。重さ830gを測る。石質は粗粒安山岩。④TAYB135-9	
9	鉄 鉄 ?	先端欠		中央南西 寄床面	断面長方形を呈し、先端部に向かって幅が広くなり厚味は薄くなる。クサビ形を呈する。全長4.8cm、幅1.7cmが遺存する。基部は断面方形を呈し、木質が遺存している。鑿頭式鉄鉄か?	
10	甕 土師器	口縁部 小片	口径(23.6) 現存高2.8	フク土	口唇部内側が丸く肥厚する。「く」字状の口縁部か。	①砂粒・褐色粒含む②酸化③橙色④TAYB135-15
11	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(13.6) 現存高10.5 ……	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は直線的に開く。頸部に強いヨコナデを施し、体部との境は稜をなす。体部外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②酸化③赤褐色④TAYB135-19

## 遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
12	甕 須恵器	体部片		フク土	胴部経50cm前後になるとみられる。外面は平行タタキ目、内面はナデを加えて当て具痕は不明。割れ口内部はレンガ色を呈する。	①褐色粒を含む②酸化③灰色④TAYB135-20

## 田端地区B区第137号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	口縁部 小片	口径(12.1) 現存高2.8 ……	カマド内	口唇部は尖り気味。体部外面に指頭オサエ痕を残す。内外面摩滅著しい。	①砂粒・褐色粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB137-1
2	甕 須恵器	体部片		カマド右 袖	タタキの後、丁寧なナデを施す。内面はにぶい橙色を呈する。カマド右袖の構築材。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB137-2
3	甕 須恵器	%	…… 現存高38.0 底径(16.0)	南西部床 直上	口縁部・底部を欠く。底部は円盤貼付けて、接合面を残す。体部最大径は30.6cmで、中位やや上にある。タタキの後、外面は丁寧なヨコナデ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB137-5

## 田端地区B区第138号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 9.8 器高 2.4 底径 5.4	フク土	外底は右回転糸切り後、無調整。体部外面にロクロナデ痕を残す。内底中央に粘土の小塊が付着している。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB138-1、深さ1.8
2	土 錘	半欠		カマド前 床面	長さ3.3cmが遺存する。タテ半分に割れており、外径は2cm前後に復元できる。孔径(0.3)。	①精良②酸化③にぶい赤褐色④TAYB138-4
3	甕 土師質	口縁部 小片	口径(27.8) 現存高9.3 ……	カマド前 床面	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に短く外反する。体部は直線的である。内面は丁寧なナデ、外面はヨコ方向の雑なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黒褐色④TAYB138-2
4	羽 釜 土師質	口縁部 %	口径(23.2) 現存高9.6 ……	カマド底 面	体部下半以下を欠く。鏝の上面はほぼ水平で、下面は丸味をもつ。口唇部は丸く盛り上がる。内外面ともロクロナデを施す。内面に煤が付着。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい黄褐色④TAYB138-5

## 田端地区B区第139号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	口縁部 小片	口径(15.1) 現存高3.3	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。体部外面にロクロナデを残す。内面の器表は剥落している。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB139-3
2	杯 須恵器	口縁部 小片	口径(14.0) 現存高3.9 ……	南辺東寄 壁際床直 上	体部下半以下を欠く。口縁部に強いヨコナデを施す。器表剥落著しい。	①砂粒を含む②還元③灰黄色④TAYB139-4

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	甕 土師器	1/6	口径(19.8) 現存高12.9 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。体部に丸味があり、頸部は内傾して立ち上がる。口唇部に浅い凹線をもつ。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい褐色④TAYB139-7
4	甕 土師器	口縁部 1/2	口径(19.5) 現存高6.9 ……	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。「コ」字状口縁を呈する。口唇部に浅い凹線をもつ。頸部に粘土の接合痕を残す。	①砂粒を多く含む②酸化③褐色④TAYB139-2
5	甕 土師器	1/3	口径(17.8) 現存高15.0 ……	カマド前 床面	底部を欠く。「コ」字状口縁を呈する。頸部は内傾して立ち上がる。頸部の上下、口唇部に浅い凹線をもつ。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB139-1
6	甕 土師器	口縁部 小片	口径(17.7) 現存高3.1	カマド底 面	肩部以下を欠く。頸部に強いヨコナデを施し、口唇部に浅い凹線をもつ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB139-8
7	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(22.5) 現存高26.7 ……	カマド前 床直上	底部を欠く。体部の最大径は中位にあり、(29.0)cmを測る。頸部は強く内傾し、ゆるい「コ」字状口縁を呈する。外面の上半はヨコ方向、下半は斜め方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB139-6

田端地区B区第140号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	完形	口径 13.8 器高 4.3 底径 6.3	貯蔵穴内	外底は右回転糸切り後、無調整で、突出感がある。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB140-1、深さ3.3
2	杯 須恵器	完形	口径 13.6 器高 4.1 底径 7.1	貯蔵穴内	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①白色粒子・砂粒を含む②還元③黄灰色④TAYB140-2
3	杯 須恵器	1/4	口径 13.2 器高 3.8 底径 6.3	貯蔵穴底 面	外底は左回転糸切り後、無調整。体部～口縁部は直線的に開く。口唇部は尖り気味。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB140-5、深さ3.0
4	杯 須恵器	1/4	口径(14.2) 器高 3.7 底径 6.2	貯蔵穴内	外底は左回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開く。内外面とも丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい黄橙色④TAYB140-4、深さ3.8
5	杯 須恵器	略完	口径 14.0 器高 4.1 底径 3.1	貯蔵穴底 面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③黄灰色④TAYB140-6、深さ2.9
6	杯 須恵器	1/4	口径 12.3 器高 3.7 底径 5.6	貯蔵穴底 面	外底は右回転糸切り後、無調整で、突出感がある。体部にやや丸味があり、口縁部は直線的である。体部内外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③にぶい黄橙色④TAYB140-3、深さ2.9
7	杯? 黒色土器	口縁部 1/6	口径(15.6) 現存高4.3 ……	貯蔵穴底 面	底部を欠く。体部～口縁部は直線的に開く。内面は研磨の後、黒色処理を施す。体部外面はヘラケズリの後、丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB140-13
8	壺? 須恵器	底部	…… 現存高4.3 高台 11.8	貯蔵穴壁 際	体部以上を欠く。厚さ1.0cm前後のしっかりした底部をもつ。高台は外端が接地しない。外底に爪状の圧痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB140-8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
9	甕 土師器	略完	口径 12.1 現存高15.3 ……	貯蔵穴底 面	脚部の全形不明。最大径は体部上位にあり、13.5cmを測る。口縁部は「コ」字状を呈する。体部外面の上半はヨコ方向、下半はタテ方向のヘラケズリを施す。外面に煤付着。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい褐色④TAYB140-7、深さ13.9
10	甕 土師質	底部片	…… 現存高7.6 底径(21.2)	フク土	参考品。単孔の大型甕。「L」字状のしっかりした底部で、体部下端に径1.2cmの1孔がある。底面は平坦で、同心円状の圧痕を残す。内面最下端はヘラケズリで面取りを施す。	④TAYB140-9

田端地区B区第143号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	椀 土師質	口縁部 1/6	口径(15.4) 現存高4.1 ……	推定貯蔵 穴	体部下半以下を欠く。体部は直線的に開き、口縁部はやや外反する。内外面は丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB116-40
2	手づくね 土器			推定貯蔵 穴	全形不明。小さなルツボ状を呈する。約半球分が遺存する。一部に鏝状の突出部がある。土製の鈴か？	①精良②酸化③にぶい橙色④TAYB116-33

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要				
					素地	挟雑 物	焼き 上り	色調	粘土板削取		一枚 作り	桶密 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
3	1475	143住 床下	平	2.3	密	含	並	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1A類 ④TAYB116-22		

田端地区B区第144号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	硯 須恵器	一部欠		北東寄床 面	甕体部片の転用硯。外面は格子目風のタタキ目があり、さらにカキ目加わる。内面は同心円の当て具痕を残すが、表面は平滑で光沢をもつ。図の天と左右の割れ口は擦っている。	①砂粒・黒色粒を含む②還元③灰色④TAYB144-1
2	杯 須恵器	1/6	口径(16.1) 器高 4.4 底径(7.6)	北西隅床 面	外底は静止に近い回転糸切り後、無調整。体部に丸味をもち、口縁部はかるく外反する。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。2次火熱受け。	①黒色粒を含む②還元③褐色④TAYB144-4
3	刀 鉄 子 製	略完		北西寄床 面	全長18.3cm、茎長3.7cm、棟の長さ14.2cm、幅0.4cm遺存する。刃部の長さ11~12cmとみられる。棟関・刀関をもち、棟側の方が明瞭である。鋒は折れている可能性がある。	④TAYB144-5

田端地区B区第145号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	略完	口径 17.3 器高 3.5 ツマミ3.9	貯蔵穴西 床直上	外面の天井部は回転ヘラケズリ後、ツマミ貼付け。ツマミ中央はわずかに突出する。口縁部端から2cmほど体部寄りの内面にカエリの突出をもつが、痕跡程度である。	①細かい砂粒を含む②還元 ③灰色④TA¥B145-10
2	蓋 須恵器	⅔	口径 14.8 器高 3.1 ツマミ5.0	貯蔵穴西 フク土	外面の天井部は回転ヘラケズリ後、ツマミ貼付け。ツマミ中央は深くくぼむ。口縁部は折り曲げたように断面三角形を呈する。	①細かい砂粒を含む②還元 ③灰色④TA¥B145-12
3	蓋 須恵器	略完	口径 14.1 器高 2.6 ツマミ4.4	貯蔵穴西 フク土	外面の天井部は回転ヘラケズリ後、ツマミ貼付け。ツマミ中央部はくぼむ。口縁部外面は強いヨコナデによりくぼむ。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B145-11
4	杯 須恵器	⅔	口径(13.4) 器高 3.5 底径 8.1	南辺中央 壁際床直上	外底と体部下半に左回転ヘラケズリを施す。体部は丸味をもって開く。ヘラ切りか。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B145-2、深さ2.8
5	杯 須恵器	⅔	口径 13.4 器高 3.5 底径 8.9	カマド左 壁際	外底と体部下半に左回転ヘラケズリを施す。体部は丸味をもって開く。ヘラ切りか。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B145-1、深さ2.6
6	杯 須恵器	⅔	口径(13.3) 現存高3.6 底径 9.5	南辺中央 壁際床面	体部は直線的に開き、底部は丸底でレンズ状に突出する。外底は丁寧なナデを施している。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰白色④TA¥B145-3
7	高台付杯 須恵器	底部片	…… 現存高1.9 高台(10.4)	フク土	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、回転ヘラケズリを施し、体部との境の両側をケズリ込むことによって高台状に作りだす。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥B145-6
8	杯 土師器	口縁部 小片	口径(12.3) 現存高2.3 ……	カマド内	底部を欠く。口縁部は斜めに丸く外反する。外面は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B145-16
9	台付壺 土師器	⅔	口径 12.7 器高 17.4 脚台 12.1	カマド前 床面	体部⅔を欠く。頸部は1cmほど立ち上がり、口縁部はゆるく外反する。体部上位に最大径がある。脚部は高さ3.3cmで、偏平である。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい橙色 ④TA¥B145-9
10	壺 土師器	口縁部 小片	口径(12.2) 現存高4.4 ……	貯蔵穴内	肩部以下を欠く。口縁部は「く」字状に開く。頸部の内面に稜線をもつ。外面は2次火熱を受け、剝離している。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい赤褐色 ④TA¥B145-19
11	砥石	一部欠		北東隅 フク土	長さ11.6cm、断面の一边3cm前後で、4面を使用している。各面に金属によるとみられるキズが数本ある。石質流紋岩(砥沢?)。④TA¥B145-13	
12	鉄 鏝	茎欠		南辺中央 床直上	茎の大半とカエリの一部を欠く。茎との境に段がある。	

田端地区B区第148号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	完形	口径 9.0 器高 2.2 底径 5.1	北西部床 面	外底は右回転糸切り後、無調整。外面にロクロナデ痕を残す。口縁部が斜めに傾く。	①砂粒を含む②酸化③に ぶい橙色④TA¥B148-1、深 さ1.7

## 遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	杯 土師器	略完	口径 9.8 器高 2.3 底径 5.8	中央西寄 床面	外底は右回転糸切り後、無調整。内面にロクロナデ痕を残し、口縁部は外反する。内底中央は凸である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰白色 ④TAYB148-3、深さ1.7
3	杯 土師器	略完	口径 8.7 器高 2.5 底径 4.9	北カマド 前床面	外底は右回転糸切り後、無調整。体部に丸味をもち、外底も丸く突出する。体部外面にロクロナデ痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB148-2、深さ1.7
4	杯 土師器	㉔	口径 (9.8) 器高 3.1 底径 5.4	北カマド 内	外底は右回転糸切り後、無調整。やや深い体部をもち、口縁部はかるく外反する。	①砂粒・半透明鉱物を含む ②酸化③灰白色 ④TAYB148-4、深さ2.5
5	高台付椀 須恵器	㉔	口径(15.5) 器高 6.7 高台 8.0	南カマド 底面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は高さ1.8cmで、内端は接地しない。内底は広く、体部外面にロクロナデ痕を残す。外面の高台脇は強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②還元③浅黄橙色④TAYB148-5、深さ3.7
6	高台付椀 土師質	底部片	…… 現存高2.7 高台 7.4	北カマド 底面	外底は回転糸切り後、高台貼付け。内底中央は凸で、器表に艶がありミガキを施している。高台は高さ1.2cmで、端部は丸い。黒色土器の酸化されたものの可能性がある。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色 ④TAYB148-11
7	高台付皿 灰釉陶器	㉔	口径 11.8 器高 2.1 高台 7.1	南西隅床 面	高台内側に右回転の糸切り痕を残す。体部は直線的に開き、口縁部は水平近くまで開く。高台内側を除き釉がかかる。内底・口縁部・高台端部の釉は擦れている。	①白色粒を含む②還元、硬質③灰白色、釉は灰オリープ色④TAYB148-7、深さ1.2
8	高台付椀 灰釉陶器	底部片	…… 現存高2.3 高台 (7.4)	北カマド 右袖中	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台外面に鈍い稜をもつ。全体に厚手である。内面は擦れて、平滑である。	①精良②還元、硬質③灰白色④TAYB148-6
9	甕 土師質	口縁部 小片	口径(22.8) 現存高11.9	南カマド 底面	体部は直線的で口縁部は「く」字状に外反する。内面にロクロナデ痕を残し、体部外面は上に向かうヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②還元気味の酸化③灰褐色 ④TAYB148-9
10	甕 土師質	口縁部 小片	口径(28.1) 現存高 9.9 ……	南辺中央 壁際床直 上	肩部がやや張り、口縁部は直立気味である。体部内面に丁寧なロクロナデを施し、外面は下に向かうヘラケズリを施す。	①砂粒・小石を含む②酸化③にぶい橙色 ④TAYB148-8

## 田端地区B区第157号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	㉔	口径(13.5) 器高 3.6 底径 8.5	カマドフ ク土	底部中央部を欠く。体部は直線的に開く。口縁部に厚みがある。外底は右回転糸切り後、無調整。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黄灰色④TAYB157-3
2	杯 須恵器	底部 ㉔	…… 現存高2.1 底径 (5.1)	カマド内	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。内外面は丁寧なナデを施す。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黒色 ④TAYB157-8
3	高台付椀 須恵器	略完	口径 12.5 器高 4.6 高台 6.8	南辺中央 壁際床面	歪みをもつ。体部は直線的に開き。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の一部はつぶれ幅広くなっている。イブシ焼成。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB157-7、深さ3.6

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	高台付椀 土師質	略完	口径 12.5 器高 4.1 高台 6.5	カマド底面	歪みをもつ。体部はわずかに丸味をもち、口縁部は強く外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB157-6深さ3.1
5	高台付椀 須恵器	底部片	…… 現存高2.3 高台 5.6	カマド内	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台接合時に強いヨコナデを施す。器表摩滅が著しい。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB157-13
6	高台付椀 土師質	1/6	口径(13.7) 器高 5.0 高台 (5.2)	カマド内	底部を欠く。体部は直線的に開き、口唇部は丸く肥厚する。外面にロクロナデ痕が目立つ。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TAYB157-12
7	甕 須恵器	頸部片	…… 現存高6.3 ……	カマド内	口縁部・体部を欠き、頸部のみ遺存する。内面に粘土の接合痕を残す。タタキの後、丁寧にナデを施す。	①砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB157-10

報告番号	観察通番	出土地点	瓦の種類	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘	要			
					素地	扶雑物	焼き上り	色調	粘土板剝取		一枚作り	桶寄木痕	粘土板合せ目	布の合せ目	タタキ目	ロクロ目			ヘラケズリ	布の擦消	
									凹面	凸面										凹面	凸面
8	1480	157住	軒平	1.8	密	微	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行擦痕	擦痕	なし	なし	2	1A類被熱割れ ④TAYB157-1	

## 田端地区B区第159号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/6	口径 (9.6) 器高 2.5 底径 4.3	カマド前床面	体部に外稜をもち、口縁部はかるく外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③にぶい黄褐色④TAYB159-6、深さ1.8
2	杯 土師器	1/6	口径(11.0) 器高 2.4 底径 5.1	床下	体部中位にふくらみをもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。2次火熱をうけている。	①白色粒子を含む②酸化③橙色④TAYB159-7、深さ1.8
3	杯 須恵器	底部片	…… 現存高1.4 底径 (6.4)	フク土	外底に2回の回転糸切り痕がある。2回目の切り離しは右回転である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい黄褐色④TAYB159-11
4	高台付皿 土師器	略完	口径 15.5 器高 6.8 高台 9.8	中央発掘区西壁床直上	高台は高さ4.0cmで薄く、「ハ」字状に開く。皿部の一カ所に径0.4cmの孔があり、これと対応する2カ所が割れている。計3カ所に孔があった可能性がある。皿部中央は1cm前後の厚さをもつ。口縁部は強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB159-2、深さ1.9
5	高台付椀 須恵器	略完	口径 14.6 器高 4.8 高台 6.8	フク土	底部中央を欠く。体部はわずかに丸味をもち、口縁部は丸く肥厚する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB159-8、深さ3.9
6	羽釜 土師質	口縁部 ~体部 1/6	口径(25.6) 現存高11.7 ……	カマド内・カマド前床直上	体部中位以下を欠く。鏝の断面は三角形を呈し、口唇部に平坦面をもつ。体部内面はナデ、外面はロクロナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、硬質③橙色④TAYB159-4

## 遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
7	壺または羽釜土師質	底部	…… 現存高2.8 底径 11.5	カマド内	体部以上を欠く。円盤状の底部が、体部から剝離している。体部下端はヨコ方向のヘラケズリ、底部は内外面ともナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB159-18

## 田端地区B区第160号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯須恵器	1/6	口径(13.2) 器高 4.3 底径 (6.8)	フク土	外底は右回転糸切り後、無調整。体部は直線的に開き、口縁部は丸く肥厚する。体部の内外面にロクロナデが目立つ。	①砂粒を含む②還元③灰色④TAYB160-3
2	高台付碗須恵器	1/3	口径(13.1) 器高 4.1 高台 (6.4)	フク土	歪みあり。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元、軟質③灰色④TAYB160-1、深さ3.1

## 田端地区B区第161号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿灰釉陶器	底部 1/3	…… 現存高3.0 高台 7.6	フク土	体部以上を欠く。外底は回転糸切り後、高台貼付け。内面に釉がかかる。内底の器表は平滑で、硯に使用したものか。内底中央近くに、「浄」と読める刻字がある。クギ状の工具で書いたものである。高台は薄く、端部は丸く肥厚する。	①精良・白色粒子を含む②還元、硬質③灰白色④TAYB161-1
2	杯須恵器	1/8	…… 器高 3.6 ……	床下	小片で復元できない。体部は丸味をもち、口縁部はかるく外反する。体部の外面にロクロナデ痕が目立つ。外底にはワラ状の圧痕が残る。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TAYB161-8

## 田端地区B区第162号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗須恵器	1/3	口径(15.0) 器高 4.7 高台 6.4	フク土	外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。体部は直線的に開き、口縁部は薄くなって外反する。器表の摩滅が著しい。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元、軟質③灰色④TAYB162-1、深さ3.6

## 田端地区C区第1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯須恵器	1/2	口径(14.0) 器高 3.9 底径(10.7)	南東部床面遺物集中部	歪みをもつ。外底はナデを施している。体部は直線的に開き、口唇部はわずかに外反する。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYC1-3、深さ3.3



番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	蓋 須恵器	⅔	口径 19.5 器高 3.9 ツマミ 6.1	南東部床 面遺物集 中部	大型の蓋。ツマミは偏平で、口縁部は外へ開く。口縁部内面に段をもつ。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。内外面にロクロナデ痕が目立つ。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYC1-9、深さ2.5
3	蓋 須恵器	⅓	口径(14.3) 器高 3.1 ツマミ 4.8	南東部床 面遺物集 中部	輪状のツマミをもつ。口縁部は短く、ほぼ直に立ち上がる。外面に焼成時の灰をかぶっている。天井部外面にヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③黄灰色④TAYC1-4、深さ2.2
4	蓋 須恵器	⅓	口径(14.0) 器高 3.2 ツマミ 4.5	南東部床 面遺物集 中部	偏平なツマミをもつ。体部と口縁部との境に外稜をもつ。天井部外面にヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYC1-5、 深さ2.1
5	蓋 須恵器	¼	口径(13.8) 器高 2.6 ツマミ 4.1	南東部床 面遺物集 中部	偏平なツマミをもつ。体部と口縁部との境に外稜をもつ。天井部外面は丁寧なヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰 白色④TAYC1-6、深さ1.5
6	蓋 須恵器	⅓	口径(14.4) 器高 2.7 ツマミ 5.1	南東部床 面遺物集 中部	偏平なツマミをもつ。体部から口縁部へ滑らかに移行し、口唇部はわずかに下方へ突き出る。天井部外面にヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元、やや 軟質③灰色④TAYC1-7、 深さ1.7
7	蓋 須恵器	略完	口径 14.6 器高 2.2 ツマミ 4.7	南東部床 面遺物集 中部	天井部がやや傾く。偏平なツマミをもち、体部と境にぶい外稜をもつ。外面に自然釉がかかる。	①白色粒子を含む②還元、 硬質③灰色④TAYC1-8、 深さ1.1
8	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(23.5) 現存高11.7	南東部床 面遺物集 中部	体部下半以下を欠く。頸部は外反気味に立ち上がり、口縁部はゆるく外反する。口唇部の内側は丸く肥厚する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。頸部内面にぶい稜をもつ。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい橙色④TAYC1-15
9	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(13.5) 現存高8.5 ……	南東部床 面遺物集 中部	体部下半以下を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は外反する。頸部に工具痕を残す。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い橙色④TAYC1-1
10	甕 土師器	底部片	…… 現存高6.4 底径(5.4)	南東部床 面遺物集 中部	体部以上を欠く。外面は丁寧なヘラケズリを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶ い橙色④TAYC1-2

田端地区C区第2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	⅔	口径(13.3) 器高 3.5 底径 8.6	貯蔵穴内	平底で腰部が丸く、体部は斜めに開いて口縁部は外側にひきだす。内外面ともロクロナデ調整を施す。底部は回転ヘラ切り後、ヘラケズリを施す。底部スレあり。	①細砂粒を含む②還元③灰 色④TAYC2-11、深さ2.4
2	杯 土師器	⅔	口径 13.8 器高 3.1 ●	貯蔵穴内	体部は浅く開いて口縁部は丸く立ち上がる。体部外面は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。器形に歪みあり。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYC2-12、深さ 2.7
3	杯 土師器	口縁部 ⅔	口径(20.4) 現存高4.9	フク土	体部は丸く内湾して大きく開く。体部外面は非回転のヘラケズリ、内面はナデ調整を施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYC2-2

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	壺? 須恵器	底部片	…… 現存高4.0 高台(11.1)	フク土	体部は直線的に立ち上がる。体部は内外面ともロクロナデを施す。外底は回転ヘラ切り後、高台貼付け。高台の断面は三角形を呈する。	①細砂粒を含む②還元、やや軟質③灰色 ④TAYC2-13
5	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径 22.2 現存高10.2 ……	カマド前 床面	ゆるい「く」字状に外反する口縁で、丸味の少ない体部をもつ。口唇部に丸味あり。体部外面の上位はヨコ方向、中位はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい黄橙色 ④TAYC2-15
6	甕 土師器	口縁部 1/6	口径(22.9) 現存高5.0	カマド前 床面	口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はヘラケズリを施す。器肉厚手。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYC2-3
7	甕 土師器	体部 ～底部 片	…… 現存高21.5 底径(5.3)	カマド前 床面	底部は小さい平底を呈し、体部はふくらみをもたず開く。体部外面はタテヘラケズリを施す。2次加熱痕あり。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYC2-14

田端地区C区第3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/4	口径(12.3) 器高 3.7 ●	東辺壁際 床面	丸い底部から内湾して開き、口縁部は短く立ち上がって内傾する。外底は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。器肉厚手。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYC3-1、深さ3.0
2	杯 土師器	1/2	口径(11.6) 器高 4.1 ●	東辺壁際 床面	丸い底部から内湾して開き、口縁部は短く立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYC3-4、深さ3.4
3	杯 土師器	1/4	口径(12.5) 器高 3.7	東辺壁際 床面	丸い底部から内湾して開き、口縁部は短く立ち上がる。口縁端部つまみあげ。外底は非回転のヘラケズリ、体部内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYC3-3、深さ3.4
4	杯 土師器	略完	口径 17.8 器高 4.2 ●	東辺壁際 床面	丸底で大きく皿状に開き、口縁部は短く立ち上がりさらに外反する。外底は非回転のヘラケズリ、体部内面はナデを施す。	①砂粒・黒色粒子を含む ②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TAYC3-8、深さ3.7
5	蓋 須恵器	1/2	口径(16.7) 器高 3.5 ツマミ5.1	フク土	天井部に平坦面をもち、口縁部内面にカエリをもつ。口縁端部に丸味あり。天井部外面はヘラケズリ後、ボタン状ツマミ貼付け。身受け部に重ね焼き痕あり。	①砂粒・黒色粒子を含む ②還元③灰色④TAYC3-2、深さ1.9
6	杯 須恵器	1/2	口径(13.3) 器高 3.2 底径 9.1	中央部床 面	平底。体部は直線的に斜めに開き、口縁部に至る。体部は内外面ともロクロナデを施す。底部切り離し後、右回転ヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYC3-6、深さ2.5
7	壺 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高9.1 ●	東辺壁際	中央がやや突出する平底。体部中位で内湾して肩部が大きく張り、頸部は締る。体部は内外面ともロクロナデ、底～体部下位は右回転ヘラケズリを施す。短頸壺か。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYC3-7
8	甕 土師器	口縁部 1/6	口径(23.2) 現存高6.2	フク土	「く」字状に外反する口縁をもつ。体部外面はヘラケズリを施す。口縁部は内外面ともヨコナデを施す。器肉やや厚手の仕上がり。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③にぶい橙色 ④TAYC3-14

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
9	石	完		中央部床面	長さ12.3cm、断面三角形を呈する。重さ361g。石質変質安山岩。④TAYC3-9	
10	石	完		中央部床面	長さ15.2cm、幅5.8cm、断面は偏平な楕円形を呈する。重さ518g。石質雲母石英片岩。④TAYC3-10	
11	石	完		中央部床面	長さ11.2cm、幅4.6cm、厚さ2.0cm、重さ167g。石質雲母石英片岩。④TAYC3-12	
12	石	完		中央部床面	長さ9.8cm、幅4.5cm、厚さ最大2.3cm、重さ129g。石質雲母石英片岩。④TAYC3-11	

田端地区E区第3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 1/2	口径(24.0) 現存高6.5	フク土	体部以下を欠く。口縁部は内傾し、口唇部に平坦面をもつ。この平坦面は内傾する。鏝の断面は三角形を呈する。内外面にロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYE3-2

田端地区E区第31号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/4	口径(11.0) 現存高2.5 ……	カマド右 前床直上	底部を欠く。体部は内湾気味に立ち上がり、口唇部は丸く肥厚する。外面は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明褐色④TAEY30-1

寺東地区第3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/4	口径(11.8) 器高 3.9 ●	フク土	底部中央を欠く。体部は丸味をもち、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部との境にぶい外稜をもつ。内外面の器表は摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY3-1
2	甕 須恵器	体部片		フク土	大型の甕の体部片。タタキ成型で、外面のタタキ目はナデのために不明。内面は同心円の当て具痕を残す。厚さ2.3cm。	①細砂粒を含む②還元硬質 ③灰色④TEY2-2

寺東地区第5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	1/4	口径(10.6) 器高 2.2 底径(6.1)	カマド内	底部中央を欠く。外底は左回転糸切り後、無調整。口縁部のヨコナデを強く施す。	①砂粒を含む②酸化、硬質 ③浅黄橙色④TEY5-3
2	杯 土師質	体部 ～底部	…… 現存高2.1 底径 6.1	カマド内	口縁部を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。切り離し時に糸が粘土にかかって通常の渦状を呈さない。内外面器表の摩滅が著しい。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③ぶい黄褐色 ④TEY5-2

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	椀 土師質	口縁部 ～体部 1/2	口径(16.1) 現存高4.3 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。体部は丸味をもって立ち上がり、口縁部に至る。内外面は丁寧なヨコナデを施す。2次火熱を受けている。	①細砂粒を含む②酸化気味の還元③明灰褐色 ④TEY5-4
4	甕 土師器	口縁部 体部 1/2	口径(24.2) 現存高9.9 ……	南西隅床面	体部下半以下を欠く。体部にふくらみがなく、口縁部は短く外反する。頸部に指頭オサエの痕跡を残す。体部の内外面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TEY5-6
5	羽釜 土師質	口縁部 小片	…… 現存高10.3 ……	カマド内	体部～口縁部は直線的にのびる。口唇部内側に平坦面をもつ。鐔の断面は三角形を呈する。体部下半以下を欠く。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY5-7
6	甕 土師質	口縁部 小片	…… 現存高8.0 ……	カマド内・南西隅床面	体部下半以下を欠く。体部に丸味があり、口縁部は短く、外反する。口唇部は丸く肥厚する。イブシ焼成。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TEY5-5
7	不明 石			フク土	長軸19.6cm、短軸14.7cm、厚さ3.0cmほどの扁平な楕円形を呈する。片面は割れたままの状態である。図の上面の一部にスス付着。石質変質安山岩。 ④TEY5-1	

寺東地区第6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	略完	口径 11.7 器高 4.5 底径 5.4	南西隅床直上	外底の一部に糸切り痕がみられる。切り離しの後に粘土を補充している。体部は直線的に開き、口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面に凹凸があり、仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY6-2、深さ3.7
2	高台付椀 須恵器	1/2	口径(12.0) 器高 4.6 高台 6.2	カマド内	歪みあり。体部に丸味があり、口縁部は外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY6-4、深さ3.4
3	高台付椀 土師質	1/2	口径(13.1) 器高 5.2 高台 5.4	カマド内	底部中央を欠く。体部は直線的に開く。口唇部は丸く肥厚する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②酸化③灰褐色④TEY6-10
4	高台付椀 土師質	1/2	口径 12.4 現存高3.9 底径 5.8	カマド内	高台は剝離している。体部は直線的に開き、口縁部は肥厚して外反する。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄色④TEY6-1、深さ3.2
5	高台付椀 土師質	1/2	口径(11.1) 器高 4.0 高台 5.4	カマド内	底部中央を欠く。体部にやや丸味があり、口縁部は外反する。高台は小さく、仕上げは雑である。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③灰黄色④TEY6-9
6	高台付椀 土師質	1/2	口径 13.7 器高 5.0 高台 6.1	カマド左脇フク土	体部は直線的に開く。口唇部は丸く外側に肥厚する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内面のナデは丁寧である。	①砂粒を含む②酸化、硬質③にぶい橙色④TEY6-3、深さ4.1

寺東地区第7号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	¼	口径(12.6) 器高 3.8 底径 7.0	北辺中央 床面	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口縁部は肥厚してかるく外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TE¥7-1
2	高台付椀 須恵器	⅓	口径(14.6) 現存高5.3 ……	南辺東寄 床面	底部・高台を欠く。体部にやや丸味をもち、口唇部は肥厚して強く外反する。外面にクロコナデ痕を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TE¥7-2
3	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 ¼	口径(20.3) 現存高10.3	カマド 前・南辺 東寄床直 上	体部下半以下を欠く。体部上位に丸味があり、口縁部は内湾する。鏝は上向きに付けられる。体部外面の下部はタテ方向のヘラケズリを施す。口唇部外側は丸く肥厚する。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TE¥7-8
4	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 ⅙	口径(21.2) 現存高7.1 ……	カマド 内・南西 隅ピット	体部下半以下を欠く。口縁部は内傾し、口唇部外側は断面三角形を呈する。口唇部に平坦面をもつ。内外面はクロコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TE¥7-9

寺東地区第8a号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 小片	…… 現存高17.8 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。体部にやや丸味があり、口縁部は内傾気味に立ち上がる。鏝の仕上げは雑である。イブシ焼成。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色④TE¥8a-1
2	羽釜 土師質	口縁部 ～体部 ⅙	口径(18.2) 現存高10.0 ……	カマド右 袖	底部を欠く。体部にやや丸味があり、下半は急速にすばまる。鏝の断面は三角形で、水平方向にのびる。口唇部に凹線をもつ。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TE¥8a-4

寺東地区第8b号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	¼	口径(15.4) 器高 4.2 底径 (9.0)	南辺付近 床面	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口唇部は尖り気味である。外底は左回転のヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TE¥8b-1
2	高杯 須恵器	杯部 ⅙	…… 現存高5.5 ……	南東部床 面	口縁部・脚部を欠く。杯部の中位外面に外縁を二段にもつ。杯部外底にヘラ記号がある。脚部は3ヶ所から切り込みを入れて、透かしを作る。杯部外底はカキ目を施す。	①砂粒を含む②還元③灰色④TE¥8b-2

寺東地区第9号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 須恵器	略完	口径 12.7 器高 4.5 高台 (5.5)	中央南寄 床面	体部下位にややふくらみをもつ。口縁部は軽く外反し、口唇部は丸く肥厚する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰黄褐色④TE¥9-2、深さ3.8

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	高台付椀 須恵器	略完	口径 13.4 器高 5.0 高台 6.6	貯蔵穴	歪みあり。体部は直線的に開き、口唇部は肥厚する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。体部外面はロクロナデ痕が目立つ。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TEY9-3、深さ3.8
3	高台付椀 須恵器	略完	口径 13.0 器高 4.6 高台 5.9	貯蔵穴	体部は直線的に開く。口唇部は強く外反して肥厚する。歪みあり。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY9-1、深さ3.6
4	高台付椀 須恵器	3/4	口径 13.5 器高 4.7 高台 7.4	貯蔵穴	体部は直線的に開く。口唇部はかるく外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰褐色④TEY9-4、深さ3.7
5	高台付椀 須恵器	1/2	口径(13.8) 器高 5.3 高台 7.2	カマド前 床面	体部は直線的に開く。口縁部は外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台端部にワラ状の圧痕が残る。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY9-5、深さ4.3
6	高台付椀 土師質	3/4	口径 14.2 器高 5.0 高台 6.6	貯蔵穴	体部は直線的に開く。口縁部は肥厚して外側が外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台端部にワラ状の圧痕がある。体部～口縁部の内外面に墨書が認められるが判読できない。	①砂粒を含む②酸化③淡黄色④TEY9-6、深さ4.0
7	高台付皿 灰釉陶器	略完	口径 13.1 器高 2.9 高台 6.8	南辺中央 床直上	口唇部はまくれて外反する。高台外側は丸味をもち、内側は面取りを施す。内底中央と外底の高台内側のみ釉がかからない。内底に重ね焼き痕が残る。	①精良②還元③浅黄色④TEY9-7、深さ2.0
8	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(18.6) 現存高15.9 ……	カマド前 床面	体部下半以下を欠く。口縁部は「コ」字状を呈する。体部上位にふくらみをもつ。頸部外面に指頭痕を残す。口唇部外面には細い凹線をもつ。頸部以下の外面は斜め方向のヘラケズリ、内面はハケ目状の調整を施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY9-8
9	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(20.0) 現存高8.2 ……	中央南寄 床面	体部に丸味をもち、口縁部は内傾する。口唇部外側は丸く肥厚し、口唇部上端に平坦面をもつ。鏝は小さく、断面三角形を呈する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY9-11

寺東地区第23号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	底部	現存高18.0 底径 5.5	南辺中央 掘形	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。内外面に炭化物が付着している。	①白色小粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY23-3
2	杯 土師質	口縁部 小片	現存高4.8 ……	フク土	底部を欠く。体部は直線的に開き、口縁部はやや内湾気味である。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY23-2
3	不明 須恵器	体部片		カマド内	小形品の破片とみられる。内面は滑らかであるが、外面は2～3mmほどの小さな穴が多数ある。壺か。	①黒色小粒を含む②還元③灰色④TEY23-1

寺東地区第24号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 灰釉陶器	底部小片	…… 現存高3.0 ……	北東寄床 直上	体部以上を欠く。高台は厚く、しっかりしている。外底は右回転糸切り痕を残す。内底近くには釉が遺存している。内底は平滑である。	①精良②還元③灰白色 ④TEY24-1
2	杯 土師質	底部片	現存高1.2 底径 4.6	南東隅フ ク土	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、ナデの痕跡がある。外底は突出感がある。	①細砂粒を含む②酸化③灰黄色④TEY24-6
3	羽釜 土師質	1/2	…… 現存高25.5 底径 11.5	北西部フ ク土	口縁部を欠く。内外面にロクロナデ痕を残す。鐔の断面は三角形を呈する。底部は円盤状に剥離する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY24-2
4	羽釜 須恵器	口縁部 小片	口径(21.8) 現存高8.3 ……	南東隅床 直上	体部下半以下を欠く。口縁部はヨコナデによりやや肥厚する。鐔は断面三角形を呈する。内外面とも丁寧なロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TEY24-3

寺東地区第25号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付碗 須恵器	略完	口径 12.1 器高 4.5 高台 6.2	貯蔵穴内	体部中位に丸味があり、口縁部はかるく外反する。高台は高さ0.5cmで、「ハ」字状に開く。	①白色粒子を含む②還元 ③黄灰色④TEY25-1、深さ3.4
2	高台付碗 須恵器	1/2	口径(13.1) 器高 4.2 高台 6.3	カマド前 フク土	底部中央を欠く。体部は丸味をもち、口縁部は肥厚して外反する。体部下半に厚みがある。高台は雑な仕上げである。	①砂粒・白色粒子を含む ②還元③灰黄褐色 ④TEY25-2
3	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 1/2	口径(21.6) 現存高13.0 ……	貯蔵穴内	体部下半を欠く。鐔の断面は三角形を呈し、口縁部は内傾する。内外面にロクロナデ痕が目立つ。外面にスス附着。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TEY25-3
4	羽釜 須恵器	口縁部 ～体部 1/2	口径(19.0) 現存高8.1 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。口縁部はやや内傾し、口唇部の内側は丸く肥厚する。内外面はロクロナデを施す。内面に炭化物附着。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黄灰色④TEY25-4

寺東地区第27号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/2	口径(13.5) 器高 5.0 底径 (6.9)	南辺中央 壁際	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。高台は付かない。右回転糸切り後、無調整。	①白色小粒を含む②酸化ぎみの還元③黒オリーブ ④TEY27-4、深さ(4.5)
2	壺? 須恵器	体部 ～底部	…… 現存高11.5 高台 13.2	南辺壁際	体部中位以上を欠く。厚手の底部に高台を付す。高台は低く、「ハ」字状に開く。体部外面はヘラケズリの後、ヨコナデを施す。	①白色小粒を含む②還元 ③灰色④TEY27-2
3	壺? 須恵器	体部 小片	…… 現存高7.6 ……	フク土	肩部破片。全体の形状が不明である。細い頸部になるか。肩部外面に把手の剥離した痕跡がある。	①白色小粒を含む②還元 ③灰色④TEY27-1

遺物観察表

寺東地区第28号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(27.2) 現存高17.7 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。頸部に締まりがなく、口縁部は短く外反する。体部外面は雑なタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TEY28-5
2	羽釜 土師質	口縁部 1/4	口径(26.6) 現存高11.5 ……	カマド内	体部以下を欠く。口縁部は内傾する。鏝の仕上げは雑である。体部外面はナデ、内面もナデを施す。体部下半はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TEY28-7
3	甗? 土師質	口縁部 ～体部 1/4	口径(25.7) 現存高11.3 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。鏝の断面は三角形を呈し、口縁部は直に立ち上がる。口唇部にシャープな平坦面をもつ。鏝以下の体部外面はタテ方向のナデ、内面は斜めのナデを施す。羽釜または甗か。外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化、硬質③にぶい赤褐色④TEY28-3
4	砥石			フク土	16.5×16cm、厚さ最大9.0cm。側面を含めて2面を使用している。石質角閃石安山岩。④TEY28-1	

寺東地区第29号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付椀 土師質	1/2	口径(15.7) 器高 5.6 高台 8.6	北辺壁際 床直上	口縁部1/4を欠く。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。高台は高さ1.7cmで薄く、「ハ」字状に開く。内底はくぼみ、内面は褐色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY29-1、深さ3.5
2	皿 土師質	略完	口径 9.0 器高 2.3 底径 4.4	北辺壁際 床面	外底は回転糸切り後、無調整。外底は突出感がある。口唇部は薄く仕上げる。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY29-2、深さ1.8
3	皿 土師質	略完	口径 8.1 器高 2.5 底径 3.7	北辺壁際 床面	外底は突出感がある。体部・口縁部とも薄く仕上げる。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY29-3、深さ1.8

寺東地区第34号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	1/2	口径 10.4 器高 3.0 底径 7.8	南東部床 面	底部1/2を欠く。外底はヘラ切り後、ナデを施す。体部は直線的に開き、口唇部は丸味をもつ。歪みがある。	①砂粒を含む②還元③灰色④TEY34-15、深さ2.4
2	杯 須恵器	1/2	口径 10.6 器高 3.8 底径 4.8	南東部フ ク土	体部の一部を欠く。外底はナデを施し、切り離しは不明。体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。口唇部は尖る。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TEY34-14、深さ3.1
3	杯 土師器	1/2	口径(11.1) 器高 3.3 ●	貯蔵穴内	口縁部は内傾する。体部外面はナデ、外底は非回転のヘラケズリを施す。体部と口縁部との境ににぶい外稜をもつ。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-5、深さ3.0
4	杯 土師器	1/2	口径 9.7 器高 3.2 ●	カマド煙 道部先端	口縁部は内傾する。体部との境ににぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。口唇部は尖り気味である。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-4、深さ2.6



番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	杯 土師器	1/2	口径 10.6 器高 4.0 ●	貯蔵穴底 面	口縁部は内傾する。体部との境にふい外稜をもつ。底部はやや凸である。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③明赤褐色④TEY34-9、深さ3.5
6	杯 土師器	完形	口径 10.1 器高 4.0 ●	南東隅床 直上	口縁部は内傾する。外底は非回転のヘラケズリを施す外底は丸味をもつ。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-1、深さ3.5
7	杯 土師器	略完	口径 10.4 器高 3.5 ●	北辺東寄 壁際床面	口縁部1/6を欠く。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。口縁部の器厚は底部に比べて薄い。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-6、深さ3.0
8	杯 土師器	略完	口径 10.6 器高 3.7 ●	カマド煙 道部	底部の一部を欠く。口縁部はやや内傾する。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-8、深さ3.2
9	杯 土師器	1/2	口径(10.6) 器高 3.5 ●	北辺東寄 壁際床面	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部はやや内傾する。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-11、深さ3.1
10	杯 土師器	3/4	口径 13.5 器高 4.3 ●	東辺南寄 壁際床面	口縁部は内傾する。口唇部の内側は玉縁状に丸くなる。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にふい橙色④TEY34-10、深さ3.8
11	杯 土師器	3/4	口径 11.8 器高 3.8 ●	南東隅床 面	口縁部は内傾する。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。体部の外面はナデ、外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色④TEY34-3、深さ3.2
12	杯 土師器	3/4	口径 12.8 器高 4.7 ●	南東部床 面	口縁部は内傾する。口縁部と体部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY34-7、深さ4.2
13	杯 土師器	略完	口径 12.7 器高 4.4 ●	貯蔵穴内 面	口縁部は内傾する。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③褐色④TEY34-2、深さ3.9
14	杯 土師器	口縁部 小片	口径(18.7) 現存高4.0	南東部床 面	底部を欠く。口縁部は内傾する。体部外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TEY34-25
15	皿 土師器	1/2	口径(22.0) 器高 3.5 ●	北辺東寄 壁際床面	口縁部は外反し、外側は玉縁状に丸味をもつ。体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底は丁寧な非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TEY34-12、深さ3.0
16	甕 須恵器	底部片		カマド内	体部上半以上を欠く。円盤状の底部が剥離している。外面は平行叩き目の後カキ目・ナデ、内面は同心円当て具痕にナデを施す。壺か。	①白色粒を含む②還元③灰色④TEY34-18
17	砥 石	略完		南東部床 面	長さ13.1cm、断面4.2×5.1cmが遺存する。断面は直方体を呈し、4面を使用している。石質流紋岩(砥沢?)。重さ502g。④TEY34-22	
18	甕 土師器	底部欠	口径 22.7 現存高27.0	貯蔵穴フ ク土	底部を欠く。体部上位にややふくらみをもつ。頸部が締まり、口縁部は強く外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色④TEY34-21

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
19	甕 土師器	口縁部 ～体部 上半	口径 20.7 現存高10.9 ……	カマド右 脇壁際床 面	体部下半以下を欠く。体部にふくらみがなく、 頸部でわずかに縮まり、口縁部は外反する。 体部外面はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを 施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TEY34-19
20	甕 土師器	口縁部 ～体部 上半	口径 22.0 現存高9.0 ……	カマド煙 道部先端	体部下半以下を欠く。頸部がわずかに縮まり、 口縁部は外反する。体部よりも口縁部の厚さ が増す。外面にススが付着する。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TEY34-20
21	刀 鉄	子 製		北辺壁際 フク土	切先を欠く。全長12.7cm、幅1.6cmが遺存する。莖長5.0cm完存し、棟間がある。刃部は半欠で、刃関の遺存が推定できる。刃ブロック長さ7.5cm前後が遺存する。TEY34-43	
22	不 鉄	明 製		北辺壁際 床面	一端に丸味があり、全体の形は不明。厚さ1.3cm、長さ6.6cm、重さ46gが遺存する。TEY34-44	
23	土 土師質	錘 質	両端欠	カマド内 底面	両端を欠く。孔は一方に偏って貫通している。長さ4.5cm、径1.4cmが遺存する。TEY34-42	
24	土 土師質	錘 質	略完	カマド右 袖前床面	長さ5.9cm、径1.4cm、重さ10g。断面は整円形を呈さない。TEY34-41	

寺東地区第50号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 椀 須恵器	1/6	口径(13.3) 器高 4.5 高台 (6.9)	カマド前 床面	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口縁部は肥厚してわずかに外反する。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③黒色 ④TEY50-1
2	甕 土師器	1/2	口径(18.7) 器高 22.8 底径 (6.6)	南東隅床 面	体部中位に丸味がある。口縁部は強く外反する。口唇部はやや肥厚する。体部外面の上半はロクロナデ、下半はタテ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③ぶい 橙色④TEY50-2、深さ 22.1
3	羽 土師質	釜 質	口縁部 小片 …… 現存高10.2 ……	カマドフ ク土	体部下半以下を欠く。口縁部は内傾する。鐔の断面は三角形を呈する。口唇部外側は丸く肥厚する。内面のナデは丁寧である。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③褐色④TEY50-3

寺東地区第52号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 土師質	椀 質	口径(12.9) 器高 4.1 高台 6.9	カマド内	体部は直線的に開く。口縁部は尖り気味で、わずかに外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台の外端は接地しない。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③ぶい 橙色④TEY52-5、深さ3. 5
2	椀 須恵器	口縁部 ～体部 1/6	口径(13.1) 現存高2.8 ……	カマド内	体部中位以下を欠く。口縁部は肥厚して外反する。体部外面にロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰黄 色④TEY52-6

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	皿 灰釉陶器	口縁部 1/2	口径(13.2) 現存高2.1	貯蔵穴内	体部以下を欠く。口縁部はやや薄くなる。内外面とも釉がかかる。	①精良②還元③灰色 ④TEY52-8
4	甕 土師器	口縁部 ～体部 1/2	口径(21.0) 現存高8.2 ……	カマド内	体部下半以下を欠く。口縁部は「コ」字状を呈する。体部の外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヨコ方向のハケ目調整を施す。口唇部に細い凹線をもつ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TEY52-1
5	甕 土師器	底部片	…… 現存高2.4 底径 5.8	カマド内	体部以上を欠く。外底はわずかに凸である。内面はロクロナデ、外底は丁寧な回転ヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③褐色④TEY52-9
6	甕 須恵器	底部片		カマド燃 焼部奥壁	底部近くの体部片。内面は無文の当て具痕の後、ナデ、外面はタタキ目の残らない丁寧なナデを施す。体部と底部との接合痕を残す。	①砂粒・白色粒子を含む ②還元③灰色④TEY52-2

寺東地区第56・57・62・64号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	甕 土師器	口縁部 小片	口径(27.6) 現存高8.2 ……	カマド内	体部以下を欠く。肩部外面はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、硬質③にぶい橙色 ④TEY56-1
2	高 須恵器 杯	杯部	口径 17.0 現存高7.4 ……	中央北寄 床面直上	脚部を欠く。口唇部内側に浅い凹線をもつ。体部外面に一段がある。杯部底面にはカキ目の後、クシ描きの波状文を施す。	①白色小粒を含む②還元 ③灰色④TEY57-1、 深さ5.5
3	杯 土師器	1/2	口径(12.5) 現存高4.8	カマド内	体部外面に稜をもつ。口縁部は外反する。内外面に黒色の付着物がある。研磨なし。	①細砂粒を含む②酸化③灰褐色④TEY62-1
4	土 土師質 錘	一端欠		カマド内	長さ6.5cm、最大径1.5cm、重さ11.4gである。孔は斜めに通る。	①精良②酸化③にぶい黄橙色④TEY62-2
5	不 明 石	完		カマド左 脇床面	長さ12.2cm、径4.8、重さ363g。石質粗粒安山岩。灰黄色を呈する。	④TEY62-3
6	杯 土師器	1/2	口径(12.7) 器高 4.0 ●	中央西寄 床面	口縁部の歪みが著しい。体部に外稜をもち、口縁部は外反気味である。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③橙色④TEY64-4、深さ3.5
7	杯 土師器	口縁部 小片	口径(11.5) 器高 4.0 ●	掘形	口縁部と体部との境に外稜をもち、口唇部直下にも外稜がある。口唇部は尖り気味である。	①細砂粒を含む②還元気味の酸化③にぶい橙色 ④TEY64-5
8	不 明 石	完		カマド左 脇床面	長さ14.6cm、断面4cm前後の直方体を呈する。重さ538g。石質砂岩。	④TEY64-1
9	不 明 石	完		カマド前 床面	長さ13.7cm、断面6.0×3.7cmの直方体を呈する。重さ550g。石質雲母石英片岩。	④TEY64-2
10	不 明 石	完		中央西寄 床面	長さ12.2cm、径3.2cm、重さ333g。石質緑色片岩。	④TEY64-3

遺物観察表

田端地区A区第1号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付皿 須恵器	1/2	口径(13.2) 器高 2.9 高台径6.6	フク土	口唇部は肥厚して丸みをもつ。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台端部に凹線を施す。内底に重ね焼き痕がある。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYA1溝-2
2	高台付椀 須恵器	体部 ~底部	現存高2.4 高台径7.4	フク土	体部中位以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰色④TAYA1溝-3
3	高杯 須恵器	脚部	現存高5.6	フク土	杯部・脚部裾を欠く。杯部と脚部との接合部が遺存する。内外面とも丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TAYA1溝-4
4	高杯 須恵器	脚部 1/2	現存高4.3 底径(12.8)	フク土	杯部を欠く。裾部は断面三角形を呈する。内外面丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYA1溝-6
5	甕 須恵器	頸部	現存高9.0	フク土	大型甕の頸部破片。外面にクシ描きの波状文を施す。器表の摩滅著しい。	①白色粒子・黒色粒子を含む②還元③灰色④TAYA1溝-1

田端地区B区第163号遺構出土遺物観察表(1)

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/2	口径(9.8) 器高 2.8 底径 5.8	フク土	口縁部の大半を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出する。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAY163遺構-12
2	高台付椀 灰釉陶器	口縁部 ~体部 1/4	口径(14.1) 現存高5.4 .....	フク土	底部を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は薄くなって外反する。内外面に薄く釉がかかる。漬け掛けか。	①精良②還元③灰白色 ④TAY163遺構-13

番号	現存長	羽口直径	孔径	備考
3	6.3	(5.8)	(2.7)	先端部破片。窯体の一部付着。 ①砂粒・白色粒子を多く含む。④TAYB163-18
4	8.7	6.6	2.6	先端部に滓付着。磁石に僅かな反応あり。 ①砂粒・小石・白色粒子を含む。④TAYB163-3
5	7.5	6.0	2.5	両端割れ。先端部外周は還元されている。 ①小石・白色粒子・植物繊維を含む。④TAYB163-1
6	8.0	6.0	2.4	先端部に窯体?付着。滓の一部は磁石に反応する。 ①砂粒・小石・白色粒子を含む。④TAYB163-2
7	7.0	6.1	2.5	先端部遺存。気孔の多い滓付着。 ①砂粒・白色粒子を多く含む。④TAYB163-6
8	8.1	6.4	(2.9)	フイゴ側破片。端部は僅かに開く。 ①砂粒・植物繊維を含む。④TAYB163-7
9	8.1	6.3	2.1	先端部近くの外周は還元されている。 ①砂粒・白色粒子・植物繊維を含む。④TAYB163-4

番号	現存長	羽口直径	孔径	備考
10	7.1	(5.8)	(2.5)	先端部破片。鉄錆あり。気孔の多い滓は磁石に反応する。 ①砂粒・白色粒子を含む。④TAYB163-9
11	6.0	6.2	2.5	先端部遺存。気孔の多い滓付着。 ①砂粒・白色粒子を含む。④TAYB163-5
12	7.8	(6.9)	(2.1)	先端部破片。ガラス質の滓付着。 ①植物繊維を含む。④TAYB163-8
13	6.5	(6.1)	(2.5)	先端部破片。気孔の多い滓付着。炉体の一部付着。 ①砂粒・白色粒子を含む。④TAYB163-19
14	9.9	6.4	2.6	先端部。炉体の一部付着。 ①白色粒子を含む。④TAYB163-20
15	10.2	6.6	2.4	先端部に滓付着。 ①砂粒・小石・植物繊維を含む。④TAYB163-22
16	8.9	6.2	2.5	先端部に滓付着。外周の還元部は斜めに巡る。 ①砂粒・白色粒子・植物繊維を多く含む。④TAYB163-24
17	12.2	6.0	2.1	先端部の滓は通風孔を塞いでいる。滓の一部は磁石に反応する。 ①砂粒・植物繊維を含む。④TAYB163-23
18	9.2	5.8	2.3~3.5	略完形。フィコ側端部はやや厚みを増して開く。先端部の滓は磁石に反応する。 ①白色粒子・植物繊維を含む。④TAYB163-21

田端地区B区第2・3号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 土師器	高台 1/2	…… 現存高3.9 高台(11.2)	フク土	本体を欠く。本体との接合部で剝離している。 高台の高さは3.3cm。内外面ともロクロナデを 施す。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③灰白色④TAYB2溝 -4
2	高台付 灰釉陶器	底部 1/2	…… 現存高1.4 高台(6.4)	フク土	体部以上を欠く。高台の外面に稜をもつ。内 底は使用のためか、平滑である。	①白色粒子を含む②還元 ③灰オリーブ色④TAYB2 溝-1
3	高台付 須恵器	底部	現存高1.5 ……	フク土	高台・体部とも欠く。外底は右回転糸切り後、 高台貼付け。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB3溝-1
4	皿 灰釉陶器	口縁部 ～体部 1/2	…… 現存高2.3 ……	フク土	体部中位以上を欠く。口唇部は薄くなって外 側にまくれる。内外面とも釉がかかる。	①精良②還元③灰色 ④TAYB3溝-4

田端地区B区第14号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	高台付 土師質	口縁部 ～体部 1/2	口径(14.6) 現存高4.7 ……	フク土	高台を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は外 反する。体部やや厚手。	①砂粒を含む②酸化気味 ③褐色④TAYB14溝-3

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	高台付椀 土師質	口縁部 ～体部	口径(15.1) 現存高3.0 ……	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は直線的に開く。 2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の 還元③にぶい橙色 ④TA¥B14溝-1
3	甌 土師質	底部 小片	現存高3.4 底径(21.2)	フク土	体部以上を欠く。脚部外面に平坦面をもつ。 厚手。	①砂粒を含む②酸化気味 ③灰色④TA¥B14溝-2

田端地区B区第20号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	体部 ⅓	…… 現存高2.5 ツマミ5.1	フク土	口縁部を欠く。カエリをもち、口縁部よりも 内側にある。ツマミはリング状。天井部外面 は右回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②還元③灰白 色④TA¥B20溝-4
2	蓋 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(15.0) 現存高2.2 ……	フク土	ツマミを欠く。口縁部内側にカエリをもち、 口縁部よりもわずかに突出する。内外面ヨコ ナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B20溝-18
3	蓋 須恵器	口縁部 ⅓	口径(19.0) 現存高1.4 ……	フク土	天井部を欠く。口縁部内側にカエリをもつが、 凸線状の痕跡程度である。天井部外面はヘラ ケズリを施す。	①砂粒を含む②還元③灰白 色④TA¥B20溝-19
4	杯 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(13.3) 現存高3.8 底径(8.5)	フク土	底部中央部を欠く。体部は直線的に開き、口 縁部に至る。外底はヘラケズリの後、ナデを 施す。底部は凸状に張り出す。	①細砂粒を含む②還元③灰 色④TA¥B20溝-8
5	杯 須恵器	⅓	口径(10.8) 器高 4.3 底径(6.0)	フク土	体部は直線的に開き、口縁部に至る。外底は ヘラ切りの後、ナデを加える。外底は凸状に 張り出す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TA¥B20溝-17
6	杯 須恵器	口縁部 ～体部 ⅓	口径(9.3) 現存高4.1 ……	フク土	体部下位に丸みをもつ。口唇部に丸みがある。 器表の摩滅が著しい。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰白色④TA¥B20溝-20
7	杯 土師器	⅓	口径 15.2 器高 6.5	フク土	半球形の体部をもち、口縁部は内湾する。口 唇部は尖り気味。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B20溝-1
8	杯 土師器	⅓	口径(16.7) 現存高4.4	フク土	底部中央を欠く。口縁部は直立する。体部外 面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TA¥B20溝-6
9	杯 土師器	⅓	口径(14.8) 器高 4.0 ●	フク土	口縁部の大半を欠く。体部と口縁部との境に ぶい外稜をもつ。口縁部はやや内傾する。 器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TA¥B20溝-5
10	杯 土師器	⅓	口径(13.8) 器高 4.0 底径(9.2)	フク土	底部～体部の境にぶい外稜をもつ。口縁部 は反転して外反する。体部以下の外面は非回 転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B20溝-3
11	杯 土師器	⅓	口径(11.5) 器高 3.3 ●	フク土	底部から滑らかに開いて口縁部に至る。口縁 部はやや厚くなる。内外面とも器表の摩滅が 著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B20溝-2
12	甌 土師器	口縁部 小片	口径(13.2) 現存高7.1	フク土	頸部が直立し、口縁部は強く外反する。体部 外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③褐色④TA¥B20溝-14

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
13	甕 須恵器	底部 小片	…… 現存高7.0 底径(22.8)	フク土	大型甕の底部片。外面に平行タタキの文様、内面に同心円当て具痕を残す。底部と体部との境にヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②還元 ③灰色④TA¥B20溝-21

田端地区B区第21号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	不明 銅製品			フク土	長さ5.5cm、幅2.6cm、厚さ1mm以下の銅製遺物。中央部が凸状に盛り上がり、両端は巻いて跳ね上がる。遺存状態不良で、脆い。用途不明。ウラオモチ逆か。④TA¥B21溝-17。	
2	壺 須恵器	底部 1/2	…… 現存高4.7 ……	フク土	長頸壺の底部片。高台端部を欠く。厚手の底部で、しっかりした作り。内面は丁寧なヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元 ④TA¥B21溝-15
3	甕 須恵器	口縁部 小片	現存高5.1 ……	フク土	外面にクシ描き波状文を施す。口唇部は上方に丸く突出する。	①白色粒子を含む②還元 ③灰白色④TA¥B21溝-13
4	羽釜 土師質	口縁部 小片	現存高8.5 ……	フク土	体部は丸みをもち、口縁部は内傾する。断面三角形の鐙を付ける。口唇部に平坦面をもつ。	①細砂粒を多く含む②酸化 ④TA¥B21溝-14

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側面 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
5	1458	21溝	軒丸	細片	密	含	軟	淡灰													21溝-1 1類か
6	1459	21溝	丸	1.8	密	含	並	淡褐	なし	○			なし	○	平行	なし	なし				21溝-2 1A類
7	1460	21溝	丸	1.3	密	含	硬	灰	なし	○			なし	なし	平行	なし	なし				21溝-3 1A類
8	1461	21溝	平	2.2	密	含	締	暗灰	○	なし			○	なし	平行	なし	なし				21溝-4 1A類
9	1466	21溝	平	1.7	密	含	硬	灰	なし	なし			○	なし	平行太	擦痕	なし			1	21溝-9 1B類
10	1463	21溝	平	2.2	密	含	締	暗褐	なし	なし			○	なし	平行	なし	なし			1	21溝-6 1A類
11	1464	21溝	平	2.5	密	含	軟	灰	○	なし			○	なし	平行	なし	なし				21溝-7 1A類
12	1462	21溝	平	2.2	密	含	締	暗褐	○	○			○	なし	平行	なし	なし				21溝-5 1A類
13	1465	21溝	平	1.9	密	含	軟	明褐	○	なし			○	なし	平行	擦痕	なし			1	21溝-8 1A類

田端地区B区第22号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	1/2	口径(10.4) 器高 3.3 底径 6.1	フク土	体部は直線的に開き、口縁部に至る。外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出する。	①砂粒を含む②酸化③灰白色④TA¥B22溝-15
2	杯 土師質	1/2	口径(10.5) 器高 2.6 底径 5.1	フク土	体部は丸みをもち、口縁部は外反する。底部は薄い。内外面ロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②酸化③灰白色④TA¥B22溝-14

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	杯 土師質	1/4	口径(10.2) 器高 2.8 底径 5.2	フク土	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。内外面ロクロナデを施す。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②還元気味の酸化③灰白色④TAYB22溝-18
4	高台付碗 土師質	1/4	口径(13.8) 器高 4.5 高台 6.7	フク土	体部は直線的に開き、口縁部は強く外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。底部中央を欠く。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰白色④TAYB22溝-17
5	高台付碗 土師質	略完	口径 11.8 器高 4.3 高台 5.0	フク土	体部は直線的に開き、口縁部に至る。口縁部は厚手。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黒色④TAYB22溝-6
6	高台付碗 土師質	1/4	口径(15.0) 器高 4.5 高台 (7.1)	フク土	体部は直線的に開き、口縁部に至る。口縁部は丸みをもつ。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台は強く外方へ開く。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③暗灰色④TAYB22溝-5
7	高台付碗 黒色土器	底部	…… 現存高2.1 高台 7.1	フク土	体部以上を欠く。内底はヘラ磨きの後、黒色処理を施す。高台は「ハ」字状に開く。	①細砂粒を含む②酸化気味の還元③灰白色④TAYB22溝-8
8	羽釜 土師質	口縁部 1/4	口径(19.8) 現存高8.0 ……	フク土	体部下半以下を欠く。体部～口縁部は直線的で、甑の可能性がある。外面の鐳以下はタテ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB22溝-7
9	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(24.1) 現存高6.0	フク土	鐳以下を欠く。断面三角形の鐳をもつ。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB22溝-30
10	羽釜 土師質	底部 1/4	…… 現存高6.9 底径 (8.0)	フク土	体部中位以上を欠く。内面はロクロナデ、外面はヘラケズリを施す。外底の調整は不明。2次火熱を受けている。	①砂粒を多く含む②酸化③褐色④TAYB22溝-34
11	フイゴ羽口			フク土	長さ6.8cmが遺存する。先端部に気孔の多い滓があり、炉体の一部が付着する。空気孔は内径2.6cmである。④TAYB22溝-1	
12	フイゴ羽口			フク土	長さ4.8cmが遺存する。先端部のみで、孔径は2.5cmである。器表の剥落が著しい。2次火熱をうけている。④TAYB22溝-2	
13	フイゴ羽口				長さ6.7cmが遺存する。羽口基部の破片で、復原孔径は3.2cm。2次火熱を受けている。	

田端地区B区第1号土器溜まり出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師器	1/4	口径(13.3) 現存高2.9	フク土	体部と口縁部との境ににぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB1土器ダマリ-1
2	壺 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(17.8) 現存高11.6 ……	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は短く、「く」字状に外反する。口唇部外面は丸みをもつ。体部外面に黒斑がある。	①砂粒を含む②酸化③暗赤褐色④TAYB1土器ダマリ-2
3	壺 土師器	口縁部 ～体部 1/4	口径(22.7) 現存高6.2 ……	フク土	口縁部は「く」字状に外反する。口唇部の内側は丸く内湾する。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③黄褐色④TAYB1土器ダマリ-3



## 田端地区B区(1号土器溜まり)(2号井戸)(232号土坑)

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	甕土師器	1/6	口径(18.6) 現存高3.5 ……	フク土	体部以下を欠く。口縁部は短く外反し、口唇部は内湾して立ち上がる。口縁部外面に粘土の縞目を残す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B1土器ダマリ-6

## 田端地区B区第2号井戸出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	略完	口径 9.6 器高 2.6 底径 5.4	フク土	口縁部1/2を欠く。底部から滑らかに外反して口縁部に至る。内外面ともロクロナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B2井戸-1
2	高台付椀 黒色土器	底部	…… 現存高2.2 高台径7.1	フク土	体部以上を欠く。内底は丁寧なヘラミガキを施し、黒色処理を加えるが、剥げ落ちている。2次火熱をうけたためか。	①砂粒を含む②酸化③褐色 ④TA¥B2井戸-2
3	高台付椀 土師質	体部 ～底部	口径(10.4) 器高 4.1 高台径 (6.8)	フク土	底部の大半を欠く。体部は直線的に外反する。体部中位以下にロクロナデ痕を残す。高台は「ハ」字状に開く。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶい ④TA¥B2井戸-7

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘要			
					素地	扶雑物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木根	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
4	1525	2井戸	平	2.4	密	含	硬	暗褐	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1	1A類2井戸-5		
5	1524	2井戸	平	2.5	密	含	硬	黒灰	○	なし	○	なし	なし	素文	なし	なし	なし	1	2類2井戸-4		
6	1523	2井戸	丸	1.7	密	含	硬	黒灰	なし	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	1	1A類2井戸-3		

## 田端地区B区第232号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽須恵器	1/6	口径 17.3 器高 27.0 底径 9.3	南棺	体部に丸みを持ち、口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部は平坦面をもつ。断面三角形の鏝は下側に強くヨコナデを施し、口縁部側はややくぼむ。内外面ともロクロナデ痕を残す。外底は2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい ④TA¥B232土-3
2	羽須恵器	1/6	口径 17.6 器高 26.8 底径 5.8	北棺	体部に丸みを持ち、口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部は丸く、内側に凹線をもつ。体部の外面はロクロナデの後、タテ方向のヘラケズリを施す。内底近くの体部は指頭ナデを加える。鏝は水平方向に向かう。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B232土-2
3	高台付椀 須恵器	略完	口径 13.2 器高 5.4 高台 5.3	南側フク土	体部は直線的に開き、口縁部は短く外反する。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の仕上げは雑である。歪みがある。副葬品。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B232土-1

田端地区B区第3号住居跡下土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 12.4 器高 4.1 底径 5.9	上層フク 土	平底。体部下位で張りをもち、わずかに内湾して開く。口唇部に丸味をもつ。外底は回転糸切り後、無調整。体部はロクロナデを施す。	①砂粒を含む②還元、やや硬質③灰色 ④TAYB3-44、深さ3.6
2	杯 須恵器	略完	口径 10.6 器高 3.8 底径 5.1	上層フク 土	平底。外底の周縁を絞り込んで、体部はゆるやかに内湾し開く。口縁部はわずかに外反し、端部は丸味をもつ。外底は回転糸切り後、無調整。体部はロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや硬質③にぶい橙色 ④TAYB3-45、深さ2.8
3	杯 須恵器	½	口径(13.6) 器高 3.6 底径 (7.0)	上層フク 土	平底。外底の周縁絞り込み、体部下位で張りをもって開く。口縁部は外反し、端部は丸味もつ。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色石粒を含む ②酸化、やや硬質③明赤褐色④TAYB3-47、深さ2.8
4	杯 須恵器	⅓	口径(10.3) 器高 5.5 底径 (3.3)	上層フク 土	平底。体部上位でわずかに内湾する。口縁部は外側へつまみ出し、口唇部に丸味がある。底部は極く薄手。左回転糸切り後、無調整。	①白色・黒色石粒・砂粒を含む②還元、軟質③灰色 ④TAYB3-23、深さ2.9
5	杯 須恵器	体部 ～底部 ⅔	…… 現存高1.8 底径 5.5	上層フク 土	平底。底部外縁に厚味をもち、体部は薄い仕上がり。外底は回転糸切り後、無調整。底部別作りか。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰白色 ④TAYB3-5
6	杯 須恵器	⅓	口径(12.5) 器高 3.7 底径 5.4	上層フク 土	平底。体部はゆるく内湾しながら開き、口縁部で外反する。口唇部に丸味をもつ。外底は回転糸切り後、無調整。	①白色石粒・黒色砂粒を含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-17、深さ3.0
7	杯 須恵器	½	口径(14.0) 器高 3.9 底径 6.6	フク土	平底。体部下位で張りをもって内湾する。口縁部は外側へ強く引き出し、端部は丸味をもつ。外底は回転糸切り後、無調整。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③にぶい黄橙色④TAYB3-19深さ3.3
8	杯 須恵器	⅓	口径(12.6) 器高 3.1 底径 5.5	上層フク 土	平底。体部中位でゆるやかに内湾し、口縁部は外側にひきだしてやや外反する。外底は回転糸切り後、無調整。器肉薄手。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③灰色 ④TAYB3-54、深さ2.3
9	高台付椀 須恵器	⅔	口径 15.0 器高 5.2 高台 6.8	上層フク 土	体部はゆるく内湾して開き、上部で張りをもつ。口縁部は強く外反し、端部に丸味がある。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は三角形を呈する。歪みあり。	①砂粒、白色・黒色石粒を含む②還元、やや軟質③灰色④TAYB3-1、深さ3.9
10	高台付椀 須恵器	⅓	口径(13.3) 器高 5.0 高台 6.0	上層フク 土	体部はゆるやかに内湾して大きく開く。口縁部は外反して、端部に丸味をもつ。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は台形を呈する。	①砂粒・褐色石粒を含む ②還元、やや軟質③淡黄色 ④TAYB3-50、深さ3.9
11	高台付椀 須恵器	¼	口径(15.0) 器高 4.6 高台 7.0	フク土	体部下位で張りをもって開く。口縁部はゆるやかに外反し、端部に丸味をもつ。外底は回転糸切り後、高台貼付け。	①砂粒・石粒を含む②還元、軟質③にぶい黄褐色 ④TAYB3-2、深さ3.3
12	椀 須恵器	¼	口径(14.0) 現存高3.2	フク土	体部はゆるやかに内湾して開く。口縁部は外反し、端部は丸く厚味をもつ。体部は内外面ともロクロナデを施す。	①砂粒・石粒を含む②酸化、やや軟質③にぶい橙色 ④TAYB3-62
13	高台付皿 須恵器	⅓	口径(13.8) 器高 2.8 高台 (7.0)	上層フク 土	口縁部は外側へ強くひき出して外反する。口唇部に丸味をもつ。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面は、端部の丸い三角形を呈する。	①砂粒・白色石粒を多く含む②還元、硬質③暗青灰色 ④TAYB3-55、深さ1.7

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	高台付皿 須恵器	略完	口径 13.4 器高 2.7 底径 7.6	フク土	口縁部は強く外反し、端部は厚く丸味をもって外側にめくれる。外底は回転糸切り後、高台貼付け。高台の断面はがっしりした台形を呈する。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、やや軟質③灰色 ④TAYB3-57、深さ1.3
15	高台付椀 灰釉陶器	体部 ～底部	…… 現存高2.8 底径 7.2	フク土	蛇の目高台。底部の器肉は厚手で、体部は内湾して開く。体部内外面はロクロナデを施す。内外面に緑灰色の釉がかかる。	①細かい砂粒を含み密②還元、硬質③灰白色 ④TAYB3-98
16	甕 土師器	口縁部 1/2	口径(23.4) 現存高6.5 ……	上層フク土	「く」字状に外反する口縁をもち口唇部は丸味をもち。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヘラナデを施す。器肉薄手。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③橙色④TAYB3-65
17	台付甕 土師器	脚部	現存高3.3 脚径(8.0)	上層フク土	小型台付甕脚部。「ハ」字状に開く。裾部やや内ぶくらみ。内外面はヨコナデを施す。体部にスス附着。	①砂粒を含む②酸化、軟質③にぶい橙色 ④TAYB3-18
18	台付甕 土師器	脚部片	…… 現存高3.2 脚径 10.8	上層フク土	台付甕の脚部。裾部は「ハ」字状に大きく開く。内外面ともヨコナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明褐色 ④TAYB3-69
19	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(19.2) 現存高8.5 ……	フク土	「コ」字状口縁を呈する。頸部の立ち上がりが長く、口縁部の外反部分は短かめである。体部中位で最大径をもち。体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口頸部外面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質③橙色④TAYB3-42
20	長頸壺 須恵器	口頸部	口径 9.8 現存高9.2 ……	上層フク土	頸部は小さく縮り、口縁部へゆるやかに開く。口縁部は外側へのひき出し強く、外縁帯をつくる。口唇部は立ち上がり三角形の断面をもち。ロクロナデ痕顕著。	①白色小粒を多く含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-9
21	壺 須恵器	体部 ～底部 1/2	現存高15.6 底径(17.4)	上層フク土	平底で中型。体部は直線的に立ち上がる。底部はヘラナデを施す。体部に粘土紐痕あり。ゆるい回転によるヘラナデ調整。	①白色小粒・砂粒を含む ②酸化、やや硬質③灰黄褐色、内面橙色④TAYB3-8
22	不明 須恵器	1/2?	口径 36.5 現存高12.6 中位台径 21.4	上層フク土	全体形状及び用途不明の土製品。口縁部周辺の破片と中位の台状部片とは不完全な接合であるが、一つの可能性として図化した。天地についても不明である。器の中位に台をもち、四個の小孔を穿つ。脚部と思われる部位には、巾6.5cmの角窓が二つ一組一対で四個あく。台底中央脚部側から径8cm程わずかに凹み、丸い二次火熱痕があり、周辺にススの付着が認められる。外面中位くびれ部にやや下垂する帯をめぐらし、角窓との間に鋸歯状のクシ描き文を施す。粘土紐痕を残し、内外面とも粗雑なナデ調整である。	①白色・黒色・褐色石粒を多く含む②還元、軟質③灰～灰褐色④TAYB3-11
23	フイゴ 羽口	1/2		上層フク土	現存長6.8cm。筒状を呈し、先端部に鉄滓附着。中心孔内に2次火熱痕あり。	①砂粒・石粒を多く含む、粗②還元、軟質③灰色 ④TAYB3-8
24	フイゴ 羽口	1/2		上層フク土	口径7.0cm、現存高7.0cm、孔径2.8cm。筒状。端部に鉄滓附着。中心孔内に2次火熱痕あり。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、軟質③灰色 ④TAYB3-84

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
25	石製品				現存高5.2cm。石質珪質変質岩。④TAYB3-85	
26	杯 土師器	½	口径(19.2) 現存高5.3 ……	下層フク 土	口縁部直下で、内湾して立ち上がる。口唇部に丸味あり。外底は非回転のヘラケズリ。内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYB3-64
27	杯 土師器	½	口径(15.6) 現存高3.7 ……	下層フク 土	体部上位でゆるやかに内湾し口縁部に至る。外底は非回転のヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はナデを施す。器内やや厚手。	①砂粒を含む②酸化、軟質 ③橙色④TAYB3-63
28	杯 土師器	½	口径(12.4) 器高 3.85 ……	下層フク 土	体部上位で内湾して、口縁部は短かく立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリ、内面と口縁部はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明褐色 ④TAYB3-51、深さ3.4
29	甕 土師器	¼	口径(12.2) 現存高8.6 ……	下層フク 土	体部中位で最大径をもつ。体部の丸い小型甕。頸部は強く締って稜をもつ。体部はヨコ方向のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。外面に炭化物付着。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明赤褐色 ④TAYB3-68
30	椀 土師器	体部 ～底部	…… 現存高4.6 ……	下層フク 土	丸底。体部は内湾して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化、軟質③明褐色 ④TAYB3-52
31	杯 須恵器	½	口径(15.3) 器高 3.8 高台 (8.8)	下層フク 土	底部縁端に低い高台をもつ。体部下位で底部から折れ曲って立ち上がる。体部は直線的に開き、口縁部はやや薄手となる。外底は回転ヘラケズリを施す。ケズリ出し高台。	①砂粒・黒色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-53、深さ3.3
32	鉢 須恵器	¾	口径 15.0 現存高10.8 ……	土坑底面	底部を欠く。体部下位でやや張りを持ち、口縁部へ直線的に開く。口縁部内側に稜をもつ。粘土紐積み痕を残す。底部外縁はヘラケズリ、内底はナデあげ。器肉厚く粗雑。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-35
33	甕 須恵器	¼	口径(17.4) 現存高9.3	下層フク 土	体部上位に最大径をもち、稜をもって内湾しながらすぼまる。口頸部「く」字状に外反し、口唇部外側はわずかに下垂する外稜をつくる。	①砂粒・黒色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-70
34	甕 須恵器	底部	…… 現存高7.6 底径(21.6)	下層フク 土	平底。体部は直線的に開く。底部は粗雑なヘラナデ、体部はタタキ目あり。内面は粗雑なナデ、底部外縁はヘラケズリを施す。	①砂粒・白色石粒を含む ②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-38
35	甕 須恵器	体部		下層フク 土	丸底。体部外面は平行タタキ目を施し、内面は同心円の当て具痕を残す。粘土紐積み痕を残す。	①砂粒・石粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB3-41
36	蓋 須恵器	¼	口径(18.4) 器高 2.5 ツمامミ (7.0)	フク土	内側に身受けのカエリをもつ。ツمامミはボタン状貼付けで大きく、端部はシャープで角をもつ。外面の天井部は回転ヘラケズリを施す。	①砂粒・石粒を含み、黒色斑文あり②還元、硬質③灰色④TAYB3-59、深さ1.3
37	蓋 須恵器	½	口径(17.0) 器高 3.2 ツمامミ (6.0)	フク土	内側にカエリをもち、大きめのボタン状ツمامミを付す。ツمامミ端部はシャープで外稜をもつ。天井部外面は回転ヘラケズリ、体部はロクロナデを施す。	①砂粒・白色小粒を多く含む②還元、硬質③灰色 ④TAYB3-15、深さ2.0

田端地区B区第13・28・29・33・57・59・68・69・81・88号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽釜 土師質	口縁部 小片	…… 現存高4.9 ……	フク土	体部以下を欠く。断面三角形の鐙をもち、口唇部に凹線がある。内外面ヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰白色④TAYB13坑-1
2	甕 土師質	口縁部 小片	口径(27.0) 現存高6.6 ……	フク土	体部中位以下を欠く。鉢状を呈し、口縁部は滑らかに外反する。内外面とも丁寧なロクロナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい黄橙色④TAYB28坑-1
3	杯 土師質	1/4	口径(12.4) 器高 4.1 底径 5.4	フク土	高台は付かない。体部は内湾気味に開く。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③褐色④TAYB29坑-1
4	高台付碗 土師質	底部	現存高3.4 高台(8.0)	フク土	体部以上を欠く。高台は高さ1.9cmあり、「ハ」字状に開く。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB33坑-1
5	皿 灰釉陶器	口縁部 1/2	口径(10.3) 現存高1.6	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は薄くなって、玉縁状を呈する。釉はごく薄くかかる。	①精良②還元③灰白色④TAYB57坑-1
6	高台付碗 土師質	体部 ～底部 1/4	…… 現存高3.2 高台 5.2	フク土	体部中位以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。高台は仕上げが雑。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色④TAYB57坑-2
7	高台付碗 土師質	体部 ～底部 1/4	…… 現存高2.7 ……	フク土	体部・高台端部を欠く。内底はロクロナデ痕を残す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB59坑-1
8	杯 土師器	口縁部 小片	現存高2.5 ……	フク土	底部中央を欠く。体部から口縁部へ滑らかに外反する。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB68坑-1
10	高台付碗 土師質	体部 ～底部	…… 現存高4.6 高台 8.4	フク土	体部中位以上を欠く。内面はロクロナデ痕を残す。高台は「ハ」字状に開く。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③橙色④TAYB69坑-1
11	杯 土師器	口縁部 小片	現存高2.1 ……	フク土	底部中央を欠く。体部から口縁部へ滑らかに開く。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB81坑-2
12	甕 土師器	口縁部 小片	現存高4.8 ……	フク土	体部以下を欠く。頸部は直立し、口縁部は外反する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB81坑-1
13	甕 須恵器	口縁部 ～体部 1/2	口径(34.5) 現存高14.6 ……	フク土	体部から口縁部へ直線的に開く。口唇部に凹線がある。内外面ともロクロナデを施す。鐙の断面は台形を呈する。	①細砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB88坑-1

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			摘 要			
					素地	挟雑物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 合せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ		布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
9	1551	68坑	平	1.7	密	含	並	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	なし	1A類68坑-2

遺物観察表

田端地区B区第54号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋須恵器	ツمامミ	現存高1.6 ……	P-45	体部以下を欠く。リング状のツمامミで、内外面ともヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYB54坑-28
2	蓋須恵器	口縁部～体部 ¼	口径(18.5) 現存高2.2 ……	P-42	天井部中央を欠く。天井部は厚手で、口縁部の内側に段をもつ。外面に焼成時の灰を被っている。内面ヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB54坑-34
3	杯土師器	略完	口径 12.1 器高 3.8	P-52・56 ・41・51他	口縁部は内湾気味に立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB54坑-1
4	杯土師器	略完	口径 12.2 器高 4.0 ●	フク土	体部と口縁部との境にふい外稜をもつ。外底非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB54坑-2
5	杯土師器	½	口径(14.8) 器高 4.5 底径 8.8	P-50他	体部は直線的に開く。口縁部は薄くなってわずかに外反する。平底。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB54坑-4
6	杯土師器	¾	口径 15.2 器高 4.3	P-4他	体部は丸く、口縁部はほぼ直立する。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB54坑-3
7	杯須恵器	¾	口径 13.6 器高 4.1 底径 6.6	フク土	体部は直線的に開き、口縁部に至る。高台は付かない。体部外面にロクロナデを強く施す。外底は右回転糸切り後、無調整。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB54坑-9
8	杯土師質	¼	口径(12.1) 器高 3.7 底径 5.9	フク土	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外底は右回転糸切り後、無調整。内底中央は凸である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄褐色④TAYB54坑-6
9	高台付碗須恵器	½	口径 16.7 器高 5.4 高台 7.4	P-7・8、 フク土	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内底に重ね焼痕がある。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB54坑-11
10	高台付碗須恵器	½	口径 18.8 器高 6.9 高台 7.6	P-7・8、 フク土	体部は直線的に開いて口縁部に至る。外底は右回転糸切り後、高台張り付け。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB54坑-12
11	高台付碗土師質	½	口径(13.9) 器高 5.4 高台 6.8	フク土	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB54坑-7
12	高台付皿須恵器	½	口径 13.4 現存高2.7 底径 6.4	P-11他	体部から直線的に開いて口縁部に至る。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は剝離して遺存していない。イブシ焼成。	①細砂粒を含む②還元③黒色④TAYB54坑-10
13	高台付碗須恵器	½	口径(14.1) 器高 5.1 高台 (6.7)	P-26他	体部にやや丸みがあり、口縁部はわずかに外反する。内底を欠く。体部外面にロクロナデ痕を残す。高台端部に凹線がある。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB54坑-8
14	碗? 須恵器	口縁部 小片	口径(13.5) 現存高2.6	フク土	体部下半以下を欠く。口縁部は強く外反する。体部外面に墨書「方」がある。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYB54坑-23
15	高台付碗土師質	¾	口径(11.3) 器高 4.5 高台 (6.8)	フク土	体部¾を欠く。体部に丸みがある。高台は「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②酸化③にぶい褐色④TAYB54坑-5

田端地区B区 (54・107・109・127・128・136・142・157・158号土坑)

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
16	杯 須恵器	1/2	口径(10.3) 器高 2.9 底径 (4.7)	フク土	口縁部に強くヨコナデを施す。外底は右回転糸切り後、無調整。高台は付かない。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB54坑-30
17	高台付椀 黒色土器	底部	現存高1.5 高台 6.3	フク土	体部以上を欠く。内底にヘラ磨きの後、黒色処理を施す。高台端部は一部遺存している。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB54坑-29
18	短頸壺 須恵器	1/2	口径 (5.9) 器高 5.9 最大径8.6	フク土	口縁部は直立する。外底は非回転のヘラケズリを施す。体部外面は回転ヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。焼成時の灰を被っている。	①細砂粒を含む②還元、硬質③灰色④TAYB54坑-14
19	長頸壺 須恵器	体部 ~底部	…… 現存高7.5 高台 11.6	P-43・44	体部中位以上を欠く。内底は指頭ナデの後、ヨコナデを施す。高台は「ハ」字状に開く。全体にしっかりした作り。	①白色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TAYB54坑-15
20	甕 土師器	口縁部 ~体部 小片	口径(14.8) 現存高4.6	フク土	体部以下を欠く。頸部は直立し、口縁部は強く外反する。体部外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TAYB54坑-17
21	甕 土師器	口縁部 ~体部 1/2	口径(24.8) 現存高5.2 ……	フク土	体部以下を欠く。口縁部は「く」字状に外反する。内外面ともヨコナデを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化③にぶい赤褐色④TAYB54坑-13
22	甕 須恵器	底部 1/4	…… 現存高4.8 底径 14.3	フク土	体部以上を欠く。外底は突出し、擦り減っている。内底は平滑。体部の内外面はヨコナデを施す。全体に厚手で、しっかりしている。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB54坑-16

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法		摘 要				
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板刷取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目		ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
23	1437	54坑	丸	1.4	密	微	締	暗赤	なし	なし			なし	なし	平行	なし	なし	なし	2	1A類 TAYB54坑-26	
24	1435	54坑	平	2.0	密	微	軟	淡黄	○	なし		○	なし	なし	素文	なし	なし	なし		2類 TAYB54坑-24	
25	1438	54坑	平	1.9	密	微	硬	灰	○	なし		○	なし	平行	擦痕	なし	なし		2	1A類 TAYB54坑-27	
26	1436	54坑	平	1.8	密	微	軟	赤褐	○	なし		○	なし	平行	擦痕	なし	なし			1A類被熱割れ TAYB54坑-26	

田端地区B区第107・109・127・128・136・142・157・158号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽 土師質	口縁部 1/2	口径(20.5) 現存高6.4 ……	フク土	体部中位以下を欠く。口縁部は薄く、鏝は断面三角形を呈する。鏝の仕上げは雑である。内外面にロクロナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい褐色④TAYB107坑-1
2	高台付皿 須恵器	口縁部 ~体部 1/2	口径(13.7) 現存高1.8 ……	フク土	高台を欠く。口縁部は水平近くを開き、口唇部は丸みをもつ。内外面器表の摩滅が著しい。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB109坑-1
3	高台付皿 須恵器	体部 ~底部 1/4	…… 現存高2.7 高台 7.0	フク土	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。内底は丁寧なナデを施す。高台端部に凹線がある。内底は褐色を呈する。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYB109坑-2

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
5	壺 緑釉陶器	体部 ～底部 1/4	…… 現存高4.1 高台 3.8	底面	肩部以上を欠く。内外面ロクロナデを施す。釉は体部外面、高台内側にかかる。内底近くにも釉がある。2次火熱を受けたか、一部の釉が薄くなっている。割れ口は丸くなっている。	①黄白色、精良②酸化、軟質③土色は黄白色 ④TAYB127坑-1
6	杯 土師器	口縁部 小片	現存高2.8 ……	フク土	底部を欠く。口縁部は外反気味に立ち上がる。器表摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB128坑-1
8	碗 土師質	口縁部 ～体部 1/4	口径(14.2) 現存高4.5 ……	フク土	底部を欠く。体部はやや丸みをもち、口縁部は丸く肥厚して外反する。体部外面にロクロナデを施す。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化にぶい橙色④TAYB142坑-1
9	高台付碗 土師質	1/4	口径(10.6) 現存高5.0 高台 (6.2)	フク土	底部中央を欠く。体部は直線的に開く。高台は厚手で、仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③明褐色④TAYB157坑-2

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法			備 考			
					素地	挟雑物	焼き上り	色調	粘土板剥取		一枚作り	桶寄木痕	粘土板合せ目	布の合せ目	タタキ目	ロクロ目	ヘラケズリ		布の擦消		側面取
									凹面	凸面									凹面	凸面	
4	1550	109坑	平	2.0	密	含	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1A類 TAYB109坑-1		
7	1552	136坑	平	1.8	密	含	軟	淡褐	○	なし	○	なし	なし	素文	なし	なし	なし	なし	2類 TAYB136坑-1		
10	1426	157坑	平	1.7	密	微	硬	灰	○	なし	○	なし	なし	平行	なし	なし	なし	なし	1A類 TAYB157坑-1		

田端地区B区第132号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	長頸壺 須恵器	肩部片	…… 現存高2.6 ……	P-3	口頸部・体部以下を欠く。肩部外面にくぼみがあり、体部との接合部から剝離している。頸部内面の一部が遺存している。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYB132坑-25
2	杯 須恵器	1/4	口径 12.9 器高 3.3 底径 8.6	P-47・48	体部は内湾気味に立ち上がる。外底はヘラ切り離した後、ナデを加える。内面にヨコナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰白色④TAYB132坑-9
3	杯 土師器	1/4	口径(11.7) 器高 3.6 ●	P-50	口縁部は直立気味に立ち上がる。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB132坑-8
4	杯 土師器	略完	口径 12.2 器高 3.0 ●	P-50・51	体部と口縁部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③赤橙色④TAYB132坑-10
5	杯 土師器	1/4	口径(13.9) 器高 3.7	フク土	体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。内外面とも器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYB132坑-20
6	杯 土師器	1/4	口径(14.6) 現存高3.6	P-2・1	底部中央を欠く。底部と体部との境にぶい稜をもつ。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB132坑-1
7	杯 土師器	1/4	口径(16.7) 器高 5.3	P-31・3	口縁部は内湾して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYB132坑-11



田端地区B区 (132・159・165・167・181・183・190・191・194・195・196号土坑)

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
8	杯土師器	¼	口径(19.6) 現存高5.3 ……	P-18	底部中央を欠く。口縁部は直立気味に立ち上がる。体部～外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B132坑-5
9	壺須恵器	体部¼	現存高5.0 ●	フク土	臑。体部中位の外面に2本の凹線を施す。外底は非回転のヘラケズリを加える。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B132坑-4
10	高杯須恵器	杯部破片		P-13・10	高杯杯部の底面とみられる。皿状の杯部とみたい。外面には脚部の剝離した跡を残す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TA¥B132坑-13
11	壺須恵器	口縁部～体部¼	口径(11.9) 現存高7.6 ……	P-20	体部中位以下を欠く。体部中位付近の外面に平行タタキ目が残る。内面は丁寧なヨコナデを施す。内面黒色を呈する。	①白色粒子を含む②還元 ③赤灰色④TA¥B132坑-6
12	甕土師器	口縁部～体部⅓	口径 23.1 現存高10.9 ……	P-32	体部中位以下を欠く。体部に丸みがあり、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面は丁寧なヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③赤褐色 ④TA¥B132坑-28
13	甕土師器	口縁部～体部	口径(22.0) 現存高9.1 ……	P-14	口縁部は「く」字状に強く外反する。体部外面はヨコ方向のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。体部中位以下を欠く。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B132坑-3
14	甕土師器	口縁部～体部¼	口径(12.1) 現存高5.0 ……	フク土	体部中位以下を欠く。体部に張りがなく、口縁部は緩やかに外反する。外面器表の剝落が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥B132坑-2
15	甕須恵器	体部片		P-1	大形甕の体部片。内面は同心円当て具痕にナデを加える。外面はカキ目を加える。	①精良②還元③灰色 ④TA¥B132坑-17
16	甕須恵器	底部片		P-17	大型甕の底部中央とみられる。内面はナデ痕が集まり、外面は摩滅している。黄色を呈する。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黄色④TA¥B132坑-18

田端地区B区第159・165・167・181・183・190・191・194・195・196号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	羽釜土師質	口縁部小片	現存高6.6 ……	P-2	体部中位以下を欠く。鏝は断面三角形を呈する。体部内面はロクロナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TA¥B159坑-1
3	甕土師器	口縁部～体部⅓	口径(18.1) 現存高12.8	P-2・3・4・11	体部は丸みをもち、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面は目の粗いハケ目調整を施す。体部下半以下を欠く。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B165坑-1
4	高台付椀黒色土器	¼	口径(11.3) 器高 4.6 高台 6.3	フク土	体部の大半を欠く。体部は丸みをもって開く。内面はヘラ磨きの後、黒色処理を施す。外面の器表は摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰白色④TA¥B167坑-1
5	鉄製			フク土	茎の一部を欠く。カエリを両側にもち、比較的遺存は良好である。 ④TA¥B181坑-1	
6	杯土師器	¼	口径(11.9) 現存高2.8	P-1	口縁部と体部との境ににぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥B183坑-1

遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
7	高台付腕須恵器	体部 ～底部 1/2	現存高3.1 高台 (5.0)	P-2	体部中位以上を欠く。内底は丁寧なナデを施す。外底は回転糸切り後、高台貼付け。イブシ焼成。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB190坑-2
8	腕 黒色土器	口縁部 ～体部 1/2	口径(14.6) 現存高3.8 ……	P-4	体部中位以下を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は外反する。内面はヘラ磨きの後、黒色処理を施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB191坑-1
9	高台付腕須恵器	1/2	口径(13.4) 器高 5.2 高台 5.8	P-1	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化気味の還元③浅黄色 ④TAYB191坑-3
10	高台付腕灰釉陶器	1/2	口径(15.5) 器高 7.4 高台 7.1	フク土	体部に丸みをもち、口縁部の内側に凹線をもつ。体部外面にロクロナデ痕が目立つ。軸は内底にかからない。	①精良②還元、硬質 ③TAYB194坑-1
11	甕土師質	口縁部 小片	現存高6.4 ……	フク土	頸部に段をもち、体部との境に外稜がある。内外面とも仕上げは雑である。	①小石を含む②酸化③灰褐色④TAYB195-3
12	高台付腕土師質	1/2	口径(15.6) 現存高5.8	フク土	高台を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は丸くおさめる。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰色④TAYB196坑-1
13	甕土師質	口縁部 小片	現存高8.8 ……	P-2	体部中位以下を欠く。体部に丸みがなく、口縁部は強く外反する。内外面とも仕上げは雑である。外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③暗灰色④TAYB196坑-2

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				備 考		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板刺取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ロク ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
2	1427	159坑	平	1.9	密	微	硬	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	無	なし	なし	なし	1	1A類 TBVB159坑-2

田端地区B区第197・213・214・216・225号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
2	高台付腕須恵器	口縁部 ～体部 1/2	口径(15.4) 現存高4.2	フク土	底部を欠く。体部はわずかに丸みをもち、口縁部は肥厚する。体部外面にロクロナデ痕を残す。内面は丁寧なナデを加える。	①細砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB213坑-1
3	杯 須恵器	底部 小片	…… 現存高1.6 底径 (5.3)	フク土	体部以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。内底に文様または記号状の刻みがある。先端が二つに割れた幅1mmほどの工具で書く。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB214坑-1
5	フイゴ羽口			P-1	長さ13.5cmが遺存している。外径6.9cm、孔径2.6cmである。先端にガラス質の滓が付着。磁石に反応しない。	①小石・砂粒を多く含む ②還元気味の酸化 ③TAYB225坑-1

報告 番号	観察 通番	出土 地点	瓦の 種別	厚さ	胎土		焼成		成形技法						整形技法				摘 要		
					素地	扶雑 物	焼き 上り	色調	粘土板剥取		一枚 作り	桶寄 木痕	粘土板 合せ目	布の合 せ目	タタ キ目	ログ ロ目	ヘラ ケズリ	布の擦消		側部 面取	
									凹面	凸面								凹面			凸面
1	1425	197坑	平	1.7	密	微	締	灰	○	なし		○	なし	なし	平行	擦痕	なし	なし	2	1A類 TAYB197坑-1	
4	1417	216坑	平	1.7	密	含	硬	灰	○	なし		○	○	なし	平行	なし	なし	なし	2	1A類 TAYB216坑-1	

田端地区B区第229・230・233A・234・235B・237号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	¼	口径(13.3) 器高 4.0 底径 (5.0)	P-1	体部に丸みをもち、口縁部は強く外反する。口縁部直下は薄くなる。体部～底部は黒色を呈する。器表の摩滅著しい。高台は付かない。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB229坑-1
2	杯 須恵器	¼	口径(13.8) 器高 4.1 底径 5.9	P-2	体部に丸みをもち、口縁部は丸く肥厚して玉縁状を呈する。外底は右回転糸切り後、無調整。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB229坑-2
3	椀 黒色土器	口縁部 小片	口径(14.8) 現存高3.3 ……	フク土	体部下位以下を欠く。体部に丸みをもち、口縁部は外反する。内面はヘラ磨きの後、黒色処理を施す。	①細砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい黄橙色 ④TAYB230坑-2
4	杯 土師器	⅓	口径(11.3) 現存高2.6 ……	フク土	底部中央を欠く。口縁部と体部との境にぶい外稜をもつ。体部外面はヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB233坑-3
5	杯 土師器	口縁部 ～体部 ½	口径(13.2) 現存高3.4 ……	フク土	底部中央を欠く。口縁部と体部との境にぶい外稜をもつ。体部外面は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB233坑-4
6	羽 須恵器	口縁部 小片	現存高4.3 ……	フク土	鋸以下を欠く。口唇部に平坦面をもつ。内外面ともヨコナデを施す。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB234坑-1
7	杯 須恵器	⅓	口径(11.6) 器高 3.1 底径 5.2	P-7	体部の大半を欠く。体部は直線的に開き、口縁部に至る。外底は右回転糸切り後、無調整。仕上げは雑である。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③淡黄色④TAYB235坑-3
8	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(21.5) 現存高5.6 ……	フク土	体部中位以下を欠く。頸部は直立気味で、口縁部は外反する。体部外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TAYB235坑-4
9	椀 土師器	口縁部 ～体部	口径(13.7) 現存高2.4	フク土	体部中位以下を欠く。口縁部は直線的に開く。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB237坑-4
10	高台付 土師質	体部 ～底部	現存高3.5 高台 6.8	フク土	体部中位以上を欠く。内底の器表は平滑である。高台は「ハ」字状にしっかり開く。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYB237坑-2

## 遺物観察表

## 田端地区B区第244・246・253・256号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 須恵器	略完	口径 13.1 器高 4.0 底径 6.0	フク土	体部下位に丸みがあり、口縁部は直線的に開く。外底は右回転糸切り後、無調整。底部周縁が摩滅している。高台の剥離した可能性がある。体部外面に墨書があるが、判読出来ない。	①白色粒子を含む②還元 ③暗灰色④TAYB244坑-1
2	高台付椀 灰釉陶器	体部 ～底部	現存高3.2 高台 7.6 ……	フク土	体部中位以上を欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。高台は楕円形に歪む。内底の器表はツルツルである。高台脇の外面はヘラケズリを施す。	①精良②還元③灰色 ④TAYB246坑-1
3	刀子 鉄製	半欠		フク土	切っ先～身の大半を欠く。茎の一部に木質が遺存し、輪状に巻いた部分も遺存する。長さ5.0cm。棟の厚さ0.2cm。④TAYB253坑-1	
4	杯 土師質	体部 ～底部	…… 現存高2.7 底径 5.8	P-1	体部中位以上を欠く。外底は右回転糸切り後、無調整。内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB256坑-1

## 田端地区B区第504号ピット出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯 土師質	½	口径 9.7 器高 2.4 底径 5.6	P-5	底部から直線的に開く。外底は非回転の糸切り後、無調整。内外面ロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③ぶい黄褐色 ④TAYB504ピット-1
2	杯 土師質	略完	口径 9.8 器高 2.8 底径 4.8	P-2	体部に丸みがある。外底は右回転糸切り後、無調整。内外面ロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰褐色④TAYB504ピット-1
3	杯 土師質	完形	口径 9.7 器高 2.6 底径 5.4	P-4	体部下半に丸みがある。外底は右回転糸切り後、無調整。外底は突出する。内外面ロクロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黄褐色④TAYB504ピット-3
4	高台付皿 灰釉陶器	略完	口径 10.9 器高 2.4 底径 6.8	P-1	段皿。内底・高台内側を除き、釉がかかる。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。外底中央は高台と同じ高さである。内底は全く釉がない。	①砂粒を含む②還元③灰色 ④TAYB504ピット-1

## 田端地区D区第7・10・11号土坑出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	½	口径(15.1) 器高 3.0 ……	P-1	口縁部内側にカエリをもつ。口縁端部から内側2.1cmの位置にある。ソマミは偏平なボクン状を呈し、中央がわずかに凸である。内面は黄色を呈する。イブシ焼成。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③灰黄色④TAYD7坑-2
2	杯 土師質	完形	口径 13.2 器高 3.9 底径 5.9	P-12	体部は直線的に開く。口唇部は丸みをもつ。外底は右回転糸切り後、無調整。中央部に黒斑がある。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③褐色④TAYD7坑-1

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
3	羽釜 土師質	口縁部 小片	口径(21.8) 現存高5.0 ……	P-2	体部中以下を欠く。鐶の断面は三角形を呈する。内外面ロクロナデを施す。2次火熱を受けている。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③黄橙色④TA¥D7坑-3
4	杯 土師器	口縁部 小片	口径(11.9) 現存高2.6	フク土	底部を欠く。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③黄橙色④TA¥D10坑-1
5	甗 土師器	口縁部 小片	口径(20.3) 現存高5.3	フク土	体部から滑らかに口縁部に至る。頸部外面までヘラケズリを施す。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥D11坑-1

## 田端地区E区第1号集石出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	白滑 玉石	略完		1集石-溝	外径1.8cm、孔径0.3cm、厚さ1.1cmである。両平坦面は割れ口のままだに近い。側面は擦って隅丸三角形を呈する。	
2	杯 土師器	1/2	口径(11.8) 器高 4.0 ●	1集石下	口縁部は内湾する。体部との境にぶい外稜をもつ。厚手。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TA¥E1集石-1
3	杯 土師器	1/6	口径(14.4) 現存高4.0 ……	1集石下	口縁部は直立する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E1集石-12
4	皿 須恵器	1/6	口径(27.0) 現存高3.3	1集石下	底部中央を欠く。口唇部に凹線をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面はヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰白色④TA¥E1集石-2
5	甗 土師器	口縁部 ～体部	口径 21.6 現存高8.0 ……	1集石下	体部中位以下を欠く。体部に丸みがなく、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TA¥E1集石-7
6	甗 須恵器	口縁部 ～体部	口径(25.0) 現存高14.0 ……	1集石下	体部中位以下を欠く。頸部は外反して立ち上がり、口縁部外面は1.7cmほどの長さで厚くなる。外面は平行タタキ目、内面同心円の当て具痕を残す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TA¥E1集石-4
7	甗 須恵器	口縁部 ～体部	…… 現存高10.2 ……	中央北寄 石組中	体部中位以下を欠く。頸部は外反して立ち上がり、口唇部は尖り気味になる。内外面ヨコナデを施す。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TA¥E1集石-14
8	甗 土師器	底部	…… 現存高3.3 底径 6.3	1集石下	体部以上を欠く。外底は突出しており、円盤状の底部をつくる。内底は黒色を呈する。外底に不明圧痕あり。	①白色粒子を含む②酸化③ぶい橙色④TA¥E1集石-8
9	甗 須恵器	体部片		1集石 下・南西 隅石組中	大形甗の体部上位破片。頸部がわずかに遺存する。外面はタタキの後、カキ目を施し、さらに丁寧なナデを加える。内面は同心円の当て具痕が残る。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TA¥E1集石-5
10	石			中央部石 組中	直方体の一部が遺存する石の破片。3面に加工痕跡がある。2次火熱を受けている。④TA¥E1集石-10	
11	石			北西隅石 組中	10によく似た石材。方柱状に加工している。2次火熱を受けている。④TA¥E1集石-9	

遺物観察表

田端地区E区第2号集石出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	杯土師器	½	口径(11.3) 器高 3.5 ●	フク土	口縁部は内湾する。体部外面は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。口縁部外面にスス付着。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-1
2	杯土師器	½	口径(10.9) 器高 3.6 ●	フク土	口縁部は直立する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-4
3	杯土師器	½	口径(13.3) 器高 3.7	フク土	口縁部は内湾気味に立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-5
4	杯土師器	½	口径(13.5) 器高 3.8 ●	フク土	口縁部は薄くなって内湾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-6
5	皿土師器	½	口径(19.0) 器高 4.3 ●	フク土	口縁部は屈曲して外反する。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。体部と口縁部との境にぶい外稜をもつ。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-7
6	皿須恵器	¼	口径(27.4) 器高 2.5	フク土	底部中央を欠く。口唇部に凹線をもつ。外底は回転ヘラケズリを施す。器表の摩滅著しい。内底近くに土師器破片がついて取れない。	①砂粒を含む②還元③黄灰色④TAYE2集石-8
7	壺須恵器	½	口径(11.3) 器高 13.7 底径 (8.7)	フク土	底部中央を欠く。口縁部は短く、外反して立ち上がる。内外面ともロクロナデを施す。底部は厚手。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TAYE2集石-11
8	甕土師器	口縁部 ～体部	口径(14.1) 現存高6.0 ……	フク土	体部中位以下を欠く。口縁部は強く外反する。肩部以下の外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TAYE2集石-9
9	甕土師器	脚部	…… 現存高3.7 底径 9.6	フク土	脚部はほぼ遺存し、体部以上を欠く。偏平な脚部で、本体との接合外面はタテ方向にナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-10
10	甕土師器	口縁部 ～体部	口径(22.0) 現存高4.5 ……	フク土	体部中位以下を欠く。体部は丸みをもたず、口縁部は強く「く」字状に外反する。頸部以下の外面はヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TAYE2集石-20

田端地区E区第4号集石出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	剥片滑石	小片		4集石	加工痕のみられない剥片。長さ1.7cm、幅1.0cm、厚さ最大0.3cmである。 ④TAYE4集石-21	
2	杯手づくね	完形	口径 6.1 器高 4.1 底径 4.3	4集石	厚手。内面に指頭痕が残る。外面の仕上げは雑である。外底に木葉痕が残る。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TAYE4集石-15
3	杯手づくね	完形	口径 6.5 器高 6.3 底径 4.3	4集石	底部に厚味がある。体部にやや丸みがあり、口縁部は歪む。外底は平らで、木葉痕がある。内面は黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③ぶい橙色④TAYE4集石-14

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
4	杯 手づくね	完形	口径 7.4 器高 6.3 底径 4.8	4集石	体部に厚味があり、口縁部は歪む。内底に指頭痕が残る。外底は平坦で、木葉痕がある。体部上位の内面はヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE4集石-13
5	杯 手づくね	小片	…… 器高 4.7 ……	4集石	小片から復原したため、整った形状を示す。底部に厚味があり、口縁部は直立する。内面は黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE4集石-16
6	杯 須恵器	1/6	口径(11.1) 器高 3.9 底径 (6.5)	参考	底部中央を欠く。体部は直線的に開き、口唇部尖り気味である。外底はヘラ切りの後、ナデを施す。内底は丁寧なヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TAYE4集石-12
7	杯 土師器	略完	口径 11.4 器高 3.2 ●	参考	体部と口縁部との境に外稜をもつ。口縁部は直立して外反する。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-3
8	杯 土師器	略完	口径 10.9 器高 3.4	4集石	口縁部は外反する。体部との境にぶい外稜をもつ。器表の摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE4集石2
9	杯 土師器	1/6	口径 12.7 器高 3.9	4集石	口縁部は直立する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE4集石-5
10	杯 土師器	略完	口径 11.1 器高 2.8 ●	参考	口縁部は外反して立ち上がる。体部との境にぶい外稜をもつ。口唇部に丸みあり。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-7
11	杯 土師器	1/6	口径(12.3) 器高 3.6	4集石	口縁部は外反する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-23
12	杯 土師器	1/6	口径 14.3 器高 4.9 ●	4集石	体部と口縁部との境にぶい外稜がある。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデ、口縁部は強いヨコナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-8
13	杯 土師器	1/6	口径 11.8 器高 4.7	4集石	口縁部は直立する。体部との境に外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TAYE4集石-4
14	杯 土師器	略完	口径 10.7 器高 3.6 ●	4集石	口縁部は直立する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。器表の摩滅著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-9
15	杯 土師器	1/6	口径 10.7 器高 3.2 ●	4集石	口縁部は短く、内傾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-10
16	杯 土師器	略完	口径 10.5 器高 3.0	4集石	口縁部は内傾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-1
17	杯 土師器	略完	口径 14.1 器高 3.6 ●	4集石	口縁部は内傾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色④TAYE4集石-6
18	壺 須恵器	頸部	現存高4.6 ……	参考	長頸壺の頸部か。外面に2本の凹線をもつ。頸部内面が遺存する。	①白色粒子を含む②還元③灰色④TAYE4集石-17

## 遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
19	甕 土師器	口縁部 ～体部	口径(20.7) 現存高15.9 ……	4集石	体部下位以下を欠く。体部に丸みがなく、口縁部は「く」字状に外反する。体部外面はタテ方向のヘラケズリ、内面はナデを施す。	①砂粒を多く含む②酸化 ③にぶい橙色 ④TA#E4集石-20

## 田端地区E区第3・5号溝出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	蓋 須恵器	完形	口径 10.8 器高 3.9 ツマミ1.6	3・5溝	口縁部内面にカエリをもつ。カエリは口縁部と同じ高さである。ツマミの頂部は尖っており、宝珠形を呈する。天井部外面はヘラケズリを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰色、硬質④TA#E3・5溝-1
2	皿 須恵器	口縁部 小片	口径(26.1) 現存高4.1	3・5溝	口縁部内面に段をもつ。小片のため径復原に疑問あり。外底は回転ヘラケズリを施す。	①白色粒子を含む②還元 ③灰色④TA#E3・5溝-15
3	杯 須恵器	%	口径 9.6 器高 3.3 ●	3・5溝	底部から体部は滑らかに移行する。口縁部は尖り気味で、わずかに外反する。外底はヘラ切りの後、ナデを加える。	①細砂粒を含む②還元③灰色④TA#E3・5溝-1
4	杯 土師器	%	口径 9.7 器高 3.5 ●	3・5溝	口縁部は内湾気味に立ち上がる。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化 ③TA#E3・5溝-4
5	杯 土師器	略完	口径 10.0 器高 3.2 ●	3・5溝	口縁部は短く、内湾して立ち上がる。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA#E3・5溝-3
6	杯 土師器	%	口径 10.6 器高 3.1	3・5溝	口縁部は内湾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA#E3・5溝-7
7	杯 土師器	%	口径 10.3 器高 2.8 ●	3・5溝	口縁部は短く、肥厚して内湾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA#E3・5溝-8
8	杯 土師器	%	口径 10.2 器高 2.4	3・5溝	口縁部は短く、直立する。2次火熱を受けている。外面の器表は摩滅している。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA#E3・5溝-6
9	杯 土師器	%	口径 10.7 器高 3.0 ●	3・5溝	口縁部は内湾する。体部との境にぶい外稜をもつ。外底は非回転のヘラケズリを施す。外底は黒色を呈する。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA#E3・5溝-5
10	羽 釜 土師質	口縁部 ～体部	…… 現存高6.5 ……	3・5溝 -10	体部中位以下を欠く。鋳の断面は三角形を呈する。口唇部は丸い。内外面クロロナデを施す。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色 ④TA#E3・5溝-10
11	杯 須恵器	¼	口径 (8.9) 器高 2.9 底径 5.7	5溝	体部は直線的に開く。外底はヘラ切りの後、ナデを施す。	①黒色粒子を含む②還元、硬質③灰色④TA#E5溝-1
12	杯 土師器	¼	口径(11.0) 器高 2.6	5溝	口縁部は直立する。体部との境にぶい外稜をもつ。内外面の器表摩滅が著しい。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA#E5溝-4
13	高台付 須恵器	略完	口径 12.7 器高 4.6 高台 5.8	5溝	体部中位に膨らみがあり、口縁部は外反する。内底中央は割れて、欠く。外底は右回転糸切り後、高台貼付け。	①白色粒子を含む②還元 ③灰白色④TA#E5溝-2



番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
14	高台付碗 土師質	体部 ～底部	…… 現存高3.7 高台 7.4	5溝	体部中位以上を欠く。体部は厚手で、高台は「ハ」字状に開く。	①砂粒を含む②酸化気味の還元③にぶい橙色 ④TA¥E5溝-3

田端遺跡 水田跡出土遺物観察表

番号	器種	遺存	法量	出土位置	特徴	①胎土②焼成③色調④備考
1	台付鉢? 土師器	底部 ½	…… 現存高3.2	10層	手づくね土器。本体は鉢または杯または甕が考えられる。台脚部との接合部はタテ方向にナデを施す。	①精良②酸化③にぶい橙色 ④TA¥EG-25
2	杯 土師器	¾	口径 10.7 器高 3.0	O-5・10 層	口縁部は内湾して立ち上がる。外底は非回転のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③橙色 ④TA¥EG-23
3	杯 土師器	½	口径(11.7) 器高 3.5	11層採	口縁部は直立する。外底は非回転のヘラケズリを施す。内面は丁寧なナデ。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥EG-50
4	皿 土師器	口縁部 小片	口径(22.2) 現存高4.2 ……	10層	口縁部と体部との境に外稜をもつ。口縁部は直線的に立ち上がる。外底はヘラケズリ、内面は丁寧なナデを施す。	①細砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥EG-34
5	杯 土師器	口縁部 ～体部 ½	口径(13.1) 現存高5.8 ……	10層	鉢状に開く、やや深い手の杯。口縁部直下の外面に段がある。体部外面はヨコ方向のヘラケズリを施す。	①砂粒を含む②酸化③にぶい橙色④TA¥EG-35
6	高杯 土師器	脚部 ½	現存高3.4 底径(11.8)	T06・10 層	杯部を欠く。杯部との接合部は厚手で、ナデを施す。裾部は内外面ともヨコナデ。	①砂粒を多く含む②酸化③にぶい橙色④TA¥EG-26
7	壺 須恵器	口縁部 ～体部 ¼	口径(9.4) 現存高4.7 ……	11層	体部下半以下を欠く。口縁部は直立し、口唇部内側は丸く肥厚する。内外面ともヨコナデを施す。	①細砂粒を含む②還元③灰白色④TA¥EG-43
8	杯 土師器	口縁部 小片	現存高1.4 ……	水田	口縁部は体部から折り曲げたような短いもの。器表の荒れが著しい。	①砂粒を多く含む②酸化③橙色④TE¥水田-1



# 写 真 图 版



田端地区B区 南側道（東から）



田端地区B区 北側道（南から）



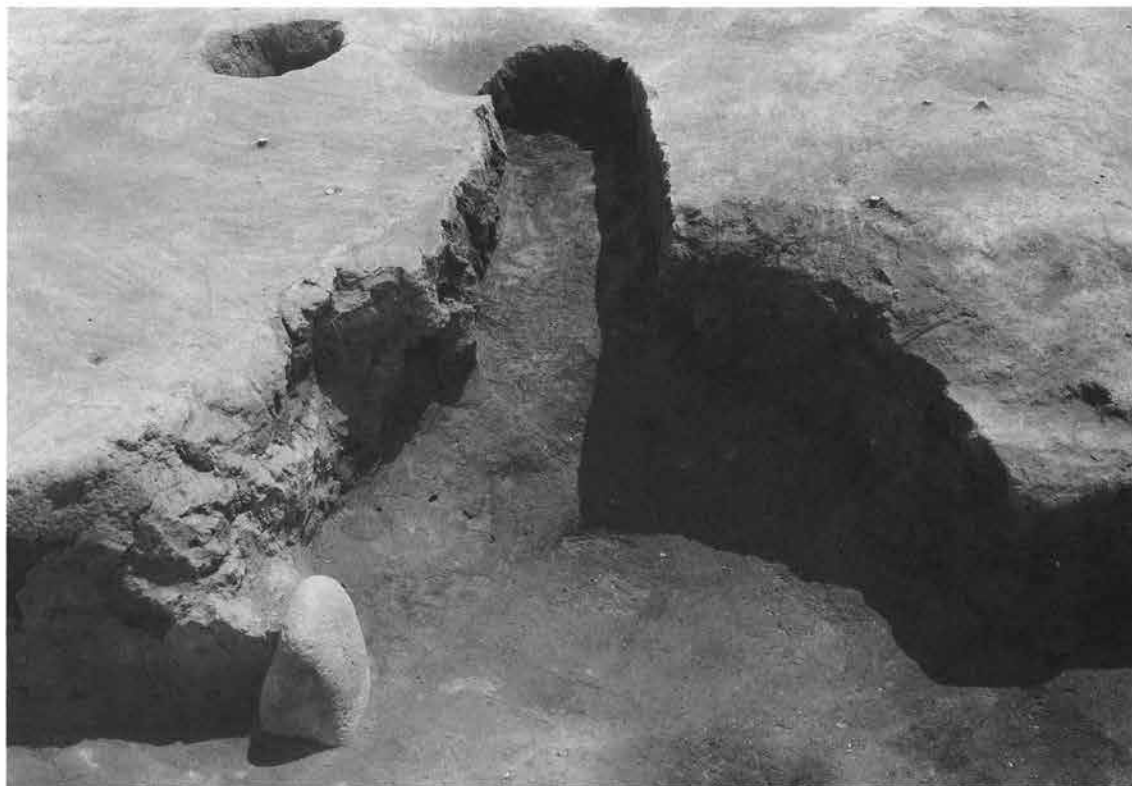
田端地区C区 南側道（西から）



田端地区B区 121号住居跡 (西から)



122号住居跡 (北から)



田端地区B区 122号住居跡カマド



123号住居跡 (西から)





田端地区B区 123号住居跡カマド



124号住居跡 (西から)



田端地区B区 125号住居跡（南西から）



125号住居跡カマド



田端地区B区 126号住居跡 (西から)



127号住居跡 (南西から)



田端地区B区 129号住居跡（北から）



130号住居跡（西から）



田端地区B区 132号住居跡 (南西から)



同上カマド



田端地区B区 133号住居跡 (西から)



134号住居跡 (西から)



田端地区B区 135号住居跡 (南から)



137号住居跡 (南西から)



田端地区B区 138号住居跡（西から）



139号住居跡（西から）





田端地区B区 140号住居跡 (西から)



143号住居跡 (北から)



田端地区B区 143号住居跡カマド



144号住居跡 (西から)



田端地区B区 145号住居跡 (西から)



148号住居跡 (南西から)



田端地区B区 157・158号住居跡（西から）



159号住居跡（西から）



田端地区C区 1号住居跡 (南から)



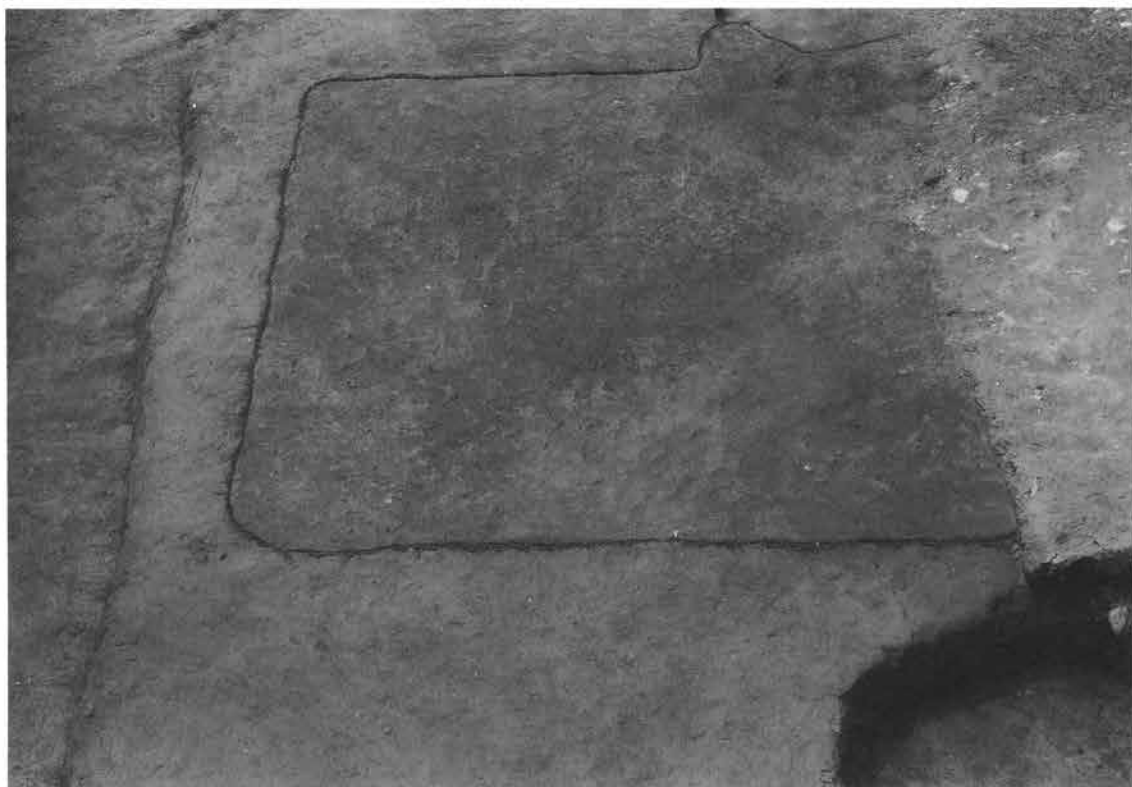
2号住居跡 (南西から)



田端地区C区 2号住居跡カマド



3号住居跡 (南から)



田端地区E区 1号住居跡 (西から)



2号住居跡 (西から)



田端地区E区 3号住居跡(東から)



25号住居跡(北東から)





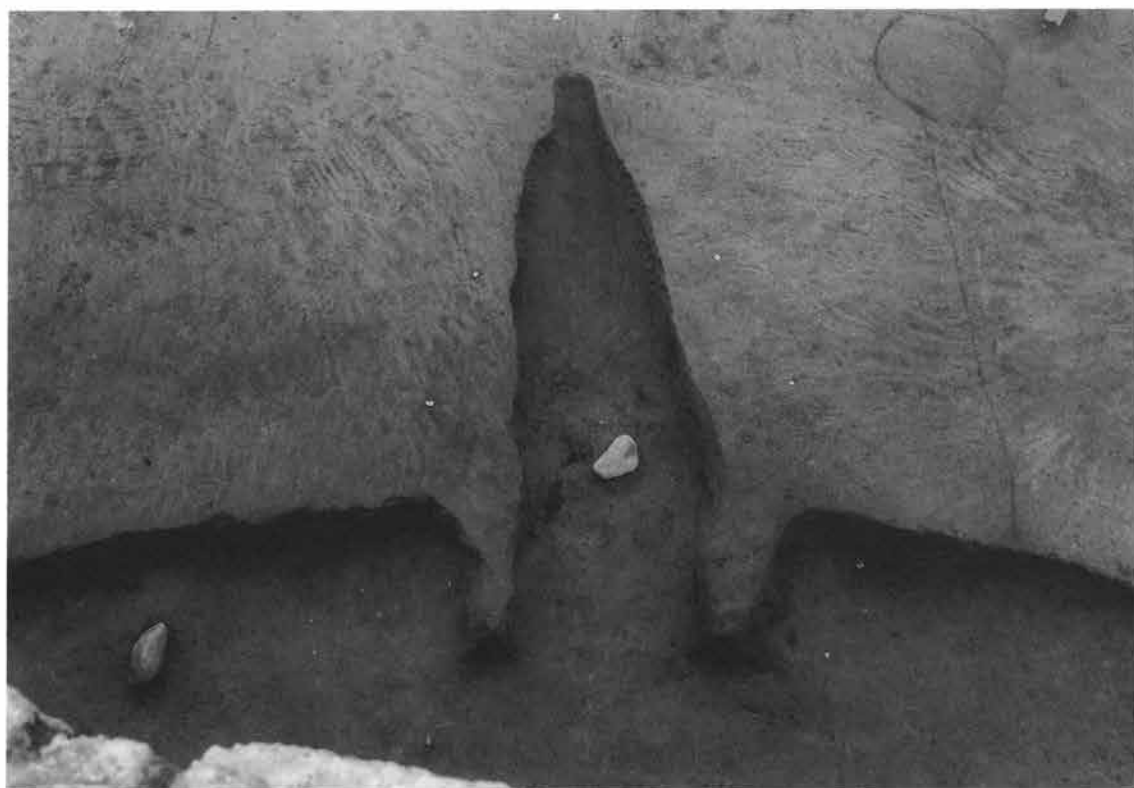
田端地区E区 27号住居跡 (西から)



同上カマド



田端地区E区 31号住居跡（東から）



同上カマド



寺東地区 2号住居跡 (西から)



5号住居跡 (南から)



寺東地区 5号住居跡カマド



6号住居跡 (西から)



寺東地区 7号住居跡 (西から)



8a・b号住居跡 1次調査 (北から)



8a・b号住居跡 2次調査（南から）



同上カマド



寺東地区 9号住居跡 1次調査 (南から)



同上 4次調査 (北から)



12号住居跡 (東から)



25号住居跡 (西から)





27号住居跡（西から）



28号住居跡（西から）



29号住居跡（西から）



34号住居跡（南西から）



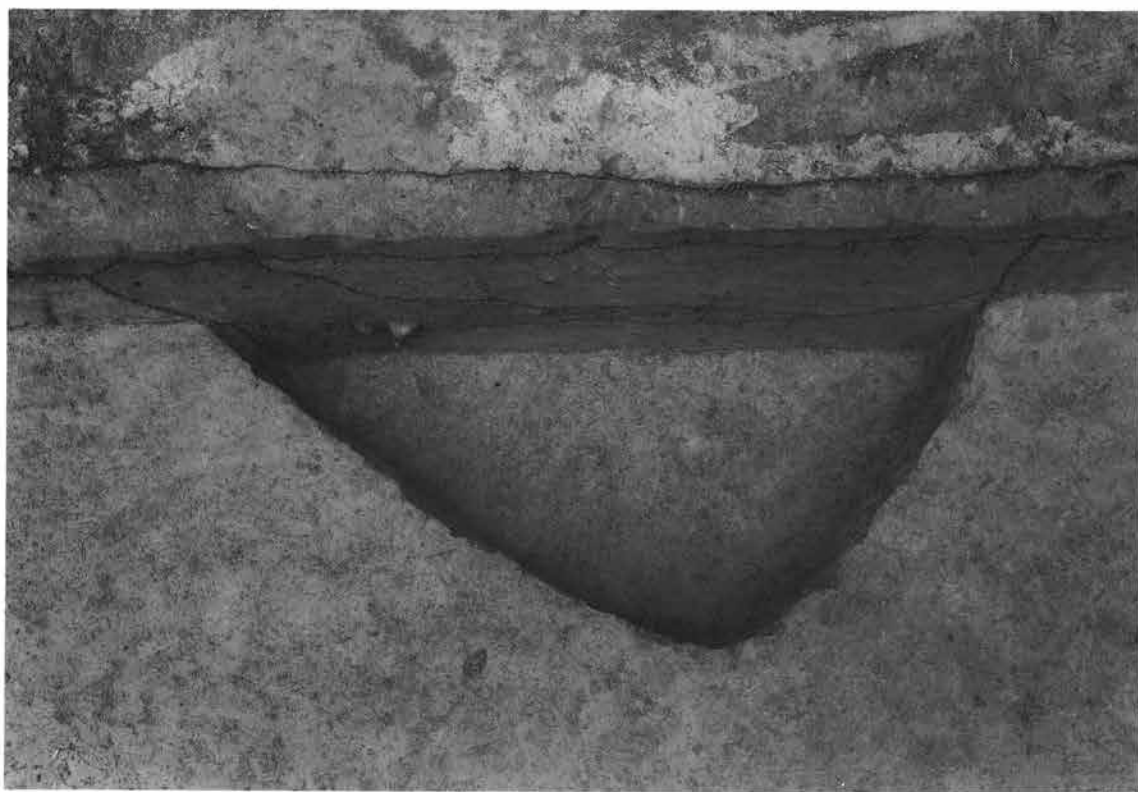
38号住居跡（北から）



50号住居跡（西から）



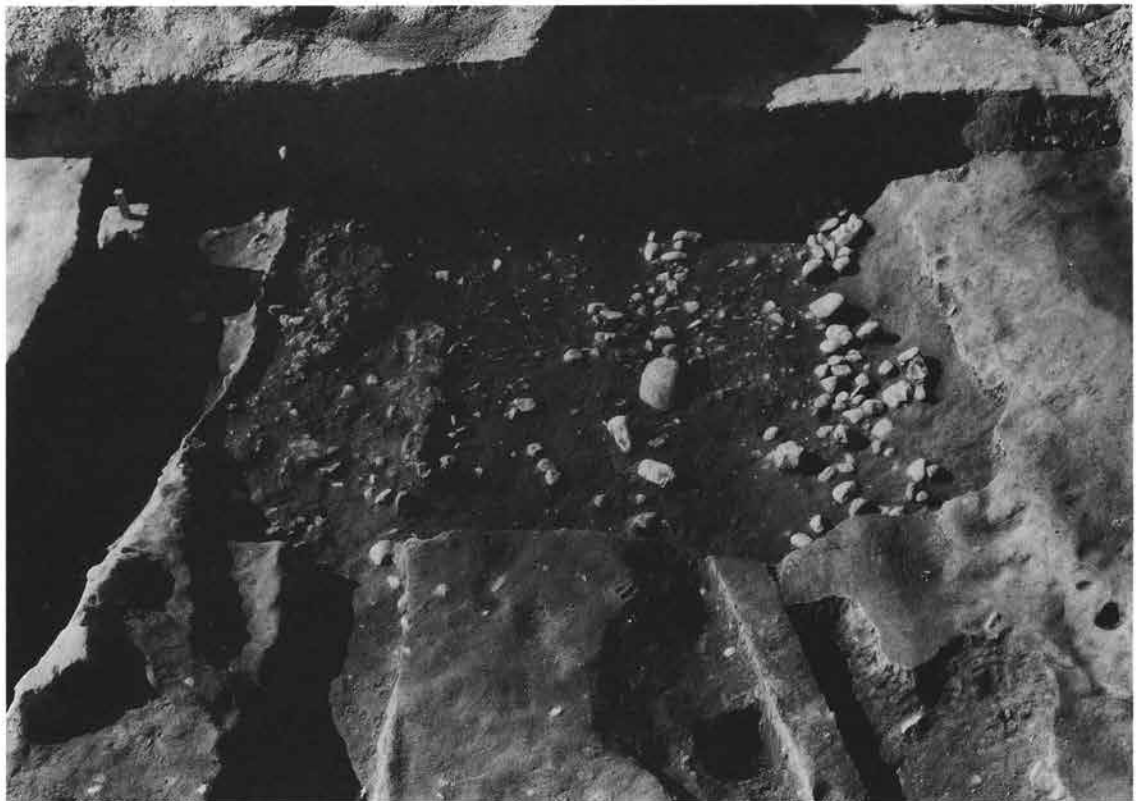
寺東地区 52号住居跡 (南西から)



61号住居跡 (南から)



B区163号遺構(1) (東から)



同上(2) (東から)



田端地区E区 5号溝 (南から)

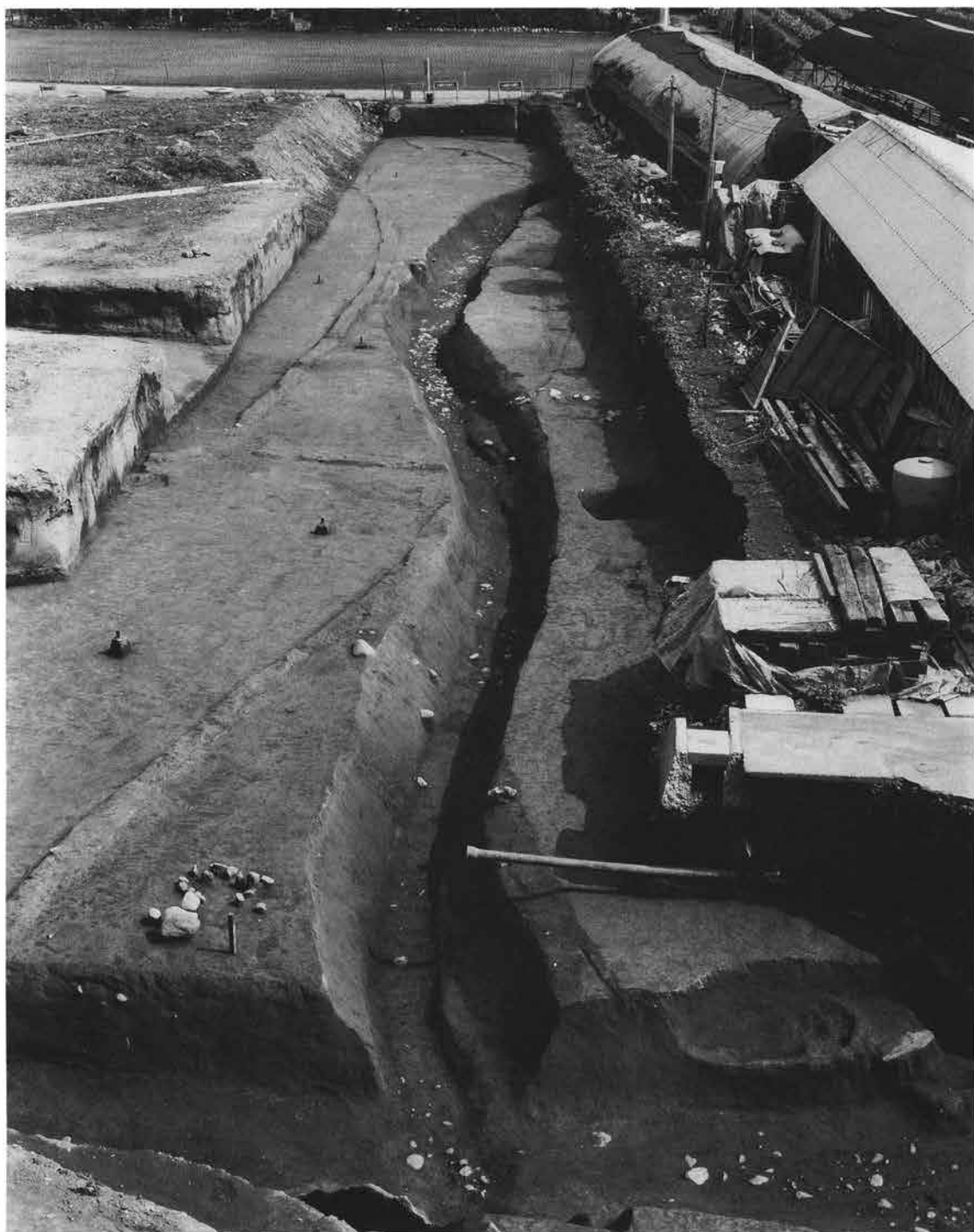


田端地区E区 1号集石と水田（東から）

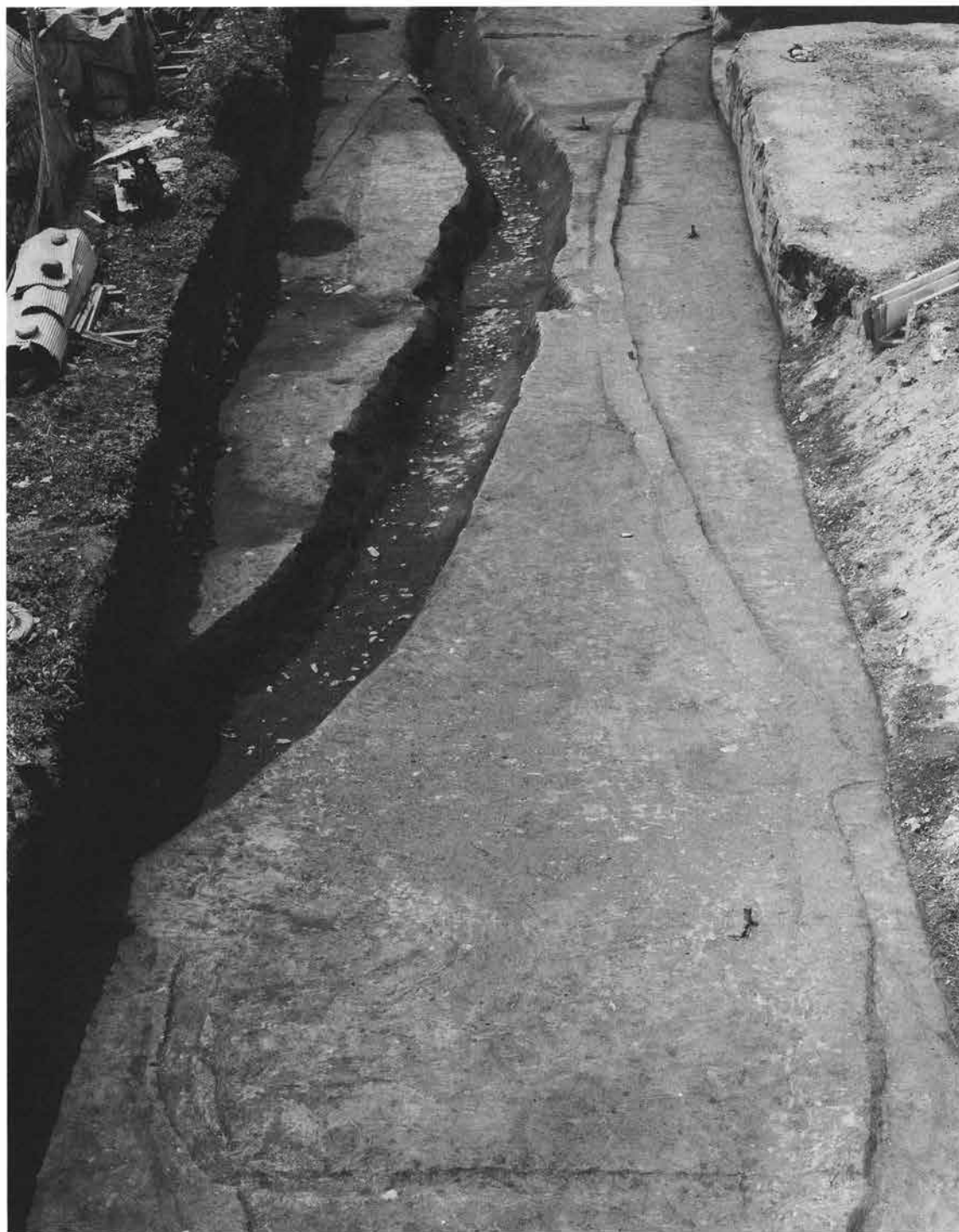


田端地区E区 水田（西から）





田端地区E区 水田（南から）



田端地区E区 水田（北から）



寺東地区 4次調査 北側道溝 (西から)



同上 北側道溝・ピット (東から)



寺東地区 4次調査 南側道 水田（西から）



寺東地区 4次調査 南側道 水田（東から）



寺東地区 4次調査 北側道（西から）



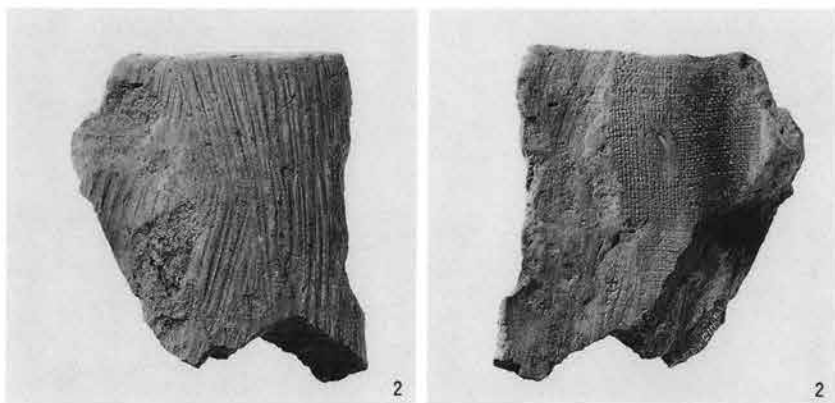
同上 溝・水田（西から）



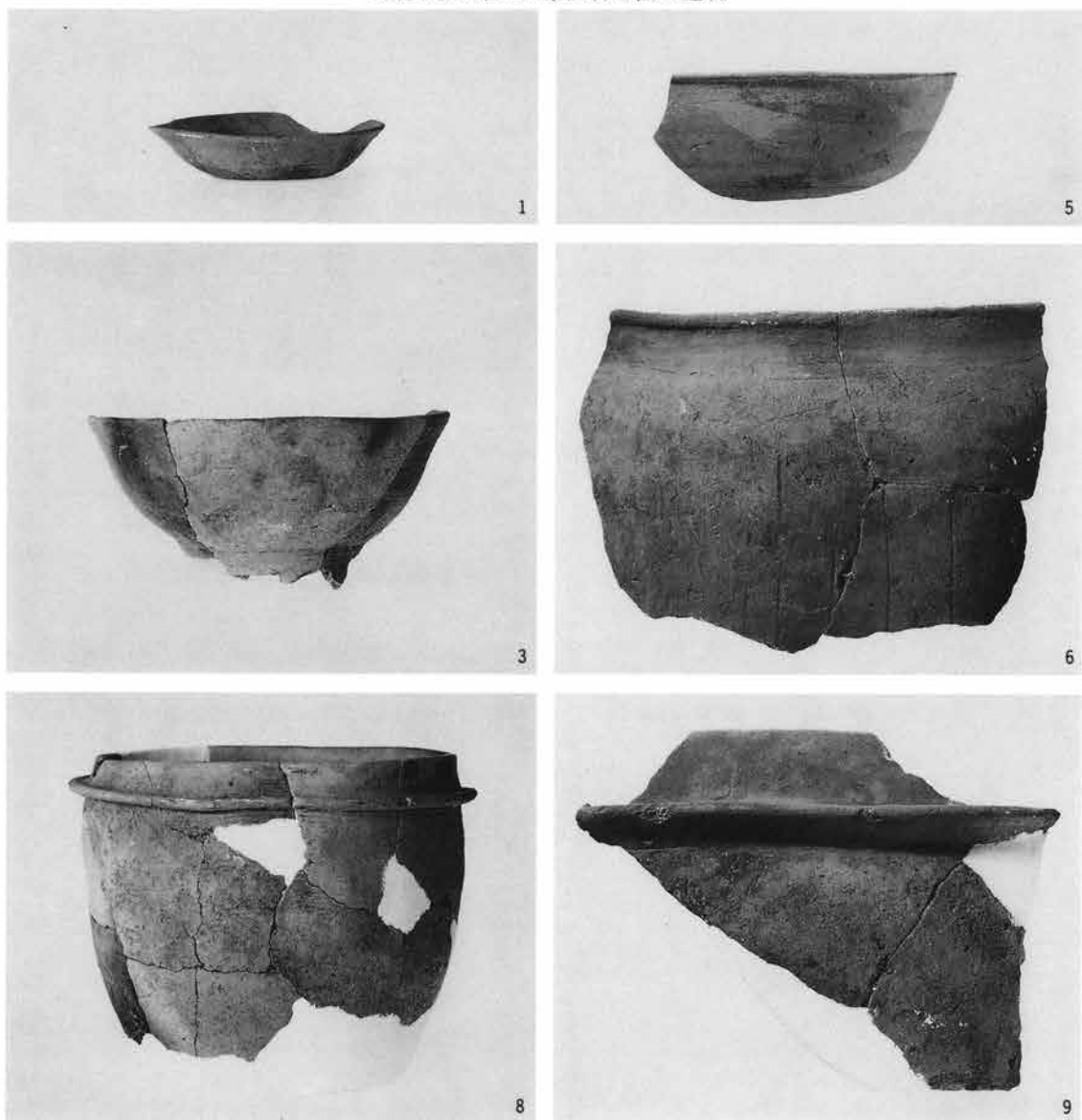
寺東地区 4次調査 北側道（東から）



4次調査 北側道 水田（東から）

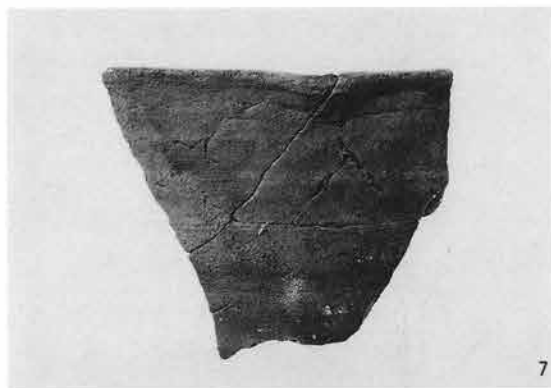
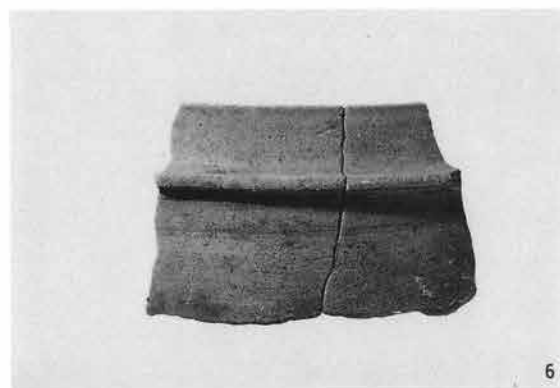
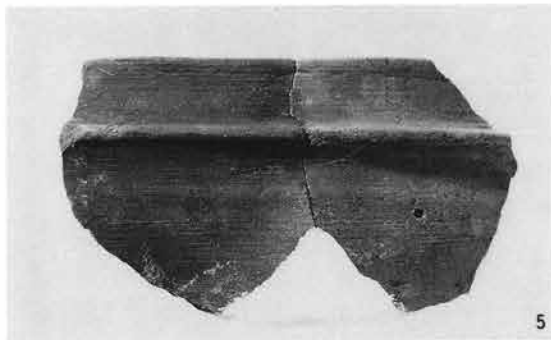
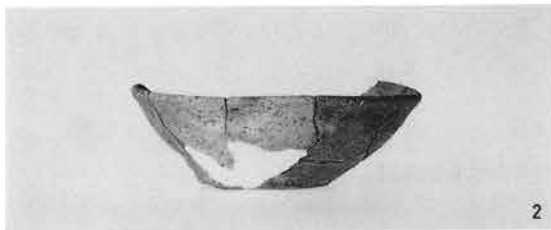


田端地区B区121号住居跡出土遺物



田端地区B区122号住居跡出土遺物





田端地区B区123号住居跡出土遺物(1)



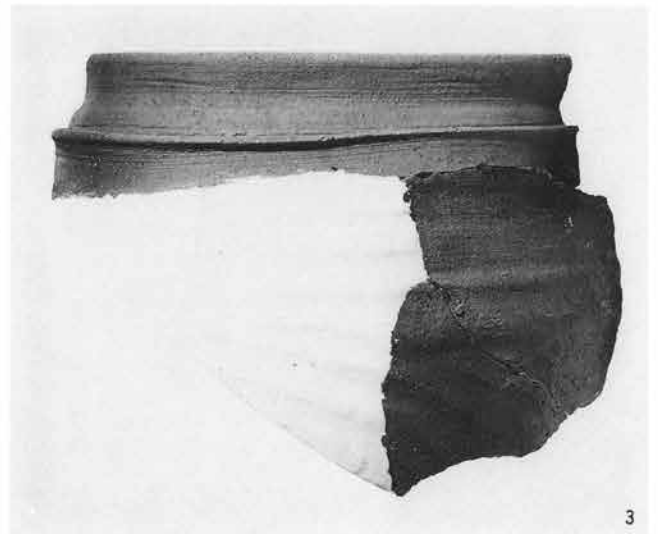
田端地区B区123号住居跡出土遺物(2)



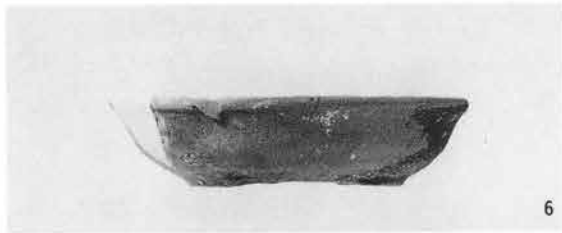
田端地区B区125号住居跡出土遺物



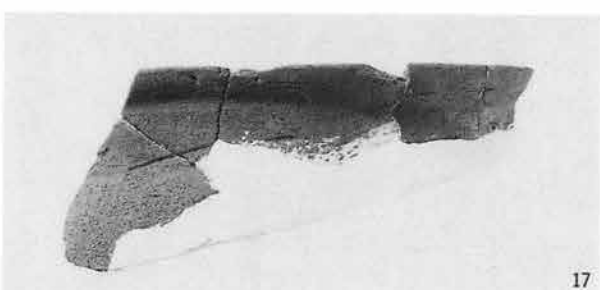
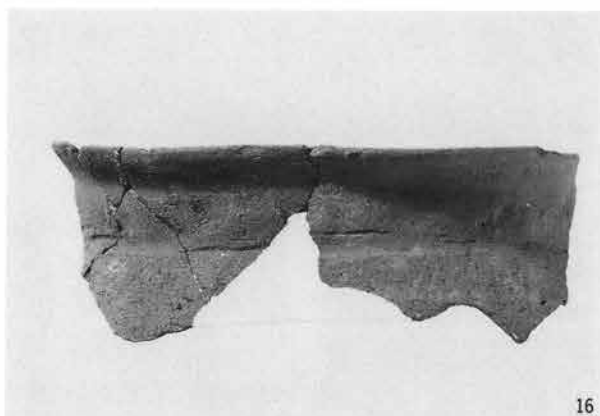
田端地区B区  
126号住居跡出土遺物



田端地区B区127号住居跡出土遺物



田端地区B区130号住居跡出土遺物(1)



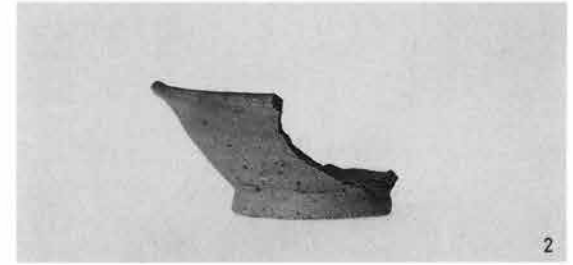
田端地区B区130号住居跡出土遺物(2)



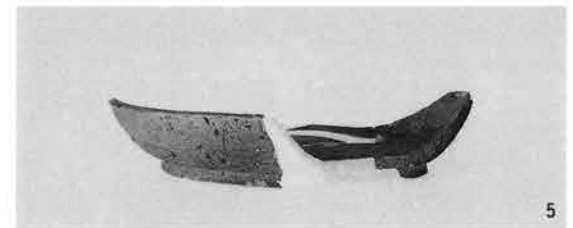
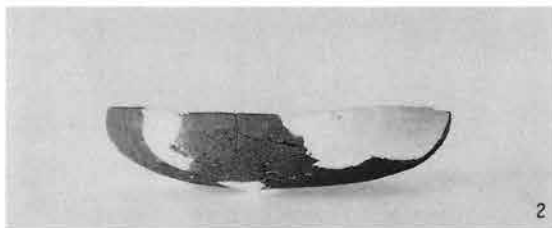
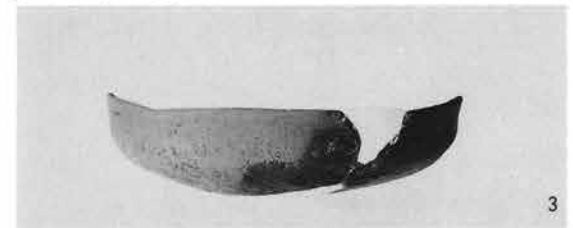
田端地区B区132号住居跡出土遺物(1)



田端地区B区132号住居跡出土遺物(2)



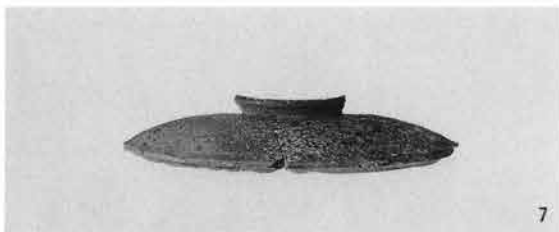
田端地区B区134号住居跡出土遺物



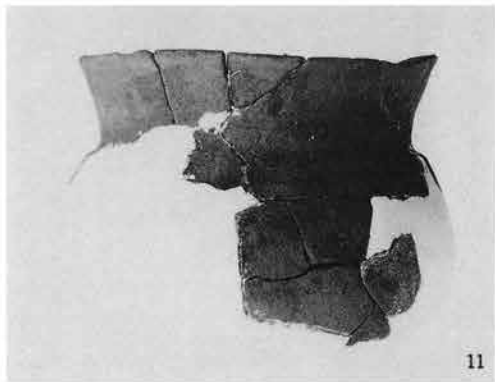
田端地区B区135号住居跡出土遺物(1)



6



7



11



8



9

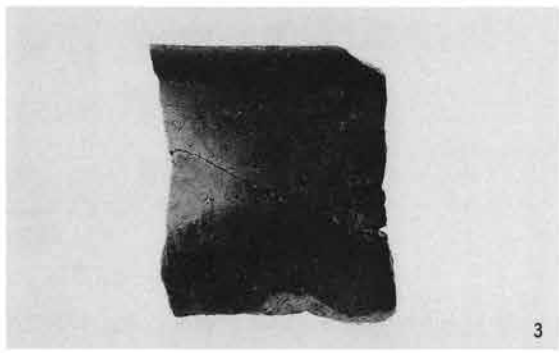
田端地区B区135号住居跡出土遺物(2)



3



1



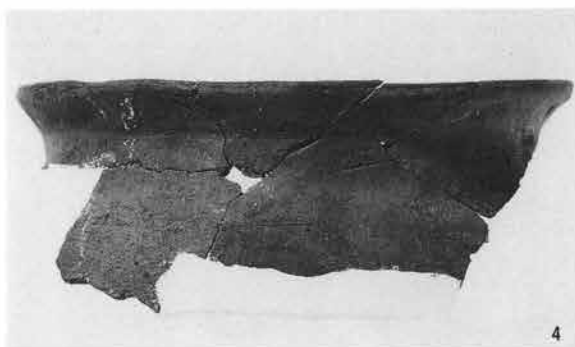
3

田端地区B区137号住居跡出土遺物



4

田端地区B区138号住居跡出土遺物



4

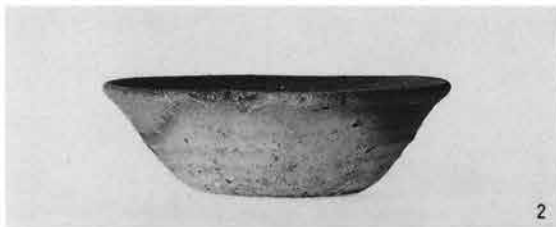


5

田端地区B区139号住居跡出土遺物



1



2



3



9



4



5



6



10

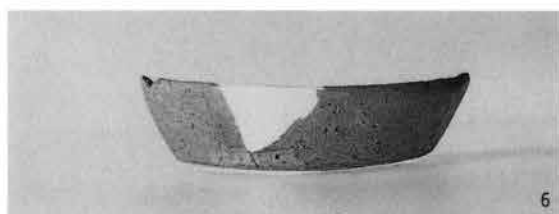
田端地区B区140号住居跡出土遺物



田端地区B区143号住居跡出土遺物

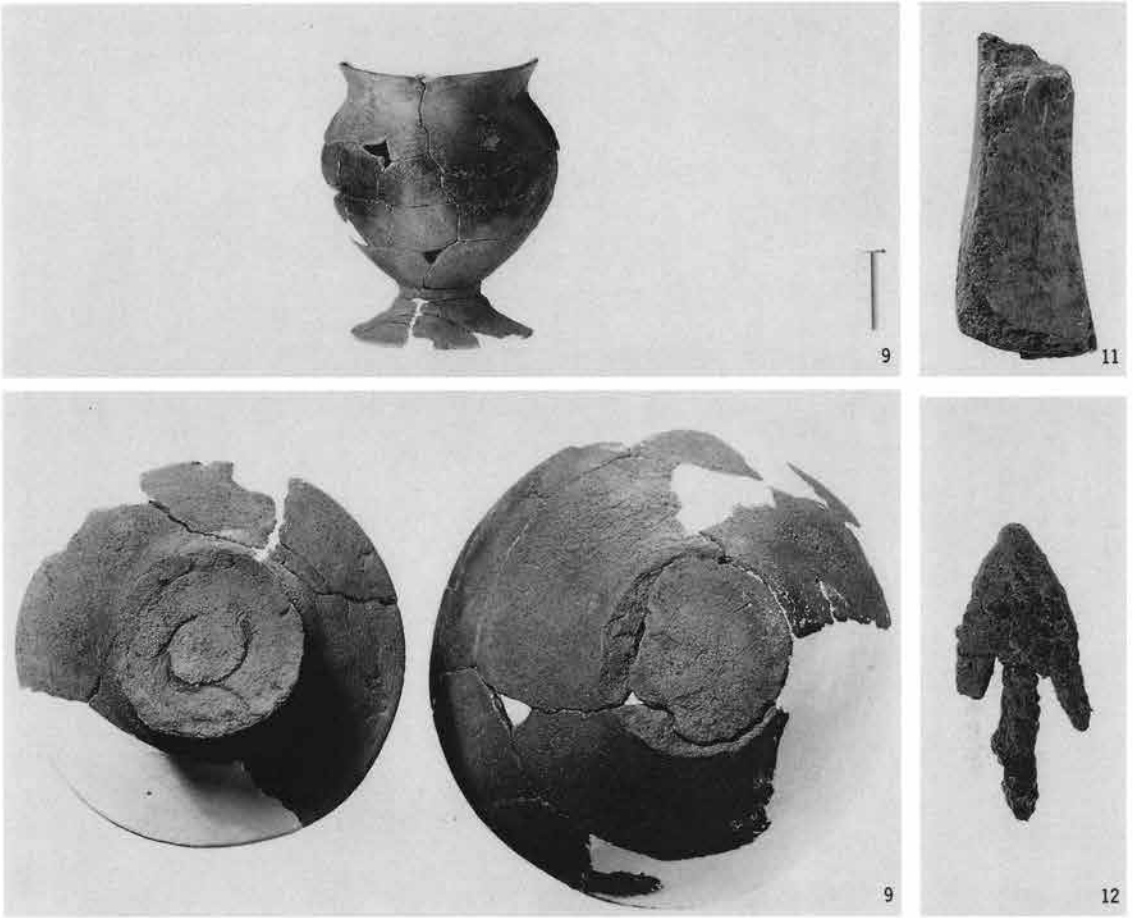


田端地区B区144号住居跡出土遺物

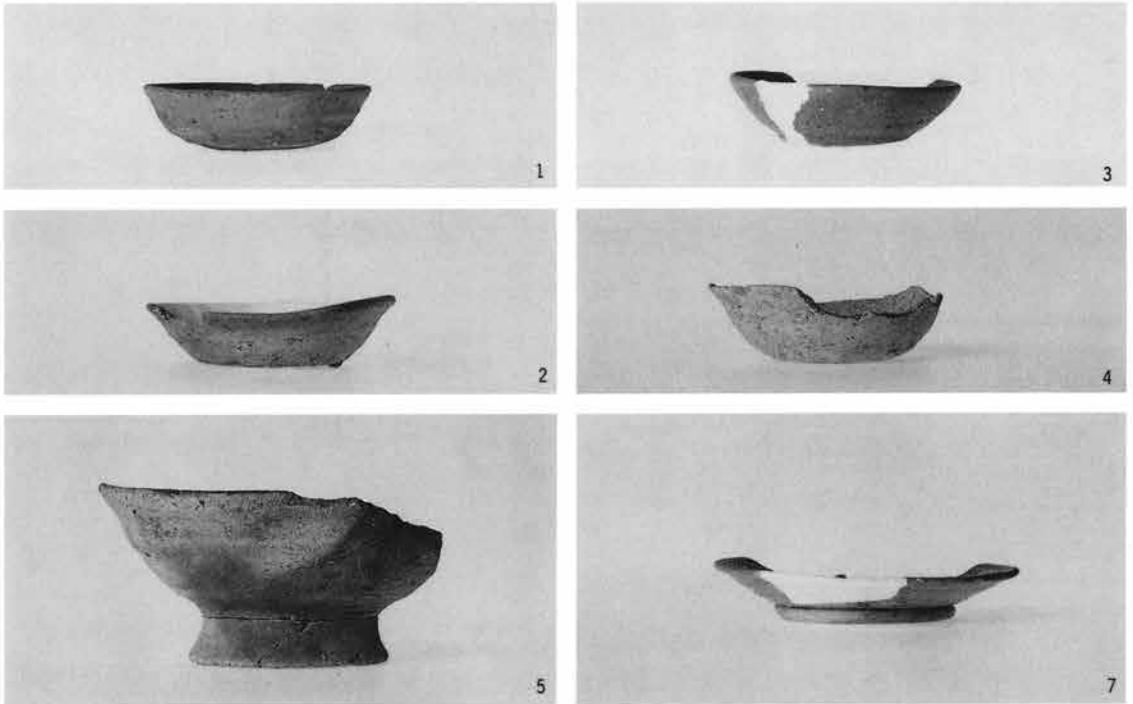


田端地区B区145号住居跡出土遺物(1)

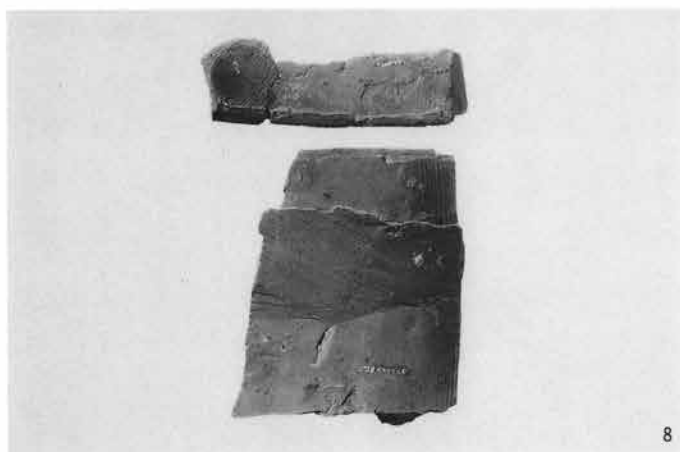
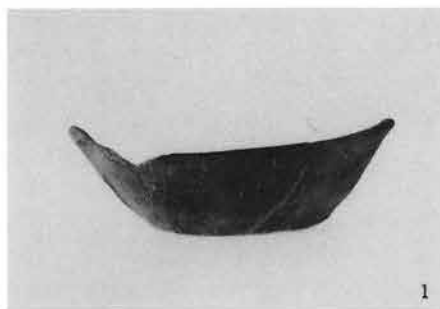




田端地区B区145号住居跡出土遺物(2)



田端地区B区148号住居跡出土遺物



田端地区B区157号住居跡出土遺物



1



4



2

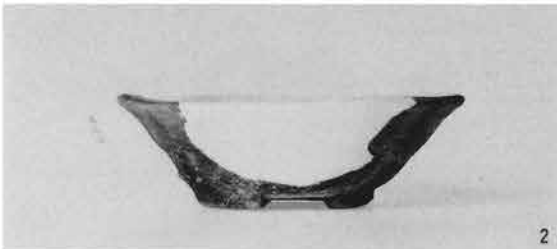


6



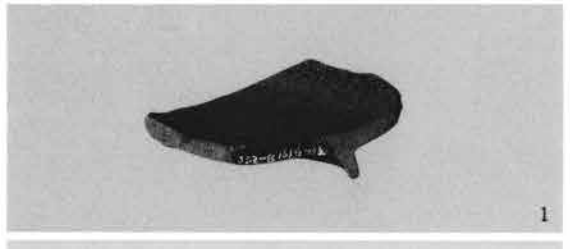
5

田端地区B区159号住居跡出土遺物



2

田端地区B区160号住居跡出土遺物



1



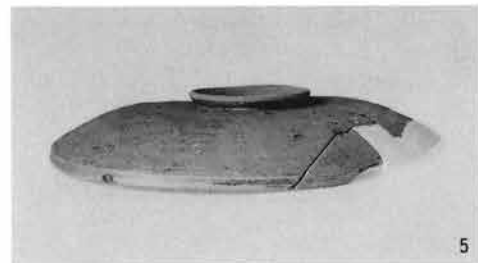
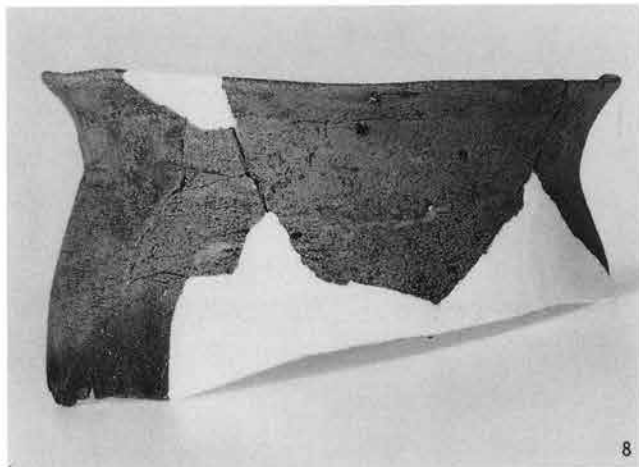
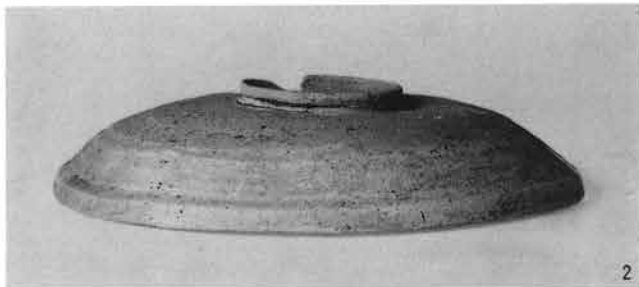
1

田端地区B区162号住居跡出土遺物

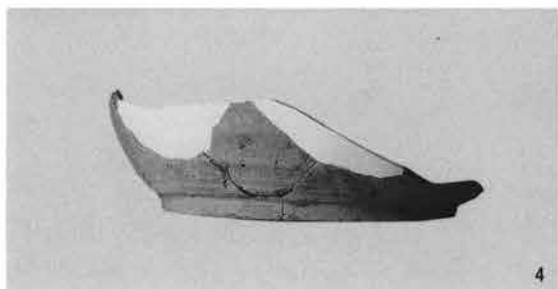


1

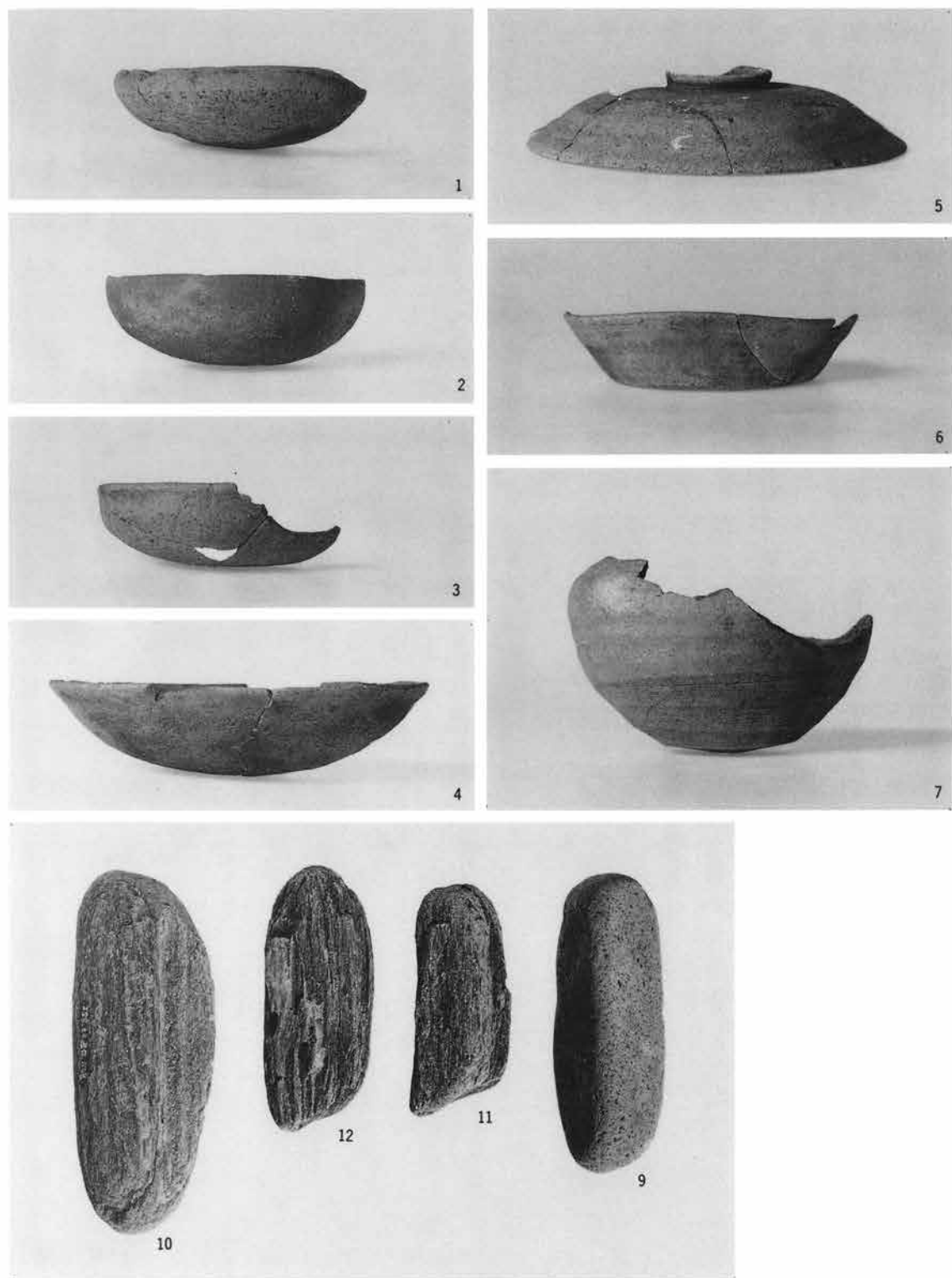
田端地区B区161号住居跡出土遺物



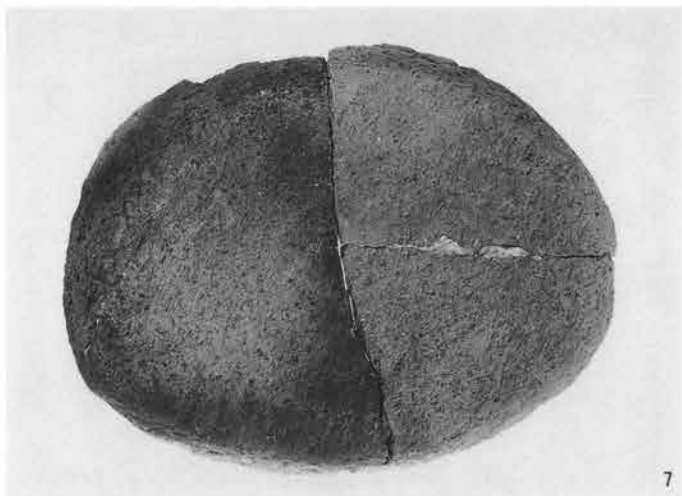
田端地区C区  
1号住居跡出土遺物



田端地区C区2号住居跡出土遺物



田端地区C区3号住居跡出土遺物



7 寺東地区  
5号住居跡出土遺物



4



6



1

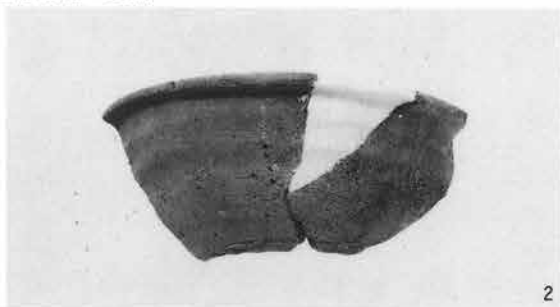


2

寺東地区6号住居跡出土遺物



1



2

寺東地区7号住居跡出土遺物

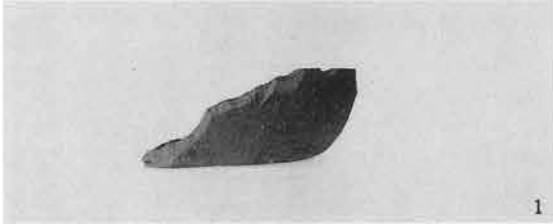


1



2

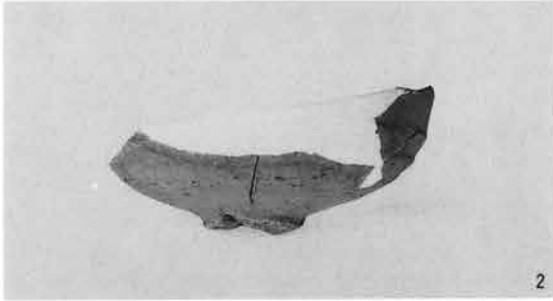
寺東地区8 a 号住居跡出土遺物



1



3



2



1



2



2

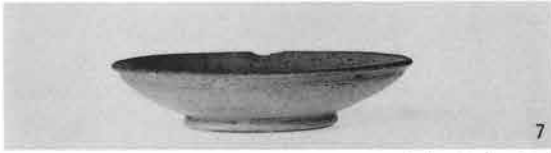


4

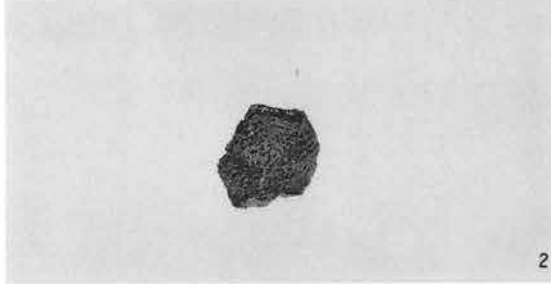
寺東地区8 b 号住居跡出土遺物

寺東地区 9 号住居跡出土遺物(1)

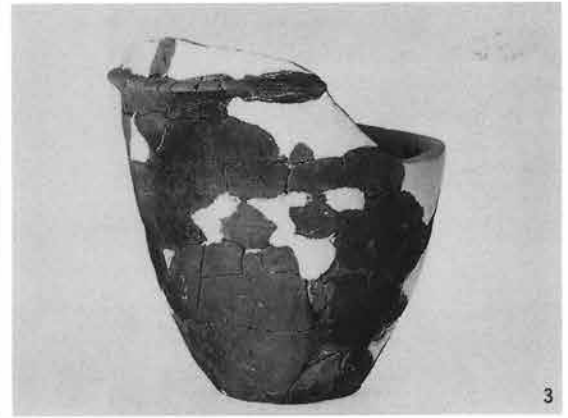




寺東地区 9号住居跡出土遺物(2)



寺東地区23号住居跡出土遺物



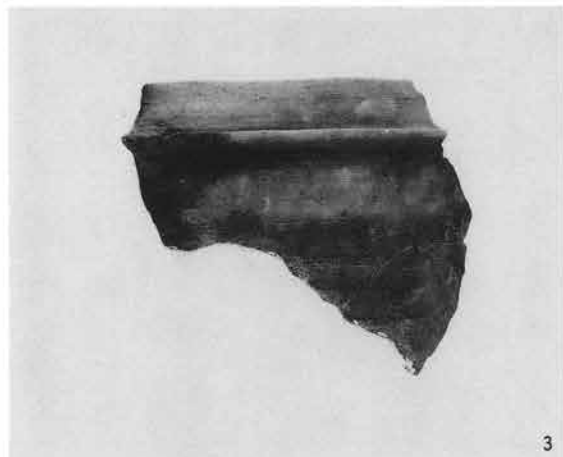
寺東地区24号住居跡出土遺物



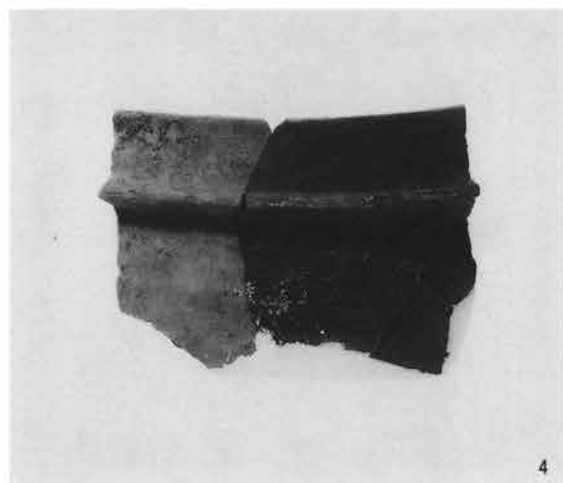
1



2



3



4

寺東地区25号住居跡出土遺物



1

寺東地区26号住居跡出土遺物



1

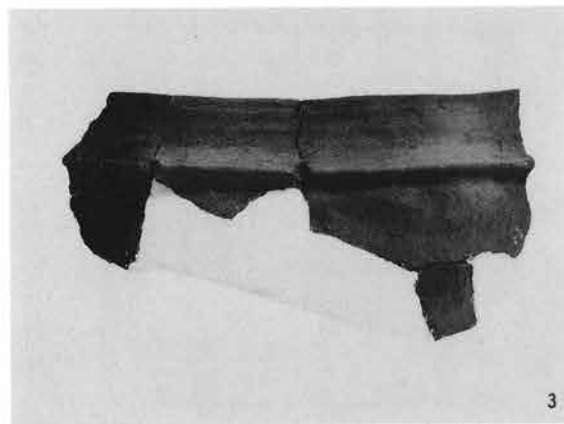
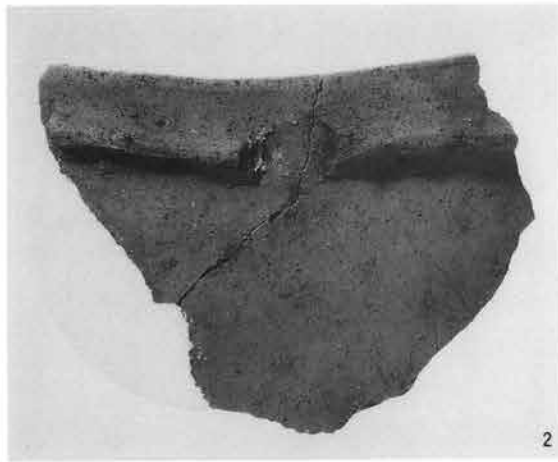
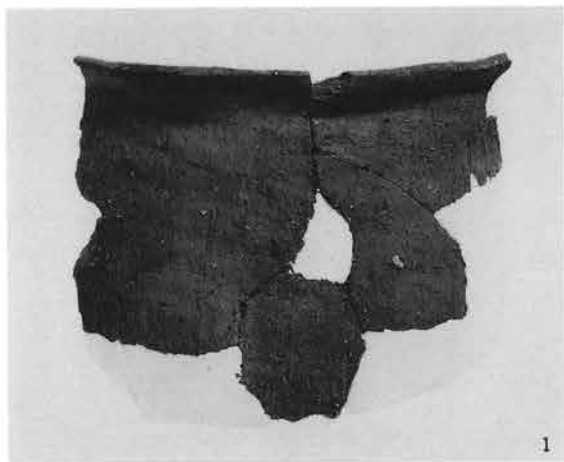


2



3

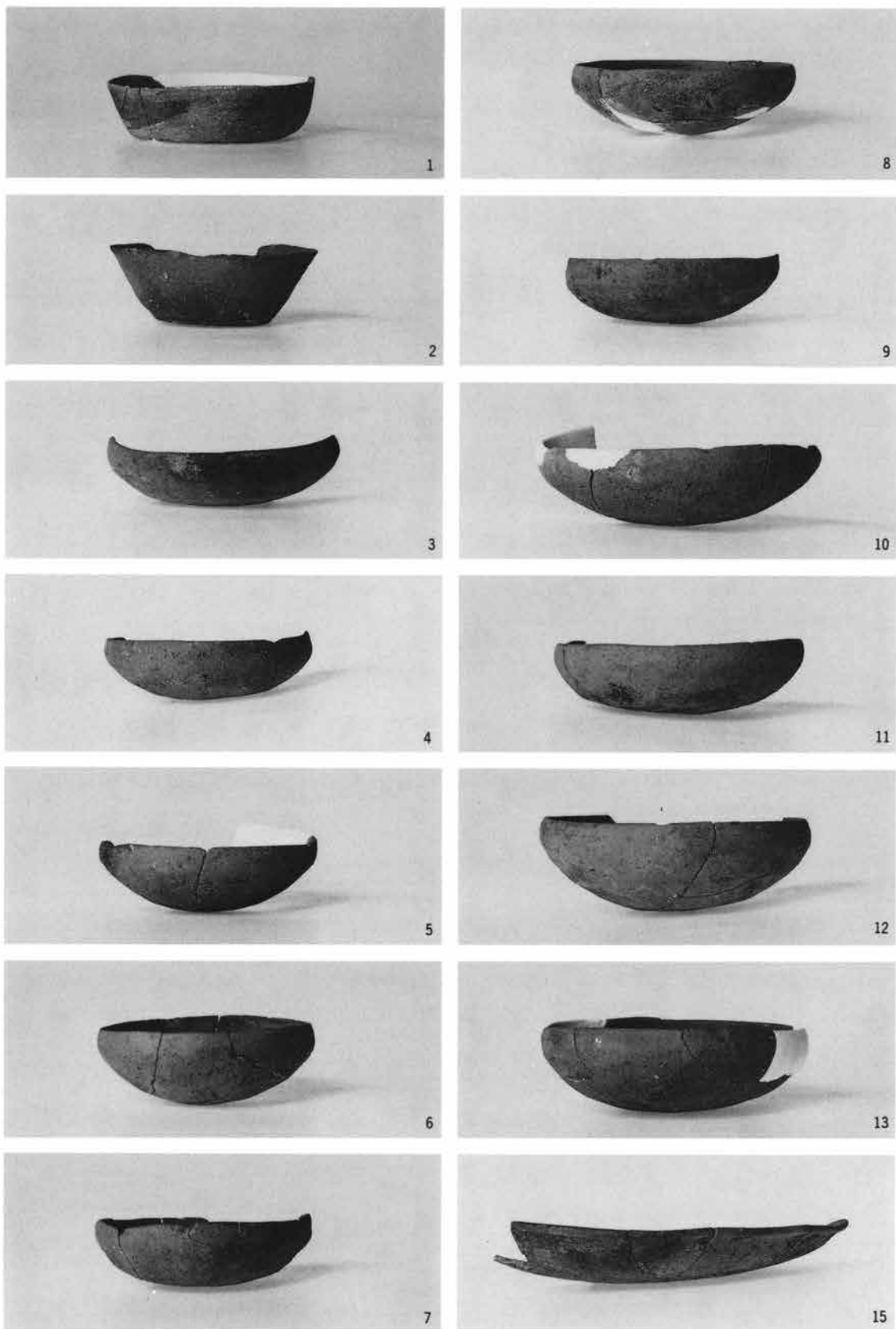
寺東地区27号住居跡出土遺物



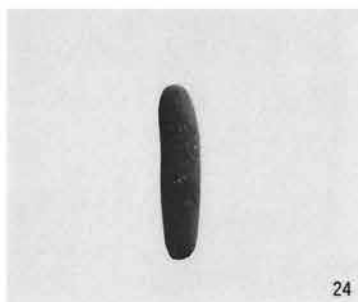
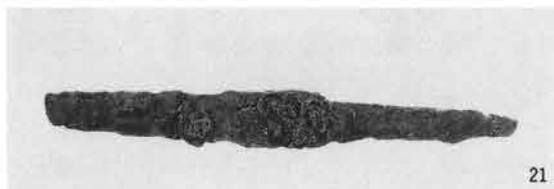
寺東地区28号住居跡出土遺物



寺東地区29号住居跡出土遺物



寺東地区34号住居跡出土遺物(1)



寺東地区34号住居跡出土遺物(2)



1

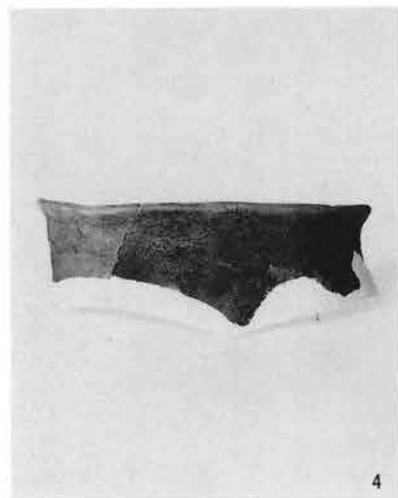


3



2

寺東地区50号住居跡出土遺物

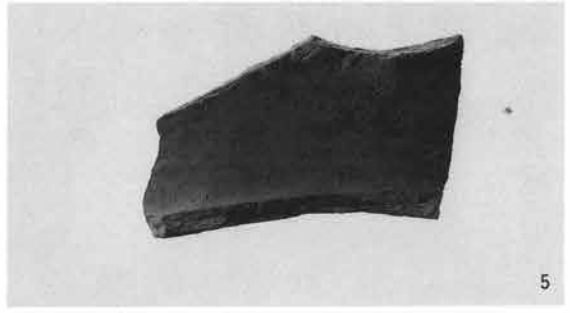
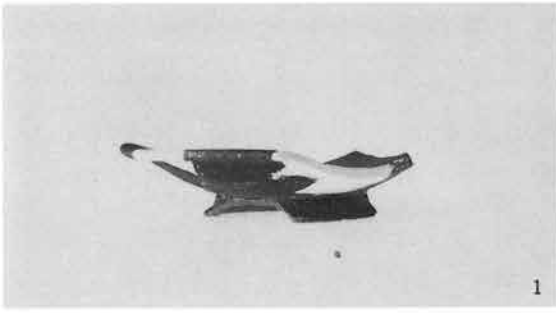


4



6

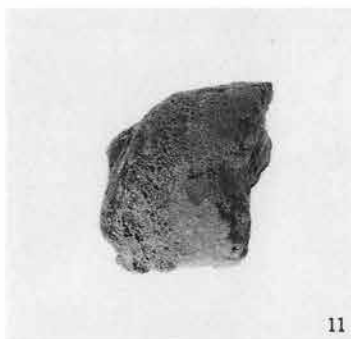
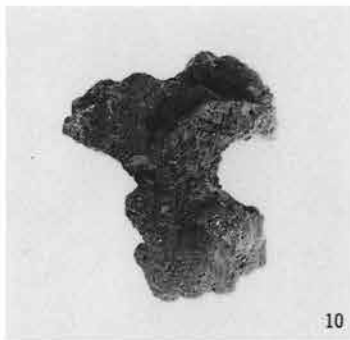
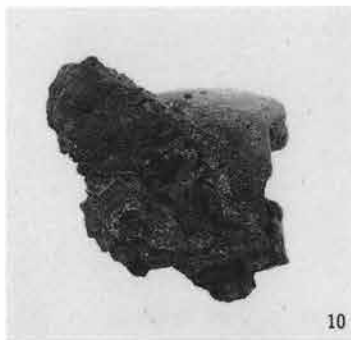
寺東地区52号住居跡出土遺物



田端地区A区1号沟出土遗物

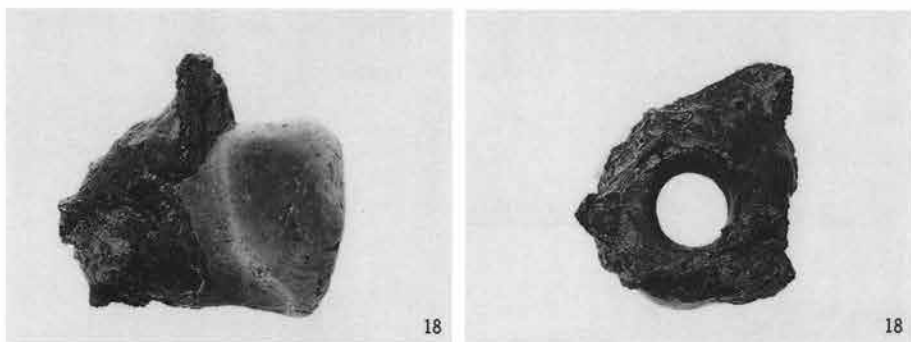
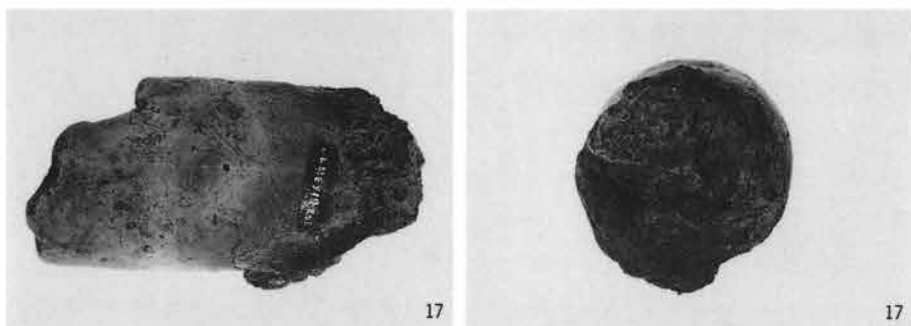
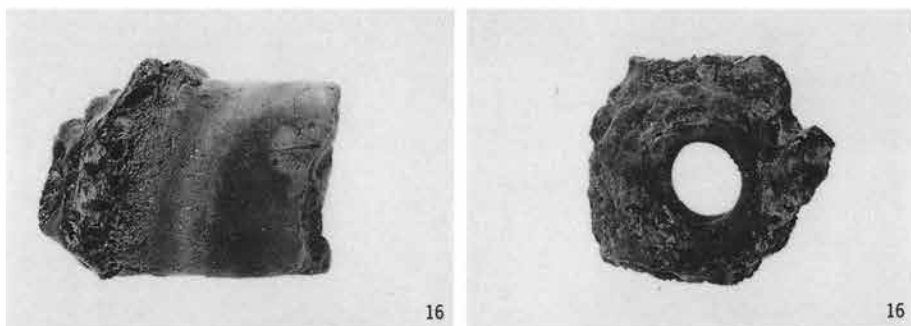


田端地区B区163号遺構出土遺物(1)

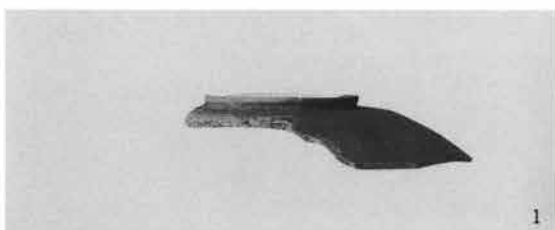


田端地区B区163号遺構出土遺物(2)

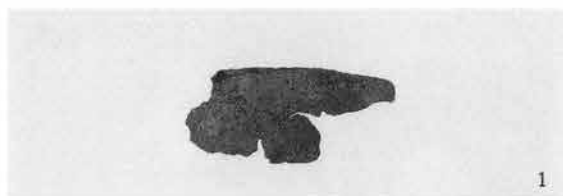




田端地区B区163号遺構出土遺物(3)



田端地区B区20号溝出土遺物



1 田端地区B区21号溝出土遺物



1



2



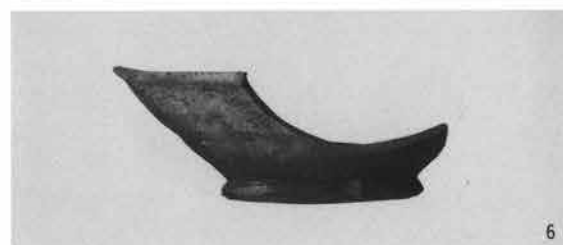
3



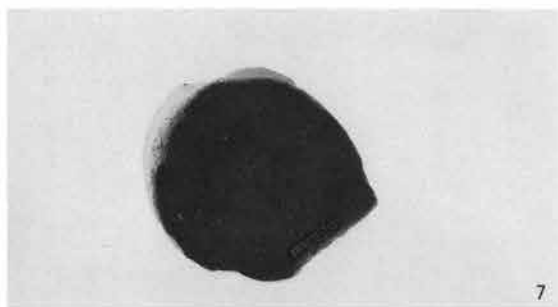
4



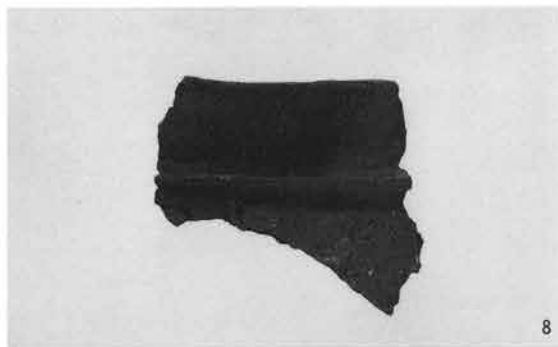
5



6



7



8



11



12



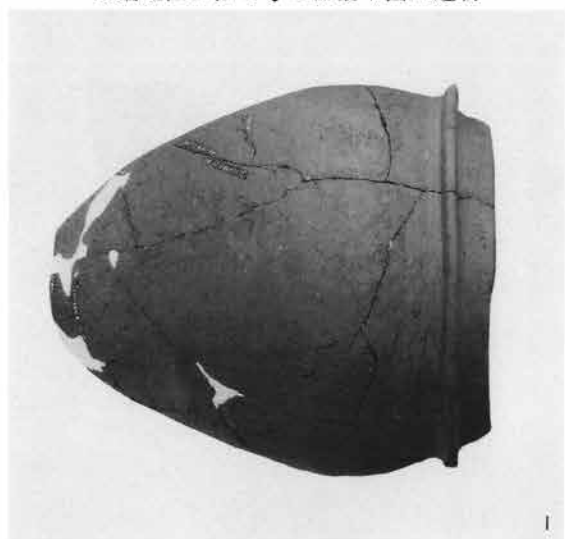
13

田端地区B区22号溝出土遺物

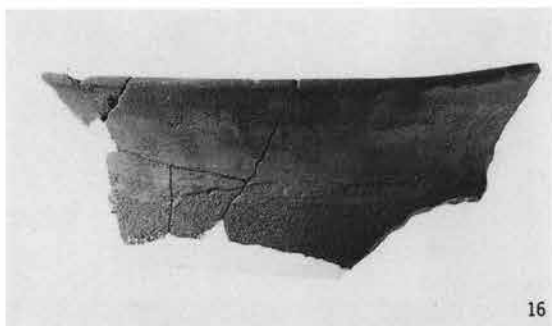
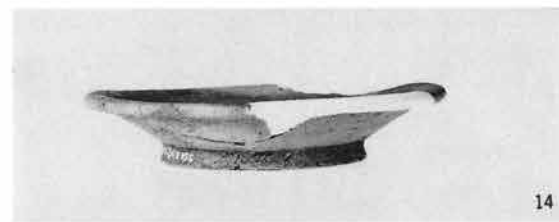
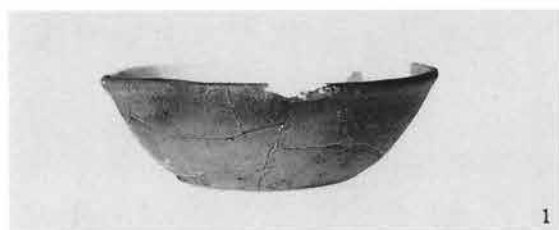


田端地区B区1号土器溜り出土遺物

田端地区B区2号井戸出土遺物



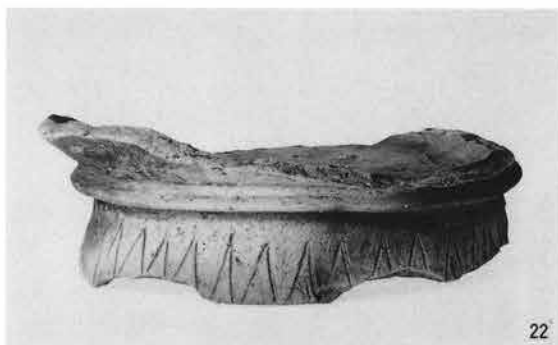
田端地区B区232号土坑出土遺物



田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(1)



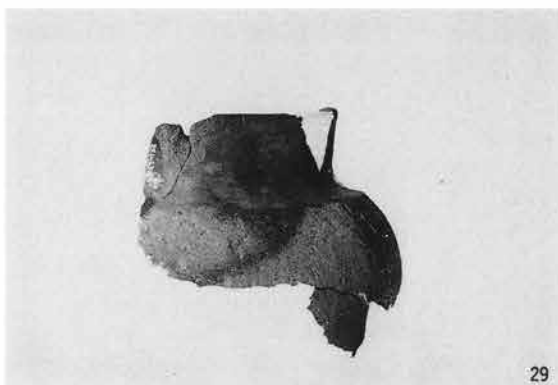
26



22



27



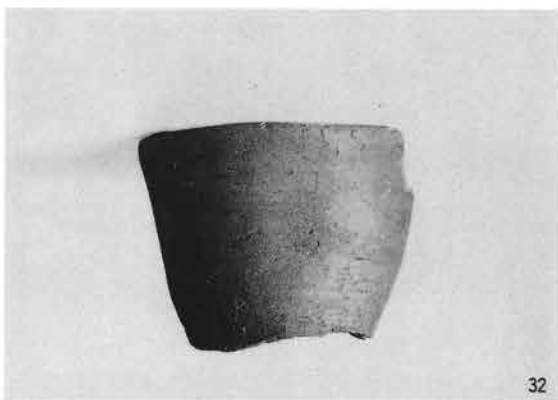
29



31



36

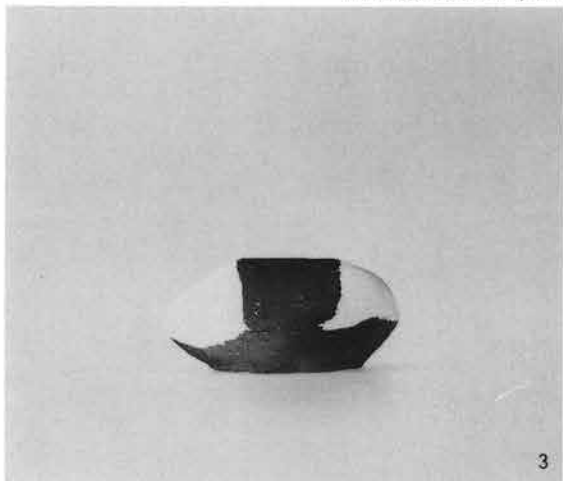


32



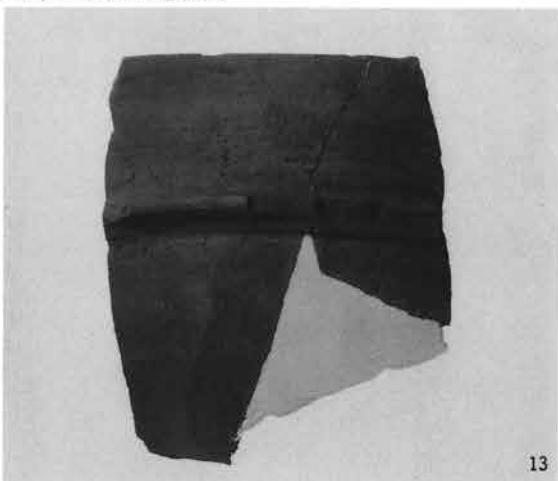
37

田端地区B区3号住居跡下土坑出土遺物(2)



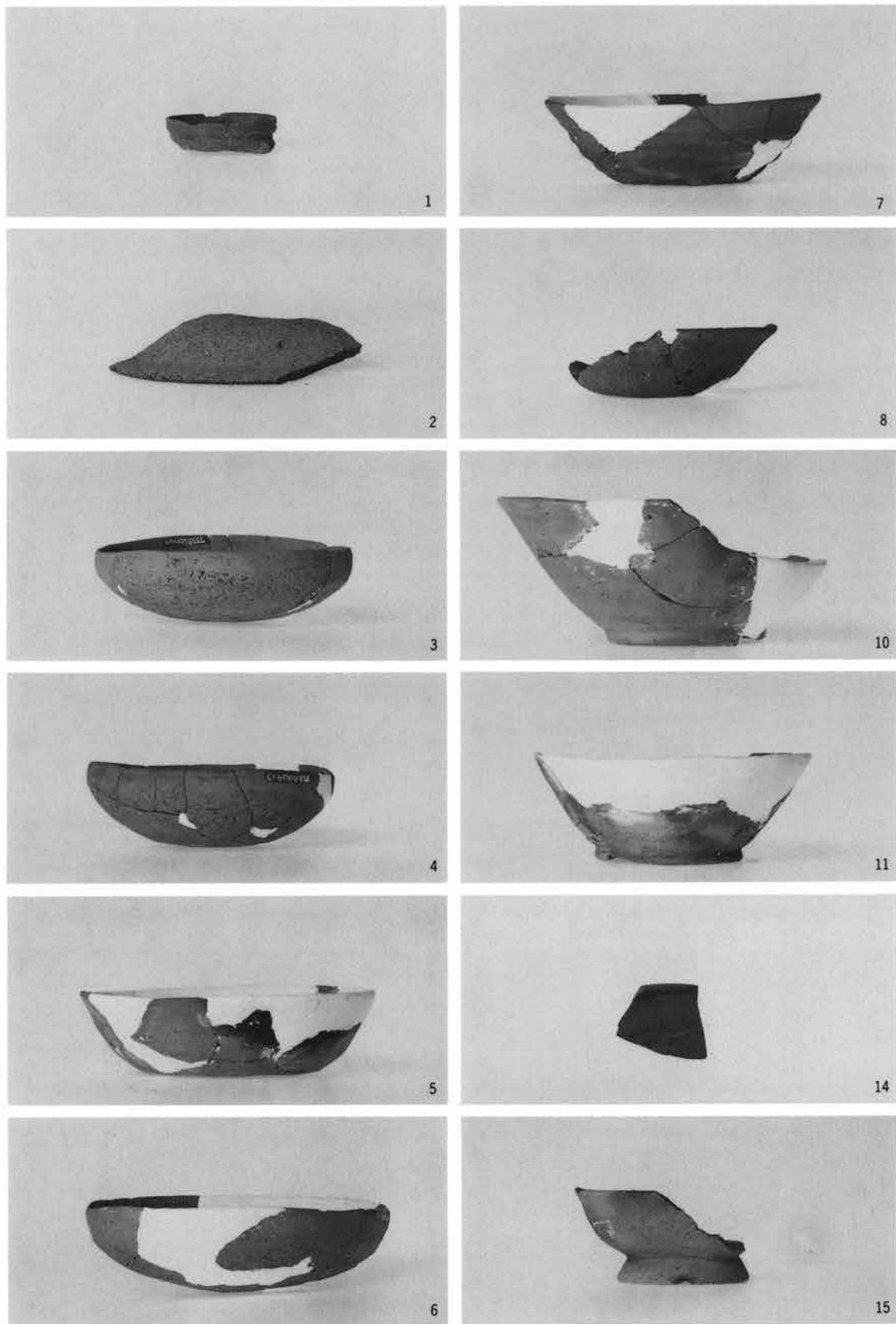
3

田端地区B区29号土坑出土遺物

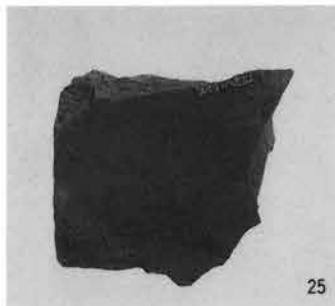
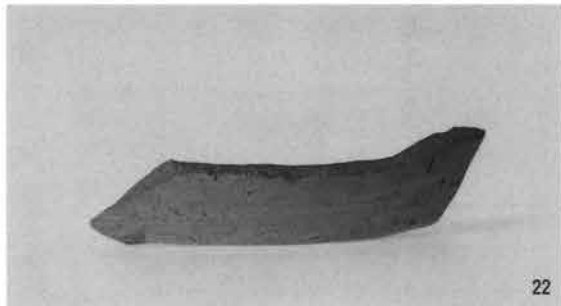
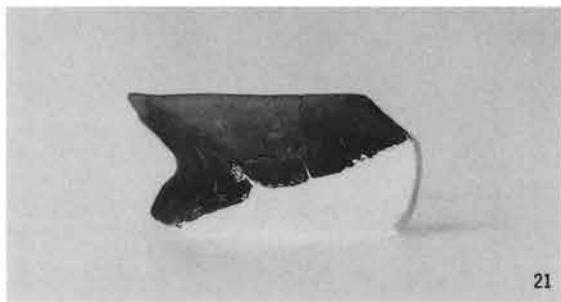


13

田端地区B区88号土坑出土遺物



田端地区B区54号土坑出土遺物1)



田端地区B区54号土坑出土遗物(2)



5 田端地区B区127号土坑出土遺物



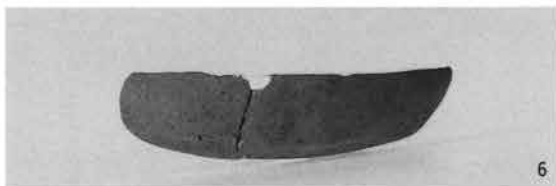
2



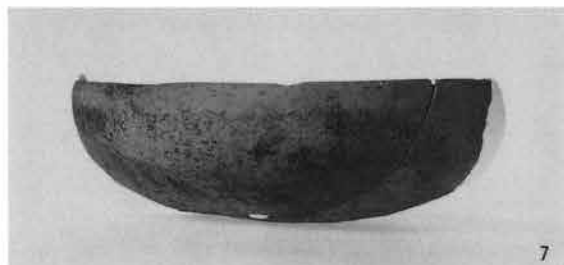
3



4



6



7



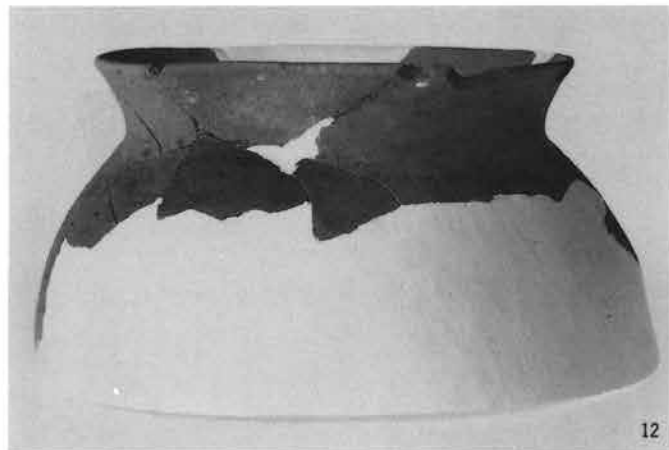
9



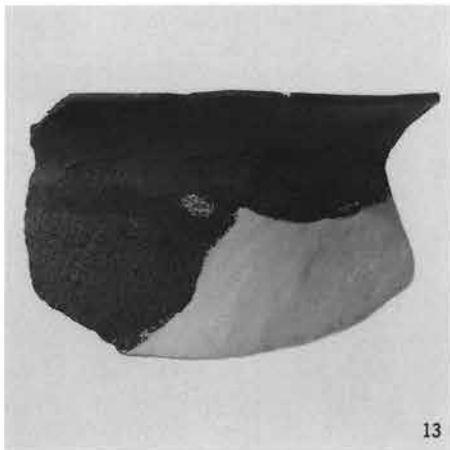
8



11



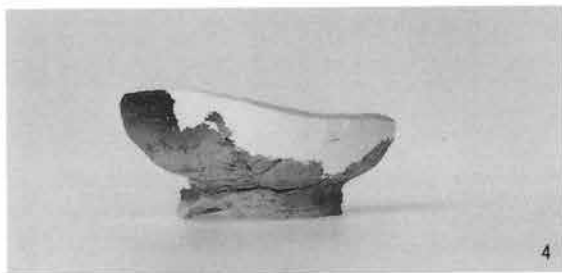
12



13

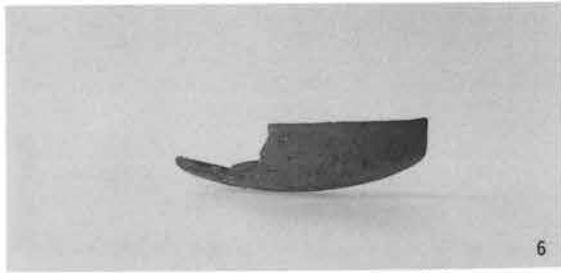
田端地区B区132号土坑出土遺物





田端地区B区167号土坑出土遗物

4



田端地区B区183号土坑出土遗物

6



10



田端地区B区165号土坑出土遗物

3



10

田端地区B区194号土坑出土遗物



5

田端地区B区181号土坑出土遗物



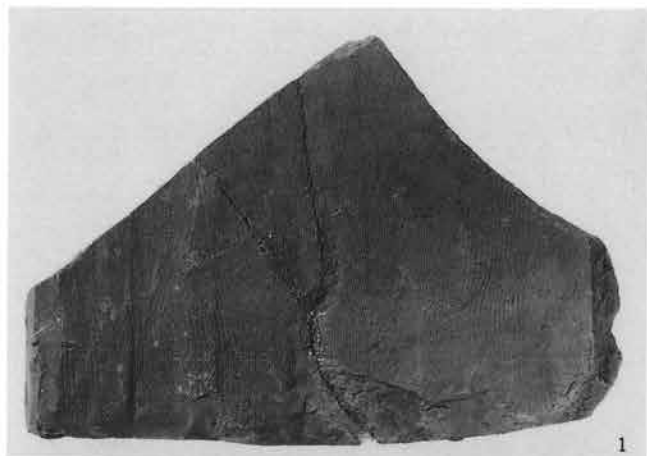
11

田端地区B区195号土坑出土遗物



13

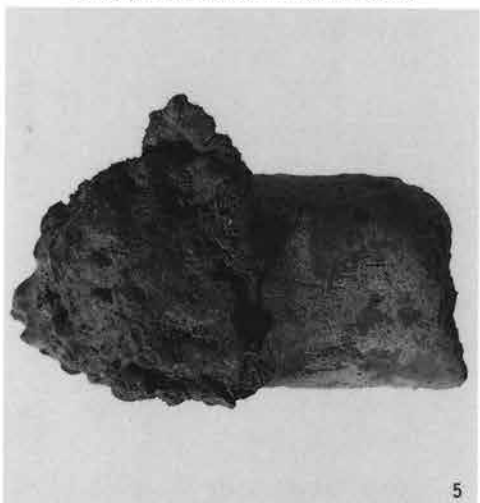
田端地区B区196号土坑出土遗物



田端地区B区213号土坑出土遺物



田端地区B区197号土坑出土遺物



田端地区B区225号土坑出土遺物



田端地区B区216号土坑出土遺物



田端地区B区229号土坑出土遺物



田端地区B区244号土坑出土遺物



田端地区B区233号土坑出土遺物



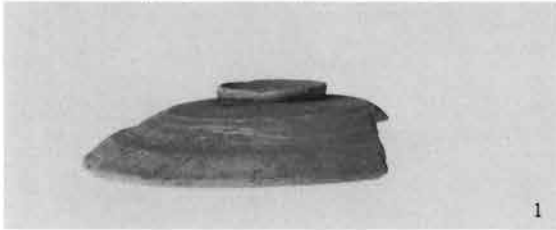
田端地区B区246号土坑出土遺物



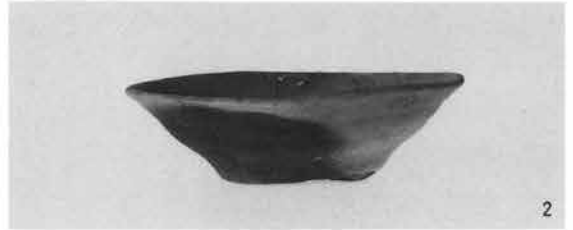
田端地区B区235号土坑出土遺物

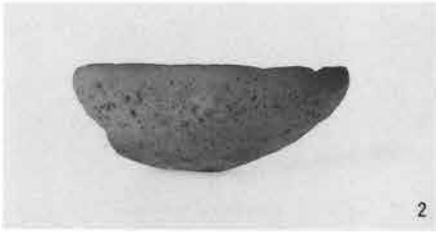


田端地区B区253号土坑出土遺物



田端地区D区7号土坑出土遺物

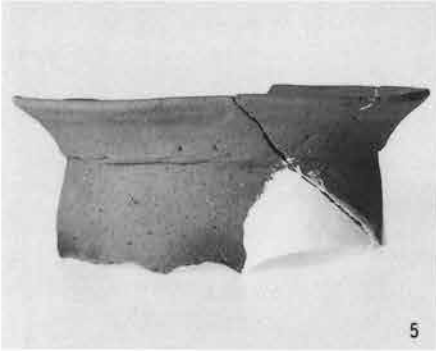




2



4



5



10



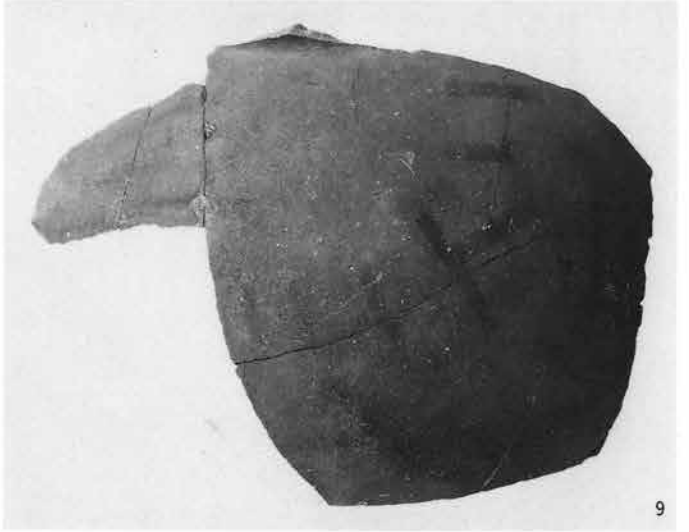
11



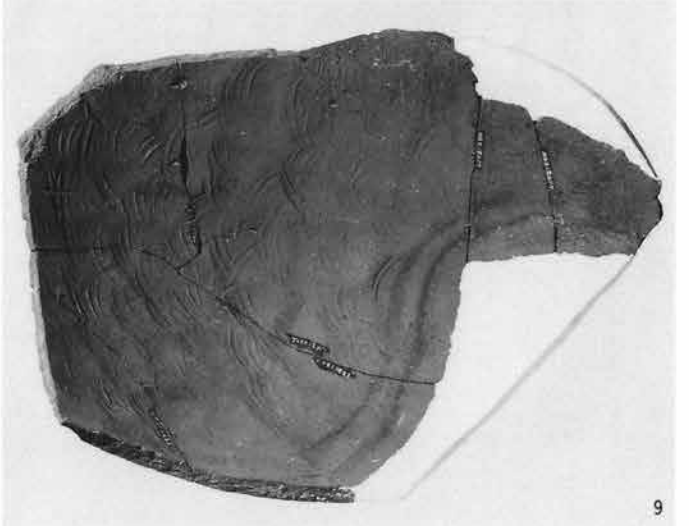
6



8

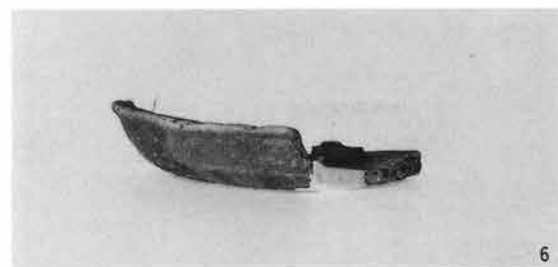


9

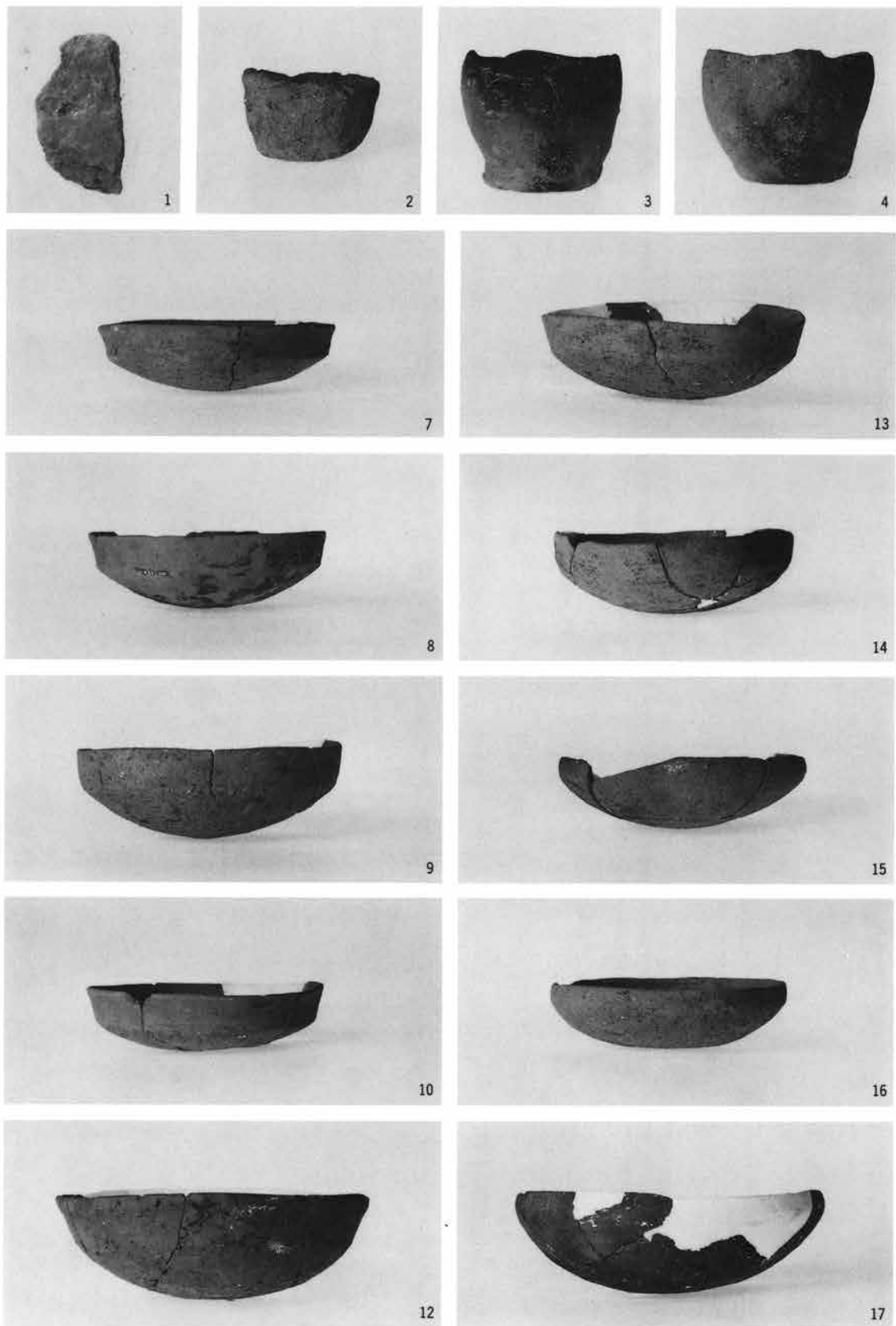


9

田端地区E区1号集石出土遺物



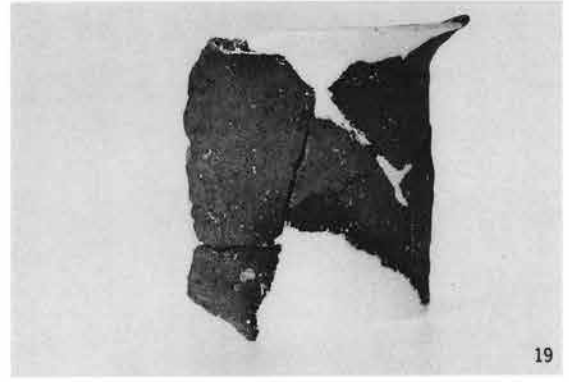
田端地区E区2号集石出土遺物



田端地区E区4号集石出土遺物(1)

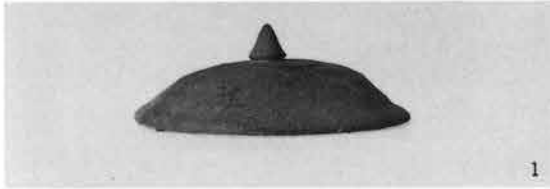


18



19

田端地区E区4号集石出土遺物(2)



1



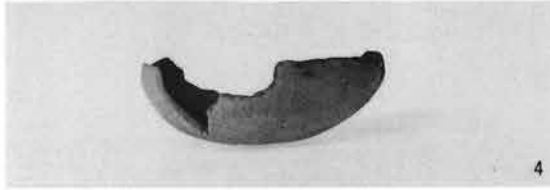
7



3



8



4



9



5



10



6

田端地区E区3・5号溝出土遺物



11



13

田端地区E区5号溝出土遺物



田端遺跡水田跡出土遺物



# 田 端 遺 跡

(第3分冊)

—上越新幹線関係埋蔵  
文化財発掘調査報告第9集—

---

印 刷 1988年3月25日

発 行 1988年3月31日

編 集	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2 (0279) 52-2511(代)
発 行	群 馬 県 考 古 資 料 普 及 会 勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2 (0279) 52-2511(代)
印 刷	朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社

---